

平成23年度 (2011)

授 業 概 要 (授業シラバス)

徳島大学 全学共通教育

<p>第1章 前期(昼間コース) 3</p> <p>1) 【大学入門科目群】 (Category of Introductory Seminars on University Education) 4</p> <p>2) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects) 22</p> <p>3) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects) 108</p> <p>4) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects) 130</p> <p>5) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects) . . . 315</p> <p>6) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties) 367</p> <p>第2章 後期(昼間コース) 381</p> <p>1) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects) 382</p> <p>2) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects) 458</p> <p>3) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects) 490</p> <p>4) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects) . . . 642</p> <p>5) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties) 682</p> <p>第3章 前期(工学部夜間主コース) 687</p> <p>1) 【大学入門科目群】 (Category of Introductory Seminars on University Education) 688</p> <p>2) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects) 695</p> <p>3) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects) 703</p>	<p>4) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects) 705</p> <p>5) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects) . . . 716</p> <p>6) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties) 720</p> <p>第4章 後期(工学部夜間主コース) 723</p> <p>1) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects) 724</p> <p>2) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects) 731</p> <p>3) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects) 733</p> <p>4) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects) . . . 741</p> <p>5) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties) 744</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第1章

前期(昼間コース)

1) 【大学入門科目群】 (Category of Introductory Seminars on University Education)

大学入門講座

大学入門講座 (総合科学部) ... (総科 (人文社創総理))/教務委員会委員/前期 集中	5
大学入門講座 (医・医) ... (医 (医))/教務委員会委員/前期 集中	6
大学入門講座 (医・栄養) ... (医 (栄))/教務委員会委員/前期 集中	7
大学入門講座 (医・保健) ... (医 (保))/教務委員会委員長・学科長・教務委員会委員・学生委員会委員/前期 集中	8
大学入門講座 (歯学部) ... (歯 (歯口))/教務委員会委員/前期 集中, 金 集中, 7~10	9
大学入門講座 (薬学部) ... (薬 (薬))/教務委員会委員/前期 集中	10
大学入門講座 (工・建設) ... (工 (建))/教務委員会委員/前期 集中	11
大学入門講座 (工・機械) ... (工 (機))/教務委員会委員/前期 集中	12
大学入門講座 (工・化学) ... (工 (化))/教務委員会委員/前期 集中	13
大学入門講座 (工・生物) ... (工 (生))/教務委員会委員/前期 集中	14
大学入門講座 (工・電気電子) ... (工 (電))/教務委員会委員/前期 集中	15
大学入門講座 (工・知能) ... (工 (知))/教務委員会委員/前期 集中	16
大学入門講座 (工・光) ... (工 (光))/教務委員会委員/前期 集中	17

高大接続科目

数学 ... /大沼/前期 月 3・4	18
---------------------	----

自然科学入門

生物学-基礎からの細胞生物学- ... /渡部/前期 月 1・2	19
物理学 ... /齊藤/前期 水 3・4	20
化学-化学のしくみ- ... /田村/前期 水 9・10	21

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (総合科学部) (Introduction to University Education)

(総科 (人文社創総理))

教務委員会委員 / 総合科学部

1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。このことを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は、二つの柱によって構成されています。①自律的で安定した社会生活を送るために知らなければならないこと。②大学での学びを確かなものにするために、高校までの授業とは異なる「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけるための準備。前者に関しては、新たな生活で不注意が招く事故や陥りやすい罠などを意識においた生活態度を身につけること。後者では、学部、学科のカリキュラムを説明し、学生がその内容を理解した上で自ら時間割を組めるよう指導します。その他、大学生活に馴染むための大学内の施設や図書館の説明、生活相談、時間割作成などの説明や、快適な大学生活を送るための心構えなどの内容を含みます。各講義は、そのテーマに応じて適切な授業方法で行われます。

【キーワード】 大学生活、履修計画

【到達目標】

1. 高校の授業とは異なる学習姿勢や学習方法の概要、問題点を理解し、大学の授業に順応する準備をする。
2. 大学の設備や図書館を活用できるようになり、快適な大学生活を過ごすための情報を得る。
3. 安定した社会生活を送るために注意しなければならないことを学ぶ。

【授業の計画】

1. 大学で学ぶために
2. 教養教育について
3. 読むこと・話すこと・人と向き合うこと (人), 地域や社会とつながるには (社), 調べること・自然と向き合う (理)
4. 学習計画を立てる (1)
5. 学習計画を立てる (2)
6. 大学を知りつくす (図書館案内など)

7. 安全な大学生活のために (学生相談室案内など)

8. コースガイダンス

【教科書】 参考書は使いません。話題に対応して必要に応じてプリント等を配布します。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定します。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課します)

【受講者のメッセージ】 この授業は、新入生オリエンテーション期間に、人間文化学科、社会創生学科、総合理数学科の各学科単位で行われます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220685>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (医・医) (Introduction to University Education)

(医 (医))

教務委員会委員 / 医学部 医学科

1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学生活全体を通じて、自らの健康に留意し、自主的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

⇒ 教務委員会委員

【授業の概要】 この大学入門講座は、学科の授業科目の構成と特殊性、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法をも身につけられるよう構成されています。また、先輩たちから学生生活の過ごし方に関する意見を聞き、大学生活を過ごす一助とします。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身に付けることを目指します。

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、大学で学ぶことを明確に描き、そのための目標を立て自主的に専門性を追求する学習態度を身につけること。

【授業の計画】

1. 有意義な学生生活を送るために; 知っておくこと
2. 大学で学ぶ意味; 「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につける
3. 図書館の利用方法; ビデオ等で図書館の利用方法を理解する
4. 心と体の健康 1; アルコールハラスメント
5. 心と体の健康 2; 禁煙
6. ワークショップ形式による先輩からのメッセージ
7. 自己の学生生活の目標と将来について
8. 情報セキュリティポリシー; 利用者の心得

【教科書】 必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【講師へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220686>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (医・栄養) (Introduction to University Education)

(医(栄))

教務委員会委員 / 医学部 栄養学科

1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学生活全体を通じて、自らの健康に留意し、自主的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

⇒ 教務委員会委員

【授業の概要】 この大学入門講座は、学科の授業科目の構成と特殊性、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を生につけられるよう構成されています。また、先輩たちから学生生活の過ごし方に関する意見を聞き、大学生活を過ごす一助とします。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を生につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を生につけることを目指します。

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、大学で学ぶことを明確に描き、そのための目標を立て自主的に専門性を追求する学習態度を生につけること。

【授業の計画】

1. 有意義な学生生活を送るために; 知っておくこと
2. 大学で学ぶ意味; 「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につける
3. 図書館の利用方法; ビデオ等で図書館の利用方法を理解する
4. 心と体の健康 1; アルコールハラスメント
5. 心と体の健康 2; 禁煙
6. ワークショップ形式による先輩からのメッセージ
7. 自己の学生生活の目標と将来について
8. 情報セキュリティポリシー; 利用者の心得

【教科書】 必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【講師へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220687>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (医・保健) (Introduction to University Education)

(医(保))

教務委員会委員長/医学部 保健学科, 学科長/医学部 保健学科, 教務委員会委員/医学部 保健学科, 学生委員会委員/医学部 保健学科

1単位 前期 集中

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】大学における学びは、自ら健康に留意し、将来自分を活かす道を描きながら自主的な学習態度を培うことが必要である。そのための基礎となる知識や情報を提供する。

【授業の概要】大学の授業科目の構成と特殊性、自己の将来の目標に向かうための学習方法、先輩たちの大学生活の過ごし方に関するメッセージを伝え、倫理観とマナーを培いながら大学生活を過ごす一助とする。

【到達目標】大学で学ぶことを明確に描き、そのための目標を立て自主的に専門性を追求する学習態度を身につけることができる。

【授業の計画】

1. 大学で学ぶ意味
2. 身体とこころの健康を保つために
3. 授業で求められること、レポートの書き方、ノートの取り方
4. 学習および大学生活における有益な情報を得るために
5. 先輩(卒業生等)からのメッセージ
6. ワークショップ形式による先輩(在学生)からのメッセージ
7. 卒後の進路と将来像を描く

【教科書】

- ◇ 吉野源三郎:君たちはどう生きるか, 岩波書店, 1989.
- ◇ 原 孝:大学で「自分」を見つけたー社会人学生と若い学生はなぜ群れ合ったのかー, プレジデント社, 2003.
- ◇ 安岡高志ほか:授業を変えれば大学は変わる, プレジデント社, 1999.
- ◇ 小笠原 喜康:大学生のためのレポート・論文術, 講談社現代新書, 講談社, 2002
- ◇ 樋口 裕一:やさしい文章術ーレポート・論文の書き方, 中公新書ラクレ, 2002
- ◇ 河野 哲也 :レポート・論文の書き方入門, 慶応義塾大学出版会, 2002
- ◇ 戸田山和久: 論文の教室ーレポートから卒論まで, NHK ブックス
- ◇ 野矢茂樹: 論理トレーニング 101 題, 産業図書

【成績評価の方法】授業の参加態度、レポートなどにより総合的に評価する

【再試験の有無】無(欠席の場合、課題のレポートを課す)

【受講へのメッセージ】自己の専門性を追求するため、目標を立て有意義な大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220688>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員長

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (歯学部) (Introduction to University Education)

(歯 (歯口))

教務委員会委員 / 歯学部

1 単位 前期 集中, 金 集中, 7~ 10

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立し、今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とする。

【授業の概要】 本講座は、大学 (歯学部) での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されている。各講義は、そのテーマに応じて適切な授業方法で行われる。大学では一般に講義形式の授業が主になるが、本講座では、講義を聞き、その主題についてノートを取り、グループで討論をし、その経過・まとめを口頭で報告したり文章でレポートすることなどの学習方法も取り入れて実践される。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身に付けることを目指す。

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、その概要や問題点を理解し、友人たちや教員と討論ができ、文章としてまとめられること、また皆の前で報告発表ができること。

【授業の計画】

1. 大学での学び方: わからないことがあれば、情報を収集・整理・分析し、答えを見つけ、それを発表する。教員が行っている方法を例に、いわゆる‘知的生産の技術’の概略を説明する。
2. 図書館やインターネットの活用の仕方: ‘知的生産の技術’では情報の収集が重要である。その主役を担っている図書館やインターネットの活用の仕方を説明する。
3. 歯科医師、歯科衛生士になるに必要な心構え: 患者の立場から見た良い歯医者、歯科衛生士とはどんな歯科医師、歯科衛生士でしょうか。良い歯科医師、歯科衛生士になるための心構えは何でしょうか。そのような疑問に対してグループ討議を通して考える。
4. 歯学教育と全学共通教育: 全学共通教育の概略を説明するとともに、歯学教育における全学共通教育の意義を、グループ討議を通して考える。
5. 大学生活の過ごし方: 安全で快適な学生生活を送るにあたって必要な事項を説明する。また、良い歯科医師、歯科衛生士になるために、勉学以外に何を

すべきかについて考える。

6. 心と体の健康の保ち方: 楽しい学生生活を送るには心と体の健康が必須である。食生活での注意事項、飲酒と喫煙、及び性的問題等について議論する。
7. 学生相談室と大学生活: 学生相談室について、その利用の仕方も含め説明する。また、大学生活で遭遇する様々な人権問題、悪徳商法から身を守るための方法についても説明する。
8. 課外活動の楽しさと意義: 先輩の体験談を通して、課外活動の楽しさと意義を考える。
9. 相手の意見を聞き、相手と協調することを体験学習のなかで学ぶ。
10. 医学・歯学の歴史、国際医療、卒業後の進路などについて学ぶ。
11. PBL を体験する (歯学科のみ)。
12. 研究室での生活 (実験など) を体験する (歯学科のみ)。

【教科書】 必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講者へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか常に考え、快適で有意義な大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220689>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (薬学部) (Introduction to University Education)

(薬 (薬))

教務委員会委員 / 薬学部

1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活を通じて自主的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自立的な大学生活を送る方策を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は、学部学科毎に授業が行われます。大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身に付けられるよう、各学部学科独自の構成になっています。各講義は、そのテーマに応じて適切な授業方法で行われ、主として大学生活をスタートするに当たっての基本的な事柄 (生活面・学習面) についてのオリエンテーションです。その他、薬学部では特に、薬学とは何か、大学では何を学び、将来どのような職業に就き、社会貢献をしていくべきか等について、大学、企業、調剤薬局サイドの講師の先生および薬害被害者の方からお話をさせていただきます。それらを通じて「自ら学ぶ」姿勢を身に付け、今、大学生が社会から求められている「知的技法」を獲得するきっかけをつかむことを目指します。

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、その概要や問題点を理解し、友人や教員との討論、意見交換を通し、大学で学ぶ姿勢、目的、目標を定める。

【授業の計画】

1. 学生生活の過ごし方薬学部での学生生活と健康管理、学生相談室を利用するには
2. 大学で学ぶことの意味・意義自主学习「何をどう学ぶか」を自ら獲得する方法、共通教育科目履修に関する注意、履修科目の web 登録方法
3. 薬学を学ぶ意欲を涵養する—薬学が果たしてきた役割及び社会的重要性、本学薬学部における実際の教育・研究動向及びその成果
4. 薬学入門—薬草を中心にした話
5. 調剤薬局で働く調剤薬局の現場で働く先輩から—大学で学んでおくこと、調剤薬局の仕事の内容、薬剤師の役割について聞く。
6. 企業で働く製薬企業の第一線で働く先輩から—大学で学んでおくこと、製薬企業での仕事・研究、新薬開発への道筋などについて聞く。

7. 薬害被害者の講演を通じて、薬害がもたらすことなど薬害への認識を深める。
8. 図書館の利用方法図書館ツアー (実地見学)、図書館資料の検索方法 (OPAC の使用方法他)

【教科書】 必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講へのメッセージ】 大学では、何を何のために学ぶのか、目標をしっかりと立てて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220690>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・建設) (Introduction to University Education)

(工(建))

教務委員会委員/工学部 建設工学科

1単位 前期 集中

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は、学部学科毎に授業が行われます。大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう各学部学科に応じて構成されています。各講義は、そのテーマに応じて適切な授業方法で行われます。大学では一般に講義形式の授業が主になりますが、この講座では、講義を聞き、その主題についてノートを取り、グループで討論をしたり、その経過・まとめを口頭で報告したり、また文章でレポートすることなどの、学習方法も取り入れて実践されます。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身に付けることを目指します。

【キーワード】 導入授業、大学入門、オリエンテーション

【関連科目】 『学びの技』(1.0)

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、その概要や問題点を理解し、友人たちや教員と討論ができ、文章としてまとめられること、また皆の前で報告発表ができること。

【授業の計画】

1. 心と体の健康 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。
2. 読書のすすめ・対話の重要性 コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。
3. 学びのしくみ・学習支援室 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに学習支援室の上手な利用方法を紹介します。4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法等を紹介します。

5. 建設工学科のおいたちと教育目標 本学の建設工学科の創立から現在までの歴史を紹介し、本学科の教育目標を建設技術者に求められる資質と関連づけて説明する。
6. 建設関連施設の見学 建設関連施設を1, 2箇所見学し、ものづくりの流れや、大学で習得すべき事項等について説明する。
7. 防災センターの見学 徳島県立防災センターを見学し、防災への取り組み事例等を介して、大学で習得すべき事項等について説明する。
8. 自分の将来像と大学生活 グループで各自の将来像や夢について語り、夢を実現するために如何に大学で学ぶかについて討議し、検討結果を発表する。

【教科書】 工学部『「学びの技」はじめの一步』、その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無(欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講者へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220691>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・機械) (Introduction to University Education)

(工(機))

教務委員会委員/工学部 機械工学科

1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は、大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されています。各講義は、そのテーマに応じて適切な授業方法で行われます。大学では一般に講義形式の授業が主になりますが、この講座では、講義を聞き、その主題についてノートを取り、グループで討論をしたり、その経過・まとめを口頭で報告したり、また文章でレポートすることなどの、学習方法も取り入れて実践されます。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身に付けることを目指します。

【キーワード】 機械工学科、履修計画、大学生活

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、その概要や問題点を理解し、友人たちや教員と討論ができ、文章としてまとめられること、また皆の前で報告発表ができること。

【授業の計画】

1. 健康的に学生生活を送るために 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・生活習慣病を予防するための健康管理法とその重要性・及び注意が必要な感染症について説明する。
2. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。
3. 附属図書館からのオリエンテーション
4. 学びの相談について
5. 学生委員からの諸注意
6. 教務委員からの諸注意
7. 履修計画の作成 1
8. 履修計画の作成 2
9. 履修登録

10. 読書のすすめ・英語のすすめ コミュニケーションのために、自分の意見を構築することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力が重要であることを認識する。
11. 学びと倫理 人間また技術者として、何を身に付けなければならないか、その基本を理解する。
12. 機械工学の生い立ち、教育理念・教育目標・教育方針を説明し、これから4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
13. 進路の探し方 これからの生き方、進学、就職等の状況と心構えを説明する。
14. レポートの書き方 その意味と書き方について説明する。またプレゼンテーションの重要性を説く。
15. パソコンを使う 情報を収集・発信するためのテクニックを紹介する。

【教科書】 工学部『「学びの技」はじめの一步』、その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講者のメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220692>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

【備考】 機械工学科・教務委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・化学) (Introduction to University Education)

(工(化))

教務委員会委員 / 工学部 化学応用工学科

1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 大学で学ぶために必要な術を、化学応用工学科の教員を始め、徳島大学の教員が各方面から講述します。

【キーワード】 学生生活, 学習, コミュニケーション

【到達目標】 大学での学びに関する全体像が把握できること。

【授業の計画】

1. 健康的に学生生活を送るために保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。
2. 大学で学ぶとはどういうことか、化学応用工学科で学ぶとはどういうことかについて考え、学ぶために必要な事柄を紹介する。
3. 情報を検索する方法として、基本的なインターネットの利用方法を紹介する。
4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。
5. 読書のすすめ・コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。
6. 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに学習支援室の上手な利用方法を紹介し、これからの4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
7. ものづくりのすすめ (創成学習開発センターと創成科目を紹介する)
8. コミュニケーションの取り方の向上を図り、学生と学生、学生と教員の相互理解を深める。

【教科書】 「学びの技」はじめの一步

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講者へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220693>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・生物) (Introduction to University Education)

(工(生))

教務委員会委員/工学部 生物工学科

1単位 前期 集中

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学での学習・生活は高校までとは異なり、積極的に取り組む自己責任が要求される。自己責任の達成には、入学から卒業するまでの間に生物工学科で何を学び(学習目標)、学んだことを将来どのように生かすか(将来像)をしっかりと持つことが必要である。これからの勉学や健康的な生活を送るうえで、基本的に重要な事柄を学び、大学での学習と生活の方法、学習目標と将来像などについて全体的に理解することを目的とする。

【授業の概要】 授業では、履修の手引(講義シラバス)、学生生活の手引、学びの技はじめの一步をテキストとして使い、教員の経験を織りまぜながら、生物工学科の教育目標、カリキュラム、学習方法、成績評価、大学生に要求される能力、健康的な学生生活、また卒業後の進路について説明するとともに、討論を通じて学生自身の大学での学習目標や自分の将来像などについて考える。

【到達目標】 大学における健康で有意義な生活を達成するための学び方について理解し、将来について考える。

【授業の計画】

1. 大学生とは? 生物工学科とは? 日本技術者教育認定機構(JABEE)認定教育プログラムとは? 大学院とは? 教員や先輩の対談を含めて学習する。
2. 生物工学科の教育目標(人格・教養と倫理観、国際コミュニケーション能力、課題解決力、研究開発力)とカリキュラム、日本技術者教育認定機構(JABEE)認定教育プログラムについて学習する。
3. 全学共通科目と専門科目、単位制、Web登録、講義ノートのとり方、レポートのまとめ方、評価方法、ポートフォリオの作り方などについて学習する。
4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを学習する。
5. 学びのしくみ・学習支援室の紹介、教育の理念・目標や教育方針、これから4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
6. 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用、心と体の健康管理法とその重要性、及び注意が必要な感染症について学習する。
7. 読書の重要性、またコミュニケーションのために自分の意見を構築して発表することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力の重要性について認識する。

8. 大学生活における目標と自分の将来像について考える。

【教科書】 「学びの技」はじめの一步 徳島大学工学部導入教育テキスト、平成20年度「履修の手引」講義概要(シラバス)

【成績評価の方法】 到達目標の達成度をレポート、プレゼンテーションによって評価する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 何のため何をどのように学ぶのか考え、有意義な大学生活を送ろう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220696>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・電気電子) (Introduction to University Education)

(工(電))

教務委員会委員 / 工学部 電気電子工学科

1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 大学入門講座は、大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されています。電気電子工学科の紹介をはじめ、国際化も視野に入れた各自の将来像を描き、それに向かうための目標について考えます。また、充実した大学生活を送るための種々の情報を修得し、それらを通じて、「自ら学び」「自ら考える」姿勢が身につくことを目標とします。

【キーワード】 電気電子工学科, 大学生活, 履修計画, 履修登録

【到達目標】 大学での学びのしくみを理解し、何をなぜ学ぶかを知り、学び方についての知識、技術を身につけること。

【授業の計画】

1. 健康的に大学生活を送るために保健管理センターの紹介、酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。
2. 読書のすすめ・コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。
3. 学びにしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに、学習支援室の上手な利用方法を紹介し、4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
4. 電気電子工学科とは:電気電子工学科の紹介、カリキュラムの概要および JABEE との関係を理解する。
5. 電気電子技術者としての将来像および各自の学習目標について考え、自分と社会の将来像を描いてみる。
6. 全学共通教育の履修・学習方法:全学共通教育の意義・目的、単位とは何か等を理解し、履修・学習方法を考え、履修計画を作成する。
7. 専門教育科目の履修・学習方法:各学年での専門教育学習の意味と学習方法を説明し、大学院を含めた6年間の一環教育としての履修・学習方法を考える。

8. 学生生活の道しるべ 有意義な大学生活を送るための情報を活用する

9. 施設見学:常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。

【教科書】 工学部『「学びの技」はじめの一歩』、『履修の手引き』、『学生生活の手引き』、その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講者へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220694>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・知能) (Introduction to University Education)

(工(知))

教務委員会委員 / 工学部 知能情報工学科

1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学では、高校までとは異なった、学ぶ姿勢が必要である。これからの学習において重要となる様々なことについてその全体像を把握し、深く学ぶために必要な事柄を理解してもらうことを目的とする。

【授業の概要】 大学における授業の形態、学び方、発表技術、および、レポートの作成技術について説明する。

【キーワード】 大学入学、学生生活、履修登録

【到達目標】 大学で何をなぜ学ぶかを知り、その学び方についての知識、技術を身に付けること。

【授業の計画】

1. 施設見学常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法・掲示板などを紹介する。
2. 健康的に学生生活を送るために保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・生活習慣病を予防するための健康管理法とその重要性・及び注意が必要な感染症について説明する。
3. 読書のすすめ・英語のすすめ コミュニケーションのために、自分の意見を構築することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力が重要であることを認識する。
4. 学びのしくみ・学習支援室 教育の理念・目標や教育方針、そして学習支援室の上手な利用方法を紹介し、これから4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
5. スライドを作成して効果的に発表するためのプレゼンテーション・スキルを学ぶ。
6. PowerPoint 等を用いたスライドの作成法を学ぶ。
7. レポートを分かりやすくまとめるためのテクニカルライティング・スキルを学ぶ。
8. Latex を用いたレポートの作成法を学ぶ。
9. 教員と大学院学生との小グループ討論 1. 大学で大事なことは何か?
10. 教員と大学院学生との小グループ討論 2. 学習及び学生生活上の指導、大学生活の上手な過ごし方。

11. 教員と大学院学生との小グループ討論 3. 4年間のマイルストーン、講義概要・創成科目の説明、就職・進路。
12. 履修方法の説明・指導、時間割の組み方。
13. 履修登録システムのガイダンス。
14. Web 履修登録 1. 入力と確認。
15. Web 履修登録 2. 修正作業。
16. 質疑応答。総括。

【教科書】

- ◇ 履修の手引き、「学びの技」はじめての一步、学生生活の手引き
- ◇ 配布するプリント

【成績評価の方法】 授業への参加姿勢とレポートにより評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 新入生は必ず受講すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220695>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・光) (Introduction to University Education)

(工(光))

教務委員会委員/工学部 光応用工学科

1単位 前期 集中

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】大学は、次の「知の体系」を中心に組織的に活躍する機関である。

1. 知の体系の構築(知の創造)
 2. 知の体系の伝達(教育・学習)
 3. 知の体系の還元(知の応用)
- 大学で学ぶ意味を自ら探るには、大学生活全般を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要がある。今後の大学生活での学びを確かなものにするために、高校までとは違った学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とする。

【授業の概要】大学で行われる講義、演習、実習について紹介し、各自が学習計画、受講、勉学実行、学びの自己評価など学びの設計を行う際の指針を示す。また、大学生活における人権問題、健康管理、危機管理などについて述べる。

【到達目標】以下「【授業の計画】」のテーマについて、その概要や問題点を理解し、友人たちや教員と討論ができ、文章としてまとめられること。

【授業の計画】

1. 大学生活のために 心と体の健康(健康的に大学生活を送るために保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・生活習慣病を予防するための健康管理法とその重要性・及び注意が必要な感染症について説明する。)
2. 学科の教育理念(教育の理念・目標や教育方針を紹介し、これから4年間の学生生活を考える基礎を作る。)
3. 学習目標(光応用工学科研究室見学を通じ、教育の目的、目標、勉学や研究への取り組みに関して教職員及び先輩とディスカッションを行う。)
4. 学習法、図書館、施設見学(光応用工学科研究室見学を通じ、学習法、施設利用法などに関して教職員及び先輩とディスカッションを行う。)
5. 学習の仕組み、読書、対話(学習計画、受講、勉学実行、学びの自己評価など)
6. 学びの相談について(学習支援室の上手な利用法を紹介する。)
7. 講義の受け方、ノートのとり方、レポートの書き方
8. 英語、プレゼンテーション(コミュニケーションのために、自分の意見を構築することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力が重要であることを認識する。)

【教科書】「学びの技」はじめの一步、学生生活の手引き、安全マニュアル、履修の手引きなど。

【成績評価の方法】授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】無

【講師へのメッセージ】大学入学直後に集中講義を行う。授業計画1は1講時、それ以外は2講時分である。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220697>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

【備考】学科長、教務委員、学生委員及び学年担任(正、副)が担当する。

高大接続科目 (Introduction to Natural Sciences)

数学 (Mathematics)

大沼 正樹・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然科学入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『数学』)

【授業の目的】 自然科学系の授業を受ける際にこれまでに高校まで学習する数学について大学受験科目範囲しか学習してこなかったので心配という人はいませんか?この授業は大学入学前までの不足した数学の知識を補い、大学での微分積分学の講義を理解するための補助的な授業です。主に高校数学の数学 III の微積分法および数学 C の行列の演算と平面曲線について学習し、大学で学習する数学に接続していきます。数学的証明の理解は大切ですが、この講義では計算方法の習得を優先的な目的とします。

【授業の概要】 授業は主にテキストに沿って講義形式で行われます。始めに数列および 1 変数関数の極限について学習します。更に基本的な平面曲線の概形と式の関係について学習し、初等関数(三角関数, 指数関数, 対数関数等)の様々な性質と微分積分法を学習します。講義の終盤には多変数関数を学習するための簡単な行列の演算を学習します。講義のレベルは初習者に合わせています。

【キーワード】 微分積分学入門

【到達目標】 基本的な平面曲線と式を理解し、様々な 1 変数関数の極限計算および微分積分の計算が出来るようになる。簡単な行列の演算が出来るようになる。

【授業の計画】

1. 数列と極限
2. 1 変数関数の極限 (その 1)
3. 1 変数関数の極限 (その 2)
4. 三角関数
5. 指数関数, 対数関数
6. 微分法, 初等関数の導関数 (その 1)
7. 初等関数の導関数 (その 2)
8. 様々な 1 変数関数の導関数
9. 不定積分と原始関数
10. 置換積分法, 部分積分法
11. 定積分 (その 1)
12. 定積分 (その 2)

13. 行列とその演算 (その 1)(和, 差, 積)
14. 行列とその演算 (その 2)(逆行列, 行列式, 順列)
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 石村園子著 「やさしく学べる微分積分」 共立出版株式会社 2,000 円

【成績評価の方法】 受講姿勢とレポート提出物による平常点と期末試験の得点によって評価します。

【再試験の有無】 有

【講師へのメッセージ】 授業内での問題演習の時間を多く取ることは困難なので各自で教科書の練習問題に取り組んでください。質問は歓迎します。本講義の内容以外の高校数学でも恥ずかしくらずにどうぞ。卒業要件の単位として認められない学部・学科の学生がいますので履修する際に注意してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220698>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (前期)月曜日 12時~ 12時50分 総合科学部1号館南棟2階2S10室)

【備考】 開講学期:前 (総科):人文・社創・総理 (医):栄・看護・検, (歯):口は教養科目群「自然と技術」に 2 単位として含めることができる。

自然科学入門 (Introduction to Natural Sciences)

生物学-基礎からの細胞生物学- (Biology -Fundamental Cell Biology-)

渡部 稔・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 1・2

【授業の目的】この授業は、生物学の基本的な知識を身につけたい学生で、高校で生物を履修しなかった学生や、部分的に未履修な項目のある学生を主な対象とした補習的な授業である。細胞の構造と機能、遺伝現象や遺伝子の構造・機能の内容を中心に、高校生物から始めて大学基礎レベルの内容まで学び、現在の社会で必要とされる生物学の基本的な知識を身につけることを目的とする。

【授業の概要】生命の基本単位としての細胞や細胞内小器官の構造と機能・進化について前半の授業で学ぶ。後半は遺伝現象と遺伝子、遺伝情報の流れについて学ぶ。毎回の授業では、前回の内容に対する質問に対する回答、ビデオ教材の視聴、ビデオ教材の内容の補足説明を行う。

【キーワード】細胞、遺伝子、遺伝

【到達目標】生命に関する基本的概念を身につける。生命の基本単位としての細胞の意味を理解し、遺伝現象と遺伝子についての基本的知識と考え方を身につける

【授業の計画】

1. いろいろな細胞
2. 核のはたらき
3. 細胞小器官のはたらき
4. 細胞と酵素
5. 細胞内の物質の出入り
6. 単細胞と多細胞
7. 生物の体のなりたち
8. 遺伝とは何か
9. 遺伝の法則
10. さまざまな遺伝
11. 性と遺伝
12. 遺伝子の連鎖と組換え
13. 遺伝物質 DNA
14. DNA とタンパク質
15. DNA 研究とその応用
16. 総括授業

【教科書】ダイナミックワイド 図説生物 総合版 東京書籍 880 円

【成績評価の方法】出席 (60%) とミニレポートの内容 (40%) で評価する。

【再試験の有無】行わない。

【受講者へのメッセージ】毎回の授業中に配布するミニレポートの提出をもって、出席の確認とレポートの評価を行うので、授業には必ず出席してレポートの提出を行うこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220699>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

自然科学入門 (Introduction to Natural Sciences)

物理学 (Physics)

齊藤 隆仁・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 3・4

【授業の目的】 高校で物理を学習してこなかったのに、大学での自然科学系の授業を受ける際に心配という人はいませんか?物理には、自然科学で普遍的に現れる現象のエッセンスや現象を理解する上での基本的な考え方が数多く含まれています。したがって大学における自然科学系の授業や持続可能な社会を目指す教養科目では、何らかの形で物理の知識や論理的な考え方が必要となります。ところが高校においては試験で点が取れなさそうなので敬遠したり、あるいは法則や公式を覚えて問題を解くという過程で興味を失った人もいるでしょう。この講義では高校で物理を履修していない人、あるいは履修したけれど再度勉強したいという意欲のある人を対象に行います。この講義は単なる高校の物理学の補習ではありません。高校の物理学を勉強しながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学への繋がりを目指した授業です。

【授業の概要】 高等学校の物理Ⅰと物理Ⅱで学ぶ「力と運動」、「エネルギーと熱」、「音と光の波」、「電気と磁気」、「原子の構造」をひとつおりに学習します。内容が多いのですが、具体的な問題を解くことには力点を置かず、(1)物理ではどのような現象があって、どうやって記述するのか、(2)どのような考え方から法則が導かれたのか、を俯瞰していきます。

【キーワード】 力と運動, エネルギーと熱, 音と光の波, 電気と磁気, 原子の構造

【到達目標】 基礎的な物理の現象を数式を用いて表すことができるとともに、その数式の意味を理解できる。さらに物理現象がどのような法則から導かれるかということを説明できる。

【授業の計画】

1. 授業の概要, 測定と単位
2. 運動のあらわし方
3. 力と運動
4. 運動量とエネルギー
5. 周期運動
6. 音の性質
7. 波の性質
8. 熱と気体
9. 熱と仕事
10. 電気

11. 電流
12. 電磁気学
13. 光と電磁波
14. 電子
15. 原子

【教科書】 教科書:「増補版 物理学入門」原康夫著 学術図書出版社 2008年 2000円

【成績評価の方法】 毎回の授業時間に提出するプリントにより評価する。

【再試験の有無】 有り

【受講者のメッセージ】 本授業は卒業要件の単位として認定されるかは学科によって異なるので注意してください。

【WEB 頁】 <http://lms.medsci.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220700>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 齊藤 (総合科学部3号館1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp)

MAIL (オフィスアワー: 水曜日 12:00~ 12:50)

【備考】 開講学期:前

自然科学入門 (Introduction to Natural Sciences)

化学-化学のしくみ- (Introduction for Academic Chemistry)

田村 勝弘・非常勤講師/工学部

2単位 前期 水 9・10

【授業の目的】 高校化学から大学の基礎化学でつまづきやすい事柄について、自分で分かっていること分からないことを自ら知ることを目的にする。自然科学の共通教育の講義や基礎科目で「化学」に関連した講義がたくさんあります。ところがこれまでに高等学校で習った「高校化学」の知識では理解が困難な場合があります。また高等学校で「化学」を十分に学習してこなかったので心配な人はいませんか?身の回りにある物質や起こる現象は自然科学に満ちあふれています。興味深く、またあるときは難しく感じるのだと思います。この講義は高等学校の化学の復習ではありませんが、自然現象を通して、化学の基礎を学びます。大学で専門、あるいは共通教育(一般教養)で学ぶ自然科学、特に化学に関する科目を履修する際につまづきやすい事柄について、皆さんの理解を補い、橋渡しを目指した授業です。

【授業の概要】 大学に入学したものの化学の知識に不安が・・・こんなことは無いですか?「化学Iしか高校で習わなかった!」あるいは「受験科目に無かったのであまり勉強していない!」。こんな状態で大学の自然科学の授業について行けるのかな?このように考えている人はいませんか?本授業は化学に不安を持つ新入生のための授業です。ただ座って授業を聞いているだけでは化学は身につけません。本講義ではビデオや教材学習を用いながら、演習を多く取り入れて、実際に自分で考えて「化学を自分のモノにする」ことを目標にしています。無理なく知識とセンスを身につけるために生徒と教官のインタラクティブな内容で、受講者の理解度に合わせた講義を行ないます。

【キーワード】 原子, 分子, 元素, 化学反応

【到達目標】 大学の化学の授業で当たり前に使われている事柄, 例えば数量単位や科学的概念について理解し, 演習を通してそれらを身につける。

【授業の計画】

1. 物質の分類・分離
2. 元素と原子
3. 周期表と元素
4. 分子と結合
5. 化学における測定と単位
6. 気体とその振る舞い
7. 溶液とその振る舞い

8. 化学反応とは?

9. 酸と塩基

10. 酸化と還元

11. 無機化合物とその性質

12. 有機化学(芳香族)

13. 有機化学(脂肪族)

14. 無機化学と結合論

15. 有機化学と反応論

16. 総括授業

【教科書】 教科書: 基礎物質科学 三共出版 2,400円

【成績評価の方法】 授業の最後に予習と復習のミニテストを行ない, 授業の取り組みとともに総合的に判断する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業で出てくる化学の専門用語は, 化学における常識的なものであるので, 予習・復習でよく理解すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220701>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田村 (化 509, 088-656-7416, tamura@chem.tokushima-u.ac.jp) MAIL

2) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects)

歴史と文化

日本の古代史 ... /衣川/前期 月 1・2.....	25
20世紀前半の中国 ... /荒武/前期 月 1・2.....	26
異文化/自文化研究へのいざない ... /高橋/前期 月 1・2.....	27
世界遺産が語る地理と歴史 ... /豊田/前期 月 1・2.....	28
アジアの近代と日本 ... /葭森/前期 月 3・4.....	29
ドイツの伝説と英雄叙事詩 ... /石川/前期 月 3・4.....	30
考古学概論Ⅰ ... /中村/前期 月 3・4.....	31
現代絵画論 ... /平木/前期 月 3・4.....	32
戦国時代から近世社会への変化 ... /桑原/前期 火 1・2.....	33
現代世界の展開 ... /佐久間/前期 火 1・2.....	34
中東経済入門-歴史と文化基盤- ... /水島/前期 火 9・10.....	35
徳島を考える ... /高橋・平井・豊田・田中/前期 火 9・10.....	36
現代世界の展開 ... /佐久間/前期 水 3・4.....	37
日本中近世文学Ⅰ ... /原水/前期 水 3・4.....	38
東アジア考古学概論Ⅰ ... /東/前期 水 3・4.....	39
日本古代文学Ⅰ ... /梶/前期 木 3・4.....	40
日本語の音声 ... /岸江/前期 木 3・4.....	41
中国文学において語られる死 ... /有馬/前期 木 3・4.....	42
ビジュアルコミュニケーション ... /石井/前期 木 3・4.....	43
西洋音楽の歴史 ... /宮澤/前期 木 3・4.....	44
アーツ・アンド・テクノロジー ... /石井/前期 木 5・6.....	45
絵画表現と技法の基礎 ... /平木/前期 木 5・6.....	46
日本語について考える ... /仙波/前期 金 1・2.....	47
民族音楽入門 ... /片岡/前期 金 1・2.....	48

人間と生命

知の探求と現代 ... /石田/前期 月 1・2.....	49
心理学入門 ... /濱田/前期 月 1・2.....	50

環境問題などと科学者・マスコミ各種の情報に惑わされない為の基礎知識ー	.../小山/前期 月 1・2	51
心理学概説	.../佐藤/前期 月 3・4	53
心理学初歩	.../原/前期 月 3・4	54
パンセと絵画	.../大橋/前期 月 3・4	55
生命倫理学研究	.../山口/前期 火 1・2	56
古代ギリシアの人と思想	.../吉田/前期 水 3・4	57
学びの心理学	.../川野/前期 水 3・4	58
自己分析の心理学	.../山本/前期 水 3・4	59
生体のしくみ	.../中川/前期 水 3・4	60
罪と悪-旧約聖書の世界-	.../吉田/前期 木 3・4	61
自己発見の心理学	.../香川/前期 木 3・4	62
心理学基礎	.../境/前期 木 3・4	63
身の回りの微生物	.../横井川/前期 木 3・4	64
心理学概論	.../福森/前期 木 5・6	65

生活と社会

憲法と人権 I	.../瀧/前期 月 1・2	66
食生活の経済学	.../中嶋/前期 月 1・2	67
財政制度入門	.../石田/前期 月 3・4	68
人口経済学入門	.../趙/前期 月 3・4	69
経済学入門	.../永井/前期 月 3・4	70
暮らしと地図	.../田中/前期 月 3・4	71
会社法入門	.../清水/前期 火 1・2	72
国際化のなかで地域問題を考える	.../北村/前期 火 1・2	73
社会学のパースペクティブ	.../矢部/前期 火 9・10	74
ゼミナール「意思決定と情報」	.../多田/前期 火 9・10	75
司法と市民	.../上原・清水/前期 水 3・4	76
ゼミナール「現代日本経済論」	.../立花/前期 水 3・4	77
国際協力論 2 -四国から世界へ輝く瞳のつくり方-	.../饗場/前期 水 9・10	78
憲法と人権 I	.../堀井/前期 木 3・4	79
市民と政治	.../栗栖/前期 木 3・4	80

ミクロ経済学入門 .../内藤/前期 木 3・4	81
ゼミナール「社会科学の夢」 .../水島/前期 木 3・4	82
移民から世界を見る .../樋口/前期 木 5・6	83
ボランティア論 .../樫田/前期 木 5・6	84
政治とメディア .../饗場/前期 金 9・10	86

自然と技術

相対論入門 .../中山/前期 月 1・2	87
ゲノムと発生のテクノロジー .../真壁/前期 月 1・2	88
気象災害を防ぐ .../西山/前期 月 1・2	89
地球の科学 .../石田/前期 月 3・4	90
自然放射線と放射線科学 .../三好/前期 月 3・4	91
地球と地層の科学 .../村田/前期 月 9・10	92
身のまわりの物性科学 .../小山/前期 火 1・2	93
環境科学入門～人間と地球の調和を目指して～ .../山本/前期 火 1・2	95
アクティブラーニングと科学 .../齊藤/前期 火 1・2	96
水産と生物 .../浜野/前期 水 3・4	97
インタラクティブシステムデザイン .../吉田/前期 水 3・4	98
数理の世界 .../桑原/前期 木 3・4	100
宇宙物理学入門 .../伏見/前期 木 3・4	101
地表環境の地学 .../西山/前期 木 3・4	102
化学と技術 -生きている化学はおもしろい- .../和田/前期 金 1・2	103
資源と環境のはなし .../服部/前期 金 1・2	104
災害を知る .../中野/前期 金 9・10	105

日本事情

日本事情Ⅰ ... (留(留))/大石/前期 水 3・4	106
日本事情Ⅲ ... (留(留))/三隅/前期 木 3・4	107

歴史と文化 (History and Culture)

日本の古代史 (Ancient Japanese History)

衣川 仁・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本史』)

【授業の目的】 歴史といえば、たとえ日本の歴史であったとしても、自分にとって遠い昔の無関係な話として受け取られがちです。確かにそうですが、その遠い昔から存在し、現在に影響を与えているかも知れないものは結構多いのです。そういった要素を見つけることで、歴史はぐっと身近なものになるでしょう。また、史料を細かく読み込むことで、今までは感じる暇もなかった当時の人々の思いにまでたどりつくことができます。それは覚えた年号からは分からない“生きた歴史”です。そこに行き着くには、柔軟に考えることが必要です。歴史は考える学問だということを踏まえ、その考え方を知ってもらうこと、これがこの授業の目的です。

【授業の概要】 日本の古代史に関わる重要なトピックを概説し、その歴史的な特質を考えます。時期としては 6 世紀から 11 世紀あたりまでを、皇統をめぐる争いや律令体制下の政治、更には社会・文化も視野に入れながらたどります。その際には、『日本書紀』や『続日本紀』など、史料・資料に基づいて説明します。

【キーワード】 天皇、律令、仏教、怨霊

【先行科目】 『歴史と文化/ 戦国時代から近世社会への変化』(1.0)

【関連科目】 『歴史と文化/ 古代・中世日本の社会』(0.5)

【到達目標】 日本古代の政治と社会の歴史をおさえる。そこに深く関わった権力(特に天皇)の役割を理解する。これらを含む当該期の歴史的特質を考える。

【授業の計画】

1. なぜ仏教は広まったのか
2. 「壬申の乱」の首謀者は誰か
3. 「日本」はどのように作られたか
4. なぜ古代には女帝が立てられたのか
5. 誰が長屋王を殺したのか
6. なぜ大仏は造られたのか
7. なぜ怨霊は生まれたのか
8. 蝦夷とは何か
9. 「薬子の変」をどう考えるべきか
10. 「国風文化」の底にあるものは何か

11. なぜ陽成天皇はクビになったのか
12. なぜ菅原道真は左遷されたのか
13. 平安時代の社会問題とは何か
14. なぜ平安京では火災が多発したのか
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用せず、プリント等を配布する予定です。参考書等は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法】 期末試験を中心に評価しますが、出席やコメント・小テストなど、平素の授業への取り組みも勘案します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 歴史は考える学問だといった様に、実際に考えながら受講して欲しいと思います。ですから、予習や復習も必要です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220703>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜10時30分~12時)

歴史と文化 (History and Culture)

20世紀前半の中国 (20th Century China I)

荒武 達朗 准教授 / 大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】 本授業では 20 世紀前半の中国史, 帝政の崩壊から中華人民共和国成立までを講義する。歴史事項の暗記につとめるのではなく、個々の歴史事項が歴史的文脈の中でどういう意味を持っているのかを「考察」していきたい。

【授業の概要】 下の授業の計画を見よ。

【到達目標】 我々にとっても極めて重要な中国近現代史のアウトラインを理解する。

【授業の計画】

1. 以下の項目の順番に沿って授業を進める。
2. 斜陽の大清帝国:西方の衝撃 (ウエスタンインパクト)
3. 帝国主義の時代
4. 1910 年代 中華民国の成立と政局の混乱
5. 五四運動へ:民族意識の高揚
6. 1920 年代 中国国民党と中国共産党:統一への試行錯誤
7. 北伐の完成:中国の統一 南京国民政府の成立
8. 毛沢東と蒋介石 二つのパーソナリティ
9. 1930 年代 日本の大陸侵略 1
10. 1937 年-45 年 日本の大陸侵略 2 日中全面戦争
11. 1945-49 年 「惨勝」 国共内戦 中華人民共和国の成立 (共産党の勝利)
12. (一回の授業で語り尽くせぬ場合には、次の回へと順延していく。)
13. (テスト)
14. (総括授業)

【教科書】 教科書はプリントを準備する。参考書などは追って指示する。

【成績評価の方法】 小テスト (40 点), 期末試験・レポート (60 点)

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講態度は授業を受ける前提である。授業開始直後などに出席をとる。睡眠や内職は認めない。携帯電話の使用はもつてのほかであり、これらの行為は叱責の対象である。漫然と受講することはけして出来ないが、ただし本当に中国の歴史について学ぼうとする者に対して有意義な内容を提示できるものと自負している。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220704>

歴史と文化 (History and Culture)

異文化/自文化研究へのいざない (Introduction to Japanese and Foreign Cultures)

高橋 晋一・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『文化人類学』)

【授業の目的】「地球時代」を迎えた今日、われわれの生きている社会、およびそこに見られる文化は日々大きく変化し、ますます複雑なものになってきている。文化人類学の大きな課題の一つは、このような社会・文化の複雑な網の目を解きほぐし、その奥にある社会・文化の本質を洞察することにある。本講義は、異文化および自文化の本質を客観的に捉える視点を身に付けることを通じて、同じ地球に生きる他者(および自己)の理解に寄与することを目的とする。こうした客観的な他者/自己理解の視点の獲得は、持続可能な社会・共生社会のあり方を考える上で重要な手がかりになると思われる。

【授業の概要】本講義では、文化人類学の幅広い研究領域の中から、特に基本的なテーマ、現在われわれが生きている社会・文化を理解するのに有益であると思われるテーマをいくつか取り上げ、概説する。講義では、世界の諸民族の文化のみならず、われわれの身近な生活文化(年中行事、ポピュラー音楽、ファッションなど)も積極的に取り上げる。

【キーワード】異文化理解、現代社会、文化人類学、グローバリゼーション、民俗学

【関連科目】『歴史と文化/ 沖縄社会文化論』(0.5)

【到達目標】文化人類学の基本的な考え方・理論を理解し、それを元に人間社会・文化の構造や意味の分析を行うことができる。

【授業の計画】

1. 文化人類学の考え方-イントロダクション
2. 異文化理解の視点-アイヌのイヨマンテの事例より
3. ウチなる世界とソトなる世界-共同体の構造理解
4. 成人式とバンジージャンプ-儀礼論のパースペクティヴ
5. 文化と死生観-よりよく生きる/死ぬための知恵
6. 人間にとって「癒し」とは何か-医療と文化再考
7. 音楽が語るもの-ポピュラー音楽と文化・社会
8. 都市を「読む」-ディズニーランドの文化論
9. 日本人とクリスマス-文化の受容と変容
10. 衣食住の文化人類学(1)-住まいの文化
11. 衣食住の文化人類学(2)-装いの文化、食の文化

12. 世界をめぐる日本文化-グローバリゼーションとポピュラー・カルチャー
13. 私は何人(なにじん)?-民族とエスニシティ論
14. 開発、環境と観光-文化人類学と現代世界
15. レポート提出
16. 総括

【教科書】教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

- ◇ 以下に挙げる概論・入門的な参考書のほか、個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 山下晋司編『文化人類学入門』弘文堂、2005年
- ◇ 綾部恒雄・桑山敬己編『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房、2006年
- ◇ 山口昌男『文化人類学への招待』岩波新書、1982年
- ◇ 21世紀研究会編『常識の世界地図』文藝春秋、2001年

【成績評価の方法】本授業の成績評価は、授業への取り組み状況(25%)、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数(40%)、期末レポートの点数(35%)を総合して行う。ただし、評価割合の目安は括弧内のパーセントである。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】受講者の理解を助けるため、授業の中ではDVD、CD、パワーポイントによるプレゼンテーションなどの視聴覚教材を多用する。フィールドワークを「疑似体験」しながら、文化現象の意味について考えてもらいたい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220702>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (前期)月曜12-13時)

歴史と文化 (History and Culture)

世界遺産が語る地理と歴史 (Discover the World Heritage: Geography and History)

豊田 哲也・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】 中学・高校ではだれもが地図や年表に親しんだはずである。地理学は地図に描かれた空間的な広がりを視野に、それぞれの地域に固有な特徴はなにか、地域と地域はどのように結びついているかを考える。歴史学は年表に記された時間的な流れに注目し、さまざまな事象がいかなる背景のもとに生じたか、それら事象がどう関連しあっているかを考える。両者はいわば世界という大きな織物の横糸と縦糸にあたる。この授業ではユネスコが選定する世界遺産を題材とし、地理と歴史の 2 つの視点から地域環境や人類史における意義を考察しつつ、大きな織物の一部としてその魅力を探る。受験知識やトリビアな雑学にとどまらず、現代のグローバル社会に生きる人間として知っておくべき教養を深め、世界の見方や考え方を身につけてほしい。

【授業の概要】 授業では毎回異なるテーマで世界遺産を取り上げる。ビデオを見ながらその概要を学び、自然遺産を生んだ地形のメカニズムや歴史遺産が果たした文明史的な意義を解説する。また、関連する情報の提供をウェブページ上でおこなう (下記 URL を参照)。

【キーワード】 世界遺産, 地理学, 地形学, 歴史学, 文明史

【関連科目】 『生活と社会/ 地球環境問題』 (0.5)

【到達目標】 世界遺産を題材に地理や歴史について幅広い知識教養を身につける。

【授業の計画】

1. アブ・シンベル神殿 (エジプト) エジプト文明は外来河川ナイルの賜物
2. グランド・キャニオン国立公園 (アメリカ) 地球の歴史が見える谷
3. ペルセポリス (イラン) 世界帝国ペルシアとアレクサンドロスの戦い
4. トリーア (ドイツ) ローマ帝国が築いたドイツ最古の計画都市
5. ラサのポタラ宮殿 (中国) チベット仏教の形成とダライ・ラマの系譜
6. イスタンブール歴史地区 (トルコ) アジアとヨーロッパを結ぶ文明の十字路
7. ヴェネチアとその潟 (イタリア) 地中海がつなぐ東西交易の展開
8. ゴアの教会と修道院 (インド) ポルトガルのアジア進出とザビエルの足跡
9. パナマ旧市街 (パナマ) スペインの新大陸制覇と運河建設の夢
10. グレ島 (セネガル) 西アフリカの奴隷貿易基地
11. グリニッジ (イギリス) 大英帝国が定めた本初子午線
12. ウィーン歴史地区 (オーストリア) ハプスブルク帝国の栄光と苦悩

13. ハワイ諸島 (アメリカ) ホットスポットがつくった世界最大の火山島
14. ラパ・ヌイ国立公園 (チリ) イースター島の巨石文明が減びるとき
15. アウシュヴィッツ (ポーランド) ホロコーストの消しがたい記憶
16. 授業の総括

【教科書】

- ◇ 『最新世界史図説・タペストリー (五訂版)』 帝国書院
- ◇ 高校で使用した地図帳を持ってこることが望ましい。

【参考書等】 下記 URL のウェブサイトに掲載しているほか、各回の授業時間に紹介する。

【成績評価の方法】 期間中に実施する小テスト及びレポート (80%) に、授業への取り組み (20%) を加味する。

【再試験の有無】 おこなわない。

【受講へのメッセージ】 高校での授業や受験科目で地理または世界史を履修・選択したかどうかは受講の必要条件ではない。この授業の単位は、教員免許取得 (中学校・社会, 高校・地歴) のための「教科に関する科目」に算入できる。

【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/heritage/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220705>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜 12:00~ 13:00)

【備考】 授業の 1~ 6 回目は、大学開放実践センターの公開授業として受講可能。

歴史と文化 (History and Culture)

アジアの近代と日本 (Modern Asian History)

葭森 健介・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】 19 世紀後半以降の日本とそれを取り巻く世界の歴史を理解し、人類の平和と幸福のために次代を担う若者が何をなすべきかを考えてもらうことを目的とする。

【授業の概要】 未来は明るいのか?世界には争いや貧困が取り巻いている。また日本の国力も低下しつつあるといわれる。しかし、次の時代に望みが持てないのではあまりにも悲しすぎる。とはいえ当面する課題から逃げてはならない。現在起こっている問題は近代という時代、それを作った西洋価値観の行き詰まりから生まれている。近代の日本とアジア・アフリカの歴史を振り返りつつ、現代社会が当面する課題を見つめ、別の価値観から次のステップへと進むべきためのヒントを考えたい。

【キーワード】 アジア, 日本, 近代化, 国際関係, 戦争

【到達目標】 幅広い観点から近代そして現代とは何かを理解し、それを踏まえてこれからの日本あるいは各自の進む方向について考え、客観的かつ説得的に文章で表現できることを目標とする。

【授業の計画】

1. 君たちの未来は輝いている!?
2. 西洋と東洋の間で-日本の近代化と外交
3. 脱亜入欧から大東亜共栄へ-近代の国際情勢と戦争への道程
4. 寅さんが演じた皇軍兵士-映画『拝啓天皇陛下様』①
5. 善人が起こした戦争-映画『拝啓天皇陛下様』②
6. 戦争の加害者・被害者とは?-国家の戦争と庶民の戦争
7. 世界大戦は終わったのに-人類はなぜ戦いをやめないのか?
8. 民族紛争と先進国の責任-映画『ホテルルワンダ』①
9. 民族紛争の悲劇とは-映画『ホテルルワンダ』②
10. 民族紛争のの原因とは-近代国家と民族対立
11. 近代日本が抱えた民族問題-映画『族譜』①
12. 戦前の日本の国際感覚-映画『族譜』②
13. 日本人が国際感覚を身につけるために-創始改名をめぐる誤解に学ぶ
14. 国際化社会の光と影-経済活動が庶民生活にもたらすもの
15. 後期試験

16. 総括-平和で豊かな未来を目指して

【教科書】 特にないが高校の時に使った日本史, 世界史, 現代社会の教科書を持参のこと

【参考書等】 授業中に紹介する

【成績評価の方法】 随時行う小テスト・レポートと学期末テストの成績を総合して評価する。

【再試験の有無】 再試験はいたしません。

【受講者へのメッセージ】 歴史を自分で学ぼうとする良心, 自ら考えるという態度が必要である。学ぼうという姿勢のないもの, 他の受講生に迷惑となる行動をとる場合は受講を拒否する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220706>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日16:30~ 17:30)

歴史と文化 (History and Culture)

ドイツの伝説と英雄叙事詩 (German Legend and Heroic Epic)

石川 榮作・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『外国文学』)

【授業の目的】 ドイツ文学作品に触れることによって、豊かな人間性を培うことを目的とします。

【授業の概要】 ドイツ中世英雄叙事詩の傑作『ニーベルンゲンの歌』の素材と作品そのものを徹底的に分析しながら、作品構造の特質を考察するとともに、さらには中世以降の諸作品にも触れることによって、『ニーベルンゲンの歌』の特質と魅力を探っていきます。

【キーワード】 ドイツ文学, ニーベルンゲン伝説, ニーベルンゲンの歌, ワーグナー, ニーベルングの指環

【到達目標】 『ニーベルンゲンの歌』の作品構造の特質を理解し、その作品の意義と魅力を文章で表現することができる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション (芸術作品の必要性)
2. ニーベルンゲン伝説の生成, 北欧における伝承, 『ニーベルンゲンの歌』の成立
3. 『ニーベルンゲンの歌』 前編の講読 (1)
4. 『ニーベルンゲンの歌』 前編の講読 (2)
5. 『ニーベルンゲンの歌』 前編の講読 (3)
6. 『ニーベルンゲンの歌』 前編の講読 (4)
7. 『ニーベルンゲンの歌』 後編の講読 (1)
8. 『ニーベルンゲンの歌』 後編の講読 (2)
9. 『ニーベルンゲンの歌』 後編の講読 (3)
10. 『ニーベルンゲンの歌』 後編の講読 (4)
11. ワーグナー『ニーベルングの指環』 (1)
12. ワーグナー『ニーベルングの指環』 (2)
13. ウーリー・エデルの映画『ニーベルングの指環』 前編
14. ウーリー・エデルの映画『ニーベルングの指環』 後編
15. 定期試験
16. 総括授業

【教科書】 石川榮作訳『ニーベルンゲンの歌』(前編・後編全2冊) 筑摩書房 (ちくま文庫)

【成績評価の方法】 授業への取り組み (50%) と定期試験 (50%) により、総合的に評価します。

【再試験の有無】 有り

【受講者のメッセージ】 芸術作品に親しむ心のゆとりがほしいものです。そういう心のゆとりこそ創造の源です。文学作品に触れることを大いに楽しんでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220708>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時~16時)

【備考】 ビデオ等をたくさん用います。オペラを大いに楽しんでいただければ幸いです。芸術作品は大いに楽しむことで、私たちの心を豊かにしてくれるものです。

歴史と文化 (History and Culture)

考古学概論 I (Outline of Archeology I)

中村 豊・准教授/埋蔵文化財調査室

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『考古学』)

【授業の目的】 考古学は人類の遺した物質から歴史を復原する学問である。物質は文字資料とは異なって、そのままでは黙して語らない。この「沈黙の史料」からいかにして歴史を復原するのか、この点を理解することを第 1 の目的とし、次いで、その実践としての研究のあゆみを概観する。より興味を深めるために、その実践例として、「縄文から弥生へ」「邪馬台国の時代」「徳島の考古学」について講義し、大学構内遺跡の発掘についてもかかみみる。

【授業の概要】 考古学とは何か、なぜ考古学を学ぶのか。まずはじめに考古学の方法論を概説し、現代社会とのかかわりのなかで、考古学に取り組む意味・姿勢について考える。次に、文字のない時代における年代の決定方法や、食生活の復原方法、自然環境とのかかわりなど、関連諸科学との境界領域について講義する。以上をふまえた上で、日本考古学が、その成立から今日にいたるまで、どのように発展してきたのかを講義する。日本考古学の問題意識や理論が、時代背景とどのように関わってきたのか、これからどうあるべきかについて考察したい。なお、理解度を高めるために、パワーポイント等映像を適宜用いる予定である。

【キーワード】 日本考古学, 方法論, 考古学史, 歴史意識, 関連諸科学

【関連科目】 『歴史と文化/東アジア考古学概論 I』(0.5), 『歴史と文化/東アジア考古学概論 II』(0.5)

【到達目標】

1. 考古学の方法を理解する。
2. 考古学と関連諸科学との関わりを理解する。
3. 日本考古学のあゆみと、その背後にある時代背景との関わりを理解する。

【授業の計画】

1. 考古学の方法 1 考古学とは何か、なぜ考古学を学ぶのか
2. 考古学の方法 2 型式学と層位学
3. 考古学と関連諸科学 1 年代決定法 1
4. 考古学と関連諸科学 2 年代決定法 2
5. 考古学と関連書科学 2 自然環境と人間のかかわり
6. 日本考古学のあゆみ 1 近代考古学の成立と展開
7. 日本考古学のあゆみ 2 編年学派の登場

8. 日本考古学のあゆみ 3 戦中・戦後の考古学

9. 日本考古学のあゆみ 4 高度経済成長, 東西冷戦の終結とこれからの考古学

10. 日本考古学の実践例 1 縄文から弥生へ

11. 日本考古学の実践例 2 邪馬台国の時代

12. 徳島の遺跡

13. 青石の考古学

14. 徳島大学構内遺跡と考古学

15. レポート提出

16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリント資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況, 学期末のレポートにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 考古学に興味のある学生は、学部・専攻・文系理系を問わず歓迎します。なお、平成 19 年度前期に開講した授業題目『日本考古学概論』を受講したものは履修できません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220709>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中村 (088-633-7224, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 8 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

歴史と文化 (History and Culture)

現代絵画論 (Painting theory of present age)

平木 美鶴・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】この講義の特徴として、それぞれの理論の理解をより深め、自分のものとするために、理論に基づいた簡単な実技を設定している。実際に描くことにより感覚的な理解もしてほしい。

【授業の概要】アカデミックな西洋絵画の歴史の流れを変えた印象派の登場から現代絵画の道が開けてくるのであるが、その後、後期印象派やキュビズム、未来派、抽象絵画の出現など 20 世紀初頭の絵画の動きは非常に活発なものがある。それ以降のシュールレアリスム、記号論、アクションペインティング、ニューヨーク派、ポップアートなど、現代絵画の基礎となる考え方を学ぶ。現代絵画を理解するための基礎講座である。

【キーワード】絵画、美術、芸術

【関連科目】『歴史と文化/ 絵画表現と技法の応用』(0.5)

【到達目標】描く基本を身に付ける。

【授業の計画】

1. 近現代の美術の流れ
2. 印象派・筆触分割法について
3. 後期印象派・色彩学に基づいた分割法
4. キュビズム・二次元と三次元の問題、絵画の平面化
5. 未来派・絵画と時間性
6. 抽象絵画・平面にふさわしい形態と色彩の模索
7. シュールレアリスム・反構築、深層にせまる絵画の理論と技法
8. シュールレアリスム・偶然から生まれる絵画の中の自然
9. 記号論・記号としての物の捕え方
10. アクションペインティング・身体の動きと絵画
11. 目測する
12. オブジェ・物が示す観念
13. ニューヨーク派・現代を捕える。アキュミレーション (集積)
14. ポップアート・消費社会と絵画の大衆化
15. 課題テスト
16. まとめ

【教科書】

- ◇教科書は、使用しない。適宜プリントを配布する。
- ◇準備物として水彩道具一式が必要である。

【成績評価の方法】毎回の授業で描いた作品や授業感想等の提出を求める。レポートなどにより総合的に評価する。

【再試験の有無】なし

【受講者へのメッセージ】絵を描くのが苦手であっても絵画に興味のある意欲的な学生を望む。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220710>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】教室の都合で受講者制限をする。

歴史と文化 (History and Culture)

戦国時代から近世社会への変化 (History of Early Edo)

桑原 恵・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本史』)

【授業の目的】 歴史学は、過去に人間が社会をどのように作り、そのときの社会が抱える問題を解決してきたかを知ることのできる学問である。特に変動の激しい現代の社会を生きる時、日本の歴史から学ぶことも多い。また、日本の歴史についての知識は、国際化の時代においても必須の教養である。私たちは、自らの国の歴史を知っているようで案外知らないものである。社会の組織やそれぞれの社会の通念などは、個々の人間から見れば、既成のもののように見えるが、歴史的に見れば、すべて人間が作り上げたものである。講義では、歴史学を単なる暗記の学問として、過去の研究成果から得られた通説的理解のみを学生に講義することはしない。史料に基づいて、歴史学的に物事を考察する方法を講義したいと考えている。

【授業の概要】 本講義では、歴史をこのような観点から捉え、近世社会の成立とその展開について講義する。講義では、出来る限り史料を提示し、その意味と歴史的意義付けについて説明しながら、講義を進めていく。そして、中世社会から近世社会への変容と、近世社会の展開によるその変容について講義する。

【キーワード】 戦国時代、江戸時代、豊臣政権

【到達目標】 史料に基づきながら、江戸時代の成立に際して起こった社会の変化の原因とその様相を理解する。

【授業の計画】

1. 講義計画と基礎知識の確認
2. 戦国大名の領土拡大権
3. 豊臣政権の成立と戦国大名
4. 戦国時代の農村と武力
5. 豊臣政権の成立による農村の変化
6. 太閤検地とその歴史的意義
7. 武士と農民の分離
8. 江戸幕府の確立と老中制の成立
9. 農村の自治と農民の生活
10. 都市の建設と町人の活躍
11. 道頓堀や難波村の開発と町人

12. 江戸時代の経済システム
13. 商業経済の活発化と社会の変化
14. 経済の変化と社会問題～享保の改革など～
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】

- ◇教科書は、指定しない。授業中使用するプリントと資料は適宜配布する。
- ◇参考となる本は、講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法】 講義中に抜き打ちで行う小テスト、もしくは期末試験の結果をもとに評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 暗記中心のテストは実施しない。理解しやすい講義とするために、受講生の質問なども歓迎する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220712>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歴史と文化 (History and Culture)

現代世界の展開 (Modern World History)

佐久間 亮・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】 ボーダレス化がますます進行する社会の中でよりよく生きていくためには、様々な文化や宗教を背景にした人たちとの相互理解は不可欠である。したがって、現代の世界で何が起きているのか、さらにはそれらの歴史的背景についての知識は現代人の必須の教養である。しかしながら、高校での世界史では、現代史、とりわけ第二次世界大戦後の歴史については充分には教えられず、その知識の欠落は著しい。たとえば、アメリカの中東政策に対して、なぜあれほどまでにアラブ系の人々が反発しているのか、少なくとも第二次大戦直後にまで遡って中東の歴史を考えなければ、理解不能だろう。この講義では、第二次世界大戦後の世界の歴史を、おもに映像とパワーポイントによる画像を用いながら理解してもらうことを目的とする。この知識のギャップを埋める作業は、「常識」に関するジェネレーション・ギャップを埋めることもねらいとしている。

【授業の概要】 第二次世界大戦後の歴史を、3つの局面に分割して理解する見方を紹介する。第一の局面は、「冷戦」の時代である。戦後ながく続いたこの枠組みがいかなるものだったかを具体的な事件をとおして理解することがまず第一の課題である。その上で、この枠組みが崩壊して以降の「民族主義」と「神々」の復活という第二の局面に世界が直面してきたこと、そして、「9・11」後、世界がどのような方向に進みつつあるのかについて、歴史家としての展望を示したいと思う。

【キーワード】 冷戦、イデオロギー、民族主義、イスラーム、歴史観

【関連科目】 『生活と社会/国際政治学入門』(0.5), 『歴史と文化/中東経済入門-歴史と文化基盤-』(0.5)

【到達目標】

1. 新聞、テレビニュースで語られる世界の出来事を的確に理解できるようになること
2. 今を理解する上で歴史的パースペクティブをもつことが不可欠であることを実感すること

【授業の計画】

1. 米ソ冷戦の始まり
2. 分割されたドイツの悲劇

3. 中国と台湾はなぜ仲が悪い (1)-日本の台湾支配-
4. 中国と台湾はなぜ仲が悪い (2)-第二次大戦後の推移-
5. アジアの「熱い戦争」
6. キューバ危機と核開発競争
7. アジアの泥沼 (1) -ベトナム-
8. アジアの泥沼 (2) -アフガニスタン-
9. ホメイニ革命から湾岸戦争まで
10. ユーゴスラビア紛争 (1)-東欧革命の余波-
11. ユーゴスラビア紛争 (2)-「民族浄化」-
12. 9. 11 の衝撃
13. パレスチナ紛争とは何か (1)-歴史的起源-
14. パレスチナ紛争とは何か (2)-和解への遠い道のり-
15. 期末試験
16. 全体のまとめ

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配布して授業をすすめる。

【参考書等】 参考書はその都度紹介する。

【成績評価の方法】 受講態度、小テスト、学期末テスト (論述形式) で総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験はおこなわない。

【受講者へのメッセージ】 日々のニュースに関心をもちつつ受講してほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220713>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歴史と文化 (History and Culture)

中東経済入門-歴史と文化基盤- (Introduction to Middle East Economy (History and Culture))

水島 多喜男・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】 最近中東地域に関する関心が高まっているが、依然として中東地域に対する日本の関心は石油・天然ガス問題に限られている。しかし、この地域は共通性とともにも多様性をもち、一面的な理解を拒絶する世界である。授業を通じて、この地域を理解するための基礎的知識を獲得することを目的とする。

【授業の概要】 この講義では、以下の点に触れながら、この地域の経済的特性を概観することにした。1. 中東地域の特性を形作っているイスラームの世界観と世界性、2. 中東地域の自然的、文化的、歴史的多様性、3. 資本主義の世界的性格と中東地域との緊張関係。

【キーワード】 中東、イスラーム、資本主義

【到達目標】 中東に関する報道を、自分の知識と照らし合わせながら理解できるようになる。

【授業の計画】

1. 定義、中東地域、アラブとアラブ諸国、イスラーム圏。
2. 中東地域の地理的多様性
3. 中東地域の自然的多様性
4. 天然資源
5. 中東地域の文化的社会的多様性:宗教
6. 中東地域の文化的社会的多様性:法学派
7. 中東地域の文化的社会的多様性:経済規範
8. 中東地域への産業資本の浸透
9. 中東地域への産業資本の浸透
10. 欧米列強の中東進出
11. 欧米列強の中東進出
12. 日本と中東
13. 日本と中東
14. (予備) 進捗度に遅れが出た場合に使用
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 配付する資料を使用する。

【参考書等】 参考書等は、適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業への取り組みと、授業中の小レポート・課題レポートを重視する。

【再試験の有無】 なし

【受講へのメッセージ】 平成 16 年度に開講した授業題目『中東経済入門 1』を受講したものは履修できません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220714>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歴史と文化 (History and Culture)

徳島を考える (Geography and Culture of Tokushima)

高橋 晋一・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 平井 松午・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
豊田 哲也・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 田中 耕市・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 われわれの身の回りの地理的・歴史的・文化的環境やそこに見られるさまざまな地域的課題について理解することは、持続可能な地域づくりを進める上で重要な意味を持つ。一言で地域的課題と言ってもその内容は多様である。大都市地域では人口集中・産業空洞化が叫ばれる一方、「地方」では過疎・人口高齢化などが深刻化し、伝統文化も大きく変容してきている。こうした地域性・地域差には、各々の地域における地理的・歴史的・文化的基盤の差異が大きく反映されている。本講義では、こうした地域的特性を分析する上で不可欠な地域構造や地域史・地域文化の観点から、「徳島」の一面を理解していくことにしたい。

【授業の概要】 本講義は、おもに地理学・文化人類学(民俗学)の観点から、オムニバス形式で「徳島」という地域社会の成立過程や特性を考察しようとするものである。

【キーワード】 地理学, 文化人類学, 民俗学

【関連科目】 『歴史と文化/日本図の歴史』(0.5), 『歴史と文化/異文化/自文化研究へのいざない』(0.5)

【到達目標】 「徳島」を題材に取り上げる自然・社会・文化に関わる諸現象が、日本あるいは世界といったマクロな観点から考察できること。

【授業の計画】

1. ランキングからみた徳島県(平井)
2. 南海地震と四国島の形成(平井)
3. 吉野川と阿波藍(平井)
4. 徳島市の都市発展(豊田)
5. モラエスがくらしした徳島(豊田)
6. すだちの特産地形成(豊田)
7. 本四連絡橋とストロー現象(豊田)
8. 徳島市街拡大と防災(田中)
9. 徳島県の交通(田中)
10. 和三盆糖の歴史と流通(田中)
11. 阿波踊りの文化史(高橋)

12. 現代社会と四国遍路-「巡ること」の意味-(高橋)

13. 阿波の狸文化(高橋)

14. 阿波の名所と観光(高橋)

15. 個別テーマに関するレポート作成

16. 総括

【教科書】 教科書は使用せず。随時、資料・プリントなどを配布する。

【参考書等】 寺戸恒夫編著『徳島の地理』徳島地理学会, 三好昭一郎・高橋啓編『図説 徳島県の歴史』河出書房新社, 三好昭一郎著『阿波踊史研究』徳島県教育印刷など。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況, 小テスト, レポート提出などにより, 担当の4教員が総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 各授業時・各授業担当者ごとに小テストやレポート等に関して指示があるので、注意しておくこと。「徳島をもっと知りたい」という学生は、ぜひ受講して下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220715>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜 12:00~ 13:00)

⇒ 田中 .

歴史と文化 (History and Culture)

現代世界の展開 (Modern World History)

佐久間 亮・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】 ボーダレス化がますます進行する社会の中でよりよく生きていくためには、様々な文化や宗教を背景にした人たちとの相互理解は不可欠である。したがって、現代の世界で何が起きているのか、さらにはそれらの歴史的背景についての知識は現代人の必須の教養である。しかしながら、高校での世界史では、現代史、とりわけ第二次世界大戦後の歴史については充分には教えられず、その知識の欠落は著しい。たとえば、アメリカの中東政策に対して、なぜあれほどまでにアラブ系の人々が反発しているのか、少なくとも第二次大戦直後にまで遡って中東の歴史を考えなければ、理解不能だろう。この講義では、第二次世界大戦後の世界の歴史を、おもに映像とパワーポイントによる画像を用いながら理解してもらうことを目的とする。この知識のギャップを埋める作業は、「常識」に関するジェネレーション・ギャップを埋めることもねらいとしている。

【授業の概要】 第二次世界大戦後の歴史を、3つの局面に分割して理解する見方を紹介する。第一の局面は、「冷戦」の時代である。戦後ながく続いたこの枠組みがいかなるものだったかを具体的な事件をとおして理解することがまず第一の課題である。その上で、この枠組みが崩壊して以降の「民族主義」と「神々」の復活という第二の局面に世界が直面してきたこと、そして、「9・11」後、世界がどのような方向に進みつつあるのかについて、歴史家としての展望を示したいと思う。

【キーワード】 冷戦、イデオロギー、民族主義、イスラーム、歴史観

【関連科目】 『生活と社会/国際政治学入門』(0.5), 『歴史と文化/中東経済入門-歴史と文化基盤-』(0.5)

【到達目標】

1. 新聞、テレビニュースで語られる世界の出来事を的確に理解できるようになること
2. 今を理解する上で歴史的パースペクティブをもつことが不可欠であることを実感すること

【授業の計画】

1. 米ソ冷戦の始まり
2. 分割されたドイツの悲劇

3. 中国と台湾はなぜ仲が悪い (1)-日本の台湾支配-
4. 中国と台湾はなぜ仲が悪い (2)-第二次大戦後の推移-
5. アジアの「熱い戦争」
6. キューバ危機と核開発競争
7. アジアの泥沼 (1) -ベトナム-
8. アジアの泥沼 (2) -アフガニスタン-
9. ホメイニ革命から湾岸戦争まで
10. ユーゴスラビア紛争 (1)-東欧革命の余波-
11. ユーゴスラビア紛争 (2)-「民族浄化」-
12. 9. 11 の衝撃
13. パレスチナ紛争とは何か (1)-歴史的起源-
14. パレスチナ紛争とは何か (2)-和解への遠い道のり-
15. 期末試験
16. 全体のまとめ

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配布して授業をすすめる。

【参考書等】 参考書はその都度紹介する。

【成績評価の方法】 受講態度、小テスト、学期末テスト (論述形式) で総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験はおこなわない。

【受講者へのメッセージ】 日々のニュースに関心をもちつつ受講してほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220716>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歴史と文化 (History and Culture)

日本中近世文学 I (Medieval Japanese Literature 1)

原水 民樹・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本文学』)

【授業の目的】日本人である以上、日本文化・文学についての知識をもつことは当然である。外国に留学した学生が、留学先で日本文化について質問され、何も答えられず恥をかいたというのはよく聞く話である。人間まず足下を固めることから始めることが肝要。本授業は日本中世文学作品の中から、本格的な軍記物語のさきがけになったとされる保元物語を取り上げ、講読の形で進めながら、その特質や魅力について説明する。

【授業の概要】保元物語を読み進める形で、注釈を基本に据えて、作品の魅力や特質を説明する。

【キーワード】日本中世文学、軍記物語、平安最末期の社会情勢

【到達目標】軍記物語・保元物語についての基本的理解が得られる。

【授業の計画】

1. 軍記物語についての解説
2. 保元物語についての解説
3. 後白河帝の即位
4. 鳥羽院の死
5. 謀反の企て
6. 合戦の勃発
7. 合戦の経緯
8. 合戦終結
9. 合戦後の動静
10. 為義の処刑およびそれにまつわる悲劇
11. 崇徳院流罪
12. 為朝流罪
13. 崇徳院の死
14. 為朝の死
15. テスト
16. 総括

【教科書】教科書 早川厚一他『京都大学附属図書館蔵保元物語』和泉書院

【成績評価の方法】学期末試験 (50%)・毎回の質疑の内容・受講姿勢 (50%) を総合して判断・評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】文学という存在を少しは真面目に考える学生、日本の歴史・古典文学に関心のある学生に受講してもらいたい。単位取得だけが目的の学生には退屈で辛いだけ。毎回、講義内容についての質疑を課す。教科書を購入しない学生の受講は認めない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220717>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 原水 (1 号中棟 1 階, 088-656-7113, haramizu@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歴史と文化 (History and Culture)

東アジア考古学概論 I (Outline of East Asian Archaeology 1)

東潮・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『考古学』)

【授業の目的】「魏志東夷伝の考古学」, 「東夷伝」の諸国, 高句麗, 夫餘, 挹婁, 沃沮, 濊, 韓, 倭の考古学的研究. 古代の東アジア世界のなかで, 倭・倭人・倭国を位置づける.

【授業の概要】古代東アジアにおける, 楽浪・帯方・玄菟・遼東の漢魏の郡県, 高句麗・夫餘・挹婁・沃沮・濊・韓・倭の諸国をめぐる歴史環境を文献史料と考古資料からみる. 「倭人伝」は『三国志』巻三十, 魏書の東夷伝倭人条であることをふまえ, 東アジア諸地域における国際関係を考える.

【キーワード】魏志東夷伝, 魏志倭人伝, 東北アジア, 邪馬台国

【到達目標】魏呉蜀の三国, 燕 (公孫氏), 「東夷」伝諸国の歴史を学ぶ.

【授業の計画】

1. 魏志東夷伝の世界
2. 楽浪郡の考古学
3. 帯方郡の考古学
4. 魏の都, 洛陽と鄴城
5. 魏志高句麗伝
6. 魏志夫餘伝
7. 魏志挹婁伝
8. 魏志濊伝・魏志東沃沮伝
9. 魏志馬韓伝
10. 魏志弁韓伝
11. 魏志辰韓伝
12. 魏・公孫氏・高句麗・韓の国際関係
13. 魏志倭人伝—魏と倭の軍事同盟
14. 倭と韓
15. 試験
16. 魏志倭人伝の考古学から魏志東夷伝の考古学へ

【教科書】なし. 資料配付.

【参考書等】

- ◇ 井上秀雄ほか 1974 『東アジア民族史』1・2, 平凡社
- ◇ 東潮 1999 『古代東アジアの鉄と倭』溪水社

- ◇ 東潮 2006 『加耶と倭の国際環境』吉川弘文館
- ◇ 東潮編 2009 『『三国志』魏書東夷伝の国際環境』『国立歴史民俗博物館研究報告』第 151 集
- ◇ 『正史三国志』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法】学期末試験による.

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】なし

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220718>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歴史と文化 (History and Culture)

日本古代文学 I (Ancient Japanese Literature 1)

堤和博・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本文学』)

【授業の目的】 これからの人生を送っていくなかで、種々多様な文学作品に接することは、色々な面において有意義なものとなるはずである。しかし、日本古典文学作品を読むとすると、言葉が現代語と違うのは勿論のこと、何かと取り付きにくいものである。そこで、日本古典文学史上の著名な詞華集の一つである『万葉集』所載の歌歌を取り上げ、古典文学作品読解の基本を身につけることを目的とする。以上のことに加え、文章力を養うことも目的とする。

【授業の概要】 文学作品の読解とは表面上の意味を読み取る (古典で言えば単に現代語訳する) だけではすまされないのは勿論である。作品の成立した過程やその時代の状況、あるいは登場人物の人物像などを考慮に入れながら、作者が真に訴えたかったことを慎重に読み取っていかなくてはならない。『万葉集』の歌について言うと、奈良時代すでに中国文化の影響を強く蒙っていたの言うまでもないが、平安時代の『古今和歌集』以後の歌に比べると、その影響は小さい。そんな、日本古来の歌を読みとっていくことを目的とする。ところで、和歌に限らず文学作品はそれが生み出された時代の文化や政治などと不可分である。この授業では、舒明天皇期以降の主として政治史を視野に入れながら、どういう政治状況のもとでどういう歌が詠まれていたのかを跡付けていく。『万葉集』所載の歌は、概ね、舒明天皇の頃の歌から長岡京遷都頃までに詠まれたといわれる。これらの歌は普通四期に分けて捉えられるが、その四期に分かって順次講じていくこととし、最初に『万葉集』に関する基礎的な事柄を説明しておく。また、防人の歌等は別途講じる。

【キーワード】 万葉集, 日本古典文学, 日本古代史

【到達目標】

1. 『万葉集』所載のそれぞれの和歌が詠まれた頃の時代や作者の状況を把握した上で、その和歌を読解する過程及び結果が理解できる。
2. 1 で理解した内容をわかりやすく文章化できる。

【授業の計画】

1. 『万葉集』の成立過程等, 『万葉集』に関する基礎的な事柄
2. 『万葉集』第一期 舒明天皇期から壬申の乱 (672 年)(1)―有間皇子等―
3. 『万葉集』第一期 舒明天皇期から壬申の乱 (672 年)(2)―額田王等―
4. 『万葉集』第一期 舒明天皇期から壬申の乱 (672 年)(3)―中皇命等―

5. 『万葉集』第二期 壬申の乱から平城京遷都 (710 年)(1)―大津皇子・大泊皇女等―
6. 『万葉集』第二期 壬申の乱から平城京遷都 (710 年)(2)―柿本人麻呂等―
7. 『万葉集』第二期 壬申の乱から平城京遷都 (710 年)(3)―高市黒人等―
8. 『万葉集』第三期 平城京遷都から 733 年 (1) ―大伴旅人等―
9. 『万葉集』第三期 平城京遷都から 733 年 (2) ―山上憶良等―
10. 『万葉集』第三期 平城京遷都から 733 年 (3) ―高橋虫麻呂等―
11. 『万葉集』第四期 734 年から 759 年 (1) ―笠女郎等―
12. 『万葉集』第四期 734 年から 759 年 (2) ―中臣宅守・狭野弟上娘子等―
13. 『万葉集』第四期 734 年から 759 年 (3) ―大伴家持等―
14. 東歌, 防人歌, 遣新羅使人の歌
15. レポート作成, または, テスト
16. 総括授業

【教科書】 『新選万葉集抄新装版』(小野寛著・笠間書院)1600 円税別

【参考書等】 授業中に適宜配布, 提示する。

【成績評価の方法】 数度の小レポートと期末試験 (記述式) の合計点に欠席状況 (注) を加味する。注・授業には出席するのが当然なので、出席しても加点しないが、欠席すると減点する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 特に歴史に関する事柄は欠かさず聴講しないと理解しにくいので、やむを得ず欠席した場合は、個別に質問に来ること。なお、数度以上無断で欠席した者は、受講の意志を無くしたものとみなす。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220719>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歴史と文化 (History and Culture)

日本語の音声 (Japanese Phonetics)

岸江 信介・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本語学』)

【授業の概要】 音声について学習する。日本語の音声をメインに取り扱うが、音声を音響学的側面から扱い、音声分析などをパソコンソフトを用いて行う。日本の諸方言の音声を取り上げて解説し、方言音声のバリエーションについて学ぶ。特にアクセント体系などに違いについて述べる。

【到達目標】

1. 音声言語、方言音声を音響学的分析によって音声に対する認識を新たにする。
2. コミュニケーションにおける音声の役割を理解する。

【授業の計画】

1. 音声とは何か?
2. 音声生成のメカニズム
3. 音声を物理的にとらえる
4. 日本語の音声学
5. 音声と音素
6. モーラとシラビーム
7. 日本語諸方言のモーラとシラビーム
8. 日本語史における音声の変化
9. 日本語諸方言の音声
10. アクセント・イントネーション・ポーズの役割
11. 音響音声学とはなにか
12. 自分のアクセントを分析する
13. 全国諸方言アクセントの体系
14. パソコンによる音声分析を行う
15. 全国諸方言の音声やアクセントを調べる
16. 総括

【教科書】 随時プリントを配布する。

【参考書等】 今石元久編『音声分析入門』(和泉書院)

【成績評価の方法】 出席 (30%), レポート (50%), 小テスト (20%) を評価の割合とする。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220720>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 12:00-12:45(毎週火曜日))

【備考】 社会人ボランティアの参加要請 (5 名程度)・・・方言や日本語音声の地域差に興味がある方で授業補助をして下さる社会人ボランティアの方を募集しています。

歴史と文化 (History and Culture)

中国文学において語られる死 (Chinese Literature; Molding of death)

有馬 卓也・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『外国文学』)

【授業の目的】 本授業は中国の様々な資料 (文学・思想・歴史・画像) などを通して、古代中国の人々の文化や意識を、テーマ別に論じるものである。そして、文化を通して、人間理解へと至ることを目的とする。

【授業の概要】 本講義では中国の古典作品に描かれた様々な死の在り方を体系的に見ることによって、当時の人々がどのような「生き方」を模索していたのかを考えていく。歴史書において潤色された死、自刎する者たちの意味づけ、思想家が語る死、画像に描かれた死後の世界、これらを通して中国古代文化の一面を理解していく。

【キーワード】 死、死後の世界、中国文化

【到達目標】 「死」というテーマを通して、古代中国を理解するとともに、古今を通じて変わることのない人間の基本的性情を理解する。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 『史記』に語られる死:予讓 (1)
3. 『史記』に語られる死:予讓 (2)
4. 『史記』に語られる死:齊桓公 (1)
5. 『史記』に語られる死:齊桓公 (2)
6. 自刎する者の美学:『新序』 (1)
7. 自刎する者の美学:『新序』 (2)
8. 自刎する者の美学:『新序』 (3)
9. 自刎する者の美学:『新序』 (4)
10. 思想家の描く死:『莊子』 (1)
11. 思想家の描く死:『莊子』 (2)
12. 描かれた死後の世界 (1):崑崙山
13. 描かれた死後の世界 (2):西王母
14. まとめ
15. 試験
16. 総括

【教科書】 毎回プリント (漢文) を配布する。参考書は随時提示する。

【成績評価の方法】 期末にテストを行う (漢文の読みや知識を問うような問題は出さない)。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 授業中の私語厳禁。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220721>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 随時)

歴史と文化 (History and Culture)

ビジュアルコミュニケーション (Visual Communication)

石井 健二・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】 視覚表現の原点を探り、視覚、聴覚、臭覚、触覚、味覚等の五感の持つ意味を考える。なお社会(あるいは学問体系)における同授業を受ける意義とかその必要性、あるいは、同授業の社会における立ち位置等について、私自身が考えていることを書いておきたい。現代社会は外国文化との接触・交流の密度が増し、広い意味での異文化理解についての深い勉強を大学生活の中で積極的に行うことが、どのような分野を専攻しようとしている学生にとっても、極めて大切である。この授業は、そのような意味においても大変有益であり、又、多様なビジュアルコミュニケーションを最初に書いたような趣旨で学生時代に学ぶことは、どのような研究分野を目指している学生にとっても、直接的にも間接的にもプラスに働くことが多いのではないかと思っている。

【授業の概要】 人間の持つ五感を通じたビジュアルコミュニケーションについて講義する。

【キーワード】 五感による表現、視覚伝達

【先行科目】 『歴史と文化/アーツ・アンド・テクノロジー』(1.0)

【関連科目】 『歴史と文化/絵画表現と技法の基礎』(0.5)

【到達目標】

1. 五感による表現について認識を深める。
2. 視覚表現の原点を探る。

【授業の計画】

1. 視覚表現の可能性について検討する。
2. 受講生による発表を中心に授業を進める。
3. 視覚のビジュアル表現
4. 視覚のビジュアル表現(グループで検討)
5. 聴覚のビジュアル表現
6. 聴覚のビジュアル表現(グループで検討)
7. 臭覚のビジュアル表現
8. 臭覚のビジュアル表現(グループで検討)
9. 触覚のビジュアル表現
10. 触覚のビジュアル表現(グループで検討)
11. 味覚のビジュアル表現

12. 味覚のビジュアル表現(グループで検討)

13. 銀塩による画像伝達について

14. 非銀塩による画像伝達について

15. レポート提出の締め切り

16. 総括授業

【教科書】 講義の中でテーマ毎に紹介する。

【参考書等】 講義の中で配布する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、レポート及び出席状況などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 行わない。

【受講者のメッセージ】 講義は総合科学部マルチメディア A 棟 1 階芸術講義室にて行う。2011 年度は、木曜日の前期 3-4 講時に開講する。教養科目の単位となります。30 人で締め切る。視覚伝達に興味関心のある意欲的な学生を望む。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220723>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜昼休み)

歴史と文化 (History and Culture)

西洋音楽の歴史 (History of Classical Music)

宮澤 一人・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】 西洋音楽の約 1000 年の長い歴史を理解し、それぞれの時代の音楽が持つ固有の美しさを体感する。音楽は人間が生物として生きていくためには、必ずしも必要ではない。しかし人間らしく生きていくために必要な「心の情操」を身につけるためには、もっとも有効な手段である。それぞれの時代には、才能にあふれた人間が、自らを奮い立たせ努力した結果としての優れた音楽が存在する。それらを知り味わうことが、現代という時代をよりよく生き抜くために不可欠である。

【授業の概要】 先ず、西洋音楽史全体の流れを説明し、その後重要な時代や作曲家を取り上げて、それぞれの作品を鑑賞する。

【キーワード】 音楽と宗教、芸術音楽と娯楽音楽、音楽と世界史の関わり、音楽と批評

【到達目標】 音楽史の全体を理解し、それぞれの音楽が持つ魅力や美しさについて、文章等での的確に表現する技術を身に付ける。

【授業の計画】

1. 西洋音楽史の全体像、および中世の音楽
2. ルネサンスの音楽
3. バロック音楽
4. J.S. バッハ
5. ハイドンと交響曲の完成
6. モーツァルト
7. ベートーヴェン
8. ベートーヴェンと「交響的概念」
9. シューベルト
10. ベルリオーズと楽器の発展
11. 19 世紀ロマン派音楽の全盛期
12. ワーグナー
13. ブラームス
14. 20 世紀の音楽
15. レポート提出
16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。参考書等は授業の時に紹介する。毎回授業内容についての資料を配布する。

【参考書等】 岡田暁生『西洋音楽史』中公新書 1816 ISBN4-12-101816-8

【成績評価の方法】 授業中に指示するレポートの内容、授業への取り組み状況により決定する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 音楽に興味を持ち、静かに鑑賞できること、また授業中に楽譜を用いて説明を行うこともあるので、楽譜が読めることが必要である。教室の都合により、受講生を 50 名に限定する。この講義の内容は、後期の「西洋音楽の歴史」と同じである。従って前期にこの講義を受講した学生は、後期の受講はできない。なお、教室が共通教育棟から離れているので、事前に確認しておく方が良い。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220722>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 前期、木曜日 3~4 講時

歴史と文化 (History and Culture)

アーツ・アンド・テクノロジー (Arts and technology)

石井 健二・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】 人類発生時のイメージの定着方法からコンピュータの普及にともなう新しいメディアを駆使した視覚表現の可能性を含めて考察する。そして芸術表現についての関心呼び起こし、その基礎知識を提供することにより、現代のマルチメディア社会に適合できる人材養成を図ることを目的とする。なお社会(あるいは学問体系)における同授業を受ける意義とかその必要性、あるいは、同授業の社会における立ち位置等について、私自身が考えていることを書いておきたい。現代社会は外国文化との接触・交流の密度が増し、広い意味での異文化理解についての深い勉強を大学生活の中で積極的に行うことが、どのような分野を専攻しようとしている学生にとっても、極めて大切である。この授業は、そのような意味においても大変有益であり、又、多様なビジュアルコミュニケーションを最初に書いたような趣旨で学生時代に学ぶことは、どのような研究分野を目指している学生にとっても、直接的にも間接的にもプラスに働くことが多いのではないかと思っている。

【授業の概要】 芸術作品の制作を通じて、作品の保存・修復・管理及び展示方法について考察する。

【キーワード】 視覚表現、古典技法

【先行科目】 『歴史と文化/ 写真画像保存技術概論』(1.0)

【関連科目】 『歴史と文化/ ビジュアルコミュニケーション』(0.5)

【到達目標】 表現された作品の展示と保存・修復に関する知識を身につける。

【授業の計画】

1. 芸術作品に関する表現について、時代背景を追いながら考察し、主な表現技法についてはワークショップ(制作実習)を交えながら、技法の説明を行う。
2. 受講生による発表を中心に授業を進める
3. デザイン処理について
4. 壁画・版画・絵画・染色・映像・総合芸術について
5. イメージの定着方法について
6. 版画・エッチング技法について
7. リトグラフ技法について
8. シルクスクリーン技法について
9. 壁画・フレスコ画技法について

10. 染色・型染め技法について

11. カリグラフィー模写実習

12. コンサベーションについて

13. マルチメディアを利用した総合芸術の可能性について

14. コンピュータによる表現の現状と今後の可能性について

15. レポート提出の締め切り

16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書等】 講義の中で配布する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、レポート及び出席状況などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 行わない。

【受講へのメッセージ】 講義は総合科学部マルチメディアB棟1階 マルチメディア講義・講義室にて行う。2011年度は前期の木曜日の5・6講時に開講する。教養科目の単位となります。30人で締め切る。アート表現に興味関心のある意欲的な学生を望む。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220725>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜昼休み)

歴史と文化 (History and Culture)

絵画表現と技法の基礎 (Painting: Expression and Basic Technique)

平木 美鶴・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】 絵を描く基礎としてデッサンがある。デッサンは、物を観察し、紙に写し取る事であるが、描けそうで上手く描けないという経験は誰にでもあるのではないだろうか。三次元の世界を二次元である紙の上に形や空間を写す事は、高度な技を必要とするが、案外と難しく頭で考えるよりも無心となって描いた方が、上手く描ける場合も多い。描く時のちょっとした頭の切り替えで飛躍的に描写する力を上げる事ができる。この授業では、絵が描けない状態から描ける状態に戻すための絵画基礎理論を実習をしながら学ぶ。

【授業の概要】 描かれる絵によって人間の発達段階を計る事ができるが、大人でありながら9歳レベルの壁を越えて、空間の描けるリアリズムに到達していない人も多い。発達と表現について理解した上で、描くための頭の切り替えを練習していく。最終的にどれだけ描写力を身に付ける事ができたか、絵で比較する。

【キーワード】 絵画, 美術, 芸術

【関連科目】 『歴史と文化/ 絵画表現と技法の応用』(0.5)

【到達目標】 描く基本を身に付ける。

【授業の計画】

1. 絵画表現と発達について
2. 画面構成の基礎論
3. 描くためのモードの切り替え
4. Rモードの体感
5. 具体的形を意識しないで描く
6. 純粹輪郭画法
7. 修正輪郭画法
8. スペースの形の知覚
9. 遠近法
10. 顔を描く
11. 目測する
12. 目測とスペースを使う
13. 目測とスペースを使うの応用
14. 目測とスペースを使うの応用

15. 課題テスト

16. まとめ

【教科書】

- ◇教科書は、使用しない。適宜プリントを配布する。
- ◇参考書「脳の右側で描け」ベティ・エドワード著、株式会社マール社発行
- ◇準備物として無線のノート、鉛筆(HBかB)が必要である。

【成績評価の方法】 毎回の授業で描いた作品や授業感想等の提出を求める。レポートなどにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講者のメッセージ】 絵を描くのが苦手であっても絵画に興味のある意欲的な学生を望む。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220724>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 教室の都合で受講者制限をする。

歴史と文化 (History and Culture)

日本語について考える (Japanese Loanwords)

仙波 光明・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本語学』)

【授業の目的】 日本語の歴史を語彙の面から検討する。日本語の語彙には、多くの外来語が含まれていることを知り、それらが日本語の中で果たしてきた役割を理解すると共に、外来語の功罪を考え、我々が表現する際の言葉の選び方に活かせるようにする。

【授業の概要】 日本語の語彙には、多くの外来語 (借用語) が含まれている。現代日本語では、特に英語起源の語もしくは和製英語の使用がしばしば議論の種になってきた。なぜ、日本語には借用語が多いのだろうか。また、借用語は日本語にどんな性質を与えてきたのだろうか。この授業では、奈良時代以降、日本語が借用してきた外来語にはどのようなものがあったかを取り上げつつ、主として漢語と英語が日本語に与えた影響、現代日本語での問題点を考える。

【到達目標】

1. 日本語を構成している語彙について、正確な知識を身につける。
2. 日本語に関する問題を検討するための調査方法を知る。
3. 正確な知識に基づいて、国語問題、日本語を巡る諸問題に対する意見を表明できる。
4. 文章を書いたり、話をしたりするときに、意識的に、かつ適切に語を選ぶ態度を身につける。

【授業の計画】

1. 授業概要の説明。外来語とは何か。
2. 語彙の種別 (和語・漢語・外来語・混種語) と、日本語におけるそれぞれの役割を概観する。
3. 古代～中世日本語の外来語。
4. 漢語について (1) 漢語の受け入れには、どのような問題があったのか。
5. 漢語について (2) 日本語の中の漢語および漢字の問題点 (1)。日本語が蒙った不利益。
6. 漢語について (3) 日本語の中の漢語および漢字の問題点 (2)。日本語が享受している利益。
7. 中世末期～近代の外来語 (特にポルトガル語、オランダ語起源の言葉。残ったのはどんな語?)

8. 明治～昭和の外来語 日本人の活動分野と外来語との関係 (ドイツ語・イタリア語・フランス語… …)
9. 現代の外来語 (1) あふれる英語および和製英語と、その問題点。
10. 現代の外来語 (2) 同上。
11. 現代の外来語 (3) 同上。もし、外来語がなかったら、日本語はどうなるか。
12. 漢語と外来語。その現代語における優劣。
13. 外来語にどう向かい合うか。『「外来語」言い換え提案』などを素材として。
14. 内容未定 (補足とまとめ)。
15. 試験
16. 総括・補足など

【教科書】 金田一春彦『日本語 新版 (上)』岩波新書

【参考書等】

- ◇ 石綿敏雄『外来語の総合的研究』東京堂出版 (図書館で閲覧可能)
- ◇ 高島俊男『漢字と日本人』文春新書。
- ◇ 鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書、など。その他、随時紹介する。

【成績評価の方法】 小テスト 50%、試験 50%を基準とする。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 シラバスの内容および授業の進度について、ある程度の修正が行われるかもしれない。詳しくは、1 回目の授業で説明する。以上は、あくまでも予定である。この授業では、毎回、小テストを実施する。また授業に関する質問・感想・疑問等を書いて提出してもらおうが、このデータ (出席状況、質問、感想) は、次回の授業資料に記すかたちで受講生に公開される場合がある。ただし、受講者数などの状況によって不可能になるかもしれない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220726>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歴史と文化 (History and Culture)

民族音楽入門 (Introduction to Ethnological Music)

片岡 啓一・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】 今日我々を取り巻く世界は極めて複雑かつ流動的で、しかも変化に富んだものである。多くの国々・民族等は多様な文化的様相を呈し、世界中にはさまざまな音楽が存在している。この授業では、民族音楽学的視点から世界の諸民族の音楽について時間の許す限り具体的に言及し、そのことを通じて、音楽の本質・民族性と音楽文化との関係等について一人一人が真剣に考える機会を共有したいと思っている。なお、社会(あるいは学問体系)における同授業を受ける意義とかその必要性、あるいは、同授業の社会における立ち位置等について、私自身が考えていることを書いておきたい。現代社会は外国文化との接触・交流の密度が増し、広い意味での異文化理解についての深い勉強を大学生活の中で積極的に行うことが、どのような分野を専攻しようとしている学生にとっても極めて大切である。この授業はそのような意味においても大変有益であり、又、多様な音楽文化を最初に書いたような趣旨で学生時代に学ぶことは、どのような研究分野を目指している学生にとっても、直接的にも間接的にもプラスに働くことが多いのではないかと思っている。

【授業の概要】 民族音楽学的な視点に立った世界の諸民族の音楽に関する講義。

【キーワード】 民族音楽学、民族音楽、民族性、音楽文化、異文化理解

【到達目標】 世界にはさまざまな音楽文化が存在すること、それらはそれぞれの国の民族性と深く結び付いていること等を自覚し、音楽文化全般に対して深い興味と関心を抱く。

【授業の計画】

1. 授業の目的のところで述べたことを具現するために、講義的説明に加えて A.V. 機器を使用した鑑賞を授業の中に取り入れる。
2. 1. 授業の趣旨説明を行い、現代の音楽の特徴について言及する。
3. 2. 日本の音楽。
4. 3-4. 東アジアの音楽。
5. 5. エスキモーの音楽。
6. 6-8. 東南アジアの音楽。
7. 9-10. インドの音楽。
8. 11-13. 西アジアの音楽。
9. 14. アラブの音楽。

10. 15. 試験期間であるが、試験は行わずレポートを提出してもらおう。

11. 16. 総括授業。これまで行ってきた授業全体をふりかえり、全体のまとめとか意見交換等を行う。

12. 以上の授業計画は、できるだけ予定通りに実施したいが、若干予定とずれることもあるので、その点はあらかじめご了承ください。

【教科書】 この授業では教科書等は使用しない。

【成績評価の方法】 試験は行わず、レポートを提出することによって単位を出す。レポートは提出期限を厳守すること。成績評価には、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される。

【再試験の有無】 行わない。

【受講者へのメッセージ】 同授業は、2011 年度(平成 23 年度)は前期・金曜・1-2 講時に開講する。なお同授業は後期・月曜・3-4 講時にも開講するが、内容は全く同一なので、重複履修は認められない。その点、誤解のないよう充分に注意すること。同授業は、総合科学部内マルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」で実施し、受講者数は、部屋の広さの関係からそれぞれの授業において 50 名以内とする。又、総合科学部の学部専門科目で「芸術文化論」(平成 21 年度以降に入学した学生のための授業名称。平成 20 年度以前に入学した学生のための授業名称は「世界の諸民族の音楽」。)が開講されているが、その内容は同授業と相当程度重複するので、総合科学部の学生で上記の学部専門科目を受講する予定の者は、この授業は受講しないようにすること。なお、先行科目・関連科目についてはとりたてて指定したくないので、掲載しないままにしておいた。その点ご了承ください。今年度は試験を含めて全部で 16 回分の授業が予定されているが、この授業では、15 回目の試験(16 回目は総括授業)のかわりにレポートを提出してもらおうことによって単位を出す予定である。勿論、授業への出席状況とか受講姿勢等も総合的に評価する。(オフィスアワーは前期・木曜の昼休みです。私の研究室は、マルチメディア A 棟 2 階にあります。)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220727>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

人間と生命 (Humanity and Life)

知の探求と現代 (Exploration of Knowledge)

石田 三千雄・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『哲学』)

【授業の目的】 人類は地球温暖化による危機に直面しながら、それに対する有効な対策をいまだ打ち出せないでいる。今日の地球環境危機は現在までの人類の繁栄の裏返しである。いまや持続可能な社会を形成するために、人間と自然との新しい関係を打ち立てなければならない。この授業は地球環境問題を哲学的に考えるために「人類はどのような立場に立たねばならないか」という根源的な問いに答えるために、過去の哲学者たちの自然に関する思想を幅広く考察する。

【授業の概要】 現代の環境問題に対処するためには、人間が自然をどのように考えてきたかを思想的に明らかにすることが必要である。そのために、この授業では近代自然科学によって人間が自然支配を企ててきたこと、しかし人間は単に自然支配のみを求めたのではなく、自然の中に人間を位置づけ、自然と調和する思想も育んできたこと、そして今や人間と自然との新たな関係を構築すべきときにきていることを論じる。

【キーワード】 環境, 自然観, 環境倫理

【先行科目】 『人間と生命/ 認知哲学』(1.0)

【到達目標】 現代の環境問題の根底にある思想的背景を理解し、広く哲学的・倫理的に人間と自然との関係を考える力を養う。

【授業の計画】

1. はじめに一授業全体の説明
2. 近代自然科学と人間の自然支配 (1)
3. 近代自然科学と人間の自然支配 (2)
4. 近代自然科学とディープ・エコロジー
5. ディープ・エコロジーの問題点
6. アメリカ文学に現れた環境思想の系譜
7. ヘンリー・ソローの自然観
8. カントの自然観と環境問題
9. スピノザの自然観
10. シェリングの自然観
11. ドイツの実践的自然哲学
12. マイヤー・アービツヒの環境倫理

13. ジープの具体倫理学

14. 具体倫理学としての自然倫理学

15. 終わりに

16. 総括授業

【教科書】 山内・手代木・岡本他 『環境倫理の新展開』 ナカニシヤ出版, 2007年, 1995 円

【成績評価の方法】 学期末試験 (40%), 小レポート (30%), 授業への取り組み状況 (30%) などにより総合的に評価する (ただし, 評価割合の目安は括弧内のパーセントである)。

【再試験の有無】 再試験有り

【受講者のメッセージ】 環境問題を考える基礎的視野を養ってください。質問等は、メールでも受け付けます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220728>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜日14時~15時)

【備考】 授業計画は一部変更があるかもしれません。

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学入門 (Introduction to Psychology)

濱田 治良・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 「心理学の過去は長い、その歴史は短い」と言われている。すなわち、人の心についての関心は人類の誕生以来長く続いてきたが、心理学が科学として成立してから百数十年が経過したにすぎない。独立した学問として成立した後の心理学が明らかにした科学的成果は多いが、人の心についての未知なる現象はまだ数多く残されている。本講義は、高校では学ばなかった「心理学」への入門科目である。特に心理学的実験を通して得られた成果を手掛かりにして人間の心と行動を理解する試みについて考察することを本講義の目的とする。

【授業の概要】 授業は一般心理学として講義する。特に「知覚」「発達」「学習」「動機づけ」について、それらの基礎的なトピックスを、代表的な心理学的実験結果を紹介しながら論ずる。そして、心理学的事実を知ることによって、新たな視点から人間を捉える手掛かりにしてほしい。また、講義の一環として、授業中に知覚心理学の実験実習を行い、各自のデータを分析して簡単なレポートを提出してもらいます。

【キーワード】 「知覚」「発達」「学習」「動機づけ」

【到達目標】 人間や動物に関する心理学的実験を通して得られた代表的なデータを理解し、そのデータから導き出された基礎的理論や考え方を理解する。

【授業の計画】

1. 授業は概ね次の 5 章から構成され、下記のそれぞれの項目を中心にして講義を進めます。なお 16 回目に総括授業を行います。
2. 1. 知覚
3. 物理的世界と心理的世界、錯視の現象
4. 2. 発達における遺伝と環境
5. 発達過程の原則、遺伝と環境、遺伝係数、発達の臨界期
6. 3. 認知と知覚の発達
7. 認知の発達、知覚の発達
8. 4. 学習
9. 古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤、洞察学習、模倣学習
10. 5. 動機づけ

11. 内発的動機づけ、外発的動機づけ、ヤーキス・ドットソンの法則、潜在学習、目標勾配

【教科書】 資料を配布しながら講義を進める。

【参考書等】 参考書として、村田孝次著「教養の心理学」培風館、重野純著「心理学入門」北樹出版を勧める。

【成績評価の方法】 中間試験 (40%)、期末試験 (40%)、レポート、出席により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 心理学に関心のある意欲的な学生の受講を歓迎します。VTR も使用して講義内容を補足します。配布資料と講義内容及び各自の自習に基づいたノートを作成してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220729>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

人間と生命 (Humanity and Life)

環境問題などと科学者・マスコミ各種の情報に惑わされない為の基礎知識ー (Insincere Science)

小山保夫・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『生物学』)

【授業の目的】 「情報」に騙されない。環境問題などに関わる科学的データ (特に、生命科学分野) を正確に捉える感覚を身に付ける。科学者、大学教員やマスコミに惑わされない為には何を身に付けるべきか?

【授業の概要】 研究とは何か、論文とは何か、科学的データは扱う人間により持っている意味が変わる事がある。都合の良いデータ、悪いデータもある。科学的データがどの様に生み出され、どの様なプロセスを経て伝達されるのか、それらを解説する。特に、情報を発信する側の意図を的確に捉える事は重要である。「情報」に騙されない為にはどのようにしたら良いのか。

【キーワード】 科学情報、研究者、大学教員、情報発信、研究論文

【到達目標】

1. 科学的データを正確に捉える感覚を身に付ける。
2. 多様な観点を持つ。
3. 大学で社会で騙されない為の基礎知恵を付ける。

【授業の計画】

1. 基本的な知恵を付けよう。環境問題などに関係する生命科学情報はどの様なプロセスを経て伝達されるか。君に届く「情報」は本当に正しいのか?
2. マスコミ発表 (新聞、テレビ)、学会発表、論文発表、著書 (新書などの書籍) の内容の正しい解釈の仕方とは、学会発表って何? 論文って何? 学会や研究所は誰でも作れる?
3. 教授、博士とは何か。どの様に研究をしているか。その分野の研究者かを調べる方法について。君の将来の指導教員がどのような仕事をしているか、それを簡単に調べる方法とは? その仕事の内容の評価方法とは? 「専門家」が専門以外のことを肩書きを頼りに話す可能性と、それを聞いている市民が誤解する可能性について。
4. 研究者はどの様に実験を行い、論文をどの様に纏めるのか。審査制度のある雑誌の論文と審査制度のない雑誌の論文の違いは何か? 誰も引用しない論文って意味があるのか? 大学の教員業績評価から見た「教育」と「研究」の評価はどのようなものか? 偉い先生の「研究業績」を見てみようか?
5. 個体レベルの実験と細胞レベルの実験から得られるデータの違いは何か。動物実験の結果は人に当てはまるか? 実験条件次第で、良いデータも悪いデー

タも出すことができるか? 現実にはあり得ない条件で実験を行う研究者もいる? データは表し方次第で内容を逆にすることが出来る?

6. 科学者の興味、マスコミの興味、市民の興味の違いはあるか。研究論文の「考察」とは何か、それをどの様に取り扱うか。市民受け、マスコミ受けする発表の仕方とは何か? 危険を唱える方が安全を唱えるよりも受けが良い?
7. 具体例から考えよう (1): 科学データの解釈はどのようにできるか。ある環境汚染物質を与えた動物から生まれて来た仔はほとんどがメスだった場合、それをどのように考えるか?
8. 具体例から考えよう (2): 「危険」は実験で作りに出せるか? ある環境汚染物質を生体内蓄積濃度で細胞に作用させたら細胞が死んだ。この場合、その物質は危険か?
9. 具体例から考えよう (3): 環境ホルモンの「問題」は何だったのか、何なのか。最近、話を余り聞かなくなったと思わないか? 今度、流行りそうな「環境話題」は何か?
10. 具体例から考えよう (4): 健康食品 (機能性食品) って健康に本当に良いのか? どの程度の証明で良いのか?、簡単に調べることができる健康食品の「危険性」。エコナの問題は何だったのか?
11. 科学者 (大学教員も含めて) の心の闇。次から次に出て来る論文の捏造疑惑、同じデータを使った論文の二重投稿 (例えば、日本語論文と英語論文で同じ図を使っている等)、研究業績書での虚偽記載など、研究者の置かれている環境とは、高学歴ワーキングプアへの道、研究者の世界は恵まれているとは限らない現実とは? ブラックな創作童話「博士 (はくし) が 100 にいるむら」の意味するところ。脳ドーピングとは何か?
12. 君らは、これから科学情報にどのように接すれば良いのか、これまでの講義から考えてみよう。身近な情報源のインターネット。インターネットで見る環境系、生命系のウェブサイト役に立つか、単なる落書きか? 信頼できるウェブサイトはどこか? 君らが正確な情報を得る上で必要な力とは?
13. 科学者 (研究者、技術者) は、マスコミは、市民は社会が直面している諸問題にどうあるべきか、君の意見を聞きたい。そして、講義を受ける前と後でどのように考え方が変わったか、考えてみよう。

14. この大学で、この社会の中で、我々がこれからどのように生き抜いていくか、考えてみよう。このような講義をどう考えるか、君の意見が聞きたい。
(1回目)

15. この大学で、この社会の中で、我々がこれからどのように生き抜いていくか、考えてみよう。このような講義をどう考えるか、君の意見が聞きたい。
(2回目)

16. 総括

【教科書】講義の際に必要な資料プリントは配布します。

【参考書等】日々、新聞を読むこと。

【成績評価の方法】講義中の論議(発言)、筆記試験(小テスト、期末テスト)、レポート、出席状況(試験の受験資格)などを総合的に判断します。成績の評価方法も受講生の数により変化しますが、学則に従って評価を行います。

【再試験の有無】なし。

【受講者のメッセージ】(1)基礎の基礎から話(講義)を進めますので、文系理系、高校での履修科目など関係ありません。(2)また、この講義は「一つの見方」を示します。よって、それが「全て」では有りません。「多様な見方」があることを意識しながら、受講してください。「自分の見方」も大切に。(3)面白いニュースがある時、また、話の進め方で講義の順番は変わります。環境問題も含まれますが、それを専門に扱う講義ではありません。(4)最後に、月曜日1コマ目の講義、一週間のスタートですから「元気」に出てきてください。しかし、次のコマの小テスト等の準備をする時間ではありません。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220730>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 何かあれば、メール(oyama@ias.tokushima-u.ac.jp)で問い合せてください

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学概説 (Survey of Psychology)

佐藤 健二・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 現代社会を生きていく上で、自らの心の働き、他者の心の働きを理解することは重要である。そこで、本講義では、心の働きに関する学問である心理学の基本的な知識を学習することを目的とする。

【授業の概要】 心理学の重要分野における発想、研究結果を概説する。特に、大学生において関心の高い「こころの問題」に関連させながら、心理学の重要分野における研究結果を概説する。

【キーワード】 心理学, こころの問題, 臨床心理学

【到達目標】 心理学の重要分野における発想、研究結果を理解できる。

【授業の計画】

1. 授業の進め方, 心理学概観 (定義, 隣接領域との異同, 歴史)
2. 異常心理学: 「こころの問題」とは?(不安障害など)
3. 臨床心理学: 「こころの問題」をどう治療する?
4. 学習心理学: 「こころの問題」は誤った学習の問題か?
5. 障害児心理学: 学習心理学を用いて発達障害はどのように治療するか?(ADHD など)
6. 認知心理学: 「こころの問題」は不適切な認知の問題か? どのようにすれば記憶力を高められるか?
7. 生理心理学: 心・脳・身体はどのように関係しているのか?
8. ストレス心理学: (トラウマティック) ストレスは、心・脳・身体にどのような影響を与えているのか?
9. 性格心理学: 性格には、どのようなタイプがあるのか?
10. 健康心理学: 性格が健康 (ガンなど) に影響を及ぼすか?
11. 社会心理学: 状況の力はどのくらい強いか?-同調, 服従, 役割実験を題材に-
12. 発達心理学: 赤ちゃんは無力な存在か?
13. 感覚・知覚心理学: 人間はどのようにして外界から情報を取り入れ、処理しているのか?
14. 犯罪心理学: 犯罪はどうすれば防げるか?
15. 試験
16. 総括

【教科書】

◇ 教科書は使用しない。

◇ プリントの配布, 液晶プロジェクタ, VTR, OHP による資料の呈示を行う。参考書等は、適宜紹介する。

【成績評価の方法】 期末試験 (客観式, 持ち込み不可, 60 分), 授業への取組状況を元に総合的に評価する。2/3 以上の出席者のみ受験資格有り。他に授業態度の悪い者 (私語が多い等) も受験資格無し。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 大学での勉強は、主体的な取り組みが必要です。予習復習, とりわけ, 復習を行い, 知識の定着をはかるようにしてください。その他, 他の受講者の迷惑になるので, 私語は厳禁です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220732>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 12:10-12:40)

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学初歩 (Psychology for Beginners)

原 幸一・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】心理学が関わる問題を取り上げ、その中でどのように問題をとらえて考えていくのかを理解する。心理学が関わっている問題は実は身近であり、様々な話題の中に心理学が関わっていることを知る。⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【授業の概要】心理学の歴史を簡単に紹介し、現在の問題となっている事柄に焦点をあてる。それらの問題が起きている背景と現状と要因について学ぶ。

【キーワード】臨床心理学, 認知発達

【到達目標】新しい問題と古くからある課題をそれぞれ理解して、それらの関わりについて自分がその一部でもあることを理解する。

【授業の計画】

1. 心理学の領域, 諸問題
2. 心理学の歴史
3. 心理学の基礎 1 知覚, 学習
4. 心理学の基礎 2 認知
5. 心理学の基礎 3 発達・臨床
6. 児童虐待 1
7. 児童虐待 2
8. 精神障害 1
9. 精神障害 2
10. 知的障害 1
11. 知的障害 2
12. 発達障害 1
13. 発達障害 2
14. その他の諸問題 自殺, 薬物など
15. テスト
16. 総括授業

【教科書】毎回プリントを配布する。ビデオを用いることもある。

【成績評価の方法】受講態度およびテスト

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220731>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

人間と生命 (Humanity and Life)

パンセと絵画 (Pensées and Arts)

大橋 眞・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 人間とは何なのかについて、パンセに書かれた人間観や同時代のアート作品を取り上げながら考えてきます。受講生自身が感じて、考えたことをまとめます。さらに地域社会人との意見交換や、受講生の発表を聞きながら、自らの考えをまとめて行きます。自分の持っていたとは異なった視点から物事を見ることにより、学ぶということの意味を考えます。また、人間についての考察を深めることを目指します。また、自分の意見を表明することを通じて、積極的な学びを目指します。

【授業の概要】 本講義は、人間とは何なのかについて、パンセに書かれた時代に焦点をあてて、同書に描かれた人間観を同時代のアート作品を鑑賞しながら、対話から議論へと発展させて行きます。また、この時代の世界の動きに対する理解を深めていきます。

【キーワード】 パンセ、人間、絵画、人間観、対話、議論

【到達目標】

1. パンセに書かれた人間観をもとにして、対話から学ぶことを知る。
2. 絵画作品を鑑賞しながら、その作品の意味があるのかについて議論をしながら考える。
3. 地域社会人との対話を通じて、学びつづけることの意義を考えます

【授業の計画】

1. はじめに (この授業の目的)
2. パンセの書かれた時代
3. 彫刻作品から読み解く
4. 宗教画
5. 自画像
6. キリストと絵画
7. オランダという国
8. 中世の生活
9. 日本の絵画 1
10. 日本の絵画 2
11. 絵画から読み解く医学の進歩
12. 印象派

13. 20 世紀の絵画

14. 絵画から見た日欧の繋がり

15. パンセと絵画から見えてくるものとは

16. 総括授業

【教科書】 特になし

【参考書等】 適宜参考書を紹介します。

【成績評価の方法】 毎回のミニレポート 60%、課外活動への参加と期末レポート 40%、として評価する

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 地域の社会人がボランティアとして参加する授業です。コメントータとして、授業で取り上げるテーマについてコメントをしてもらいます。この授業のカテゴリーは、「人間と生命」ですが、「歴史と文化」「生活と社会」「自然と技術」にも関係する総合的な内容です。生物学の考え方から様々な分野に関連することを実例を取り上げながら、取り上げることもあります。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220733>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水一金 午前10時-12時)

人間と生命 (Humanity and Life)

生命倫理学研究 (Introduction to Bioethics)

山口裕之・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『倫理学』)

【授業の目的】近年、医学の進展とともに、人間の生命や身体を操作する技術もまた急激な発展を遂げている。そうした状況にあって、さまざまな「倫理的問題」が提起され、議論されてきた。そうした諸問題を整理し、検討する。

【授業の概要】生命倫理学の成立やそこで議論されてきた事柄について検討する。

【キーワード】生命倫理, 科学と哲学, インフォームド・コンセント, 倫理学, 生命倫理法制

【関連科目】『人間と生命/ 認知哲学』(0.3)

【到達目標】

1. 人文科学(生命倫理学)に関わる幅広い知識の理解。
2. 日本語で論理的な文章を書く能力を身に付ける。

【授業の計画】

1. 「生命倫理学」の成立:人体実験への反省と非専門家による規制 1
2. 同上, 2
3. 同上, 3
4. 「生命倫理学」の成立:医療過誤裁判とインフォームドコンセント 1
5. 同上, 2(第1回小テスト)
6. 日本における生命倫理の受容と変容 1 (第1回小テスト解説)
7. 同上, 2
8. 脳死概念の成立と臓器移植 1
9. 同上, 2
10. 日本における臓器移植の歴史と現状 1(第2回小テスト)
11. 同上, 2(第2回小テスト解説)
12. 人工妊娠中絶:アメリカにおける中絶規制と論争 1
13. 同上, 2(レポート課題と採点基準等の説明)
14. 日本における人工妊娠中絶 1
15. 同上, 2(第3回小テスト)・レポート提出
16. まとめ(レポート返却と第3回小テストの解説)

【教科書】教科書はとくになし。

【参考書等】

- ◇ 香川知晶『生命倫理の成立』勁草書房

- ◇ 加藤尚武ほか編『生命倫理学を学ぶ人のために』世界思想社

- ◇ 小松美彦『脳死・臓器移植の本当の話』PHP

- ◇ 荻野美穂『中絶論争とアメリカ社会』岩波書店

【成績評価の方法】毎回授業終了時に書いてもらう「一言カード」で授業への取り組みを評価(計30点)、学期中3回の小テスト(計45点)、学期末のレポート(25点)。なお、6回以上の欠席は自動的に不可。30分以上の遅刻は欠席とみなす。学期末レポートの未提出は「試験欠席」として扱う。

【再試験の有無】なし。(授業への取り組みや学期中の小テストが評価の大きな部分を占めるため。)

【受講者のメッセージ】「出席さえしていれば単位はもらえるはずだ」という考えの学生が増えているようですが、出席していても講義にきちんと取り組まない者は評価しないので、そのつもりで履修してください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220734>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山口(共通教育4号館404(11年3月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL(オフィスアワー: 火曜日10:30~11:30)

人間と生命 (Humanity and Life)

古代ギリシアの人と思想 (Greek Philosophers)

吉田 昌市・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『哲学』)

【授業の目的】 古代ギリシアの思想のなかから、興味深いテーマや興味深い人物などを選んで授業を行う。歴史的な知識を得させることを目的とはしない。思想や哲学を学ぶということは、思想家、哲学者と言われる人々が書き残したものに触発され、自分でものを考えはじめることであろう。そのためには、彼らが書いたものをじっくりと読み、彼らの言葉に耳を傾けることが不可欠である。この授業を、そうした意味での読み、そして聴く時間にしたい。それは、現代という時代の中で不可欠な、自立した批判的精神をはぐくむのに有用なはずである。

【授業の概要】 上記の目的を達成するために、あるまとまった分量のテキストを、古代ギリシアを中心とした哲学者・思想家のなかから選んで、受講生諸君に提示する。実際に読むのは受講生諸君みずからであり、教師は読むための手助けができるだけである。

【キーワード】 社会と自然, エロース, 論理, 知

【到達目標】 既にもっている考えや立場を一度疑い、吟味する態度を、幾分かでも身につけること。

【授業の計画】

1. 人間を越えるもの:ヘラクレイトス, プラトン『パイドン』『ティマイオス』など
2. 人間を越えるもの(続):ヘラクレイトス, プラトン『パイドン』『ティマイオス』など
3. 論理:パルメニデスとゼノン
4. 論理(続):パルメニデスとゼノン
5. いかに生きるべきか(その一):「ノモスとピュシス」の思潮と『ソクラテスの弁明』
6. いかに生きるべきか(その二):「ノモスとピュシス」の思潮と『ソクラテスの弁明』
7. いかに生きるべきか(その三):「ノモスとピュシス」の思潮と『ソクラテスの弁明』
8. エロースとは何か:プラトン『饗宴』より
9. エロースとは何か(その二):プラトン『饗宴』より

10. エロースとは何か(その三):プラトン『饗宴』より
11. 「無知の知」:プラトン『ソクラテスの弁明』より
12. 「無知の知」続:プラトン『ソクラテスの弁明』より
13. 「知る」とは?(その一):プロタゴラス「人間尺度説」と懐疑論, プラトン『国家』線分の比喩, など
14. 「知る」とは?(その二):プロタゴラス「人間尺度説」と懐疑論, プラトン『国家』線分の比喩, など
15. 成績評価のために使用する。
16. 授業全体の総括にあてる。

【教科書】 なし。資料となるプリントを配布する。

【参考書等】

- ◇ 主な参考文献は次の通り。
- ◇ 広川 洋一 『ソクラテス以前の哲学者』 講談社(単行本および学術文庫版)
- ◇ 田中美知太郎 『ソクラテス』 岩波新書
- ◇ 同上 『ソフィスト』 講談社学術文庫
- ◇ F. M. コーンフォード 『ソクラテス以前以後』 岩波文庫
- ◇ A. コイレ 『プラトン』 みすず書房
- ◇ R. S. ブラック 『プラトン入門』 岩波文庫
- ◇ 藤沢令夫 『プラトンの哲学』 岩波新書
- ◇ 藤沢令夫 『ギリシア哲学と現代』 岩波新書

【成績評価の方法】 おおよその目安として:授業への取り組み方(30%)+何度か行う予定の小テスト(20%)+学期末の試験(50%)

【再試験の有無】 再試験は一度だけ行うが、不合格者全員が自動的に再試験を受験できるわけではない。

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220735>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室(北棟 1 階), 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)

人間と生命 (Humanity and Life)

学びの心理学 (Psychology for Learning)

川野卓二・教授/大学開放実践センター

2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 あなたは「大学で学ぶ」方法は、これまでと同じ方法でよいと思いませんか。多くの学生にとって大学は最終学歴になるはずですが、卒業して社会に出て行く前に、卒業後も役に立つ「学ぶ方法」を学んでおくことは大切なことだと思います。この授業では、自分自身の学びを分析し、自分を理解することを通して生涯学習社会における自己の学びについて考えることを目的とします。

【授業の概要】 学習心理学・教育心理学の基本概念を学び、大学での自らの学びにそれらを適用する方法を探ります。心理検査等を利用して、自分自身のラーニングスタイルを理解し、それに基づいた学習方法を実践し、その結果を報告することが求められます。また、他者の学習を援助することを通じて自分自身の学習を促進することも学びます。

【キーワード】 大学での学び、ラーニングスタイル、構成主義的理解

【到達目標】

1. 自己のラーニングスタイルが理解ができる。
2. 生涯学習社会を生きるための学習習慣を確立する。
3. 学んだことを分かりやすく他者に伝えることによって学びを定着させる。

【授業の計画】

1. オリエンテーションおよびグループ分け検査
2. 時間管理
3. ラーニングスタイル
4. ノートのとり方
5. テキストの読み方
6. 学習グループ、レポート
7. 学習理論:古典的条件づけ
8. 学習理論:オペラント条件づけ
9. 学習理論:社会的学習理論
10. パソコン、インターネットの利用
11. グループ発表、全体発表、発表評価 (1)
12. グループ発表、全体発表、発表評価 (2)
13. グループ発表、全体発表、発表評価 (3)

14. 図書館の活用、学びの原則

15. 課題、テスト、オフィスアワー

16. 全体の評価と解釈、まとめ

【教科書】 世界思想社編集部 (編)(2008)「大学生 学びのハンドブック」 世界思想社 1,300 円

【参考書等】 参考書等は、適宜紹介します。

【成績評価の方法】 まとめノート、学びのループリック、グループ発表 (以上、必須)、課題分析レポート、発表評価などによって総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 第 1 回目のオリエンテーションに必ず出席してください。グループ分けをします。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220737>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 川野 (088-656-7282, kawano@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 前期:水 12:10~ 12:40pm または、アポイントメントによる)

人間と生命 (Humanity and Life)

自己分析の心理学 (The Psychology of self-analysis)

山本 真由美・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】本授業では、心理学という学問を通して自己について考えることを目的とする。以前から「持続可能な社会」、「共生社会」と言われている。そのような社会を目指す個人として、心が豊かな人間であることが求められる。まず、人間の知覚的特徴、認知的特徴、記憶の特徴、思考の特徴、パーソナリティ特徴、発達特徴、社会との関係などを知り、その上で自己について考える。

【授業の概要】本講義では、以下の視点に基づいて授業を進める。(1)グループを作り、グループ内でインタビューを相互に実施し、その内容を全員が発表する、(2)授業時に説明した内容に基づき、グループで討議する、(3)その内容を各自レポートにまとめる、(4)グループで話し合った内容をまとめる。

【キーワード】アイデンティティ、自己理解、自己分析、自己と他者

【到達目標】

1. 自己理解でき、自分のことを説明ができる
2. 自分から見た他者について説明できる
3. 心理学の知覚、認知、記憶、パーソナリティ、発達について説明できる

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. グループ分け検査実施 (パーソナリティ検査)
3. グループ発表、他者紹介とは、インタビュー実施、レポート (1)
4. 発表方法について、グループ発表、他者紹介①
5. 1. 人間は周りの世界をどのように捉えるのか (認知)
6. 心理検査から自己を見る グループ討議とまとめ、他者紹介②
7. 2. こころの構造について (パーソナリティ)
8. 心理検査から自己を見る 他者紹介③ レポート (2)
9. 3. 自己と他者の関係について
10. 心理検査から自己を見る グループ討議とまとめ、他者紹介④
11. 心理検査から自己を見る レポート (3)
12. 4. 発達について、他者紹介⑤
13. 心理検査から自己を見る レポート (4)
14. 心理検査から自己を見る 他者紹介⑥
15. 期末試験

16. レポート返却、全体総括

【教科書】特に使用しない。適宜資料を配付する。

【成績評価の方法】課題レポート (80%)、グループ討議と発表 (20%)

【再試験の有無】なし

【受講者へのメッセージ】グループ単位で授業を進めるので、途中で授業を放棄しないようにしてほしい。グループの中で何か一言でもいいから発言することを心がけてほしい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220736>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

人間と生命 (Humanity and Life)

生体のしくみ (Basic Physiology)

中川 秀幸・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『生物学』)

【授業の目的】多細胞生物の細胞はその容器に入った膨大な情報をもとに、生命活動を営んでいる。生体は約 60 兆個の細胞から構成されている。この講義では生体を構成する細胞、組織、各種の器官のはたらきと、生体で作られるタンパク質や細胞間情報伝達物質などの役割を概説し、生体の恒常性を理解する。

【授業の概要】人体の構造と機能を理解するうえで、もっとも基礎となる細胞の内部環境を概説し、体の恒常性とその調節機構を説明し、解説する。

【キーワード】細胞, ホメオスタシス, 生体恒常性, 薬, 生体のしくみ, 血管平滑筋, 血液, ホルモン, 神経細胞, 神経伝達物質

【先行科目】『人間と生命/生物と環境』(1.0)

【到達目標】からだは多種多様な細胞から構成されていることや、一つ一つの細胞がダイナミックな生命活動を展開していることを理解する。一方、細胞の生命活動がうまくいかなかった時に、内部からと外部から助けを出すことができるのがホルモンや薬などである。また、からだは食物などから栄養分を取り入れ、一大製薬工場として働いていることを理解する。

【授業の計画】

1. 生体の構成と大きさの意味 (1)
2. 生体の構成と大きさの意味 (2)
3. 細胞の構造と働き (1)
4. 細胞の構造と働き (2)
5. 各種器官の機能とネットワーク
6. 生体の分子 (1)
7. 生体の分子 (2)
8. 中間の記述試験
9. 神経伝達物質とホルモン
10. 循環系
11. 血管の構造と働き (1)
12. 血管の構造と働き (2)
13. 生体の恒常性-1
14. 生体の恒常性-2
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】基礎固め 生物 (松村瑛子他, 化学同人)1800 円+税。資料は適宜, 配付する。

【参考書等】エッセンシャル細胞生物学 南光堂 8000 円+税

【成績評価の方法】学期末試験, 中間試験および出席状況などで総合評価する。

【再試験の有無】2 回の記述試験を行うので, 再評価を行わない。

【受講者へのメッセージ】ファイルノートを用意すること。板書はかなりします。復習を勧めます。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/lablist.html>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220738>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜日の午後)

【備考】配布の資料はファイルしてほしい。

人間と生命 (Humanity and Life)

罪と悪-旧約聖書の世界- (Evil and Sin: Old Testament Views)

吉田 昌市・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『倫理学』)

【授業の目的】 自己を含めたこの世界に悪が存在するのは紛れもない事実であるが、この事実をどのように受けとめ、どのように理解し、対処するかは人により、思想的立場によってまちまちであろう。また、何を悪であると考えるかも、人により時代によって、けっして一様ではない。この授業では、西洋の人々が「人間と悪」「世界と悪」という問題についてどのようなことを考えてきたのかを顧み、ヘブライ的・キリスト教的世界観の一端にも触れる。倫理(人間の生き方)が単に個人の問題に尽きるのではなく、世界(社会)と自己、自己と世界(社会)という大きな視座で問われるべき問題であることを、知ってほしい。

【授業の概要】 この講義では、主として旧約聖書の中から「悪」や「罪」に関わるいくつかのテキストを選び、それを精読する。特に旧約聖書『ヨブ記』に焦点をあて、この難解とされる書を理解し、その現代的意味を示すことを目指す。なお、西洋との比較のために、日本や東洋の場合(主に仏教の思想)に言及することもあるだろう。

【キーワード】 苦難(悪)、応報思想、神、神の似すがた

【到達目標】 『ヨブ記』とそれが提起する問題について、自分なりの見方を持つようになること。

【授業の計画】

1. 今後の講義について、あらましを説明する。
2. 旧約聖書『創世記』:イスラエル民族の歴史を簡単に解説し、その後、旧約聖書『創世記』の創造物語を読む。
3. 旧約聖書『創世記』(その二):第二の創造物語を取り上げる。特に、蛇の誘惑とアダムとエバの墮罪に焦点を当てる。
4. 旧約聖書『創世記』(その三):「カインとアベル」の物語を取り上げる。
5. トマス『神学大全』より「天使の罪」:禁断の果実を食べることがどのような意味で「罪」「悪」なのかを、トマス『神学大全』の「天使の罪」の議論を参照しながら考える。
6. 旧約聖書『ヨブ記』:プロローグとエピローグ、「ヨブ最初の独白」を読み、『ヨブ記』の問題を提示する。

7. 『ヨブ記』その二:「ヨブ最後の独白」「神との対決」と読み進み、テキストについて一通りの解説をするとともに、『ヨブ記』解釈上の問題点をも示す。
8. 『ヨブ記』その三:「ヨブ最後の独白」「神との対決」と読み進み、テキストについて一通りの解説をするとともに、『ヨブ記』解釈上の問題点をも示す。
9. 『ヨブ記』その四:新しいテキストも提示して、『ヨブ記』の解釈を行う。
10. 『ヨブ記』その五:新しいテキストも提示して、『ヨブ記』の解釈を行う。
11. 『ヨブ記』その六:新しいテキストも提示して、『ヨブ記』の解釈を行う。
12. ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』とエリ・ヴィーゼル『夜』より:近現代のヨブ的苦難、ジェノサイドの衝撃
13. ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』とエリ・ヴィーゼル『夜』より(続き):近現代のヨブ的苦難、ジェノサイドの衝撃
14. 旧約聖書に帰って:聖書の宗教は、はたしてジェノサイドの衝撃に耐えることができるのか?こうした観点から、旧約聖書の思想を吟味する作業を試みたい。
15. 成績評価のために使用する。
16. 授業全体の総括にあてる。

【教科書】 適宜プリントを配布し、参考文献も講義の中で紹介する。

【成績評価の方法】 おおよその目安として:授業への取り組み方(30%)+何度か行う予定の小テスト(20%)+学期末の試験(50%)

【再試験の有無】 再試験は一度だけ行うが、不合格者全員が自動的に再試験を受験できるわけではない。

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220739>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室(北棟 1 階), 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)

人間と生命 (Humanity and Life)

自己発見の心理学 (Psychology for Self-Discovery)

香川 順子・准教授/大学開放実践センター

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 他者との交流を通して、自分について根本的なところから見直し、今後自分がどうあるべきかを分析していきます。生き生きと大学生活を送るために必要な知識とスキルを身につけると共に、自他肯定的態度、自己実現的な態度を身につけることがこの授業での目的です。

【授業の概要】 人との交流を通して自分や他者を理解していくための授業です。心理テストやワークショップを通して授業を進めていきながら、自分について考えていきます。自分を理解するための枠組みを提供することで、皆さんが今後ご自身で自己理解を行う際に役立つ理論を学び、講義の中で実践へと結びつけていきます。

【キーワード】 自己分析, 交流分析, 心理学, コミュニケーション

【到達目標】

1. 自己理解に関する知識とスキルを身につけ、実践できるようになる。
2. 自他肯定的態度、自己実現的な態度を身につける。
3. 自分の経験について、心理学の理論をもとに説明ができる。

【授業の計画】

1. 導入 (授業参加の留意点)
2. 自己発見の心理学 (理論的背景)
3. 交流分析による自己分析 I(心理テスト・理論の解説)
4. 交流分析による自己分析 II(自己分析)
5. 短所の見方から自分について考える
6. 過去の自分をふりかえる
7. 将来の人生に望むものを考える
8. 天職を見つけるためのワークショップ
9. 前半のふりかえり (中間レポート・テスト)
10. コミュニケーション場面での自己分析 I(交流の構えの分析)
11. コミュニケーション場面での自己分析 II(自己主張の仕方)
12. コミュニケーション場面での自己分析 III(とらわれに気づく)
13. コミュニケーション場面での自己分析 IV(気持ちの良い交流の仕方)
14. まとめ (後半・全体のふりかえり)
15. レポート提出

16. 総括授業

【参考書等】 芦原睦著 自分ができる心理テスト PART1(1992), PART2(1995) 講談社

【成績評価の方法】 日々の授業における課題と、レポートにより評価を行います。

【受講へのメッセージ】 意欲的に授業へ参加し、他者と積極的に交流してください。そうすればよりよい自分探しにつながるでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220741>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 香川 (206, 088-656-7283, kagawa@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水・木曜日 12:10~ 12:40 6号館2階香川研究室)

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学基礎 (Basic Psychology)

境 泉洋・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 現代社会ではこころが関連するさまざまな問題が起こっている。そうした問題に直面する以前に、その問題をどう理解し、どう対応するのかについて知っておくことの予防的意義は大きい。本講義では、心理学の基礎について学ぶと共に、そうした問題の予防・改善に心理学がどのように貢献できるかについて学習することを目的とする。

【授業の概要】 本講義では、心理学の基礎について概説したうえで、学童期から思春期、青年期に至るまでに生じるさまざまな問題を取り上げ、それらの問題に対する心理学的な立場からの理解と援助方法を概説する。

【キーワード】 心理学, 臨床心理学, コミュニティ心理学

【到達目標】 心理学の基礎知識を身につけると共に、本講義で取り上げる種々の問題について心理学的観点から理解し、そうした知識を自らの生活に役立てていくことを目標とする。

【授業の計画】

1. 心の科学としての心理学
2. 発達心理学
3. 社会心理学
4. 生理心理学
5. 心理統計学
6. 学習心理学
7. 臨床心理学
8. コミュニティ心理学
9. こころの健康:ストレス
10. こころの健康:抑うつ
11. こころの健康:不安
12. こころの健康:怒り
13. こころの健康:発達
14. ひきこもり
15. 定期試験
16. まとめ

【教科書】 教科書は指定しない。

【参考書等】 資料は授業中にプリントを配付する。参考図書などは適宜紹介する。

【成績評価の方法】 期末テストの成績、出席状況等により総合的に評価する。

【再試験の有無】 原則として再試験は実施しないが、受講者の事情によっては追加レポート等により可否の判定を行うこともある。

【受講者のメッセージ】 授業で配布した資料はホームページにて公開するので、授業を欠席した場合など適宜参照すること。

【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220740>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)

人間と生命 (Humanity and Life)

身の回りの微生物 (Microbiology in Life Sciences)

横井川 久己男・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『生物学』)

【授業の目的】肉眼では観察できない微生物であるが、ヒトの健康を害するものや、ヒトの生活や健康に有用なもの等、さまざまな微生物が存在する。本科目では、身の回りに存在する微生物の構造と機能を学ぶ

【授業の概要】肉眼では認識できないほど小さな微生物は、私たちの身の回りに多数存在して人間生活と深く関わってきた。本科目では、微生物学の基礎を講述し、身の回りの多種多様な微生物の構造と機能や生理・生化学を解説する。

【キーワード】微生物, 発酵, 感染症

【到達目標】身の回りの微生物が、人間生活と密接に関わっていることを理解する。

【授業の計画】

1. 微生物学の歴史
2. 微生物の分類と命名
3. 微生物の形態
4. 微生物の増殖
5. 微生物の増殖に影響を与える環境因子 1
6. 微生物の増殖に影響を与える環境因子 2
7. 物質代謝
8. 微生物による環境浄化
9. 微生物による物質生産
10. 発酵商品と微生物 1
11. 発酵商品と微生物 2
12. 病気と微生物
13. 食中毒細菌の特徴 1
14. 食中毒細菌の特徴 2
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】参考書:微生物学 (培風館)。

【成績評価の方法】授業への取り組み (50%)、筆記試験 (50%) 等により総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講へのメッセージ】授業で学んだことを、必ず復習すること。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220742>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学概論 (Outline of Psychology)

福森 崇貴・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 人間は、感じる・覚える・学ぶ・思う・悩む、など毎日「こころ」を動かしている。人間が社会の中で生活する上で、「こころ」は欠かすことのできないものであると言える。心理学とは、このような、人間にとって非常に身近な対象に関する学問である。しかし一方、身近であるが故にその理解は困難であり、マスコミからの表層的な情報の影響もあって、心理学の内容が歪めて受け取られていることもまた事実である。本講では、心理学の各領域における主要な理論・概念を理解し、科学としての心理学の基礎的な知識や考え方を獲得することを目的とする。

【授業の概要】 様々な心理学の研究領域のうち、代表的な領域を取り上げ、それぞれの領域で提唱されている理論や研究結果について紹介する。

【キーワード】 知覚心理学, 認知心理学, 学習心理学, 発達心理学, 社会心理学, 臨床心理学

【到達目標】 心理学的な知識を学ぶことによって、自分を含めた「人間」を、俗説に惑わされることなく科学的に理解する力を身につけることを目標とする。

【授業の計画】

1. 心理学とは
2. 知覚・注意
3. 学習
4. 動機
5. 発達 (1)
6. 発達 (2)
7. 個人と集団 (1)
8. 個人と集団 (2)
9. 記憶 (1)
10. 記憶 (2)
11. 知能
12. パーソナリティ (1)
13. パーソナリティ (2)
14. ストレス
15. 期末試験

16. 総括

【教科書】 教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法】 期末試験 (70%), 授業への取り組み (30%) などを元に総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 毎回、授業内容に関する意見・感想を求める。なお、意見・感想の記入のない者は、欠席扱いとする。是非、積極的に授業に参加して欲しい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220743>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

憲法と人権 I (Constitution and Human Rights 1)

瀧 誠司・非常勤講師

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】 具体的事例を通じて憲法や人権の考え方を身に付けることを目的とします。法律は何か堅苦しいイメージがあり関係のないものと思っているかも知れませんが、身の回りの起こる様々な出来事が憲法に関わっています。そこで、この講義を通じて、少しでも憲法や人権を身近なものとして感じてもらいたいと考えています。

【授業の概要】 憲法の規定のうち、基本的人権を中心に講義を進めます。講義については、単なる法律の解釈論ではなく、できる限り裁判で問題となった事案や社会で議論されているような問題を素材として、受講生の皆さんに憲法的な考え方を身につけることができるようにしたいと思います。

【関連科目】 『生活と社会/ 憲法と人権 II』(1.0)

【到達目標】

1. 憲法の仕組み・基本的人権の考え方を理解する
2. 法的な枠組で問題を処理する能力を身につける

【授業の計画】

1. 国とは何か、憲法とは
2. 基本的人権の枠組み
3. 人権の主体性 (外国人, 法人, 未成年者の人権)
4. 幸福追求権 (憲法第 13 条)
5. 法の下での平等 (憲法第 14 条)
6. 思想・良心の自由 (憲法第 19 条)
7. 信教の自由 (憲法第 20 条)
8. 表現の自由 (憲法第 21 条)― 名誉・プライバシー権との関係について
9. 表現の自由 (憲法第 21 条)― 「知る権利」について・検閲
10. 職業選択の自由 (憲法第 22 条)
11. 財産権 (憲法第 29 条)・生存権 (憲法第 25 条)
12. 教育を受ける権利 (憲法第 26 条)
13. 人身の自由 (憲法第 18 条, 憲法第 31 条, 第 33 条ないし第 39 条)
14. 裁判を受ける権利 (憲法第 32 条)・参政権 (憲法第 15 条)
15. 試験
16. 平和主義 (憲法前文, 第 9 条)

【教科書】

- ◇ 芦部博喜著 高橋和之補訂 「憲法」(岩波書店編) プリントを配布してわかりやすく説明したいと思います。
- ◇ コンパクトなものでよいので、六法を御持参ください。

【参考書等】 参考書等は、講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法】 試験とレポートの結果を総合して評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 憲法という素材を使用して、自分で考える・堂々と自分の意見を持つということを学んでいただければと思います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220744>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 瀧 . (オフィスアワー: seiji-dreamer.1201@gamma.ocn.ne.jp)

生活と社会 (Living and Society)

食生活の経済学 (Food Economics)

中嶋 信・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】日本の食生活問題を打開する展望を得るために、食料の生産・加工・流通・消費の総過程をたどりながら、生活構造を経済学的に把握する方法を身につける。また、食料の生産・消費の問題はすぐれて地球的な課題である。地球環境の持続的発展を実現する方策も検討する。

【授業の概要】日本の現代の食生活問題を解明するために、食料供給構造および消費者の生活構造を多面的に分析する。

【キーワード】食料問題, フードシステム, 食料経済学, 食料農業政策

【到達目標】

1. 日本の食生活問題, 地球規模の食料問題の概要を理解できること。
2. 身近な社会問題を経済学的に把握する方法を理解すること。

【授業の計画】

1. 食料経済学の課題 食生活問題と経済学 講義の進め方
2. 食料供給構造と食生活 分析の方法 生産・流通・消費の関係
3. 食料経済の現状と課題 (1) 野菜 供給態勢の動向 市場制度と政策
4. 食料経済の現状と課題 (2) 米 需給の動向 食糧管理の制度と課題
5. 食料経済の現状と課題 (3) 畜産物 畜産近代化と食生活 近代化問題群
6. 食料経済の現状と課題 (4) 水産物 需給動向 資源浪費型構造の転換
7. 食料経済の現状と課題 (5) 加工食品 食生活社会化の意義 消費者支配
8. 食料経済の現状と課題 (6) 外食 外食産業の動向 生活社会化の条件
9. 今日の食料消費構造 消費構造把握の方法 現状評価論争
10. 食生活「近代化」と食生活問題 高度成長下の生活様式 「現代的貧困」
11. 世界の食料・農業問題 食料・農業問題の本質 政策の転換
12. 日本の食料・農業政策の課題 日本の食生活問題の特質 国民の課題
13. 食生活問題の理論と運動 食生活問題の性格と問題解決の展望
14. 食生活問題研究の動向 先行研究の動向 参考文献の解説
15. 筆記試験
16. 質疑応答と授業全体のまとめ

【教科書】テキストは用いず、プリントに従って進める。進行に併せて参考書を紹介する。

【成績評価の方法】<中間試験>(3)~(8)に関するテーマのリポート提出, <期末試験>(1), (9)~(14)を概括するテーマの筆記試験

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】専用の授業ノート(ファイル)を準備し, レジュメ, ノート, 関連資料などをまとめて私的なテキストをつくること。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220746>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館 3F中棟3M15))

生活と社会 (Living and Society)

財政制度入門 (Introduction to Public Finance)

石田和之・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】 わが国の財政の仕組みについて、基礎的な理解を得る

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220747>

【授業の概要】 入門的なレベルの財政制度論を講じる。

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

【キーワード】 財政, 政府収入, 政府支出, 予算

⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【到達目標】

1. わが国の財政の現状を理解する
2. 財政の基本的な仕組みを理解する

【授業の計画】

1. わが国の財政の現状
2. 行政サービスの範囲
3. 政府の体系
4. 財政の役割 (1) 資源配分機能
5. 財政の役割 (2) 所得再分配機能
6. 財政の役割 (3) 経済安定化機能
7. 予算の仕組みと編成
8. 中間試験
9. 政府の会計
10. 政府の収入 (1) 財源の構造
11. 政府の収入 (2) 税と借金
12. 政府の支出
13. 決算と行政評価
14. 財政の持続可能性
15. 期末試験
16. 総括

【教科書】 無 (適宜, 授業中に資料を配布する).

【参考書等】 無

【成績評価の方法】 授業への取組み (30%), 中間試験 (30%), 定期試験 (または期末レポート)(50%)

【再試験の有無】 無

【WEB 頁】 <http://www.geocities.jp/zaiseigakulab/>

生活と社会 (Living and Society)

人口経済学入門 (Introduction to Population Economics)

趙彤 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】日本や欧米の先進諸国は高齢・少子化に悩まされているのに対して、多くの発展途上国では人口爆発問題に苦しんでいる。経済発展の各段階において、人口あるいは出生率が経済・社会に与える影響が著しく異なることを理解する。

【授業の概要】マルサスの人口論と新古典派の人口論を簡単に紹介した後、先進国における少子高齢化や福祉・年金、そして発展途上国における人口爆発など現実の問題を一つずつ取り上げて、人口との関係を解明していく予定である。人・生命・人権をミクロ単位 (個人単位) として考えるのが一般的であるが、この講義ではマクロ単位 (国あるいは地球単位) でそれを考察し直してほしい。医学関係の学生、またそれに興味を持っている学生は是非来てほしい。

【キーワード】少子化, 人口爆発, 経済発展

【到達目標】

1. 経済学の方法論で先進国における少子高齢化や発展途上国における人口爆発問題を考える能力を獲得する。
2. 半年の授業が終わりに近づく頃には、「アフリカの子供にワクチンを」といった公共広告機構 (AC) の広告に対して、今までと全く正反対の考え方を持つことになるだろう。善意で行った行為が必ずしも良い結果をもたらさないことを理解してほしい。

【授業の計画】子供数決定の経済学的アプローチ/人口経済学の基礎知識/少子化高齢化の理由/少子化高齢化の影響/アフリカの発展途上国はなぜ高い出生率と貧困に苦しむのか?(日本と比較して)/人口爆発の根本的な理由/出生率と女性の社会的地位の関係/発展途上国に対する経済援助の仕方の再考

【教科書】指定しない。講義中必要に応じてレジュメを配布する。

【成績評価の方法】出席と期末試験あるいはレポート

【再試験の有無】無し

【受講者へのメッセージ】受講学生に 2 回ほどディスカッションしてもらうので、受講人数を 40 名とする

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220748>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 趙 (088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 12:50~ 14:20 水曜日 12:50~ 14:20)

生活と社会 (Living and Society)

経済学入門 (Introduction to Economic Science)

永井 真也・講師/四国大学

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】 マクロ経済学の基礎の習得を目的とし、その仕組みを理解する過程で、経済学的な思考方法を身につけていく。

【授業の概要】 まず、2つの大きな経済政策である財政政策と金融政策を理解してほしい。IS-LM 分析を中心に財政政策と金融政策を理解する。

【到達目標】 必ず景気の循環は発生する。そして、人為的に景気を安定させようとしていて、政府によって経済政策が実施されるわけである。人為的な作用は、どこまで効果があるか考える術を見につける。

【授業の計画】

1. 経済学のイントロダクション
2. GDP
3. 景気循環 (1)
4. 景気循環 (2)
5. IS-LM モデル (1)
6. IS-LM モデル (2)
7. IS-LM モデル (3)
8. 国際マクロ経済学 (1)
9. 国際マクロ経済学 (2)
10. 国際マクロ経済学 (3)
11. インフレと失業 (1)
12. インフレと失業 (2)
13. 経済成長 (1)
14. 経済成長 (2)
15. 期末試験
16. 総括

【教科書】 中谷巖『マクロ経済学入門』日経文庫 945 円

【参考書等】

- ◇ 西村理・他「インタラクティブ・エコノミクス」(有斐閣)3700 円+税
- ◇ 西村理・加藤一誠「アウトルック日本経済」(萌書房)2000 円程度

【成績評価の方法】 期末試験で成績をつける。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 毎回出席すること

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220745>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 永井 .

生活と社会 (Living and Society)

暮らしと地図 (Maps and Daily Life)

田中耕市・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】 わたしたちは普段の生活のなかで、地図に触れる機会が多い。多くの人はそれを何気なく見過ごしているが、それに注視して理解することによって新たな世界観を獲得することもできる。本授業は、わたしたちの暮らしに身近な地図をキーワードに、日々の暮らしの疑問を紐解いていく。

【授業の概要】 担当者から一方的に話すのではなく、受講者にも多くの発言を求める授業である。積極的に発言して、授業に参加する姿勢が重要である。また、図を描いたりなどの実習作業や、グループディスカッションをしてもらうこともある。

【キーワード】 地理学、地図、暮らし

【到達目標】 地図を活用しつつ地域の諸問題を発見して、それに対する自分の意見を述べられるようになる。

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. 地図を読む 1
3. 地図を読む 2
4. なぜ地図化するのか?
5. デジタル地図と地理情報システム (GIS)
6. 頭の中の地図
7. 場所のイメージ
8. 第 1 回テスト
9. 食料商品名と地名
10. 買物客はどこから来る?
11. コンビニエンスストアを支える物流システム
12. 防災・ハザードマップとは?
13. アイスランド地誌
14. シンガポール地誌
15. 第 2 回テスト
16. テスト解説

【教科書】 高等地図帳 (高校で利用した地図帳でよい)

【成績評価の方法】 授業での発言を重視する。他に、授業への取組、小レポート、レポート、期末試験で評価する。

【再試験の有無】 なし

【講師へのメッセージ】 授業では毎回、小レポートを実施する。そのほかに、2 回のテストを実施する予定。単位取得のためには、テストの受験が義務である。授業中、受講生には積極的な発言を求めます。

【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/sis/index.htm>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220750>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田中 .

生活と社会 (Living and Society)

会社法入門 (Introduction to Corporate Law)

清水真人・講師 / 総合科学部

2単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『法律学』)

【授業の目的】 本講義では会社法の入門講義を通じて株式会社制度の基本的な仕組みを理解していただくことを目的とします。株式会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えています。その反面、食品偽造や粉飾決算、派遣労働者の大量解雇など、株式会社によって私達の生活を脅かすような重要問題も引き起こされています。企業が私達の生活を豊かにし、社会の発展に貢献するよう、私達一般市民が株式会社制度の基本的な仕組みを理解し、企業を監視する目を養わなければなりません。受講生が株式会社制度の基本的な仕組みを理解した上で、株式会社を巡る重要問題について自ら考えるようになることを期待します。

【授業の概要】 新聞記事・雑誌記事等を用いて企業活動を巡る具体的問題を取り上げながら、会社法の基本的枠組みに沿って問題の所在を明らかにしていきます。

【キーワード】 企業法制, 企業統治, 企業金融, 企業再編

【関連科目】 『生活と社会/経済と法』(0.5), 『生活と社会/家族法の諸問題』(0.5)

【到達目標】

1. 株式会社制度の基本的な仕組みを理解する。
2. 株式会社制度を巡る諸問題について自らの力で考えるようになる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 企業の形態
3. 会社の法人格と有限責任
4. 株主と株主総会
5. 会社の業務執行
6. 会社の業務監督
7. 会社の財務と損益
8. 会社の資金調達
9. 企業の結合と再編
10. 企業と一般投資家
11. 企業と一般消費者
12. 企業と労働者

【教科書】 神田秀樹 『会社法入門』(岩波書店, 2006), 小型六法を各自用意して下さい。

【参考書等】 上村達男・金児昭 『株式会社はどこへ行くのか』(日本経済新聞社, 2007)

【成績評価の方法】 成績は出席, レポート, 期末試験によって評価する

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220752>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 清水 (088-656-7174, shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

国際化のなかで地域問題を考える (Internationalization and Regional Problems)

北村 修二・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】近年の国際化・グローバル化に伴い、わが国および世界各地で起きている地域的諸問題を取り上げ、取り組むべき課題を考察する。

【キーワード】国際化、産業構造の変容、地域経済の再編成、地域政策、新たな社会・地域システム

【到達目標】国際社会における地域的諸問題に、関心を持ち考察出来るよう、国際化や地域問題への関心や初歩的な見方・考え方を培う。

【授業の計画】

1. ガイダンス・講義の趣旨と進め方
2. 今問われているもの
3. 私たちと国際社会
4. 国際化の進展
5. 国際化と経済・地域格差問題
6. 国際化と環境問題
7. 国際化と人口・民族問題
8. 国際化と雇用問題
9. 国際化と産業構造の再編成
10. 国際化と地域経済の再編成
11. 国際化と地域システムの再編成
12. 地域政策とまちづくり
13. 地球環境時代の新しい社会・地域づくり (1)
14. 地球環境時代の新しい社会・地域づくり (2)
15. 試験
16. 総括

【教科書】教科書は最初の授業で紹介するので入手すること。

【成績評価の方法】講義時間内のまとめ (配点は、小まとめは 60%、総括まとめは 40%)、またレポート等により評価する。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】受講にあたっては、特別な知識は問わないが、国際社会での地域問題や環境問題等に関心があり、それらの課題を勉強する意志があり、かつそれが実行できる人は参加できる。オフィスアワー 随時。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220753>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 北村 .

生活と社会 (Living and Society)

社会学のパースペクティブ (Sociological Perspectives)

矢部拓也・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『社会学』)

【授業の目的】 私たちを取り巻く「社会」とは、どのように成立しているのか? <社会的なもの> と <個人的なもの> とはどのような関係にあるのか? 私たちの日常生活とマクロな社会の構造や変容とはどのような関連をもつのか? 本講義では、社会学の基礎的な概念や理論を用いて、各々が日常的に経験している「社会」を理解する視座である「社会学的想像力」を獲得することを目指す。

【授業の概要】 イギリスの社会学者アンソニー・ギデンズが、社会学の入門書として書いた「社会学:改訂第3版」をテキストとする。毎回一つのテーマを設定して、それに関する社会学の用語や考え方を用いて問題点を論じる。ギデンズは、アメリカ中心の社会学を英国流に書き換えながら論じている。我々は、これを日本での自分たちの生活をもとに書き換える作業をすることで、ギデンズが見逃している視点や、欧米と共通する視点を議論してゆく。また、日本の今日的な話題も加えながら授業を進めて行く。

【キーワード】 都市社会学, 現代社会, 格差

【到達目標】 自分たちの身近な生活世界と <社会> とのつながりを語れるような「社会学的想像力」を身につける

【授業の計画】

1. 授業計画
2. ワークショップ「ワニの川」社会の多様性
3. 社会学の理論その1(1章, 21章)
4. 社会学の理論その2(1章, 21章)
5. ジェンダー論(5章) 負け犬の遠吠え
6. 【フリーター論1】「フリーター漂流」ビデオ
7. 【フリーター論2】VTR へのコメント, 討論
8. 【フリーター論3】「ワーキングプア」ビデオ
9. 【フリーター論4】ゲストスピーカー その1
10. 【フリーター論5】「ワーキングプア III 解決への道」ビデオ
11. 【フリーター論6】ゲストスピーカー その2
12. 社会成層と階級構造(10章)
13. 『趣都の誕生:萌える都市アキハバラ(森川嘉一郎, 2003, 幻冬舎)』
14. 川を活かしたまちづくり, アドプト, 吉野川フェスティバル

15. 都市と現代アーバニズム論(17章)

16. 総括授業

【教科書】 アンソニー・ギデンズ『社会学(改訂第3版)』而立社 1998年 3600円

【成績評価の方法】 期末レポート 80%, 出席 20%. 授業の進め方も含めて、初回の授業で詳しく説明するので、必ず出席すること。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 単に座って講義を聴くのではなく、これまでの自分の身の回りの経験を元に自分なりの社会を語れるようになってもらいたいと考えている。社会に対するいろいろな疑問や不満を持っている人の参加を期待する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220754>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

生活と社会 (Living and Society)

ゼミナール「意思決定と情報」 (Seminar: Information and Decision Making)

多田正仁・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『社会科学ゼミナール』)

【授業の目的】 企業における数量的意思決定をシュミレーションゲーム方式を通じて学ぶ

【授業の概要】 毎週、電卓を持参して、シュミレーションを行い、その結果を自分で分析して、指導を受ける

【到達目標】 数量的なデータも含めた、情報に基づき、適切な意思決定が行えるようにする

【授業の計画】

1. 1-4 利益を極大にするマーケティングみっくす
2. 5-8 販売テリトリーの設計
3. 9-12 製品-市場戦略と販売組織
4. 13-15 百貨店のマーチャンダイジング

【教科書】 コ-ビン他「マ-ケテイング意思決定演習」 中央経済社 1995年 2,300円

【成績評価の方法】 毎週の体験学習

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220755>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 多田 (2204, 088-656-7170, RXN10515@nifty.com) MAIL

生活と社会 (Living and Society) 司法と市民 (Judicial System and Citizen)

上原 克之・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 清水 真人・講師/総合科学部
2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】 本講義では地域司法の未来を担う若者に対して積極的な啓発活動を行うことによって、地域司法を担う有為な人材を育てるとともに、地域司法を支える健全な市民を生み出すことを目的とする。

【授業の概要】 現在地域の司法を担っている、裁判所、検察庁、弁護士会、そして大学が協働して、学生に対し地域司法への関心を喚起し、地域司法における市民の自覚を促すことができるような実践的・体験的な授業を行う。

【キーワード】 法律, 司法

【到達目標】

1. Step1:司法制度の重要性を理解できること。
2. Step2:司法制度に積極的に参加できる意思および能力を身に付けること。

【授業の計画】

1. 以下に示す内容を計画している。ただし、変更があり得る。
2. 1) 司法の基礎 (大学教員による講義)
3. 2) 行政訴訟, 消費者団体訴訟, 公取委の審決など (大学教員による講義)
4. 3) 裁判官等の業務, 裁判員制度など (裁判所による講義)
5. 4) 検察官等の業務, 徳島の犯罪傾向など (検察庁による講義)
6. 5) 弁護士の業務など (弁護士会による講義)
7. 6) 検察庁・裁判所の見学, 裁判傍聴など (体験的学習)

【教科書】 必要に応じて資料を配布する

【成績評価の方法】 筆記試験は行わず、数回実施するレポートと平常点により評価を行う (比率は概ね 8:2)。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 法律の知識は前提としないが、司法制度への興味があること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221088>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

ゼミナール「現代日本経済論」 (Seminar: Contemporary Japanese Economy)

立花 敬雄・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『社会科学ゼミナール』)

【授業の目的】 現代日本経済を時系列的にまた横断的に、そして総合的に考察することを目的とする。

【授業の概要】 現代経済についてのわかりやすい文献、資料を輪読することを通して、現代資本主義の経済構造の総合的理解をし、複雑で多岐に展開している現代日本経済の現況を明らかにし、将来展望を行う。

【到達目標】 現代日本経済の諸問題についての経済学的知識を習得する。

【授業の計画】

1. I 資本主義と現代
2. 1 生産と経済の巨大化
3. 2 現代資本主義と国家
4. 3 世界経済の変貌
5. II 現代日本経済の諸問題
6. 1 産業構造と情報化社会
7. 2 雇用・労働問題
8. 3 金融・財政問題
9. 4 国際収支と直接投資
10. 5 生活様式と環境問題

【教科書】 プリント配布。教科書等は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 受講態度、レポート、等により評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 質問等は、メールでも受け付けています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220759>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 立花 (656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

国際協力論 2 -四国から世界へ 輝く瞳のつくり方- (International Cooperation Studies 2)

饗場 和彦・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】社会に積極的に寄与する公共的なマインドを持ち、国際的な視野と知見・コミュニケーション力、かつ四国・徳島の在住者として地域に根ざした視点も備えた人材を、「国際協力」というテーマを通して育成する。

【授業の概要】国際協力活動の実践者を学外から招き、理論と実践について学ぶ。JICA(国際協力機構)四国支部と、四国 NGO ネットワークの協力を得て、開講される授業。講師は NGO や政府機関、国際機関などの一員として世界各地で活躍する多士済々の人々。授業担当者(饗場)も国際協力の一環として国際的な選挙支援活動に関わっており、主に紛争地における平和構築を研究テーマのひとつにしている。

【キーワード】国際協力, JICA, NGO, 国際社会, 平和構築

【関連科目】『生活と社会/国際政治学入門』(0.5), 『生活と社会/政治とメディア』(0.5)

【到達目標】国際協力の理論と実践について知識を得、意義や課題について考察し、自らも行動する意欲を高める。

【授業の計画】

1. イントロダクション・基礎講座
2. アフリカ・ザンビアにおける貧困と保健・医療などの支援
3. カンボジアにおける貧困と教育、保健・医療、職業訓練などの支援
4. 中国・内モンゴルにおける貧困と教育などの支援
5. イラクにおける紛争と平和構築の支援
6. カンボジアにおける紛争と地雷処理の支援
7. シエラレオネにおける紛争と武装解除の支援
8. 国際連合による多様な支援
9. ODA と国際協力機構 (JICA) による支援
10. 徳島県や行政による取り組み
11. ソーシャルビジネス (企業) の取り組み
12. 人間の安全保障と平和構築
13. ゲームとワークショップ (1)
14. ゲームとワークショップ (2)
15. 補足と総括

【教科書】特に指定しない。

【参考書等】授業中に適宜、配布する。

【成績評価の方法】期末レポートと平常点 (出席回数、授業への取り組み方) で評価する。おおむね期末レポート 40%、平常点 60%。

【再試験の有無】無し。

【受講者へのメッセージ】講師や内容は変更される可能性がある。昨年度の「国際協力論 - 四国から世界へ 知って理解し動ける人に-」とは内容が違うので、昨年度のこの授業を履修していても今年度の「国際協力論 2 -四国から世界へ 輝く瞳のつくり方-」の受講は可能。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220761>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 13:30~ 14:30, 金曜日 14:30~ 16:00. この時間以外でも在室時はいつでも可.)

生活と社会 (Living and Society)

憲法と人権 I (Constitution and Human Rights 1)

堀井 秀知・非常勤講師/全学共通教育センター

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】法律は空気のようなものです。普段は意識することはありませんが、日常生活の様々な場面に法律は関わっています。空気がなくなると人は生きていくことができないように、法律がなくなると社会は成り立たなくなってしまう。「憲法」は、これら法律の基礎となる重要なルールであり、同時に「この国のかたち」を決める基礎となる重要なルールでもあります。そこで、この講義では、具体的事例を通じて憲法や人権の考え方を身につけてもらうことを目的としています。

【授業の概要】憲法の基礎と人権を中心に講義をすすめます。その際、実際に裁判になった事例などをベースにして、憲法の基本的な論点を講義形式で検討していく予定です。

【キーワード】憲法、人権

【到達目標】憲法と人権の基本的な考え方を理解し、社会人として求められる最低限の法的素養を身につける。

【授業の計画】

1. 憲法・人権総論 (1)
2. 憲法・人権総論 (2)
3. 法の下での平等
4. 思想・良心の自由
5. 信教の自由
6. 表現の自由 (1)
7. 表現の自由 (2) マスメディアと人権
8. 新しい人権 (1) 自己決定権
9. 新しい人権 (2) プライバシー
10. 財産権と職業選択の自由
11. 労働基本権
12. 生存権
13. 参政権
14. 裁判員制度と裁判を受ける権利 (1)
15. 裁判員制度と裁判を受ける権利 (2)
16. 総括 憲法改正を巡る議論

【教科書】特に指定しませんが、六法全書(『コンパクト六法』、『デイリー六法』などの小型のもの)を持参してください。

【参考書等】「四訂 憲法入門」(樋口陽一著 勁草書房)・「やさしい憲法入門 (第4版)」(戸波江二編 法学書院)・「はじめて学ぶやさしい憲法」(長尾一紘著 実務教育出版)・「いちばんやさしい憲法入門 (第3版)」(初宿正典ほか編 有斐閣)・「基本的人権の事件簿 (第3版)」(棟居快行ほか編 有斐閣)・「憲法判例を読む」(芦部信喜 岩波書店)・「はじめて学ぶ憲法判例」(資格実務研究会編 実務教育出版)・「確認基本用語 300」(大沢秀介編 成文堂)

【成績評価の方法】講義中に実施する小テストと期末のレポートの結果を総合して評価します。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】法学は決して難しくありません。自分の頭で考えるうちに自然と法的な考え方が身につくようになると思います。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220763>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 堀井 .

生活と社会 (Living and Society)

市民と政治 (Politics and Citizen)

栗栖 聡・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『政治学』)

【授業の目的】人間の社会がある限り、公共的な問題を何らかの形で解決すること、すなわち政治が必要となる。この授業においては、政治の基本的枠組み、基本的概念、近代国家や現代国家の基本原則等を理解することが目的である。

【授業の概要】そもそも政治とは何を意味するのかという問題から出発し、政治学の基本的概念を理解し、さらに近代国家の基本原則や現代国家のあり方について、自由民主主義国家、福祉国家、行政国家、大衆民主主義国家といった類型に即して考察する予定である。

【到達目標】政治現象を理解するための、市民としての基本的教養を身につける。

【授業の計画】

1. 政治とは何か
2. 公共的事柄とは
3. 意思決定 (その 1)
4. 意思決定 (その 2)
5. 実施
6. 近代国家のあり方
7. 社会契約論 (その 1)
8. 社会契約論 (その 2)
9. 立憲主義 (その 1)
10. 立憲主義 (その 2)
11. 立憲主義 (その 3)
12. 福祉国家
13. 行政国家
14. 大衆民主主義国家
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】授業中に指示する。

【成績評価の方法】授業への取組 (30%) 論文形式による試験 (70%)

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221092>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 栗栖 (2207-1, 0886567185, kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

ミクロ経済学入門 (Introduction to microeconomics)

内藤 徹・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】 経済学の知識がないばかりに日常生活において甚大な被害を受ける可能性がある。そうした被害に遭わないためにも経済学の基本的な知識は必要となるであろう。また、今日の世界的な大企業の行動から我々の日常生活まで、限られた資源や財・サービスをいかに無駄なく活用するかということは、重要な問題である。本講義では経済学を専攻しない学生を対象に経済学的な物の見方の習得を目的とする。

【授業の概要】 本講義ではゲーム理論を中心に、ミクロ経済学の基本的なエッセンスを解説する。常生活で目にする事項を取り上げ、それらを(ゲーム理論を中心にした)経済学的視点から見た場合どのように説明できるのかについて考察する。

【キーワード】 ミクロ経済学, 社会科学, 経済理論

【到達目標】

1. 日常の事象を経済学的に考える力を身に付けること。
2. 身近な社会問題を経済学的に把握する方法を理解すること。

【授業の計画】

1. ゲーム理論とは何だろう? 講義の進め方
2. ゲームを解いてみよう (支配戦略)
3. 囚人のジレンマ
4. ナッシュ均衡
5. ナッシュ均衡 (2)
6. 混合戦略ゲーム (確率を戦略と考える?)
7. 繰り返しゲーム
8. 交互手番ゲーム (ゲームの木を使って考える)
9. コミットメント (自分を拘束して有利に導く?)
10. 脅しと約束
11. 交渉
12. 情報とゲーム (1):逆選択とモラルハザード
13. 情報とゲーム (2):シグナリング
14. インセンティブ
15. 筆記試験

16. 質疑応答と授業全体のまとめ

【教科書】 ゲームと情報の経済分析 (基礎編) エリック・ラスムセン著, 細江守紀 (ほか) 訳

【成績評価の方法】 中間試験, 筆記試験, ならびに講義中に指示した課題によって評価する

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 講義で使用するレジюме, 使用したパワーポイントのスライドは指定の URL(講義で指示します)にアクセスしてください。レジюмеが必要な学生は事前にアクセスしてプリントアウトして講義に持参してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220765>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 内藤 (naito@kyudai.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

ゼミナール「社会科学の夢」 (Seminar: Dream of Social Sciences)

水島 多喜男・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『社会科学ゼミナール』)

【授業の目的】社会科学を学ぶ意義を、経済学を手がかりに考える。

【授業の概要】ゼミ形式で、「社会科学」に人々が寄せる夢、「社会科学」が見る快夢と虚夢、を経済学を通じて見てゆきたい。また、研究活動とはどのようなものかについて、新聞、雑誌、ビデオを手がかりに考える。

【キーワード】社会科学, 科学方法論, 経済, 資本主義

【関連科目】『歴史と文化/中東経済入門-歴史と文化基盤-』(1.0), 『生活と社会/国際政治学入門』(0.5)

【到達目標】

1. 科学的であるとは何を意味するのか, について, これまでの様々な考え方を知る。
2. 研究にとり必要なものは何かを考える。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 論理思考とデータについて 1
3. 論理思考とデータについて 2
4. 論理思考とデータについて 3
5. 「経済学の基本定理」について 1
6. 「経済学の基本定理」について 2
7. 「経済学の基本定理」について 3
8. 現実と経済理論について 1
9. 現実と経済理論について 2
10. 現実と経済理論について 3
11. 様々な統計について 1
12. 様々な統計について 2
13. 日本経済の理解について 1
14. 日本経済の理解について 2
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】飯田泰之『経済学思考の技術 論理・経済理論・データを使って考える』
(ダイヤモンド社, 2003 年)2000 円 (図書館に所蔵)

【参考書等】参考書等は, 適宜紹介する。

【成績評価の方法】授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】なし

【受講者へのメッセージ】ゼミ形式で授業を進めるので, 発表者・質問者の担当になった場合は, その時間を欠席しないようにしてください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220766>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

移民から世界を見る (Globalization and migration)

樋口直人・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『社会学』)

【授業の目的】 グローバル化の時代に向けた社会のあり方を学んでもらうことが、本講義の目的となる。その際、「移民」をキーワードとして日本から世界への広がりを見てもらうことにより、身近なことと世界とのつながりを学んでもらう。同時に、講師のこれまでの社会調査経験をもとに授業を組み立てることにより、大学以外に広く社会を調査することの意味について考えてもらう。

【授業の概要】 イスラム諸国から日本に働きに来た人たちの日本での経験、帰国後の状況を中心に話していく。その際、世界的な人口移動の状況とグローバル化する世界での経済活動の変化や宗教ネットワークなどに関して、基本的な知識を身につけるようにする。ほとんどの受講生が経験していないテーマであることにかんがみて、イラン社会に関するものと日本の外国人労働者に関する映画を2本みってもらう。それ以外に、講師が各地でとってきた写真を用いることで、視覚的にイメージしてもらう講義としたい。

【キーワード】 移民, 民族, 外国人労働者, グローバル化, イスラム

【到達目標】 民族問題、国民と国家、グローバル化の背景を理解する。また、今までとは異なる観点から日本やイスラム諸国の社会みることができるようにしてほしい。

【授業の計画】

- 1.0. オリエンテーション
2. 移民社会としての日本:多民族化を考える
3. 外国人労働者とは誰か:映画『オーバーステイ』鑑賞
4. 現代の遊牧民:イラン人の日本出稼ぎ
5. イラン社会を知る:イラン映画鑑賞
6. 職業選択と文化:なぜ労働者の子どもは労働者に、教師の子どもは教師になっていくのか
7. ガテン系への道:日本の外国人労働者と労働文化
8. イスラムの食文化:ハラール食品とエスニックビジネス
9. 国境を越える企業家たち:日本の中古車輸出ビジネス
10. 日本のイスラム社会:モスクの建設とネットワークの拡大
11. 故郷に帰る移民:定住と帰国の分岐点
12. 大量消費の時代:消費社会はなぜ楽しいのか

13. 消費社会の夢:移民たちは日本から何を持ち帰るのか

14. 9.11 後の世界と移民

15. 移民規制の限界

【教科書】 樋口直人・稲葉奈々子・丹野清人・福田友子・岡井宏文『国境を越える:滞日ムスリム移民の社会学』青弓社, 2007年, 2100円

【成績評価の方法】 授業中の小テスト, 中間のレポート1回, 期末の大レポート1回を組み合わせて評価する。評価方法については、複数のなかから受講生に有利なものを採用するが、詳しくは初回に資料を配付して説明するので必ず出席すること。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 異文化をきちんと理解する機会としてほしい。旅行や外国に関心のある学生の受講を歓迎する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220760>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society) ボランティア論 (Volunteer Activities)

榎田 美雄・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 行うに値することは、語るにも値することである、はずである。さまざまなボランティアの可能性を紹介しつつ、主としてそれを社会科学的に論じよう。

【授業の概要】 具体的には、ボランティアの組織運営に関する問題や、地方政府との関係などが検討されることになる。なお、授業の内容理解の促進を期すために毎週コメントシートを書いてもらう。出席票を兼ねているので、出し忘れないようにしてほしい。

【キーワード】 教育、徳島

【関連科目】 『生活と社会/ ボランティア実践』(0.5)

【到達目標】 21 世紀において、なぜボランティアや NPO(非営利組織) について考えることが重要なことなのか、理解する。ボランティア・NPO の領域と、市場や政府の領域がどのように関係しているのか理解する。ボランティア教育のあるべき形について自分の意見をもてるようになる。

【授業の計画】

1. 初回はオリエンテーションを兼ねたボランティア論(必ず出席せよ)
2. 国際協力ボランティアの NICE からゲストを迎えてお話=マレーシアでのボランティア=を聞く(松重氏)
3. ボランティア依存症について
4. 1) 「ボランティアを社会科学的に考える意義」
5. 2) 「ボランティア活動と現代社会」
6. 3) 「ボランティア活動とサービスマーケティング」
7. 4) 「ボランティア・コーディネーター」と「社会福祉協議会」
8. 5) 「徳島のボランティア」の現在・過去・未来
9. 6) ボランティアと日本社会
10. 7) 「労働の変容」とボランティア (IRC 字幕入力ボランティア)
11. 8) 「認知症とボランティア」(田野道子氏)
12. 9) 「ふたたび国際協力ボランティアの NICE から(大阪支部の石黒さん=予定=)」
13. 10) 『傾聴ボランティア』の理論と実際(前半)
14. 11) 『傾聴ボランティア』の理論と実際(後半)

15. 12) 総括討論(テスト返却と解説)

16. 13) 「労働の変容」とボランティア (IRC 字幕入力ボランティアの実習) 補講として。

【教科書】

- ◇教科書 なし。
- ◇参考書 巡静一&早瀬昇『基礎から学ぶ ボランティアの理論と実際』中央法規出版 1997, 2400 円。
- ◇内海成治ほか編『ボランティア学を学ぶ人のために』世界思想社 1999, 2, 200 円。
- ◇立木茂雄編著『ボランティアと市民社会』晃洋書房, 1997, 1900 円。

【参考書等】 古瀬敏『ユニバーサルデザインへの挑戦』ネオ書房, 2100 円。日経デザイン編『ユニバーサルデザインの教科書』日経 BP 社, 2800 円。黒須正明編『ユーザビリティテスト』共立出版, 3300 円。C&C 振興財団編, アクセシビリティ研究会著『情報アクセシビリティとユニバーサルデザイン』株式会社アスキー, 2800 円。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況, 日常の態度, テストの成績を合算して評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 医療ボランティア等の実例を用いながら, 学生参加型の講義を行う。出欠確認は毎回行う。とりわけ, 初回のオリエンテーションは重要なので, 欠席しないようにせよ。欠席者には理由を問う。なお, 本講義の前半 7 回は, 大学開放実践センター 5 名への公開授業ともなっている。7 月 14 日は担当者海外出張で休講の予定。補講は, 8 月 4 日 14:35~ 16:05。このコマに正規の授業がある場合は, 事前確認の上レポート等で対応するので, 申し出よ。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220767>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 榎田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐。1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき。088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) MAIL (オ

フィスアワー: 火曜日14:00~ 15:00at 工学部キャンパス内SVBL棟3階・プロジェクト研究室1)

生活と社会 (Living and Society) 政治とメディア (Politics and Media)

饗場 和彦・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 金 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『政治学』)

【授業の目的】政治の一つの本質は「権力」にあるが、マス・メディアは「第 4 の権力」とも言われ、政治と密接な関係がある。また、自由な報道は国民の知る権利、思想/信条の自由をささえるため、民主的な政治制度においては不可欠であるが、他方プライバシー侵害の問題をはじめメディアに対して多くの批判もある。この授業ではこうした政治とメディアの問題について、具体的なテーマを取り上げつつ、基本的な知識と考え方を学ぶ。

【授業の概要】政治とメディアに関する基本的な概念、考え方、関係性を理解すると同時に、具体的な問題について知識を深める。またメディアリテラシーの力もつける。授業担当者(饗場)は以前新聞記者をしていたので、その経験に基づいた視点からも解説する。国内政治、国際政治を問わず、適宜、時事ニュースも扱う。実際の新聞記事なども多く紹介する。

【キーワード】政治、メディア、メディアリテラシー、マスコミ

【関連科目】『生活と社会/ 国際協力論 2 -四国から世界へ 輝く瞳のつくり方-』(0.5)、『生活と社会/ 国際政治学入門』(0.5)

【到達目標】現代社会における政治の問題とメディアの問題について関心を深め、基礎的な知識、考え方を習得する。

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. 政治とは何か—地球上にあなた一人しかいないなら政治は必要か(前)—
3. 政治とは何か—地球上にあなた一人しかいないなら政治は必要か(後)—
4. 新聞の読み方—各紙こんなに違う?活字を信じすぎるな(前)—
5. 新聞の読み方—各紙こんなに違う?活字を信じすぎるな(中)—
6. 新聞の読み方—各紙こんなに違う?活字を信じすぎるな(後)—
7. 政府と市民—日本は「茶色」になっている?(前)—
8. 政府と市民—日本は「茶色」になっている?(後)—
9. 戦争報道と情報操作—イラク戦争やボスニア紛争の虚実(前)—
10. 戦争報道と情報操作—イラク戦争やボスニア紛争の虚実(後)—
11. イラクの日本人質事件—なぜバッシングが起きたのか(前)—
12. イラクの日本人質事件—なぜバッシングが起きたのか(後)—
13. 戦争映画の意義—人間の本源を問いかける—(前)

14. 戦争映画の意義—人間の本源を問いかける—(後)

15. 補足と総括

【教科書】教科書は特に指定しない。授業中に配布するレジュメや資料にしたがって講義を進める。参考書などは、たとえば以下の書籍など。『政治学がわかる。』(朝日新聞社、2003年)、『新マスコミ学がわかる。』(朝日新聞社、2001年)、高木徹『戦争広告代理店』(講談社、2002年)、武田徹『戦争報道』(筑摩書房、2003年)、北山俊哉他『はじめて出会う政治学—フリー・ライダーを超えて』(有斐閣、2003年)

【成績評価の方法】期末の試験はあらかじめ問題を提示するので、試験日までに準備し、当日は持ち込み禁止で解答する。また、平常点として授業の取り組み姿勢と出席状況を評価する。おおむね試験 50%、平常点 50%。

【再試験の有無】有り。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220768>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日13:30~ 14:30, 金曜日14:30~ 16:00. この時間以外でも在室時はいつでも可.)

【備考】日ごろから新聞やテレビの報道に関心を持つように。

自然と技術 (Science and Technology) 相対論入門 (Introduction to Special Relativity)

中山 信太郎・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『物理学』)

【授業の目的】 科学としての物理的方法論について解説する。物理法則の認識と法則化を経て得られた自然観について理解することを目的とする。物理学の中でもなじみ深い力学を通して、その法則が確立される過程から相対論に至るまでを説明し、自然界を記述する時間と空間について考える。

【授業の概要】 自然界における光の振る舞いは、200 年もの間さまざまな検証に耐えてきたニュートンの自然観を根底から覆した。その 1 つは光速度不変性である。これをもとにした自然観が相対論である。力学の諸法則を概説した後、相対論の原理である光速度不変性が導かれた過程を解説する。力学の諸法則を相対論をもとにながめ、その描く自然観を説明する。

【キーワード】 光と観測、慣性系、ガリレイ変換、光速度不変性、ローレンツ変換、質量とエネルギー

【到達目標】

1. ニュートンの運動法則を式で表現できるようになる。
2. 相対論の原理である光速度不変性について理解する。
3. ニュートンとアインシュタインの自然観の違いを理解する。

【授業の計画】

1. 相対論とは
2. 自然を見ること、自然界の広がり
3. 慣性と力の認識
4. ニュートンの自然観
5. 万有引力の法則
6. 光の性質
7. 光速度の測定
8. 光速度の不変性
9. アインシュタインの相対論
10. ローレンツ収縮
11. 空間・時間の相対性
12. 速度合成則
13. 質量の相対性
14. 質量とエネルギー

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 教科書は使用しない。毎講時プリントを配布する。
- ◇ 参考書:アインシュタイン著 内山龍雄訳「相対性理論」岩波文庫, 「理工系の基礎教育 物理学」大槻義彦著, 学術図書出版社 (力学で用いた教科書)
- ◇ 松田・二間瀬著「なっとくする相対性理論」講談社

【成績評価の方法】 毎講時小テストを行う。レポートを 1 つ提出してもらい、小テストとレポートの中から試験問題を出す。以上を総合評価して成績を出す。

【再試験の有無】 小テストやレポートが一定水準に達していれば再試験を認めることがある。

【受講者のメッセージ】 1 年前期に「力学」を履修していることが望ましい。講義ノートを準備する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220769>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月 ~ 金 17:30 ~ 18:00)

自然と技術 (Science and Technology)

ゲノムと発生のテクノロジー (Genomic and Genetic Technology)

真壁 和裕・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『生物学』)

【授業の目的】 専門課程でマイクロ系の生物学を学ぼうとする学生を対象に、現代生物学で中心的な役割を果たすゲノムサイエンスと発生工学に関わる分子生物学の基本的な技術について、使用する器具の名称からその原理と背景、さらに実際の実験のスキームまでを解説し、実習や研究を行うために必要な基本的知識を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 現代生物学は日進月歩の勢いで進んでおり、学生は多くの場合その成果を聴くだけで消化不良を起こしかねず、その成果が得られた実験の方法の理解まで辿り着くことは容易ではない、そして一方、実習や卒業研究さらには大学院での研究の場においては、ひとつひとつの技術に関する詳しい背景説明が与えられないままに実験の手を動かしていかなければならないことも現実には起こりうる。そこで学生にとって実習をより実りあるものにするために、この講義では個々の研究成果に注目するのではなく、成果を得るために広く用いられるテクノロジーの原理や実際の方法の概略を解説することで上記の問題の狭間を埋める。

【キーワード】 発生、バイオテクノロジー、遺伝子、ゲノム

【到達目標】 学部や大学院での生物学実験を行うに際して知っておきたい技術の原理・背景・スキームを理解すること。

【授業の計画】

1. 核酸の構造と性質
2. 遺伝子工学と酵素
3. 宿主とベクター
4. 核酸の抽出 (ゲノム DNA・RNA)
5. 遺伝子ライブラリー
6. ハイブリダイゼーション
7. DNA シークエンシング
8. モノクローナル抗体
9. 細胞への遺伝子導入
10. 個体への遺伝子導入 (トランスジェニック)
11. 発生遺伝学
12. 細胞工学と発生工学

13. ゲノムテクノロジー 1

14. ゲノムテクノロジー 2

15. 学期末試験

16. 総括授業

【教科書】 「バイオテクノロジーテキストシリーズ遺伝子工学」IBS 出版 (2,625 円)

【参考書等】

◇ 参考書「ゲノム工学の基礎」東京同人 (4,100 円)

◇ 参考書「遺伝子工学集中マスター」羊土社 (3,800 円)

【成績評価の方法】 随時行う小テストおよび学期末の試験の成績による。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 休んだり遅刻したりしないように、またしっかりノートをとって復習をする習慣をつけるようにしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220770>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,)

自然と技術 (Science and Technology)

気象災害を防ぐ (Disaster prevention of meteorological hazards)

西山賢一・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地学』)

【授業の目的】日本列島は地形が急峻で平地が少なく、しかも湿潤多雨な気候環境下にあるため、台風や豪雨による災害が毎年繰り返されている。このような災害を減らすためには、地球科学の知識が必須といえる。それに加え、過去に生じた災害の実例から学びながら、具体的な防災・減災の方法を考えていく。

【授業の概要】災害科学の基礎となる地球科学の知識を学びながら、気象災害、特に土砂災害と洪水災害を中心に理解を深める。また、防災情報やハザードマップ (災害予測図) の活用法についても学ぶ。

【キーワード】災害地質学, 地球科学, 自然災害

【到達目標】気象災害のしくみを地球科学に基づいて理解するとともに、その知識を防災のために活用できるようになる。

【授業の計画】

1. 豪雨災害から学ぶ
2. 気象観測と気象現象
3. 台風・高潮災害
4. 豪雨・豪雪・雷による災害
5. 異常気象とは何か?
6. 洪水でできた日本の平野
7. 豪雨災害 1:洪水災害
8. 豪雨災害 2:都市水害
9. 山崩れでできた日本の山地
10. 豪雨災害 3:土砂災害
11. 豪雨災害 4:深層崩壊
12. 気象情報の種類と活用法
13. 気象災害のハザードマップ (災害予測図)
14. 水のめぐみを生かす
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】教科書:指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書等】参考書:「自然災害を読む」岩波書店,「自然の猛威」岩波書店,「知っておきたい斜面のはなし Q&A」土木学会,「家族を守る斜面の話」土木学会,

「災害に出会うとき」朝日新聞社

【成績評価の方法】期末試験と、毎回実施する小テストを総合的に判断して評価する。

【再試験の有無】再試験あり

【受講者へのメッセージ】毎回パワーポイントを使用します。毎回の講義の最後に、当日の理解度を確認する小問題を出します。講義に関する質問を歓迎します。ビデオを使う場合があります。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tigaku/index.htm>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220772>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp)

MAIL (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

自然と技術 (Science and Technology) 地球の科学 (The Earth and Environmental History)

石田 啓祐・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地学』)

【授業の目的】 日本列島というきわめて活動的な地盤に生活する私たちにとって、グローバルな視点から固体地球の物理的な性質と、関連する自然環境の変化を理解することは、大切な課題です。現在の固体地球の姿を理解し、地層や化石の記録から、地球誕生以来の地球表層～生物圏のできごとを明らかにする事例を学びながら、プレート運動などによる地球環境の変遷の結果、私たちヒトが「現在この地球に存在する」こと、そして「命の大切さ」への理解を深めることを目的とします。

【授業の概要】 講義の前半は、固体地球の姿とプレート運動論の成り立ちを学び、後半は地球と生命の歴史を学びます。

【キーワード】 現在の地球、地球の歴史、環境変化、化石と生物進化

【到達目標】 現在に至る地球環境の変遷と生物進化の歴史を学ぶ方法の基本が理解できる。

【授業の計画】

1. 幾何測地と物理測地:光学的な測地と重力ポテンシャルを考慮した手法の紹介。地球球形説と楕円体説:地球はどれほど球に近いのか、なぜ楕円体と考えるのか。
2. ジオイド:平均海面と一致する等ポテンシャル面が地球楕円体と実地形との中間項。アイソスタシー:ヒマラヤの引力の影響から地殻とマントルのバランス概念は生まれた。
3. 重力からみた地球:地球の引力と遠心力の合力である重力、標準重力は地球楕円体上の理論値の概念。標準重力と重力異常の意味。
4. 地磁気の原因と古地磁気からわかること:地磁気の性質と変化、その原因。地磁気の逆転、大洋底の磁気縞、磁極の移動と大陸の移動。
5. 地球内部の温度の推定:断熱圧縮を熱源とした場合の地球内部の温度分布の見積り。
6. 地震波と地球の内部構造:地球内部を伝わる P 波・S 波の速度、P 波の陰の存在、地震の分布:地理的分布と深度分布、和達-ベニオフ帯とプレート境界。
7. 大陸移動説からプレートテクトニクスへ:ウェゲナーの大陸移動説とその後。
8. 地球の年齢を測る:地球の年齢の推定、最古の岩石や隕石からわかること。

9. 大衝突から始まる固体地球と大気・海洋の生い立ち:隕石衝突による地球生成からラン藻類による大気・水圏の環境変化。
10. 化石の定義:化石から何がわかるか。地質時代と生物界の変遷:動物の進化によって順序立てられた地質時代の区分。
11. 初期の大型動物群の誕生の謎と進化の試行錯誤:エディアカラ動物群とバージェス動物群。
12. セキツイ動物の出現と上陸:セキツイ動物の出現と進化、大海からの離脱。
13. 地質時代の環境変化と生物の絶滅繁栄:時代の節目の大量絶滅の環境要因は?
14. プレートテクトニクスと環境変化:気候や海水準の変化が海陸の分布や生物進化に与えた影響。
15. ヒトへの道のり:なぜ私たちホモ・サピエンスが今ここに存在するのか?
16. 総括授業 (授業評価含む)

【教科書】 教科書は特に指定しない。資料を配布する。

【参考書等】 「地球大進化 46 億年・人類への旅」全 6 巻、NHK プロジェクト編、2004 年、S. スタンレー著「生物と大絶滅」、東京化学同人、1991 年、平野弘道「繰り返す大量絶滅」岩波書店、1994 年、参考書:丸山茂徳「46 億年地球は何をしてきたか?」岩波書店、1994 年

【成績評価の方法】 自主的・自発的な学びの姿勢 (30%) と、期末までに数回にわたって実施する授業内容の課題レポート提出 (70%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 授業への積極的な取り組みが見られる受講生には、行うことがある。

【受講者へのメッセージ】 後期の月曜 3・4 講時にも開講します。重複履修はできません。どちらかで受講してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220773>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 12 時～13 時)

自然と技術 (Science and Technology)

自然放射線と放射線科学 (Natural Radiation and Radiation Science)

三好弘一・准教授/アイソトープ総合センター

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】現在、医療、工業、考古学、並びに科学研究分野等において放射線は日常的に利用されています。また、科学技術の発展には放射線の利用無くしては考えられません。しかしながら、放射線のことはほとんど知られていません。例えば、身の回りに放射線はありますか?答えは、あります。質量数が 40 のカリウムです。本講義では、放射線とは何か、また放射線の観測法・計測を通してその放射線の性質及び利用法並びに安全に扱うための規則を理解していく中で、科学的な考え方を身につけてもらうことを目的としています。

【授業の概要】放射線とは?からスタートして、放射線と放射能の違い、自然からの放射線、放射線に関する法律と大学の規則、人体への影響、放射線で使用する単位について、放射線の量について、放射線の利用(工業分野と医学分野)、の講義と霧箱の作成による自然放射線の観察、放射線の計測(正規分布に従うことの確認)、はかる君による身の回りの放射線計測(物品や食料品)、はかる君による身の回りの放射線計測(場所による違い)の実習からなります。

【キーワード】自然放射線、放射線科学、霧箱、放射線計測

【到達目標】放射線の科学の理解と科学的な考え方が出来るようになること。

【授業の計画】

1. 放射線とは?
2. 放射線と放射能の違い
3. 自然からの放射線
4. 放射線に関する法律と大学の規則
5. 人体への影響とは?
6. 放射線で使用する単位について
7. 放射線の量について
8. 放射線の安全取り扱い
9. 放射線の利用(工業分野)
10. 放射線の利用(医療分野)
11. 霧箱の作成による自然放射線の観察
12. 放射線の計測(正規分布, 逆二乗則, しゃへい)
13. はかる君による身の回りの放射線の計測(物品や食料品)

14. はかる君による身の回りの放射線計測(場所による違い)

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】特になし。授業中に参考書を紹介。

【成績評価の方法】授業への取り組み(30%)・レポート(20%)・期末試験(50%)の総合評価

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】授業の初回に、本授業に関する注意事項を話すので、遅刻せず必ず出席すること。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220774>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三好 (088-633-9984, hmiyoshi@ri.tokushima-u.ac.jp) Mail

自然と技術 (Science and Technology)

地球と地層の科学 (Physical Geology)

村田 明広・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地学』)

【授業の目的】 地球科学の中で、地質学の分野の基礎的な事柄を学ぶことによって、地球で起こる地学現象を理解し、長い時間軸と大きなスケールを持った地球科学的なものの考え方を身につけることを目的とします。なお、実際に野外で見ることでできる地層などについて、自分自身である程度理解できるようになることも目的とします。高校で地学を学んでいない学生にも地学に興味を持ってもらえるようにすることも目的とします。

【授業の概要】 我々が野外で目にする地層や岩石がどのようにして生成し、褶曲・断層などの地質構造がどのようにして形成されるのかを講義します。また地層や地質構造の形成などに関わるプレートテクトニクスという変動の枠組みについて扱い、地球表層の大陸や海洋の配置が絶えず変化してきたことを講義します。将来少しでも地質学に関わる可能性のある学生に対して、導入となる授業にする予定です。

【キーワード】 地球、地層、地質構造、衛星画像、プレートテクトニクス、リモートセンシング、堆積岩、断層、褶曲

【関連科目】 『自然と技術/身の回りの地球科学』(0.5)

【到達目標】 地球で起こっている地学現象の基礎的な事項を理解することができる。

【授業の計画】

1. 10 倍の力。地球科学で扱う対象物の大きさの範囲。
2. 地球の形と内部構造。
3. 風化、侵食、運搬、堆積、変成などの地質現象と地質年代表。
4. 堆積岩 (礫岩、砂岩、泥岩、砂岩泥岩互層) と堆積構造。
5. チャート、石灰岩と火山岩類。
6. 褶曲 (背斜、向斜) と断層 (正断層、衝上断層、横ずれ断層)。
7. 空中写真を立体視することによって、断層や褶曲の存在を推定する手法。
8. 衛星画像を解析するリモートセンシングの手法。
9. Google Earth (衛星画像+空中写真) で見る地質学。
10. シルクロード (中国・天山南路) におけるリモートセンシングを用いた地質調査。
11. ヴェーゲナーと大陸移動説。

12. プレートテクトニクスにおける三種の境界 (海嶺、トランスフォーム断層、サブダクション帯)。
13. ホットスポットとプレートの運動。
14. プレートテクトニクスとブルームテクトニクス。
15. 活断層と地震。兵庫県南部地震、中央構造線活断層系、南海地震。
16. 試験。

【教科書】

- ◇ 「地球と地層の科学ノート」を生協で購入してください。
- ◇ 参考書: そのつど紹介する。

【成績評価の方法】 毎回実施する小テストと期末試験を総合的に判断して評価します。

【再試験の有無】 なし

【受講者のメッセージ】 期末試験は 16 週目に実施します。高校で地学を学んでいなくてもかまいません。液晶プロジェクターを使って授業を行います。「地球と地層の科学ノート」を購入し、毎回必ず持参してください。携帯電話は音が鳴らないよう設定して鞆の中にしまい、授業中には絶対に出さないこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220775>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)

自然と技術 (Science and Technology)

身のまわりの物性科学 (Introduction to Material Science)

小山 晋之・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『物理学』)

【授業の目的】 我々の身のまわりには様々な“ブラック・ボックス”があふれています。携帯電話、・・・などなど、様々な物や現象に対して「なぜだろう?」という素朴な疑問について考えることを忙しさの中で忘れていませんか? 現代科学の根幹をなす材料科学～物性科学を紹介しながら物理学の論理的な思考方法を紹介するとともに、身のまわりの日常の物理現象の裏に隠されている原理を科学の眼で見る(理解する)こと～あるいは見ようとするのをこの授業の目的としています。『物性』とは、物質の示す色々な性質のことです。種々の物質の示す様々な物性を、原子核と電子のレベルまで踏み込んで、そのような物性が出現する理由を 20 世紀の物理学の代表である量子力学を用いて解明し、さらに優れた物性を示す物質を探索あるいは創製し、社会に還元することが物性科学の大きな目的となっています。

【授業の概要】 我々の身近にある物質の種類は多種多様です。ピカピカ光る金属もあれば、ダイヤモンドのように透明な結晶もあります。磁石につく鉄のような物質もあれば、パソコン、携帯電話に使われているトランジスタの材料となっている半導体もあります。また、銅のように電気抵抗率が小さく電気をよく通す物質もあれば、完全に電気抵抗がゼロとなってしまうような超伝導体もあります。このような物質の多様性を一歩物質の中に踏み込んで、なぜそのような性質が現れるのかを調べるのが物性科学の目的です。物性科学とはどういう学問であるかをできるだけ沢山の例を示しながら、できるだけやさしく解説します。また、身のまわりの様々な物理現象を中心にクイズ形式で皆さんに論理的な考え方を身につけてもらいたいと思います。

【キーワード】 物性科学入門, 物理的な考え方, 身のまわりの物理現象のなぜ, 様々な知識の有効活用

【到達目標】

1. 物性科学を通じて、物理学の論理的な思考方法の基礎が理解できる。
2. 身のまわりの色々な物理現象を通じて、物理的な考え方・論理的な思考方法についての認識を深める。

【授業の計画】

1. 講義の進め方と成績評価について (毎回のクイズとノート提出&レポートについて)

2. 序論 (1):身のまわりの物理現象の“なぜ?”について考えてみる
3. 序論 (2):物性科学とは?
4. 物質の構造 (1):物の詰め方と原子(イオン)の配列の仕方について
5. 物質の構造 (2):簡単な結晶構造について
6. 原子(イオン)を結びつける力 (1):結合力の起因とその種類について
7. 原子(イオン)を結びつける力 (2):温度と熱膨張について
8. 周期律表と物性 (1):原子の周期性と物性の関係について
9. 周期律表と物性 (2):量子数と周期律表について
10. 原子の世界の力学:量子力学と古典力学の違いについて
11. 量子統計:フェルミ粒子とボース粒子について
12. 電気抵抗:金属と半導体について
13. 超伝導 (1):超伝導とは?
14. 超伝導 (2):超伝導の限界(温度, 磁場, 電流の限界)について
15. 超伝導 (3):超伝導の起因, 超伝導の応用～これからの夢【ノート提出】
16. 総括授業:前回のクイズの解説【ノート返却】

【教科書】

- ◇教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。
- ◇参考書:平田雅子「好きになる理科系科目 便利で役立つ理系の知識」講談社サイエンティフィック,
- ◇参考書:稲場秀明「携帯電話でなぜ話せるのか 科学の眼で見る日常の疑問」丸善,
- ◇参考書:一橋大学理科教育研究会編「サイエンスミニマム 10 講++」培風館, その他

【成績評価の方法】 期末試験は行わず、授業中に出す身のまわりの物理に関するクイズあるいは講義内容に関する疑問点および最後の授業で提出してもらう各自の講義ノートとレポート(2回程度)を総合的に評価します。レポート(20%), ノート(30%), 授業への取り組み状況～毎回行うクイズへの取り組みなど(50%)などを元に総合的に評価します(ただし、評価割合の目安は括弧内パーセントです)

【再試験の有無】 無(原則として)

【受講者へのメッセージ】 ほぼ毎回の授業中に提出してもらおうクイズ (身のまわりの物理現象に関するものなど) は単なる出席点とはならないので注意して下さい。たとえ正解でなくとも、積極的に自分で考え、他の人に説明するという観点で考えてほしいと思います。また、自分なりに (自習したり調べた部分を強調するなど) 工夫して講義ノート (原則として最終回の1回前に提出【未提出の場合は再試扱いとなります】) してもらい、最終回に返却します) を作成して下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220776>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜・木曜の昼休み時間)

自然と技術 (Science and Technology)

環境科学入門～人間と地球の調和を目指して～ (Introduction to Environmental Science: Harmonization of Human and Global Environment)

山本裕史・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『自然と技術』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『化学』)

【授業の目的】 地域・地球環境問題に対する現在の取り組みとこれからの方向性に関する情報を得ることで、受講者自身の科学的・合理的な環境観や柔軟な判断力を育てる。

【授業の概要】 公害問題や地域・地球環境問題の現状と課題、その将来について、様々な最新データや考え方を紹介する。講義はあくまでも様々な観点を提示であり、どのように認識・判断・行動するかは受講者に委ねる。

【キーワード】 地球環境問題, 公害問題, 環境化学, 環境汚染物質

【到達目標】

1. 地球環境問題や公害問題についての誤解が少なくなる。
2. 受講者自らの環境観をもとに、判断・行動ができるようになる。

【授業の計画】

1. シラバス・講義概要の説明, 徳島の環境は十分にきれいか
2. 公害問題と地球環境問題とはどこが違うのか
3. どのような豊かさを求めるか
4. 人間はどこまで長生きしたいか
5. 人間と生物は共生できるか
6. 人口を支える水と食糧は得られるか
7. どこまできれいな環境がほしいか
8. 中間試験
9. 環境の負の遺産は修復できるか
10. 事業者による自主管理で環境は守られるか
11. 将来の世代にどこまで地下資源を残しておくか
12. リサイクルは地球を救えるか
13. ゼロエミッションは達成できるか
14. 地球環境問題は解決できるか
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 教科書: 環境科学～人間と地球の調和をめざして 2100円

【成績評価の方法】 宿題・レポート:40% 中間試験:30% 期末試験 30%

【再試験の有無】 有

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/envchem/yamamoto/chemspring.htm>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220777>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山本 (総合科学部3号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

自然と技術 (Science and Technology)

アクティブラーニングと科学 (Active Learning and Science)

齊藤隆仁・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学ではカリキュラムの体系に沿って学習を効率的に行う。ところが現在の科学が直面する現実の課題は、ひとつの専門知識・技術あるいは政策では解決できない。この講義では、知識を総動員して自らが設定する課題を科学的に議論することを目的として、多様な角度から議論できる課題についてグループ学習を行う。

【授業の概要】 地球温暖化に代表される環境問題あるいは血液型性格判断などの疑似科学など、多様な角度から議論できる課題についてグループ学習を行う。そのために論理思考法・批判的思考法をまず学ぶ。その後(1)典型的なグループ討論の手法を体験することに加え、議論を煮詰まらせない仕掛けとして、(2)テレビのクイズ番組でよくみられる聴衆応答システムをクラス内で実際に使い意見分布を調べる、(3)Web 掲示板で意見を書き込む・書き込んでもらう、などの IT 技術、あるいは(4)ビデオ教材などを組み合わせる。知識を覚えるだけの学習から抜け出し、他者の視点から「意外な」発見を引き出すことで、学習を「能動的」なものにするためのポイントを考えていく。以上の工夫をしながら科学的な議論を積み重ねていき、各自が設定する課題に対して小論文としてまとめる。

【キーワード】 グループ学習、グループ討論、聴衆応答システム、Web 掲示板

【到達目標】 多様な価値観をふまえて課題を議論できるようになり、科学的な小論文が書けるようになる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 議論の第一歩「アイス・ブレイキング」
3. 活発な議論のために「ブレイン・ストーミングと KJ 法」
4. 議論を収束する「マインドマップス」
5. 「聴衆応答システム」で大衆と会話する
6. 「Web 掲示板」で知る他者の視点
7. 共通課題のグループ学習 (1)
8. 共通課題のグループ学習 (2)
9. 共通課題のグループ学習 (3)
10. 個別課題 1 の課題設定

11. 個別課題 1 の討論・検討

12. 個別課題 1 の報告

13. 個別課題 2 の課題設定

14. 個別課題 2 の討論・検討

15. 個別課題 2 の課題報告

16. 総括授業

【教科書】 『科学的に説明する技術』ソフトバンククリエイティブ、福澤一吉著、900 円税別)

【参考書等】 アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門、佐藤望編著、慶応義塾大学出版会

【成績評価の方法】 授業への積極性 60%、提出物・報告発表 40% として評価する

【再試験の有無】 有り

【受講者のメッセージ】 各自が取り組む課題についての内容は授業時間外の自己学習で調べること。授業時間中はグループ討論が中心となり、積極的に発言する姿勢が望まれる。講義に社会人が参加し学生と共に議論を行う予定である。

【WEB 頁】 <http://physics.ias.tokushima-u.ac.jp/al>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220778>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp)

MAIL (オフィスアワー: 水曜日 12:00~ 12:50)

自然と技術 (Science and Technology)

水産と生物 (Fisheries and Aquabiology)

浜野 龍夫・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】 漁業と水産生物の生態や食材としての利用について学習することを通して、生物資源や漁村コミュニティの重要性を問ひかけ、必要とされる環境保全活動や生物資源の開発・利用研究について考える。水産業や水圏環境の保全が、各人がこれから学んで行く専門分野に支えられながら、各人の食生活を支えていることを理解する。

【授業の概要】 水生生物の生態の面白さ、その捕獲や資源増殖技術、そして料理などについて、映像を交えながら、地域の実例を中心に講述する。

【キーワード】 生物資源、水産、漁業、生態学

【関連科目】 『自然と技術/ 地域の農林水産業とその支援技術』 (0.2)

【到達目標】

1. 水産業や水産生物に関する基礎的用語を理解する。
2. 魚介類の味を知る。

【授業の計画】

1. シラバス・講義概要の説明
2. 魚の基礎知識
3. 淡水魚の生態と利用
4. 海水魚の生態と利用
5. ウニ・ナマコの生態と利用
6. エビ・カニの生態と利用
7. 巻貝の生態と利用
8. 二枚貝の生態と利用
9. イカ・タコの生態と利用
10. その他の水産動物の生態と利用
11. 藻類の生態と利用
12. 漁業、増殖と養殖、水産加工
13. 水産研究の実例-1
14. 水産研究の実例-2
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 なし

【参考書等】 必要なときには配付する

【成績評価の方法】 期末試験と授業への取り組み姿勢で総合的に評価する

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 講義は計画の順番どおりには行われません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220779>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

自然と技術 (Science and Technology)

インタラクティブシステムデザイン (Interactive System Design)

吉田 敦也・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】人工物, 特にコンピュータによるインタラクティブシステムの開発やデザイン (設計) に必要な基礎知識を提供する. また設計に必須の「考える」方法の意識化と習得をめざす.

【授業の概要】人工物, 情報メディア, インタラクティブシステムとは何かを概説する. この作業を, サイバースペース (インターネット世界) を介在させた教師-学生関係システムを構築しながら行い, 製品の中で実現 (デザイン) すべき人とモノとのインタラクションについて認知科学的側面から学ぶ. また, 情報デザインに必要な知識, 視点についても学ぶ. 行動学, 認知科学, ヒューマンインタフェース, 人間工学, メディア心理学, 仮想社会工学などの基礎知識も紹介する. 「わかりやすさ」の評価手法などについても概説する.

【到達目標】

- (1) 基礎的な知識, 概念, 方法を学ぶ. (2) 情報デザインやシステム設計における考え方に触れる.
- (3) パソコンとインターネット環境下でのインタラクティブシステムのプロトタイピングを体験する.

【授業の計画】

- はじめに (インタラクティブシステムデザインとは, インターネットセキュリティとマナーについて)
- バーチャルクラスルームの使い方 (インターネットを介在させたブレンド型授業の運営の理念と方法)
- モノ作りの人類史 (トンカチ, フォークから, Walkman, コンピュータ, iPhone, そして Web3.0 へ)
- 時代の欲望 (たまごっちの本質, ロボットとの愛のかたち, 技術の社会化, 本能と行動, BMI)
- 感動興奮の技術 (ドラえもん, ターミネータ 2, クレヨンしんちゃん, アバターの情報工学的含蓄)
- 考えるとは何か (答の無い問題に答を出す, 思考は技術, 考える方法, '正しい' とは)
- 外に飛び出せ! (答えは自然の中に, フィールドワークの方法論, 境界領域研究の視点)

- 人とモノとの接点 (問題状況とユーザインタフェース, ハイパーメディア)
- システムデザイン (要求, 調査と分析, モデル化, 解, 決定と表現, プロトタイピング)
- インタフェースの課題 (ユーザビリティ, アイコン, メタファ, ユニバーサル観)
- 利用の側面から見た評価 (ヒューリスティック, チェックリスト, 実験と測定, 認知, 統計的解析)
- 作業課題 1 「わたしはかもめ測定」 (コンピュータリテラシーの自己形成と自己評価)
- 作業課題 2 「Flash でフォークを描く」 (ソフトウェア利用のためのメタ知識の習得と表現力への接近)
- 作業課題 3 「Flash で”ぎゅーちゃん”を描く」 (ソフトウェアを楽しく使うマインド形成)
- 作業課題 4 「Flash で押しやすいボタンと応答をつくる」 (人とコンピュータとのインタラクション開発)
- 作業課題 5 「Flash で学べるシステムの設計」 (わかる, 気づく, 交流, 協調の支援)

【教科書】

- ◇ 開講後, バーチャルクラスルームにて適宜指示する
- ◇ <http://elearning.ias.tokushima-u.ac.jp/general/>

【成績評価の方法】授業中に指示された課題等のインターネットを通じた提出状況と, バーチャルクラスルームへの参加度により判定する

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】授業の一部は遠隔学習 (E ラーニング) によって行うので, 自宅, 下宿, モバイル環境からのインターネットアクセスが可能であることが望ましい. また, 今年度より, iPhone (スマートフォン) を活用する場合がある.

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220780>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】PC 作業等の関係から授業の進行はシラバスに記載の順番と一致しない部分がある

自然と技術 (Science and Technology)

数理の世界 (World of Mathematics)

桑原 類史・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『数学』)

【授業の目的】 高校までの数学では、「与えられた問題に公式を当てはめて答えを出す」ことの繰り返しだったかも知れませんが、「数学する」ことの本質は、素朴な問題やパズルを解いてゆく過程の中に見ることができます。この講義では、誰にも分かる素朴な問題を取り上げ、それを考察する中から数学的なアイデアが育ってゆく様子を実感することを目的とします。全ての学問研究のルーツはギリシャ時代の数学(幾何学)にさかのぼることができます。このように「数学する」ことの本質を知るとは人間社会の文化、科学、技術を支える人間の知的活動を体感することにつながるものと言えます。

【授業の概要】 第1部では、地図にかかわる問題を出発点として「グラフ」のもつ興味深い性質について考察する。第2部では、作図問題を取り上げ、数と図形の「意外な」関係をさぐる。さらに、高校数学の内容の拡がりについて考える。

【キーワード】 グラフ, 作図

【到達目標】

1. 数学的概念や理論が作り出されていく過程を学び、「数学する」ことを実感する。
2. 自分の頭で論理的に考え、さらに、自分の考えを的確に表現(説明)することができる能力を高める。

【授業の計画】

1. 導入(講義の概要の説明)
2. 第1部: 点と線の幾何学-導入
3. 5人の王子の問題, 5つの城の問題, グラフ
4. 平面グラフのオイラーの公式
5. 王子の問題, 城の問題の解決
6. 曲面上のグラフ
7. 地図の塗り分け(四色問題)
8. ケンプの「証明」, その後の顛末
9. 彩色問題の周辺-美術館定理
10. 第2部: 作図と数-導入
11. 定規とコンパスによる作図(基本的な作図)
12. 数の演算と作図

13. 四則演算で閉じた数の集合

14. 作図と代数方程式, 作図可能な数

15. 三大作図問題の不可能性の証明

16. 総括授業

【教科書】 教科書は指定せず, 板書あるいはプリントによる講義。

【参考書等】 適宜, 紹介します。

【成績評価の方法】 授業中の小テストなど授業への取り組み状況(75%)および期末レポート(25%)をもとに総合的に判断します。

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 「すぐに役に立つ数学」の講義ではありません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220781>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

自然と技術 (Science and Technology)

宇宙物理学入門 (Introduction to Astronomy and Cosmology)

伏見 賢一 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『物理学』)

【授業の目的】宇宙の起源・進化・宇宙の構造は人類が生まれて以来の長い間にわたる疑問である。この講義ではこれらの疑問を如何にして解明してきたかを、最新の観測・理論を紹介しながら解説する。

【授業の概要】1. 太陽の構造, 2. 恒星の進化, 3. 宇宙の構造, 4. 宇宙の進化, 5. 物質の起源

【キーワード】宇宙論, ニュートリノ, 宇宙暗黒物質, 宇宙の構造

【到達目標】

1. 宇宙の構造・進化の歴史は、多くの人が興味をもつ分野である。一方で、誤解に基づいた珍妙な宇宙論に関する書物が溢れている。この講義で解説する宇宙の構造や進化に関する様々な説をよく理解し、正しい知識に基づいて議論する事ができるようになること。
2. 太陽ニュートリノの観測を発端とした、ニュートリノの研究の歴史について
3. 宇宙という巨大なスケールの計測をどのようにして測ってきたか
4. 膨張宇宙論と定常宇宙論の論争の要点を理解し、現在の観測事実がどちらを支持するかについて
5. 我々を作る物質がどのようにして作られてきたか、何故我々は存在しうるかについて良く考えること

【授業の計画】

1. 宇宙の諸階層
2. 太陽の様子:表面温度の測定, 太陽表面から外層について
3. 如何にして太陽の内部を見るか? ニュートリノ天文学, ニュートリノ観測装置 KAMIOKANDE, SNO などによる太陽ニュートリノ観測の成果
4. 太陽内部の核融合反応 (p-p chain)
5. 恒星の進化:恒星の誕生, 恒星内部の核融合反応
6. 恒星の死, 超新星, 白色矮星, 中性子星, ブラックホール
7. 宇宙の構造:銀河系の形, 銀河系の距離の測定
8. 銀河系の分布, Hubble の法則
9. 宇宙論 (古代 ~ 近代の宇宙観)
10. 宇宙論 (Big Bang 宇宙論と定常宇宙論)
11. 膨張宇宙論 (アインシュタインの理論)

12. 物質の起源:初期宇宙元素合成

13. 物質の起源:物質と反物質のアンバランス

14. 宇宙の進化を決める様々なパラメーターとその観測

15. 我々の存在可能性について

16. 総括

【教科書】

◇教科書:なし

◇参考書:講義中に紹介する本を積極的に読むこと。

【成績評価の方法】 单元ごとのレポート 3 回程度 (50%) 及び期末レポート (50%)

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 講義ノートを準備すること。講義で紹介する本を沢山読んで色々考えることを奨める。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220782>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 平日の 11:50-12:50)

自然と技術 (Science and Technology)

地表環境の地学 (Earth surface processes and environments)

西山賢一・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『自然と技術』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『地学』)

【授業の目的】地球温暖化, 海面上昇, 異常気象, 砂漠化, 水資源の汚染, 資源の枯渇など, 地球規模での種々の環境問題が懸念されている. このような地球規模での環境変化を理解するためには, 地球科学の知識が必須である. 特に, 地球の表層で起こる環境変動を理解しておく必要がある. この講義では, 地球表層で生じる種々の地学的現象を解説するとともに, 自然と人間とのよりよいつきあい方を考えていく.

【授業の概要】地球環境を特徴づける種々の地学的現象(気候変動, 海水準変動, 気象, 水循環, 地下水, 土壌)について学ぶ. また, 地球温暖化をはじめ, 砂漠化, 地下水・土壌汚染, 資源開発, 土地利用, 自然災害についても理解を深める.

【キーワード】環境地学, 地球科学, 地球環境, 地表, 自然環境

【到達目標】地球環境を特徴づける地学現象を理解し, 地球環境問題の基礎知識を身につける.

【授業の計画】

1. 地表環境の特徴と変化
2. 地球温暖化の予測
3. 過去を知るテクニック:年代測定法
4. 気候変動とは何か?
5. 海水準変動とは何か?
6. お天気の世界
7. 大気の問題と異常気象
8. 地球上をめぐる水の特徴と利用
9. 地下水の特徴と利用
10. 地下水・土壌汚染の特徴と対策
11. 土壌の形成と砂漠化
12. 鉱物・エネルギー資源
13. 土地利用を考える
14. 自然災害とその予測
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】教科書:指定しない. 必要に応じてプリントを配布する.

【参考書等】参考書:「百年・千年・万年後の日本の自然と人類」古今書院, 「地球史が語る近未来の環境」東大出版会, 「新版 自然環境の生い立ち」朝倉書店, 「環境と地質(全5巻, 日本語訳)」古今書院

【成績評価の方法】期末試験と, 毎回の小テストを総合的に判断して評価する.

【再試験の有無】再試験あり

【受講者のメッセージ】毎回パワーポイントを使用します. 毎回の講義の最後に, 当日の理解度を確認する小問題を出します. 講義に関する質問を歓迎します. ビデオを使うことがあります.

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tigaku/index.htm>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220783>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 西山 (総科3号館2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp)

MAIL (オフィスアワー: 月曜日 12時~13時)

自然と技術 (Science and Technology)

化学と技術 -生きている化学はおもしろい- (Chemistry and Technology)

和田 眞・理事/徳島大学
2単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『化学』)

【授業の目的】 化学は日常生活と深いかかわり合いをもっているが、意外と化学的な概念や知識を知らないで生活している人が多い。本講義では「生きている化学・化学技術・化学史を学びながら人間を考える」と題して、実生活において化学が果たしている役割を平易に解説し、生きた化学の香りがわかるように講義する。文科系、理科系の学生とも「化学の目」で身の回りのものを理解することは現代人として身につけなければならないことである。そして、それこそが、「持続可能な社会づくり」の第一歩と考えられる。巨大化し、複雑化した化学と人類の暮らしが、あまりにも乖離してしまった現代にあって、化学と実生活の橋渡し役すなわち通訳者となりうる講義としたい。その上で、化学を創造してきた人間の歴史・化学史を通して、学生の皆さんと共に人生を考え、対話型授業による「心底からの教育」を実践したい。

【授業の概要】 化学および化学技術の進歩により人類の生活は格段に豊かになり、われわれの身の回りには化学物質が溢れ、化学物質と一緒に生活をしていると言っても過言ではない。まず、身近にある化学および化学物質を取り上げ、われわれの生活との関係について述べたい。それらの化学および化学物質の発見がどのように達成されたのか、そこには発見のドラマと発見者の人間の歴史が秘められている。大発見の化学史をひもといて、化学と人間を見つめたい。その上にとって 21 世紀の人類の生活と化学の役割について議論したい。

【キーワード】 化学, 科学技術, 科学史, 大発見, 化学と人間, 人間の歴史

【到達目標】 化学は暗記もので、大学入試のためにあるもの、環境汚染のもとになるもの、生活とは関係ないものなど、暗いイメージを払拭し、極めて生活に密着しており、重要な科学技術であることを認識してもらい、自分自身で化学の目を持つことを到達目標とする。その上で、大発見のドラマにふれ、将来の人生目標を考える機会となることを望みたい。

【授業の計画】

1. なぜ化学を学ぶのか
2. 身の回りの有用化学物質と大発見のドラマ
3. 2010 年ノーベル化学賞受賞者・根岸英一教授の業績と人
4. 2010 年ノーベル化学賞受賞者・鈴木章教授の業績と人
5. 1979 年ノーベル化学賞受賞者・H.C.Brown 教授の業績と人

6. 1997 年文化勲章受章者・向山光昭教授の業績と人
7. 世界的人名反応・光延反応の発見者光延旺洋教授の業績と人
8. 生物が作る物質を世界で初めて人工合成—ウェーラーの大発見—
9. ヘビの夢から化学構造を思いつく—ケクレの大発見—
10. 18 歳の少年が人類最初の合成染料を人工合成—パーキンとバイヤーの大発見—
11. 世界初の合成繊維ナイロン—悲劇の天才・カロザースの大発見—
12. 気体から高分子ができる—チーグラ—とナッタの大発見—
13. 2000 年ノーベル化学賞受賞者・白川英樹教授の業績と人
14. 2001 年ノーベル化学賞受賞者・野依良治教授の業績と人
15. 2002 年ノーベル化学賞受賞者・田中耕一氏の業績と人
16. 化学と人間—21 世紀の人類の生活と化学の役割—
17. 総括授業

【教科書】 なし、資料を配付します。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、レポートなどをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 化学を勉強してこなかった学生、化学の嫌いな学生、化学に無関心な学生にも化学の面白さや素晴らしさを伝えたい。したがって貧欲でやる気のある学生を歓迎します。学生の発表と討論を重視します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221983>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 和田 (088-656-7251, wada@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 前期:金曜日10時15分-10時45分総合科学部3号館)

自然と技術 (Science and Technology)

資源と環境のはなし (Natural Resources and Environmental Issues)

服部 大輔・非常勤講師
2単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 持続可能な社会作りは、ますます重要となっており、劣化がすすむ生物資源の保全や地球温暖化防止などの環境問題は特に注目されている。しかし、情報技術の進歩に伴い様々な情報があふれ、何が真実なのか分かりにくい世の中になっている。加えて、一概に環境問題と言っても、森林学、生態学、農学、政治経済学、地球物理学など広範な分野を横断するため、非常に難解な側面がある。本授業では、このような環境問題をひもとくにあたって科学的な考え方や解析方法をマスターすることにより必要最低限の環境リテラシーを身につけることを目的とする。

【授業の概要】 環境問題では熱帯雨林の破壊のように国外で起こるような問題が地球規模で私たちに影響を与える事もある。一方で私たちの身近に起こる問題が私たちに影響を与えることもある。グローバルで起こる問題とローカルで起こる問題は、どちらも重要であると考えられる。本授業では、前半に国外 (主にボルネオ島) における熱帯雨林の破壊と修復の事例にフォーカスを当て写真などを紹介し議論してゆく。後半は徳島県内の環境問題や温暖化防止活動について産学民官連携の事例にもふれ紹介していきたい。また、はじめと中盤の講義では仮説思考、戦略思考、強みと弱みの分析手法、PCM-WS 手法などといった基本的な考え方や解析手法について紹介する。

【キーワード】 生態系の修復、焼き畑、ライフスタイル、LED 付け替え、地球温暖化防止

【到達目標】

1. 環境問題の現状をまず認識する事
2. 様々な思考方法や解析方法の存在を認識する事により必要最低限の環境リテラシーを身につける。

【授業の計画】

1. 本事業の立ち位置、授業概要、仮説思考、戦略的な思考方法
2. 熱帯雨林における環境 ~ 森林土壌環境を中心に ~
3. フタバガキ科の生態 ~ 70m の超巨大高木を取り巻く環境 ~
4. ボルネオ島でくらすイバン族の人々の暮らし
5. イバン族が行う焼き畑
6. 生態系の修復を目指した植林の紹介 I

7. 生態系の修復を目指した植林の紹介 II
8. 産学民官連携活動、SWOT 分析、PCM-WS 手法の紹介
9. IPCC の紹介、日本及び四国の温暖化とその影響
10. ライフスタイル部門における二酸化炭素削減活動 I
11. ライフスタイル部門における二酸化炭素削減活動 II
12. カーボンオフセット事業 (CO2 売買) への取組
13. 那賀町 LED 一斉取り替え事業の紹介
14. 緑の分権改革の紹介
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 使用しない。

【参考書等】 環境白書 <http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h22/pdf.html>

【成績評価の方法】 レポート 30 点、授業に対する姿勢 40 点、期末試験 30 点とする。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 毎回出席すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220785>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 服部 . (オフィスアワー: 088-678-6014・ecomirai.hattori@gmail.com)

自然と技術 (Science and Technology)

災害を知る (Understanding Disasters)

中野 晋 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

2単位 前期 金 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】近年、地震、津波、洪水、高潮、竜巻など過去に例をみないような災害が頻発している。災害列島日本で暮らしていくために必要である災害について基礎的知識と最新情報を理解させる。

【授業の概要】地震や風水害など代表的な災害のメカニズムや最近発生した災害の実態について紹介し、自然災害とはいったいどのようなものかについて各分野の専門家が講述する。

【キーワード】地震災害、風水害、火災、自然災害、防災士

【関連科目】『自然と技術/ 災害に備える』(1.0)

【到達目標】

1. 日本で発生が予測される自然災害のメカニズムについて理解する。(1-6回)
2. 阪神大震災など過去の災害の実態を理解し、災害発生時の状況がイメージできる。(7-15回)
3. 人工呼吸、心臓マッサージ、AED の使用法などの救急救命技術を身につける。(16回)

【授業の計画】

1. オリエンテーション・防災士とは/レポートまたは小テスト (中野)
2. 風水害/レポートまたは小テスト (武藤)
3. 土砂災害・火山災害/レポートまたは小テスト (西山)
4. 強風・竜巻災害/レポートまたは小テスト (長尾)
5. 切迫性の高い南海地震/レポートまたは小テスト (大角)
6. 地震災害/レポートまたは小テスト (村田)
7. 阪神・淡路大震災の体験を通して/レポートまたは小テスト (末澤)
8. 医学と災害/レポート (西村)
9. 意思決定訓練 (クロスロード)/レポートまたは小テスト (金山)
10. ライフライン被害/レポートまたは小テスト (上月)
11. 火災/レポートまたは小テスト (徳島市消防局)
12. 津波災害の歴史/レポートまたは小テスト (村上)
13. 災害医療/レポートまたは小テスト (三村)
14. 被災者の心理ケア/レポートまたは小テスト (佐藤)
15. 高潮災害/レポートまたは小テスト (中野)

16. 普通救命講習 (徳島市東消防署)

【教科書】防災士教本, 平成 23 年度版, 日本防災士機構編

【成績評価の方法】各講義ごと (救命救急講習を除く) に理解度確認のための小テストまたはレポートを課す。到達目標の達成度は小テストまたはレポートの総点を 100 点に換算して評価し、評点が 60%以上を当目標のクリア条件とする。なお、普通救命講習は評価の対象に含まれない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220786>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中野 (A310, 088-656-7330, nakano@ce.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: オフィスアワー:年度ごとに学科の掲示板を参照のこと。)

【備考】

- ◇ 本講義「災害を知る」と後期の「災害に備える」は特定非営利活動法人・日本防災士機構の「防災士養成研修プログラム」に準拠している。
- ◇ 本講義は「徳島大学防災リーダー養成講座」の前半部分に相当する。
- ◇ 本講義「災害を知る」と後期の「災害に備える」の両科目に合格したものを、「徳島大学防災リーダー」として認定する。またこの認定をもって、「防災士」の受験資格が与えられる。
- ◇ 9 の訓練は土曜日午後を開講予定である。
- ◇ 普通救命講習は徳島市東消防署のご協力で土曜日または日曜日午後を実施予定である。講習修了者には普通救命講習修了証が授与される。日程については開講時に連絡する。

日本事情 (Japanese Culture)

日本事情 I (Japanese Culture 1)

(留(留))

大石 寧子 教授/国際センター

2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本事情』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本事情』)

【授業の目的】日本及び日本人について理解を深めることを目的とする。また知識を深めることによって大学生活の環境を自ら整えることも目指す。

【授業の概要】日本の文化・習慣・常識・価値観などに関して、講演や資料を理解し、自国の文化・習慣・常識・価値観などとの比較を地域の人や日本人学生とのディスカッションを通して考えていく。また各人がテーマを決めて、調査・発表をする。

【キーワード】日本・日本人を知る

【到達目標】

1. 生教材 (新聞・雑誌・テレビなど) を通して日本を理解する
2. 生教材を通して得たことをもとに自分のテーマで調査・発表をする
3. 調査・発表に関して日本人とのピアワークを遂行する
4. それぞれの過程で、日本語力のスキルアップを図る

【授業の計画】

1. 授業についてオリエンテーション, 受講者のレディネス (これまでの学習等) 調査
2. 生教材による授業①
3. 生教材による授業②
4. 生教材による授業③
5. 生教材による授業④
6. 講演のテーマについて準備 (テーマ・語彙などの準備)
7. 日本文化についての講演を聞く
8. 調査のテーマを決める, 調査方法・手段を検討する
9. 調査①
10. 調査②
11. 調査内容について日本人とのピアワーク①
12. ピアワークをもとに調査内容の見直し①
13. 調査内容について日本人とのピアワーク②
14. ピアワークを元に調査内容の見直し②
15. プレゼンテーション
16. 総括授業

【教科書】随時プリント等の資料を配布する。

【成績評価の方法】小レポート, プレゼンテーション, プレゼンテーションのまとめレポート, 授業への取り組み等を総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】調査では、日本人学生・地域の人達とのピアワークも行います。自分の日本語能力を最大限活用してみてください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220787>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大石 寧子 (国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30~ 12:00 但し事前に連絡があれば他の曜日・時間でも対応します。)

日本事情 (Japanese Culture)

日本事情 III (Japanese Culture 3)

(留(留))

三隅 友子・教授/国際センター

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本事情』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本事情』)

【授業の目的】大学生にとって必要な日本語の知識と能力を身につける。ニュースを含めた現代日本の時事問題を通して総合的な日本語力をつける。また日本語能力試験等の能力をつけたい受講者が多い場合にはその内容を加える予定である。

【授業の概要】時事問題に関しては、NHK の番組「視点論点」からトピックを選び、番組の視聴と共にそれに関連した新聞雑誌の記事から情報を読み取る。さらに、自分の意見をまとめて書き、発表するといった総合的な日本語力をつける。

【キーワード】メディア、ニュース、講義を聞く、提言を書く

【到達目標】

1. ミニ・講義を理解する。
2. テーマに関連した文献を読む。
3. 自分の意見をまとめ、発表する力をつける。

【授業の計画】

1. ガイダンス (授業の説明とレベルチェック)
2. ミニ講義を聞く①
3. テーマに関連した文献を読む①
4. テーマに関して話し合い、意見を書く①
5. ミニ講義を聞く②
6. テーマに関連した文献を読む②
7. テーマに関して話し合い、意見を書く②
8. ミニ講義を聴く③
9. テーマに関連した文献を読む③
10. テーマに関して話し合い、意見を書く③
11. ミニ講義を聞く④
12. テーマに関連した文献を読む④
13. テーマに関して話し合い、意見を書く④
14. 自分にとってのテーマを選んで調べて提言を書く
15. 発表会 (地域の方々や及び日本人学生の前を聴衆として)

16. まとめ < 状況によっては、授業の内容や計画が変更される場合があります。 >

【教科書】無

【参考書等】番組のスク립トや参考資料を適宜配布。

【成績評価の方法】出席点 60%、レポート 20%、発表 20%で評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】日本語で「読む」「聞く」「話す」「書く」の活動をたくさん行います。予習復習も必要です。積極的に授業に取り組んでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220788>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三隅 (国際センター, 088-656-7120, misumi@isc.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜日午前中)

【備考】H17 のカリキュラムでは授業科目:日本語 4

3) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects)

ウェルネス総合演習

ウェルネス総合演習 ... (医・歯 ((医・歯・口)1年)) / 小原 / 前期 水 1・2	109
ウェルネス総合演習 ... (医・歯 ((医・歯・口)1年)) / 中村 / 前期 水 1・2	110
ウェルネス総合演習 ... (医・歯 ((医・歯・口)1年)) / 行實 / 前期 水 1・2	111
ウェルネス総合演習 ... (医・薬・工 ((栄・薬・光)1年)) / 小原 / 前期 火 7・8	112
ウェルネス総合演習 ... (医・薬・工 ((栄・薬・光)1年)) / 佐藤 / 前期 火 7・8	113
ウェルネス総合演習 ... (医・薬・工 ((栄・薬・光)1年)) / 的場 / 前期 火 7・8	114

共創型学習

損害保険の実務から学ぶ ... / 鈴木 / 前期 火 9・10	115
学生FD ボランティアスクール -持続可能な社会に向けて- ... / 大橋 / 前期 月 7・8	116
名著講読 ―世界の見方-文学作品や科学随筆を読む― ... / 依岡 / 前期 月 7・8	117
異文化交流からのFD -グローバル社会とは何か- ... / 大橋 / 前期 月 9・10	118
人間行動の科学 ... / 荒木 / 前期 火 1・2	119
名著講読 ―自分探しと現代社会― ... / 大橋・中恵 / 前期 火 7・8	120
身近にある「ゆったりもの」 ―方言をつかまえよう― ... / 岸江 / 前期 火 9・10	121
この良さをわかってほしい ... / 佐藤 / 前期 水 3・4	122
学生FD ボランティアスクール -地域のボランティアリーダーと考えるFD- ... / 大橋・山本・渡部・光永 / 前期 水 7・8	123
iPhone アプリ開発入門 ... / 吉田 / 前期 水 7・8	125
埋もれた文化遺産 I ... / 中村・遠部 / 前期 金 9・10	126

ヒューマンコミュニケーション

乳幼児との交流から学ぶ ... / 荒木・内海 / 前期 水 1~4	127
社会人としてのマナーを学ぶ ... (医 ((保)1年)) / 關戸 / 前期 金 7・8	129

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(医・歯 ((医・歯・口)1年))

小原 繁・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 持続可能な社会づくりの必要性が今日よく言われている。これは、政策や環境教育だけではない。一番大切なこととして、人が「よりよく生きる (ウェルビーイング)」ことがあげられる。ウェルビーイングを支えるものとして住居、食事、生活環境など様々な因子があるが、まず健康の維持という点が基本になると考えられる。この授業では身体運動、スポーツを通しての身体機能の維持、向上の理論と方法を学ぶことを通じて、運動が疾病の予防と健康の維持、増進とがどのような関わりを持っているかを理解できるようにする。

【授業の概要】 身体機能向上の方法として、準備運動の後にサーキットトレーニングを行う。ここでは主に筋力増強が中心となる。全身的な身体の動かし方については卓球を通じて神経系の働き、循環系の働きなどについて説明をしながら、卓球による身体機能改善を目指す。

【キーワード】 健康、身体活動、身体機能、生活の質、生活習慣病

【到達目標】

1. 運動、スポーツがどのような仕組みで身体を改善していくかを理解する。
2. 身体機能、特に筋力を増強させる。
3. 健康と運動の関係を理解する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション (体育館 1F 武道場で行います)
2. 卓球ラリーの技術 (1)
3. 卓球ラリーの技術 (2)
4. 班別個人対抗戦
5. 卓球サーブの技術
6. 卓球ショートカットの技術
7. 卓球バックハンドの技術
8. 卓球左右移動の技術
9. ダブルスの練習
10. 卓球の技術総合復習 (1)
11. 卓球の技術総合復習 (2)
12. ウェルネス卓球選手権大会
13. ウェルネス講義 (生活習慣病について)

14. ウェルネス講義 (栄養・休養に関する生活スタイルについて)

15. ウェルネス講義 (運動による健康づくりについて)

16. 講義内容関連の試験

【教科書】 使用しない

【参考書等】 資料プリント配布

【成績評価の方法】 授業への取組の態度、試験 (講義内容関係)、卓球技能テストでの総合評価とする。

【再試験の有無】 再試験は行いません。

【受講者のメッセージ】 授業当日は運動着と体育館シューズを準備すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220790>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) **MAIL**

【備考】 前日に夜は睡眠不足にならないように注意し、体調を整えて授業に参加して下さい。卓球の技術の善し悪しは問いません。

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(医・歯 ((医・歯・口)1年))

中村 久子・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 心身の健康とともに社会生活においても健康な人間関係を構築することの必要性を社交ダンスを学習するなかで知ること, さらに, ダンスと生産形態が関連性をもっていることについて学習することを目的とする。

【授業の概要】 講義ではウェルネスについて概説し, 生産形態とダンスとの関連性について理解することによって, 運動の文化と健康について理解する。実習では, ワルツ, ジルバ, スクエア・ルンバ, ブルースなどの基本的なフィガーを習得し, 簡単なアマルガメーションを踊ることができるように実践を通して学習する。また, 楽しみながら体力づくりに貢献できるようにしながら, これらのダンスの背景にある文化に触れる。

【キーワード】 健康な生活, ダンス, 生産形態

【到達目標】

1. 社交ダンスの各フィガーをリズムに合わせて踊れるようにし, それぞれのダンスの背景を知る。
2. 生涯スポーツとしてダンスを心身の健康のために活用できる。
3. 生産形態とダンスの関連を知る。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. ウェルネスとは何か
3. ジルバのリズムとフィガーを実習する
4. ジルバの簡単なアマルガメーションを踊る
5. ワルツのリズムの取り方について実習する
6. ワルツのフィガーを実習する
7. ワルツの簡単なアマルガメーションを踊る。
8. ブルースのリズムの取り方とフィガーについて実習する。
9. ブルースの簡単なアマルガメーションを実習する。
10. スクエア・ルンバのリズムとフィガーについて実習する
11. スクエア・ルンバの簡単なアマルガメーションを踊る
12. 五つの生産形態とリズムについて
13. 海洋漁撈民のリズムとダンス, 狩猟民のリズムとダンス
14. 牧畜民のリズムとダンス, 山村畑作民のリズムとダンス

15. 水田稲作農耕民のリズムとダンス

16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。参考書等は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況 (20%), レポート (30%), 実技試験 (50%) と併せて総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 本授業におけるダンスは, あまり運動量が激しいものではありません。最近では, 生涯スポーツとして女性だけでなく, 男性にもダンスに興味を持つ人が増えてきています。女子学生だけでなく, 男子学生の受講をも歓迎します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220791>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(医・歯 ((医・歯・口)1年))

行實 鉄平・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 「ウェルネス」とは、疾病や障害の有無にかかわらず、心の豊かさ・生命の尊厳を大切に、食・身体活動・休養・睡眠をバランスよく取り入れて生活習慣を改善し、生活の質(QOL)を高めて生涯にわたるより健康なライフスタイルの確立を目指す生き方((財)日本ウェルネス協会)として捉えられている言葉である。本授業では、そのなかでも運動・スポーツとQOLとの関係性を体験的に学習することにより、ウェルネスの理解を深めていくことを目的としている。また、運動・スポーツを通して履修者相互の関係を深め、社会人基礎力として必要なコミュニケーション能力を養うことも目的としている。

【授業の概要】 この授業では、形態・身体組成、健康体力、運動と栄養について講義をするとともに、それらの測定・調査方法やトレーニング法を紹介する。加えて、生涯スポーツとして楽しむことのできるスポーツ(サッカー&野球)も体験してもらう。また、健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みについての講義も行う。学生には、これらを通して積極的に健康的な生活を設計し実践する能力、いわゆる「ウェルネス実践能力」を養ってほしい。

【キーワード】 ウェルネス、生涯スポーツ、スポーツとの多様な関わり(する・みる・ささえる)

【到達目標】

1. ”ウェルネスとは何か?”, またその必要性を理解する。
2. 自らの身体理解と、その測定・調査・トレーニング方法を理解する。
3. 健康づくりやスポーツを日常生活で実践し、豊かな人生を過ごそうとする積極的な姿勢を身につける。
4. 他者や集団と積極的にかかわり、楽しみの場を演出し、コーディネートできるようにする。
5. 健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みを理解する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. ウェルネスとは!(健康づくり概論)
3. 形態・身体組成の測定法
4. 体力・持久力の測定法

5. 運動・栄養調査
6. テニス1(フォアハンドストローク)
7. ” 2(バックハンドストローク)
8. ” 3(ボレー)
9. ” 4(スマッシュ)
10. ” 5(サーブ)
11. テニスゲーム1(ダブルス1)
12. テニスゲーム2(ダブルス2)
13. テニスゲーム3(シングル)
14. 健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みとは!
15. 期末試験
16. 授業の総括

【教科書】 基本的に使用せず、随時プリントを配布する

【成績評価の方法】 「出席 60%」「受講態度 10%」「試験 30%」の3つの観点から総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 これから歩む人生と健康、またはライフスタイルとの関わりについて自らが考え、積極的な姿勢で授業に取り組む、学生の受講を希望する。体調には充分配慮し、授業に臨むこと。なお、雨天時は、体育館内で行える実習種目に切り替える場合もある。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220789>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜午後)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(医・薬・工((栄・薬・光)1年))

小原 繁・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 持続可能な社会づくりの必要性が今日よく言われている。これは、政策や環境教育だけではない。一番大切なこととして、人が「よりよく生きる(ウェルビーイング)」ことがあげられる。その一つとして健康体力づくりがあげられる。この授業では、運動の重要性、自分の現状にあった筋力トレーニング、持久力トレーニングなどの方法などを、スポーツ医科学の観点から説明するとともに、実践を通して学んでいきます。また、生涯スポーツを教材に、自分にあった楽しみ方を見つけることも目的とします。

【授業の概要】 身体機能向上の方法として、準備運動の後にサーキットトレーニングを行う。ここでは主に筋力増強が中心となる。全身的な身体の動かし方については卓球を通じて神経系の働き、循環系の働きなどについて説明をしながら、卓球による身体機能改善を目指す。

【キーワード】 卓球, 体力づくり, 生涯スポーツ, 健康維持増進, 筋力

【到達目標】

1. 運動, スポーツがどのような仕組みで身体を改善していくかを理解する。
2. 身体機能, 特に筋力を増強させる。
3. 自分の体力, 能力, 目的に応じてスポーツを楽しむことができる。
4. 健康の意味を理解する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション (体育館1階武道場で行います)
2. 卓球ラリーの技術 (1)
3. 卓球ラリーの技術 (2)
4. 班別個人対抗戦
5. 卓球サーブの技術
6. 卓球ショートカットの技術
7. 卓球バックハンドの技術
8. 卓球左右移動の技術
9. ダブルスの練習
10. 卓球の技術総合復習 (1)
11. 卓球の技術総合復習 (2)
12. ウェルネス卓球選手権大会

13. (講義) 生活習慣病について・レポート

14. (講義) 栄養・休養に関する生活スタイル・レポート

15. (講義) 運動による健康づくり・レポート

16. 総括授業

【教科書】 教科書は使いません。資料配付

【成績評価の方法】 出席点で合否が決まります。次の段階の評価は、卓球の技能点です。さらに3回の講義のそれぞれのレポート内容により評価します。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220792>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) Mail

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(医・薬・工((栄・薬・光)1年))

佐藤 充宏・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】運動が心身の健康に及ぼす影響について検討し、からだところを使ったアクティビティやスポーツの演習から、自らの生活をウェルネスデザインする力を身につける。

【授業の概要】持続可能な健康生活を構築できる素養を高めるため、グループワークを中心に学習を進める。健康運動の意義や効果などの理解を深め、大学生活における自らの健康行動をふりかえる。また、グループを通じて体を使ったコミュニケーションであるアクティビティや、スポーツ、健康トレーニングについて実習し、健康生活における身体知を身につける。

【到達目標】

1. 健康生活と運動との関係について理解する。
2. グループワークを通じて健康運動、スポーツ及びアクティビティの技法

【授業の計画】

1. 全体ガイダンス:クラス分け
2. 健康づくりと運動
3. 健康づくりのためのクラブづくり
4. 健康づくりアクティビティ計画
5. 健康づくりアクティビティ実施
6. 健康づくりアクティビティ評価
7. 栄養、休養、運動のライフスタイル
8. 中間試験
9. サッカー・ソフトボール・テニスの個人技術
10. サッカー・ソフトボール・テニスの守備と攻撃
11. サッカー・ソフトボール・テニスの基本練習
12. サッカー・ソフトボール・テニスのチーム戦術
13. サッカー・ソフトボール・テニスのゲーム
14. サッカー・ソフトボール・テニスのリーグ
15. サッカー・ソフトボール・テニスのふりかえり
16. 総括

【教科書】適宜資料を配布するので教科書は使わない

【成績評価の方法】活動評価、提出物、グループノートなど総合的に評価する

【再試験の有無】再試は行わない

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220793>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(医・薬・工 ((栄・薬・光)1年))

的場 秀樹・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】生涯にわたり生産的な生活を送るためには、豊かさの中で自らを律し、健康なライフスタイルを確立する必要がある。この授業を通して、学生諸君にトータルウェルネスの視点から健康なライフスタイルの確立に向けて努力する態度を養ってもらうことを目的とする。

【授業の概要】この授業では、健康体力、日常の身体活動、運動と栄養について講義をするとともに、それらの測定方法やトレーニング法を紹介する。加えて、生涯スポーツとして楽しむことのできるスポーツ(テニス)も体験してもらう。これらを通して、学生諸君には積極的に健康な生活を設計し実践する能力を養ってもらいたい。

【到達目標】

1. ウェルネスに関わる要因について理解する。
2. 健康なライフスタイルの確立に努力する態度を養う。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. ウェルネスとは何か? 健康体力の捉え方
3. テニス (基礎練習:グラウンドストローク)
4. テニス (基礎練習:グラウンドストローク)
5. テニス (基礎練習:ボレー)
6. テニス (基礎練習:サーブ)
7. テニス (総合練習:簡易ゲーム)
8. テニス (総合練習:簡易ゲーム)
9. テニス (総合練習:ゲーム)
10. テニス (総合練習:ゲーム)
11. 健康体力の測定
12. レジスタンストレーニング
13. 日常生活における身体活動量の測定
14. 栄養と運動
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】授業時に紹介する

【成績評価の方法】授業への取り組みと課題レポートより総合的に評価する

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220794>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

共創型学習 (Creativity Development)

損害保険の実務から学ぶ (Roles and Practices of General Insurance - How it supports people's life and the economy -)

鈴木 文明・非常勤講師
2単位 前期 火 9・10

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 損害保険が日常生活や経済にどのような役割を果たしているかを学び、消費者や社会人として必要な経済的備えである損害保険の基本的な知識を習得することを目的とする。また、損害保険業界の実情を理解し、就職活動の一助になることを期待する。

【授業の概要】 本講義では、私たちの生活を取り巻く、自然災害、病気やケガ、交通事故など各種のリスクに備えるシステムである損害保険が日常生活や経済に果たす役割と損害保険商品の概要などについて、実務家講師 (日本損害保険協会本部職員または同協会会員会社社員をゲストスピーカーに招く週がある) が、実社会を意識した実践的な講義を行うことを通して、損害保険に対する興味と理解を促進するとともに、消費者や社会人としての基礎的な保険知識の習得を図る。また、社会との関わりと法律と関わりを重視する。なお、講義の順番を変更することがある。

【キーワード】 損害保険, 保険, リスク

【到達目標】 損害保険の歴史、仕組みおよび意義を生命保険との対比のなかで理解し、損害保険会社が社会・経済の流れのなかで、どのように関わっているかを理解する。

【授業の計画】

1. 講義ガイダンス
2. 保険とは-保険の原理, 役割, 歴史
3. 損害保険業界の現状と日本損害保険協会の取り組み
4. 交通事故と賠償責任 (その 1)-自賠責保険
5. 交通事故と賠償責任 (その 2)-自動車保険
6. 自然災害に備える (その 1)-火災保険
7. 自然災害に備える (その 2)-地震保険
8. 病気やケガに備える-傷害保険・医療保険・介護保険
9. 企業のコンプライアンスと CSR(社会的責任)
10. 保険法の概要
11. 保険販売の現状
12. 損害保険会社の経営
13. 損害保険会社の業務 (その 1)-損害保険会社の機構と業務

14. 損害保険会社の業務 (その 2)-事故の発生から保険金の支払いまで

15. 学期末試験

16. まとめ

【教科書】 特になし。資料を配付する。

【参考書等】 【参照ホームページ】 社団法人日本損害保険協会 HP <http://www.sonpo.or.jp/>

【成績評価の方法】 学期末試験 60% , レポート 20% , 授業への取り組み状況 (20%) などを元に総合的に評価する (ただし、評価割合の目安は括弧内パーセントである。)。

【再試験の有無】 無し

【WEB 頁】 <http://lms.medsci.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220801>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 鈴木 . (オフィスアワー: 授業終了後, 教室において. 日本損害保険協会 四国支部・鈴木 電話 087-851-3344)

共創型学習 (Creativity Development)

学生 FD ボランティアスクール -持続可能な社会に向けて- (Student voluntary school for FD- innovation for sustainable development-)

大橋 眞・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 学生が主体的に授業に関わるという体験を通じて、大学の授業の意義を考えます。持続可能な社会をめざすことの意義を考えるための議論と活動体験をします。また、海外の大学生との交流を通じて、持続可能な社会をめざすことの意義を考察します。課外活動への積極的な関わりが求められます。

【授業の概要】 大学での学びに必要な主体性を育む教育を目指します。地域社会人と自主的な活動を通じて、自ら行動することの意義を考えます。また、地域社会人や留学生との交流を通じて、持続可能な社会をめざすことの意義を学ぶとともに、人から学ぶことについての理解を深めます。遠隔ビデオ会議により、海外の大学生と交流することもあります。常に授業や課外活動に積極的に関わる必要があります。

【キーワード】 FD, 地域社会人, 社会人との対話, 課外活動, 持続可能な社会, 主体性

【関連科目】 『共創型学習/ 学生 FD ボランティアスクール -地域のボランティアリーダーと考える FD-』 (0.5), 『共創型学習/ 学生 FD ボランティアスクール -持続可能な社会に向けた教育とは-』 (0.5), 『共創型学習/ 異文化交流からの FD -グローバル社会とは何か-』 (0.5)

【到達目標】

1. 地域社会人と対話する
2. 対話を通じて、持続可能な社会とは何かを考える。
3. 自ら課題を設定して、学ぶ素材を見つける
4. 学びの成果を次の議論の機会に反映させる。
5. 他人との意見の違いから、視点の置き方と意見の違いに対する思考を深める。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 持続可能な社会とは何か①
3. 持続可能な社会とは何か②
4. 持続可能な社会とは何か③
5. 現代社会の課題①
6. 現代社会の課題②

7. 現代社会の課題③
8. グローバル化と持続可能な社会①
9. グローバル化と持続可能な社会②
10. グローバル化と持続可能な社会③
11. エコチャリを考える①
12. エコチャリを考える②
13. エコチャリを考える③
14. 持続可能な社会に向けた FD①
15. 持続可能な社会に向けた FD②
16. 持続可能な社会に向けた FD③(総括)

【教科書】 資料はその都度配布します。

【参考書等】 必要に応じて配布します。

【成績評価の方法】 毎回のミニレポート 40%, 授業に関する課外活動への参加とこれに関わる期末レポート 60% として評価する

【再試験の有無】 再試験は行いません。

【受講者へのメッセージ】 この授業は、地域社会人向けの公開授業と同時開講する授業です。地域社会人と討論をしながら、理解を深めます。また、この授業に関連して頻りに課外の授業も開講されるので、それに積極的に参加することにより、行動力の育成をめざします。積極性が成績評価で重視されます。

【WEB 頁】 <http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/staff/hirowata>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220795>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】

- ◇ 課外活動への積極的参加が求められます
- ◇ 社会人との対話力をつけます
- ◇ 海外の大学生との対話を積極的に行ってください

共創型学習 (Creativity Development)

名著講読 ―世界の見方-文学作品や科学随筆を読む― (great books reading - how to see the world)

依岡 隆児・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 7・8

【授業の目的】本を読む習慣をつけます。寺田寅彦から『不都合な真実』までの古今の名著に触れ、現代社会で重要となる「世界」の多面的な捉え方について、社会人の方も交えて一緒に考え、互いに読み方や考え方の違いに触れることで、より深い理解が得られるようにします。

【授業の概要】「世界」の見方をテーマに、古今東西の名著を分野にとらわれずにバラエティ豊かに取り上げ、線を引きながら一緒に読みます。内容を確認したうえで、お互いに興味を引かれた箇所を披露しながら、理解を深めます。必要事項の検索ができるようにして、最後にはグループで発表を行います。また、図書館ツアーもする予定。

【キーワード】講読、世界、名著、環境

【到達目標】読書の習慣を養い、異なるものの見方を知ることによって社会性を培う

【授業の計画】

1. 授業ガイダンス
2. 文献リストの内容確認、作品ピックアップ (取り上げる予定の作品は、池田香代子『世界がもし100人の村だったら』、寺田寅彦『柿の種』、ユクスキュル『生物から見た世界』、エンデ『モモ』、ヘッセ『デミアン』、カフカ『変身』、鈴木孝夫『日本語と外国語』、ゴア『不都合な真実』、リヒテンベルク『リヒテンベルク先生の控え帖』など)
3. 図書館ツアー
4. 作品講読 (毎回違う作品の一部のコピーを三色ボールペン方式で読む)
5. 作品講読
6. 作品講読
7. 作品講読
8. 作品講読
9. 作品講読
10. グループ分け、テーマ選定、文献に基づいて発表準備、ディスカッション、レジュメ作成
11. ディスカッション、発表準備
12. ディスカッション
13. ディスカッション
14. グループ発表

15. グループ発表

16. 総括

【参考書等】依岡隆児『読書のススメ～四国から、グローバルに』(徳島新聞社)

【成績評価の方法】授業への取り組み(出席と発表など)により総合的に評価します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220796>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 12時から 13時)

【備考】

- ◇ リストアップされた本は各自が生協や本屋、図書館などで手に入れておいてください。
- ◇ 本授業題目は20年度、21年度、22年度入学者(適用年度)が対象となります。
- ◇ 25人で受講者調整

共創型学習 (Creativity Development)

異文化交流からのFD -グローバル社会とは何か- (Cross-cultural communications for FD -What is the global society?)

大橋 眞・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 海外の大学生や日本にきている他国からの留学生との交流をしながら、大学の授業に対してどのように積極的に関わっていくことが出来るのかについて、体験的に学びます。また、地域の社会人も交えて異なる世代・異なる考えを持った人と意見の交換をすることで、多様な視点で考え表現する力を身につけます。特に「異文化交流」をテーマとして、グローバル社会に対応出来る会話力を実践的に身につけることを目指します。また、同世代の文化的背景が異なる学生が「交流」ということの意味を考えます。このような形で対話力を育成する授業改革 (FD) についての意義を理解することを目的としています。

【授業の概要】 現代社会ではグローバル化が進行し、様々な価値観や文化的背景をもった人間同士の交流が必要となってきた。このような異文化交流において、相手方の文化に興味を持つとともに、自身の文化的背景についての理解を深めておく必要がある。この授業では、実際に異文化交流を体験しながら、異文化交流に必要な視点を探り、自身の文化的背景を学ぶことを通して、実際の対話力を身につけること目指していきます。また、自ら積極的に授業改革に参加するという自主性を育むことを目指します。

【キーワード】 共創型学習, 異文化交流, FD, 外国, 現代社会, 地域社会人

【到達目標】

1. 異文化交流により、相手方と自身の文化的背景を理解する
2. 海外の大学生や地域社会人とのコミュニケーション力をつける
3. 課外授業に対しても積極的に参加する行動力を身につける。

【授業の計画】

1. 授業ガイダンス
2. FDとは何か
3. FDに学生が関わる意義
4. 「異文化交流」とFD その1
5. 「異文化交流」とFD その2
6. 「異文化交流」とFD その3
7. 異文化交流に必要な視点1
8. 異文化交流に必要な視点2

9. 異文化交流に必要な視点3

10. 「異文化交流」から見えてくるもの1

11. 「異文化交流」から見えてくるもの2

12. 「異文化交流」から見えてくるもの3

13. 異文化交流とFD活動1

14. 異文化交流とFD活動2

15. 異文化交流とFD活動3

16. 総括授業

【教科書】 特になし

【参考書等】 特になし

【成績評価の方法】 毎回の小レポート 40%, 課外活動参加を含む授業への積極性に関わる期末レポート 60%として評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 この授業は、地域社会人向けの公開授業と同時開講する授業です。地域社会人と討論をしながら、理解を深めます。また、この授業に関連して頻りに課外の授業も開講されるので、それに積極的に参加することにより、行動力の育成をめざします。積極性が成績評価で重視されます。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life/GP/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220797>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

共創型学習 (Creativity Development)

人間行動の科学 (Behavioral Science)

荒木 秀夫・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 現代社会は、様々な問題が複雑に絡み合いながら、多くの危機に直面している。こうした中で、「持続可能な社会づくり」という課題が多くの分野で提起されつつある。一人一人の立場からできることは、何よりも身近な問題に疑問を持ち、それを何らかの可能な範囲で解決しようとするのであろう。授業では、人間の行動一般についての身近な問題を出し合い、それを簡単に、独創的な方法を共同で考えながら、調査、実験等を通じて解決策を見出すこと、そして体験を通じて科学を身近に感じ、さらに大きな問題に対する新しい視点を得ることを目的とする。

【授業の概要】 「人間の行動を科学的に調べる」・・・このことは何となく高度な作業と思うかもしれないが、身近な問題を簡単な方法で調べる方法は多くある。この授業では、「共創型学習・創成学習」として、学生自らが発案したテーマに対して共同で観察、実験、討論、発表を繰り返しながら何かを「発見」することを試みる。

【キーワード】 人間行動

【到達目標】 人間の行動を個別の学問分野にとらわれずに、全体としての問題を発見する能力を獲得する

【授業の計画】

1. オリエンテーション-行動科学とは-
2. 人間のコーディネーション能力
3. テーマ設定とグループ作成
4. 方法論の実習と測定-①
5. 方法論の実習と測定-②
6. 班ごとの実験・調査(実習)-①
7. 班ごとの実験・調査(実習)-②
8. 班ごとの実験・調査(実習)-③
9. 中間報告会-問題整理と仮説の検証-①
10. 中間報告会-問題整理と仮説の検証-②
11. 班ごとのワークショップ(実習)-①
12. 班ごとのワークショップ(実習)-②
13. 班ごとのワークショップ(実習)-③

14. データ処理と考察の進め方

15. プレゼンテーションの準備-問題・仮説・方法・結論など-

16. 発表と討論

【教科書】 授業では、プリント、資料を配付する

【成績評価の方法】 授業への参加態度 40%、実験・調査 30%、発表・報告 30% として評価する

【受講者へのメッセージ】 この授業は授業時間外でも、それぞれの課題に応じて活動を行うことがある。途中でリタイヤするとグループの他のメンバーに多大な迷惑をかけることになるので安易な気持で履修しないように。あくまでも自主的な態度が前提条件であることを忘れずに!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220798>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

共創型学習 (Creativity Development)

名著講読 ―自分探しと現代社会― (Seminar for memorial books-Seeking for your own self and present-society-)

大橋 眞・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 中恵 真理子・学術研究員/全学共通教育センター

2単位 前期 火 7・8

【授業の目的】本を読んで考えを深めたり, 社会人も交えて異なる世代・異なる考えを持った人と意見の交換をすることで, 多様な視点で考え表現する力を身につけます。「自分探しと現代社会」がテーマで, 人が「成熟」ということの意味を考えましょう。

【授業の概要】現代社会では「自分探し」は若者だけの専売特許ではなくなりました。この授業では「本当の自分」を探すのではなく, なぜ人が自分探しに駆り立てられるのかを客観的に見ることが1点目の目的, そこから人が「成熟」することとはどういうことなのかを考えることが2点目の目的です。授業は主にテキストを読んで(一回は映画『ローマの休日』を見ます)ディスカッションをします。授業の最後では, 各自気に入ったテキストを選んで発表してもらいます。

【キーワード】共創型学習, 講読, 自分探し, 成熟, 現代社会

【関連科目】『共創型学習/名著講読 ―名著を通して現代社会を考える―』(0.5)

【到達目標】

1. 自分を見つめなおすことにより, 読書力と考える力を身につける
2. 地域社会人とのコミュニケーション力をつける

【授業の計画】

1. 始めに
2. 「自分探し」をしたことがありますか?
3. 本と出合うということ
4. 自分と向き合う
5. 「自分探し」と現代社会との結びつき
6. 「変わること」への願望?
7. 「大人」になること
8. 「成熟」を考える
9. 「生きること」と現代社会
10. 自分探しということ
11. 大学での学びと自己の発見
12. 自分探しと生涯学習
13. 発表会の準備 1
14. 発表会の準備 2

15. 発表会

16. 総括授業

【教科書】特になし

【参考書等】特になし

【成績評価の方法】授業への積極性 60%, 報告・発表会 40% として評価する

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】この授業は, 地域社会人向けの公開授業と同時開講する授業です。地域社会人と討論をしながら, 理解を深めます。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life/GP/index.html>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220799>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 中恵 .

共創型学習 (Creativity Development)

身近にある「ゆったりもの」—方言をつかまえよう— (Let's enjoy dialects through survey !)

岸江 信介・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 身近にあって気づかないものの一つに方言がある。物心ついた時分から使ってきた「自分のことば」「地域のことば」についていろいろな角度から見つめたり、言語景観として地域の表示物の観察を通じて、適切な表示がなされているかどうかを分析する。

【授業の概要】 地域の方言や町の言語景観をテーマに取り上げ、フィールドワークを行う。方言の分析のほか、言語景観の観察を通じて多言語状況の実態を把握する。

【授業の計画】

1. みぢかなもの「方言」とは
2. 地域の方言や町の言語表示物を調べる -調べ方について-
3. 受講生のグループ化-グループによる方言研究と研究テーマの設定-
4. フィールドワークの準備-方言調査-
5. 方言資料などの収集の手順説明
6. 調査票の作成 1
7. 調査票の作成 2
8. フィールド調査 1
9. フィールド調査 2
10. 補充データの収集
11. 収集した方言の処理や言語景観に関するデータを整理する
12. 方言や写真などのデータベースを作成
13. 調査報告 1-プレゼンテーション-
14. 調査報告 2-プレゼンテーション-
15. 調査報告 3-プレゼンテーション-
16. まとめ

【教科書】 特に指定しない

【成績評価の方法】 成績評価については出席 40%、レポート 30%、発表 30%

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 少人数構成によるゼミ形式の授業なので、方言音声などのデータ収集のためのフィールドワークを実施する。ぜひ参加して頂きたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220800>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 社会人ボランティアの参加要請 (5 名程度)・・・方言や地域文化に興味のある社会人ボランティアの方で学生の調査補助をして下さる方を募集しています。

共創型学習 (Creativity Development)

この良さをわかってほしい (Talk about your favorites)

佐藤 征弥・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 自分の意見を正確かつ説得力をもって述べることは、社会のあらゆる場で必要とされることは言うまでもありません。この授業では、他人を惹きつけ説得する話しかた、プレゼンテーションの力を磨きます。また、そのプレゼンテーションをきちんと評価し、どううまく応えるかという技術も同時に身に付けましょう。

【授業の概要】 これは素晴らしい、面白い、ぜひ他人にも知って欲しいと思うような人物や物を誰も心の中に持っているはずですが、でも、その良さをきちんと他人に伝えることはできますか？ もともと同じ分野に興味のある人になら伝えられるかもしれませんが、その分野に無関心な人に興味を持ってもらうのは難しいものです。この授業では、普段心にしまっている自分がすごいと思う人や物について存分に語ってもらいます。そして、それが十分に伝わったかを聞き手に評価してもらいます。その過程で、プレゼンテーション能力や評価能力を養っていきます。語る内容は何でも結構。マイナーなものほどやり甲斐があるというものです。

【キーワード】 プレゼンテーション

【到達目標】 プレゼンテーション能力と、それを評価する力を習得する

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 教官の発表、評価方法の説明
3. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 1
4. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 2. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。
5. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 3. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。
6. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 4. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。
7. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 5. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。
8. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 6. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。

9. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 7. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。
10. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 8. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。
11. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 9. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。
12. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 10. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。
13. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 11. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。
14. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 12. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。
15. 学生による発表 (2 名ずつ)、それに対する評価 13. なお前回、評価が低かった者は再度発表の場合がある。
16. 総括授業

【教科書】 使用せず

【参考書等】 使用せず

【成績評価の方法】 発表時における他の受講生による評価をみる。さらに、他の受講生の発表を評価する際にそれが適切であるかについてもみる。

【受講者へのメッセージ】 授業の性質上、受講者は 10 名までとします。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220802>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

共創型学習 (Creativity Development)

学生FD ボランタリースクール -地域のボランティアリーダーと考えるFD- (Student voluntary school for FD-a round table-style discussion with volunteer leaders of local community)

大橋 眞・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 山本 真由美・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
渡部 稔・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 光永 雅子・学術研究員/全学共通教育センター

2単位 前期 水 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】地域のボランティアリーダーたちと親しく交流するなかで、自分のやりたいを発見したり、取り組んだりする基盤を形成します。徳島という地域社会が抱えている問題についても認識を高めます。また、学校支援活動、留学生や海外の大学生との交流などの課外活動に積極的に参加することにより、主体的な学習についての理解を深めます。

【授業の概要】大学の4年間は、自分のやりたいことを見つけ、取り組む良い機会です。本授業では、ボランティア活動に目を向け、徳島における様々な取り組みを紹介し、やりたいことを見つけ、実際の活動にまで導いてゆきます。本授業では、地域社会の中ですでに様々なジャンルで活動しているもっともアクティブなボランティアリーダーを招き、活動内容や取り組んだ動機などを語ってもらいます。その上で、社会人受講生も含めて、みなで地域の問題や課題に取り組むにはどうしたら良いかを考えます。また、学校教育支援活動や、留学生の日本語サポート、遠隔ビデオ会議による海外の大学生との交流を通じて、課外活動参加による自主性と幅広い視野を育成することを目指します。

【キーワード】ボランティアリーダー、地域社会、社会人との対話、活動計画、ボランティアの友達の輪、自分力、留学生への日本語サポート、海外の大学生との交流、遠隔ビデオ会議

【関連科目】『共創型学習/異文化交流からのFD -グローバル社会とは何か-』(0.5), 『共創型学習/異文化交流体験から何を学ぶのか』(0.5), 『共創型学習/異文化交流からのFD -グローバル社会に向けた教育とは-』(0.5), 『共創型学習/学生FD ボランタリースクール -持続可能な社会に向けて-』(0.5)

【到達目標】

- ①地域のボランティアリーダーたちと積極的に語り合い、交流できる。
- ②地域社会の問題や課題を知り、その解決法を考える。
- ③ボランティア活動を通じて、留学生と交流する。
- ④ボランティア活動を通じて、海外の大学生と交流する。
- ⑤自分のやりたいこと、取り組みたいことについて目標ができる。

【授業の計画】

1. オリエンテーションとアイスブレイキング
2. 地域社会とボランティア①
3. 地域社会とボランティア②
4. 地域社会とボランティア③
5. 学習支援ボランティア(山本)
6. 地域社会とボランティア④
7. 地域社会とボランティア⑤
8. 地域社会とボランティア⑥
9. 地域社会とボランティア⑦
10. 地域社会とボランティア⑧
11. 地域社会とボランティア⑨
12. 地域社会とボランティア⑩
13. 地域社会とボランティア⑪
14. 地域社会とボランティア⑫
15. 地域社会とボランティア⑬
16. 総括授業

【教科書】資料はその都度配布します。

【参考書等】必要に応じて配布します。

【成績評価の方法】成績はおおむね次の基準によります。①毎回のミニレポート 40%
②授業に関連する課外活動参加への積極性とこれに関わる期末レポート 60%

【再試験の有無】再試験は行いません。

【受講者へのメッセージ】①グループディスカッションでは意見や感想を積極的に出してください。みんなでブレインストーミングができるのが理想です。②授業外の時間をやりくりして、ボランティア活動に参加してください。③留学生のサポートや、海外で日本語を学ぶ学生に対する日本語サポートボランティア活動へ積極的に参加して下さい。

【WEB 頁】<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life/GP/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220803>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】

- ◇ ①ボランティアリーダーの都合により、当日ゲストの選定・順序は変更する場合があります。
- ◇ ②現場見学・実習には積極的に参加してください。
- ◇ ③社会人受講生の方は、事前アンケートを提出していただきます。定員オーバーの場合は、アンケート内容等を勘案して選抜させていただきます。

共創型学習 (Creativity Development)

iPhone アプリ開発入門 (iPhone Application Development - Introductory Course)

吉田 敦也・教授/大学院リシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 1. モバイル社会をイノベートする可能性の高いアプリケーションを開発できる人材育成, 2. モノづくりや起業に必要なマインド, 創造的思考力を備え, 目的設定や確実な実行ができる人材育成, 3. 実社会と接点を持ちながら開発や課題解決に取り組み, 新たな社会価値を生み出そうとする人材育成. これら 3 つの大きな目標のもと, 先端的インターフェイスを備えたモバイル端末であり, 地理的・時間的条件に関わらず一瞬にして世界ビジネスが可能となる米国 Apple 社の「iPhone アプリ」の企画・開発・公開の基礎を学習する.

【授業の概要】 スマートフォンと呼ばれる iPhone(アイ・フォーン)の使い方と活用の基礎, 特色ある iPhone アプリ, Apple 戦略, ビジネスモデル等について基本的知識を身につける. iPhone アプリ開発の基礎, 設計と制作に関する基本事項を学習する. これらの後, 簡単なサンプルアプリのプログラミング演習, そして, オリジナルな iPhone アプリの企画・開発に取り組む.

【キーワード】 iPhone アプリ, 創造的思考力, 企画・開発, プログラミング, 製品化

【到達目標】 独自の iPhone アプリを企画・開発し, App ストアに出品できる一歩手前まで到達する

【授業の計画】

1. はじめに (iPhone アプリとは, 本授業の進め方・ゴール・準備について)
2. スティーブ・ジョブズの思想とシリコンバレーの創発力
3. iPhone, iPodTouch の基本操作と iPhone アプリ
4. MacBook の基本操作と機能
5. 開発環境の構築
6. 開発ツールと基本操作
7. 開発の流れ
8. プログラミングの基礎 1-Objective-C
9. プログラミングの基礎 2-フレームワーク
10. プログラミングの基礎 3-インタフェースデザイン
11. サンプルアプリの制作 1
12. サンプルアプリの制作 2

13. サンプルアプリの制作 3

14. iPhone アプリの企画と iPhone らしさの設計

15. iPhone アプリのコーディングと製品としてのブラッシュアップ

16. 発表会

【教科書】 「基礎からの iPhone SDK 改訂版」鶴藺 賢吾 (著) ソフトバンククリエイティブ (2009/10/14)

【参考書等】

◇ 「ライトウエイト・プログラマのための iPhone アプリ開発ガイド」百瀬 健太 /古渡 晋也/プロモバイル株式会社 (著), 翔泳社 (2009/9/10)

◇ 「Phone アプリ成功の法則」日経 BP 社出版局 (2009/12/17)

◇ その他の情報・資料は開講後, バーチャルクラスルームにて適宜指示する

【成績評価の方法】 授業中の課題のインターネットを通じた提出状況, バーチャルクラスルームへの参加度 (議論, 情報共有, 提案等), 最終課題 (オリジナルな iPhone アプリ開発) の内容と発表に対するクラスメイト評価を総合して判定する

【再試験の有無】 実施しない

【受講者のメッセージ】 授業のなかで iPhone アプリ開発を演習するため, 設備的な制約から, 定員は 10 名とする. ただし, 大学の設備を使わず, 自身で所有の MacBook を持参できる学生は最大 10 名まで参加可能. また, 通信料のことから iPhone 機能の紹介などはデモ的に行う. 開発演習にあたっては iPhone は使わず iPodTouch を用いる. 授業の一部は eラーニングによって行うので, 自宅, 下宿, モバイル環境からのインターネットアクセスが可能であることが望ましい. iPhone を所有している受講者が多い場合は iPhone による授業運営も試みる.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220804>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】

◇ バーチャルクラスルームは <http://elearning.ias.tokushima-u.ac.jp/general/>

◇ 受講者は iPhone アプリ開発を実際に行うため, 授業時間外の作業も行う

共創型学習 (Creativity Development)

埋もれた文化遺産 I (Buried Cultural Heritage 1)

中村 豊・准教授/埋蔵文化財調査室, 遠部 慎・助教/埋蔵文化財調査室

2単位 前期 金 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】受講生自身が能動的に行動することによって、自ら問題点を見出し、創成する一手法を学ぶ場とする。本授業では、古代人の技術を体験し、また遺跡に自らの足で赴くことによって、単なる知識としてではなく、実際の古代人の生活を知り、現代社会を相対化する機会としたい。

【授業の概要】徳島大学近辺の遺跡を散策する。また、出土した考古遺物を製作することによって、古代人の実生活を体験してもらう。その後、県内の遺跡を訪問する機会を設け、グループ形式で調べて、まとめ、それぞれ発表を行う。それらの作業を通して、古代人の生活についての理解を深め、現代社会を相対化する。

【キーワード】出土遺物, 庄・蔵本遺跡, 常三島遺跡・新蔵遺跡, 実験考古学

【先行科目】『歴史と文化/考古学概論 I』(1.0)

【関連科目】『歴史と文化/徳島を考える』(0.5)

【到達目標】大学構内の遺跡出土品にに触れたり、製作実験したりする過程において、古代人の生活についての理解を深める。

【授業の計画】

1. オリエンテーション・常三島遺跡散策
2. 徳島大学構内の遺跡について
3. 徳島城下町・新蔵遺跡散策
4. 徳島城散策
5. 石器づくり 1
6. 石器づくり 2
7. 拓本を取ろう
8. 勾玉づくり
9. 研究発表課題概要説明・準備
10. 研究発表課題:文献探索・現地踏査
11. 研究発表課題:文献探索・現地踏査
12. 研究発表課題:中間発表・討議
13. 研究発表課題:文献探索・現地踏査
14. 研究発表課題:文献探索・現地踏査
15. 研究発表会

16. 総括授業

【教科書】教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法】授業への取り組み状況 50%, 報告・発表会 50%として評価する

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220805>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中村 (088-633-7224, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 8時30分~17時30分)

⇒ 遠部 (088-633-7236,) (オフィスアワー: 8時30分~17時30分)

【備考】石器作りなどの考古学的な実習があります。汚れてもかまわない服装をお勧めします。また、遺跡散策の際には、歩きやすい靴をお勧めします。主に常三島キャンパスにおいて授業を行います。その他、土日を利用してフィールドワークを予定しています

ヒューマンコミュニケーション (Human Communication)

乳幼児との交流から学ぶ (Collaborative Learning with Kids)

荒木 秀夫・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 内海 千種・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 1~4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】「持続的な社会づくり」というテーマが多く分野で提起されている。広くは環境、経済、科学技術問題など、人間にとっても社会にとっても一つの問題としてだけで捉えることができない大きな課題である。そのテーマとして、「コミュニケーション」問題があげられる。コミュニケーションは、単に「言葉のやりとり」ではない。その「崩壊?」は、極めて重大な結果を導くといっても過言ではない。この授業では、社会人としての人間力を高め、学生自らのコミュニケーション能力を自らの力によって向上させることを目的とする。

【授業の概要】授業ではコミュニケーション能力の開発を支援する「体験学習」を通して、自分と向き合い自分自身の人間関係について考える場を学生に提供する。社会人ボランティアの協力を得て授業を行い、学生が世代や立場の異なる人々との関係を膨らませ、考えや視野を拓ける機会とする。授業は、学内演習・地域の保育所実習等の体験実習を柱とし、学内演習では、参加型のワークを基本として、コミュニケーション・スキルについて学び、自分自身の人間関係について考える。保育所では毎週、特定の乳幼児との交流を通し「乳幼児期のヒト」と「親」を実験的に理解して、相手の気持ちを察する感性を磨く。授業を通して関わる様々な人々との交流を通し、社会人として求められる態度について考え、学生自身の視野を広げること場とする。

【キーワード】人間力、ホスピタリティ・マインド、役立ち感、自己肯定感、子育て支援

【到達目標】1. 適切な礼儀やマナーを身につける。2. 相手の考えや気持ちを受け止めることができる。3. 自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。4. 仲間の様子に目を向けることができ、共に喜び合ったり、励ますことができる。5. 関わりを通して、自己を振り返ることができる。

【授業の計画】

1. 「コミュニケーション」-なぜ乳幼児から学ぶのか-
2. 学内演習Ⅰ・コミュニケーションスキルトレーニング・乳幼児との交流実習準備
3. 学内演習Ⅱ・コミュニケーションスキルトレーニング・乳幼児との交流実習準備

4. 学内演習Ⅲ・保育所実習にむけて (グループ討議)・乳幼児との保育所実習準備
5. 保育所実習 1
6. 保育所実習 2
7. 保育所実習 3
8. 保育所実習 4
9. 保育所実習 5
10. 保育所実習 6
11. 保育所実習 7
12. 保育所実習 8
13. 保育所実習 9
14. 保育所実習 10
15. 振り返り・まとめ
16. 総括授業-自分への気づき-

【教科書】なし。配布する資料を使用する。

【参考書等】高塚人志著「いのちにふれる授業」小学館、「自分が好きになっていく」アリス館、「いのちを慈しむヒューマン・コミュニケーション授業」大修館書店、「赤ちゃん力」エイデル研究所

【成績評価の方法】出席状況 (33%), レポート (33%), 授業に取り組む姿勢・態度 (33%) から総合評価する。

【再試験の有無】原則として行わない

【受講者へのメッセージ】人間関係が希薄な現代においては、年齢を超えた人間関係作りや、コミュニケーション (お互いの考えや気持ちを理解しあうこと) を意図的に学ぶことが必要である。人と関わるには、相手の心の有り様を想像し、相手の心に寄り添った行動をすることが大切である。交流する乳幼児達はなかなか自分の思うようにならないかもしれないが、自分のパートナーに寄り添い、相手の気持ちを表情や言動から推し量り、必死になって自分のこととして考え、関わりをもってほしい。そんな体験を積み重ねることでホスピタリティ・マインドに気づき、「達成感」や「人の役に立つ喜び=役立ち感」そして「自己肯定感」を実感するだろう。この授業をステップに、社会人としての人間力

を高め、専門的な知識を積み上げるための基礎力を充実させてほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220806>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ヒューマンコミュニケーション (Human Communication)

社会人としてのマナーを学ぶ (social communication)

(医 ((保)1年))

關戸啓子・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2単位 前期 金 7・8

【授業の目的】 将来の医療従事者として必要な人間力を高め、学生自らのコミュニケーション能力を向上させるため、本授業ではまず社会人としての基本的なマナーを学習することを目的とする。患者や同僚・他職者と良い人間関係がとれるようになる一助とする。

【授業の概要】 この授業では特に、基本的な社会人としてのマナーやコミュニケーション技法を基礎から教授する。授業方法は、参加型のワークを基本として、学生自らが望ましいマナーや態度、コミュニケーションについて検討し、最も望ましいと考えられる方法を導き出すという流れで行う。さらに、社会人としての医療従事者のマナーについては、基本的な知識について説明した上で、模擬体験できるようにロールプレイングを行う。

【キーワード】 社会人としてのマナー、コミュニケーション、人間関係、医療従事者

【到達目標】

1. 社会人として必要なマナーについて説明できる。
2. 社会人にふさわしいコミュニケーション方法について説明できる。
3. 患者と良い人間関係を築くために必要なマナーや態度の概要が説明できる。
4. 職場で良い人間関係を築くために必要なマナーや態度の概要が説明できる。

【授業の計画】

1. 導入、グループ分け、グループワークの進め方について
2. 「気持ちの良いあいさつをする」ためのグループワーク
3. 最も望ましい「気持ちの良いあいさつをする」方法の検討
4. 「教員へ報告の電話をする」ためのグループワーク
5. 「教員へ報告の電話をする」最も望ましい方法の検討
6. 「教員へ質問のメールを送信する」ためのグループワーク
7. 「教員へ質問のメールを送信する」最も望ましい方法の検討
8. 「懇親会のご案内」の手紙を作成するためのグループワーク
9. 「懇親会のご案内」の最も望ましい手紙の検討
10. コミュニケーションの体験:思いやりゲーム
11. 社会人としての医療従事者のマナー (基礎知識編):患者に対して
12. 社会人としての医療従事者のマナー (実践編):患者に対して
13. 社会人としての医療従事者のマナー (基礎知識編):職場において

14. 社会人としての医療従事者のマナー (実践編):職場において

15. 定期試験 (課題レポート)

16. 総括授業 (授業の評価とまとめ)

【教科書】 適宜プリントを配布する。

【参考書等】 村尾 誠, 江川隆子監訳:ヘルスケアのためのコミュニケーション, 廣川書店, 1999.

【成績評価の方法】 成績はグループワークへの参加姿勢 (20%), 授業への取り組み (20%), レポート (60%) によって総合的に評価する。

【再試験の有無】 ペーパーテストによる再試験を実施する。

【受講へのメッセージ】 授業は基本的に学生参加型なので、積極的に参加して発言すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220807>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 關戸 (088-633-9035, sekido@medsci.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 毎週水・金18:00-19:00 保健学A棟1階看護学講座教員研究室(關戸))

4) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects)

基盤英語

基盤英語 ... (総科 (全 1 年))/貝沼/前期 月 5・6	137
基盤英語 ... (総科 (全 1 年))/山内/前期 月 5・6	138
基盤英語 ... (総科 (全 1 年))/山森/前期 月 5・6	139
基盤英語 ... (総科 (全 1 年))/米原/前期 月 5・6	140
基盤英語 ... (総科 (全 1 年))/魚崎/前期 火 3・4	141
基盤英語 ... (総科 (全 1 年))/樋口/前期 火 3・4	142
基盤英語 ... (総科 (全 1 年))/山田/前期 火 3・4	143
基盤英語 ... (総科 (全 1 年))/坂田/前期 水 1・2	144
基盤英語 ... (総科 (全 1 年))/樋口/前期 水 1・2	145
基盤英語 ... (総科 (全 1 年))/宮田/前期 水 1・2	146
基盤英語 ... (総科 (全 1 年))/山田/前期 水 1・2	147
基盤英語 ... (総科 (全 1 年))/座喜/前期 木 1・2	148
基盤英語 ... (総科 (全 1 年))/福田/前期 木 1・2	149
基盤英語 ... (総科 (全 1 年))/宮崎/前期 木 1・2	150
基盤英語 ... (医 ((医 A)1 年))/小野原/前期 月 7・8	151
基盤英語 ... (医 ((医 B)1 年))/山森/前期 月 7・8	152
基盤英語 ... (医 ((医 C)1 年))/座喜/前期 月 7・8	153
基盤英語 ... (医・歯 ((医 a・(歯・口)A-1)1 年))/座喜/前期 水 7・8	154
基盤英語 ... (医・歯 ((医 b・(歯・口)A-2)1 年))/福田/前期 水 7・8	155
基盤英語 ... (医・歯 ((医 c・(歯・口)B-1)1 年))/貝沼/前期 水 7・8	156
基盤英語 ... (医・歯 ((医 d・(歯・口)B-2)1 年))/小笠原/前期 水 7・8	157
基盤英語 ... (医 ((栄)1 年))/小野原/前期 月 5・6	158
基盤英語 ... (医 ((栄)1 年))/山田/前期 水 5・6	159
基盤英語 ... (医 ((保 A)1 年))/石田/前期 火 5・6	160
基盤英語 ... (医 ((保 A)1 年))/山田/前期 水 5・6	161
基盤英語 ... (医 ((保 B)1 年))/米原/前期 火 5・6	162
基盤英語 ... (医 ((保 B)1 年))/上野/前期 水 5・6	163
基盤英語 ... (医 ((保 C)1 年))/吉田/前期 火 5・6	164

基盤英語 ... (医 ((保 C)1 年))/バロッグ/前期 水 5・6	165
基盤英語 ... (歯 ((歯・口)1 年))/米原/前期 火 3・4	166
基盤英語 ... (薬 (薬 A1 年))/魚崎/前期 火 5・6	167
基盤英語 ... (薬 (薬 B1 年))/早内-プリングル/前期 火 5・6	168
基盤英語 ... (工 ((建 A)1 年))/樋口/前期 水 5・6	169
基盤英語 ... (工 ((建 A)1 年))/三浦/前期 金 5・6	170
基盤英語 ... (工 ((建 B)1 年))/森岡/前期 水 5・6	171
基盤英語 ... (工 ((建 B)1 年))/石田/前期 金 5・6	172
基盤英語 ... (工 ((機 A)1 年))/鎌田/前期 月 7・8	173
基盤英語 ... (工 ((機 A)1 年))/田中/前期 水 1・2	174
基盤英語 ... (工 ((機 B)1 年))/吉田/前期 月 7・8	175
基盤英語 ... (工 ((機 B)1 年))/ラックストン/前期 水 1・2	176
基盤英語 ... (工 ((機 C)1 年))/樋口/前期 月 7・8	177
基盤英語 ... (工 ((機 C)1 年))/三宅/前期 水 1・2	178
基盤英語 ... (工 ((化 A)1 年))/森岡/前期 木 1・2	179
基盤英語 ... (工 ((化 A)1 年))/早内-プリングル/前期 金 5・6	180
基盤英語 ... (工 ((化 B)1 年))/田中/前期 木 1・2	181
基盤英語 ... (工 ((化 B)1 年))/ニムチャック/前期 金 5・6	182
基盤英語 ... (工 ((生 A)1 年))/前田/前期 木 1・2	183
基盤英語 ... (工 ((生 A)1 年))/ギェンター/前期 金 5・6	184
基盤英語 ... (工 ((生 B)1 年))/吉田/前期 木 1・2	185
基盤英語 ... (工 ((生 B)1 年))/マーシェソ/前期 金 5・6	186
基盤英語 ... (工 ((電 A)1 年))/宮田/前期 月 7・8	187
基盤英語 ... (工 ((電 A)1 年))/ニムチャック/前期 金 3・4	188
基盤英語 ... (工 ((電 B)1 年))/ギェンター/前期 月 7・8	189
基盤英語 ... (工 ((電 B)1 年))/石田/前期 金 3・4	190
基盤英語 ... (工 ((電 C)1 年))/山内/前期 月 7・8	191
基盤英語 ... (工 ((電 C)1 年))/早内-プリングル/前期 金 3・4	192
基盤英語 ... (工 ((知 A)1 年))/ニムチャック/前期 木 1・2	193
基盤英語 ... (工 ((知 A)1 年))/藪下/前期 金 3・4	194
基盤英語 ... (工 ((知 B)1 年))/樋口/前期 木 1・2	195

基盤英語 ... (工 ((知 B)1 年))/三浦/前期 金 3・4	196
基盤英語 ... (工 ((光)1 年))/宮崎/前期 月 5・6	197
基盤英語 ... (工 ((光)1 年))/山内/前期 水 7・8	198

主題別英語

主題別英語 ... (総科 ((総理 A)2 年))/森岡/前期 火 7・8	199
主題別英語 ... (総科 ((総理 B)2 年))/岩佐/前期 火 7・8	200
主題別英語 ... (医 ((看 A)2 年))/田中/前期 月 1・2	201
主題別英語 ... (医 ((看 B)2 年))/山田/前期 月 1・2	202
主題別英語 ... (工 ((建 A)2 年))/米原/前期 火 1・2	203
主題別英語 ... (工 ((建 B)2 年))/中島/前期 火 1・2	204
主題別英語 ... (工 ((化 A)2 年))/吉田/前期 火 1・2	205
主題別英語 ... (工 ((化 B)2 年))/宮田/前期 火 1・2	206
主題別英語 ... (工 ((知 A)2 年))/田中/前期 水 3・4	207
主題別英語 ... (工 ((知 B)2 年))/山田/前期 水 3・4	208
主題別英語 ... (工 ((光)2 年))/三宅/前期 水 3・4	209

発信型英語

発信型英語 ... (総科 ((人文 A)2 年))/スタージ/前期 月 1・2	210
発信型英語 ... (総科 ((人文 B)2 年))/パトリック/前期 月 1・2	211
発信型英語 ... (総科 ((人文 C)2 年))/福田/前期 月 1・2	212
発信型英語 ... (総科 ((人文 D)2 年))/早内-プリングル/前期 月 1・2	213
発信型英語 ... (総科 ((人文 E)2 年))/ポンド/前期 月 1・2	214
発信型英語 ... (総科 ((社創 A)2 年))/座喜/前期 火 7・8	215
発信型英語 ... (総科 ((社創 B)2 年))/パトリック/前期 火 7・8	216
発信型英語 ... (総科 ((社創 C)2 年))/石田/前期 火 7・8	217
発信型英語 ... (総科 ((社創 D)2 年))/ギュンター/前期 火 7・8	218
発信型英語 ... (総科 ((社創 E)2 年))/スティーヴンズ/前期 火 7・8	219
発信型英語 ... (医 ((栄 A)2 年))/ギュンター/前期 月 3・4	220
発信型英語 ... (医 ((栄 B)2 年))/フェネリー/前期 月 3・4	221

発信型英語 ... (医 ((放 A)2 年))/座喜/前期 月 1・2	222
発信型英語 ... (医 ((放 B)2 年))/フェネリー/前期 月 1・2	223
発信型英語 ... (医 ((検)2 年))/フロスト/前期 月 1・2	224
発信型英語 ... (歯 ((歯・口)A2 年))/マーシェソ/前期 水 5・6	225
発信型英語 ... (歯 ((歯・口)B2 年))/パトリック/前期 水 5・6	226
発信型英語 ... (薬 ((薬 A-1)2 年))/パトリック/前期 月 3・4	227
発信型英語 ... (薬 ((薬 A-2)2 年))/フロスト/前期 月 3・4	228
発信型英語 ... (薬 ((薬 B-1)2 年))/早内-プリングル/前期 月 3・4	229
発信型英語 ... (薬 ((薬 B-2)2 年))/ボンド/前期 月 3・4	230
発信型英語 ... (工 ((機 a)2 年))/福田/前期 火 1・2	231
発信型英語 ... (工 ((機 b)2 年))/ボンド/前期 火 1・2	232
発信型英語 ... (工 ((機 c)2 年))/早内-プリングル/前期 火 1・2	233
発信型英語 ... (工 ((機 d)2 年))/フロスト/前期 火 1・2	234
発信型英語 ... (工 ((生 A)2 年))/ボンド/前期 水 3・4	235
発信型英語 ... (工 ((生 B)2 年))/ラックストン/前期 水 3・4	236
発信型英語 ... (工 ((電 a)2 年))/マーシェソ/前期 水 3・4	237
発信型英語 ... (工 ((電 b)2 年))/パトリック/前期 水 3・4	238
発信型英語 ... (工 ((電 c)2 年))/ギェンター/前期 水 3・4	239
発信型英語 ... (工 ((電 d)2 年))/福田/前期 水 3・4	240

ドイツ語入門

ドイツ語入門 ... (総科 ((人文)1 年))/ヘルベルト/前期 月 5・6	241
ドイツ語入門 ... (総科 ((人文)1 年))/井戸/前期 水 1・2	242
ドイツ語入門 ... (総科 ((社創)1 年))/桂/前期 火 3・4	243
ドイツ語入門 ... (総科 ((社創)1 年))/今井/前期 木 1・2	244
ドイツ語入門 ... (総科 ((総理)1 年))/ギェンター/前期 火 3・4	245
ドイツ語入門 ... (総科 ((総理)1 年))/桂/前期 木 1・2	246
ドイツ語入門 ... (医 ((医 A)1 年))/曾田/前期 月 9・10	247
ドイツ語入門 ... (医 ((医 A)1 年))/井戸/前期 火 5・6	248
ドイツ語入門 ... (医 ((医 B)1 年))/依岡/前期 月 9・10	249
ドイツ語入門 ... (医 ((医 B)1 年))/石川/前期 火 5・6	250

ドイツ語入門 ... (医・歯 ((栄・口)1年)) / 今井 / 前期 月 7・8	251
ドイツ語入門 ... (医 ((看)1年)) / ギュンター / 前期 火 9・10	252
ドイツ語入門 ... (医 ((放・検)1年)) / 井戸 / 前期 火 3・4	253
ドイツ語入門 ... (歯 ((歯)1年)) / ヘルベルト / 前期 月 7・8	254
ドイツ語入門 ... (歯 ((歯)1年)) / 石川 / 前期 火 9・10	255
ドイツ語入門 ... (薬 (薬 A1年)) / 曾田 / 前期 火 3・4	256
ドイツ語入門 ... (薬 (薬 B1年)) / ヘルベルト / 前期 火 3・4	257
ドイツ語入門 ... (工 ((建)1年)) / ギュンター / 前期 金 7・8	258
ドイツ語入門 ... (工 ((機 A)1年)) / 石川 / 前期 水 7・8	259
ドイツ語入門 ... (工 ((機 B)1年)) / ヘルベルト / 前期 水 7・8	260
ドイツ語入門 ... (工 ((化)1年)) / 桂 / 前期 月 5・6	261
ドイツ語入門 ... (工 ((生)1年)) / 石川 / 前期 水 5・6	263
ドイツ語入門 ... (工 ((電)1年)) / 石田 / 前期 水 7・8	264
ドイツ語入門 ... (工 ((知)1年)) / ギュンター / 前期 水 5・6	265
ドイツ語入門 ... (工 ((光)1年)) / 今井 / 前期 月 9・10	266

ドイツ語初級

ドイツ語初級 ... (薬 (薬 2年)) / 桂 / 前期 月 7・8	267
--------------------------------------	-----

フランス語入門

フランス語入門 ... (総科・医 ((総科 A・栄)1年)) / 田島 / 前期 月 5・6	268
フランス語入門 ... (総科・医 ((総科 A・栄)1年)) / 田島 / 前期 水 1・2	269
フランス語入門 ... (総科 ((総科 B)1年)) / 長井 / 前期 火 3・4	270
フランス語入門 ... (総科 ((総科 B)1年)) / 長井 / 前期 木 1・2	271
フランス語入門 ... (医・歯・薬・工 ((医・保・歯・口・薬・工)1年)) / 長井 / 前期 月 9・10	272
フランス語入門 ... (医・歯・薬・工 ((医・保・歯・口・薬・工)1年)) / 長井 / 前期 火 9・10	273

中国語入門

中国語入門 ... (総科 ((総科 A)1年)) / 田中 / 前期 月 5・6	274
中国語入門 ... (総科 ((総科 A)1年)) / 李 / 前期 水 1・2	275

中国語入門 ... (総科 ((総科 B)1 年))/李/前期 月 5・6.....	276
中国語入門 ... (総科 ((総科 B)1 年))/田中/前期 水 1・2.....	277
中国語入門 ... (総科 ((総科 C)1 年))/邵/前期 火 3・4.....	278
中国語入門 ... (総科 ((総科 C)1 年))/李/前期 木 1・2.....	279
中国語入門 ... (総科 ((総科 D)1 年))/李/前期 火 3・4.....	280
中国語入門 ... (総科 ((総科 D)1 年))/邵/前期 木 1・2.....	281
中国語入門 ... (医・歯・薬 ((医・歯・薬)1 年))/田中/前期 月 9・10.....	282
中国語入門 ... (医・歯・薬 ((医・歯・薬)1 年))/施/前期 火 9・10.....	283
中国語入門 ... (医・歯・工 ((栄・口・化・光)A1 年))/李/前期 月 9・10.....	284
中国語入門 ... (医・歯・工 ((栄・口・化・光)B1 年))/施/前期 月 9・10.....	285
中国語入門 ... (医 ((保)1 年))/荒武/前期 火 3・4.....	286
中国語入門 ... (工 ((建)1 年))/山木/前期 金 7・8.....	287
中国語入門 ... (工 ((機)1 年))/施/前期 水 7・8.....	288
中国語入門 ... (工 ((生)1 年))/李/前期 水 5・6.....	289
中国語入門 ... (工 ((電 A)1 年))/李/前期 火 9・10.....	290
中国語入門 ... (工 ((電 B)1 年))/邵/前期 火 9・10.....	291
中国語入門 ... (工 ((知)1 年))/山木/前期 金 5・6.....	292

日本語

日本語 1 ... (留 (留))/遠藤/前期 月 7・8.....	293
日本語 3 ... (留 (留))/大石/前期 月 9・10.....	294
日本語 7 ... (留 (留))/三隅/前期 火 7・8.....	295
日本語 5 ... (留 (留))/大石/前期 火 9・10.....	296

情報科学

情報科学入門 ... /金西/前期 木 9・10.....	297
情報科学入門 ... (総科 ((人文 A)1 年))/掛井/前期 木 5・6.....	298
情報科学入門 ... (総科 ((人文 B)1 年))/村上/前期 木 5・6.....	299
情報科学入門 ... (総科 ((社創 A)1 年))/掛井/前期 水 3・4.....	300
情報科学入門 ... (総科 ((社創 B)1 年))/河原崎/前期 水 3・4.....	301

情報科学入門 ... (総科 ((総理 A)1 年))/小野/前期 金 1・2	302
情報科学入門 ... (総科 ((総理 B)1 年))/蓮沼/前期 金 1・2	303
情報科学入門 ... (医 ((医 A)1 年))/中山/前期 月 3・4	304
情報科学入門 ... (医 ((医 B)1 年))/村上/前期 月 3・4	305
情報科学入門 ... (医・工 ((医 C・機 C・生 B)1 年))/鈴木/前期 木 3・4	306
情報科学入門 ... (薬 (薬 A1 年))/大橋/前期 火 1・2	307
情報科学入門 ... (薬 (薬 B1 年))/村上/前期 火 1・2	308
情報科学入門 ... (工 ((建 A)1 年))/鈴木/前期 木 1・2	309
情報科学入門 ... (工 ((建 B)1 年))/村上/前期 木 1・2	310
情報科学入門 ... (工 ((機 A)1 年))/大橋/前期 木 3・4	311
情報科学入門 ... (工 ((機 B)1 年))/村上/前期 木 3・4	312
情報科学入門 ... (工 ((電 A)1 年))/宇野/前期 水 1・2	313
情報科学入門 ... (工 ((電 B)1 年))/芥川/前期 水 1・2	314

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(総科(全1年))

貝沼 恵美・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

【授業の目的】 ボーダレス化する世界情勢を理解し適応していくためにも、英語によるコミュニケーション能力の必要性はますます高まっているといえよう。本授業においてはリスニングとリーディングを中心に、英語の総合的運用能力の向上を図る。また特にアジア地域に焦点をあて、異文化に対する理解も深めていく。

【授業の概要】 アジア諸国の文化に触れながら、テキストや CD を用いてリーディングやリスニングを行う。また、文法的基礎事項を確認し、語彙や表現を増やし英語による総合的なコミュニケーション能力の向上を図る。毎回授業中に、単語や慣用句、ディクテーションなどの小テストを実施し、理解度を確認していく。

【キーワード】 アジア、リーディング、リスニング

【到達目標】

1. 英語によるリーディングやリスニングに慣れる。
2. 英語によるコミュニケーションが可能になるよう、語彙を増やしていく。
3. アジア地域を中心に、異文化に対する理解力を深める。

【授業の計画】

1. Class Guidance
2. Unit1: India
3. Unit2: Thailand
4. Unit3: Vietnam
5. Unit4: Malaysia
6. Unit5: Singapore
7. Unit6: Indonesia
8. TOEIC Guidance
9. Unit7: The Philippines
10. Unit8: China
11. Unit9: Hong Kong
12. Unit10: Korea
13. Unit11: Russia
14. Unit12: Japan

15. Final Examination

16. Test Review

【教科書】 Nobuyuki Honna 他『Understanding Asia』センゲージラーニング株式会社。2,000 円 (税別)。

【成績評価の方法】 出席状況、学期末試験、予習状況、毎回行う小テストなどにより総合的に評価します。

【再試験の有無】 出席率 2/3 以上、小テストの平均点が 60%以上の者についてのみ実施します。

【受講者へのメッセージ】 1) 予習をして授業に臨んでください。2) 毎回小テストを行いますので、欠席・遅刻が多いと単位の取得は困難になります。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220808>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 貝沼 .

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(総科(全1年))

山内 暁彦 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語の広告の表現を素材として様々な英語表現を習得することを目指す。

【授業の概要】 イギリスの広告に見られる様々な英語表現を扱ったテキストを用いて総合的な英語力を養成するとともにイギリス人の感性に触れる。また TOEIC 対策の教材などをプリントで用いる。

【キーワード】 広告

【到達目標】 日常的な英語表現を習得すること。

【授業の計画】

1. Introduction
2. Lesson 1. Slim Down, Shape Up!
3. Lesson 2. A Healthier, Happier You!
4. Lesson 3. Memories to Last a Lifetime
5. Lesson 4. The House You Need – A Price You Can Afford
6. Lesson 5. Moving? No Problem!
7. 中間テスト
8. Lesson 6. Come See Our New Home!
9. Lesson 7. Fantastic Furniture at Fantastic Prices
10. Lesson 8. Shopping at Your Fingertips
11. Lesson 9. Subscribe Now!
12. Lesson 10. A Special Gift for that Special Someone
13. Lesson 11. Leave It to the Experts!
14. Lesson 12. Now Hiring!
15. 前期試験
16. 総括授業

【教科書】 Terry O'Brien 他編 『イギリスの広告で学ぶ基礎英語』 南雲堂 2008 年 1,680 円

【成績評価の方法】 前期試験 (60%), 中間テスト (30%) および授業への貢献度などの平常点 (10%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【講師へのメッセージ】 よく予習をしたうえで授業に臨むこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220810>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)

【備考】 前期 月 5-6 総合科学部 1 年

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(総科 (全1年))

山森 直人・准教授 / 鳴門教育大学

1単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 大学において自分自身の専門性を高めるには英語を通して情報を得る技能が必要とされる。それは実社会に出ても今後確実に求められていく技能である。そのためにも、日頃から英語の文章に触れ、敏速かつ的確に情報を得る技能を身につけることが重要である。本授業ではそのような情報獲得技能として、受講生の英文速読力を高めることを目的とする。

【授業の概要】 英文読解時の速読力を養うために、必要以上の詳細 (文法や語彙) に固執せずに読み進める力、及び、読解活動中に吸収できた情報を最大限に生かしてテキストの概要を把握できる力、を養うための読解トレーニングを行う。

【キーワード】 英語、リーディング、速読、読解

【到達目標】

1. 1 分間 150 語程度の速さで読み、テキストの内容を正確に把握できる。
2. 受講生各人の到達目標は第 2 回授業での実力テストの結果に基づき設定する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 実力試験
3. 実力試験の結果と速読方法に関する講義
4. Unit 1,2 その他補助教材
5. Unit 3,4 その他補助教材
6. Unit 5,6 その他補助教材
7. Unit 7,8 その他補助教材
8. Unit 9,10 その他補助教材
9. 中間試験
10. Unit 11,12 その他補助教材
11. Unit 13,14 その他補助教材
12. Unit 15,16 その他補助教材
13. Unit 17,18 その他補助教材
14. Unit 19,20 その他補助教材
15. 最終試験
16. 総括授業

【教科書】

- ◇ Malarcher, Casey, 森田彰, 原田慎一 (編著). INTERMEDIATE Faster Reading — Revised Edition, SEIBIDO. 1,700 円 (税込: 1,785 円)
- ◇ その他補助教材を適宜配布

【成績評価の方法】 中間試験 (35%), 最終試験 (35%), 小レポート (20%), 受講姿勢 (10%) をもとに評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講生には授業の予習と同時に、授業で学習した内容の定着を図るための復習を期待する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220809>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山森 . (オフィスアワー: 鳴門教育大学 yamamori@naruto-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(総科(全1年))

米原 晶子・非常勤講師

1単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】今日の社会において英語による情報の授受の必要性は言うまでもない。この授業では、英語の実用的運用能力をはかる客観的試験として広く普及している TOEIC 受験の準備を目的とする。

【授業の概要】・TOEIC の問題集を解いていく。リスニング問題、リーディング問題ともに各自が事前学習をしていくことが前提で、教室は答え合わせと解説の場とする。・TOEIC 語彙のテキストも併用し、語彙増強につとめる。

【キーワード】TOEIC, 語彙

【到達目標】

1. TOEIC 問題パターンになれる。
2. TOEIC に出てくる語彙、特にビジネス系の語句を習得する。

【授業の計画】

1. Unit 1
2. Unit 2
3. Unit 3
4. Unit 4
5. Unit 5
6. Unit 6
7. Unit 7
8. Unit 8
9. Unit 9
10. Unit 10
11. Unit 11
12. Unit 12
13. Unit 13
14. Unit 14
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 鈴木薫他 『The Next Stage to the TOEIC Test Pre-intermediate』 金星堂
- ◇ 佐藤誠司 『A Shorter Course in TOEIC Test Vocabulary Quizzes』 南雲堂

【成績評価の方法】予習状況、学期末試験、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】必ず予習をしてください。CD 付きテキストですから、リスニングは分るまで聞いて回答してみてください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220811>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 米原 .

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(総科(全1年))

魚崎 典子・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 前期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

【授業の目的】社会がグローバル化する中、英語コミュニケーション能力は必要不可欠になっています。本クラスでは親しみある歌を通して英語の Listening, reading, speaking 能力の向上を目指します。

【授業の概要】ポピュラーソングを鑑賞して歌詞を理解し、歌について書かれたエッセイ文を読んだり、リスニング行い、リーディング力、リスニング力の向上を目指します。適宜課題や小テストが課せられます。また TOEIC 対策もする予定です。

【キーワード】*Listening, Reading*, 異文化理解

【到達目標】

1. 平易な英文が読めるようになる。
2. 会話でよく使われる表現の聞き取りができるようになる。
3. 英米文化への理解を深める。

【授業の計画】

1. Introduction
2. Material Girl
3. Closer to Home/I'm Your Captain
4. High School
5. No Fun
6. Leader of the Pack
7. I'm Eighteen
8. Search and Destroy
9. Frozen
10. TOEIC TEST REHEARSAL
11. Shakin' Street
12. We're an American Band
13. Bohemian Like You
14. A Whiter Shade of Pale
15. 期末試験
16. 総括

【教科書】魚崎典子(松柏社)

【成績評価の方法】小テスト, レポート, 学期末試験, 授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【講師へのメッセージ】日頃から英語の歌に親しみましょう。学期末試験は、授業時間数の3分の2以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること!

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220812>

【連絡先(オフィスパワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 魚崎 . (オフィスパワー: 初回の授業でお知らせします。)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(総科 (全1年))

樋口友乃・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

【授業の目的】 グローバル化および情報化の時代の中に置かれた私たちは、いまや世界の「共通語」とみなされるようになった英語の運用能力を身に付けることを求められている。そのため、この授業では、世界遺産を題材とする映像を見ながら、語彙の確認・聴き取り・ディクテーション・スクリプトの読解・関連する会話の練習などを行うことを通して、英語運用能力を総合的に高めることを目的とする。

【授業の概要】 世界遺産を題材とする映像を見ながら、語彙の確認・聴き取り・ディクテーション・スクリプトの読解・関連する会話の練習などを行う。

【到達目標】 これまでに身に付けてきた基本的な英語運用能力を定着させ、さらに高める。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. 中間試験
9. Unit 7
10. Unit 8
11. Unit 9
12. Unit 10
13. Unit 11
14. Unit 12
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 World Heritage on DVD (Masakazu Someya, Gred Ferrasci. Nan'un-do)

【成績評価の方法】 授業への取組状況 (10%), 中間試験 (40%), 期末試験 (50%) などを元に総合的に評価する (ただし評価割合のおおよその目安は括弧内のパーセ

ントである)。

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220814>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(総科(全1年))

山田仁子・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

【授業の目的】英語を聞いて理解する力を養う。このためには、英語音声に慣れること、語彙力や文法的知識を高めることが必要となる。

【授業の概要】BBC放送による番組を編集したDVD教材を視聴し、まずは大まかな内容を捉え、次に単語や表現など細部まで理解するようにする。

【キーワード】*listening comprehension, vocabulary building*

【到達目標】

1. 英語を聞いて内容を理解できるようになる。
2. 語彙力を高める。

【授業の計画】

1. 授業について説明
2. Chapter 1
3. Chapter 2
4. Chapter 3
5. Chapter 4
6. Chapter 5
7. Chapter 6
8. 中間試験
9. Chapter 7
10. Chapter 8
11. Chapter 9
12. Chapter 10
13. Chapter 11
14. Chapter 12
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】BBC Short Clips on DVD, Seibido

【成績評価の方法】2回のテスト、出席状況、予習の程度、授業中の発表などを総合的に評価する。

【再試験の有無】なし。

【受講者のメッセージ】授業開始前までに自習用のDVDを視聴し、教科書の問題を解いてくること。予習も成績に反映されます。授業中には積極的に参加する事も期待します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220813>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(総科 (全1年))

坂田 浩 准教授 / 国際センター

1単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 本講義の目的・目標は、学生の継続的自律英語学習を支援し、本講義終了後も継続して英語学習が実践するための基本的スキルを身につけてもらうことにあります。

【授業の概要】 先にも記載したように、本講義は「学生の継続的自律英語学習を支援する」ことを目的・目標としていますが、実際の授業では、(1) 導入期、(2) 指導期、(3) 実践期、という3つに分けて自律学習の支援を展開していきます。各期の概要は以下の通りです。(1) 導入期 教師側が提供する講義を基に、継続的自律学習に必要な基本スキル・知識を学びます。(2) 指導期 教師の指導・助言の下、導入期で学んだスキル・知識を実践していきます。(3) 実践期 導入期・指導期で学んだスキル・知識を基に、学生自らが英語学習を実践していきます。従来の英語授業とは異なり「英語の勉強方法 (特に、英語の勉強を継続する方法) について学ぶ」ことを重要視しています。これまでに英語が出来なかった方も、この授業を通してやり直しを始めることもできますし、これからの英語学習についても考え直すことができるので、是非積極的に参加をしてもらいたいと思います。

【キーワード】 自律学習, セルフ・コーチング

【到達目標】

1. 自らの学習目標を設定することができる
2. 自らの学習方法および学習計画を構築することができる
3. 学習方法および学習計画を実践し、自らの手で評価することができる
4. 自らの評価に基づき、学習方法および学習計画を修正することができる

【授業の計画】

1. Session 01: Introduction & About Self-coaching
2. Session 02: Learning Project for Future U
3. Session 03: Building Learning Plan (1)
4. Session 04: Building Learning Plan (2)
5. Session 05: Assessment & Self-management
6. Session 06: Weekly Practice (1)
7. Session 07: Weekly Practice (2)
8. Session 08: Weekly Practice (3)

9. Session 09: Weekly Practice (4)

10. Session 10: Reflection & In-group Presentation

11. Session 11: Weekly Practice (5)

12. Session 12: Weekly Practice (6)

13. Session 13: Weekly Practice (7)

14. Session 14: Weekly Practice (8)

15. Session 15: Weekly Practice (9)

16. Session 16: Reflection

【教科書】 購入の必要なし (初回時に配布)

【成績評価の方法】 出席 25%, 自己評価 (毎週) 25%, 期末レポート 35%, 他者評価 15%

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 本授業を受講する学生で前期木曜 1-2 限にも基盤英語を受講される方は、同時間帯 (木曜 1-2 限) にフクダ先生以外がご担当される授業を選択するようにしてください。本授業を 4 回以上欠席した場合は、成績は出ません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220816>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(総科 (全1年))

樋口友乃・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 水 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

【授業の目的】 グローバル化および情報化の時代の中に置かれた私たちは、いまや世界の「共通語」とみなされるようになった英語の運用能力を身に付けることを求められている。そのため、この授業では、世界遺産を題材とする映像を見ながら、語彙の確認・聴き取り・ディクテーション・スクリプトの読解・関連する会話の練習などを行うことを通して、英語運用能力を総合的に高めることを目的とする。

【授業の概要】 世界遺産を題材とする映像を見ながら、語彙の確認・聴き取り・ディクテーション・スクリプトの読解・関連する会話の練習などを行う。

【到達目標】 これまでに身に付けてきた基本的な英語運用能力を定着させ、さらに高める。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. 中間試験
9. Unit 7
10. Unit 8
11. Unit 9
12. Unit 10
13. Unit 11
14. Unit 12
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 World Heritage on DVD (Masakazu Someya, Gred Ferrasci. Nan'un-do)

【成績評価の方法】 授業への取組状況 (10%)、中間試験 (40%)、期末試験 (50%) などを元に総合的に評価する (ただし評価割合のおおよその目安は括弧内のパーセ

ントである)。

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220818>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(総科(全1年))

宮田 政徳 准教授 / 大学開放実践センター

1単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 国際語としての英語の実用的運用能力をつけるために、TOEIC (=Test of English for Internatinal Communication) 受験対策を目的とする。

【授業の概要】 TOEIC 試験問題をテーマ別に扱い、そのテーマに関連する語彙を覚えながら、文法事項も項目別に確認し、リスニング問題とリーディング問題を通して解答を探して行く。

【キーワード】 トーイック試験

【到達目標】

1. TOEIC に出てくる日常会話とビジネス関係の語彙が理解できる。
2. TOEIC に出てくる文法事項が理解できる。
3. TOEIC のリスニング、リーディング問題に正しく解答できる。

【授業の計画】

1. Introduction
2. Lesson 1: Missing a Flight
3. Lesson 2: Checking In
4. Lesson 3: Marketing a New Product
5. Lesson 4: Coming Down with a Cold
6. Lesson 5: Having the Prescription Filled
7. Lesson 6: Advertising Campaign
8. Lesson 7: Fancy Meeting You!
9. Lesson 8: A Job Interview
10. Lesson 9: Placing a Complaint
11. Lesson 10: Looking for a New Space
12. Lesson 11: Getting Hooked Up
13. Lesson 12: Talking Shop
14. Review Test (1)
15. 期末試験
16. 期末試験の振り返り

【教科書】 TOEIC テスト実践コース Book2; ナンシー・ピアソン梅津 (成美堂, 2004 年, 2000 円)

【成績評価の方法】 学期末テスト (85%), 及び授業への取り組み (15%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【講師へのメッセージ】 出席を重視するので、毎回出席すること。またテキストの問題は必ず予習してくること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220815>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 宮田 (D304, 088-656-9866, miyata@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日16:10~ 17:30)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(総科(全1年))

山田仁子・准教授/大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 水 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

【授業の目的】英語を聞いて理解する力を養う。このためには、英語音声に慣れること、語彙力や文法的知識を高めることが必要となる。

【授業の概要】BBC放送による番組を編集したDVD教材を視聴し、まずは大まかな内容を捉え、次に単語や表現など細部まで理解するようにする。

【キーワード】*listening comprehension, vocabulary building*

【到達目標】

1. 英語を聞いて内容を理解できるようになる。
2. 語彙力を高める。

【授業の計画】

1. 授業について説明
2. Chapter 1
3. Chapter 2
4. Chapter 3
5. Chapter 4
6. Chapter 5
7. Chapter 6
8. 中間試験
9. Chapter 7
10. Chapter 8
11. Chapter 9
12. Chapter 10
13. Chapter 11
14. Chapter 12
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】BBC Short Clips on DVD, Seibido

【成績評価の方法】2回のテスト、出席状況、予習の程度、授業中の発表などを総合的に評価する。

【再試験の有無】なし

【受講者のメッセージ】授業開始前までに自習用のDVDを視聴し、教科書の問題を解いてくること。予習も成績に反映されます。授業中には積極的に参加する事も期待します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220817>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(総科(全1年))

座喜純・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 木 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

【授業の目的】 This class will focus on acquiring the proficiency in English to make further study in any field at college. Acquiring the knowledge of a foreign language and the proficiency in it is to This class designed to give a good assistance in developing Basic English abilities in general. Especially, It will focus on Grammar, Listening, Reading and Writing skills.

【授業の概要】 This class is organized to help you improve your basic English ability covering skills like reading, writing and listening, which will surely help you try TOEIC and other tests.

【キーワード】 *TOEIC, Structure of English Language, General English, Writing*

【到達目標】

1. To acquire the knowledge of the structure of English language through writing.
2. To find an appropriate key to improve English skills.

【授業の計画】

1. Overall Guidance
2. Clip 1
3. Clip 2
4. Clip 3
5. Clip 4
6. Clip 5
7. Clip 6
8. Clip 7
9. Clip 8
10. Clip 9
11. Clip 10
12. Clip 11
13. Clip 12
14. Clip 13
15. Overview

【教科書】 No specific text book but there will be some other media will be selected up to date.

【参考書等】 References and other aid materials will be introduced and prepared in class.

【成績評価の方法】 Evaluation is made considering your full attendance, good participation and homework sheet only.

【再試験の有無】 No make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 日々の積み重ねを重視してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220821>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 座喜 . (オフィスアワー: contact E-mail: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(総科(全1年))

福田, スティーブ・利久・助教 / 全学共通教育センター

1単位 前期 木 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

【授業の目的】これから大学生活で継続的に英語学習ができるように、効果的な自律学習の「What?」「How?」「Why?」を理解する。

【授業の概要】「学びのファーストステップ」に、「基盤形成科目」とは基本的な思考法や言語運用能力を身に付け、自律的学習の基盤を形成することを目的としている。その中、「基盤英語」は大学での英語の学び方を身に付ける目的がある。英語学習に終わりはないことを念頭に置いて、授業外・講義終了後でも、学習を続けられる「やる気」と「ノウハウ」を身につけていく。多くの学生は今まで試験勉強や先生に決められた目標を基に学習に励んできたが、これからは「自分のため」のやる気と目標を基に学習をしていきたい。いきなり「個人の目標」と言っても難しいかもしれないので、講義の前半は数多くのコミュニケーション活動と英語学習に関する講義を通し、徐々に教員主導の授業から学生主導の授業に進みたい。後半は学生個人が決めたテーマ(例えば:Speaking 活動, Writing 活動, TOEIC 学習等)で自律学習を試行錯誤しながら講義の目的に近づきたい。

【キーワード】継続的自律学習

【到達目標】

1. 実践的なコミュニケーションで英語を練習し、英語コミュニケーションに慣れる。
2. 自律英語学習のスキルを知り、大学生活で継続的かつ効果的に学習ができるようになる。
3. 英語に対する自信・やる気・自主性を向上させる。

【授業の計画】

1. 英語学習の固定観念を捨てる。
2. 英語で「できる・できない」ことを考える。
3. 英語学習の将来像を考える。
4. 自分の学習スタイルを探る。
5. これからの学習を考える。
6. 学習プランを作成する。
7. 学習目標・計画を評価を修正する。
8. 学習プランを実行する。

9. 学習プランを実行する。
10. 学習プランを実行する。
11. 学習プランを評価&修正
12. 学習プランを実行する。
13. 学習プランを実行する。
14. 学習プランを実行する。
15. 学習プランを振り返る。
16. これからの学習を考える。

【教科書】 Sakata, H., & Fukuda, S. (2010). Learning How to Learn: A Worksheet for Autonomous Learning. University of Tokushima: Seikyo.

【参考書等】 S.-()()2005 - ISB475032163X

【成績評価の方法】 30%学習プラン, 30%学習プランの実行, 40%宿題

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 ①再履修者は他のシラバスになるので、第1回目の授業までに連絡をして下さい。 ②この講義は坂田浩先生の「総科1基盤英語」(水, 1・2限)と同じ内容ですので、重ねて履修しないで下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220819>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (1号館2階2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでもE-mailで時間を合わせましょう。)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(総科(全1年))

宮崎 隆義・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 木 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

【授業の目的】外国語の理解と習得は、今や国際的な交流や相互の理解に不可欠なことは言うまでもないが、言葉は単なるコミュニケーションのための道具ではない。言葉は、それを使う人々の考え方や文化の基礎を成すものであって、言葉を理解することは、その言葉を使う人々が、外界の事象をどのように捉えているかを理解することであり、その人々の考え方や文化を理解することに通ずる。大学入学時までの力を確認しつつ、大学において必要な基盤となる英語の力をつけることを目的とするが、同時に英語という言葉をしっくりと味わうことによって、英語を使う人々の考え方やその文化も理解したい。

【授業の概要】大学における英語力習得の基盤となるよう、TOEIC等の資格試験の準備学習を交えつつ、英語の文章を読み書くことを通して英語の構造に目を向けながら、英語の力を総合的に高める。

【キーワード】TOEIC, 英語の構造, 総合英語, ライティング

【到達目標】

1. 英語の構造を主にライティングを通して概括的に理解する。
2. 英語の4技能を伸ばすための基盤を作る。

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. Playing rugby in the U.S. part I
3. Playing rugby in the U.S. part II
4. Vegetarianism
5. English
6. ESL Class
7. Drinking
8. Homeless
9. The use of the Internet
10. Lonely elderly people
11. Different communication styles
12. Coming to Japan
13. Going to the gym
14. Is that dessert?

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】異文化理解のための実践学習, 松柏社, 1700円。

【参考書等】参考書等については適宜紹介し、他にプリント等も用意する。

【成績評価の方法】授業への取り組み状況, 小テスト, 期末試験の結果等を総合的に判断し単位認定の評価とする。

【再試験の有無】有り

【受講者へのメッセージ】日々の積み重ねを重視してください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220820>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 宮崎 (総合科学部1号館3階北棟3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火・木曜日 12時~13時)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医 ((医 A)1 年))

小野原 信善・非常勤講師 / 全学共通教育センター

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的情報をいち早く知るためには英語を用いてコミュニケーションを行う能力は不可欠であろう。そのために英語の総合的基礎学力をつけるとともに、TOEIC の 500 点をめざす。

【授業の概要】 英語の総合的学力をつけるため、4 技能を身につける。

【キーワード】 *Communication* 能力

【到達目標】 話す、聞く、書く、読む、の 4 技能の獲得を目指す。

【授業の計画】

1. 母音, 子音, 品詞 etc.
2. 慣用句, アナウンス, 広告 etc.
3. スピーチ, ニュース報道 etc.
4. Why and How etc.
5. TOEIC Test について

【教科書】 Journey to Success Makoto Kurata 他著桐原書店 1800 円

【成績評価の方法】 学期末試験, 平常の授業での取り組み状態などで, 総合的に評価する。本授業は演習なので出席が大前提になる。(1 回の欠席で 8 点減点されるので注意されたい。)

【再試験の有無】 無 (平常の授業を重視するため)

【受講者へのメッセージ】 本授業では、「TOEIC 準備」のオリエンテーションも行う。また日常の授業で積極的に対応すること

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220822>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小野原 . (オフィスアワー: 毎週月曜日午後非常勤講師控え室)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医 ((医 B)1 年))

山森 直人・准教授 / 鳴門教育大学

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 大学において自分自身の専門性を高めるには英語を通して情報を得る技能が必要とされる。それは実社会に出ても今後確実に求められていく技能である。そのためにも、日頃から英語の文章に触れ、敏速かつ的確に情報を得る技能を身につけることが重要である。本授業ではそのような情報獲得技能として、受講生の英文速読力を高めることを目的とする。

【授業の概要】 英文読解時の速読力を養うために、必要以上の詳細 (文法や語彙) に固執せずに読み進める力、及び、読解活動中に吸収できた情報を最大限に生かしてテキストの概要を把握できる力、を養うための読解トレーニングを行う。

【キーワード】 英語、リーディング、速読、読解

【到達目標】

1. 1 分間 180 語程度の速さで読み、テキストの内容を正確に把握できる。
2. 受講生各人の到達目標は第 2 回授業での実力テストの結果に基づき設定する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 実力試験
3. 実力試験の結果と速読方法に関する講義
4. Unit 1,2 その他補助教材
5. Unit 3,4 その他補助教材
6. Unit 5,6 その他補助教材
7. Unit 7,8 その他補助教材
8. Unit 9,10 その他補助教材
9. 中間試験
10. Unit 11,12 その他補助教材
11. Unit 13,14 その他補助教材
12. Unit 15,16 その他補助教材
13. Unit 17,18 その他補助教材
14. Unit 19,20 その他補助教材
15. 最終試験
16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 椋平淳/深山晶子/川越栄子/玉巻欣子/早瀬淳一/福田慎司 (共編) Curing the Future / 健康を科学する SEIBIDO 1,700 円 (税込: 1,785 円)
- ◇ その他補助教材を適宜配布

【成績評価の方法】 中間試験 (35%)、最終試験 (35%)、小レポート (20%)、受講姿勢 (10%) をもとに評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講生には授業の予習と同時に、授業で学習した内容の定着を図るための復習を期待する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220823>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山森 . (オフィスアワー: 鳴門教育大学 yamamori@naruto-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医 ((医 C)1 年))

座喜純・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 This class designed to give a good assistance in developing Basic English abilities in general. Especially, It will focus on Grammar, Listening, Reading and Writing skills.

【授業の概要】 Classes will be running in ENGLISH language only to give more practice chance to everyone. There is no specific text book but there will be some other media will be selected up to date. Listening and Reading practices will take place during the class hour. Grammar guidance, Listening and Reading practices will take place during the class hour.

【到達目標】 You will gain more skills as much as you do efforts to practice.

【授業の計画】

1. Overall Guidance
2. Clip 1
3. Clip 2
4. Clip 3
5. Clip 4
6. Clip 5
7. Clip 6
8. Clip 7
9. Clip 8
10. Clip 9
11. Clip 10
12. Clip 11
13. Clip 12
14. Clip 13
15. Clip 14
16. Review

【教科書】 No specific text book but there will be some other media will be selected up to date.

【成績評価の方法】 Attendance and Participation in class

【再試験の有無】 No make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Asking questions in class is very important.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220824>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 座喜 . (オフィスアワー: contact E-mail: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医・歯((医 a・(歯・口)A-1)1年))

座喜純・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 The primary aim of this course is to improve the student's basic ability to communicate in English in a variety of formal and informal situations. This course has many speaking and listening exercises that should increase the student's ability to use English meaningfully on at least a basic level.

【授業の概要】 Classes will be running in ENGLISH language only for more practices chance. There is no specific text book but there will be some other media depending on the 'Topics' which will be selected up to date. Speaking out practices will take place during the classes.

【キーワード】 *Basic English*

【到達目標】 The aim of this course is to improve the student's ability to use basic English to communicate in a variety of formal and informal situations.

【授業の計画】

1. Class Introduction
2. Self-Introduction
3. Clip 1
4. Clip 2
5. Clip 3
6. Clip 4
7. Clip 5
8. Clip 6
9. Clip 7
10. Clip 8
11. Clip 9
12. Clip 10
13. Clip 11
14. Clip 12
15. Review

【教科書】 [] There will be teacher handouts and text materials created by students.

【成績評価の方法】 Class presentations and written summaries of presentations, oral/written examinations and participation will be used for evaluation. Tentative

evaluation scheme: Presentations=30% (3 X 10%), Examinations=20% (2 X 10%), Participation=50%.

【再試験の有無】 There is no make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Class structure depends on the number of students enrolled. It may be possible to divide the class into smaller groups to facilitate conversation activities.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220825>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 座喜 . (オフィスアワー: contact E-mail: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 This schedule is tentative and may be modified due to class size or other factors.

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医・歯 ((医 b・(歯・口)A-2)1 年))

福田, スティーブ・利久・助教 / 全学共通教育センター

1 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】これから大学生活で継続的に英語学習ができるように、効果的な自律学習の「What?」「How?」「Why?」を理解する。

【授業の概要】「学びのファーストステップ」に、「基盤形成科目」とは基本的な思考法や言語運用能力を身に付け、自律的学習の基盤を形成することを目的としている。その中、「基盤英語」は大学での英語の学び方を身に付ける目的がある。英語学習に終わりはないことを念頭に置いて、授業外・講義終了後でも、学習を続けられる「やる気」と「ノウハウ」を身につけていく。多くの学生は今まで試験勉強や先生に決められた目標を基に学習に励んできたが、これからは「自分のため」のやる気と目標を基に学習をしていきたい。いきなり「個人の目標」と言っても難しいかもしれないので、講義の前半は数多くのコミュニケーション活動と英語学習に関する講義を通し、徐々に教員主導の授業から学生主導の授業に進みたい。後半は学生個人が決めたテーマ (例えば: Speaking 活動, Writing 活動, TOEIC 学習等) で自律学習を試行錯誤しながら講義の目的に近づきたい。

【到達目標】①実践的なコミュニケーションで英語を練習し、英語コミュニケーションに慣れる。②自律英語学習のスキルを知り、大学生活で継続的かつ効果的に学習ができるようになる。③英語に対する自信・やる気・自主性を向上させる。

【授業の計画】

1. 英語学習の固定観念を捨てる。
2. 英語で「できる・できない」ことを考える。
3. 英語学習の将来像を考える。
4. 自分の学習スタイルを探る。
5. これからの学習を考える。
6. 学習プランを作成する。
7. 学習プランに適した教材を選択する。
8. 学習プランを実行する。
9. 学習プランを実行する。
10. 学習プランを実行する。
11. 学習プランを見直す。

12. 学習プランを実行する。
13. 学習プランを実行する。
14. 学習プランを実行する。
15. 学習プランを振り返る。
16. これからの学習を考える。

【教科書】 Sakata, H., & Fukuda, S. (2010). Learning How to Learn: A Worksheet for Autonomous Learning. University of Tokushima: Seikyo.

【参考書等】 マルカム S. ノールズ. (著). 渡辺洋子. (翻訳). 2005 年. 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ. 明石書店. ISBN:475032163X.

【成績評価の方法】 30%学習プラン, 30%学習プランの実行, 40%宿題

【再試験の有無】 なし

【受講へのメッセージ】 ①再履修者は他のシラバスになるので、第 1 回目の授業までに連絡をして下さい。②この講義は坂田浩先生の「総科 1 基盤英語」(水, 1・2 限)と同じ内容ですので、重ねて履修しないで下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220826>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医・歯 ((医 c・(歯・口)B-1)1年))

貝沼 恵美・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 ボーダレス化する世界情勢を理解し適応していくためにも、英語によるコミュニケーション能力の必要性はますます高まっているといえよう。本授業においてはリスニングとリーディングを中心に、英語の総合的運用能力の向上を図る。また特にアジア地域に焦点をあて、異文化に対する理解も深めていく。

【授業の概要】 アジア諸国の文化に触れながら、テキストや CD を用いてリーディングやリスニングを行う。また、文法的基礎事項を確認し、語彙や表現を増やし英語による総合的なコミュニケーション能力の向上を図る。毎回授業中に、単語や慣用句、ディクテーションなどの小テストを実施し、理解度を確認していく。

【キーワード】 アジア、リーディング、リスニング

【到達目標】

1. 英語によるリーディングやリスニングに慣れる。
2. 英語によるコミュニケーションが可能になるよう、語彙を増やしていく。
3. アジア地域を中心に、異文化に対する理解力を深める。

【授業の計画】

1. Class Guidance
2. Unit1: India
3. Unit2: Thailand
4. Unit3: Vietnam
5. Unit4: Malaysia
6. Unit5: Singapore
7. Unit6: Indonesia
8. TOEIC Guidance
9. Unit7: The Philippines
10. Unit8: China
11. Unit9: Hong Kong
12. Unit10: Korea
13. Unit11: Russia
14. Unit12: Japan

15. Final Examination

16. Test Review

【教科書】 Nobuyuki Honna 他『Understanding Asia』センゲージラーニング株式会社。2,000 円 (税別)。

【成績評価の方法】 出席状況、学期末試験、予習状況、毎回行う小テストなどにより総合的に評価します。

【再試験の有無】 出席率 2/3 以上、小テストの平均点が 60%以上の者についてのみ実施します。

【受講者へのメッセージ】 1) 予習をして授業に臨んでください。2) 毎回小テストを行いますので、欠席・遅刻が多いと単位の取得は困難になります。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220828>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 貝沼 .

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医・歯 ((医 d・(歯・口)B-2)1年))

小笠原 麻衣子・非常勤講師

1単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的な情報をいち早く知るためには、英語を用いてコミュニケーションを行う能力は必要不可欠であろう。このクラスでは、情報を即座に読み取り、聞き取り、その情報を基に書く、話すという活動を通じてコミュニケーションを図る。読む聞く書く話すの4技能の、バランスの取れた言語運用能力の伸長を目指す。

【授業の概要】 様々なジャンルや形態の英文を、日本語を介さずに読み聞きする。和訳をすることで英文が解釈できているかどうかを確認するのでは、遅すぎて実社会では通用しない。この和訳してしまう癖を直すために、授業の前半は文字に頼らず音声教材を用いて英文を導入する。次々と耳に飛び込んでくる英語を訳さずに理解する訓練を積み、後半はそのスピード感をリーディングにも活かし、速読即理解を目指す。英文は適宜、新聞、雑誌、映画などからも抜粋してタイムリーな話題にも触れていきたい。また、ペアやグループでライティング、スピーキング活動を行うので、クラスメイトとのコミュニケーションを楽しんでいただきたい。

【キーワード】 リスニング、速読即理解、コミュニケーション能力

【到達目標】 英語を英語で即座に理解しコミュニケーションに繋げる。前期終了時の速読目標:1分間 150語。

【授業の計画】

1. Introduction and questioner
2. Lesson 1 & 2
3. Lesson 3 & 4 Talking about foreign children attending schools in Japan
4. Lesson 4 & 5 Learning about Jamaican English and Reggae
5. Lesson 6 & 7
6. Lesson 8, 9, & 10
7. Lesson 11, 12 & 13
8. Quiz (30 minutes) Lesson 14 & 15
9. Lesson 16 & 18
10. Lesson 19 & 20 Thinking about volunteer work
11. Lesson 21 & 22
12. Lesson 23 & 24

13. Lesson 25, 26 & 27

14. Lesson 28, 29 & 30

15. Final Test

16. Review

【教科書】 Sonic Reading Stage3 のとう修一・寺口浩 編著 680円 / 別売り CD 200円 (桐原書店)

【成績評価の方法】 課題提出,授業参加態度など (10%)Quiz(20%) Final Test(70%)

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 受け身ではなく、受講者中心の授業を展開しましょう。みんなからの話題提供,教材提供,リクエストも大歓迎です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220827>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小笠原 (オフィスアワー: Eメールアドレス ogasawara509@yahoo.co.jp クラス,名前,件名を明記すること)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医 ((栄)1年))

小野原 信善・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的情報をいち早く知るためには英語を用いてコミュニケーションを行う能力は不可欠であろう。そのために英語の総合的基礎学力をつけるとともに、TOEIC の 500 点をめざす。

【授業の概要】 英語の総合的学力をつけるため、4 技能を身につける。

【キーワード】 *TOEIC Test, Communication* 能力

【到達目標】 話す、聞く、書く、読む、の 4 技能の獲得を目指す。

【授業の計画】

1. 母音, 子音, 品詞 etc.
2. 慣用句, アナウンス, 広告 etc.
3. スピーチ, ニュース報道 etc.
4. Why and How etc.
5. TOEIC Test について

【教科書】 Journey to Success Makoto Kurata 他著桐原書店 1800 円

【成績評価の方法】 学期末試験, 平常の授業での取り組み状態などで, 総合的に評価する。本授業は演習なので出席が大前提になる。(1 回の欠席で 8 点減点されるので注意されたい。)

【再試験の有無】 無 (平常の授業を重視するため)

【受講者へのメッセージ】 本授業では、「TOEIC 準備」のオリエンテーションも行う。また日常の授業で積極的に対応すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220829>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小野原 . (オフィスアワー: 毎週月曜日午後非常勤講師控え室)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医 ((栄)1年))

山田仁子・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】英語を聞いて理解する力を養う。このためには、英語音声に慣れること、語彙力や文法的知識を高めることが必要となる。

【授業の概要】BBC 放送による番組を編集した DVD 教材を視聴し、まずは大まかな内容を捉え、次に単語や表現など細部まで理解するようにする。

【キーワード】*listening comprehension, vocabulary building*

【到達目標】

1. 英語を聞いて内容を理解できるようになる。
2. 語彙力を高める。

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. Chapter 1
3. Chapter 2
4. Chapter 3
5. Chapter 4
6. Chapter 5
7. Chapter 6
8. 中間試験
9. Chapter 7
10. Chapter 8
11. Chapter 9
12. Chapter 10
13. Chapter 11
14. Chapter 12
15. 期末試験

【教科書】BBC Short Clips on DVD, Seibido

【成績評価の方法】2 回のテスト、出席状況、予習の程度、授業中の発表などを総合的に評価する。

【再試験の有無】なし

【受講者へのメッセージ】授業開始前までに自習用の DVD を視聴し、教科書の問題を解いてくること。予習も成績に反映されます。授業中には積極的に参加する事も期

待します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220830>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

【備考】前期 水 5-6 栄養学科 1 年

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医 ((保 A)1 年))

石田 メグ・非常勤講師

1 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 This English course is more about using the knowledge of English in conversation and written form. In this way, students will be ever ready for service in a global community. Japanese students will be prepared to face a global field without hesitation or insecurity. Thus, this course focuses on conversational English, maximizing speaking time spent in the classroom.

【授業の概要】 Students will create their own conversations about topics familiar to them. Classes will include whole, small group and pair activities. Students will be required to take risks and assess their own progress as the course develops. Students who take risks will do well in this class.

【到達目標】 Students who complete this course should feel more confident when speaking or writing in English.

【授業の計画】

1. OUTLINE
2. It's nice to meet you
3. Who are they talking about?
4. When do you start?
5. Where does this go?
6. Where is it?
7. Tell me what happened

【教科書】 No textbook is needed but you do need a Japanese English dictionary. Handouts will be provided each week.

【成績評価の方法】 Attendance 10% Class participation 40% Student self-evaluation 10% Final Interview 40%

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 Come to class and participate and you will succeed! The contract for this class follows University guidelines. If more than 4 classes are missed there will be no pass grade for this course. Students more than 20 minutes late are considered absent. If students are late twice it equals one absence. Students should bring a notebook, black and red pens, a pencil, the textbook, and a Japanese-English dictionary with them to class. Do not use cell phones in class.

Be present and participate. The contents of this class are subject to change due to the level and interests of the participating students.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220831>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石田 .

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医 ((保 A)1 年))

山田 紀美・非常勤講師

1 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 いわゆる”国際化”に伴い、徳島においても、看護の現場において外国語が求められる場面も増えてくると考えられる。そのような場合に対処できるような表現とともに、基本的語彙や知識も学ぶ。

【授業の概要】 いろいろな医療現場における会話を、リスニング、入れ替え練習などを通して学び、同時に専門的な語彙も学ぶ。ペアワークなどを通して、積極的に話す練習をする。

【キーワード】 看護, 医療

【到達目標】

1. 看護の現場に必要な表現を身につける。
2. 看護の現場に必要な語彙を学ぶ。

【授業の計画】

1. Pre-Unit A-D Introduction
2. Unit 1 Hospital Departments
3. Unit 2 Application Forms
4. Unit 3 Parts of the Body
5. Unit 4 Illnesses
6. Unit 5 Daily Routine
7. Unit 6 Hospital Objects
8. Unit 7 Locations of Hospital Objects
9. Unit 8 Hospital Directions and Instructions
10. Video Viewing: Laughter as Medicine*
11. Unit 9 Directions (Outside the Hospital)
12. Unit 10 Chatting with a Patient
13. Unit 11 Taking a Medical History
14. Unit 12 Hospital Procedures
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】 Vital Signs—Essential English for Healthcare Professionals Vivian Morooka, Terri Sugiura 著 南雲堂 2100 円 *は資料を配布する

【成績評価の方法】 授業への取り組み, 小テスト, 定期試験などにより総合的に評価

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 予習, 復習を前提とする。教科書に添付の CD を使ってリスニングと口頭練習をすること。なお, シラバスの内容は, 学生の学習進度により, 変更することがある。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220832>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山田 .

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医 ((保 B)1 年))

米原 晶子・非常勤講師

1 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】今日の社会において英語による情報の授受の必要性はもはや論を俟たないであろう。この授業では、英語の実用的運用能力をはかる客観式テストとして近年広く普及している TOEIC (Test of English for International Communication) の受験の準備を目的とする。

【授業の概要】TOEIC の問題集を解いていく。リスニング問題、リーディング問題とともに各自が事前学習をして来ることが前提で、教室は答え合わせと解説の場とする。また授業の初めには、前週に報じられている国内外の最新ニュース英語の速読を行う。

【キーワード】TOEIC, 時事英語

【到達目標】

1. TOEIC 問題パターンに慣れる。
2. TOEIC に出てくる語彙、特にビジネス系の語句に習熟する。
3. 英文ニュースを読めるようになる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Unit 13
15. 期末試験
16. まとめ

【教科書】鈴木薫『The Next Stage to the TOEIC Test Pre-intermediate』金星堂

【成績評価の方法】学期末試験、予習状況、中間試験などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】必ず予習をして来て下さい。CD 付きテキストですから、リスニング問題は何度でも分かるまで聞いて解答してみてください。TOEIC はとにかく忙しい試験で、時間勝負で慣れが必要です。平素のリスニングやポキャブルも欠かせません。ラジオ語学講座は有効です。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220833>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 米原 .

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医 ((保 B)1 年))

上野 加代子・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC(Test of English for International Communication) 試験のリスニング学習を通して、リスニング力を高めるとともに、有用な単語やフレーズを学習し、映画・ドラマを数多く視聴し、スピードの速いネイティブ英語に慣れる。

【授業の概要】 授業は 2 つのパートから成る。①TOEIC のリスニング練習等を行い、TOEIC 試験のこつをつかむ。②そして海外英語ドラマや映画を視聴し、有用なフレーズを学び、穴埋めの聞き取りを行うことでリスニングの力を高める。

【キーワード】 リスニング, 映画, *TOEIC*

【到達目標】

1. 英語学習の意欲が高まる
2. TOEIC500 点以上を取る

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. TOEIC&映画などのリスニング
3. TOEIC&映画などのリスニング
4. TOEIC&映画などのリスニング
5. TOEIC&映画などのリスニング
6. TOEIC&映画などのリスニング
7. TOEIC&映画などのリスニング
8. TOEIC&映画などのリスニング
9. TOEIC&映画などのリスニング
10. TOEIC&映画などのリスニング
11. TOEIC&映画などのリスニング
12. TOEIC&映画などのリスニング
13. TOEIC&映画などのリスニング
14. TOEIC&映画などのリスニング
15. 期末試験
16. 総括授業

【成績評価の方法】 成績は、期末試験 (60%) 中間テスト (20%) 授業中の正解回数 (20%) で総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220834>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 毎週水曜日 11 時 40 分 ~ 12 時 40 分)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医 ((保 C)1 年))

吉田 文美・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的な情報をいち早く知るために、英語を用いてコミュニケーションを行う能力は必要不可欠であろう。このクラスでは、英語ニュースや一般書を理解するために最低限必要と思われる読解力、語彙力を養成する。関連した内容のリスニングも行うことで、総合的な英語力の向上をめざす。

【授業の概要】 テキスト Reading Fusion 1 で、文化、科学、環境問題などに関する記事を読み、内容理解、語彙習得、記事に関連した内容のリスニングを行う。学期中に 2 度のテストを行う他、毎回授業中に単語・慣用句の小テストを実施する。授業は学生用コンピューター端末を備えた LL 教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんどで、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】 *reading comprehension, vocabulary building*

【到達目標】

1. 英語の文章を読んで理解する力を高める。
2. 語彙力を高める。

【授業の計画】

1. Class Guidance
2. 1. Music and the Mind (The Arts)
3. 2. Body Language across Cultures (Culture)
4. 3. Turning Waste into Wealth (The Environment)
5. 4. The Search for Other Worlds (Space)
6. 5. Crowdsourcing (The Internet)
7. 6. Urban Landmarks (Architecture and Identity)
8. Midterm Test
9. 7. Food Safety (Health)
10. 8. Spending a Fortune (Entertainment)
11. 9. Wonders of the Deep (Nature)
12. 10. Product Placement (Business)
13. 11. White-collar Crime (Law and Crime)
14. 12. Working Disabled (Social Issues)
15. Final Test

16. Class Review

【教科書】 Andrew E. Bennet. Reading Fusion 1. Nan'un-do, 2010. ¥2310 (tax included)

【成績評価の方法】 学期中に試験を 2 回おこなう他に、授業中に各 Unit の小テストも実施します。Mid-term and final exams (60%), Weekly mini-tests (40%).

【再試験の有無】 なし。

【WEB 頁】 <https://lms.medsci.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220835>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 前期/火曜 5-6

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(医 ((保 C)1 年))

バロックスザンネ・非常勤講師/全学共通教育センター

1 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 English has become the lingua franca in today's global society. As globalization brings the world closer together, the need for global citizens to be able to communicate clearly in English is becoming more urgent. The aim of this course is to give students the opportunity to practice speaking English with an emphasis on correct pronunciation, rhythm and intonation. Listening to authentic texts by native speakers (through DVD and other media) will be an important part of the course. Practice in the four skills reading, writing, listening and speaking will be provided during class and through homework.

【授業の概要】 Students will be expected to take part in a number of role-plays and memorize short skits. Emphasis will be placed on pronunciation with natural rhythm and intonation. The following schedule is tentative and shows only general topics for each class. It may be modified depending on students' level and interest.

【到達目標】

1. Students will gain confidence in their understanding of English pronunciation (linking, assimilation, rhythm and intonation).
2. Students will improve their listening comprehension.

【授業の計画】

1. Introduction: self introductions
2. Listening activity and role play: Harry meets Ron
3. Listening to Narnia 1: Lucy meets Mr. Tumnus
4. Listening to Narnia 2: Lucy meets Mr. Tumnus (Part 2)
5. Listening to Narnia 3: Tea at Mr. Tumnus' House
6. Listening to Narnia 4: Back through the wardrobe
7. Listening to Narnia 5: Turkish delight
8. Listening to Narnia 6: Turkish delight (Part 2) and Lucy finds Edmund
9. Listening Test 1
10. Listening to Narnia 7: A Christmas Present
11. Listening to Narnia 8: Edmund at the Witch's House
12. Listening to Narnia 9: Aslan's Camp

13. Listening to Narnia 10: The Witch comes to Aslan's Camp

14. Presentations

15. Listening Test 2

16. Consolidation

【教科書】 Handouts will be prepared by the instructor and no textbook is required.

【成績評価の方法】 Students will be assessed on class participation, homework, role plays, skits and written assignments. Tentative coursework evaluation: Attendance: 30%, Listening Tests: 40%, Written Assignment: 15%, Presentation 15%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220836>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ バロックス .

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(歯((歯・口)1年))

米原 晶子・非常勤講師

1単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 今日の社会において英語による情報の授受の必要性はもはや論を俟たないであろう。この授業では、英語の実用的運用能力をはかる客観式テストとして近年広く普及している TOEIC(Test of English for International Communication) の受験の準備を目的とする。

【授業の概要】 TOEIC の問題集を解いていく。リスニング問題、リーディング問題とともに各自が事前学習をして来ることが前提で、教室は答え合わせと解説の場とする。また授業の初めには、前週に報じられた国内外の最新ニュース英語の速読を行う。

【キーワード】 *TOEIC*, 時事英語

【到達目標】

1. TOEIC 問題パターンに慣れる。
2. TOEIC に出てくる語彙、特にビジネス系の語句に習熟する。
3. ニュース英語を読めるようになる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Unit 13
15. 期末試験
16. まとめ

【教科書】 鈴木薫『The Next Stage to the TOEIC Test Pre-intermediate』 金星堂

【成績評価の方法】 学期末試験、予習状況、中間試験などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 必ず予習をして来て下さい。CD 付きテキストですから、リスニング問題は何度でも分かるまで聞いて解答してみてください。TOEIC はとにかく忙しい試験で、時間勝負で慣れが必要です。平素のリスニングやポキャベルも欠かせません。ラジオ語学講座は有効です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220837>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 米原 .

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(薬 (薬 A1 年))

魚崎 典子・非常勤講師 / 全学共通教育センター

1 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】社会がグローバル化する中、英語コミュニケーション能力は必要不可欠になっています。本クラスでは親しみある歌を通して英語の Listening, reading, speaking 能力の向上を目指します。

【授業の概要】ポピュラーソングを鑑賞して歌詞を理解し、歌について書かれたエッセイ文を読んだり、リスニング行い、リーディング力、リスニング力の向上を目指します。適宜課題や小テストが課せられます。また TOEIC 対策もする予定です。

【キーワード】リスニング、リーディング、異文化理解

【到達目標】

1. 平易な英文が読めるようになる。
2. 会話でよく使われる表現の聞き取りができるようになる。
3. 英米文化への理解を深める。

【授業の計画】

1. Introduction
2. Material Girl
3. Closer to Home/I'm Your Captain
4. High School
5. No Fun
6. Leader of the Pack
7. I'm Eighteen
8. Search and Destroy
9. Frozen
10. TOEIC TEST REHEARSAL
11. Shakin' Street
12. We're an American Band
13. Bohemian Like You
14. A Whiter Shade of Pale
15. 期末試験
16. 総括

【教科書】魚崎典子 (松柏社)

【成績評価の方法】小テスト、レポート、学期末試験、授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】日頃から英語の歌に親しみましょう。学期末試験は、授業時間数の 3 分の 2 以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること!

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220838>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 魚崎 . (オフィスアワー: 初回の授業でお知らせします。)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(薬(薬B1年))

早内-プリングルジュディス・非常勤講師

1単位 前期 火 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammar ability and fluency. A textbook will be used along with other items. Practice in the four skills (reading, writing, listening and speaking) will be provided during class and through homework.

【授業の概要】 Students are expected to speak and write only in English during class. There will be homework/projects outside of class, and students are expected to complete those assignments even if they are absent. There will be presentations, etc. The following class schedule is tentative and may be modified due to factors such as class size, etc.

【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化

【到達目標】 In today's globalized society, English has become the common language of communication and is necessary to gain more knowledge of world events, and process information. This class requires students to put their English skills into practice, and they will increase in fluency and confidence as they do so.

【授業の計画】

1. General Class Guidance
2. Names
3. Kiss, Bow, or Shake Hands?
4. Prized Possessions
5. Cheers!
6. What's the Occasion?
7. First Dates
8. Mid-term evaluation and presentation
9. On the Job
10. A Gift for Me?
11. Feast on This
12. Looking Good

13. That's Shocking!

14. Glued to the Tube

15. Final Evaluation & Presentation 1

16. Final Evaluation & Presentation 2

【教科書】 Linda Lee, Kensaku Yoshida & Steve Ziolkowski: J-Talk, Oxford University Press

【成績評価の方法】 Weekly class participation, attendance, homework: 70%; Mid-term & Final Evaluations: 30%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220839>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル (juditheph@yahoo.com) MAIL (オフィスアワー: By appointment)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((建 A)1 年))

樋口 友乃 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 グローバル化および情報化の時代の中に置かれた私たちは、いまや世界の「共通語」とみなされるようになった英語の運用能力を身に付けることを求められている。そのため、この授業では、世界遺産を題材とする映像を見ながら、語彙の確認・聴き取り・ディクテーション・スクリプトの読解・関連する会話の練習などを行うことを通して、英語運用能力を総合的に高めることを目的とする。

【授業の概要】 世界遺産を題材とする映像を見ながら、語彙の確認・聴き取り・ディクテーション・スクリプトの読解・関連する会話の練習などを行う。

【到達目標】 これまでに身に付けてきた基本的な英語運用能力を定着させ、さらに高める。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. 中間試験
9. Unit 7
10. Unit 8
11. Unit 9
12. Unit 10
13. Unit 11
14. Unit 12
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 World Heritage on DVD (Masakazu Someya, Gred Ferrasci. Nan'un-do)

【成績評価の方法】 授業への取組状況 (10%)、中間試験 (40%)、期末試験 (50%) などを元に総合的に評価する (ただし評価割合のおおよその目安は括弧内のパーセ

ントである)。

【再試験の有無】 なし

【WEB 頁】 <https://cms.medsci.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220840>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((建 A) 1 年))

三浦 博・非常勤講師

1 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC の受験対策

【授業の概要】 毎回の授業でなされること. (1)Listening の小テスト (2) その日のテキストに出てくる英単語・熟語の小テスト (3)TOEIC 受験のための問題集の学習

【到達目標】 TOEIC 得点 600 以上を目指す.

【授業の計画】

1. 授業内容の紹介
2. (Unit 1)Daily Life(品詞の違い・広告を読む)
3. (Unit 2)Places(カード・通知を読む)
4. (Unit 3)People(代名詞・図表とメモを読む)
5. (Unit 4)Travel(メッセージと手紙を読む)
6. (Unit 5)Business(動詞の形・通知, メモを読む)
7. (Unit 6)Office(手紙を読む)
8. (Unit 7)Technology(語彙関係・メモと概要を読む)
9. (Unit 8)Personnel(記事を読む (1))
10. (Unit 9)Management(接続詞・通知を読む)
11. (Unit 10)Purchasing(レシートを読む)
12. (Unit 11)Finances(時制・レシピを読む)
13. (Unit 12)Media(記事を読む (2))
14. (Unit 13)Health(FAX を読む)
15. 学期末試験
16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 石井正仁・萩原一郎著 『Hyper Listening(Intermediate)』 桐原書店 630 円
- ◇ 水本 篤 (他) 著 『SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST2(Goal 600)』 桐原書店 1600 円+税

【成績評価の方法】 Listening Test(15%)+英単・熟語小テスト (15%)+エッセー (20%)+ 期末試験 (50%)

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 授業には毎回出席してほしい. また,毎回 Listening の小テスト (家庭学習用 CD 付き) および英単・熟語小テストをするので,これらについても予習した方が良い点がとれると思う.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220841>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三浦 . (オフィスアワー: 非常勤講師室またはshomachi43211@yahoo.co.jpまで)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((建 B)1 年))

森岡 芳洋・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語運用能力の基盤的要素である文法的側面について、項目毎に確認する。

【授業の概要】 英語文法の基礎を学び直すために提供される様々な練習問題を解くことにより、学力向上をめざす。

【キーワード】 英語文法

【到達目標】 英語文法の基礎の学び直し。

【授業の計画】

1. 導入 英語の文～文の仕組みはどうなっているの？
2. 名詞・代名詞・冠詞～ものの名前と性格は？
3. 動詞～英語の文の根っこにあるもの
4. 5 文型～”ドウシ”て5つにわけろ？
5. 助動詞～頼もしい助っ人
6. 時制～12の時制を説明できる？
7. 完了形～時間の流れを意識して
8. 不定詞～形はかわらぬ動詞の仲間
9. 動名詞～動詞と名詞が合体すると
10. 分詞～2つの働きを分かちもつ詞(ことば)
11. 受動態～語順に注意を
12. 形容詞・副詞・比較～飾り付ける, 比べてみる
13. 関係詞～2つを1つにする接着剤
14. 仮定法～もしも, …の世界 文構造のまとめ～より添うことばたち
15. 期末試験
16. まとめ

【教科書】 山田久美, 他 (共著) 『基礎から始める英語演習』 (2011) 南雲堂 1,680 円 (税込み)

【成績評価の方法】 演習作業と期末試験により評価する。

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220842>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((建 B)1 年))

石田 和枝・非常勤講師

1 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC 試験対策. 基本的な文法知識を強化することにより総合的な得点能力を高める.

【授業の概要】 基礎的文法事項を復習するとともに, 試験に頻出する重要表現や語句を豊富な練習問題を通して習得する.

【キーワード】 *TOEIC*

【到達目標】 個々のレベルに応じて, TOEIC スコアのアップ.

【授業の計画】 初回の授業時に前期分の詳しい講義計画書を配布する. 授業はその計画書にそって進められていくので, 学生にはそれに合わせて予習・復習することが望まれる. 7 週目には中間試験をする予定である.

【教科書】 教科書購入の必要はありません.

【成績評価の方法】 中間・期末試験と小テストの成績+日頃の授業に取り組む姿勢

【再試験の有無】 原則的にありません.

【受講者へのメッセージ】 3 分の 1 以上欠席すると再受講となりますから, しっかり自己管理してください.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220843>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 .

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工((機A)1年))

鎌田スザーン・非常勤講師

1単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 In today's globalized society, the ability to communicate in has become increasingly important to gain knowledge of world events and the ability to process technical information. In this class, students will participate in a variety of guided activities meant to foster communication skills. The emphasis will be on communication, as opposed to grammar.

【授業の概要】 This class will be conducted entirely in English. You will be expected to speak, listen, read and write individually, in pairs and in groups. All students will take part in a group project and give 3-minute speeches. There will be a final test at the end of the course.

【キーワード】 *English communication*

【到達目標】 To become better at and more comfortable with using English for communication.

【授業の計画】

1. Meeting and Greeting
2. What is it?
3. Describing Japanese things
4. Book discussion
5. Group Project
6. Group Project
7. Group Project
8. Directions
9. Old Wives' Tales
10. Making plans
11. Find Someone Who
12. Three minute speeches
13. Three minute speeches
14. Game Day
15. Final test
16. Class Review

【教科書】 No textbook will be used. Students are expected to bring paper, writing implements and a dictionary to each class.

【成績評価の方法】 Grading will be based on attendance and participation (25%), group project (25%), three-minute speech (25%) and final test (25%).

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 I hope that students will learn to enjoy using English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220844>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 鎌田 . (オフィスアワー: suekamata@msn.com)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((機 A)1 年))

田中 孝雄・非常勤講師

1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】さまざまなテーマのエッセイを読み、現代のイギリスという国やイギリスの日常生活についての基本的な知識を習得する。

【授業の概要】イギリスの文化を People, Places, Recreation, Modern Life, Issues という 6 つのテーマで学ぶ。

【キーワード】イギリス, 文化

【到達目標】現代イギリス文化を理解する。

【授業の計画】

1. Introduction
2. Fashion
3. Music
4. Literature
5. Obsession with celebrities
6. Trendy East London
7. Olympic Park
8. Church Attendance ; National Trust Properties
9. Holidays at Home ; Holidays Abroad
10. Television ; Food and Drink
11. Mobile-Phone Culture ; The Modern Family
12. Housing Market ; Taxation
13. Binge Drinking ; Climate Change
14. Recycling ; Changing Demographics
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】渡辺順子注釈 『変わりゆくイギリス』 南雲堂 2009 年 1,800 円+税

【参考書等】安東伸介他著 『イギリスの生活と文化事典』 研究社出版 1983 年

【成績評価の方法】学期末試験, 課題発表及び授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【講師へのメッセージ】毎回, 出される課題を準備し積極的に発表することが期待されます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220845>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田中 . (オフィスアワー: sp-tanaka@kxe.biglobe.ne.jp)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((機 B)1 年))

吉田 文美・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的な情報をいち早く知るために、英語を用いてコミュニケーションを行う能力は必要不可欠であろう。このクラスでは、英語ニュースや一般書を理解するために最低限必要と思われる読解力、語彙力を養成する。関連した内容のリスニングも行うことで、総合的な英語力の向上をめざす。

【授業の概要】 テキスト Reading Fusion 1 で、文化、科学、環境問題などに関する記事を読み、内容理解、語彙習得、記事に関連した内容のリスニングを行う。学期中に 2 度のテストを行う他、毎回授業中に単語・慣用句の小テストを実施する。授業は学生用コンピューター端末を備えた LL 教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんどで、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】 *reading comprehension, vocabulary building*

【到達目標】

1. 英語の文章を読んで理解する力を高める。
2. 語彙力を高める。

【授業の計画】

1. Class Guidance
2. 1. Music and the Mind (The Arts)
3. 2. Body Language across Cultures (Culture)
4. 3. Turning Waste into Wealth (The Environment)
5. 4. The Search for Other Worlds (Space)
6. 5. Crowdsourcing (The Internet)
7. 6. Urban Landmarks (Architecture and Identity)
8. Midterm Test
9. 7. Food Safety (Health)
10. 8. Spending a Fortune (Entertainment)
11. 9. Wonders of the Deep (Nature)
12. 10. Product Placement (Business)
13. 11. White-collar Crime (Law and Crime)
14. 12. Working Disabled (Social Issues)
15. Final Test

16. Class Review

【教科書】 Andrew E. Bennet. Reading Fusion 1. Nan'un-do, 2010. ¥2310 (tax included)

【成績評価の方法】 学期中に試験を 2 回おこなう他に、授業中に各 Unit の小テストも実施します。Mid-term and final exams (60%), Weekly mini-tests (40%).

【再試験の有無】 なし。

【WEB 頁】 <https://lms.medsci.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220846>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 前期/月曜 7-8

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工((機B)1年))

ラックストーンロバート・非常勤講師

1単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 This class will stress English basics, including grammar and pronunciation, as well as give students a chance to improve their conversational ability

【授業の概要】 We will do some TOEIC practice, textbook exercises, role-plays and skits.

【到達目標】 Students will increase their confidence about speaking English.

【授業の計画】

1. Introduction
2. Unit 1.1
3. Unit 1.2
4. Unit 2.1
5. Unit 2.2
6. Unit 3.1
7. Quiz 1 and Skit Preparation
8. Skit Day
9. Unit 3.2
10. Unit 4.1
11. Unit 4.2
12. Unit 5.1
13. Unit 5.2
14. TOEIC Practice Day
15. Quiz 2 and Skit Preparation
16. Skit Day

【教科書】 Jack C. Richards: New Person to Person, Student Book 1

【成績評価の方法】 Quiz 1 25%; Skit 1 25%; Quiz 2 25%; Skit 1 25%

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220847>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ラックストーン .

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((機 C)1 年))

樋口友乃・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 グローバル化および情報化の時代の中に置かれた私たちは、いまや世界の「共通語」とみなされるようになった英語の運用能力を身に付けることを求められている。そのため、この授業では、世界遺産を題材とする映像を見ながら、語彙の確認・聴き取り・ディクテーション・スクリプトの読解・関連する会話の練習などを行うことを通して、英語運用能力を総合的に高めることを目的とする。

【授業の概要】 世界遺産を題材とする映像を見ながら、語彙の確認・聴き取り・ディクテーション・スクリプトの読解・関連する会話の練習などを行う。

【到達目標】 これまでに身に付けてきた基本的な英語運用能力を定着させ、さらに高める。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. 中間試験
9. Unit 7
10. Unit 8
11. Unit 9
12. Unit 10
13. Unit 11
14. Unit 12
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 World Heritage on DVD (Masakazu Someya, Gred Ferrasci. Nan'un-do)

【成績評価の方法】 授業への取組状況 (10%)、中間試験 (40%)、期末試験 (50%) などを元に総合的に評価する (ただし評価割合のおおよその目安は括弧内のパーセ

ントである)。

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220848>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((機 C)1 年))

三宅 恵美・非常勤講師

1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 現在のグローバル化社会においては、個人のアドバンテージとして、またその力をもって社会に貢献するために、英語運用能力を身につけることが必須であるため、以下の 3 つの方法を用いて能力向上を促す。1. ビジネス社会では重要視されている TOEIC のスコアを伸ばすための基礎力をつけることを目的とする:TOEIC は現在、多くの企業で、新入社員のレベルチェック、社内語学研修、配属、海外出張、駐在、昇進など様々な場面で活用されており、採用、配属 (グローバル化に伴い、海外部門以外でも英語力を必要とされ、評価される場面は非常に多い)、昇進時に必須となるスキルである。また、英語運用能力を伸ばすために大切な学習の持続に重要なのはモチベーションだが、TOEIC 対策学習は目的と方法が明確なのでモチベーションを持続しやすく、最終的には英語運用能力を総合的にレベルアップできる。2. DVD など視聴覚教材を用い、楽しみながらリスニング力、語用力、実践力を向上させる。3. 通訳訓練法を取り入れた学習法を紹介する。

【授業の概要】 実際の TOEIC 問題を、文法項目別、Topic 別に系統立てて学習する中で、語彙力、文法力、長文読解力、リスニング力、会話スタイルの英語などについての基礎力をつける。後半は DVD など視聴覚教材を用い、楽しみながらリスニング力、語用力、実践力をつけたり (TOEIC では特に Part II, Part III に役立つ)、通訳訓練法を取り入れた練習でバリエーションをつけながら幅広い学習を行う。TOEIC テスト対策をする。

【到達目標】 TOEIC で最低 400 点は確実に取得することを目標とし (学習ターゲットレベルは 400~500 点)、TOEIC の学習を通じて英語の基礎力アップと実際の試験対策を行う。特にリスニング力を上げる。

【授業の計画】

1. TOEIC とはなにか
2. 交通
3. ショッピング
4. 通信
5. スポーツとゲーム
6. 健康
7. 家賃と光熱費

8. 模擬テスト
9. エンターテインメント
10. 環境
11. 雇用
12. 仕事の手順
13. 予約をとる
14. ビジネス戦略
15. 定期試験
16. 総括授業

【教科書】 Living English for the TOEIC TEST, 線ゲージラーニング (2,100 円), その他の資料は適宜配付します。

【成績評価の方法】 試験で約 70%, 小テスト, 課題等の平常点で約 30%

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 「必要だ!」と思った時に慌てても、レベルアップが間に合わないのが言語運用能力!今から準備しておきましょう。100%必ず役に立ちます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220849>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 授業開始後お知らせします

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工((化A)1年))

森岡 芳洋・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語運用能力の基盤的要素である文法的側面について、項目毎に確認する。

【授業の概要】 英語文法の基礎を学び直すために提供される様々な練習問題を解くことにより、学力向上をめざす。

【到達目標】 英語文法の基礎の学び直し

【授業の計画】

1. 導入 平叙文・疑問文
2. 命令文・付加疑問文・感嘆文
3. 時制①
4. 時制②
5. 助動詞①
6. 助動詞②
7. 受動態
8. 不定詞①
9. 不定詞②
10. 分詞
11. 動名詞
12. 仮定法
13. 関係詞① 関係詞②
14. 比較
15. 期末試験
16. まとめ

【教科書】 西谷恒志, 他 (編著) Basic Grammar in Common Use (2011) 音羽書房 鶴見書店 1,800 円 (税別)

【成績評価の方法】 演習作業と期末試験により評価する。

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220850>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((化 A)1 年))

早内-プリングルジュディス・非常勤講師

1 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammar ability and fluency. A textbook will be used along with other media forms. Practice in the four skills reading, writing, listening and speaking will be provided during class and through homework.

【授業の概要】 Students will be expected to speak and write only in English during class. They will be expected to work not only in class, but also outside. There will be homework and they are expected to do it even if they are absent from class. The following class schedule is tentative and only shows the general contents of the textbook used in this course. It may be modified due to the size of the class or other factors.

【キーワード】 *four skills, fluency*

【到達目標】 In today's globalized society, English has become the common language of communication and is necessary to gain more knowledge of world events, and process information. This class requires students to put their skills into practice, and in the process increase fluency and confidence in using English while also increasing vocabulary and polishing grammatical skills.

【授業の計画】

1. General Class Guidance; What is engineering?
2. Units 5 & 6: What is it made from?
3. Units 7 & 8: A picture is worth a thousand words; Getting away from it all
4. Units 9 & 10: The car's a star; Made by hand
5. Presentation 1: Invention
6. Unit 11: Did you read the instructions?
7. Units 12 & 13: Safety first; Are you sitting comfortably?
8. Mid-term Evaluation; Mini Presentation 2
9. Units 14 & 15: Small is beautiful; Big is best
10. Unit 18: Gadgets
11. Units 19 & 20: Bridging the gap; Bridge disasters

12. Units 21 & 22: Ancient structures; Do you understand?

13. Units 23 & 24: How do you say? Where have I heard that name before?

14. Units 25 & 26: What's your number?; It's all just numbers; Presentation 3: A Fantastic Product

15. Presentation 3: A Fantastic Product: Part 1

16. Presentation 3: A Fantastic Product: Part 2; Final Exam

【教科書】 Lindsay White, Engineering Workshop, Oxford University Press
ISBN0-19-438827-1

【参考書等】 授業中に指示します。

【成績評価の方法】 The Mid-term and Final evaluations are an important component of this course, but weekly attendance, active participation in class work, and homework completion are even more important. Tentative coursework evaluation: Weekly class participation, assignment, and homework (60%), Mid-term and Final Evaluation (40%).

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【受講者へのメッセージ】 Make the most of all opportunities to expand your horizons, and especially when communicating in another language.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220851>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル (juditheph@yahoo.com) MAIL (オフィスアワー: By appointment)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((化 B)1 年))

田中 孝雄・非常勤講師

1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】さまざまなテーマのエッセイを読み、現代のイギリスという国やイギリスの日常生活についての基本的な知識を習得する。

【授業の概要】イギリスの文化を People, Places, Recreation, Modern Life, Issues という 6 つのテーマで学ぶ。

【キーワード】イギリス, 文化

【到達目標】現代イギリス文化を理解する。

【授業の計画】

1. Introduction
2. Fashion
3. Music
4. Literature
5. Obsession with celebrities
6. Trendy East London
7. Olympic Park
8. Church Attendance ; National Trust Properties
9. Holidays at Home ; Holidays Abroad
10. Television ; Food and Drink
11. Mobile-Phone Culture ; The Modern Family
12. Housing Market ; Taxation
13. Binge Drinking ; Climate Change
14. Recycling ; Changing Demographics
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】渡辺順子注釈『変わりゆくイギリス』南雲堂 2009 年 1,800 円+税

【参考書等】安東伸介他著『イギリスの生活と文化事典』研究社出版 1983 年

【成績評価の方法】学期末試験、課題発表及び授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】無し

【講師へのメッセージ】毎回、出される課題を準備し積極的に発表することが期待されます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220852>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田中 . (オフィスアワー: sp-tanaka@kxe.biglobe.ne.jp)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((化 B)1 年))

ニムチャックアーレン・非常勤講師

1 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 Students will have a chance to practice using English.

【授業の概要】 Students will discuss a different topic each week, practicing the English necessary for each week's lesson.

【キーワード】 *Practical English; conversation*

【到達目標】 Students should come to class and try to use only English, without fear of making mistakes. Mistakes will happen, and students should not worry when they make them. Enjoy the class, have fun, and use English.

【授業の計画】

1. Introductions
2. Classroom English
3. What did you do last weekend?
4. Which is bigger?
5. Time
6. I like cheese pizza. Me too!
7. First, cut some tomatoes.
8. Mid-Term Test
9. Future plans
10. How often do you exercise?
11. Can you swim?
12. Fast food
13. Holidays and celebrations
14. I Prefer dark chocolate
15. Can you speak any other languages?
16. Final Test

【教科書】 無

【参考書等】 Practical English Textbook - Basic (¥500) - available from teacher, 2nd week

【成績評価の方法】 Students' grades will be as follows: Attendance = 50% of students' grades. Mid- term test = 25% of students' grades. Final test = 25% of students' grades. Final grades will consist of an attendance score and test scores. (ie. 50%

+ 25% + 25% = 100%)

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 Have fun, enjoy and speak English!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220853>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ニムチャック . (オフィスアワー: canadaclubjp@bloom.ocn.ne.jp)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((生 A)1 年))

前田 一平 / 鳴門教育大学

1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 近年とみに人気が高まっている TOEIC 演習の授業で、問題の傾向と対策を講じます。基本文法、語彙、表現の力を養うのみならず、速く、正確に英文を読む訓練を行います。

【授業の概要】 TOEIC では限られた時間内に大量の問題をこなさなければなりません。よって、本授業は各問題を、例えば 1 分以内に解答するというように、ストップウォッチで解答時間を区切って実施します。授業中に実際に受験しているような環境で解答に臨んでもらいます。ですから、予習を妨げるものではないが、むしろ復習を推奨します。リスニング演習とリーディング演習を平行して実施するが、比重はリーディングにおきます。

【キーワード】 TOEIC 対策, Reading 中心, Listening, キーワード検索, 速読, 語彙力

【到達目標】

1. TOEIC の内容が理解できる。
2. 空所補充問題によって英語の基礎力を伸ばし、文構造理解とパラグラフのキー・ワード検索によって長文対策ができる。
3. TOEIC に対応できるよう、集中力をもって速く英文を読む技術を身につける。
4. リスニング問題のコツを体得する。

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. Lesson 1 Job Hunting
3. Lesson 2 Job Interviews
4. Lesson 3 Company Information, Department Names
5. Lesson 4 Job Titles and Responsibilities
6. Lesson 5 Around the Office
7. Lesson 6 Products and Services
8. Midterm exam. (中間試験)
9. Lesson 7 Meetings and Conferences
10. Lesson 8 Business Performance
11. Lesson 9 Promotions and Salaries

12. Lesson 10 Travel and Hotels

13. Lesson 11 Banking and Shopping

14. 復習

15. Final exam. (学期末試験)

16. 総括授業

【教科書】 TOEIC Test Training 550 (南雲堂)

【成績評価の方法】 中間試験 (50%) と学期末試験 (50%) による評価を基本とする。これに受講姿勢を加味して総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 TOEIC 受験生は解答時間の不足を訴えます。速く解答する集中力と根気、これも英語力あるいは人間力の重要な一部です。

【WEB 頁】 <https://cms.medsci.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220864>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 前田 (kmaeda@naruto-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: kmaeda@naruto-u.ac.jp 遠距離なので、オフィスアワーを利用することは不可能と思える。ただし、Eメールでの相談・指導は時間を問わず可能である。または、授業後などに相談されたし。)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((生 A)1 年))

ギュンター デイルク ・非常勤講師

1 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。

【授業の概要】 ペア練習と (グループ) プレゼンテーションを通じて日常生活会話能力を高める。

【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化

【到達目標】 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。英語を使う自信を高める。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. "Classroom Talk"
3. 単語ミニテスト "School Life"
4. 単語ミニテスト "Family"
5. 単語ミニテスト "Big Cities And Small Cities 1"
6. 単語ミニテスト "Big Cities And Small Cities 2"
7. 単語ミニテスト "Friends & Friendship"
8. 中間テスト
9. "Just Talk 1"
10. "Just Talk 2"
11. 単語ミニテスト "Favorites"
12. 単語ミニテスト "Fashion 1"
13. 単語ミニテスト "Fashion 2"
14. 単語ミニテスト "歌の聞き取り"
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 出席。 単位取得のためには (ア)~(オ) の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。 (ア~オ) の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英語は”ただの勉強しなければならない事”ではなく、言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して、遠慮せずに身につけた英語を使ったら、その扉を開ける事が出来ます。教室でお会いするのを楽しみにしています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220865>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ギュンター。 (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと (または、希望により他の時間にも))

【備考】 連絡先 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((生 B)1 年))

吉田 文美・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的な情報をいち早く知るために、英語を用いてコミュニケーションを行う能力は必要不可欠であろう。このクラスでは、英語ニュースや一般書を理解するために最低限必要と思われる読解力、語彙力を養成する。関連した内容のリスニングも行うことで、総合的な英語力の向上をめざす。

【授業の概要】 テキスト Reading Fusion 1 で、文化、科学、環境問題などに関する記事を読み、内容理解、語彙習得、記事に関連した内容のリスニングを行う。学期中に 2 度のテストを行う他、毎回授業中に単語・慣用句の小テストを実施する。授業は学生用コンピューター端末を備えた LL 教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんどで、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】 *reading comprehension, vocabulary building*

【到達目標】

1. 英語の文章を読んで理解する力を高める。
2. 語彙力を高める。

【授業の計画】

1. Class Guidance
2. 1. Music and the Mind (The Arts)
3. 2. Body Language across Cultures (Culture)
4. 3. Turning Waste into Wealth (The Environment)
5. 4. The Search for Other Worlds (Space)
6. 5. Crowdsourcing (The Internet)
7. 6. Urban Landmarks (Architecture and Identity)
8. Midterm Test
9. 7. Food Safety (Health)
10. 8. Spending a Fortune (Entertainment)
11. 9. Wonders of the Deep (Nature)
12. 10. Product Placement (Business)
13. 11. White-collar Crime (Law and Crime)
14. 12. Working Disabled (Social Issues)
15. Final Test

16. Class Review

【教科書】 Andrew E. Bennet. Reading Fusion 1. Nan'un-do, 2010. ¥2310 (tax included)

【成績評価の方法】 学期中に試験を 2 回おこなう他に、授業中に各 Unit の小テストも実施します。Mid-term and final exams (60%), Weekly mini-tests (40%).

【再試験の有無】 なし

【WEB 頁】 <https://lms.medsci.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220866>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 Semester 1/ Thursday 1-2

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((生 B)1 年))

マーシェソ ジェラルド 准教授 / 鳴門教育大学

1 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 Approximately half of each class will focus on Medical English. The other half will focus on general conversational English.

【授業の概要】 English for specific purposes (medical/dental English), General conversational English

【到達目標】 The purpose of this class is to improve students's basic English skills. The syllabus will be task based. Tasks will be integrated, targeting a variety of discrete skills. Grammar and vocabulary items will be addressed, but they will be viewed as subservient to meaning, rather than generative and devoid of context. The communicative aspect of language will be at the forefront.

【授業の計画】

1. Introductions / Getting to know your fellow students and teacher
2. Discussing language learning strategies and goals
3. Pronunciation workshop
4. How to take point form notes effectively
5. Using past tense to talk about events
6. Language for cause and effect, drawing conclusions
7. Expressing cause and effect in writing, developing a written argument
8. Preparation for presentations
9. Presentations
10. Using adjectives and descriptive language to describe cities and places
11. Describing your hometown, describing other cities
12. Pragmatically correct usage of various past tenses
13. Describing a vacation you have taken
14. Test practice
15. Test
16. Final class

【教科書】 Students will use material prepared by the instructor and self-generated material. There will be no textbook.

【成績評価の方法】 Presentation: 20. Two written tests (about medical English): 20% each. Speaking test: 20. Attendance and participation: 20

【再試験の有無】 Yes, if you have attended at least 2/3 of the class and your score is at least 50%

【受講者へのメッセージ】 I hope that you find the medical English part of this class useful for your future, but you'll have to study a lot of new vocabulary for the tests. For the general part of this class, you'll have a chance to participate more actively and speak English as you complete various theme-based tasks.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220867>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ マーシェソ .

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工((電A)1年))

宮田 政徳 准教授 / 大学開放実践センター

1単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 国際語としての英語の実用的運用能力をつけるために、TOEIC (=Test of English for Internatinal Communication) 受験対策を目的とする。

【授業の概要】 TOEIC 試験問題をテーマ別に扱い、そのテーマに関連する語彙を覚えながら、文法事項も項目別に確認し、リスニング問題とリーディング問題を通して解答を探して行く。

【キーワード】 トーイック試験

【到達目標】

1. TOEIC に出てくる日常会話とビジネス関係の語彙が理解できる。
2. TOEIC に出てくる文法事項が理解できる。
3. TOEIC のリスニング、リーディング問題に正しく解答できる。

【授業の計画】

1. 導入
2. 予定-動詞・5 文型
3. 数量を尋ねる-名詞
4. 命令-形容詞・副詞
5. 広告・宣伝-フレーズリーディング
6. 時間を尋ねる-動名詞
7. 場所を尋ねる-不定詞
8. 確認-分詞
9. 説明-スキヤニング
10. アドバイス-受動態
11. 誘い-比較
12. 申し出-関係詞
13. 講演者紹介-スキミング
14. 模擬試験
15. 期末試験
16. 期末試験の振り返り

【教科書】 TOEIC テスト・トレーナー・ターゲット 470; 山口昌彦 (センゲージ・ラーニング, 2007 年, 2100 円)

【成績評価の方法】 学期末テスト (85%), 及び授業への取り組み (15%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【講師へのメッセージ】 出席を重視するので、毎回出席すること。またテキストの問題は必ず予習してくること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220854>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 宮田 (D304, 088-656-9866, miyata@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日16時10分~17時30分)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工((電A)1年))

ニムチャックアーレン・非常勤講師

1単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 Students will have a chance to practice using English.

【授業の概要】 Students will discuss a different topic each week, practicing the English necessary for each week's lesson.

【キーワード】 *Practical English; conversation*

【到達目標】 Students should come to class and try to use only English, without fear of making mistakes. Mistakes will happen, and students should not worry when they make them. Enjoy the class, have fun, and use English.

【授業の計画】

1. Introductions
2. Classroom English
3. What did you do last weekend?
4. Which is bigger?
5. Time
6. I like cheese pizza. Me too!
7. First, cut some tomatoes.
8. Mid-Term Test
9. Future plans
10. How often do you exercise?
11. Can you swim?
12. Fast food
13. Holidays and celebrations
14. I Prefer dark chocolate
15. Can you speak any other languages?
16. Final Test

【教科書】 無

【参考書等】 Practical English Textbook - Basic (Y=500) - available from teacher, 2nd week

【成績評価の方法】 Students' grades will be as follows: Attendance = 50% of students' grades. Mid-term test = 25% of students' grades. Final test = 25% of students' grades. Final grades will consist of an attendance score and test scores. (ie. 50%

+ 25% + 25% = 100%)

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 Have fun, enjoy and speak English!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220855>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ニムチャック . (オフィスアワー: canadaclubjp@bloom.ocn.ne.jp)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((電 B)1 年))

ギュンター デイルク ・非常勤講師

1 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。

【授業の概要】 ペア練習と (グループ) プレゼンテーションを通じて日常生活会話能力を高める。

【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化

【到達目標】 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。英語を使う自信を高める。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. "Classroom Talk"
3. 単語ミニテスト "School Life"
4. 単語ミニテスト "Family"
5. 単語ミニテスト "Big Cities And Small Cities 1"
6. 単語ミニテスト "Big Cities And Small Cities 2"
7. 単語ミニテスト "Friends & Friendship"
8. 中間テスト
9. "Just Talk 1"
10. "Just Talk 2"
11. 単語ミニテスト "Favorites"
12. 単語ミニテスト "Fashion 1"
13. 単語ミニテスト "Fashion 2"
14. 単語ミニテスト "歌の聞き取り"
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 出席。 単位取得のためには (ア)~(オ) の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。 (ア~オ) の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英語は"ただの勉強しなければならない事"ではなく、言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して、遠慮せずに身につけた英語を使ったら、その扉を開ける事が出来ます。教室でお会いするのを楽しみにしています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220856>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ギュンター。 (オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと (または、希望により他の時間にも))

【備考】 連絡先 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工((電B)1年))

石田和枝・非常勤講師

1単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語(1)』)

【授業の目的】 TOEIC 試験対策. 基本的な文法知識を強化することにより総合的な得点能力を高める.

【授業の概要】 基礎的文法事項を復習するとともに, 試験に頻出する重要表現や語句を豊富な練習問題を通して習得する.

【キーワード】 *TOEIC*

【到達目標】 個々のレベルに応じて, TOEIC スコアのアップ.

【授業の計画】 初回の授業時に前期分の詳しい講義計画書を配布する. 授業はその計画書にそって進められていくので, 学生にはそれに合わせて予習・復習することが望まれる. 7 週目には中間試験をする予定である.

【教科書】 教科書購入の必要はありません.

【成績評価の方法】 中間・期末試験と小テストの成績+日頃の授業に取り組む姿勢

【再試験の有無】 原則的に無し

【受講者へのメッセージ】 3 分の 1 以上欠席すると再受講となりますから, しっかり自己管理してください.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220857>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 .

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工((電C)1年))

山内 暁彦・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語の広告の表現を素材として様々な英語表現を習得することを目指す。

【授業の概要】 イギリスの広告に見られる様々な英語表現を扱ったテキストを用いて総合的な英語力を養成するとともにイギリス人の生活と感性に触れる。また TOEIC 対策の教材などをプリントで用いる。

【キーワード】 広告

【到達目標】 日常的な英語表現を習得すること。

【授業の計画】

1. Introduction
2. Lesson 1. Slim Down, Shape Up!
3. Lesson 2. A Healthier, Happier You!
4. Lesson 3. Memories to Last a Lifetime
5. Lesson 4. The House You Need – A Price You Can Afford
6. Lesson 5. Moving? No Problem!
7. 中間テスト
8. Lesson 6. Come See Our New Home!
9. Lesson 7. Fantastic Furniture at Fantastic Prices
10. Lesson 8. Shopping at Your Fingertips
11. Lesson 9. Subscribe Now!
12. Lesson 10. A Special Gift for that Special Someone
13. Lesson 11. Leave It to the Experts!
14. Lesson 12. Now Hiring!
15. 前期試験
16. 総括授業

【教科書】 Terry O'Brien 他編 『イギリスの広告で学ぶ基礎英語』 南雲堂 2008 年 1,680 円

【成績評価の方法】 前期試験 (60%)、中間テスト (30%) および授業への貢献度などの平常点 (10%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【講師へのメッセージ】 よく予習をしたうえで授業に臨むこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220858>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 前期 月 7-8 電気電子工学科 1 年 C クラス

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工((電C)1年))

早内-プリングルジュディス・非常勤講師

1単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (1)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammar ability and fluency. A textbook will be used along with other media forms. Practice in the four skills reading, writing, listening and speaking will be provided during class and through homework.

【授業の概要】 Students will be expected to speak and write only in English during class. They will be expected to work not only in class, but also outside. There will be homework and they are expected to do it even if they are absent from class. The following class schedule is tentative and only shows the general contents of the textbook used in this course. It may be modified due to the size of the class or other factors.

【キーワード】 *four skills, fluency*

【到達目標】 In today's globalized society, English has become the common language of communication and is necessary to gain more knowledge of world events, and process information. This class requires students to put their skills into practice, and in the process increase fluency and confidence in using English while also increasing vocabulary and polishing grammatical skills.

【授業の計画】

1. General Class Guidance; What is engineering?
2. Units 5 & 6: What is it made from?
3. Units 7 & 8: A picture is worth a thousand words; Getting away from it all
4. Units 9 & 10: The car's a star; Made by hand
5. Presentation 1: Invention
6. Unit 11: Did you read the instructions?
7. Units 12 & 13: Safety first; Are you sitting comfortably?
8. Mid-term Evaluation; Mini Presentation 2
9. Units 14 & 15: Small is beautiful; Big is best
10. Unit 18: Gadgets
11. Units 19 & 20: Bridging the gap; Bridge disasters

12. Units 21 & 22: Ancient structures; Do you understand?

13. Units 23 & 24: How do you say? Where have I heard that name before?

14. Units 25 & 26: What's your number?; It's all just numbers; Presentation 3: A Fantastic Product

15. Presentation 3: A Fantastic Product: Part 1

16. Presentation 3: A Fantastic Product: Part 2; Final Exam

【教科書】 Lindsay White, Engineering Workshop, Oxford University Press
ISBN0-19-438827-1

【参考書等】 授業中に指示します。

【成績評価の方法】 The Mid-term and Final evaluations are an important component of this course, but weekly attendance, active participation in class work, and homework completion are even more important. Tentative coursework evaluation: Weekly class participation, assignment, and homework (60%), Mid-term and Final Evaluation (40%).

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【受講者へのメッセージ】 Make the most of all opportunities to expand your horizons, and especially when communicating in another language.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220859>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル (juditheph@yahoo.com) MAIL (オフィスアワー: By appointment)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((知 A)1 年))

ニムチャックアーレン・非常勤講師

1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 Students will have a chance to practice using English.

【授業の概要】 Students will discuss a different topic each week, practicing the English necessary for each week's lesson.

【キーワード】 *Practical English; conversation*

【到達目標】 Students should come to class and try to use only English, without fear of making mistakes. Mistakes will happen, and students should not worry when they make them. Enjoy the class, have fun, and use English.

【授業の計画】

1. Introductions
2. Classroom English
3. What did you do last weekend?
4. Which is bigger?
5. Time
6. I like cheese pizza. Me too!
7. First, cut some tomatoes.
8. Mid-Term Test
9. Future plans
10. How often do you exercise?
11. Can you swim?
12. Fast food
13. Holidays and celebrations
14. I Prefer dark chocolate
15. Can you speak any other languages?
16. Final Test

【教科書】 無

【参考書等】 Practical English Textbook - Basic (¥500) - available from teacher, 2nd week

【成績評価の方法】 Students' grades will be as follows: Attendance = 50% of students' grades. Mid-term test = 25% of students' grades. Final test = 25% of students' grades. Final grades will consist of an attendance score and test scores. (ie. 50%

+ 25% + 25% = 100%)

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 Have fun, enjoy and speak English!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220860>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ニムチャック . (オフィスアワー: canadaclubjp@bloom.ocn.ne.jp)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((知 A)1 年))

藪下 克彦 教授 / 鳴門教育大学

1 単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 我々の身の回りでは、好むと好まざるに関わらず、「グローバルゼーション」の名のもと、様々な分野で国際化が進行している。そのような国際化社会で生きていくためには、実質的国际共通語である英語によるコミュニケーションを習得することは非常に重要なことである。本授業は、いわゆる「実践的英語コミュニケーション能力」と称される英語運用能力の文法的基礎、特に TOEIC で求められている「コミュニケーションに役立つ文法能力」を養うことを目的とする。

【授業の概要】 各回の授業で文法項目の一つ取り上げる。まず、文法項目の要点を整理し、その後、理解確認と定着のための練習問題を行う。中間・期末テストは、TOEIC の Part V(文法・語彙問題)と Part VI(誤文訂正問題)形式の問題を中心に出題する。上記の活動以外に発音(記号)、文化的背景知識、異文化理解などに関する内容も扱う。

【キーワード】 コミュニケーション、文法、発音(記号)

【到達目標】

1. 「コミュニケーションに文法は不要である」という迷信を退ける。
2. 単語や文法事項を例文やコンテキストの中で学習する習慣を身につける。
3. 「カタカナ英語発音」からの脱却

【授業の計画】

1. 時制 (Tenses)
2. 仮定法 (Subjunctive)
3. 受動態 (Passive)
4. 関係詞 (Relatives)
5. 分詞 (Participles)
6. 助動詞 (Auxiliary Verbs)
7. 主語と動詞の一致 (Subject/Verb Agreement)
8. 中間テスト
9. 不定詞・動名詞 (Infinitives and Gerunds)
10. 比較 (Comparison)
11. 形容詞・副詞 (Adjectives and Adverbs)
12. 名詞・冠詞 (Nouns and Articles)

13. 接続詞 (Conjunctions)

14. 否定 (Negation)

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 Essential Grammar for the TOEIC Test・TOEIC テスト基礎文法トレーニング・第 2 版 (ISBN978-4-7773-6163-2), マクミラン ランゲージハウス, 1, 800 円

【成績評価の方法】 中間テスト, 期末テスト, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 「英文法をもう一回やり直したいけど、一人で参考書を読み直すのは、ちょっと・・・」, と考えていた人を特に歓迎します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220861>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 藪下 (yabuchan@naruto-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: yabuchan@naruto-u.ac.jp)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((知 B)1 年))

樋口友乃・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 グローバル化および情報化の時代の中に置かれた私たちは、いまや世界の「共通語」とみなされるようになった英語の運用能力を身に付けることを求められている。そのため、この授業では、世界遺産を題材とする映像を見ながら、語彙の確認・聴き取り・ディクテーション・スクリプトの読解・関連する会話の練習などを行うことを通して、英語運用能力を総合的に高めることを目的とする。

【授業の概要】 世界遺産を題材とする映像を見ながら、語彙の確認・聴き取り・ディクテーション・スクリプトの読解・関連する会話の練習などを行う。

【到達目標】 これまでに身に付けてきた基本的な英語運用能力を定着させ、さらに高める。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. 中間試験
9. Unit 7
10. Unit 8
11. Unit 9
12. Unit 10
13. Unit 11
14. Unit 12
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 World Heritage on DVD (Masakazu Someya, Gred Ferrasci. Nan'un-do)

【成績評価の方法】 授業への取組状況 (10%), 中間試験 (40%), 期末試験 (50%) などを元に総合的に評価する (ただし評価割合のおおよその目安は括弧内のパーセ

ントである)。

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220862>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((知 B)1 年))

三浦 博・非常勤講師

1 単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC の受験対策

【授業の概要】 毎回の授業でなされること. (1)Listening の小テスト (2) その日のテキストに出てくる英単語・熟語の小テスト (3)TOEIC 受験のための問題集の学習

【到達目標】 TOEIC 得点 600 以上を目指す.

【授業の計画】

1. 授業内容の紹介
2. (Unit 1)Daily Life(品詞の違い・広告を読む)
3. (Unit 2)Places(カード・通知を読む)
4. (Unit 3)People(代名詞・図表とメモを読む)
5. (Unit 4)Travel(メッセージと手紙を読む)
6. (Unit 5)Business(動詞の形・通知, メモを読む)
7. (Unit 6)Office(手紙を読む)
8. (Unit 7)Technology(語彙関係・メモと概要を読む)
9. (Unit 8)Personnel(記事を読む (1))
10. (Unit 9)Management(接続詞・通知を読む)
11. (Unit 10)Purchasing(レシートを読む)
12. (Unit 11)Finances(時制・レシピを読む)
13. (Unit 12)Media(記事を読む (2))
14. (Unit 13)Health(FAX を読む)
15. 学期末試験
16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 石井正仁・萩原一郎著 『Hyper Listening(Intermediate)』 桐原書店 630 円
- ◇ 水本篤 (他) 著 『SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST2(Goal 600)』 桐原書店 1600 円+税

【成績評価の方法】 Listening Test(15%)+英単・熟語小テスト (15%)+エッセー (20%)+
期末試験 (50%)

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 授業には毎回出席してほしい. また,毎回 Listening の小テスト (家庭学習用 CD 付き) および英単・熟語小テストをするので,これらについても予習した方が良い点がとれると思う.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220863>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三浦 . (オフィスアワー: 非常勤講師室またはshomachi43211@yahoo.co.jpまで)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 (光)1 年)

宮崎 隆義・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 外国語の理解と習得は、今や国際的な交流や相互の理解に不可欠なことは言うまでもないが、言葉は単なるコミュニケーションのための道具ではない。言葉は、それを使う人々の考え方や文化の基礎を成すものであって、言葉を理解することは、その言葉を使う人々が、外界の事象をどのように捉えているかを理解することであり、その人々の考え方や文化を理解することに通ずる。大学入学時までの力を確認しつつ、大学において必要な基盤となる英語の力をつけることを目的とするが、同時に英語という言葉をしつくりと味わうことによって、英語を使う人々の考え方やその文化も理解したい。

【授業の概要】 大学における英語力習得の基盤となるよう、TOEIC 等の資格試験の準備学習を交えつつ、英語の文章を読み書くことを通して英語の構造に目を向けながら、英語の力を総合的に高める。

【キーワード】 英語の構造, 総合英語, ライティング

【到達目標】

1. 英語の構造を主にライティングを通して概括的に理解する。
2. 英語の 4 技能を伸ばすための基盤を作る。

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. Playing rugby in the U.S. part I
3. Playing rugby in the U.S. part II
4. Vegetarianism
5. English
6. ESL Class
7. Drinking
8. Homeless
9. The use of the Internet
10. Lonely elderly people
11. Different communication styles
12. Coming to Japan
13. Going to the gym
14. Is that dessert?

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 異文化理解のための実践学習, 松柏社, 1700 円。

【参考書等】 参考書等については適宜紹介し、他にプリント等も用意する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況, 小テスト, 期末試験の結果等を総合的に判断し単位認定の評価とする。

【再試験の有無】 有り

【受講者へのメッセージ】 日々の積み重ねを重視してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220868>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火・木曜日 12 時 ~ 13 時)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(工 ((光)1 年))

山内 暁彦 准教授 / 大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 英語の広告の表現を素材として様々な英語表現を習得することを目指す。

【授業の概要】 イギリスの広告に見られる様々な英語表現を扱ったテキストを用いて総合的な英語力を養成するとともにイギリス人の感性に触れる。また TOEIC 対策の教材などをプリントで用いる。

【キーワード】 広告

【到達目標】 日常的な英語表現を習得すること。

【授業の計画】

1. Introduction
2. Lesson 1. Slim Down, Shape Up!
3. Lesson 2. A Healthier, Happier You!
4. Lesson 3. Memories to Last a Lifetime
5. Lesson 4. The House You Need – A Price You Can Afford
6. Lesson 5. Moving? No Problem!
7. 中間テスト
8. Lesson 6. Come See Our New Home!
9. Lesson 7. Fantastic Furniture at Fantastic Prices
10. Lesson 8. Shopping at Your Fingertips
11. Lesson 9. Subscribe Now!
12. Lesson 10. A Special Gift for that Special Someone
13. Lesson 11. Leave It to the Experts!
14. Lesson 12. Now Hiring!
15. 前期試験
16. 総括授業

【教科書】 Terry O'Brien 他編 『イギリスの広告で学ぶ基礎英語』 南雲堂 2008 年 1,680 円

【成績評価の方法】 前期試験 (60%), 中間テスト (30%) および授業への貢献度などの平常点 (10%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【講師へのメッセージ】 よく予習をしたうえで授業に臨むこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220869>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 前期 水 7-8 光応用工学科 1 年

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(総科 ((総理 A)2 年))

森岡 芳洋・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 基盤英語までの積み重ねを踏まえて、科学分野の様々な話題を扱う英語の文章が伝える情報を正確に読み取れるようにする。

【授業の概要】 CD も援用しながら、英語の組み立てに従い内容を把握する訓練を、各種の演習問題を解きながら繰り返していく。

【到達目標】

1. 一定量の英文を正確に読み取る。
2. 扱われている話題に関連する語彙を増やす。

【授業の計画】

1. 導入
2. Energy from Foot Traffic
3. Global Cooling
4. Geoengineering to the Rescue
5. The Satoyama Initiative
6. Pandemic Alert
7. Cosmetic Surgery
8. Lack of Sleep Can Kill You
9. Barefoot Jogging
10. Space Tourism
11. Destination Mars
12. Wow! Signal
13. Space Weather
14. UAVs
15. 期末試験
16. まとめ

【教科書】 J. Lynch, 委文光太郎 (編著) Science Insight 成美堂 1,800 円 (税別)

【成績評価の方法】 演習参加と、期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220870>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(総科 ((総理 B)2 年))

岩佐 憲明・非常勤講師

1 単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の概要】 未定

【受講者へのメッセージ】 シラバスは、前期授業開始前に全学共通教育掲示板で掲示します。

また、初回授業開始時に配布します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220871>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 岩佐 .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 ((看 A)2 年))

田中 孝雄・非常勤講師

1 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 英米文学における「内なる心」と「外なる心」について理解を深める。

【授業の概要】 和歌・英米の詩人、小説家にみられる「内なる心」、英文学における禅について考察し、ウィリアム・ブレイクの詩を鑑賞する。

【キーワード】 英米文学, 詩, 禅

【到達目標】 英米文学を鑑賞しながら理解を深めると同時に、「内なる心」獲得をめざす。

【授業の計画】

1. 和歌における「内なる心」と「外なる心」:至道無難禅師, 若山牧水
2. 北原白秋, 西田幾多郎, 盤珪禅師
3. 英文学における「内なる心」と「外なる心」:Emily Dickinson
4. Nathaniel Hawthorne, Henry James
5. ウィリアム・ブレイクの「四重の幻像」
6. 英文学における禅:禅とは何か, 公案における禅思想, 仏性とは何か
7. 諸行無常の認識と脱執着心
8. 「他者愛」「隣人愛」と「自己愛」「世間愛」
9. J.D.Salinger における禅
10. 文学と禅における「出会い」と「別れ」
11. Dylan Thomas' Wales
12. Robert Burns' Scotland
13. 格調と詩脚, 連と韻, 英詩の種類
14. William Blake's Poems
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 田中孝雄著 (編):『英文学入門』2007 年 1,000 円

【参考書等】 松島正一著:『孤高の芸術家ウィリアム・ブレイク』北星堂書店 1982 年 5,150 円

【成績評価の方法】 学期末試験, 課題発表及び授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 毎回, 出される課題の準備をして積極的に発表することが期待される。

【WEB 頁】 <https://cms.medsci.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220872>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田中 . (オフィスアワー: sp-tanaka@kxe.biglobe.ne.jp)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 ((看 B)2 年))

山田仁子・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語の文章を聞く力と読み取る力を養い、かつ深いコミュニケーション力を養う

【授業の概要】 男女の違い、出身の違い、世代の違いなどによるコミュニケーションの行き違いは、日々の生活や人生に大きな影響を与えてしまう。懸命に会話を交わす事で、よりよい人間関係を築こうとしながら、逆の結果になってしまうことは多い。日本語や英語といった言語を修得していても、言語を実際に使用する際には、より深いコミュニケーションの力が求められる。本授業では、こういったコミュニケーションの問題を扱った文章を読み、英語の力を高めながらも同時にコミュニケーションの力も高めたい。

【キーワード】 *rapid reading, vocabulary building, writing in English, listening comprehension*

【到達目標】 英語で書かれた文章を読み深く理解する能力を高める。

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. Chapter 1
3. Chapter 1
4. Chapter 1
5. Chapter 2
6. Chapter 2
7. Chapter 2
8. 中間試験
9. Chapter 3
10. Chapter 3
11. Chapter 3
12. Chapter 4
13. Chapter 4
14. Chapter 4
15. 最終試験
16. 総括授業

【教科書】 何故言葉が伝わらないのか

【成績評価の方法】 中間試験、最終試験、予習を含め授業へ参加する態度などから、総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし。

【講師へのメッセージ】 予習を必ずすること。予習も成績に反映される。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220873>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((建 A)2 年))

米原 晶子・非常勤講師

1 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 インターネットが普及した現在、英語で読み書きをすることは必須であろう。本授業では、音声教材、語彙教材などを用い、多角的に英語運用能力を養う。

【授業の概要】 ・DVD を用いたテキストに従い、聞き取りや読解のエクササイズを行う。 ・TOEIC 語彙テキストで、語彙増強をはかる。

【キーワード】 読解, リスニング, 語彙

【到達目標】

1. 自然なスピードの英語が聞き取れること。
2. TOEIC に頻出の語句に習熟すること。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Unit 13
15. 試験
16. まとめ

【教科書】

- ◇ 『TOEIC TEST Vocabulary Quizzes』 南雲堂
- ◇ 『American History in Focus』 マクミランランゲージハウス

【成績評価の方法】 授業参加, 小テスト, 期末試験を総合的に評価する。

【再試験の有無】 有 (受講状況の良好な場合)

【受講者のメッセージ】 日ごろからラジオ講座や CD 教材でのリスニング学習, TOEIC 問題集での自習をしておいて下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220874>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 米原 .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((建 B) 2 年))

中島 浩二・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】映像と音声を活用して、聴解力を中心とする英語の総合的コミュニケーション能力の伸長を図る。

【授業の概要】多様なアメリカ文化を紹介したビデオ教材を何度か繰り返し聞いた後で、語彙力や内容理解度をチェックする問題を解く。また、ディクテーション (穴埋め問題) やスクリプトの読解を通して相乗的に英文理解力を向上させる。

【キーワード】e-ラーニング, *Authentic English*, *Twitter in English*

【到達目標】

1. 自然なスピードの英語の聞き取りに慣れる。
2. 様々な場面での英語表現に習熟する。
3. 心に浮かんだことや日常の出来事を英語で表現する癖をつける。

【授業の計画】

1. Guidance
2. The Birthplace of Jazz
3. The Birthplace of Jazz
4. On the Road
5. On the Road
6. Your Cigarettes or Your Job
7. Your Cigarettes or Your Job
8. The Amish Way of Life
9. The Amish Way of Life
10. Is Gun Control Possible?
11. Is Gun Control Possible?
12. Making a Living on the Internet
13. Making a Living on the Internet
14. Review
15. Final Exam
16. Wrap-Up

【教科書】「Inside Stories U.S.A.」(森田彰他著, SEIBIDO)

【成績評価の方法】課題への取り組み状況 (30%程度), 小テスト (30%程度), 期末試験 (40%程度) により総合的に評価する。

【再試験の有無】有 (ただし, 課題や小テストへの取り組み状況がよく, 定期試験の得点が一定水準以上の場合に限る)

【受講者へのメッセージ】英和辞書は必ず持参すること。受身の姿勢では英語力は決して上達しない。ラジオやテレビの英語番組等を利用して能動的に語学学習に取り組むこと。

【WEB 頁】<http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220875>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((化 A) 2 年))

吉田 文美・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的な情報をいち早く知るために、英語を用いてコミュニケーションを行う能力は必要不可欠であろう。このクラスでは、英語ニュースや一般書を理解するために最低限必要と思われる読解力、語彙力を身につけ、英語で論文や専門書を読む基礎を養成する。関連した内容のリスニングも行うことで、総合的な英語力の向上をめざす。

【授業の概要】 テキスト Reading Fusion 2 で、文化、科学、環境問題などに関する記事を読み、内容理解、語彙習得、記事に関連した内容のリスニングを行う。学期中に 2 度のテストを行う他、毎回授業中に単語・慣用句の小テストを実施する。授業は学生用コンピューター端末を備えた LL 教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんどで、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】 *reading comprehension, vocabulary building*

【到達目標】

1. 英語の文章を読んで理解する力を高める。
2. 語彙力を高める。

【授業の計画】

1. Class Guidance
2. 1. Art Therapy (The Arts)
3. 2. From Sci-Fi to Reality (Science and Technology)
4. 3. Exporting Labor (Business)
5. 4. Celebrating the Earth (The Environment)
6. 5. Virtual Lives (The Internet)
7. 6. Kidults (Growing and Aging)
8. Midterm Test
9. 7. Genetically Modified Foods (Agriculture)
10. 8. Empires of the Stars (Entertainment)
11. 9. Destination: Mars (Space)
12. 10. Cross-Cultural Friendship (Culture)
13. 11. Muscle Memory (Health)
14. 12. Maritime Piracy (Law and Crime)

15. Final Test

16. Class Review

【教科書】 Andrew E. Bennet. Reading Fusion 2. Nan'un-do, 2010. ¥2310 (tax included)

【成績評価の方法】 学期中に試験を 2 回おこなう他に、授業中に各 Unit の小テストも実施します。Mid-term and final exams (60%), Weekly mini-tests (40%).

【再試験の有無】 なし

【WEB 頁】 <https://lms.medsci.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220876>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 前期/火曜 1-2

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((化 B) 2 年))

宮田 政徳 准教授 / 大学開放実践センター

1 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語のリスニング力をつけるために、ロックやポップス音楽に親しみ、英語独特の強弱のリズムや音の脱落、つながりといった音声変化を理解することを目的とする。

【授業の概要】 60 年代～90 年代にかけてヒットしたロックやポップス曲について書かれた英文テキストを読みながら、それらの曲を聴き取り、歌の鑑賞をすると共に歌の練習をする。

【キーワード】 英語のリズム、英語のポップス

【到達目標】

1. 英語のリズムをつかむ。
2. 英語の音変化が分かる。
3. 英語のポップスが歌えるようになる。

【授業の計画】

1. 導入
2. 英語は強弱のリズム
3. つながって変化する音 (1)
4. つながって変化する音 (2)
5. つながって変化する音 (3)
6. 聞こえなくなる音 (1)
7. 聞こえなくなる音 (2)
8. つながる音 (1)
9. つながる音 (2)
10. 短縮形の音 (1)
11. 短縮形の音 (2)
12. 弱くなる音
13. やわらかくなる音
14. まとめ
15. 期末試験
16. 期末試験の振り返り

【教科書】 ロック&ポップで楽しむ初級リスニング; 熊井信弘 (マクミランランゲージハウス, 2003 年, 2100 円)

【成績評価の方法】 学期末試験 (85%), 及び授業への取り組み (15%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【講師へのメッセージ】 出席を重視するので、毎回必ず出席すること。また、テキストを忘れたら減点するので注意すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220877>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 宮田 (D304, 088-656-9866, miyata@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 16 時 10 分～17 時 30 分)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((知 A)2 年))

田中 孝雄・非常勤講師

1 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 英米文学における「内なる心」と「外なる心」について理解を深める。

【授業の概要】 和歌・英米の詩人、小説家にみられる「内なる心」、英文学における禅について考察し、ウィリアム・ブレイクの詩を鑑賞する。

【キーワード】 英米文学, 詩, 禅

【到達目標】 英米文学を鑑賞しながら理解を深めると同時に、「内なる心」獲得をめざす。

【授業の計画】

1. 和歌における「内なる心」と「外なる心」:至道無難禅師, 若山牧水
2. 北原白秋, 西田幾多郎, 盤珪禅師
3. 英文学における「内なる心」と「外なる心」:Emily Dickinson
4. Nathaniel Hawthorne, Henry James
5. ウィリアム・ブレイクの「四重の幻像」
6. 英文学における禅:禅とは何か, 公案における禅思想, 仏性とは何か
7. 諸行無常の認識と脱執着心
8. 「他者愛」「隣人愛」と「自己愛」「世間愛」
9. J.D.Salinger における禅
10. 文学と禅における「出会い」と「別れ」
11. Dylan Thomas' Wales
12. Robert Burns' Scotland
13. 格調と詩脚, 連と韻, 英詩の種類
14. William Blake's Poems
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 田中孝雄著 (編):『英文学入門』2007 年 1,000 円

【参考書等】 松島正一著:『孤高の芸術家ウィリアム・ブレイク』北星堂書店 1982 年 5,150 円

【成績評価の方法】 学期末試験, 課題発表及び授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 学期末試験, 課題発表及び授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220878>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田中 .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((知 B) 2 年))

山田 紀美・非常勤講師

1 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】健康科学, 環境科学, 機械や工学技術, 宇宙科学, 自然科学に関する最新的话题を読み, 読解, リスニングを含め総合的に英語力を高める。

【授業の概要】各ユニットは, 三部構成で, 1. Tips for Aggressive Reading では, 様々な速読のテクニックや注意点を紹介して, 練習し, 2. Reading では, 語彙, 内容把握, リスニングなどの練習問題を通して, 英文の理解を深め, 3. Grammar Focus で, 更に内容を確認する。

【キーワード】科学技術

【到達目標】科学的な英語を聞いて読んで理解できるようにする。

【授業の計画】

1. Genetic Doping 遺伝子ドーピング
2. Ethics in Science 科学における倫理
3. Stem Cell Research 幹細胞研究
4. Tsunami, Hurricanes, and Global Warming 津波, ハリケーン, 温暖化
5. Starvation, Famine, and Hunger 飢餓, 飢饉
6. Nanotechnology ナノテクノロジー
7. Efficient Cars: Hybrids, New Fuels 未来の車—ハイブリッドと代替燃料
8. Cyborgs サイボーグ
9. Comets, Meteors, and Asteroids 彗星, 流星, 小惑星
10. Space Stations and Outer Space Exploration 宇宙ステーションと宇宙探索
11. Life on Other Planets 地球外の生物
12. Arguing against Evolution 進化論争
13. Fixing Nature; 自然の再生.
14. Remaking the Face of the Earth 地表の再生
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】Imagining Tomorrow—The Future of Science, Society, and Nature 明日を見つめて—科学・社会・自然— 著者:Bruce Allen 宍戸真 発行者:成美堂

【成績評価の方法】授業への取り組み, 小テスト, 定期試験などにより総合的に評価する

【再試験の有無】有

【受講へのメッセージ】予習を前提に授業を行う。質問などの発言は積極的にしてもらいたい。なお, 便宜上, シラバスに番号順に列挙してあるが, 学生の進捗や, 関心度によって, 各課の順番は変更する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220879>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山田 .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 (光) 2 年)

三宅 恵美・非常勤講師

1 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 本授業では、TOEIC のスコアを伸ばすための応用力をつけることを目的とする。現在のグローバル化社会においては、個人のアドバンテージとして、またその力をもって社会に貢献するために、英語運用能力を身につけることが必須である。TOEIC は現在、多くの企業で、新入社員のレベルチェック、社内語学研修、配属、海外出張、駐在、昇進など様々な場面で活用されており、採用、配属 (グローバル化に伴い、海外部門以外でも英語力を必要とされ、評価される場面は非常に多い)、昇進時に必須となるスキルである。また、TOEIC 学習は文法事項やリスニングのポイントなど項目にしぼった学習が可能なので、自分の弱点を探ったり、その学習項目に絞った効果的な学習が可能である。さらに、学習の持続に重要なのはモチベーションだが、TOEIC 対策学習は目的と方法が明確なのでモチベーションを持続しやすく、最終的には英語運用能力を総合的にレベルアップできる。

【授業の概要】 1. 語彙力、文法力、長文読解力、リスニング力、会話スタイルの英語などについて、実際の TOEIC 問題を、文法項目別、Topic 別に系統立てて学習する。2. DVD など視聴覚教材を用い、楽しみながらリスニング力、語用力、実践力をつける。3. 通訳訓練法を取り入れた練習などでバリエーションをつけながら幅広い学習を行う。4. TOEIC テスト対策を行う

【到達目標】 TOEIC500 点をまずは確実に取得することを目標とする。また試験のテクニックや知識のみならず、英語の実用力をつけることで 500~600 点を目指す。特にリスニング力を上げる。

【授業の計画】

1. インストラクション
2. 交通と情報案内
3. 指示と説明
4. 飲食
5. ビジネス
6. 通信・コミュニケーション
7. 社交
8. 模擬テスト・チャレンジ
9. 招待・案内

10. 医療・保険
11. 文化・娯楽
12. 買い物
13. 運動・フィットネス
14. トラブル・申請
15. 定期テスト
16. 総括

【教科書】 Start-up Course for the TOEIC Test, 成美堂 (2,000 円), その他の資料は配付します。

【成績評価の方法】 試験で約 70%, 小テスト, 課題等の平常点で約 30%

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 「必要だ!」と思った時に慌てても、レベルアップが間に合わないのが言語運用能力!今から準備しておきましょう。100%必ず役に立ちます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220880>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 授業開始後連絡します

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((人文 A)2 年))

スタージ ドナルド・講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The primary aim of this course is to improve the student's ability to communicate in English in a variety of formal and informal situations.

【授業の概要】 There will be lectures, video presentations, and reading and writing exercises, but the main focus will be on speaking and listening exercises. Class presentations will be an important component, and students will be expected to speak in class and to prepare written summaries of oral presentations given by other students.

【キーワード】 *Communicative English*

【到達目標】 Students who complete this course will have experience using English to describe orally and in writing experiences and opinions of themselves and others. Oral presentation exercises should make students more comfortable in public speaking. In addition, students should have increased confidence in their foreign language ability because they have followed a course given by a foreign instructor entirely in English.

【授業の計画】

1. Course Outline
2. Self-Introduction
3. Discussion on Selected Topic(s)/Video
4. Class Presentations/Summarizing
5. Class Presentations/Summarizing
6. Discussions on Selected Topic(s)/Video
7. Discussions on Selected Topic(s)/Video
8. Mid Term Exam
9. Class Presentations/Summarizing
10. Class Presentations/Summarizing
11. Discussion on Selected Topic(s)/Video
12. Discussion on Selected Topic(s)/Video
13. Discussion on Selected Topic(s)/Video
14. Class Presentations/Summarizing/Course Evaluation
15. Class Presentations/Summarizing/Course Evaluation

16. [Note: This schedule is tentative and may be modified due to class size or other factors.]

【教科書】 There will be teacher handouts and text materials created by students. Students may also be expected to purchase copies, of newspapers for class activities.

【成績評価の方法】 Class presentations and written summaries of presentations, oral/written examinations and participation will be used for evaluation. Tentative evaluation scheme: Presentations=30% (3 X 10%), Examinations=20% (2 X 10%), Participation=50%.

【再試験の有無】 There is no make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Class structure depends on the number of students enrolled. It may be possible to divide the class into smaller groups to facilitate conversation activities.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220881>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp)
MAIL (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科((人文B)2年))

パトリックジェフ・非常勤講師

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to better prepare the student to express ideas and interact in English in both written and spoken environments.

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数-複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】

1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞 宿題:自己紹介
2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞 宿題:職場, 意見の教え方, 日課
3. 講義:指示詞 話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物
4. 講義:would, what kind, 動詞+to+動詞 宿題:招待, 弁解
5. 講義:現在進行形, 限定詞 宿題:家族
6. 講義:how, 副詞 宿題:スポーツ, 運動
7. 講義:不規則動詞, 過去形 宿題:連休, 趣味
8. 講義:there, 不可算名詞 宿題:近所, 店
9. 講義:人のことの説明, 性格 宿題:人の特徴, 顔
10. 講義:計画の作り方 宿題:おもしろい体験
11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞 宿題:国々, 町の特徴
12. 講義:can, could, may 宿題:健康
13. 講義:注文の仕方 話題:レストラン, 食べ物
14. 講義:比較形, 最上形 宿題:地理, 環境
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220882>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック .

【備考】 旧カリキュラムでは授業科目:英語 (2)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((人文 C)2 年))

福田, スティーブ・利久・助教 / 全学共通教育センター

2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 実践的な英語コミュニケーション活動を通し、英語での自己表現に慣れ・親しむ。

【授業の概要】 「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」は基本的な思考法や言語運用能力を身に付けことを目的にしている。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視することを定めている。分かるように、英語は言葉であり、言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションとは物事を「伝える」ことや情報を「集める」ことである。講義では英語の「勉強」というより、Speaking と Writing 活動を通し、自分自身のことについて「伝える」練習と、Listening と Reading 活動を通して、他の学生の地元や過去の経験についての情報を「集める」練習を、英語プレゼンテーションを作成しながらする。

【キーワード】 英語プレゼンテーション

【到達目標】 ①英語プレゼンテーションスキルを身につける。 ②英語を使うことに対する自信をつける。 ③自分と自分の将来についてもっと深く考える。

【授業の計画】

1. 言葉・コミュニケーションとは何かを考える。
2. ミニ・プレゼンにチャレンジをする。
3. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン①の準備をする。
4. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン①の準備をする。
5. ミニ・プレゼン①をする。
6. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン②の準備をする。
7. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン②の準備をする。
8. ミニ・プレゼン②をする。
9. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン③の準備をする。
10. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン③の準備をする。
11. ミニ・プレゼン③をする。
12. ファイナルプレゼンの準備をする。
13. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。
14. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。
15. ファイナルプレゼンをする。

16. ファイナルプレゼンをする。

【教科書】 なし

【参考書等】 マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN: 475032163X

【成績評価の方法】 20%ミニ・プレゼン①・②・③ 20%ファイナル・プレゼン 10%授業参加評価 10%宿題

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 再履修者は他のシラバスになるので、第 1 回目の授業までに連絡をすること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220883>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((人文D)2年))

早内-プリングルジュディス・非常勤講師

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammatical ability, reading ability and fluency. Various media forms will be used in this class. Practice in the four skills reading, writing, listening and speaking will be provided during class and through homework.

【授業の概要】 English speech and presentation Notes: 1. Students are expected to speak and write only in English during class. They are expected to work not only in class, but outside of class as well. Homework is required, and they are expected to complete it even if they are absent from class. 2. The following class schedule is tentative and only shows the general contents which will be adjusted due to student input. There may be other modifications based on class size and other factors.

【キーワード】 *Communicative English, fluency*

【到達目標】 In today's globalized society, English has become the common language of communication and is necessary to gain more knowledge of world events, and process information. This class requires students to put their skills into practice, and in the process increase fluency and confidence in using English while also increasing vocabulary and polishing grammatical skills.

【授業の計画】

1. General Class Guidance Introduction; Survey & Interview
2. Presentations: Basic Skills
3. Topic 1: Pop Culture: Trending now: Explore the topic
4. Topic 1: Discuss
5. Topic 1: Expand
6. Topic 2: Health in the News: Explore the topic
7. Topic 2: Discuss & interview
8. Mid-term Evaluation/Group Presentation
9. Topic 3: Regional Events: What's happening in our world? Explore the topic
10. Topic 3: Discuss

11. Topic 3: Expand

12. Topic 4: Technology: Innovations that have changed our world: Explore the topic

13. Topic 4: Discuss

14. Topic 4: Expand

15. Final Examination; Individual Presentations 1

16. Individual Presentations 2

【教科書】 Class handouts and other materials will be provided as necessary. Some content will also be student-generated.

【成績評価の方法】 Grading will be as follows: Class Attendance and participation (including homework, etc):40% Mid-term and final examinations: 20% Presentations: Individual & Group: 20% Media & Current Event Journal: 20%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220884>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル (juditheph@yahoo.com) MAIL (オフィスアワー: By appointment)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科((人文E)2年))

ポンド クリストファー・非常勤講師/全学共通教育センター

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 In today's globalized society the ability to communicate effectively in English is becoming more and more important. This class helps students to develop their communicative ability through the use of in class communicative activities around various, everyday topics. Students will also be given the opportunity to improve other skills such as reading ability, grammatical knowledge, listening skills and as well as build their level of vocabulary.

【授業の概要】 This is a communicative style class. Students will be expected to take part in various pair-work and small group activities such as role-plays, discussions and information-gap tasks. There will be a short homework activity each week that is necessary preparation for the following week's class. The mid-term and final exams are presentation based.

【到達目標】 By the end of this course students will have gained the communicative ability, vocabulary, listening skills and grammar necessary to take part in discussions on everyday topics.

【授業の計画】

1. Introduction to the course, course outline and requirements. Introductions
2. Getting to know you talking about you, friends, family and neighbors. Tenses and questions
3. Introductory presentations
4. Getting to know you, talking about friends, family and neighbors. Listening and speaking
5. Getting to know you, talking about friends, family and neighbors. Reading and speaking
6. Everyday English and social expressions. Using a bilingual dictionary.
7. The way we live. Present tenses
8. Mid-term presentation
9. The way we live. Vocabulary and speaking
10. The tales of two cities. Reading and speaking
11. 24/7 society listening and speaking, everyday English
12. Famous people. Present perfect, past simple, for and since

13. Music. Listening and speaking

14. Writing a biography

15. Final presentation

16. Review and feedback

【教科書】 New Headway 3rd Edition Pre-intermediate STUDENT BOOK, Liz and John Soars, Oxford University Press, ISBN-13: 9780 1947 15850

【成績評価の方法】 Weekly attendance, active participation and homework are an important part of this course. Students are evaluated as follows: Attendance, participation and homework 50%, mid term presentation 15%, final presentation 35%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220885>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ポンド .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((社創 A)2年))

座喜純・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This Communicative English class planned to give a good assistance in rising up English speaking and communicating abilities.

【授業の概要】 Classes will be running in ENGLISH language only for more practices chance. There is no specific text book but there will be some other media depending on the 'Topics' which will be selected up to date. Speaking out practices will take place during the classes.

【到達目標】 Students will develop confidence in oral communication and refine their listening skills.

【授業の計画】

1. Overall Guidance
2. Conversational Topic 1
3. Conversational Topic 2
4. Conversational Topic 3
5. Conversational Topic 4
6. Conversational Topic 5
7. Conversational Topic 6
8. Conversational Topic 7
9. Conversational Topic 8
10. Conversational Topic 9
11. Conversational Topic 10
12. Conversational Topic 11
13. Conversational Topic 13
14. Conversational Topic 14
15. Review

【教科書】 There is no specific text book but there will be some other media depending on the 'Topics' which will be selected up to date.

【成績評価の方法】 Attendance, Homework fulfillment and Participation in class.

【再試験の有無】 No make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Punctuality and regular attendance are extremely important. Up to three absences will be permitted. Students are expected to communicate actively

with all members of the class in English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220886>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 座喜 . (オフィスアワー: contact E-mail: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((社創 B)2 年))

パトリックジェフ・非常勤講師

2 単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 Every year the importance of English is growing. This class covers the full range of English skills including reading, writing, speaking, and listening and provides the opportunity for self-expression and practical application for a variety of situations.

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数-複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】

1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介
2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課
3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物
4. 講義:所有代名詞, 天気宿題:天気の作文
5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族
6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動
7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味
8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店
9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔
10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験
11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴
12. 講義:can, could, may 宿題:健康
13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物
14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社:Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220887>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ パトリック .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((社創 C)2年))

石田 メグ・非常勤講師

2単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This English course is more about using the knowledge of English in conversation and written form. In this way, students will be ever ready for service in a global community. Japanese students will be prepared to face a global field without hesitation or insecurity. This course focuses on conversational English, maximizing speaking time spent in the classroom.

【授業の概要】 Students will create their own conversations about topics familiar to them. Classes will include whole, small group and pair activities. Students will be required to take risks and assess their own progress as the course develops. Students who take risks will do well in this class.

【到達目標】 Students who complete this course should feel more confident when speaking or writing in English.

【授業の計画】

1. OUTLINE
2. I think I'd like that job
3. What's playing
4. What are you going to do?
5. How much is this?
6. How was it?
7. How do you make it?

【教科書】 No text is needed. Handouts will be prepared. Please bring your English Japanese Dictionary.

【成績評価の方法】 Attendance 10% Class participation 40% Student self-evaluation 10% Final Interview 40%

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 Come to class and participate and you will succeed! The contract for this class follows University guidelines. If more than 4 classes are missed there will be no pass grade for this course. Students more than 20 minutes late are considered absent. If students are late twice it equals one absence. Students should bring a notebook, black and red pens, a pencil, the textbook, and a Japanese-English dictionary with them to class. Do not use ketai phones in

class. Be present and participate. The contents of this class may vary due to the interests and also the level of the students.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220888>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((社創 D)2 年))

ギュンター ディルク・非常勤講師

2 単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。

【授業の概要】 ペア練習と(グループ)プレゼンテーションを通じて基本的な文法を復習し、日常生活会話能力を高める。

【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化

【到達目標】

1. 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。
2. 英語を使う自信を高める。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. "Getting To Know You"
3. 単語ミニテスト "Giving Advice 1"
4. 単語ミニテスト "Giving Advice 2"
5. 単語ミニテスト "Planning An Event 1"
6. 単語ミニテスト "Planning An Event 2"
7. 単語ミニテスト "Meeting A Star"
8. 中間テスト
9. "Just Talk 1"
10. "Just Talk 2"
11. 単語ミニテスト "Describing Situations 1"
12. 単語ミニテスト "Describing Situations 2"
13. 単語ミニテスト "Dialogue"
14. 単語ミニテスト "歌の聞き取り"
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 英語での 5 分程度のプレゼンテーション, (カ) 出席。単位取得のためには(ア)~(カ)の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア~カ)の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英語は"ただの勉強しなければならない事"ではなく、言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して、遠慮せずに身に付けた英語を使ったら、その扉を開けることができます。教室でお会いするのを楽しみにしています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220889>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ギュンター .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((社創 E)2 年))

スティーヴンズ, メリディス・アン・講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To develop listening and speaking skills through purposeful interaction.

【授業の概要】 The class will begin with a dictation. We will then do communication activities and complete work from the textbook.

【キーワード】 *Listening, Dictation, Australian Culture*

【到達目標】 Students will develop confidence in oral communication and refine their listening skills.

【授業の計画】

1. Geography and Climate
2. Homestays
3. Family Roles
4. Transport
5. The Royal Show
6. Language Schools and Universities
7. South Australia
8. Sport
9. Australian Flora
10. Australian Fauna
11. The Aborigines
12. The Sea
13. Mutliculturalism
14. Australian English
15. Test
16. Review

【教科書】 Modern Life Down Under, Meredith Stephens and Richard Blight

【成績評価の方法】 Speaking Tasks, Homework, Tests

【再試験の有無】 Only possible with a medical certificate or other official documentation.

【受講者へのメッセージ】 Punctuality and regular attendance are extremely important. Up to three absences will be permitted. Students are expected to communicate actively

with all members of the class in English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220890>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

MAIL

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(医 ((栄 A)2 年))

ギンター ディルク・非常勤講師

2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。

【授業の概要】 ペア練習と(グループ)プレゼンテーションを通じて基本的な文法を復習し、日常生活会話能力を高める。

【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化

【到達目標】

1. 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。
2. 英語を使う自信を高める。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. ” Getting To Know You”
3. 単語ミニテスト ”Giving Advice 1”
4. 単語ミニテスト ”Giving Advice 2”
5. 単語ミニテスト ”Planning An Event 1”
6. 単語ミニテスト ”Planning An Event 2”
7. 単語ミニテスト ”Meeting A Star”
8. 中間テスト
9. ”Just Talk 1”
10. ”Just Talk 2”
11. 単語ミニテスト ”Describing Situations 1”
12. 単語ミニテスト ”Describing Situations 2”
13. 単語ミニテスト ”Dialogue”
14. 単語ミニテスト ”歌の聞き取り”
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 英語での 5 分程度のプレゼンテーション, (カ) 出席。単位取得のためには(ア)~(カ)の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア~カ)の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英語は”ただの勉強しなければならない事”ではなく、言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して、遠慮せずに身に付けた英語を使ったら、その扉を開けることができます。教室でお会いするのを楽しみにしています

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220891>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ギンター .

【備考】 連絡先 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(医 ((栄B)2年))

フェネリー, マーク・グレアム

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This course aims to help students to develop their communicative language skills through activities and tasks that require real language use. The policy is to learn by doing and students will be asked to engage in real communication using the skills acquired.

【授業の概要】 Students are expected to take a positive attitude towards participation and preparation and will be required to work in pairs and small groups. Homework and preparation will be expected.

【到達目標】

1. To help students to become confident communicators.
2. Develop active listening skills.

【授業の計画】

1. Introduction: self introductions
2. Shadowing in Conversation
3. Describing People
4. Mini Presentation 1: A Person I Admire
5. Active Listening
6. Talking about daily life
7. Describing Places
8. Reacting in Conversation
9. Mini Presentation 2: A Place I want to Visit
10. Giving Directions
11. Agreeing and Disagreeing
12. Talking About News and Events
13. Mini Presentation 3: My Important NEWS
14. Giving an Opinion
15. Mini Debate
16. Final Assessment

【教科書】 English Firsthand 1 (4th Edition) Student Book with CDs

【成績評価の方法】 Students will be assessed on class participation, homework and performance in mini-presentations. Attendance and participation: 45%, Homework:

15%, Mini-presentations/debate: 20%, Final Assessment 20%

【再試験の有無】 原則として無し

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220892>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 未定 (オフィスアワー: fenn@shikoku-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(医 ((放 A) 2 年))

座喜純・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This Communicative English class planned to give a good assistance in rising up English speaking and communicating abilities.

【授業の概要】 Classes will be running in ENGLISH language only for more practices chance. There is no specific text book but there will be some other media depending on the 'Topics' which will be selected up to date. Speaking out practices will take place during the classes.

【到達目標】 To refine listening skills and develop confidence in interpersonal communication.

【授業の計画】

1. General Guidance
2. Selected Conversation 1
3. Selected Conversation 2
4. Selected Conversation 3
5. Selected Conversation 4
6. Selected Conversation 5
7. South Australia
8. Selected Conversation 6
9. Selected Conversation 7
10. Selected Conversation 8
11. Selected Conversation 9
12. Selected Conversation 10
13. Selected Conversation 11
14. Selected Conversation 12
15. Selected Conversation 13
16. Review

【教科書】 No specific text book but there will be some other media depending on the 'Topic' which will be selected up to date.

【成績評価の方法】 Attendance, Homework fulfillment and Participation in class.

【再試験の有無】 There is no make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Punctuality and regular attendance are extremely important. Students are expected to communicate actively with all members of the class in English

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220893>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 座喜 . (オフィスアワー: contact E-mail: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(医 ((放 B)2 年))

フェネリー, マーク・グレアム

2 単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This course aims to help students to develop their communicative language skills through activities and tasks that require real language use. The policy is to learn by doing and students will be asked to engage in real communication using the skills acquired.

【授業の概要】 Students are expected to take a positive attitude towards participation and preparation and will be required to work in pairs and small groups. Homework and preparation will be expected.

【到達目標】

1. To help students to become confident communicators.
2. Develop active listening skills.

【授業の計画】

1. Introduction: self introductions
2. Shadowing in Conversation
3. Describing People
4. Mini Presentation 1: A Person I Admire
5. Active Listening
6. Talking about daily life
7. Describing Places
8. Reacting in Conversation
9. Mini Presentation 2: A Place I want to Visit
10. Giving Directions
11. Agreeing and Disagreeing
12. Talking About News and Events
13. Mini Presentation 3: My Important NEWS
14. Giving an Opinion
15. Mini Debate
16. Final Assessment

【教科書】 English Firsthand 1 (4th Edition) Student Book with CDs

【成績評価の方法】 Students will be assessed on class participation, homework and performance in mini-presentations. Attendance and participation: 45%,

Homework: 15%, Mini-presentations/debate: 20%, Final Assessment 20%

【再試験の有無】 原則として無し

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220894>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ フェネリー . (オフィスアワー: fenn@shikoku-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(医 ((検)2年))

フロスト ダン・非常勤講師

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 Let the students recognize the global value and necessity of English by presenting topics relevant to modern life. In this way expand the student's grasp of spoken English and their ability to respond appropriately.

【授業の概要】 The course will consist of a series of exercises to enforce the stated goal. These exercises will be derived from the textbook as well as from outside materials.

【到達目標】 Through the use of ESL activities build up the skill and confidence level of the students.

【授業の計画】

1. Class weekly-schedule: We will follow a systematic overview of important spoken patterns. Speed depends on class comprehension and level. Generally we strive to cover one pattern over 2 classes but may repeat if needed. The patterns will work in a cumulative manner. This schedule will also depend on collateral ESL activities undertaken.
2. Coursework: Assignments will be given based on the need for reinforcement. These regular tasks count toward the final grade. Optional assignments may be added or suggested.
3. An outline of patterns: Self Introduction: present-past. Travel: Past Perfect. Transportation and Services: Adverbs, Wh questions. Travel: Future and necessity. Instructions: Sequences. Contrasts: Past Present Comparisons. Jobs, Machines, and Descriptions; Things we do and have.

【教科書】 Class handouts and other materials to be given at the appropriate points.

【成績評価の方法】 Evaluation is based on attendance, participation in class, completion of homework, and examination

【再試験の有無】 Consideration will be given for reexamination. Meritorious work will also be accepted in lieu of missed assignments and will affect the final grade.

【受講者へのメッセージ】 Please bring dictionary, notebook, pen, pencil, and red pencil. Pocket translators may also be used.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220895>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ フロスト .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(歯((歯・口)A2年))

マーシェソ ジェラルド・准教授/鳴門教育大学

2単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to give students an opportunity to use the skills they have developed in the past, for practical and communicative purposes

【授業の概要】 Students will complete a variety of tasks which follow several themes through the course of the term. Themes include 'talking about cities and places around the world', 'vacations students have taken or would like to take' and 'describing events and drawing conclusions from evidence'.

【到達目標】 The purpose of this class is to improve English communicative and productive skills. Students will develop confidence as they use English for a variety of functions. Grammar and vocabulary will be dealt with sometimes, but they will arise in context, from students' need to communicate as they complete tasks, rather than being introduced by the teacher without context. Language form will not be viewed as generative, but subservient to communication.

【授業の計画】

1. Introductions / Getting to know your fellow students and teacher
2. Pronunciation workshop
3. Using past tenses to describe your life
4. Describing other people's life and abilities
5. Presentation preparation
6. Presentations
7. Using present tense to talk about University life
8. Comparing Universities in Canada and Japan
9. Using adjectives to talk about neighborhoods in Tokushima
10. Using adjectives to describe various cities
11. Describing your hometown
12. Describing cities and countries around the world
13. Describing neighborhoods in Toronto
14. Choosing an apartment in Toronto (group decision task)
15. Test
16. Final class

【教科書】 Students will use material prepared by the instructor and self-generated material. There will be no textbook.

【成績評価の方法】 Speaking test: 25%, Presentation: 25%, Homework and participation: 30%, Attendance: 20%

【再試験の有無】 Students who miss the exam or fail to perform adequately will not receive a reexamination except under special circumstances. Sufficient documentation must be provided.

【受講者へのメッセージ】 This is a practical English class, which means the focus will be on communication. You have already learned a lot of grammar but most of you have not had much opportunity to use what you have learned. In this class, you will be required to actually use the English which you have learned in the past. You have all got a lot of English 'packed' inside your head. My job as your teacher is to help you get it out; to give you opportunities to speak. I will teach grammar and vocabulary sometimes, but not usually. Many grammar and vocabulary points will come up in the lesson, as you complete work and talk with your classmates. It is very important to ask questions in class, since this will raise important grammar and vocabulary points.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220896>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ マーシェソ .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(歯((歯・口)B2年))

パトリックジェフ・非常勤講師

2単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to better prepare the student to express ideas and interact in both written and spoken English environments.

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数-複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】

1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介
2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課
3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物
4. 講義:所有代名詞, 天気宿題:天気の作文
5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族
6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動
7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味
8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店
9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔
10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験
11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴
12. 講義:can, could, may 宿題:健康
13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物
14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220897>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(薬((薬 A-1)2年))

パトリックジェフ・非常勤講師

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to better prepare the student to express ideas and interact in both written and spoken English environments.

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数-複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 講義:自己紹介 宿題:自己紹介

【授業の計画】

1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介
2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課
3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物
4. 講義:would, what kind, 動詞+to+動詞宿題:招待, 弁解
5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族
6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動
7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味
8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店
9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔
10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験
11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴
12. 講義:can, could, may 宿題:健康
13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物
14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220898>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(薬((薬 A-2)2年))

フロスト ダン・非常勤講師

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 Let the students recognize the global value and necessity of English by presenting topics relevant to modern life. In this way expand the student's grasp of spoken English and their ability to respond appropriately.

【授業の概要】 The course will consist of a series of exercises to enforce the stated goal. These exercises will be derived from the textbook as well as from outside materials.

【到達目標】 Through the use of ESL activities build up the skill and confidence level of the students

【授業の計画】

1. Class weekly-schedule: We will follow a systematic overview of important spoken patterns. Speed depends on class comprehension and level. Generally we strive to cover one pattern over 2 classes but may repeat if needed. The patterns will work in a cumulative manner. This schedule will also depend on collateral ESL activities undertaken.
2. Coursework: Assignments will be given based on the need for reinforcement. These regular tasks count toward the final grade. Optional assignments maybe added or suggested.
3. An outline of patterns: Self Introduction: present-past. Travel: Past Perfect. Transportation and Services: Adverbs, Wh questions. Travel: Future and necessity. Instructions: Sequences. Contrasts: Past Present Comparisons. Jobs, Machines, and Descriptions; Things we do and have.

【教科書】 Class handouts and other materials to be given at the appropriate points.

【成績評価の方法】 Evaluation is based on attendance, participation in class, completion of homework, and examination

【再試験の有無】 Consideration will be given for reexamination. Meritorious work will also be accepted in lieu of missed assignments and will affect the final grade.

【受講者へのメッセージ】 Please bring dictionary, notebook, pen, pencil, and red pencil. Pocket translators may also be used.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220899>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ フロスト .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(薬((薬 B-1)2年))

早内-プリングルジュディス・非常勤講師

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammatical ability, reading ability and fluency. Various media forms will be used in this class.

【授業の概要】 English speech and presentation Notes: 1. Students will be expected to speak and write only in English during class. They will be expected to work not only in class but also out of class; there will be homework and they are expected to do it even if they are absent from class. 2. The following class schedule is tentative and only shows the general contents which will be adjusted based on student input. There may be other modifications based on class size and other factors.

【キーワード】 *Communicative English, Fluency*

【到達目標】 In today's globalized society, English has become the common language of communication and is necessary to gain more knowledge of world events, and process information. This class requires students to put their skills into practice, and in the process increase fluency and confidence in using English while also increasing vocabulary and polishing grammatical skills.

【授業の計画】

1. General Class Guidance Introduction; Survey & Interview
2. Presentations: Basic Skills
3. Topic 1: Pop Culture: Trending now: Explore the topic
4. Topic 1: Discuss
5. Topic 1: Expand
6. Topic 2: Health in the News: Explore the topic
7. Topic 2: Discuss & interview
8. Mid-term Evaluation/Group Presentation
9. Topic 3: Regional Events: What's happening in our world? Explore the topic
10. Topic 3: Discuss
11. Topic 3: Expand

12. Topic 4: Technology: Innovations that have changed our world: Explore the topic

13. Topic 4: Discuss

14. Topic 4: Expand

15. Final Examination; Individual Presentations 1

16. Individual Presentations 2

【教科書】 Class handouts and other materials will be provided as necessary. Some content will also be student-generated.

【成績評価の方法】 Grading will be as follows: Class Attendance and participation (including homework, etc):40% Mid-term and final examinations: 20% Presentations: Individual & Group: 20% Media & Current Event Journal: 20%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220900>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル (juditheph@yahoo.com) MAIL (オフィスアワー: By appointment)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(薬((薬 B-2)2年))

ポンド クリストファー・非常勤講師/全学共通教育センター

2単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 In today's globalized society the ability to communicate effectively in English is becoming more and more important. This class helps students to develop their communicative ability through the use of in class communicative activities around various, everyday topics. Students will also be given the opportunity to improve other skills such as reading ability, grammatical knowledge, listening skills and as well as build their level of vocabulary.

【授業の概要】 This is a communicative style class. Students will be expected to take part in various pair-work and small group activities such as role-plays, discussions and information-gap tasks. There will be a short homework activity each week that is necessary preparation for the following week's class. The mid-term and final exams are presentation based.

【到達目標】 By the end of this course students will have gained the communicative ability, vocabulary, listening skills and grammar necessary to take part in discussions on everyday topics.

【授業の計画】

1. Introduction to the course, course outline and requirements. Introductions
2. Getting to know you talking about you, friends, family and neighbors. Tenses and questions
3. Introductory presentations
4. Getting to know you, talking about friends, family and neighbors. Listening and speaking
5. Getting to know you, talking about friends, family and neighbors. Reading and speaking
6. Everyday English and social expressions. Using a bilingual dictionary.
7. The way we live. Present tenses
8. Mid-term presentation
9. The way we live. Vocabulary and speaking
10. The tales of two cities. Reading and speaking
11. 24/7 society listening and speaking, everyday English
12. Famous people. Present perfect, past simple, for and since

13. Music. Listening and speaking

14. Writing a biography

15. Final presentation

16. Review and feedback

【教科書】 New Headway 3rd Edition Pre-intermediate STUDENT BOOK, Liz and John Soars, Oxford University Press, ISBN-13: 9780 1947 15850

【成績評価の方法】 Weekly attendance, active participation and homework are an important part of this course. Students are evaluated as follows: Attendance, participation and homework 50%, mid term presentation 15%, final presentation 35%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220901>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ポンド .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工((機 a)2年))

福田, スティーブ・利久・助教/全学共通教育センター

2単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】実践的な英語コミュニケーション活動を通し、英語での自己表現に慣れ・親しむ。

【授業の概要】「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」は基本的な思考法や言語運用能力を身に付けことを目的にしている。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視することを定めている。分かるように、英語は言葉であり、言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションとは物事を「伝える」ことや情報を「集める」ことである。講義では英語の「勉強」というより、Speaking と Writing 活動を通し、自分自身のことについて「伝える」練習と、Listening と Reading 活動を通して、他の学生の地元や過去の経験についての情報を「集める」練習を、英語プレゼンテーションを作成しながらする。

【キーワード】英語プレゼンテーション

【到達目標】①英語プレゼンテーションスキルを身につける。②英語を使うことに対する自信をつける。③これからの大学生活と自分の将来について深く考える。

【授業の計画】

1. 言葉・コミュニケーションとは何かを考える。
2. ミニ・プレゼンにチャレンジをする。
3. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン①の準備をする。
4. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン①の準備をする。
5. ミニ・プレゼン①をする。
6. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン②の準備をする。
7. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン②の準備をする。
8. ミニ・プレゼン②をする。
9. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン③の準備をする。
10. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン③の準備をする。
11. ミニ・プレゼン③をする。
12. ファイナルプレゼンの準備をする。
13. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。
14. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。

15. ファイナルプレゼンをする。

16. ファイナルプレゼンをする。

【教科書】なし

【参考書等】マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳)2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN: 475032163X

【成績評価の方法】20%ミニ・プレゼン①・②・③ 20%ファイナル・プレゼン 10%授業参加評価 10%宿題 *再履修者は他のシラバスになるので、第 1 回目の授業までに連絡をすること。

【再試験の有無】なし

【受講へのメッセージ】再履修者は他のシラバスになるので、第 1 回目の授業までに連絡をすること。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220902>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 (機 b) 2 年))

ポンド クリストファー・非常勤講師 / 全学共通教育センター

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 In today's globalized society the ability to communicate effectively in English is becoming more and more important. This class helps students to develop their communicative ability through the use of in class communicative activities around various, everyday topics. Students will also be given the opportunity to improve other skills such as reading ability, grammatical knowledge, listening skills and as well as build their level of vocabulary.

【授業の概要】 This is a communicative style class. Students will be expected to take part in various pair-work and small group activities such as role-plays, discussions and information-gap tasks. There will be a short homework activity each week that is necessary preparation for the following week's class. The mid-term and final exams are presentation based.

【到達目標】 By the end of this course students will have gained the communicative ability, vocabulary, listening skills and grammar necessary to take part in discussions on everyday topics.

【授業の計画】

1. Introduction to the course, course outline and requirements. Introductions
2. Getting to know you talking about you, friends, family and neighbors. Tenses and questions
3. Introductory presentations
4. Getting to know you, talking about friends, family and neighbors. Listening and speaking
5. Getting to know you, talking about friends, family and neighbors. Reading and speaking
6. Everyday English and social expressions. Using a bilingual dictionary.
7. The way we live. Present tenses
8. Mid-term presentation
9. The way we live. Vocabulary and speaking
10. The tales of two cities. Reading and speaking
11. 24/7 society listening and speaking, everyday English
12. Famous people. Present perfect, past simple, for and since

13. Music. Listening and speaking

14. Writing a biography

15. Final presentation

16. Review and feedback

【教科書】 New Headway 3rd Edition Pre-intermediate STUDENT BOOK, Liz and John Soars, Oxford University Press, ISBN-13: 9780 1947 15850

【成績評価の方法】 Weekly attendance, active participation and homework are an important part of this course. Students are evaluated as follows: Attendance, participation and homework 50%, mid term presentation 15%, final presentation 35%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220903>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ポンド .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工((機c)2年))

早内-プリングルジュディス・非常勤講師

2単位 前期 火 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammatical ability, reading ability and fluency. Various media forms will be used in this class.

【授業の概要】 Speaking, reading, presentation Notes: 1. Students are expected to speak and write only in English during class. They are expected to work not only in class, but outside of class as well. Homework is required, and they are expected to complete it even if they are absent from class. 2. The following class schedule is tentative and only shows the general contents which will be adjusted based on student input. There may be other modifications based on class size and other factors.

【キーワード】 *Communicative English, fluency,*

【到達目標】 In today's globalized society, English has become the common language of communication and is necessary for gaining more knowledge of world events, and to process information. This class requires students to put their skills into practice, and while doing so, increase fluency and confidence in using English while also increasing vocabulary and polishing grammatical skills.

【授業の計画】

1. General Class Guidance Introduction; Survey & Interview
2. Presentations: Basic Skills
3. Topic 1: Pop Culture: Trending now: Explore the topic
4. Topic 1: Discuss
5. Topic 1: Expand
6. Topic 2: Health in the News: Explore the topic
7. Topic 2: Discuss & interview
8. Mid-term Evaluation/Group Presentation
9. Topic 3: Regional Events: What's happening in our world? Explore the topic
10. Topic 3: Discuss
11. 自己表現力アップのコミュニケーション活動

12. Topic 4: Technology: Innovations that have changed our world: Explore the topic

13. Topic 4: Discuss

14. Topic 4: Expand

15. Final Examination; Individual Presentations 1

16. Individual Presentations 2

【教科書】 Class handouts and other materials will be provided as necessary. Some content will also be student-generated.

【成績評価の方法】 Grading will be as follows: Class Attendance and participation (including homework, etc):40% Mid-term and final examinations: 20% Presentations: Individual & Group: 20% Media & Current Event Journal: 20%

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220904>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル (juditheph@yahoo.com) MAIL (オフィスアワー: by appointment only)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 (機 d) 2 年))

フロスト ダン・非常勤講師

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 Let the students recognize the global value and necessity of English by presenting topics relevant to modern life. In this way expand the student's grasp of spoken English and their ability to respond appropriately. .

【授業の概要】 The course will consist of a series of exercises to enforce the stated goal. These exercises will be derived from the textbook as well as from outside materials.

【到達目標】 Through the use of ESL activities build up the skill and confidence level of the students

【授業の計画】

1. Class weekly-schedule: We will follow a systematic overview of important spoken patterns. Speed depends on class comprehension and level. Generally we strive to cover one pattern over 2 classes but may repeat if needed. The patterns will work in a cumulative manner. This schedule will also depend on collateral ESL activities undertaken.
2. Coursework: Assignments will be given based on the need for reinforcement. These regular tasks count toward the final grade. Optional assignments may be added or suggested.
3. An outline of patterns: Self Introduction: present-past. Travel: Past Perfect. Transportation and Services: Adverbs, Wh questions. Travel: Future and necessity. Instructions: Sequences. Contrasts: Past Present Comparisons. Jobs, Machines, and Descriptions; Things we do and have.

【教科書】 Class handouts and other materials to be given at the appropriate points.

【成績評価の方法】 Evaluation is based on attendance, participation in class, completion of homework, and examination

【再試験の有無】 Consideration will be given for reexamination. Meritorious work will also be accepted in lieu of missed assignments and will affect the final grade.

【受講者へのメッセージ】 Please bring dictionary, notebook, pen, pencil, and red pencil. Pocket translators may also be used.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220905>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ フロスト .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((生 A)2 年))

ポンド クリストファー・非常勤講師 / 全学共通教育センター

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 In today's globalized society the ability to communicate effectively in English is becoming more and more important. This class helps students to develop their communicative ability through the use of in class communicative activities around various, everyday topics. Students will also be given the opportunity to improve other skills such as reading ability, grammatical knowledge, listening skills and as well as build their level of vocabulary.

【授業の概要】 This is a communicative style class. Students will be expected to take part in various pair-work and small group activities such as role-plays, discussions and information-gap tasks. There will be a short homework activity each week that is necessary preparation for the following week's class. The mid-term and final exams are presentation based.

【到達目標】 By the end of this course students will have gained the communicative ability, vocabulary, listening skills and grammar necessary to take part in discussions on everyday topics.

【授業の計画】

1. Introduction to the course, course outline and requirements. Introductions
2. Getting to know you talking about you, friends, family and neighbors. Tenses and questions
3. Introductory presentations
4. Getting to know you, talking about friends, family and neighbors. Listening and speaking
5. Getting to know you, talking about friends, family and neighbors. Reading and speaking
6. Everyday English and social expressions. Using a bilingual dictionary.
7. The way we live. Present tenses
8. Mid-term presentation
9. The way we live. Vocabulary and speaking
10. The tales of two cities. Reading and speaking
11. 24/7 society listening and speaking, everyday English
12. Famous people. Present perfect, past simple, for and since

13. Music. Listening and speaking

14. Writing a biography

15. Final presentation

16. Review and feedback

【教科書】 New Headway 3rd Edition Pre-intermediate STUDENT BOOK, Liz and John Soars, Oxford University Press, ISBN-13: 9780 1947 15850

【成績評価の方法】 Weekly attendance, active participation and homework are an important part of this course. Students are evaluated as follows: Attendance, participation and homework 50%, mid term presentation 15%, final presentation 35%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220910>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ポンド .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工((生B)2年))

ラックストーンロバート・非常勤講師

2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to improve English conversational ability.

【授業の概要】 We will do textbook exercises, role-plays and skits.

【到達目標】 Students will increase their confidence about speaking English.

【授業の計画】

1. Introductions
2. Unit 1.1
3. Unit 1.2
4. Unit 2.1
5. Unit 3.1
6. Unit 3.2
7. Quiz 1 and Skit Preparation
8. Skit Day
9. Unit 4.1
10. Unit 4.2
11. Unit 5.1
12. Unit 5.2
13. Unit 6.1
14. Unit 6.2
15. Quiz 2 and Skit Preparation
16. Skit Day

【教科書】 Jack C. Richards: New Person to Person, Student Book 2

【成績評価の方法】 Quiz 1 25%; Skit 1 25%; Quiz 2 25%; Skit 1 25%

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220911>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ラックストーン .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 (電 a) 2 年))

マーシェソ ジェラルド 准教授 / 鳴門教育大学

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to give students an opportunity to use the skills they have developed in the past, for practical and communicative purposes.

【授業の概要】 Students will complete a variety of tasks which follow several themes through the course of the term. Themes include 'talking about cities and places around the world', 'vacations students have taken or would like to take' and 'describing events and drawing conclusions from evidence'.

【到達目標】 The purpose of this class is to improve English communicative and productive skills. Students will develop confidence as they use English for a variety of functions. Grammar and vocabulary will be dealt with sometimes, but they will arise in context, from students' need to communicate as they complete tasks, rather than being introduced by the teacher without context. Language form will not be viewed as generative, but subservient to communication.

【授業の計画】

1. Introductions / Getting to know your fellow students and teacher
2. Pronunciation workshop
3. Using past tenses to describe your life
4. Describing other people's life and abilities
5. Presentation preparation
6. Presentations
7. Using present tense to talk about University life
8. Comparing Universities in Canada and Japan
9. Using adjectives to talk about neighborhoods in Tokushima
10. Using adjectives to describe various cities
11. Describing your hometown
12. Describing cities and countries around the world
13. Describing neighborhoods in Toronto
14. Choosing an apartment in Toronto (group decision task)
15. Test
16. Final class

【教科書】 Students will use material prepared by the instructor and self-generated material. There will be no textbook.

【成績評価の方法】 Speaking test: 25%, Presentation: 25%, Homework and participation: 30%, Attendance: 20%

【再試験の有無】 Students who miss the exam or fail to perform adequately will not receive a reexamination except under special circumstances. Sufficient documentation must be provided.

【受講者へのメッセージ】 This is a practical English class, which means the focus will be on communication. You have already learned a lot of grammar but most of you have not had much opportunity to use what you have learned. In this class, you will be required to actually use the English which you have learned in the past. You have all got a lot of English 'packed' inside your head. My job as your teacher is to help you get it out; to give you opportunities to speak. I will teach grammar and vocabulary sometimes, but not usually. Many grammar and vocabulary points will come up in the lesson, as you complete work and talk with your classmates. It is very important to ask questions in class, since this will raise important grammar and vocabulary points.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220906>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ マーシェソ .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((電 b) 2 年))

パトリック ジェフ・非常勤講師

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to better prepare the student to express ideas and interact in both spoken and written English environments.

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数-複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】

1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介
2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課
3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物
4. 講義:所有代名詞, 天気 宿題:天気の作文
5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族
6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動
7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味
8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店
9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔
10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験
11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴
12. 講義:can, could, may 宿題:健康
13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物
14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社:Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220907>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ パトリック .

【備考】 旧カリキュラムでは授業科目:英語 (2)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工((電c)2年))

ギンター ディルク・非常勤講師

2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。

【授業の概要】 ペア練習と(グループ)プレゼンテーションを通じて基本的な文法を復習し、日常生活会話能力を高める。

【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化

【到達目標】

1. 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。
2. 英語を使う自信を高める。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. "Getting To Know You"
3. 単語ミニテスト "Giving Advice 1"
4. 単語ミニテスト "Giving Advice 2"
5. 単語ミニテスト "Planning An Event 1"
6. 単語ミニテスト "Planning An Event 2"
7. 単語ミニテスト "Meeting A Star"
8. 中間テスト
9. "Just Talk 1"
10. "Just Talk 2"
11. 単語ミニテスト "Describing Situations 1"
12. 単語ミニテスト "Describing Situations 2"
13. 単語ミニテスト "Dialogue"
14. 単語ミニテスト "歌の聞き取り"
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 英語での 5 分程度のプレゼンテーション, (カ) 出席。単位取得のためには(ア)~(カ)の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア~カ)の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英語は"ただの勉強しなければならない事"ではなく、言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して、遠慮せずに身に付けた英語を使ったら、その扉を開けることができます。教室でお会いするのを楽しみにしています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220908>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ギンター .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 (電 d) 2 年))

福田, スティーブ・利久・助教 / 全学共通教育センター

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 実践的な英語コミュニケーション活動を通し、英語での自己表現に慣れ・親しむ。

【授業の概要】 「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」は基本的な思考法や言語運用能力を身に付けことを目的にしている。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視することを定めている。分かるように、英語は言葉であり、言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションとは物事を「伝える」ことや情報を「集める」ことである。講義では英語の「勉強」というより、Speaking と Writing 活動を通し、自分自身のことについて「伝える」練習と、Listening と Reading 活動を通して、他の学生の地元や過去の経験についての情報を「集める」練習を、英語プレゼンテーションを作成しながらする。

【キーワード】 英語プレゼンテーション

【到達目標】 ①英語プレゼンテーションスキルを身につける。 ②英語を使うことに対する自信をつける。 ③これからの大学生活と自分の将来について深く考える。

【授業の計画】

1. 言葉・コミュニケーションとは何かを考える。
2. ミニ・プレゼンにチャレンジをする。
3. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン①の準備をする。
4. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン①の準備をする。
5. ミニ・プレゼン①をする。
6. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン②の準備をする。
7. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン②の準備をする。
8. ミニ・プレゼン②をする。
9. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン③の準備をする。
10. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン③の準備をする。
11. ミニ・プレゼン③をする。
12. ファイナルプレゼンの準備をする。
13. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。
14. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。

15. ファイナルプレゼンをする。

16. ファイナルプレゼンをする。

【教科書】 なし

【参考書等】 マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN: 475032163X

【成績評価の方法】 20%ミニ・プレゼン①・②・③ 20%ファイナル・プレゼン 10%授業参加評価 10%宿題

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 再履修者は他のシラバスになるので、第 1 回目の授業までに連絡をすること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220909>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(総科((人文)1年))

ヘルベルト ウォルフガング・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 月 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定:ドイツ語入門(総科((人文)1年))井戸/前期 水 1・2 ⇒ 242頁)

【授業の目的】ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きができるようになること。基礎文法を身につけること。ドイツ語だけではなく、外国語の学習方法も指導します

【授業の概要】ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、慣習、考え方、ライフスタイルなども紹介します。日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文を作ったりします。

【到達目標】話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける

【授業の計画】

1. オリエンテーション、挨拶の仕方
2. 文字と発音、ドイツ語を話す国々
3. 人と知り合う、名前、出身、疑問文
4. 住所、人を紹介する、動詞の変化
5. 数詞、電話番号、名詞の姓と定冠詞
6. 専攻、言語、動詞の位置と語順
7. 履修科目、曜日、冠詞類の使い方1
8. 趣味、不規則動詞の現在人称変化
- 9.好きなこと、嫌いこと、否定文の作り方
10. 食事、好物、接続詞
11. ドイツ料理、前置詞、頻度を表す副詞
12. レストランで、定冠詞の使い方2
13. 家族、兄弟、年齢、性格、名詞の複数形、否定冠詞
14. 職業、目的格、形容詞
15. 期末テスト
16. 纏め、質疑応答

【教科書】佐藤修子, 下田恭子, H. Papenthin, G. Oldehaver:場面学ぶドイツ語, CD付きスツェーネン1, 三修社

【成績評価の方法】学期末試験, 小テスト, 宿題, 出席, 授業への取り組みの状況により総合的に評価する。抜き打ちテストあり

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】居眠り厳禁

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220912>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(総科((人文)1年))

井戸慶治・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 水 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定:ドイツ語入門(総科((人文)1年))ヘルベルト / 前期 月 5・6 ⇒
241頁)

【授業の目的】ドイツ語文法の基礎を学び、ドイツ語圏の文化や事情を知る。英語以外の外国語を学び、英語圏以外の外国の事情や文化を知ること、偏りのない健全な国際感覚を持つために必要であり、知的な刺激を得るためにも有益である。ドイツはヨーロッパにおける日本の重要な貿易や文化交流の相手であり、かつて板東収容所でドイツ人捕虜が「第九」を初演したことなどにより、徳島との関連も深い。

【授業の概要】ペア授業のひとつであるが、この授業では主として文法説明、練習問題、読章からなる教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確実なものにしてゆくため、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ文化や日独の文化交流の一端を紹介する。

【キーワード】ドイツ語学習、ドイツの文化を知る

【到達目標】辞書を用いて簡単なドイツ語を読むことができ、初歩的なドイツ語作文ができるようになること。

【授業の計画】

1. 導入
2. 発音
3. 動詞の現在 (1)
4. 定動詞の位置
5. 名詞と定冠詞
6. 動詞の現在 (2)
7. 動詞の現在 (3)・命令法
8. 中間試験
9. 不定冠詞と冠詞類
10. 名詞の複数形・男性弱変化名詞
11. 人称代名詞・疑問詞
12. 前置詞

13. 接続詞
14. 分離動詞
15. 期末試験
16. 予備

【教科書】ドイツ文法の森(第三書房)。独和辞典が必要であるが、最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法】中間試験、期末試験、平常点(小テスト、授業への取り組み方)で、総合的に評価する。

【再試験の有無】なし

【受講者へのメッセージ】出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220913>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】この授業は、月曜日5・6講時のヘルベルト先生の授業とペアになっており、原則として両方を受けなければならない。

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(総科 ((社創)1年))

桂 修治・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (総科 ((社創)1年)) 今井 / 前期 木 1・2 ⇒ 244 頁)

【授業の目的】 外国語を学ぶことによって、私たちは世界に向けて新しい窓を開くことができます。この授業では、ドイツ語の文法や発音の基礎を学びます。そして同時にそれらを応用し、さまざまなテキストを読み、ドイツの社会や文化を知ることが、もう一つの目的です。

【授業の概要】 授業では、ドイツでの家庭生活や社会生活やめぐるさまざまなテーマを取り扱い、いくつかのヨーロッパの都市を紹介します。ドイツ語のテキストを読み、テーマに即した口語表現を学びながら、ドイツ語の基礎的な文法知識や語彙を身に付けることがねらいです。

【キーワード】 ドイツ語圏の文化を知る, 異文化理解, 比較文化, 自律的な学習, コミュニケーション能力

【到達目標】

1. ドイツ語の入門レベルの知識を身につけ、簡単なテキストや発話が理解できる。
2. ドイツ語を自信を持って音読できる。
3. 学習の方法を理解し、自律的に学習できるようになる。

【授業の計画】

1. ドイツ語学習へのオリエンテーション, ドイツ語発音の基礎
2. Willkommen! 出会いと自己紹介 (1) ドイツ語の動詞の使い方 - 現在人称変化 (1)
3. Willkommen! 出会いと自己紹介 (2) ドイツ語の語順の基本
4. Willkommen! 出会いと自己紹介 (3) ドイツ語の冠詞 - 定冠詞と不定冠詞
5. Nanas Universität ナナの大学 (1) ドイツ語の名詞と人称代名詞.
6. Nanas Universität ナナの大学 (2) 名詞と人称代名詞の格変化
7. Nanas Universität ナナの大学 (3) 名詞の複数形
8. Meine Familie 私の家族 (1) 動詞の使い方 - 現在人称変化 (2)
9. Meine Familie 私の家族 (2) 動詞の使い方 - 否定文
10. Eine Reise nach Dresden ドレスデンへのドライブ (1) ドイツ語の前置詞の使い方

11. Eine Reise nach Dresden ドレスデンへのドライブ (2) 前置詞の使い方. ドイツ語の助動詞 - 「話法の助動詞」
12. Eine Reise nach Dresden ドレスデンへのドライブ (3) ドイツ語の助動詞 - 「話法の助動詞」
13. Genießen wir jenden Sommertag. 夏のような日々を楽しもう (1) ドイツ語独特の動詞 - 分離動詞と非分離動詞
14. Genießen wir jenden Sommertag. 夏のような日々を楽しもう (2) 接続詞の使い方.
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 佐藤和弘:新ドイツに行ってみませんか 2500 円

【成績評価の方法】 授業への取り組みと筆記試験 (小テストと定期試験) により総合的に評価します。

【再試験の有無】 原則として行わない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220914>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜 3-4 時間, 金曜 5-6)

【備考】 この授業は木 1・2 講時「ドイツ語入門」(今井) とペアクラスになっています。必ず両方を受講してください。

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(総科((社創)1年))

今井晋哉・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 木 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定:ドイツ語入門(総科((社創)1年))桂 / 前期 火 3・4 ⇒ 243頁)

【授業の目的】 本科目は、初めて第二外国語を学ぶ学生が、ドイツ語の基礎を日常的会話表現に重点を置きながら学習し、また学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する初歩的能力を習得することを目的としている。また、併せて現代ドイツ事情についても、少々紹介してみたい。この授業を通じて、英語圏以外の外国文化に触れることにより、受講生の皆さんの視野が少しでも広がれば、と考えている。

【授業の概要】 この授業では、日常生活上の具体的な場面に即したドイツ語の会話表現やテキストを理解するとともに、学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する演習を重点的に行いたい。具体的には、パートナーとの練習をも交えた基本文型の学習、関連基本語彙や初級文法の基礎の学習、テキストの読解、教科書付属のCDを用いた聞き取り練習、口頭あるいは筆記によるドイツ語の表現練習などを授業時に、あるいは家庭学習としてやってもらい、毎回できるだけ多くの受講者にその成果を発表してもらおうと考えている。また、各種のビデオなどを用いながら、現代ドイツ事情についても、少々紹介したい。

【キーワード】 対話文、初級文法、現代ドイツ事情、テキストの読解

【到達目標】

1. 日常的な場面に即してドイツ語の基礎を理解し、また初歩的なドイツ語の表現能力を習得すること。
2. 現代ドイツの社会や文化に関心を持ち、その一端を理解すること。

【授業の計画】

1. 以下は、各回でとりあげる場面や関連文法項目などを示している。なお、以下の計画は暫定的なものであって、実際の授業の進行によっては、変更もあり得る。詳しいことは授業時に説明する。
2. 第1回: ガイダンス～教科書、授業の進め方、家庭学習などについての説明
3. 第2回: アルファベット、辞書の紹介
4. 第3-4回: 発音とつづり字の読み方
5. 第5-6回: ドイツ語のあいさつ、数字など

6. 第7-9回: ベルリンに到着!(動詞の現在人称変化, sein と haben の変化, 動詞の位置)

7. 第10回: コラム～活気あふれる首都ベルリン

8. 第11-13回: パン屋さんで(名詞の性, 名詞の格変化)

9. 第14回: コラム～こだわりのドイツパン

10. 第15回: 期末試験

11. 第16回: 総括授業

【教科書】 清野智昭『ドイツ語の時間』(文法補足集付き)[CD/DVD 付き](朝日出版社, 2007年)。

【参考書等】 プリント教材・資料を配付する場合もある。

【成績評価の方法】 平常点(=授業中の発表や教員とのやりとりに対する評価)、中間的小テストおよび期末試験による。平常点の比重が全体の2割程度を占めることになるであろう。

【再試験の有無】 行う場合もある。

【受講者へのメッセージ】 せっかく新しく学習する外国語の科目なのだから、ドイツ語とドイツの社会や文化に対する好奇心をもって積極的な姿勢で受講してほしい。単に出席しているだけでは、あまり意味はない。毎回指示される家庭学習も怠らないように。なお、初回の授業時に指定の教科書を必ず持参すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220915>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

【備考】 このクラスは、火曜日3・4講時の桂先生担当の「ドイツ語入門」とペアになっているので、両方のクラスを受講すること。ただし成績は各クラス別に出される。桂先生の授業との関係については学期初めに説明する。

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(総科((総理)1年))

ギュンター・ディルク・非常勤講師

1単位 前期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定:ドイツ語入門(総科((総理)1年))桂 / 前期 木 1・2 ⇒ 246頁)

【授業の目的】ドイツ語の基礎文法を習得し、会話ができるようになる。ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。

【授業の概要】表現力(会話、筆記、聞き取り)の能力を高める。前期には基礎的な文法を勉強する。後期には今まで学習した内容を応用して、自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や、発表など、授業への積極的な参加が望まれる。

【キーワード】現代ドイツ語、コミュニケーションの力、ドイツ文化

【到達目標】基礎的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. ABCの発音、スベル
3. 人と知り合う1(名前、出身、住所、自己紹介)
4. 人と知り合う2(紹介する、数、電話番号)
5. 専攻言語(専攻、学習言語、曜日)
6. 趣味(好きなこと、嫌いなこと)
7. 家族1(親戚、年齢等)
8. 家族2(職業)
9. 中間テスト
10. ドイツの国・現代社会について
11. 食事(好物、一日の食事)
12. 持ち物(品物の感想1)
13. 持ち物(商品の感想2)
14. 時刻と日付1(時刻、時間、日付、月、誕生日)
15. 期末テスト
16. 総括授業※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【教科書】未定

【成績評価の方法】(ア)単語ミニテスト、(イ)中間テスト、(ウ)期末テスト、(エ)授業への積極的な参加、(オ)出席。単位取得のためには(ア)~(オ)の全ての分野で最低60点を取る必要があります。(ア~オ)の中で60点より少ない点数があった場合には不合格です。桂先生とのペア授業になっているので、必ず両方受講のこと。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】ドイツ語は難しい言語ですが山登りと一緒に、途中はたいへんでも、頂上について話せるようになるととても楽しいものです。楽しい授業にしようと思いますので、一緒にがんばりましょう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220916>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ギュンター.

【備考】

- ◇木曜1・2講時の桂先生のクラスとペア授業になっているので、必ず両方受講のこと。
- ◇連絡先 学務課教育支援係(kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(総科 ((総理)1年))

桂 修治・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 木 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (総科 ((総理)1年)) ギュンター / 前期 火 3・4 ⇒ 245頁)

【授業の目的】 外国語を学ぶことによって、私たちは世界に向けて新しい窓を開くことができます。この授業では、ドイツ語の文法や発音の基礎を学びます。そして同時にそれらを応用し、さまざまなテキストを読み、ドイツの社会や文化を知ることが、もう一つの目的です。

【授業の概要】 授業では、ドイツでの家庭生活や社会生活やめぐるさまざまなテーマを取り扱い、いくつかのヨーロッパの都市を紹介します。ドイツ語のテキストを読み、テーマに即した口語表現を学びながら、ドイツ語の基礎的な文法知識や語彙を身に付けることがねらいです。楽しく参加できる授業にしたいと考えています。

【キーワード】 ドイツ語圏の文化を知る、国際交流につながる学習

【到達目標】

1. ドイツ語の入門レベルの知識を身につけ、簡単なテキストや発話が理解できる。
2. ドイツ語を自信を持って音読できる。
3. ドイツ語圏の社会や生活の一端を知る。

【授業の計画】

1. ドイツ語学習へのオリエンテーション、ドイツ語発音の基礎
2. 「学期はじめ」(1)、あいさつ・自己紹介 (人称に対応する動詞の変化、動詞 sein/haben)
3. 「学期はじめ」(2) 互いに紹介する (名詞の格と定冠詞、否定冠詞、疑問文と答え方)
4. 「大学生活について話そう」(1)(名詞の格と定冠詞、否定冠詞、疑問文と答え方)
5. 「大学生活について話そう」(2) (名詞の格と定冠詞、否定冠詞、疑問文と答え方)
6. 「町での日常生活」(1) (名詞の複数形、複数形の格変化、人称代名詞の格変化)

7. 「町での日常生活」(2) (名詞の複数形、複数形の格変化、人称代名詞の格変化)
8. 「グリルパーティをしよう」(1) 不規則動詞の現在人称変化、前置詞
9. 「グリルパーティをしよう」不規則動詞の現在人称変化、前置詞
10. 中間試験
11. 「試験と宿題について」(1) (定冠詞類、不定冠詞類、時間)
12. 「試験と宿題について」(2) (定冠詞類、不定冠詞類、時間)
13. 「住宅探しと引っ越し」(1) 形容詞の格変化、比較、名詞化
14. 「住宅探しと引っ越し」(2) 形容詞の格変化、比較、名詞化
15. 期末試験
16. 前期授業のまとめ

【教科書】

- ◇ Takayam 他:ウニ・プラッツ (大学広場) 同学社 2500円
- ◇ 辞書を購入のこと (初回授業で紹介しますので、前もって購入しておく必要はありません)
- ◇ その他、教材のプリントを配布します。

【成績評価の方法】 小テスト、レポート、試験、授業参加への所見などを総合して評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 ドイツ語のような、日本語と離れた外国語を習得することは簡単なことではありません。授業外にも自主学習が必要です。この授業では、授業のホームページを開設し、これを積極的に活用します。授業の前後に、このページを何度も見て、復習と予習を行ってください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220917>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜 3-4 時間, 金曜 5-6)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(医 ((医 A)1 年))

曾田 紘二

1 単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (医 ((医 A)1 年)) 井戸 / 前期 火 5・6 ⇒ 248 頁)

【再試験の有無】再試験

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220918>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 曾田 .

【授業の目的】ドイツ語の運用能力を身に付ける。ドイツ語学習を通じて異文化を理解する。

【授業の概要】ドイツ語で使用される文字と読み方および文法を勉強し、読解力を身に付ける。基礎的な問いと答えの文を憶える。

【キーワード】文字・表記, 発音, 文法, 表現

【到達目標】1. ドイツ語文を正しく読めるようにする。2. 辞書を使ってドイツ語文を読解できるようにする。3. ドイツ語で基本的な問いと答えができるようにする。

【授業の計画】

1. オリエンテーション, ドイツとドイツ語
2. 文字と発音 1
3. 文字と発音 2
4. ものについての問い方・答え方
5. 性 (gender) と冠詞, 練習問題
6. 不定詞と定動詞, 練習問題
7. 自己紹介の表現 1
8. 自己紹介の表現 2
9. 中間試験, 動詞の活用 1
10. 動詞の活用 2
11. 動詞の活用練習問題
12. 買い物の表現 1
13. 買い物の表現 2
14. 名詞の複数形, 練習問題
15. 期末試験
16. まとめ

【教科書】信岡資生他『新しいドイツ語の時間』第三書房, 2006 年。

【成績評価の方法】期末試験 5 割, 中間試験 5 割。

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(医 ((医 A)1 年))

井戸慶治・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (医 ((医 A)1 年)) 曾田 / 前期 月 9・10 ⇒ 247 頁)

【授業の目的】 ドイツ語の基礎を習得し、またドイツ事情に触れる。英語以外の外国語を学び、英語圏以外の外国の事情や文化を知ることは、偏りのない健全な国際感覚を持つために必要であり、知的な刺激を得るためにも有益である。ドイツはヨーロッパにおける日本の重要な貿易や文化交流の相手であり、かつて板東収容所でドイツ人捕虜が「第九」を初演したことなどにより、徳島との関連も深い。

【授業の概要】 ペア授業のひとつであるが、この授業では、日独交流をテーマとした読章、文法説明、練習問題からなる教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確実なものにしてゆくため、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ事情、ドイツ文化を紹介する。

【到達目標】 ドイツ語文法の基本を理解し、辞書を用いて簡単なドイツ語を読んだり書いたりできるようになること。

【授業の計画】

1. 導入
2. 発音
3. 発音 2
4. 動詞の現在人称変化 (1)
5. 日本に来た最初のドイツ人
6. 名詞の性と冠詞
7. 冠詞類
8. 中間試験
9. ドイツから来た大砲鍛冶
10. 名詞の複数形と 4 格
11. ドイツに行った最初の日本人
12. 2 格と 3 格, 動詞の現在人称変化 (2)
13. ケンペルとその日本研究
14. 前置詞

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 日独交流 400 年 (白水社)。独和辞典が必要であるが、最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法】 中間試験、期末試験、平常点 (小テスト、授業への取り組み方など) で総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220919>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 16-17 時, 3 号館 1 階 学習支援室)

【備考】 この授業は、月曜日 9・10 講時の曾田先生の授業とペアになっており、原則として両方を受けなければならない。

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(医 ((医 B)1 年))

依岡 隆児・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (医 ((医 B)1 年)) 石川 / 前期 火 5・6 ⇒ 250 頁)

【授業の目的】初級文法を習得しながら、簡単なドイツ語を読み、書き、聞き、話すことができるようになること。また、ドイツ語圏の文化や社会についての知識を深めること。

【授業の概要】基本的な、読む、聞く、話す、書くという技能を、初歩的な文法事項に絞ってドリル形式で練習しながら、自然とドイツ語が身につくようする。また、授業の合い間にドイツの映画やビデオを見せ、ドイツの文化や社会への興味を喚起し、国際人としての教養を身につけられるように配慮する。

【キーワード】外国語、ドイツ語、異文化理解、比較文化

【到達目標】初級ドイツ語を使って、簡単な文書を読み、旅行に行っても困らない程度のコミュニケーション能力を養うことと、ドイツ語圏の文化についての理解を深めること。

【授業の計画】

1. 授業ガイダンス
2. アルファベット、発音、ビデオ鑑賞 (板東収容所)
3. 1 課、誕生日 規則動詞の現在人称変化など
4. 同上、ドリル問題
5. 2 課、住と食 名詞の性と格変化など、ビデオ (ライン河)
6. 同上、ドリル問題
7. 3 課、誕生・洗礼 名詞の複数形、動詞の現在人称変化 (不規則変化)
8. 同上、ドリル練習
9. 4 課、職業・休暇 人称代名詞、前置詞など
10. 中間テスト
11. 5 課、結婚式 冠詞類など
12. 同上、ドリル問題
13. 6 課、学校・大学 副文、分離動詞
14. 復習
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】荻野蔵平ほか『ドイツ 暮らしのスケッチ』(朝日出版社)

【成績評価の方法】出席と授業への積極的な参加と適宜行うレポートや小テスト、最後に行う期末試験により、総合的に行う。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】初めて習う外国語なので、授業に集中し、反復・継続を心がけ、外国語の習得を通して、現代の世界へ目を開くようにしてもらいたい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220920>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)

【備考】

- ◇ ドイツ語を通して新しい世界に触れ、自分たちの世界を見直すようにしてください。楽しく、そして、根気よく!
- ◇ この授業は火曜日 5・6 の石川先生の授業とペア授業です。両方の授業を履修するようにしてください。

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(医 ((医 B)1 年))

石川 榮作・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (医 ((医 B)1 年)) 依岡 / 前期 月 9・10 ⇒ 249 頁)

【授業の目的】ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】ドイツ語初級読本の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌 (野ばら、ローライなど) やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】ドイツ文化、異文化理解、比較文化、比較言語、コミュニケーション能力

【到達目標】ドイツ語の基本的な文法事項を習得するとともに、簡単なドイツ語文章を読むことができる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション (ドイツ語について)
2. 発音
3. 第 1 課 動詞の現在人称変化 (1)
4. 第 2 課 名詞の格変化/定冠詞と不定冠詞
5. 第 3 課 人称代名詞/定冠詞類と不定冠詞類
6. 第 4 課 動詞の現在人称変化 (2)/命令法
7. 第 1 課から第 4 課までの総まとめ
8. 中間試験 (第 1 課 ~ 第 4 課)
9. 第 5 課 前置詞
10. 第 6 課 形容詞の語尾変化
11. 第 7 課 話法の助動詞/従属接続詞
12. 第 5 課から第 7 課までの総まとめ
13. 前期の総復習
14. ドイツ映画鑑賞
15. 定期試験 (第 5 課 ~ 第 7 課)
16. 総括授業

【教科書】ヘルベルト/石川/井戸/依岡『出会いのドイツ語』(郁文堂) 2000 円

【成績評価の方法】授業への取り組みと筆記試験 (中間試験と定期試験) により総合的に評価します。

【再試験の有無】有

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220921>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時~16時)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(医・歯 ((栄・口)1年))

今井 晋哉・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 月 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】 本科目は、初めて第二外国語を学ぶ学生が、ドイツ語の基礎を日常的会話表現に重点を置きながら学習し、また学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する初歩的能力を習得することを目的としている。また、併せて現代ドイツ事情についても、少々紹介してみたい。この授業を通じて、英語圏以外の外国文化に触れることにより、受講生の皆さんの視野が少しでも広がれば、と考えている。

【授業の概要】 この授業では、日常生活上の具体的な場面に即したドイツ語の会話表現やテキストを理解するとともに、学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する演習を重点的に行いたい。具体的には、パートナーとの練習をも交えた基本文型の学習、関連基本語彙や初級文法の基礎の学習、テキストの読解、教科書付属のCDを用いた聞き取り練習、口頭あるいは筆記によるドイツ語の表現練習などを授業時に、あるいは家庭学習としてやってもらい、毎回できるだけ多くの受講者にその成果を発表してもらおうと考えている。また、各種のビデオなどを用いながら、現代ドイツ事情についても、少々紹介したい。

【キーワード】 対話文、初級文法、テキストの読解、現代ドイツ事情

【到達目標】

1. 日常的な場面に即してドイツ語の基礎を理解し、また初歩的なドイツ語の表現能力を習得すること。
2. 現代ドイツの社会や文化に関心を持ち、その一端を理解すること。

【授業の計画】

1. 以下は、各回でとりあげる場面や関連文法項目などを示している。なお、以下の計画は暫定的なものであって、実際の授業の進行によっては、変更もあり得る。詳しいことは授業時に説明する。
2. 第1回: ガイダンス～教科書、授業の進め方、家庭学習などについての説明
3. 第2回: アルファベット、辞書の紹介
4. 第3-4回: 発音とつづり字の読み方
5. 第5-6回: ドイツ語のあいさつ、数字など
6. 第7-9回: ベルリンに到着!(動詞の現在人称変化、sein と haben の変化、動詞の位置)

7. 第10回: コラム～活気あふれる首都ベルリン

8. 第11-13回: パン屋さんで(名詞の性、名詞の格変化)

9. 第14回: コラム～こだわりのドイツパン

10. 第15回: 期末試験

11. 第16回: 総括授業

【教科書】 清野智昭『ドイツ語の時間』(文法補足集付き)[CD/DVD 付き](朝日出版社, 2007年)。

【参考書等】 プリント教材・資料を配付する場合もある。

【成績評価の方法】 平常点 (=授業中の発表や教員とのやりとりに対する評価)、中間的小テスト、期末試験による。平常点の比重が全体の2割程度を占めることになるであろう。

【再試験の有無】 行う場合もある。

【受講へのメッセージ】 せっかく新しく学習する外国語の科目なのだから、ドイツ語とドイツの社会や文化に対する好奇心をもって積極的な姿勢で受講してほしい。単に出席しているだけでは、あまり意味はない。毎回指示される家庭学習も怠らないように。なお、初回の授業時に指定の教科書を必ず持参すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220922>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(医 ((看)1年))

ギュンター デルク・非常勤講師

1単位 前期 火 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】ドイツ語の基礎文法を習得し、会話ができるようになる。ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。

【授業の概要】表現力(会話、筆記、聞き取り)の能力を高める。前期には基本的な文法を勉強する。後期には今まで学習した内容を応用して、自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や、発表など、授業への積極的な参加が望まれる。

【キーワード】現代ドイツ語、コミュニケーションの力、ドイツ文化

【到達目標】基本的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 人と知り合う1(名前, 出身, 住所, 自己紹介)
3. 人と知り合う2(紹介する, 数, 電話番号)
4. ABCの発音, スペル
5. 動詞の現在人称変化
6. 動詞の現在人称変化
7. 大学生活(専攻, 学習言語, 曜日)
8. 中間テスト
9. ドイツの国・現代社会について1
10. 中間テストの復習
11. 趣味(好きなこと, 嫌いなこと)1
12. 趣味(好きなこと, 嫌いなこと)2
13. 時刻と日付1(時刻, 時間, 日付, 月, 誕生日)
14. 時刻と日付2(週末・休みの)予定について話す
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【教科書】未定

【成績評価の方法】(ア)単語ミニテスト, (イ)中間テスト, (ウ)期末テスト, (エ)授業への積極的な参加, (オ)出席。単位取得のためには(ア)~(オ)の全ての分野で最低60点を取る必要があります。(ア~オ)の中で60点より少ない点数が

あった場合には不合格です。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】ドイツ語は難しい言語ですが山登りと一緒に、途中はたいへんでも、頂上について話せるようになるととても楽しいものです。楽しい授業にしようと思いますので、一緒にがんばりましょう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220923>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ギュンター。

【備考】(kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(医 ((放・検)1年))

井戸 慶治・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】 ドイツ語の基礎を習得し、またドイツ事情に触れる。英語以外の外国語を学び、英語圏以外の外国の事情や文化を知ることが、偏りのない健全な国際感覚を持つために必要であり、知的な刺激を得るためにも有益である。ドイツはヨーロッパにおける日本の重要な貿易や文化交流の相手であり、かつて板東収容所でドイツ人捕虜が「第九」を初演したことなどにより、徳島との関連も深い。

【授業の概要】 読章、文法説明、練習問題からなる総合的な教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確実なものにしてゆくため、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ事情、ドイツ文化を紹介する。

【キーワード】 ドイツ語学習、ドイツの文化を知る

【到達目標】 ドイツ語文法の基本や簡単な表現を理解し、応用すること。

【授業の計画】

1. 導入
2. 発音
3. 動詞の現在人称変化 (1)
4. 名詞の性
5. 冠詞
6. 動詞の現在人称変化 (2)
7. 命令形
8. 中間試験
9. 定冠詞類
10. 不定冠詞類
11. 前置詞
12. 再帰代名詞
13. 話法の助動詞
14. 未来形・使役表現
15. 期末試験
16. 予備

【教科書】 「行ってらっしゃい」(朝日出版社)。独和辞典が必要であるが、最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法】 中間試験、期末試験、平常点(小テスト、授業への取り組み方)で、総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220924>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(歯 ((歯)1年))

ヘルベルト ウォルフガング・講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 月 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (歯 ((歯)1年)) 石川 / 前期 火 9・10 ⇒ 255頁)

【授業の目的】ドイツ語の会話を通して、ドイツ語圏の文化と人々についての理解を深める

【授業の概要】日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話練習などを行う。ドイツ語だけではなく、外国語の学習方法も指導します

【到達目標】基礎的な会話(話す、聞くなど)と簡単な作文(書く、読む)を修得する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、外国語の学び方について、辞書などの使い方
2. 人と知り合う(出身、住所、年齢、身分など)自己紹介
3. 仕事、バイト、勉強、職業
4. 趣味、道楽、遊び
5. 専攻、履修科目、曜日、年月日
6. 電話の仕方:数詞、小テスト
7. 買い物をする
8. 家族、兄弟、親戚について、作文
9. 不動産、住居、部屋、家具など
10. 余暇の過ごし方
11. 外出する、約束するための表現
12. 休暇の計画(活動、場所、同伴者など)
13. 簡単なテキストを読む、文章の構造
14. 週末の過ごし方、現在完了形、聞き取り練習
15. 定期試験
16. 質疑応答、纏め

【教科書】プリント等を配布

【成績評価の方法】平常点を定期試験、小テスト、出席、授業への取り組み状況により総合的に評価する。抜き打ちテストあり

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】居眠り厳禁

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220925>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(歯 ((歯)1年))

石川 榮作・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定: ドイツ語入門 (歯 ((歯)1年)) ヘルベルト / 前期 月 7・8 ⇒ 254頁)

【授業の目的】ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】ドイツ語初級読本の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌(野ばら、ローライなど)やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】ドイツ文化、異文化理解、比較文化、比較言語、コミュニケーション能力

【到達目標】ドイツ語の基本的な文法事項を習得するとともに、簡単なドイツ語文章を読むことができる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション(ドイツ語について)
2. 発音
3. 第1課 動詞の現在人称変化(1)
4. 第2課 名詞の格変化/定冠詞と不定冠詞
5. 第3課 人称代名詞/定冠詞類と不定冠詞類
6. 第4課 動詞の現在人称変化(2)/命令法
7. 第1課から第4課までの総まとめ
8. 中間試験(第1課～第4課)
9. 第5課 前置詞
10. 第6課 形容詞の語尾変化
11. 第7課 話法の助動詞/従属接続詞
12. 第5課から第7課までの総まとめ
13. 前期の総復習
14. ドイツ映画鑑賞
15. 定期試験(第5課～第7課)
16. 総括授業

【教科書】ヘルベルト/石川/井戸/依岡 『出会いのドイツ語』(郁文堂)2000円

【成績評価の方法】授業への取り組みと筆記試験(中間試験と定期試験)により総合的に評価します。

【再試験の有無】有

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220926>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時~16時)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(薬(薬A1年))

曾田 紘二

1単位 前期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】ドイツ語の運用能力を身に付ける。ドイツ語学習を通じて異文化を理解する。 ⇒ 曾田 .

【授業の概要】ドイツ語で使用される文字と読み方および文法を勉強し、読解力を身に付ける。基礎的な問いと答えの文を憶える。

【キーワード】文字・表記, 発音, 文法, 表現

【到達目標】1. ドイツ語文を正しく読めるようにする。2. 辞書を使ってドイツ語文を読解できるようにする。3. ドイツ語で基本的な問いと答えができるようにする。

【授業の計画】

1. オリエンテーション, ドイツとドイツ語
2. 文字と発音 1
3. 文字と発音 2
4. ものについての問い方・答え方
5. 性 (gender) と冠詞, 練習問題
6. 不定詞と定動詞, 練習問題
7. 自己紹介の表現 1
8. 自己紹介の表現 2
9. 中間試験, 動詞の活用 1
10. 動詞の活用 2
11. 動詞の活用練習問題
12. 買い物の表現 1
13. 買い物の表現 2
14. 名詞の複数形, 練習問題
15. 期末試験
16. まとめ

【教科書】信岡資生他『新しいドイツ語の時間』第三書房, 2006年。

【成績評価の方法】期末試験 5割, 中間試験 5割。

【再試験の有無】再試験

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220927>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(薬(薬B1年))

ヘルベルト ウォルフガング・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きができるようになること。基礎文法を身につけること。ドイツ語だけではなく、外国語の学習方法も指導します

【授業の概要】ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、慣習、考え方、ライフスタイルなども紹介します。日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文を作ったりします。

【到達目標】話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける

【授業の計画】

1. オリエンテーション、挨拶の仕方
2. 文字と発音、ドイツ語を話す国々
3. 人と知り合う、名前、出身、疑問文
4. 住所、人を紹介する、動詞の変化
5. 数詞、電話番号、名詞の姓と定冠詞
6. 専攻、言語、動詞の位置と語順
7. 履修科目、曜日、冠詞類の使い方1
8. 趣味、不規則動詞の現在人称変化
9. 好きなこと、嫌なこと、否定文の作り方
10. 食事、好物、接続詞
11. ドイツ料理、前置詞、頻度を表す副詞
12. レストランで、定冠詞の使い方2
13. 家族、兄弟、年齢、性格、名詞の複数形、否定冠詞
14. 職業、目的格、形容詞
15. 期末テスト
16. 纏め、質疑応答

【教科書】佐藤修子、下田恭子、H. Papenthin, G. Oldehaver:場面で学ぶドイツ語、CD付きスツェーネン1、三修社

【成績評価の方法】学期末試験、小テスト、宿題、出席、授業への取り組み状況により総合的に評価する。抜き打ちテストあり

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】居眠り厳禁

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220928>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工 ((建)1年))

ギュンター デルク・非常勤講師

1単位 前期 金 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】ドイツ語の基礎文法を習得し、会話ができるようになる。ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。

【授業の概要】表現力(会話、筆記、聞き取り)の能力を高める。前期には基本的な文法を勉強する。後期には今まで学習した内容を応用して、自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や、発表など、授業への積極的な参加が望まれる。

【キーワード】現代ドイツ語、コミュニケーションの力、ドイツ文化

【到達目標】基本的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 人と知り合う1(名前, 出身, 住所, 自己紹介)
3. 人と知り合う2(紹介する, 数, 電話番号)
4. ABCの発音, スペル
5. 動詞の現在人称変化
6. 動詞の現在人称変化
7. 大学生活(専攻, 学習言語, 曜日)
8. 中間テスト
9. ドイツの国・現代社会について1
10. 中間テストの復習
11. 趣味(好きなこと, 嫌いなこと)1
12. 趣味(好きなこと, 嫌いなこと)2
13. 時刻と日付1(時刻, 時間, 日付, 月, 誕生日)
14. 時刻と日付2(週末・休みの)予定について話す
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【教科書】未定

【成績評価の方法】(ア)単語ミニテスト, (イ)中間テスト, (ウ)期末テスト, (エ)授業への積極的な参加, (オ)出席。単位取得のためには(ア)~(オ)の全ての分野で最低60点を取る必要があります。(ア~オ)の中で60点より少ない点数が

あった場合には不合格です。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】ドイツ語は難しい言語ですが山登りと一緒に、途中はたいへんでも、頂上について話せるようになるととても楽しいものです。楽しい授業にしようと思いますので、一緒にがんばりましょう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220929>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ギュンター。

【備考】(kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工 ((機 A) 1 年))

石川 榮作・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】ドイツ語初級文法の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌(野ばら, ローレライなど)やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】ドイツ文化, 異文化理解, 比較文化, 比較言語, コミュニケーション能力

【到達目標】ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得するとともに、簡単なドイツ語文章を読むことができる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション (ドイツ語について)
2. 第 1 課 発音 (簡単な日常的会話練習もかねて)
3. 第 2 課 駅の待合室で (2 人称の代名詞/動詞の現在形/ドイツ語の疑問文と否定文/基数)
4. 第 2 課 練習問題
5. 第 3 課 写真を見ながら (sein と haben 現在形/名詞の性と冠詞類/不定冠詞 kei/man/冠詞類の 4 格/定形倒置/)
6. 第 3 課 練習問題
7. 第 1 課から第 3 課 までの総まとめ
8. 中間試験 (第 1 課 ~ 第 3 課)
9. 第 4 課 クラシック音楽を聴きに行く (動詞変化の変則/冠詞類と人称代名詞の 3 格/前置詞の格支配その 1/名詞の複数形/da(r)-前置詞の結合形/語と語のつなげ方/)
10. 第 4 課 練習問題
11. 第 5 課 湖岸を散歩 (前置詞の格支配その 2/動詞の 3 基本形/過去人称変化/現在完了/-ieren に終わる動詞/)
12. 第 5 課 練習問題
13. 第 4 課から第 5 課までの総まとめ
14. ドイツ映画鑑賞
15. 定期試験 (第 4 課~第 5 課)

16. 総括授業

【教科書】改訂版・菊池悦朗『ドイツ語を楽しく一入門総合教材』(同学社) 2000 円

【成績評価の方法】授業への取り組みと筆記試験 (中間試験と定期試験) により総合的に評価します。

【再試験の有無】有り

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220930>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時~16時)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工((機B)1年))

ヘルベルト ウォルフガング・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 水 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きができるようになること。基礎文法を身につけること。ドイツ語だけではなく、外国語の学習方法も指導します

【授業の概要】ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、慣習、考え方、ライフスタイルなども紹介します。日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文を作ったりします。

【到達目標】話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける

【授業の計画】

1. オリエンテーション、挨拶の仕方
2. 文字と発音、ドイツ語を話す国々
3. 人と知り合う、名前、出身、疑問文
4. 住所、人を紹介する、動詞の変化
5. 数詞、電話番号、名詞の姓と定冠詞
6. 専攻、言語、動詞の位置と語順
7. 履修科目、曜日、冠詞類の使い方1
8. 趣味、不規則動詞の現在人称変化
9. 好きなこと、嫌なこと、否定文の作り方
10. 食事、好物、接続詞
11. ドイツ料理、前置詞、頻度を表す副詞
12. レストランで、定冠詞の使い方2
13. 家族、兄弟、年齢、性格、名詞の複数形、否定冠詞
14. 職業、目的格、形容詞
15. 期末テスト
16. 纏め、質疑応答

【教科書】佐藤修子、下田恭子、H. Papenthin, G. Oldehaver:場面で学ぶドイツ語、CD付きスツェーネン1、三修社

【成績評価の方法】学期末試験、小テスト、宿題、出席、授業への取り組み状況により総合的に評価します。抜き打ちテストあり

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】居眠り厳禁

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220931>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工 ((化)1 年))

桂 修治・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 外国語を学ぶことによって、私たちは世界に向けて新しい窓を開くことができます。この授業では、ドイツ語の文法や発音の基礎を学びます。そして同時にそれらを応用し、さまざまなテキストを読み、ドイツの社会や文化を知ることが、もう一つの目的です。

【授業の概要】 授業では、ドイツでの家庭生活や社会生活やめぐるさまざまなテーマを取り扱います。ドイツ語のテキストを読み、テーマに即した口語表現を学びながら、ドイツ語の基礎的な文法知識や語彙を身に付けることがねらいです。楽しく参加できる授業にしたいと考えています。

【キーワード】 自立的な外国語学習、ドイツ語圏の文化を知る

【到達目標】

1. ドイツ語の入門レベルの知識を身につけ、簡単なテキストや発話が理解できる。
2. ドイツ語を自信を持って音読できる。
3. ドイツ語圏の社会や生活の一端を知る。

【授業の計画】

1. ドイツ語学習へのオリエンテーション、ドイツ語の挨拶、ドイツ語発音の基礎
2. 自己紹介。(話題) 多言語社会ルクセンブルク (文法) 人称代名詞、人称に対応する動詞の変化、
3. 自己紹介。(話題) 多言語社会ルクセンブルク 動詞 sein / haben、ドイツ語の語順の原則 (1)
4. 自己紹介。(話題) 多言語社会ルクセンブルク 動詞 sein / haben、ドイツ語の語順の原則 (2)
5. あなたの趣味は?(1) (話題) ドイツとフランスに新たな雪解け。(文法) 名詞の性、冠詞、ドイツ語の格について、定冠詞と不定冠詞の格変化
6. あなたの趣味は?(2) (話題) ドイツとフランスに新たな雪解け。(文法) 名詞の性、冠詞、ドイツ語の格について、定冠詞と不定冠詞の格変化
7. あなたの趣味は?(3) (話題) ドイツとフランスに新たな雪解け。(文法) 名詞の性、冠詞、ドイツ語の格について、定冠詞と不定冠詞の格変化

8. フランクフルト中央駅で (1)。(話題) ドイツの鉄道。(文法) 不規則動詞について、動詞の命令形、人称代名詞の 3 格と 4 格、ドイツ語の語順の原則 (2)
9. フランクフルト中央駅で (2)。(話題) ドイツの鉄道。(文法) 不規則動詞について、動詞の命令形、人称代名詞の 3 格と 4 格、ドイツ語の語順の原則 (2)
10. フランクフルト中央駅で (3)。(話題) ドイツの鉄道。(文法) 不規則動詞について、動詞の命令形、人称代名詞の 3 格と 4 格、ドイツ語の語順の原則 (2)
11. 買い物。(話題) エコ先進国ドイツ (1) (文法) 名詞の複数形、定冠詞に似た変化をすることば、不定冠詞に似た変化をすることば
12. 買い物。(話題) エコ先進国ドイツ (2) (文法) 名詞の複数形、定冠詞に似た変化をすることば、不定冠詞に似た変化をすることば
13. チューリヒの町で。(話題) スイス銀行と守秘義務。(1) (文法) 前置詞の使い方、従属接続詞と副文
14. チューリヒの町で。(話題) スイス銀行と守秘義務。(2) (文法) 前置詞の使い方、従属接続詞と副文
15. 期末試験
16. 前期授業のまとめ

【教科書】

- ◇ 小野寿美子 クロイツンク・ネオ (朝日出版社) 2500 円
- ◇ 辞書を購入のこと (初回授業で紹介しますので、前もって購入しておく必要はありません)
- ◇ その他、教材のプリントを配布します。

【成績評価の方法】 小テスト、レポート、試験、授業参加への所見などを総合して評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 この授業では、授業のホームページを開設し、これを積極的に活用します。授業の前後に、このページを何度も見て、復習と予習を行ってください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220932>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィス
アワー: 水曜 3・4 時間, 金曜 5・6)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工 ((生)1年))

石川 榮作・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 水 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】ドイツ語初級文法の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌(野ばら、ローライなど)やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】ドイツ文化、異文化理解、比較文化、比較言語、コミュニケーション能力

【到達目標】ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得するとともに、簡単なドイツ語文章を読むことができる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション(ドイツ語について)
2. 発音
3. 第1課 現在人称変化I
4. 第2課 定冠詞と名詞・複数形
5. 第3課 不定冠詞と冠詞類・並列接続詞
6. 第4課 現在人称変化II・命令形
7. 第1課から第4課までの総まとめ
8. 中間試験(第1課~第4課)
9. 第5課 人称代名詞・前置詞
10. 第6課 形容詞の格変化
11. 第7課 動詞の三基本形・過去人称変化
12. 第8課 完了形・比較変化
13. 第5課から第8課までの総まとめ
14. ドイツ映画鑑賞
15. 定期試験(第5課~第8課)
16. 総括授業

【教科書】西本・アンゲリカ・高田『文法システム—新改訂版』(同学社)

【成績評価の方法】授業への取り組みと筆記試験(中間試験と定期試験)により総合的に評価します。

【再試験の有無】有り

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220935>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜日15時~16時)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工((電)1年))

石田基広・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 水 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】 社会人として必要な国際的教養を身につける一環として、ごく簡単なドイツ語表現を習得する。またドイツ語圏の文化に関する知識を身につける

【授業の概要】 簡単なドイツ語文法とそれを応用した表現力を学ぶ

【到達目標】 ドイツ語がどんな言語であるかイメージをつかむ

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. アルファベット
3. 発音
4. 初歩の文法
5. 数字を学ぶ
6. ドイツ語の文法
7. ドイツ語の文法 1
8. ドイツ語の文法 2
9. ドイツ語の文法 3
10. ドイツ語の文法 4
11. ドイツ語のやや高度な文法 5
12. ドイツ語のやや高度な文法 6
13. ドイツ語のやや高度な文法 7
14. ドイツ語のやや高度な文法 8
15. 学期末考査
16. 総復習

【教科書】 未定

【成績評価の方法】 小テスト 6割 期末試験 4割

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 端末数の関係で定員制限があるので、指定学科以外の学生や、1年生以外の学生は受講できない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220933>

【連絡先(オフィスマナー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工 ((知)1年))

ギュンター デルク・非常勤講師

1単位 前期 水 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】ドイツ語の基礎文法を習得し、会話ができるようになる。ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。

【授業の概要】表現力(会話、筆記、聞き取り)の能力を高める。前期には基本的な文法を勉強する。後期には今まで学習した内容を応用して、自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や、発表など、授業への積極的な参加が望まれる。

【キーワード】現代ドイツ語、コミュニケーションの力、ドイツ文化

【到達目標】基本的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 人と知り合う1(名前, 出身, 住所, 自己紹介)
3. 人と知り合う2(紹介する, 数, 電話番号)
4. ABCの発音, スペル
5. 動詞の現在人称変化
6. 動詞の現在人称変化
7. 大学生活(専攻, 学習言語, 曜日)
8. 中間テスト
9. ドイツの国・現代社会について1
10. 中間テストの復習
11. 趣味(好きなこと, 嫌いなこと)1
12. 趣味(好きなこと, 嫌いなこと)2
13. 時刻と日付1(時刻, 時間, 日付, 月, 誕生日)
14. 時刻と日付2(週末・休みの)予定について話す
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【教科書】未定

【成績評価の方法】(ア)単語ミニテスト, (イ)中間テスト, (ウ)期末テスト, (エ)授業への積極的な参加, (オ)出席。単位取得のためには(ア)~(オ)の全ての分野で最低60点を取る必要があります。(ア~オ)の中で60点より少ない点数が

あった場合には不合格です。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】ドイツ語は難しい言語ですが山登りと一緒に、途中はたいへんでも、頂上について話せるようになるととても楽しいものです。楽しい授業にしようと思いますので、一緒にがんばりましょう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220934>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ギュンター。

【備考】(kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工 (光)1 年)

今井 晋哉・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 本科目は、初めて第二外国語を学ぶ学生が、ドイツ語の基礎を日常的会話表現に重点を置きながら学習し、また学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する初歩的能力を習得することを目的としている。また、併せて現代ドイツ事情についても、少々紹介してみたい。この授業を通じて、英語圏以外の外国文化に触れることにより、受講生の皆さんの視野が少しでも広がれば、と考えている。

【授業の概要】 この授業では、日常生活上の具体的な場面に即したドイツ語の会話表現やテキストを理解するとともに、学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する演習を重点的に行いたい。具体的には、パートナーとの練習をも交えた基本文型の学習、関連基本語彙や初級文法の基礎の学習、テキストの読解、教科書付属の CD を用いた聞き取り練習、口頭あるいは筆記によるドイツ語の表現練習などを授業時に、あるいは家庭学習としてやってもらい、毎回できるだけ多くの受講者にその成果を発表してもらおうと考えている。また、各種のビデオなどを用いながら、現代ドイツ事情についても、少々紹介したい。

【キーワード】 対話文、初級文法、テキストの読解、現代ドイツ事情

【到達目標】

1. 日常的な場面に即してドイツ語の基礎を理解し、また初歩的なドイツ語の表現能力を習得すること。
2. 現代ドイツの社会や文化に関心を持ち、その一端を理解すること。

【授業の計画】

1. 以下は、各回でとりあげる場面や関連文法項目などを示している。なお、以下の計画は暫定的なものであって、実際の授業の進行によっては、変更もあり得る。詳しいことは授業時に説明する。
2. 第 1 回: ガイダンス～教科書、授業の進め方、家庭学習などについての説明
3. 第 2 回: アルファベット、辞書の紹介
4. 第 3-4 回: 発音とつづり字の読み方
5. 第 5-6 回: ドイツ語のあいさつ、数字など
6. 第 7-9 回: ベルリンに到着!(動詞の現在人称変化、sein と haben の変化、動詞の位置)

7. 第 10 回: コラム～活気あふれる首都ベルリン
8. 第 11-13 回: パン屋さんで(名詞の性、名詞の格変化)
9. 第 14 回: コラム～こだわりのドイツパン
10. 第 15 回: 期末試験
11. 第 16 回: 総括授業

【教科書】 清野智昭『ドイツ語の時間』(文法補足集付き)[CD/DVD 付き](朝日出版社, 2007 年)。

【参考書等】 プリント教材・資料を配付する場合もある。

【成績評価の方法】 平常点 (=授業中の発表や教員とのやりとりに対する評価)、中間的小テスト、期末試験による。平常点の比重が全体の 2 割程度を占めることになるであろう。

【再試験の有無】 行う場合もある。

【受講へのメッセージ】 せっかく新しく学習する外国語の科目なのだから、ドイツ語とドイツの社会や文化に対する好奇心をもって積極的な姿勢で受講してほしい。単に出席しているだけでは、あまり意味はない。毎回指示される家庭学習も怠らないように。なお、初回の授業時に指定の教科書を必ず持参すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220936>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(薬 (薬2年))

桂 修治・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 月 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】 この科目は、1年時に学習したドイツ語の入門を引き継ぎながら、さらに聞き、読み、話し、書く力を伸ばしていくことを目的としています。また、ドイツ語をとおして現代ドイツの事情に触れ、ドイツの社会や文化に対する関心を展開させて行きます。

【授業の概要】 この授業では、既習事項の復習や補足学習をしながら、日常生活上の具体的な場面に即したドイツ語の会話表現や文章表現を学びます。また、各種のビデオなどを用いながら、現代ドイツ事情を紹介します。

【キーワード】 継続的学習、現代ドイツ事情

【到達目標】

1. 日常的な場面に即してドイツ語の基礎を理解し、自立的にドイツ語と付き合えるようになること。
2. 現代ドイツの社会や文化に対して関心を展開すること。

【授業の計画】

1. ドイツ語学習の新しいスタート - 発音
2. ドイツってどんなところ?(動詞の現在人称変化, 定動詞の位置)
3. ドイツってどんなところ?(動詞の現在人称変化, 定動詞の位置)
4. サッカーについて(名詞の性と格変化, 不規則動詞のことなど)
5. サッカーについて(名詞の性と格変化, ja/nein/ doch)
6. ドイツとEU(不規則動詞の現在人称変化, 名詞の複数形など)
7. ドイツとEU(不規則動詞の現在人称変化, 名詞の複数形など)
8. 中間試験
9. ドイツでの食事(前置詞と名詞の格, 副文)
10. ドイツでの食事(前置詞と名詞の格, 副文)
11. 病気になったとき(人称代名詞の3格と4格の使い方), 再帰代名詞と再帰動詞など)
12. 病気になったとき(人称代名詞の3格と4格の使い方), 再帰代名詞と再帰動詞など)
13. オーストリアの作家, インゲボルク・バッハマン(定冠詞類, 不定冠詞類, 否定の表現)

14. オーストリアの作家, インゲボルク・バッハマン(定冠詞類, 不定冠詞類, 否定の表現)

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 清野智明他:「ドイツ語の時間 - 読解編」朝日出版社 2300円 その他に辞書を用意すること。

【参考書等】 プリント教材・資料を配付しますので、ファイルを用意のこと。

【成績評価の方法】 小テスト, レポート, 期末試験などを総合して行う。

【再試験の有無】 原則として行わない。

【受講者のメッセージ】 ドイツ語のような日本語と離れた言語の学習は、決して簡単ではありません。授業への積極的な参加と、授業外の自己学習が必要です。それによって、自分の力でドイツ語で、情報を引き出すことができるようになり、新たな展開が見えてくることでしょう。1年次に使用した教科書も捨てずにとっておくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220937>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜 3-4 時間, 金曜 5-6)

フランス語 (French)

フランス語入門 (Introductory French)

(総科・医 ((総科 A・栄)1 年))

田島 俊郎・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『フランス語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語入門 (総科・医 ((総科 A・栄)1 年)) 田島 / 前期 水 1・2 ⇒ 269 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。1 年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっているはずです。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたります。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【到達目標】

1. 自己紹介・買物・注文などに必要な基礎的会話ができる。
2. 現在や過去に関する平易な文章が読解できる。

【授業の計画】

1. 第 1 週 - 第 2 週 あいさつ、国籍、名前を言う、etre 動詞、名詞、形容詞の性
2. 第 3 週 - 第 5 週 年齢をいう、持ち物を尋ねる、好きな色をいう、avoir、冠詞、否定文の作り方、疑問文 aimer 規則動詞
3. 第 6 週 - 第 9 週 時刻の表現、天候の表現、aller, venir、近接未来、faire、不規則動詞
4. 第 10 週 - 第 12 週 注文する、外出する、partir, finir 疑問形容詞、非人称表現
5. 第 13 週 - 第 14 週 prendre, savoir、命令法、序数詞
6. 第 15 週 - 第 16 週 期末試験、総括授業

【教科書】 小笠原著、『Pierre et Hugo』、白水社、2500 円

【参考書等】 辞書は、『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『現代フランス語辞典 (ル・ディコ)』(白水社)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社) など。電子辞書版もあります。

【成績評価の方法】 教室での質問や発言などの授業への貢献度と学期末試験の得点によって総合的に評価します。

【再試験の有無】 再試験対象者がいれば、9 月上旬に再試験を実施予定

【受講者へのメッセージ】 月曜日 5-6 講時と水曜日 1-2 講時を田島が担当します。両日を受講してください。どちらか一方だけでは単位として認定しません。語学学習は、受講生の意識と努力が成果に直結しますから、積極的な態度で授業に臨んでください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220938>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜 12 時 ~ 13 時)

【備考】 月曜 5-6 講時と水曜日 1-2 講時の両方を受講してください。

フランス語 (French)

フランス語入門 (Introductory French)

(総科・医 ((総科 A・栄)1 年))

田島 俊郎・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『フランス語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語入門 (総科・医 ((総科 A・栄)1 年)) 田島 / 前期 月 5・6 ⇒ 268 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。1 年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっているはずです。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたります。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【到達目標】

1. 自己紹介・買物・注文などに必要な基礎的会話ができる。
2. 現在や過去に関する平易な文章が読解できる。

【授業の計画】

1. 第 1 週 - 第 2 週 あいさつ、国籍、名前を言う、etre 動詞、名詞、形容詞の性
2. 第 3 週 - 第 5 週 年齢をいう、持ち物を尋ねる、好きな色をいう、avoir、冠詞、否定文の作り方、疑問文 aimer 規則動詞
3. 第 6 週 - 第 9 週 時刻の表現、天候の表現、aller、venir、近接未来、faire、不規則動詞
4. 第 10 週 - 第 12 週 注文する、外出する、partir、finir 疑問形容詞、非人称表現
5. 第 13 週 - 第 14 週 prendre、savoir、命令法、序数詞
6. 第 15 週 - 第 16 週 期末試験 総括授業

【教科書】 小笠原著、『Pierre et Hugo』、白水社、2500 円

【参考書等】 辞書は、『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『現代フランス語辞典 (ル・ディコ)』(白水社)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社) など。電子辞書版もあります。

【成績評価の方法】 教室での質問や発言などの授業への貢献度と学期末試験の得点を総合的に評価します。

【再試験の有無】 再試験対象者がいれば、9 月上旬に再試験を実施予定

【講師へのメッセージ】 月曜 5-6 講時と水曜日 1-2 講時の両日を受講してください。どちらか一方だけでは単位として認定しません。語学学習は、受講生の意識と努力が成果に直結しますから、積極的な態度で授業に臨んでください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220939>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜12時~13時)

【備考】 月曜 5-6 講時と水曜日 1-2 講時の両方を受講してください。

フランス語 (French)

フランス語入門 (Introductory French)

(総科 ((総科 B)1 年))

長井 伸仁・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『フランス語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語入門 (総科 ((総科 B)1 年)) 長井 / 前期 木 1・2 ⇒
271 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。半年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっているはずです。新しいことばとの出会いは、視野を広げ、思考を豊かにしてくれるものです。授業で得た知識をもとにして、世界のさまざまな事柄について考え、また、さまざまな人びとや文化に出会ってほしいと思います。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたります。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【キーワード】 言語、フランス語

【関連科目】 『フランス語/ フランス語入門』(1.0)

【到達目標】

1. 自己紹介・買物・注文などに必要な基礎的会話ができる。
2. 平易な文章が読解できる。

【授業の計画】

1. 1-3 週: フランス語の紹介。共和国と政教分離。
2. 4-6 週: ヨーロッパの言語政策。否定文と疑問文。
3. 7-9 週: フランスの教育。関係代名詞と代名動詞。
4. 10-12 週: フランスの教育 (つづき)。比較級・最上級、部分冠詞。
5. 13-14 週: フランス人とヴァカンス。過去の表現。
6. 15-16 週: 期末試験・総括授業

【教科書】 大木 充ほか『グラメール・アクティヴー文法で複言語・複文化―』朝日出版社、2010 年、2,500 円+税、ISBN: 978-4-255-35210-7。

【参考書等】 仏和辞典を必ず購入し、授業に持参してください (どの出版社のものでも構いません)。

【成績評価の方法】 平常点 (授業への取り組み、小テストの得点) と学期末試験の得点をもとに、総合的に評価します。

【再試験の有無】 あり

【講師へのメッセージ】 この授業は木曜 1・2 講時の授業とセットであり (ペアクラスと呼ばれる制度です)、どちらかの授業だけ受講することはできません。単位は各学期 2 単位ずつ認定されます。語学学習は、受講生の意識と努力が成果に直結しますから、積極的な態度で授業に臨んでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220940>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜の昼休み)

【備考】 木曜 1・2 講時のフランス語入門とのペアクラスです。

フランス語 (French)

フランス語入門 (Introductory French)

(総科 ((総科 B)1 年))

長井 伸仁・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『フランス語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語入門 (総科 ((総科 B)1 年)) 長井 / 前期 火 3・4 ⇒
270 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。半年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっているはずです。新しいことばとの出会いは、視野を広げ、思考を豊かにしてくれるものです。授業で得た知識をもとにして、世界のさまざまな事柄について考え、また、さまざまな人びとや文化に出会ってほしいと思います。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたります。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【キーワード】 フランス語、言語

【関連科目】 『フランス語/ フランス語入門』(1.0)

【到達目標】

1. 自己紹介・買物・注文などに必要な基礎的会話ができる。
2. 平易な文章が読解できる。

【授業の計画】

1. 1-3 週: フランス語の紹介。共和国と政教分離。
2. 4-6 週: ヨーロッパの言語政策。否定文と疑問文。
3. 7-9 週: フランスの教育。関係代名詞と代名動詞。
4. 10-12 週: フランスの教育 (つづき)。比較級・最上級、部分冠詞。
5. 13-14 週: フランス人とヴァカンス。過去の表現。
6. 15-16 週: 期末試験・総括授業

【教科書】 大木 充ほか『グラメール・アクティヴー文法で複言語・複文化―』朝日出版社、2010 年、2,500 円+税、ISBN: 978-4-255-35210-7。

【参考書等】 仏和辞典を必ず購入し、授業に持参してください (どの出版社のものでも構いません)。

【成績評価の方法】 平常点 (授業への取り組み、小テストの得点) と学期末試験の得点をもとに、総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【講師へのメッセージ】 この授業は火曜 3・4 講時の授業とセットであり (ペアクラスと呼ばれる制度です)、どちらかの授業だけ受講することはできません。単位は各学期 2 単位ずつ認定されます。語学学習は、受講生の意識と努力が成果に直結しますから、積極的な態度で授業に臨んでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220941>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜の昼休み)

【備考】 火曜 3・4 講時のフランス語入門とのペアクラスです。

フランス語 (French)

フランス語入門 (Introductory French)

(医・歯・薬・工 ((医・保・歯・口・薬・工)1年))

長井伸仁・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『フランス語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語入門 (医・歯・薬・工 ((医・保・歯・口・薬・工)1年))
長井 / 前期 火 9・10 ⇒ 273 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。半年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっているはずです。新しいことばとの出会いは、視野を広げ、思考を豊かにしてくれるものです。授業で得た知識をもとにして、世界のさまざまな事柄について考え、また、さまざまな人びとや文化に出会ってほしいと思います。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたります。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【キーワード】 フランス語

【関連科目】 『フランス語/ フランス語入門』(1.0)

【到達目標】

1. 自己紹介・買物・注文などに必要な基礎的会話ができる。
2. 平易な文章が読解できる。

【授業の計画】

1. 1-3 週: フランス語の紹介。自己紹介をする。冠詞、基本的な動詞、疑問文。
2. 4-6 週: 質問をする。形容詞、近い未来と近い過去。
3. 7-9 週: 店に入る。否定文、疑問文。
4. 10-12 週: 質問をする (その 2)。複合過去、人称代名詞。
5. 13-14 週: さまざまな状況での会話。代名詞、代名動詞、比較級・最上級。
6. 15-16 週: 期末試験、総括授業。

【教科書】 フランソワ・ルーセル、丸川誠司『トーム・アン (改訂版)』第三書房、2010 年、2,200 円+税、ISBN: 978-4-2069-1。

【参考書等】 仏和辞典を必ず購入し、授業に持参してください (どの出版社のものでも構いません)。

【成績評価の方法】 平常点 (授業への取り組み、小テストの得点) と学期末試験の得点をもとに、総合的に評価します。

【再試験の有無】 再試験該当者がいれば、9 月上旬に再試験を実施予定

【受講者のメッセージ】 月曜 9-10 講時と火曜 9-10 講時を長井が担当します。両日を受講してください。どちらか一方だけでは単位として認定しません。語学学習は、受講生の意識と努力が成果に直結しますから、積極的な態度で授業に臨んでください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220942>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜の昼休み)

【備考】 火曜 9・10 講時のフランス語入門とのペアクラスです。

フランス語 (French)

フランス語入門 (Introductory French)

(医・歯・薬・工 ((医・保・歯・口・薬・工)1年))

長井伸仁・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『フランス語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『フランス語(1)』)

(ペア指定: フランス語入門 (医・歯・薬・工 ((医・保・歯・口・薬・工)1年))
長井 / 前期 月 9・10 ⇒ 272頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。半年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっているはずです。新しいことばとの出会いは、視野を広げ、思考を豊かにしてくれるものです。授業で得た知識をもとにして、世界のさまざまな事柄について考え、また、さまざまな人びとや文化に出会ってほしいと思います。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたります。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【キーワード】 フランス語

【関連科目】 『フランス語/ フランス語入門』(1.0)

【到達目標】

1. 自己紹介・買物・注文などに必要な基礎的会話ができる。
2. 平易な文章が読解できる。

【授業の計画】

1. 1-3週: フランス語の紹介。自己紹介をする。冠詞、基本的な動詞、疑問文。
2. 4-6週: 質問をする。形容詞、近い未来と近い過去。
3. 7-9週: 店に入る。否定文、疑問文。
4. 10-12週: 質問をする(その2)。複合過去、人称代名詞。
5. 13-14週: さまざまな状況での会話。代名詞、代名動詞、比較級・最上級。
6. 15-16週: 期末試験、総括授業。

【教科書】 フランソワ・ルーセル、丸川誠司『トーム・アン(改訂版)』第三書房、2010年、2,200円+税、ISBN: 978-4-2069-1。

【参考書等】 仏和辞典を必ず購入し、授業に持参してください(どの出版社のものでも構いません)。

【成績評価の方法】 平常点(授業への取り組み、小テストの得点)と学期末試験の得点をもとに、総合的に評価します。

【再試験の有無】 再試験該当者がいれば、9月上旬に再試験を実施予定

【受講者のメッセージ】 月曜9-10講時と火曜9-10講時を長井が担当します。両日を受講してください。どちらか一方だけでは単位として認定しません。語学学習は、受講生の意識と努力が成果に直結しますから、積極的な態度で授業に臨んでください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220943>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜の昼休み)

【備考】 月曜9・10講時のフランス語入門とのペアクラスです。

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(総科 ((総科 A)1 年))

田中智行・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (総科 ((総科 A)1 年)) 李 / 前期 水 1・2 ⇒ 275 頁)

【授業の目的】 「普通話」と呼ばれる現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。中国語には多くの方言がありますが、「普通話」は中国国内のみならず世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際的舞台上で大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語 (1) の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音の基礎 1
3. 発音の基礎 2
4. 1 課
5. 2 課
6. 3 課
7. 4 課
8. 中間試験
9. 5 課
10. 5 課 (続)・6 課
11. 6 課 (続)
12. 7 課
13. 7 課 (続)
14. 復習・予備

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 楊凱榮, 張麗群 『身につく中国語』 (白帝社, 2009), 2520 円。辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】 教員二名がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(田中) の評価方法: 平常点約 15%, 中間試験約 35%, 及び期末試験約 50% を合計して評価します。

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220944>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(総科 ((総科 A)1 年))

李国勝・客員教授

1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (総科 ((総科 A)1 年)) 田中 / 前期 月 5・6 ⇒ 274 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語 (1) の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音 A・B
3. 発音 C・D
4. 第 1 課
5. 第 2 課
6. 第 3 課
7. 第 4 課
8. 第 5 課
9. 中間テスト
10. 第 6 課
11. 第 7 課
12. 第 8 課
13. 第 9 課
14. 第 10 課
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版①』(朝日出版社)1500 円。
CD があるので必ず購入すること。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(李) の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。三つの部分の点数配分については、出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が 10%, 中間考査が 40%, 期末試験が 50%ということになっています。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220945>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 李 .

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(総科 ((総科B)1年))

李国勝・客員教授

1単位 前期 月 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (総科 ((総科B)1年)) 田中 / 前期 水 1・2 ⇒ 277頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約5分の1の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語(1)の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音 A・B
3. 発音 C・D
4. 第1課
5. 第2課
6. 第3課
7. 第4課
8. 第5課
9. 中間テスト
10. 第6課
11. 第7課
12. 第8課
13. 第9課
14. 第10課
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版①』(朝日出版社)1500円。CDがあるので必ず購入すること。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(李)の評価方法:平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。三つの部分の点数配分については, 出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が10%, 中間考査が40%, 期末試験が50%ということになっています。

【再試験の有無】有

【受講へのメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと(特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220946>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 李 .

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(総科 ((総科 B)1 年))

田中智行・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (総科 ((総科 B)1 年)) 李 / 前期 月 5・6 ⇒ 276 頁)

【授業の目的】「普通話」と呼ばれる現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。中国語には多くの方言がありますが、「普通話」は中国国内のみならず世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際的舞台上で大変役立つ言語です。

【授業の概要】中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語 (1) の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音の基礎 1
3. 発音の基礎 2
4. 1 課
5. 2 課
6. 3 課
7. 4 課
8. 中間試験
9. 5 課
10. 5 課 (続)・6 課
11. 6 課 (続)
12. 7 課
13. 7 課 (続)
14. 復習・予備

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】楊凱榮, 張麗群『身につく中国語』(白帝社, 2009), 2520 円。辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】教員二名がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(田中) の評価方法: 平常点約 15%, 中間試験約 35%, 及び期末試験約 50% を合計して評価します。

【再試験の有無】有

【講師へのメッセージ】間違えることを恐れずに積極的に声を出してください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220947>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#)

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(総科 ((総科 C)1 年))

邵 迎建・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (総科 ((総科 C)1 年)) 李 / 前期 木 1・2 ⇒ 279 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語 (1) の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

- 1.1 ガイダンス
2. 第 1 課 発音 (1)
3. 第 2 課 発音 (2)
4. 第 3 課 発音 (3)
5. 発音まとめ
6. 第 4 課
7. 第 4 課練習
8. 中間考査
9. 9~10 第 5 課
10. 11-12 第 6 課
11. 13 復習
12. 14 口頭試験
13. 15 期末試験
14. なお、より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 張偉雄, 黃麗華, 邵迎建 『活用中国語』(白帝社, 2010 年)2,600 円. 辞書については授業で指示する (必ず購入すること).

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(邵) の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220948>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 木 1-2 李先生とペア

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(総科 ((総科 C)1 年))

李国勝・客員教授

1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (総科 ((総科 C)1 年)) 邵 / 前期 火 3・4 ⇒ 278 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語 (1) の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音 A・B
3. 発音 C・D
4. 第 1 課
5. 第 2 課
6. 第 3 課
7. 第 4 課
8. 第 5 課
9. 中間テスト
10. 第 6 課
11. 第 7 課
12. 第 8 課
13. 第 9 課
14. 第 10 課
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版①』(朝日出版社)1500 円。CD があるので必ず購入すること。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(李) の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。三つの部分の点数配分については, 出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が 10%, 中間考査が 40%, 期末試験が 50%ということになっています。

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220949>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 李 .

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(総科 ((総科 D)1 年))

李国勝・客員教授

1 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (総科 ((総科 D)1 年)) 邵 / 前期 木 1・2 ⇒ 281 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語 (1) の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音 A・B
3. 発音 C・D
4. 第 1 課
5. 第 2 課
6. 第 3 課
7. 第 4 課
8. 第 5 課
9. 中間テスト
10. 第 6 課
11. 第 7 課
12. 第 8 課
13. 第 9 課
14. 第 10 課
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版①』(朝日出版社)1500 円。
CD があるので必ず購入すること。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(李) の評価方法: 平常点、中間考査及び期末試験により総合的に評価します。三つの部分の点数配分については、出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が 10%、中間考査が 40%、期末試験が 50%ということになっています。

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220950>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 李 .

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(総科 ((総科 D)1 年))

邵 迎建・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (総科 ((総科 D)1 年)) 李 / 前期 火 3・4 ⇒ 280 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語で使われている文字は漢字ですがその漢字の読み方を示すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記され、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ「四声」で表記されます。「ピンイン」と「声調」を習得することが中国語 (1) の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し発音し、体で覚えましょう。次に基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 第 1 課 発音 (1)
3. 第 2 課 発音 (2)
4. 第 3 課 発音 (3)
5. 発音まとめ
6. 第 4 課
7. 第 4 課練習
8. 中間考査
9. 9~10 第 5 課
10. 11-12 第 6 課
11. 13 復習
12. 14 口頭試験
13. 15 期末試験
14. なお、より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 張偉雄, 黃麗華, 邵迎建 『活用中国語』(白帝社, 2010 年)2,600 円。辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(邵) の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220951>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 火 3・4 李先生とペア

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年))

田中智行・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年))施 / 前期 火 9・10
⇒ 283 頁)

【授業の目的】「普通話」と呼ばれる現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。中国語には多くの方言がありますが、「普通話」は中国国内のみならず世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際的舞台で大変役立つ言語です。

【授業の概要】中国語で使われる文字は漢字ですが、その漢字の読みを表すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記されます。また、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ、「四声」という 4 種類の音の高さで表わされます。この「ピンイン」と「声調」とを習得することが、中国語 (1) の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し練習し、体で覚えましょう。発音や基本文型を学び、語彙を増やしていくことで、簡単な日常会話ができるようになります。この授業は、上記の目標を達成するために、週二回の授業を二人の教員が分担して進めます。

【到達目標】正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音の基礎 1
3. 発音の基礎 2
4. 1 課
5. 1 課 (続)・2 課
6. 2 課 (続)
7. 3 課
8. 3 課 (続)
9. 中間試験
10. 4 課
11. 4 課 (続)・5 課
12. 5 課 (続)

13. 6 課

14. 6 課 (続)・復習

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 山田真一『医療系学生のための初級中国語』(白帝社, 2009), 2625 円。
- ◇ 辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】教員二名がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(田中)の評価方法: 平常点約 15%, 中間試験約 35%, 及び期末試験約 50%を合計して評価します。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修は不可なので、再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220952>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年))

施国恩・非常勤講師

1単位 前期 火 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

(ペア指定: 中国語入門 (医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年)) 田中 / 前期 月 9・10 ⇒ 282頁)

【授業の目的】 今中国は国民総生産で日本を抜き世界第二の経済大国に躍り出ました。日中両国は歴史の流れの中で、政治、文化、経済、いろんな分野で友好交流が行われてきました。これからはもっと切っても切れない密接な関係になるでしょう。大学生になったみなさんはおそらく今まで中国についていろいろ勉強してきたと思いますが、これからの一年間の中国語学習を通して、異なる中国の文化だけではなく、通じる中国語を身につけ、中国の旅行を楽しんだり、現在の中国事情を知ったり、中国留学生とか中国の方と直接に話したりすることができれば、と思います。

【授業の概要】 中国語で使われる文字は漢字ですが、その漢字の読みを表すものは「ピンイン」と呼ばれ、ローマ字で表記されます。また、その特異なイントネーションは「声調」と呼ばれ、「四声」という4種類の音の高さで表わされます。この「ピンイン」と「声調」とを習得することが、中国語(1)の第一の目標です。ピンインと声調は繰り返し練習し、体で覚えましょう。発音や基本文型を学び、語彙を増やしていくことで、簡単な日常会話ができるようになります。この授業は、上記の目標を達成するために、週二回の授業を二人の教員が分担して進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音編①
3. 発音編②
4. 発音編③
5. 発音編④
6. 発音まとめ
7. 第1課 你好!(こんにちは!)
8. 中間テスト
9. 第2課 学校

10. 第3課 新宿

11. 第4課 カメラを買う

12. 第5課 談家庭(家族を語る)

13. 第6課 富士山

14. 第7課 咖啡館(喫茶店)

15. 期末試験

16. 総括授業

17. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 相原 茂 陳 淑梅 飯田 敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』(朝日出版社)2011年, 2,625円(必ず購入すること)※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価し、それらを合算して最終的に評価します。(施)の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 欠席・遅刻はしないこと(特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修は不可なので、再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220953>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 施。

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(医・歯・工((栄・口・化・光)A1年))

李国勝・客員教授

1単位 前期 月 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

【授業の目的】中国語学習の基盤となる正しい発音、基礎文法を学んだ上で、さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情などについて紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材やCD等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】中国語、ピンイン、中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法(ピンイン)に慣れ、正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って、中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音 A・B
3. 発音 C・D
4. 第1課
5. 第2課
6. 第3課
7. 第4課
8. 第5課
9. 中間テスト
10. 第6課
11. 第7課
12. 第8課
13. 第9課
14. 第10課
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版①』(朝日出版社)1500円、CDがあるので必ず購入すること。

【成績評価の方法】小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。具体的な点数配分については、出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が10%、中間考査が40%、期末試験が50%ということになっています。

【再試験の有無】有

【受講へのメッセージ】授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220954>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 李 .

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(医・歯・工((栄・口・化・光)B1年))

施国恩・非常勤講師

1単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

【授業の目的】 今中国は国民総生産で日本を抜き世界第二の経済大国に躍り出ました。日中両国は歴史の流れの中で、政治、文化、経済、いろいろな分野で友好交流が行われてきました。これからはもっと切っても切れない密接な関係になるでしょう。大学生になったみなさんはおそらく今まで中国についていろいろ勉強してきたと思いますが、これからの一年間の中国語学習を通して、異なる中国の文化だけではなく、通じる中国語を身につけ、中国の旅行を楽しんだり、現在の中国事情を知ったり、中国留学生とか中国の方と直接に話したりすることができれば、と思います。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】 中国語、ピンイン、中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法 (ピンイン) に慣れ、正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って、中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音編①
3. 発音編②
4. 発音編③
5. 発音編④
6. 発音まとめ
7. 第 1 課 你好!(こんにちは!)
8. 中間テスト
9. 第 2 課 学校
10. 第 3 課 新宿
11. 第 4 課 カメラを買う
12. 第 5 課 談家庭(家族を語る)
13. 第 6 課 富士山

14. 第 7 課 咖啡館 (喫茶店)

15. 期末試験

16. 総括授業

17. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 相原 茂 陳 淑梅 飯田 敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』(朝日出版社)2011 年, 2,625 円 (必ず購入すること) ※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聞き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220955>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 施 .

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(医 ((保)1 年))

荒武 達朗・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

【授業の目的】 中国語学習の基盤となる正しい発音, 基礎文法を学んだ上で, さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく. また, 中国人の考え方, 生活習慣, 中国の文化, 中国の社会事情などについて紹介し, 隣国である中国に対する理解を深める.

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく. また, 中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする.

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法 (ピンイン) に慣れ, 正しい発音を確実に身に付ける.
2. 初歩的な中国語を使って, 中国人とコミュニケーションができる.

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音編①
3. 発音編②
4. 発音編③
5. 発音編④
6. 発音テスト (発音に関する講義が終わり次第実施)
7. ★ 一回で一課進むとは限らない. 状況に応じて適宜進度を変える.
8. 第一課 こんにちは
9. 第二課 あなたは中国人ですか
10. 第三課 健康保険証を持っていますか
11. 第四課 家族にはどんな人がいますか
12. ★ 前期では大体この辺りまで進むだろう. 後期は第五課から始まる予定.
13. 期末テスト

【教科書】 山田真一 『医療系学生のための初級中国語』 (白帝社)2,500 円 (必ず購入すること) ※後期も継続して使用する.

【成績評価の方法】 まず, 授業での態度が評価の前提となる. 授業での態度が良好な学生とは睡眠, 私語を一切しないことは勿論, 教師に対して畏敬の念を抱き, 己が修行中の身であることを自覚する者をさす. 授業態度の良好な学生に対しては, 小テスト 33. 33%, 中間テスト+期末テスト 66. 67%で評価を実施

する.

【再試験の有無】 原則としては有り. ただし小テスト及び中間テストの成績が著しく悪い場合には再試験を認めない.

【講師へのメッセージ】 授業中は積極的に声を出して練習する. 予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用する. 繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができる.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220956>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】

- ◇ 学生諸君の向学心, 新たな領域に踏み込む積極性を期待する.
- ◇ 心して授業に臨むこと.

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(工 ((建)1 年))

山本 真理子・非常勤講師 / 全学共通教育センター

1 単位 前期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

【授業の目的】 中国は近年目覚ましい経済成長を遂げている国であり、今後さまざまな分野において、日中間の人材交流がより活発になることが予想される。コミュニケーション上、言語は不可欠なツールである。この授業では、中国語学習の基盤となる正しい発音と基本文法を学んだ上で、さまざまな場面における基本的な会話表現をゆっくり確実に身につけていく。また、中国人の考え方、生活習慣、そして中国の文化や社会事情などについても随時紹介し、隣国である中国に対する理解を深めることも目的とする。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】 中国語、ピンイン、中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法 (ピンイン) に慣れ、正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って、中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音 (1)
3. 発音 (2)
4. 第 1 課 (1)
5. 第 1 課 (2)
6. 第 2 課 (1)
7. 第 2 課 (2)
8. 中間試験
9. 第 3 課 (1)
10. 第 3 課 (2)
11. 第 4 課 (1)
12. 第 4 課 (2)
13. 第 5 課 (1)
14. 第 5 課 (2)

15. 期末試験

16. 総括授業

17. 第一回目の授業で詳細な授業計画を説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 劉 穎, 喜多山幸子, 松田かの子 『1 冊目の中国語 - 会話クラス』 (白水社) 2,300 円 (必ず購入すること) ※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 中間試験, 期末試験, 小テスト, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220957>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山本 .

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(工 ((機)1年))

施国恩・非常勤講師

1単位 前期 水 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

【授業の目的】 今中国は国民総生産で日本を抜き世界第二の経済大国に躍り出ました。日中両国は歴史の流れの中で、政治、文化、経済、いろいろな分野で友好交流が行われてきました。これからはもっと切っても切れない密接な関係になるでしょう。大学生になったみなさんはおそらく今まで中国についていろいろ勉強してきたと思いますが、これからの一年間の中国語学習を通して、異なる中国の文化だけではなく、通じる中国語を身につけ、中国の旅行を楽しんだり、現在の中国事情を知ったり、中国留学生とか中国の方と直接に話したりすることができれば、と思います。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材やCD等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】 中国語、ピンイン、中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法(ピンイン)に慣れ、正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って、中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音編①
3. 発音編②
4. 発音編③
5. 発音編④
6. 発音まとめ
7. 第1課 你好!(こんにちは!)
8. 中間テスト
9. 第2課 学校
10. 第3課 新宿
11. 第4課 カメラを買う
12. 第5課 談家庭(家族を語る)
13. 第6課 富士山

14. 第7課 咖啡館(喫茶店)

15. 期末試験

16. 総括授業

17. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 相原 茂 陳 淑梅 飯田 敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』(朝日出版社)2011年, 2,625円(必ず購入すること)※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聞き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220958>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 施 .

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(工 ((生)1年))

李国勝・客員教授

1単位 前期 水 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

【授業の目的】中国語学習の基盤となる正しい発音、基礎文法を学んだ上で、さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情などについて紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材やCD等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】中国語、ピンイン、中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法(ピンイン)に慣れ、正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って、中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音 A・B
3. 発音 C・D
4. 第1課
5. 第2課
6. 第3課
7. 第4課
8. 第5課
9. 中間テスト
10. 第6課
11. 第7課
12. 第8課
13. 第9課
14. 第10課
15. 期末試験
16. 総括授業
17. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので、必ず出席すること。

【教科書】董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版①』(朝日出版社)1500円、CDがあるので必ず購入すること。

【成績評価の方法】小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。具体的な点数配分については、出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が10%、中間考査が40%、期末試験が50%ということになっています。

【再試験の有無】有

【受講へのメッセージ】授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220962>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 李 .

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(工((電A)1年))

李国勝・客員教授

1単位 前期 火 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

【授業の目的】中国語学習の基盤となる正しい発音、基礎文法を学んだ上で、さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情などについて紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材やCD等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】中国語、ピンイン、中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法(ピンイン)に慣れ、正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って、中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音 A・B
3. 発音 C・D
4. 第1課
5. 第2課
6. 第3課
7. 第4課
8. 第5課
9. 中間テスト
10. 第6課
11. 第7課
12. 第8課
13. 第9課
14. 第10課
15. 期末試験
16. 総括授業
17. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので、必ず出席すること。

【教科書】董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版①』(朝日出版社)1500円、CDがあるので必ず購入すること。

【成績評価の方法】小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。具体的な点数配分については、出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が10%、中間考査が40%、期末試験が50%ということになっています。

【再試験の有無】有

【受講へのメッセージ】授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220959>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 李 .

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(工 ((電 B)1 年))

邵 迎建・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

【授業の目的】中国語学習の基盤となる正しい発音、基礎文法を学んだ上で、さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情などについて紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】中国語、ピンイン、中国事情

【到達目標】正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音編①
3. 発音編②
4. 発音編③
5. 発音まとめ
6. 第 4 課
7. 第 4 課練習
8. 中間考査
9. 9~10 第 5 課
10. 11-12 第 6 課
11. 13 復習
12. 14 口頭試験
13. 15 期末試験
14. 16 総括授業
15. 第一回の授業で詳細な授業計画を説明するので、必ず出席すること。

【教科書】張偉雄、黃麗華、邵迎建『活用中国語』(白帝社、2010 年)2,600 円。辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220960>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(工 ((知)1年))

山本 真理子・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

【授業の目的】 中国は近年目覚ましい経済成長を遂げている国であり、今後さまざまな分野において、日中間の人材交流がより活発になることが予想される。コミュニケーション上、言語は不可欠なツールである。この授業では、中国語学習の基盤となる正しい発音と基本文法を学んだ上で、さまざまな場面における基本的な会話表現をゆっくり確実に身につけていく。また、中国人の考え方、生活習慣、そして中国の文化や社会事情などについても随時紹介し、隣国である中国に対する理解を深めることも目的とする。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関係するビデオ教材や CD 等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】 中国語、ピンイン、中国事情

【到達目標】

1. 中国語のローマ字表記法 (ピンイン) に慣れ、正しい発音を確実に身に付ける。
2. 初歩的な中国語を使って、中国人とコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 発音 (1)
3. 発音 (2)
4. 第 1 課 (1)
5. 第 1 課 (2)
6. 第 2 課 (1)
7. 第 2 課 (2)
8. 中間試験
9. 第 3 課 (1)
10. 第 3 課 (2)
11. 第 4 課 (1)
12. 第 4 課 (2)
13. 第 5 課 (1)
14. 第 5 課 (2)

15. 期末試験

16. 総括授業

17. 第一回目の授業で詳細な授業計画を説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 劉 穎, 喜多山幸子, 松田かの子 『1冊目の中国語 - 会話クラス』 ((白水社)2,300円 (必ず購入すること) ※後期も継続して使用する。

【成績評価の方法】 中間試験, 期末試験, 小テスト, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220961>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山本 .

日本語 (Japanese Language)

日本語 1 (Japanese Language 1)

(留(留))

遠藤 かおり・非常勤講師/国際センター

1単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語(1)』)

【授業の目的】 大学生として生活していく上で、必要な日本語力を身につけ、大学での様々な場面に対応できることを目指す。例えば、講義や演習、また大学での事務手続き、掲示板からの情報の読み取り、友人との情報交換など、大学で必要とされる様々な場面を想定し、「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能すべてにおいて、レベルアップすることを目的とする。また、その過程で、自らの日本語力で不足している技能を見極め、それを伸ばす意欲を高める。

【授業の概要】 テキストを中心に各課のテーマに沿って進めていく。また、適宜、時事問題なども教材として取り入れる。内容は課ごとに異なるが、「読む」「聞く」「書く」「話す」のそれぞれの技能を伸ばすためのタスクを行う。このような活動を通して、日本の大学生活で必要とされる場面を疑似体験し、生活するために必要なスキルだけではなく、研究活動に必要なスキルも身につけられるようにする。

【キーワード】 総合的な日本語(「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能)、運用力

【関連科目】 『日本語/日本語3』(0.5), 『日本語/日本語5』(0.5), 『日本語/日本語7』(0.5), 『日本事情/日本事情I』(0.5), 『日本事情/日本事情III』(0.5)

【到達目標】

1. 大学生活に必要な日本語力を身につける。
2. 大学で想定される様々なコミュニケーション場面で、身につけた日本語力を用いて、適切に対応することができる。
3. 自分に必要な日本語力を知り、学習方法が獲得できる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、レディネス(これまでの学習)・ニーズ(これからの学習希望)調査
2. 第1課:履修申請、奨学金の申請をする。
3. 第1課:履修申請、奨学金の申請をする。
4. 第2課:講義内容を理解し、関連資料を読んで要約する。
5. 第2課:講義内容を理解し、関連資料を読んで要約する。
6. 第3課:講義内容を理解し、レポート作成の準備をする。
7. 第3課:講義内容を理解し、レポート作成の準備をする。
8. 第4課:掲示板・教務などからの情報を読み取る。

9. 第4課:掲示板・教務などからの情報を読み取る。

10. 第5課:講義内容を理解し、関連資料を選んで内容を理解する。

11. 第5課:講義内容を理解し、関連資料を選んで内容を理解する。

12. 第6課:講義内容を理解し、キーワードを用いて自分の意見をまとめる。

13. 第6課:講義内容を理解し、キーワードを用いて自分の意見をまとめる。

14. 第6課:講義内容を理解し、キーワードを用いて自分の意見をまとめる。

15. 期末試験

16. 復習、フィードバック

【教科書】 佐々木瑞枝他著 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(The Japan Times)2001年 2,500円

【成績評価の方法】 期末試験、授業中の小テスト、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 日本で充実した大学生活を送るために、必要な日本語力を身につけましょう。毎回の授業を大切に、積極的に取り組んでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220963>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 遠藤 (088-656-7491, 7kao-beeguru@kmd.biglobe.ne.jp) MAIL

【備考】 緊急時の連絡先:大石(地域・国際交流プラザ内 国際センター, 088-656-9875)

日本語 (Japanese Language) 日本語 3 (Japanese Language 3)

(留(留))

大石 寧子・教授/国際センター

1単位 前期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語(2)』)

【授業の目的】 大学生としての日本語力をさらに向上させ、「大人としての日本語・社会人としての日本語」の能力を身につける。また日本、日本人の考え方や常識、マナーなどを言葉を通して学び、将来的に日本企業に就職した場合の企業文化への理解の基礎を形成する。

【授業の概要】 1 自分の日本語を見直し、敬語をはじめ、不足部分の復習や習得をする。2 言葉だけでなく日本人の発想や考え方、常識等を常に意識して学び、社会人基礎力へとつなげていく。3 学習時は、場面や状況に日本での公的な場面や就職・職場を使って、授業を展開する。

【キーワード】 大人としての日本語、社会人としての日本語、社会人基礎力、日本人の考え方、敬語

【到達目標】

1. 自分の日本語の見直し、復習、さらなる習得を図る
2. 「大人としての日本語、社会人としての日本語」を身につける
3. 日本、日本人について深く知る
4. 社会人基礎力の基礎を身につける

【授業の計画】

1. 授業オリエンテーション (授業の説明とレベルチェック)
2. 自分の日本語の見直し
3. 復習と習得①
4. 復習と習得②
5. 復習と習得③
6. 復習と習得④
7. 日本人に聞く (日本人が考える留学生の日本語について)
8. 社会人のための日本語①
9. 社会人のための日本語②
10. 社会人のための日本語③
11. 日本企業で働く先輩の話聞く
12. 社会人のための日本語④
13. 社会人基礎力とは①
14. 社会人基礎力とは②

15. プレゼンテーション

16. 総括授業

【教科書】 無

【参考書等】 適宜、資料を配布します。

【成績評価の方法】 出席 60%、授業への取り組み方 20%、最終プレゼンテーション 20%の点をもとに総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 前の授業を元にして次の授業が展開するので、休まずに参加してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220964>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大石 寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30~ 12:00 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します)

日本語 (Japanese Language)

日本語 7 (Japanese Language 7)

(留(留))

三隅 友子・教授/国際センター

1単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語(2)』)

【授業の目的】大学生にとって必要な日本語の知識と能力を身につける。テレビドラマで扱われるいろいろなシーンの日本語の表現を通して、日本語や日本社会について考える。

【授業の概要】ドラマ「パパとムスメの7日間」に出てくる、高校・会社・家庭の中の日本語(日本語教科書では扱われない言葉や表現)を学ぶ。

【キーワード】高校生活, 家庭, 会社, 若者語, 敬語

【到達目標】

1. 現代日本語の語彙・表現を学ぶ
2. いろいろな場面での日本語の使われ方を学ぶ
3. 理解できる語彙を増やす
4. 自分の話し方のスタイルと比較する
5. 日本語学習のリソースにドラマが可能かを検証する

【授業の計画】

1. ガイダンス (授業の説明とレベルチェック)
2. 第一話①視聴と理解
3. 第一話②表現理解
4. 第二話①視聴と理解
5. 第二話②表現理解
6. 第三話①視聴と理解
7. 第三話②表現理解
8. 第四話①視聴と理解
9. 第四話②表現理解
10. 第五話①視聴と理解
11. 第五話②表現理解
12. 第六話①視聴と理解
13. 第六話②表現理解
14. 第七話①視聴と表現理解
15. アフレコ大会 (試験に換えて)
16. 総括授業まとめ < 状況により、授業の内容や計画が変更の場合があります。

>

【教科書】無

【参考書等】適宜スクリプト及び資料を配布します。

【成績評価の方法】出席点 80%・最終アフレコ作成 20%の点数を総合します。

【再試験の有無】無

【講師へのメッセージ】ドラマの中の言葉や表現を非言語表現とあわせて確認していきます。自分の語彙・表現集を作ります。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220965>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三隅 (国際センター, 088-656-7120, misumi@isc.tokushima-u.ac.jp) MAIL
(オフィスアワー: 水曜日9:30~ 12:00)

日本語 (Japanese Language)

日本語 5 (Japanese Language 5)

(留(留))

大石 寧子・教授/国際センター

1単位 前期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語(1)』)

【授業の目的】 留学生の日本語レベルが多様であることをふまえた上で、各人の日本語力の向上を目指す。具体的には、四技能のうち「読む」を導入として、「話す・聞く・書く」へ連携させ、より高度なコミュニケーション能力と日本人及び日本語をより深く理解するための日本語の知識を得ることを目的とする。

【授業の概要】 大学生活における円滑なコミュニケーション能力をつけるために、表現力(語彙力、文法力、文章構成能力)をつける。読解演習を入り口とし、「読む」「話す」「聞く」「書く」のそれぞれの技能を伸ばすタスク(町・大学・各自のキャッチコピー作り等)を行う。

【キーワード】 日本語読解能力、キーセンテンス・キーワード、コミュニケーション能力

【到達目標】

1. 各自の目標に従った能力を獲得する。
2. 自分の日本語力を把握し、必要な学習方法を獲得する。

【授業の計画】

1. 授業についてオリエンテーション、受講者のレディネス(これまでの学習)やニーズの調査など
2. いろいろな文体を知る(読みのスキル、文型・語彙の習得)-新聞記事①
3. 新聞記事①のトピックについて調査
4. いろいろな文体を知る(読みのスキル、文型・語彙の習得)-新聞記事②
5. 新聞記事②のトピックについて調査
6. いろいろな文体を知る(読みのスキル、文型・語彙の習得)-雑誌・週刊誌記事
7. 雑誌・週刊誌記事のトピックについて調査
8. いろいろな文体を知る(読みのスキル、文型・語彙の習得)一般書
9. 一般書のトピックについて調査
10. メディアからキャッチコピー収集・発表
11. キャッチコピー作成①
12. キャッチコピー作成②
13. キャッチコピー作成③
14. キャッチコピー作成④

15. キャッチコピー作成⑤

16. 総括授業

【教科書】 随時プリントを配付

【成績評価の方法】 レポート、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 日本で充実した留学生活を送るために、自分にとって必要な日本語力を身につけましょう。そのために日本語の授業に積極的に取り組んでください。授業内容の詳細は、初回で説明するので、休まずに出席してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220966>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大石 (088-656-9875, oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜日 9:30~ 12:00 但し事前の連絡があれば他の日時でも対応します。)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

金西 計英 教授 / 大学開放実践センター

2単位 前期 木 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 急速な情報化社会の到来を背景に、我々の日常生活において、インターネットや PC の利用を抜きして考えることはできません。現代社会において、情報操作や、情報倫理についての基礎的なスキルを身につけることは必須の教養だといえます。この授業では、情報化についての理解を深めることを目指します。とくに、初年時に学んだ情報科学を踏まえ、さらに発展的に知識を身につけることを目指します。PC を用いて統合的に情報を扱う方法を身につけることを目的とします。

【授業の概要】 1. PC の基礎知識とし周辺機器の名称や役割を説明し、これらの機器の基礎的な使い方を身につける。2. 動作環境としてのソフト (OS) の使い方の基礎を理解し操作に慣れる。3. 基礎的なアプリケーション・ソフトの使い方を身につけ、また PC を用い各自プレゼンテーションを行う。4. ネットワーク下での PC の統合的な情報の取り扱いを身につける。

【キーワード】 情報リテラシー、インターネット、アルゴリズム、コンピュータの仕組み、著作権

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・PC の基礎的な利用・応用ができる。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生生活
2. ガイダンス、コミュニケーションツール
3. WWW の仕組み
4. 文書作成への情報機器の活用 1
5. 文書作成への情報機器の活用 2
6. 情報の整理と加工 1
7. 情報の整理と加工 2
8. 情報社会の権利 (著作権)
9. プログラミングの仕組み
10. ネットワークの仕組み
11. インターネットの仕組み
12. 情報の加工と提示
13. プレゼンテーションの準備

14. プレゼンテーション実習

15. プレゼンテーション実習

16. 総括授業

【教科書】 授業のガイダンス時に、別途、指示します

【参考書等】 新しい 大学情報リテラシー (税別 1,700 円)、オーム社、2006 年

【成績評価の方法】 定期的に課する課題の提出状況とプレゼンテーション (発表) 実習から総合的に成績判断を行う。

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 平成 22 年度以前の情報科学を履修し、何らかの事情で再履修となった学生が対象です。再履修にあたって、科目の開講時間等が制限となり、他の時間の情報科学の履修が困難な学生が対象です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220967>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 金西 (大学開放実践センター 2 階, 088-656-7610, marukin@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(総科((人文A)1年))

掛井 秀一・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 現代社会では、コンピュータを用いる基礎能力が必須である。情報を収集・処理して整理し、プレゼンテーションなどを通じ自分の意見を相手に伝える能力があらゆる場面で要求される。本講義では、以下の内容を通じ、その基礎能力を教養教育課程のうちに確実に身に付けることを目的とする。

【授業の概要】 現在最も普及しているオペレーティング・システムであるマイクロソフト Windows と統合ソフト Office を用い、コンピュータの基礎的な扱い方を学ぶ。また、OS やソフトにとらわれない技能を身に付けるために、適宜コンピュータの仕組みなど本質的な内容についても解説する。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身に付ける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. 起動と終了(第1週)
3. OSの基本操作(第2週)
4. インターネットを利用した情報の収集1
5. インターネットを利用した情報の収集2
6. ワード・プロセッサ1
7. ワード・プロセッサ2
8. ワード・プロセッサ3
9. 表計算1
10. 表計算2
11. 表計算3
12. プレゼンテーション1
13. プレゼンテーション2
14. プレゼンテーション3
15. プレゼンテーション4
16. インターネット知識認定試験

【成績評価の方法】 各課題に対するレポート

【再試験の有無】 再レポートなどはありません

【受講へのメッセージ】 総合科学部は必修科目です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220968>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp)
p) MAIL (オフィスアワー: 水曜 5-6 時限)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(総科((人文B)1年))

村上 明子・非常勤講師

2単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 現代の情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、大学生として必要とされる基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生生活
2. ガイダンス, パソコンと Windows XP の基礎 1
3. パソコンと Windows XP の基礎 2
4. ワードプロソフト Word の実習 1
5. ワードプロソフト Word の実習 2
6. ワードプロソフト Word の実習 3
7. インターネットの基礎
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1
14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2
15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3
16. 総括授業

【教科書】 講義中に指示する。

【成績評価の方法】 課題レポート (60%)・授業への取り組み状況 (20%) 及び PowerPoint による発表 (20%) により総合的に評価を行う。(ただし、評価割合の目安は括弧内パーセントである。) テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 コンピュータ初心者が情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220969>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村上 (akiko@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(総科 ((社創 A)1 年))

掛井 秀一・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 現代社会では、コンピュータを用いる基礎能力が必須である。情報を収集・処理して整理し、プレゼンテーションなどを通じ自分の意見を相手に伝える能力があらゆる場面で要求される。本講義では、以下の内容を通じ、その基礎能力を教養教育課程のうちに確実に身に付けることを目的とする。

【授業の概要】 現在最も普及しているオペレーティング・システムであるマイクロソフト Windows と統合ソフト Office を用い、コンピュータの基礎的な扱い方を学ぶ。また、OS やソフトにとらわれない技能を身に付けるために、適宜コンピュータの仕組みなど本質的な内容についても解説する。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身に付ける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. 起動と終了
3. OS の基本操作
4. インターネットを利用した情報の収集 1
5. インターネットを利用した情報の収集 2
6. ワード・プロセッサ 1
7. ワード・プロセッサ 2
8. ワード・プロセッサ 3
9. 表計算 1
10. 表計算 2
11. 表計算 3
12. プレゼンテーション 1
13. プレゼンテーション 2
14. プレゼンテーション 3
15. プレゼンテーション 4
16. インターネット知識認定試験

【成績評価の方法】 各課題に対するレポート

【再試験の有無】 再レポートなどはありません

【受講へのメッセージ】 総合科学部は必修科目です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220970>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp)
p) MAIL (オフィスアワー: 水曜 5-6 時限)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(総科((社創B)1年))

河原崎 貴光・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『情報科学』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 パソコンを有効的に利用するための基礎的操作・技術を、実習を通して習得することを目的とする。

【授業の概要】 ワードプロ、インターネット、電子メール、プレゼンテーション、表計算などについて、実習を行う。ほぼ毎回課題を設定し、授業の最後に提出してもらう。

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. ワードプロソフト Word の実習 1
3. ワードプロソフト Word の実習 2
4. ワードプロソフト Word の実習 3
5. インターネットの基礎(ネチケット)
6. インターネットの基礎(Webブラウザ)の実習
7. インターネットの基礎(電子メール)の実習
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. 情報科学からのトピックス 1
14. 情報科学からのトピックス 2
15. 情報科学からのトピックス 3
16. 総括授業

【教科書】 授業の時に指示する

【成績評価の方法】 課題レポート、授業への取り組みなどを元に総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220971>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(総科 ((総理 A)1 年))

小野 公輔・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 パソコンを有効的に利用するための基礎的操作・技術を、実習を通して習得することを目的とする。

【授業の概要】 ワードプロ、インターネット、電子メール、プレゼンテーション、表計算などについて、実習を行う。ほぼ毎回課題を設定し、授業の最後に提出してもらう

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. ワードプロソフト Word の実習 1
3. ワードプロソフト Word の実習 2
4. ワードプロソフト Word の実習 3
5. インターネットの基礎 (ネチケット)
6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習
7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. 情報科学からのトピックス 1
14. 情報科学からのトピックス 2
15. 情報科学からのトピックス 3
16. 総括

【教科書】 授業の時に指定する。

【成績評価の方法】 課題レポート、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220972>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp)
MAIL (オフィスアワー: 月曜日 16:15~ 17:00)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(総科 ((総理 B)1 年))

蓮沼 徹・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 パソコンを有効的に利用するための基礎的操作・技術を、実習を通して習得することを目的とする。

⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【授業の概要】 ワードプロ、インターネット、電子メール、プレゼンテーション、表計算などについて、実習を行う。ほぼ毎回課題を設定し、授業の最後に提出してもらう。

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. ワードプロソフト Word の実習 1
3. ワードプロソフト Word の実習 2
4. ワードプロソフト Word の実習 3
5. インターネットの基礎 (ネチケット)
6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習
7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. 情報科学からのトピックス 1
14. 情報科学からのトピックス 2
15. 情報科学からのトピックス 3
16. 総括授業

【教科書】 授業の時に指定する。

【成績評価の方法】 課題レポート、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220973>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(医 ((医 A)1 年))

中山 慎一・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】現代の情報化社会において、ネットワーク、および、PC を使いこなす技術は必須である。大学の授業におけるレポート作成、研究においてもこれらの技術なくしては成り立たない。本授業では、ネットワークを用いた情報収集・発信、PC を用いた文書作成、計算、データ処理などを実習を通じて習得することを目的とする。

【授業の概要】ワープロ、インターネット、電子メール、表計算、プレゼンテーション等の各項目について、順次実習を行い、習得していく。それぞれの項目について適宜レポート課題を出し提出してもらう。

【キーワード】情報リテラシー

【到達目標】現代社会において必須の情報技術であるネットワーク、パーソナルコンピュータの基礎的な利用、応用ができる。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. ワープロの実習 (1)
3. ワープロの実習 (2)
4. ワープロの実習 (3)
5. ワープロの実習 (4)
6. インターネットと電子メールの実習 (1)
7. インターネットと電子メールの実習 (2)
8. インターネットと電子メールの実習 (3)
9. インターネット利用許可システムの知識認定試験
10. 表計算の実習 (1)
11. 表計算の実習 (2)
12. POWER POINT によるプレゼンテーションの実習 (1)
13. POWER POINT によるプレゼンテーションの実習 (2)
14. POWER POINT によるプレゼンテーションの実習 (3)
15. 表計算またはプレゼンテーションに関するレポート作成
16. 総括授業

【教科書】授業時に指示する

【成績評価の方法】課題レポート (60%)・授業への取り組み状況 (20%) 及び PowerPoint による発表 (20%) により総合的に評価を行う。(ただし、評価割合の目安は括弧内パーセントである。) テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】本講義はコンピュータの初心者を対象とする。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220974>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(医 ((医 B)1 年))

村上 明子・非常勤講師

2 単位 前期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 現代の情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、大学生として必要とされる基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. ガイダンス・パソコンと Windows XP の基礎 1
3. パソコンと Windows XP の基礎 2
4. ワードプロソフト Word の実習 1
5. ワードプロソフト Word の実習 2
6. ワードプロソフト Word の実習 3
7. インターネットの基礎
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1
14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2
15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3
16. 総括授業

【教科書】 講義中に指示する。

【成績評価の方法】 課題レポート (60%)・授業への取り組み状況 (20%) 及び PowerPoint による発表 (20%) により総合的に評価を行う。(ただし、評価割合の目安は括弧内パーセントである。) テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 コンピュータ初心者が情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220975>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村上 (akiko@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(医・工 ((医C・機C・生B)1年))

鈴木雄一郎・准教授/四国大学

2単位 前期 木 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 コンピュータ, 特にパーソナルコンピュータ (PC) においては, 既に理工系で扱う複雑な科学技術計算だけでなく, 日常の大学生活でも必要不可欠なツールとなっている。また今日の社会では, PC を利用した基礎的能力 (リテラシー) を前提に, 手続きや報告が行われるように進められている。本講義では PC の初心者を対象に PC の基本的な操作方法, 一般的なアプリケーション・ソフトの操作方法, インターネットを活用した情報処理といったものを習得する。つまり大学生活や社会生活の中で当然, 必要となる「情報リテラシー」を身につけることを目的とする。この講義では, 高校の教科「情報」で学んだ PC の操作を習得することに加え, PC を効果的に利用して自分の意見や考えをアウトプットできるようになることを目指します。

【授業の概要】 社会での普及率が高い Microsoft Windows を基に, やはりアプリケーションとして普及率の高い Microsoft Office を中心, に PC のオペレーションを身につける。また Office のアプリケーションと連携して, インターネットを利用した操作も同様に身につける。基本的なアプリケーションとネットワークに関する知識と操作を身につけ, 情報を活用するための基礎を準備する。

【キーワード】 情報リテラシー, インターネット, 情報検索, プレゼンテーション, オフィス・ツール

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. ガイダンス Windows XP と Office2010 の基礎 (1)
2. Windows XP と Office2010 の基礎 (2)
3. ワードプロソフト Microsoft Word2010 の利用法 (1)
4. ワードプロソフト Microsoft Word2010 の利用法 (2)
5. ワードプロソフト Microsoft Word2010 の利用法 (3)
6. インターネットの基礎 (1)(WWW ブラウザの利用法)
7. インターネットの基礎 (2)(電子メールの利用法)
8. インターネットの基礎 (3)(ネチケットについて)
9. 表計算ソフト Microsoft Excel2010 の利用法 (1)
10. 表計算ソフト Microsoft Excel2010 の利用法 (2)

11. 表計算ソフト Microsoft Excel2010 の利用法 (3)

12. プレゼンテーションソフト Microsoft PowerPoint2010 の利用法 (1)

13. プレゼンテーションソフト Microsoft PowerPoint2010 の利用法 (2)

14. プレゼンテーションソフト Microsoft PowerPoint2010 の利用法 (3)

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 『情報科学入門 ーソフト操作編ー』 学術図書出版 2000 円

【成績評価の方法】 授業中に出す課題 (40%), 学期末試験 (30%), および授業への取り組み状況 (30%) 等を元に総合的に評価する (ただし, 評価割合の目安は括弧内パーセントである)。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 初心者を対象としての講座になります。まったくの初心者であっても恐れる必要はありません。学業・研究・社会活動のために PC を自在に扱えるようになることを期待します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220976>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 鈴木 .

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(薬 (薬 A1 年))

大橋 守・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 コンピュータを学習・研究・プレゼンテーションなどで有効利用するための基礎技術の習得を目的とする。

【授業の概要】 コンピュータの利用は理工系の学生だけでなく文系の学生にとっても必須のこととなっている。本講義ではコンピュータの概論とその利用法を中心に講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. パソコンと Windows の基礎
3. ワードプロソフト Word の実習 1
4. ワードプロソフト Word の実習 2
5. ワードプロソフト Word の実習 3
6. インターネットの基礎 1
7. インターネットの基礎 2
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1
14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2
15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3
16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用せず、適宜資料を配布する。

【成績評価の方法】 レポートとプレゼンテーションの発表による。テーマ、書式、提出期限などは講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 コンピュータは道具であり、他の人に伝える内容の充実が重要である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220977>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 11 時 55 分 ~ 12 時 50 分)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(薬(薬B1年))

村上 明子・非常勤講師

2単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 現代の情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、大学生として必要とされる基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生生活
2. ガイダンス・パソコンと Windows XP の基礎 1
3. パソコンと Windows XP の基礎 2
4. ワードプロソフト Word の実習 1
5. ワードプロソフト Word の実習 2
6. ワードプロソフト Word の実習 3
7. インターネットの基礎
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1
14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2
15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3
16. 総括授業

【教科書】 講義中に指示する。

【成績評価の方法】 課題レポート (60%)・授業への取り組み状況 (20%) 及び PowerPoint による発表 (20%) により総合的に評価を行う。(ただし、評価割合の目安は括弧内パーセントである。) テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 コンピュータ初心者が情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220978>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村上 (akiko@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(工 ((建 A)1 年))

鈴木 雄一郎・准教授/四国大学

2 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 コンピュータ, 特にパーソナルコンピュータ (PC) においては, 既に理工系で扱う複雑な科学技術計算だけでなく, 日常の大学生活でも必要不可欠なツールとなっている. また今日の社会では, PC を利用した基礎的能力 (リテラシー) を前提に, 手続きや報告が行われるように進められている. 本講義では PC の初心者を対象に PC の基本的な操作方法, 一般的なアプリケーション・ソフトの操作方法, インターネットを活用した情報処理といったものを習得する. つまり大学生活や社会生活の中で当然, 必要となる「情報リテラシー」を身につけることを目的とする. この講義では, 高校の教科「情報」で学んだ PC の操作を習得することに加え, PC を効果的に利用して自分の意見や考えをアウトプットできるようになることを目指します.

【授業の概要】 社会での普及率が高い Microsoft Windows を基に, やはりアプリケーションとして普及率の高い Microsoft Office を中心, に PC のオペレーションを身につける. また Office のアプリケーションと連携して, インターネットを利用した操作も同に身につける. 基本的なアプリケーションとネットワークに関する知識と操作を身につけ, 情報を活用するための基礎を準備する.

【キーワード】 情報リテラシー, インターネット, 情報検索, プレゼンテーション, オフィス・ツール

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける.

【授業の計画】

1. ガイダンス Windows XP と Office2010 の基礎 (1)
2. Windows XP と Office2010 の基礎 (2)
3. ワードプロソフト Microsoft Word2010 の利用法 (1)
4. ワードプロソフト Microsoft Word2010 の利用法 (2)
5. ワードプロソフト Microsoft Word2010 の利用法 (3)
6. インターネットの基礎 (1)(WWW ブラウザの利用法)
7. インターネットの基礎 (2)(電子メールの利用法)
8. インターネットの基礎 (3)(ネチケットについて)
9. 表計算ソフト Microsoft Excel2010 の利用法 (1)
10. 表計算ソフト Microsoft Excel2010 の利用法 (2)

11. 表計算ソフト Microsoft Excel2010 の利用法 (3)

12. プレゼンテーションソフト Microsoft PowerPoint2010 の利用法 (1)

13. プレゼンテーションソフト Microsoft PowerPoint2010 の利用法 (2)

14. プレゼンテーションソフト Microsoft PowerPoint2010 の利用法 (3)

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 『情報科学入門 ーソフト操作編ー』 学術図書出版 2000 円

【成績評価の方法】 授業中に出す課題 (40%), 学期末試験 (30%), および授業への取り組み状況 (30%) 等を元に総合的に評価する (ただし, 評価割合の目安は括弧内パーセントである).

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 初心者を対象としての講座になります. まったくの初心者であっても恐れる必要はありません. 学業・研究・社会活動のために PC を自在に扱えるようになることを期待します.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220979>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 鈴木 .

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(工((建B)1年))

村上 明子・非常勤講師

2単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 現代の情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、大学生として必要とされる基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生生活
2. ガイダンス・パソコンと Windows XP の基礎 1
3. パソコンと Windows XP の基礎 2
4. ワードプロソフト Word の実習 1
5. ワードプロソフト Word の実習 2
6. ワードプロソフト Word の実習 3
7. インターネットの基礎
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1
14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2
15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3
16. 総括授業

【教科書】 講義中に指示する。

【成績評価の方法】 課題レポート (60%)・授業への取り組み状況 (20%) 及び PowerPoint による発表 (20%) により総合的に評価を行う。(ただし、評価割合の目安は括弧内パーセントである。) テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 コンピュータ初心者が情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220980>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村上 (akiko@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(工 ((機 A)1 年))

大橋 守・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 コンピュータを学習・研究・プレゼンテーションなどで有効利用するための基礎技術の習得を目的とする。

【授業の概要】 コンピュータの利用は理工系の学生だけでなく文系の学生にとっても必須のこととなっている。本講義ではコンピュータの概論とその利用法を中心に講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. パソコンと Windows の基礎
3. ワードプロソフト Word の実習 1
4. ワードプロソフト Word の実習 2
5. ワードプロソフト Word の実習 3
6. インターネットの基礎 1
7. インターネットの基礎 2
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1
14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2
15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3
16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用せず、適宜資料を配布する。

【成績評価の方法】 レポートとプレゼンテーションの発表による。テーマ、書式、提出期限などは講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 コンピュータは道具であり、他の人に伝える内容の充実が重要である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220981>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 11 時 55 分 ~ 12 時 50 分)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(工((機B)1年))

村上 明子・非常勤講師

2単位 前期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 現代の情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、大学生として必要とされる基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生生活
2. ガイダンス・パソコンと Windows XP の基礎 1
3. パソコンと Windows XP の基礎 2
4. ワードプロソフト Word の実習 1
5. ワードプロソフト Word の実習 2
6. ワードプロソフト Word の実習 3
7. インターネットの基礎
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1
14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2
15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3
16. 総括授業

【教科書】 講義中に指示する。

【成績評価の方法】 課題レポート (60%)・授業への取り組み状況 (20%) 及び PowerPoint による発表 (20%) により総合的に評価を行う。(ただし、評価割合の目安は括弧内パーセントである。) テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 コンピュータ初心者が情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220982>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村上 (akiko@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(工((電A)1年))

宇野 剛史・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. PC の使い方の基礎
3. ワードプロソフト Word の実習 1(文章作成の基本)
4. ワードプロソフト Word の実習 2(理工系文章の作成)
5. ワードプロソフト Word の実習 3(特殊文章の作成)
6. インターネットの基礎 (ネチケット)
7. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習
8. インターネットの基礎 (電子メール) の実習
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1(文章スライドの作成)
10. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2(特殊効果の利用)
11. 表計算ソフト Excel の実習 1(データ入力)
12. 表計算ソフト Excel の実習 2(グラフ作成)
13. 表計算ソフト Excel の実習 3(理工系レポート作成への応用)
14. PowerPoint によるプレゼンテーション 1(発表 1 回目)
15. PowerPoint によるプレゼンテーション 2(発表 2 回目)
16. 総括授業

【教科書】 授業の時に指示する。

【成績評価の方法】 課題レポート・授業への取り組み状況及び PowerPoint による発表により総合的に評価を行う。テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 コンピュータ初心者が情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220983>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 宇野 (総合科学部 1 号棟 2S08 室, 088-656-7294, uno@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(工((電B)1年))

芥川 正武 講師/工学部

2単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 現代の情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、大学生として必要とされる基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. ガイダンス, 情報セキュリティと大学生活
2. PC の使い方の基礎
3. ワードプロソフト Word の実習 1
4. ワードプロソフト Word の実習 2
5. ワードプロソフト Word の実習 3
6. インターネットの基礎 (ネチケット) の実習
7. インターネットの基礎 (Web ブラウザと情報検索) の実習
8. インターネットの基礎 (電子メール) の実習
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
10. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
11. 表計算ソフト Excel の実習 1
12. 表計算ソフト Excel の実習 2
13. 表計算ソフト Excel の実習 3
14. PowerPoint によるプレゼンテーション 1
15. PowerPoint によるプレゼンテーション 2
16. 総括授業

【教科書】 「情報科学入門 -ソフト操作編-」 学術図書出版社

【参考書等】 Microsoft Office 等に役立つ文献ならどれでも可

【成績評価の方法】 課題レポート (60%)・授業への取り組み状況 (20%) 及び PowerPoint による発表 (20%) により総合的に評価を行う。(ただし、評価割合の目安は括弧内パーセントである。) テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 コンピュータ初心者が情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220984>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 芥川 (工学部電気棟 3 階北 C-5, 088-656-7477, makutaga@ee.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 18:00 - 20:00, 金曜日. 17:00 - 18:00)

5) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects)

基礎数学

微分積分学 ... (医・歯 ((医・歯)A1年))/伊藤/前期 火 7・8	318
微分積分学 ... (医・歯 ((医・歯)B1年))/宇野/前期 火 7・8	319
統計学 ... (医 ((栄)1年))/桑原/前期 火 3・4	320
微分積分学 ... (医 ((放)1年))/小野/前期 月 7・8	321
医療情報処理 ... (歯 ((歯)1年))/河野/前期 金 5・6	322
微分積分学 ... (薬 (薬2年))/鍋島/前期 月 5・6	323
線形代数学 I ... (工 ((建)1年))/守安/前期 水 1・2	324
微分積分学 I ... (工 ((建)1年))/伊藤/前期 金 3・4	325
微分積分学 I ... (工 ((機 A)1年))/宇野/前期 水 5・6	326
線形代数学 I ... (工 ((機 A)1年))/村上/前期 木 1・2	327
微分積分学 I ... (工 ((機 B・電 A)1年))/竹内/前期 水 5・6	328
線形代数学 I ... (工 ((機 B・電 A)1年))/片山/前期 木 1・2	329
線形代数学 I ... (工 ((化)1年))/桑原/前期 水 1・2	330
微分積分学 I ... (工 ((化)1年))/鍋島/前期 金 3・4	331
線形代数学 I ... (工 ((生)1年))/大沼/前期 水 1・2	332
微分積分学 I ... (工 ((生)1年))/大橋/前期 金 3・4	333
微分積分学 I ... (工 ((電 B)1年))/水野/前期 水 5・6	334
線形代数学 I ... (工 ((電 B)1年))/蓮沼/前期 木 1・2	335
線形代数学 I ... (工 ((知)1年))/岡本/前期 月 7・8	336
微分積分学 I ... (工 ((知)1年))/伊藤/前期 水 7・8	337
線形代数学 I ... (工 ((光)1年))/片山/前期 月 7・8	338
微分積分学 I ... (工 ((光)1年))/片山/前期 火 3・4	339

基礎物理学

基礎物理学 I・物理学概論 ... (医 ((医)1年))/中山/前期 火 3・4	340
基礎物理学 f・力学概論 ... (医 ((放)1年))/真岸/前期 月 5・6	341
基礎物理学 I・物理学概論 ... (歯 ((歯)1年))/齊藤/前期 火 5・6	342
力学及び熱力学 ... (薬 (薬1年))/日置/前期 月 1・2	343

基礎物理学 f・力学概論 ... (工 (建)1 年) / 日置 / 前期 月 5・6	344
基礎物理学 f・力学概論 ... (工 (機)1 年) / 中山 / 前期 月 5・6	345
基礎物理学 f・力学概論 ... (工 (化)1 年) / 岸本 / 前期 水 5・6	346
基礎物理学 f・力学概論 ... (工 (生)1 年) / 大野 / 前期 水 7・8	347
基礎物理学 f・力学概論 ... (工 (電)1 年) / 中山 / 前期 火 5・6	348
基礎物理学 f・力学概論 ... (工 (光)1 年) / 岸本 / 前期 水 1・2	349

基礎化学

基礎化学 I・生化学の基礎 ... (医 (医)1 年) / 佐々木・坂根 / 前期 金 5・6	350
基礎化学 II・有機化学 (ライフサイエンスの基礎) ... (医 (栄)1 年) / 増田 / 前期 木 5・6	351
化学の基礎 ... (医 (放・検)1 年) / 田村 / 前期 水 1・2	352
基礎化学 I・物理化学 (平衡と反応速度) ... (歯 (歯)1 年) / 村田 / 前期 水 5・6	353
基礎化学 IIB・有機化学 (ライフサイエンスの基礎) ... (歯 (歯)2 年) / 増田・中村 / 前期 火 1・2	354
基礎化学 I・電子と有機化学 ... (薬 (薬)1 年) / 根本 / 前期 水 7・8	355
基礎化学 III・細胞生物化学の基礎 ... (薬 (薬)1 年) / 山崎 / 前期 水 9・10	356
基礎化学 i・化学結合論 ... (工 (生)1 年) / 武田 / 前期 火 5・6	357
基礎化学 i・化学結合論 ... (工 (光)1 年) / 山本 / 前期 火 5・6	358

基礎化学実験

基礎化学実験 ... (医 (医)) / 佐野・田中・植野・大井・竹内・根本・吉田・重永・中尾・宮本 / 通年期	359
基礎化学実験 ... (歯 (歯)2 年) / 今井・山本・山本 / 前期 水 7~10	360

基礎生物学

基礎生物学 MI ... (医 (医)1 年) / 六反・桑野 / 前期 金 7・8	361
基礎生物学 H ... (医 (放・検)1 年) / 渡部 / 前期 水 3・4	362
基礎生物学 DI ... (歯 (歯)1 年) / 北村・野間・山下・三好 / 前期 金 1・2	363
基礎生物学 P ... (薬 (薬)1 年) / 松尾 / 前期 月 5・6	364
基礎生物学 T ... (工 (生)1 年) / 佐藤 / 前期 月 5・6	365

基礎生物学実験

基礎生物学実験 N ... (医 (栄)1 年) / 佐藤 / 前期 水 7~10 366

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 (Calculus)

(医・歯 ((医・歯)A1年))

伊藤 正幸・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、現代の数学の基礎をなすものであり、学生諸君が将来各方面で諸問題に出会ったときに、数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠な考え方や知識を提供するであろう。微積分は、高等学校でもある程度学んでいるが、この枠を越え真に有用な知識の体系を得るには緻密で長い理論展開が要求され、かなりの努力が必要になる。しかしこの授業は半年のコースであるため、理論的な推論法、論理的な推論展開は減らし主に計算技術を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 微分積分学は、高校の数学 II,III で一変数関数の取り扱いの基本を学んでいる。この授業では平均値の定理を見直し、テイラーの定理から始める。その後多変数関数の微積分を講義する。この講義の内容を、半年の授業用に書かれた教科書は見当たらないので、一般的な教科書を採用するが、項目は飛び飛びになるので、授業ノートを取り、対応個所の勉強を怠らないようにしてください。

【キーワード】 微分, 積分, 偏微分法

【関連科目】 『基礎数学/ 統計学』(0.5)

【到達目標】 高等学校の微積分の知識を広げ、初等関数の級数展開と多変数関数の微積計算ができる。

【授業の計画】

1. 数学的準備, 実数
2. 平均値の定理
3. テイラーの定理
4. テイラーの定理の続き
5. 多変数関数
6. 連続性, 偏微分
7. 全微分
8. 高階微分
9. 極値問題
10. 不定積分
11. 定積分
12. 重積分

13. 累次積分

14. 積分の変数変換

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 微分積分学の基礎 (改訂版) 水本久夫著 培風館

【成績評価の方法】 受講姿勢と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 講義内容の理解には日々の予習、復習が必要不可欠です。積極的な取り組みを期待しています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220985>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 1. 火曜日 12:00-12:45, 2. 月曜日 16:30-17:30)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 (Calculus)

(医・歯 ((医・歯)B1年))

宇野 剛史・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】微分積分学は自然科学を記述するための言葉・道具であり、医学・薬学においても基礎となる学問である。この講義では、微分学の基礎概念を理解し、計算力ならびに応用力をつけることを目的とする。

【授業の概要】高等学校で学んだことを復習しつつ、1変数関数の微分・積分法の理解を深める。この概念を拡張することで、多変数関数の微分・積分法について学ぶ。さらに、速度、最大・最小化問題、図形の面積や体積等の応用計算ができるようにする。

【キーワード】微分積分、偏微分方程式

【到達目標】

1. 極限の概念の理解及び1変数の関数の微分を理解し、微分を応用する力をつける。
2. 偏微分の概念を理解し、偏微分を用いて関数の性質を調べられるようにする。
3. 積分学についての基礎概念を理解し、不定積分、定積分、重積分の計算ができ、応用する力をつける。

【授業の計画】

1. 実数についての基礎
2. 級数と関数の極限
3. 微分の基礎
4. 平均値の定理
5. ロピタルの定理、テイラーの定理
6. 2変数関数の極限と連続
7. 偏微分
8. 2変数関数の極値
9. 積分の基礎、リーマン積分の定義
10. 広義積分、無理積分
11. 面積、曲線の長さ
12. 重積分の基礎、累次積分法
13. 重積分の変数変換、広義の重積分
14. 体積、曲面積
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】水田義弘著「入門微分積分」サイエンス社

【成績評価の方法】毎回の授業のまとめのレポートと期末試験の成績による総合評価

【再試験の有無】再試験などは決して行いません。

【受講者のメッセージ】問題演習を中心に授業を進めます。自分でよく考えて問題を解く事で理解を深めてください。定理の意味や、証明にも興味を持ってください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220986>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 宇野 (総合科学部 1号棟 2S08室, 088-656-7294, uno@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

統計学 (Statistics)

(医 ((栄)1 年))

桑原 類史・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 栄養学を学ぶ上で必要となる統計学の基本概念の理解と、実験や調査などの基本的なデータ処理の習得を目的とする。

【授業の概要】 統計学は、理工系の学生だけでなく文系の学生にとっても必須のこととなっている。この講義では、統計学の基礎となる確率と統計学の基本的な事項を難しい数学理論を用いなくて解説する。また、授業時間中に問題演習を行い、基本的なデータ処理の計算に慣れる。

【キーワード】 確率, 統計量, 検定

【到達目標】 統計的推定と検定の考え方を理解し、分布表を用いて統計処理ができるようになる。

【授業の計画】

1. 授業の概要, 確率
2. 条件付確率と独立
3. 確率変数と期待値
4. 確率分布 (1)
5. 確率分布 (2)
6. 中心極限定理と大数の法則
7. 母集団と標本
8. 母平均の区間推定
9. 母分散の区間推定
10. 母比率の検定
11. 母平均の検定
12. 母分散の検定
13. 等平均・等分散の検定
14. 適合度の検定
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 教科書: 森本, 大橋著「これならわかる確率・統計セミナー」学術図書出版

【成績評価の方法】 講義中に課す演習問題と期末試験によって評価する。

【再試験の有無】 有り。ただし、期末試験の成績が 30 点未満のものは、再試験の受験資格なし。

【受講者のメッセージ】 授業中に電卓 (四則と平方根の計算機能があればよい) を使用するので、準備すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220987>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 (Calculus)

(医 ((放)1年))

小野 公輔・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】微分積分学は、自然現象や社会現象を関数を用いて表現し、それを解析する手段として、数理科学的アプローチにおける最も基礎的な理論である。その考え方や基礎的概念、手法を習得することは、特に自然科学におけるあらゆる分野で必須である。本講義では、1 変数および 2 変数関数の微分積分学の基礎を修得することを目標とする。

【授業の概要】前半に、高校数学で学習した 1 変数関数の微分積分法の復習及び補足的理論を学び、その後、多変数 (2 変数) 関数の微分積分法 (偏微分、重積分) の基本的概念や計算手法について、例題の解説をまじえながら講義する。

【キーワード】微分積分

【到達目標】授業で取り扱った微分積分学の基礎・基本を理解し、対応する演習問題の解答が導けるようになること。

【授業の計画】

1. 関数の極限
2. 導関数
3. 微分法の公式
4. 微分法の応用
5. 不定積分
6. 定積分
7. 広義積分
8. 定積分の応用
9. 2 変数関数
10. 偏導関数
11. 偏微分の応用
12. 2 重積分
13. 2 重積分の計算法
14. 2 重積分の応用
15. 期末試験
16. 総括

【教科書】「微分積分学入門-改訂版」岩谷・河合・田中共著 (学術図書出版社)

【成績評価の方法】授業への取り組み状況、宿題、演習、試験などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220988>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp)
MAIL (オフィスアワー: 月曜日 16:15~ 17:00)

基礎数学 (Basic Mathematics)

医療情報処理 (Medical Information)

(歯((歯)1年))

河野 文昭 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

1単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 パソコンに慣れ親しみ、歯科医療の中でコンピュータがどのように活用されているのかを知ることが目的である。

【授業の概要】 下記に示す授業内容を講義し、実習では各学生にコンピュータ実習(インターネット活用、ワープロ、表計算、統計処理)を行う。また、歯科臨床の場で活用しているコンピュータの事例について紹介する。

【キーワード】 医療情報

【到達目標】

- 1.1. 情報処理・医療情報の基礎が理解できる
- 2.2. コンピュータネットワークの基礎が理解できる
- 3.3. コンピュータを活用できる技能を身につけられる

【授業の計画】

1. 情報処理総論
2. 医療情報処理総論
3. 情報通信の仕組み(インターネット)
4. 歯科領域におけるコンピュータの役割
5. ワープロの実習
6. ワープロの実習
7. 表計算の実習
8. 表計算の実習
9. プレゼンソフトの実習
10. プレゼンソフトの実習
11. ホームページ作成ソフトの実習
12. ホームページ作成ソフトの実習
13. 医療統計ソフトの実習
14. 医療統計ソフトの実習

【教科書】

- ◇教科書:私版のテキストを配布。インターネットにて閲覧。
- ◇参考書:各講義中に紹介

【成績評価の方法】 筆記試験(論述式)

【再試験の有無】 有(一度だけ行う)

【受講へのメッセージ】 コンピュータをツールとして活用できるように講義します。実習は特にインターネット活用および医療統計の方法、に重点をおきます。毎回出席をとるので必ず講義に出席すること。PCは各自持参すること

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220989>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 河野 (088-633-9180, fumiaki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 (Calculus)

(薬 (薬 2 年))

鍋島 克輔・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、自然現象や社会現象を関数を用いて表現し、それを解析する手段として、数理科学的アプローチにおける最も基礎的な理論である。その考え方や基礎的概念、手法を習得することは、薬学はもちろん自然科学におけるあらゆる分野で必須である。本講義では、1 変数および 2 変数関数の微分積分学の基礎を習得することを目標とする。

【授業の概要】 高校数学で学習した 1 変数関数の微分積分法の復習及び補足的理論を学び、その後、多変数 (2 変数) 関数の微分積分法 (偏微分、重積分) の基本的概念や計算方法について、例題の解説を交えながら講義する予定である。

【キーワード】 微分積分

【関連科目】 『基礎数学/統計学』(1.0)

【到達目標】

1. 1 変数関数および多変数関数に関する微積分を理解し、それらの計算ができる。
2. 微積分法を応用した問題を解くことができる。

【授業の計画】

1. 数列の極限, 1 変数関数の極限と連続性
2. 1 変数関数の微分法と導関数
3. 導関数の計算法
4. 不定形の極限・テイラーの定理
5. 多変数関数の極限・連続性
6. 偏微分と偏導関数, 全微分可能性と全微分
7. 合成関数の微分法, 多変数関数のテイラーの定理
8. 多変数関数の極値
9. 1 変数関数の定積分
10. 広義積分
11. 累次積分 (1)
12. 累次積分 (2)
13. 変数変換
14. 広義積分
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 荒井正治著 『理工系 微分積分学』 学術図書出版社

【成績評価の方法】 レポート等による平常点 (30%) と期末試験 (70%) の得点によって成績評価をする。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 講義内で問題演習の時間を取ることは困難なので各自で教科書の問題に取り組んで計算力を付けてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220990>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜 14:00~16:00 金曜 14:00~16:00)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I (Linear Algebra 1)

(工((建)1年))

守安 一峰・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 今や線形代数学は、工学や社会科学の広い分野で大きな役割を演じている。また、微分積分学と並んで数学やその応用の研究を志す人にとって車の車輪の如く基本的な学問分野である。本講義では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理科学の基礎的手法の修得を目指す。

【授業の概要】 高校の代数幾何学で学習した 2 次元の行列、行列式の性質を一般の n 次元に拡張し、行列やその演算の持つ性質、行列式、連立 1 次方程式の一般論などについて講義する。

【キーワード】 行列、連立 1 次方程式、行列式

【関連科目】 『基礎数学/線形代数学 II』(0.8)

【到達目標】 行列と行列式に関する基本的な計算方法を習得し、連立 1 次方程式の解法に応用できること。

【授業の計画】

1. 授業ガイダンス
2. 数と行列
3. 行列の演算 (1)
4. 行列の演算 (2)
5. 行列の m 乗
6. 行列の基本変形と階数
7. 行列の基本変形と逆行列
8. 連立 1 次方程式 (1)
9. 連立 1 次方程式 (2)
10. 行列式
11. 行列式の性質
12. 行列式の展開と応用
13. 数ベクトル空間 (1)
14. 数ベクトル空間 (2)
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 守安一峰・小野公輔著 『理工系の線形代数学入門』サイエンス社

【参考書等】

- ◇ 碓野敏博・加藤芳文著 『理工系の基礎線形代数学』 学術図書出版社
- ◇ 戸田暢茂 『基礎線形代数学』 学術図書出版社

【成績評価の方法】 期末試験、レポート、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有。ただし、本試験や授業への取り組み状況によっては、再試験を受けられない場合がある。

【受講者へのメッセージ】 授業には積極的に取り組むこと。予習復習は必ず行うこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220991>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I (Calculus 1)

(工 ((建)1年))

伊藤 正幸・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、線形代数学と並び、現代の数学の基礎をなすものであり、学生諸君が将来各方面で諸問題に出会ったときに、数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠な考え方や知識を提供するであろう。微積分は、高等学校でもある程度学んでいるが、この枠を越え真に有用な知識の体系を得るには緻密で長い理論展開が要求され、かなりの努力が必要になる。この授業は、このような微積分を学ぶことによって、断片的な知識の習得のみならず、今後必要となる、理論的な推論法、論理的な推論展開を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 微分積分学 I と後期に開講される微分積分学 II とあわせて、微分積分学の基礎を学ぶことになる。便宜上、微分積分学 I においては、主として微分法を、微分積分学 II においては、積分法を学ぶ。主な項目は、1. 微分法 2. 初等関数の微分 3. 高階導関数 4. 平均値の定理 5. テイラーの定理 6. 偏微分法 7. 2変数関数の合成関数の微分 8. 2変数関数のテイラーの定理

【キーワード】 微分, 積分, 偏微分法

【関連科目】 『基礎数学/ 微分積分学 II』(0.5)

【到達目標】 高等学校の微積分の知識を広げ、基本的な初等関数の微分計算が確実に出来、初等関数の級数展開と多変数関数の微分の意味を理解できる。

【授業の計画】

1. 数学的準備, 実数
2. 極限值と連続関数
3. 導関数と微分法の公式
4. 初等関数の微分 1
5. 初等関数の微分 2
6. 高階導関数
7. ライプニッツの公式
8. 平均値の定理 1
9. 平均値の定理 2
10. テイラーの定理 1
11. テイラーの定理 2
12. 2変数関数の極限值と連続性

13. 偏微分法と全微分

14. 合成関数の微分

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 微分積分学の基礎 (改訂版) 水本久夫著 培風館

【成績評価の方法】 受講姿勢と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 講義内容の理解には日々の予習、復習が必要不可欠です。積極的な取り組みを期待しています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220992>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 1. 火曜日 12:00-12:45, 2. 月曜日 16:30-17:30)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I (Calculus 1)

(工 ((機 A)1 年))

宇野 剛史・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】微分積分学は線形代数学と並んで数学やその応用の研究を志す人にとって車の両輪の如く基本的な学問分野となっており, 工学系技術者・研究者においても必須である。本講義では数学の基本的教養の一翼を担う微分積分学それ自体の実体的, 構造的, 法則的理解をめざすと同時に数理科学の基本的手法の習得をめざしたい。

【授業の概要】本講義では, 1 変数と多変数の連続関数の基本性質, 1 変数関数の微分法と多変数関数の微分法について講義する。

【到達目標】

1. 解析学の基礎的概念の意味を理解できる。
2. 解析学の基礎について構造的論理的に理解できる。
3. 発展的応用的問題への応用ができる。(自学自習による)

【授業の計画】

1. 極限值
2. 1 変数連続関数
3. 多変数連続関数
4. 微分法
5. 初等関数の微分
6. 高階導関数
7. 平均値の定理
8. テイラーの定理
9. 曲線の凹凸と関数の極値
10. 偏導関数
11. 多変数合成関数の微分法
12. 陰関数
13. 多変数関数のテイラーの定理
14. 多変数関数の極大・極小
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】水本久夫著「微分積分学の基礎 改定版」培風館

【成績評価の方法】毎回の授業のまとめのレポートと期末試験の成績による総合評価

【再試験の有無】再試験などは決して行いません。

【受講者のメッセージ】各自が主体的に演習問題に取り組んでもらいたい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220993>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 宇野 (総合科学部 1 号棟 2S08 室, 088-656-7294, uno@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I (Linear Algebra 1)

(工 ((機 A)1 年))

村上公一・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は、微分積分学とならんで大学初年度の数学の 2 本の大きな柱の一つである。それは線形代数学の理論が、自然科学や工学はもちろんのこと、情報科学や社会科学などの広い範囲で応用可能であるためである。この授業では、線形代数学についての基本概念の理解と、行列に関する計算力の習得を目的とする。

【授業の概要】 行列の演算、行列の基本変形、行列式についての基本事項を解説する。また、授業時間中に毎回問題演習を行い、行列の計算に慣れてもらう。

【キーワード】 基本変形、行列のランク、行列式

【到達目標】 行列の基本変形と行列式の計算ができるようになること

【授業の計画】

1. 授業の概要
2. 行列の演算 (1) 行列の基本演算
3. 行列の演算 (2) 行列の転置と正則行列
4. 行列の演算 (3) 行列の m 乗
5. 行列の基本変形 (1) 行列のランク
6. 行列の基本変形 (2) 逆行列
7. 行列の基本変形 (3) 連立 1 次方程式
8. 行列の基本変形 (4) 同次連立 1 次方程式
9. 行列式 (1) 行列式の定義
10. 行列式 (2) 行列式の基本性質
11. 行列式 (3) 行列式の次数低下
12. 行列式 (4) 行列式の展開
13. 行列式 (5) 行列式の応用 (1)
14. 行列式 (6) 行列式の応用 (2)
15. 期末試験
16. 総括

【教科書】 守安一峰, 小野公輔 共著 「理工系の線形代数学入門」 サイエンス社

【成績評価の方法】 期末試験と授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有。ただし、本試験や授業への取り組み状況によっては、再試験を受けられない場合がある。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220994>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村上 (総科 1 号館 2F 南棟, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I (Calculus 1)

(工 ((機 B・電 A)1 年))

竹内敏己 教授/工学部

2 単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 極限, 連続等の数学的概念, 微分についての基本的な考え方を修得する. さらに, 工学上の実際問題に適用できる計算力や応用力を身につける.

【授業の概要】 微分積分学は工学において最も基本的な道具として用いられる学問の一つである. 本講義では, まず 1 変数関数の微分法について十分学んだ上で, 2 変数関数の微分法および実際問題への応用について学ぶ.

【キーワード】 極限, 微分, 偏微分

【関連科目】 『基礎数学/ 微分積分学 II』 (0.5)

【到達目標】

1. 基本的な極限の計算が行える.
2. 1 変数関数の微分法を理解し, 導関数の計算が行える.
3. 偏微分概念を理解し, 偏導関数の計算が行える.

【授業の計画】

1. 極限值
2. 微分法の公式
3. 初等関数の微分
4. 高階導関数
5. 平均値の定理
6. 不定形の極限值
7. テイラー展開
8. 関数の増減と極値
9. 偏導関数
10. 全微分可能性
11. 2 変数合成関数の微分
12. 陰関数
13. 2 変数のテイラーの定理
14. 条件つき極値問題
15. 期末試験
16. 総括

【教科書】

◇ 教科書:水本久夫 『微分積分学の基礎 改訂版』 培風館

◇ 問題集:水本久夫 『微分積分学問題集 改訂版』 培風館

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況や授業中に行う演習問題および授業時間外に行うレポート等の平常点 (30%) と期末試験 (70%) により総合的に評価する.

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220995>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 竹内 (A206, 088-656-7544, takeuchi@pm.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 14:00-15:00)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I (Linear Algebra 1)

(工 ((機 B・電 A)1 年))

片山 真一・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 現代の科学技術の維持発展のために欠かすことのできない数学の技術として線形代数学は、微分積分学とならんで大学初年度の数学の 2 本の大きな柱である。それは線形代数学の理論が、自然科学や工学はもちろんのこと、情報科学や社会科学などの分野において広く応用されているからである。この授業では、高校で学んだ数学の知識を踏まえて線形代数学の理論的な理解と同時に数理科学の基礎的手法の修得を目的とする。今後の工学の専門分野の知識の修得には、線形代数学の理論的な理解と基本技術の習得は欠かすことができない。

【授業の概要】 目的にも記した様に本講義は後期の線形代数学 II と併せて線形代数学の基本的な考え方及びその計算技術の取得を目的としたものであり、前期 (線形代数学 I) に於いてはもっぱら計算技術である所の行列及び行列式に関する理論を講義する (及び演習も行う)。

【到達目標】

1. 行列の計算が出来る。
2. 行列の基本変形が出来る。
3. 行列式の計算が出来る。
4. 逆行列が求められる。
5. 変数が多い連立一次方程式が解ける様になる。

【授業の計画】

1. 授業計画および導入
2. 連立一次方程式の解法
3. 行列
4. 行列の演算
5. 逆行列の求め方 (はき出し法)
6. 数ベクトル空間
7. 部分空間
8. 基底と次元
9. 行列式の定義
10. 行列式の性質
11. 行列式の展開

12. クラームルの公式

13. 逆行列の公式

14. 前期のまとめ

15. 定期試験

16. 総括授業

【教科書】 中原徹・片山真一 『線形代数学入門』 学術図書

【成績評価の方法】 学期末試験を 6 割前後、レポート等の授業への取り組み状況を 4 割程度として総合的に評価する。

【再試験の有無】 有。ただし総合評価が 30 点未満の場合は受験資格を認めない。

【受講者へのメッセージ】 10-15 分程度の僅かな時間でも良いですから、必ず講義の行われたその日のうちに復習を行って下さい。

【WEB 頁】 <http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~ohbuchi/index1.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220996>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I (Linear Algebra 1)

(工 ((化)1 年))

桑原 類史・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は、現代の工学や社会科学の広い分野で大きな役割をはたす数学の基礎的な技術である。本講義では、高校で学習したベクトルや 2 次行列を一般化して専門での数学的基礎となる線形代数の基本概念を理解する。また将来、線形代数学を日常的に使う工学部の学生がこの線形代数の理論の理解の上で、基本的な計算力が習得できることを目標とする。

【授業の概要】 線形代数学 I は後期に開講される線形代数学 II とあわせて、線形代数学の基礎を学習するものであり、主として、連立 1 次方程式を解くという操作を通じて、行列、行列式の基本と計算の基礎を学び、あわせて線形代数学全体の入門部分を講義する。

【キーワード】 行列、行列式、連立 1 次方程式

【到達目標】 行列や行列式の基本を理解して、連立 1 次方程式を解くことができる。

【授業の計画】

1. 導入 (授業計画の説明など)
2. 行列
3. 行列の演算
4. 正則行列、逆行列
5. 色々な行列
6. 行列式
7. 行列式の性質
8. 行列式の展開公式
9. 行列式の応用
10. 行列の基本変形 (1)
11. 行列の基本変形 (2), 逆行列の求め方
12. 連立 1 次方程式とその解法 (1)
13. 連立 1 次方程式とその解法 (2)
14. 幾何ベクトルと数ベクトル
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 碓野敏博・原祐子・山辺元雄 共著「理工系の入門線形代数」 学術図書出版社

【参考書等】 「線形代数学」佐竹一郎著 裳華房

【成績評価の方法】 期末試験 (70~90%) およびレポート、授業への取り組み状況 (10~30%) などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有り。ただし、期末試験の成績が 30 点未満のものは、再試験の受験資格なし。

【受講者へのメッセージ】 授業には積極的に取り組んで、予習復習は必ず行うことを勧めます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220997>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I (Calculus 1)

(工 ((化)1 年))

鍋島 克輔・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】変数関数の微分法については、高校で履修した初等的事項について理論的に整理した後に、テイラー展開を中心に、関数がどのように変化するかを調べる種々の手法を習得する。多変数関数の微分法では、偏微分法の基本的な考えかたを学ぶ。

【授業の概要】微分法、一変数および多変数の関数の微分法を学ぶ。具体的な例題を通し基礎的な計算技術も修得する。

【キーワード】極限、級数、導関数、偏微分法

【関連科目】『基礎数学/微分積分学 II』(1.0)

【到達目標】1 変数微分法、多変数微分法について一定の概念的理解を得ると共に、具体的な問題について計算できるようになること。

【授業の計画】

1. 極限と連続関数 (1) 数列の極限
2. 極限と連続関数 (2) 関数の極限值
3. 極限と連続関数 (3) 連続関数
4. 1 変数関数の微分 (1) 微分係数・導関数
5. 1 変数関数の微分 (2) 導関数の計算法
6. 1 変数関数の微分 (3) 平均値の定理, 不定形の極限
7. 1 変数関数の微分 (4) テイラーの定理
8. 1 変数関数の微分 (5) 極値問題, 近似計算法
9. 多変数関数の微分 (1) 多変数関数の極限, 連続性
10. 多変数関数の微分 (2) 偏微分
11. 多変数関数の微分 (3) 合成関数の偏微分
12. 多変数関数の微分 (4) テイラーの定理, 極値問題
13. 多変数関数の微分 (5) 陰関数定理
14. 多変数関数の微分 (6) ラグランジュの未定乗数法
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】荒井正治著『理工系微分積分学』学術図書出版社

【成績評価の方法】優:期末テストで 80%以上のもの。良:レポートなどの平常点 (30%)
期末テスト (70%) で計算して 70%以上。可:レポートなどの平常点 (30%) 期

末テスト (70%) で計算して 60%以上。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】演習問題等を自分自身で考え、理解を深めてください。また、定理や公式の証明もきちんと理解するよう心がけてください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220998>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜 14:00 ~ 16:00 火曜 14:00 ~ 16:00)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I (Linear Algebra 1)

(工 ((生)1 年))

大沼 正樹 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】線形代数学は、微分積分学と共に数学の基本であると同時に、様々な自然科学分野や工学の分野にとどまらず、経済学などの社会科学分野にも広い応用のある基本的な道具です。本講義では、具体的な計算を通して、線形性という概念に慣れ親しみ、行列に関する基本的な性質を使いこなせることをその目的とします。

【授業の概要】授業は主にテキストに沿って講義形式で行われます。始めに行列の演算を学習します。次に行列の基本変形について学習し連立 1 次方程式の解法を学習します。その後に行列式について学習し、その応用としての逆行列の計算および連立 1 次方程式の解法を学習します。

【キーワード】行列、行列の基本変形、行列式

【関連科目】『基礎数学/線形代数学 II』(1.0)

【到達目標】行列と行列式に関する基本的な計算方法を習得し、連立 1 次方程式の解法に応用できること。

【授業の計画】

1. 行列の定義, 行列の演算 (その 1)
2. 行列の定義, 行列の演算 (その 2)
3. 行列の基本変形
4. 基本変形と正則行列
5. 逆行列の求め方 (I)
6. 連立 1 次方程式の解法 (I)(その 1)
7. 連立 1 次方程式の解法 (I)(その 2)
8. 連立 1 次方程式の解法 (I)(その 3)
9. 行列式の定義
10. 行列式の性質 (その 1)
11. 行列式の性質 (その 2)
12. 行列式の展開
13. 逆行列の求め方 (II)
14. 連立 1 次方程式の解法 (II)
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】戸田暢茂著「基礎線形代数学」学術図書出版社

【成績評価の方法】受講姿勢とレポート提出物による平常点と期末試験の得点によって評価します。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】授業内での問題演習の時間を多く取ることは困難なので各自で教科書の問や練習問題に取り組んでください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221003>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (前期)水曜日 16時20分~17時 総合科学部1号館南棟2階2S10室)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I (Calculus 1)

(工 ((生)1年))

大橋 守・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】微分積分学は、線形代数学と並び、現代の数学の基礎をなすもので、生物工学を学ぶ上で数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠なものである。微積分は、高等学校でもある程度学んでいるが、断片的な知識の習得のみならず、基礎概念がどのように形成されたかが明らかになるようにする。特に、微分積分学 I では、1 変数関数の微分法と積分法の修得を目的とする。

【授業の概要】高等学校で学習した微分積分の復習をかねながら、1 変数関数の微分法と積分法の理解を深める。

【キーワード】極限、級数、導関数、積分

【到達目標】極限の概念の理解及び 1 変数関数の微分・積分法を理解し、その応用について学ぶ。

【授業の計画】

1. 数列と関数の極限
2. 連続関数
3. 初等関数
4. 微分係数
5. 導関数
6. 平均値の定理
7. テイラーの定理
8. 微分法の実用
9. 定積分 (1)
10. 定積分 (2)
11. 積分の計算
12. 広義積分
13. 積分の実用
14. 級数の収束・発散
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】高桑昇一郎著『例題で分かる微分積分』培風館

【参考書等】池辺信範、神崎正則、中村幹雄、緒方明夫著『微分積分学概説』培風館

【成績評価の方法】出席、小テスト、レポートなどと、期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【講師へのメッセージ】演習問題等を自分自身で考え、理解を深めてください。また、定理や公式の証明もきちんと理解するよう心がけてください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221004>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 11 時 55 分 ~ 12 時 50 分)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I (Calculus 1)

(工((電B)1年))

水野 義紀 准教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

2単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は最も基礎的で汎用性の高い科目のひとつである。この講義では極限、連続等の数学的概念、微分についての基本的な考え方を修得する。さらに、それにかかわる計算力や応用力を身につける。生半可な修得では微分方程式など以降の数学関連科目を学習するのも支障をきたすであろう。先人達の知恵の結晶が誰にでも学びやすく整理されています。感謝もしつつ学びましょう。

【授業の概要】 微分積分学は工学において最も基本的な道具として用いられる学問の一つである。本講義では、まず 1 変数関数の微分法について十分学んだ上で、2 変数関数の微分法および実際問題への応用について学ぶ。

【キーワード】 極限、微分、偏微分

【関連科目】 『基礎数学/ 微分積分学 II』(0.5)

【到達目標】

1. 基本的な極限の計算が行える。
2. 1 変数関数の微分法を理解し、導関数の計算が行える。
3. 偏微分概念を理解し、偏導関数の計算が行える。

【授業の計画】

1. 極限值
2. 微分法の公式
3. 初等関数の微分
4. 高階導関数
5. 平均値の定理
6. 不定形の極限值
7. テイラー展開
8. 関数の増減と極値
9. 偏導関数
10. 全微分可能性
11. 2 変数合成関数の微分
12. 陰関数
13. 2 変数のテイラーの定理
14. 条件つき極値問題

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 教科書:水本久夫 『微分積分学の基礎 改訂版』 培風館

【参考書等】 齊藤正彦 『微分積分学』 東京図書

【成績評価の方法】 小テスト 15%, レポート 15%, 期末試験 70%

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 講義内容を確実に理解するには各自が普段から自主的な演習を行い復習を重ねることが必要である。鑑賞するだけでなく自身の手を動かすことが不可欠である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220999>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 水野 (建設棟 204, 088-656-7542, mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜 17:00 から 18:00)

【備考】 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I (Linear Algebra 1)

(工((電B)1年))

蓮沼 徹・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】線形代数学は、微分積分学とならんで数学の基本であり、自然科学、工学、情報科学、社会科学など様々な分野への応用をもっている。本講義では線形代数学の基本的概念の理解と基本的手法の習得を目的とする。

【授業の概要】授業は教科書に沿って講義形式で行い、行列の演算、行列の基本変形、連立 1 次方程式の解法、行列式の計算方法について解説する。また、演習の時間を設け、演習問題を解いてもらう。

【キーワード】行列、行列の基本変形、行列式

【関連科目】『基礎数学/線形代数学 II』(1.0)

【到達目標】行列と行列式に関する基本的な計算ができ、連立 1 次方程式の解法に応用することができる。

【授業の計画】

1. 行列
2. 行列の演算
3. 正則行列
4. 行列の基本変形
5. 行列のランク
6. 行列の正則性
7. 逆行列の求め方
8. 連立 1 次方程式
9. 同次連立 1 次方程式
10. 行列式
11. 行列式の基本性質
12. 行列式の性質
13. 行列式の展開公式
14. 行列式の応用
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】守安一峰・小野公輔 共著 「理工系の線形代数学入門」サイエンス社

【成績評価の方法】期末試験 (65%)、授業への取り組み状況及び演習課題レポート (35%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】授業に積極的に取り組むようにしてください。予習、復習も心がけてください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221000>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I (Linear Algebra 1)

(工 ((知)1 年))

岡本 邦也 講師/工学部

2 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は、微分積分学とならんで大学初年度の数学の 2 本の大きな柱である。それは線形代数学の理論が、自然科学や工学はもちろんのこと、情報科学や社会科学などの分野において広く応用されているからである。この授業では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理科学の基礎的手法の修得を目的とする。

【授業の概要】 最も重要な線形空間である数ベクトル空間を対象として、線形空間や線形写像の基本的な事項を解説する。また、必要に応じて演習問題を解いてもらう。

【到達目標】 線形空間に関する基本的な事項、及び線形写像としての行列の本質を理解する。

【授業の計画】

1. 授業に関する諸注意
2. 集合と論理
3. 連立一次方程式
4. ガウス-ジョルダンの消去法
5. 行列の基本的演算
6. 数ベクトル空間
7. 線形独立, 線形従属
8. 部分空間
9. 基底
10. 次元
11. 線形写像
12. 行列のランク
13. 行列の基本変形
14. 直和, 次元定理
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 松本和一郎著『線形代数入門』, 共立出版

【成績評価の方法】 講義への取り組み状況, 演習の回答, レポート等の平常点 (30%) と期末試験の成績 (70%) を総合して行う。全体で 60% 以上で合格とする。

【再試験の有無】 有

【講師へのメッセージ】 授業には積極的に取り組むこと。予習復習は必ず行うこと。

【WEB 頁】 <http://math9.pm.tokushima-u.ac.jp/lecture/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221001>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 岡本(工学部A棟212室, TEL/FAX: 088-656-9441, E-mail: okamoto@pm.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: **【WEB 頁】** のHPを参照のこと)

【備考】 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I (Calculus 1)

(工 ((知)1 年))

伊藤 正幸・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、線形代数学と並び、現代の数学の基礎をなすものであり、学生諸君が将来各方面で諸問題に出会ったときに、数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠な考え方や知識を提供するであろう。微積分は、高等学校でもある程度学んでいるが、この枠を越え真に有用な知識の体系を得るには緻密で長い理論展開が要求され、かなりの努力が必要になる。この授業は、このような微積分を学ぶことによって、断片的な知識の習得のみならず、今後必要となる、理論的な推論法、論理的な推論展開を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 微分積分学 I と後期に開講される微分積分学 II とあわせて、微分積分学の基礎を学ぶことになる。便宜上、微分積分学 I においては、主として微分法を、微分積分学 II においては、積分法を学ぶ。主な項目は、1. 微分法 2. 初等関数の微分 3. 高階導関数 4. 平均値の定理 5. テイラーの定理 6. 偏微分法 7. 2変数関数の合成関数の微分 8. 2変数関数のテイラーの定理

【キーワード】 微分, 積分, 偏微分法

【関連科目】 『基礎数学/ 微分積分学 II』(0.5)

【到達目標】 高等学校の微積分の知識を広げ、基本的な初等関数の微分計算が確実に出来、初等関数の級数展開と多変数関数の微分の意味を理解できる。

【授業の計画】

1. 数学的準備, 実数
2. 極限值と連続関数
3. 導関数と微分法の公式
4. 初等関数の微分 1
5. 初等関数の微分 2
6. 高階導関数
7. ライプニッツの公式
8. 平均値の定理 1
9. 平均値の定理 2
10. テイラーの定理 1
11. テイラーの定理 2
12. 2変数関数の極限值と連続性

13. 偏微分法と全微分

14. 合成関数の微分

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 微分積分学の基礎 (改訂版) 水本久夫著 培風館

【成績評価の方法】 受講姿勢と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 講義内容の理解には日々の予習、復習が必要不可欠です。積極的な取り組みを期待しています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221002>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 1. 火曜日 12:00-12:45, 2. 月曜日 16:30-17:30)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I (Linear Algebra 1)

(工 (光)1 年)

片山 真一・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 現代の科学技術の維持発展のために欠かすことのできない数学の技術として線形代数学は、微分積分学とならんで大学初年度の数学の 2 本の大きな柱である。それは線形代数学の理論が、自然科学や工学はもちろんのこと、情報科学や社会科学などの分野において広く応用されているからである。この授業では、高校で学んだ数学の知識を踏まえて線形代数学の理論的な理解と同時に数理科学の基礎的手法の修得を目的とする。今後の工学の専門分野の知識の修得には、線形代数学の理論的な理解と基本技術の習得は欠かすことができない。

【授業の概要】 行列や行列式の性質、計算方法、行列の基本変形、連立 1 次方程式の理論と解法について解説する。また、必要に応じて演習問題を解いてもらう。

【キーワード】 行列、行列式、連立 1 次方程式

【関連科目】 『基礎数学/線形代数学 II』(1.0)

【到達目標】 行列、行列式に関する基本的な計算方法を習得し、連立 1 次方程式の解法に活用できる。

【授業の計画】

1. 授業計画と導入
2. 連立一次方程式の解法
3. 行列
4. 行列の演算
5. 逆行列の求め方 (はき出し法)
6. 数ベクトル空間
7. 部分空間
8. 基底と次元
9. 行列式の定義
10. 行列の性質
11. 行列式の展開
12. クラームルの公式
13. 逆行列の公式
14. 前期のまとめ

15. 定期試験

16. 総括授業

【教科書】 中原徹 他著 「線形代数入門」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 期末試験 (60~70%) およびレポート、授業への取り組み状況 (30~40%) をもとに総合的に評価する

【再試験の有無】 有。ただし、総合評価が 30 点未満のものは再試験の受験資格は無いことがある。

【受講者へのメッセージ】 常に自主的に復習し、授業内容のすすみ具合を自分で確認していくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221005>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I (Calculus 1)

(工 (光)1 年))

片山 真一・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は現代社会の持続発展のための科学技術の基礎として必要な数学のその 1 番の基礎となる道具の 1 つである。本講義では、微分積分学の微分の部分に重点を置いて学ぶ。また後期の微分積分学 II では、積分に重点を置いて学ぶ。本講義では、高校で習った数学 II, 数学 III を改めて基礎として 1 変数の微分概念について改めて見直して、専門分野で用いるための基本的な数学としての微分概念を把握す。また同時に 基本となる微分の計算法に習熟することを目的とする。

【授業の概要】 高校で学習した 1 変数の微分法を理論的に深め、その計算法、応用について講義する。さらに、2 変数以上の多変数関数の微分法とその応用を講義する。

【キーワード】 連続関数, 1 変数関数の微分, 多変数関数の微分

【関連科目】 『基礎数学/ 微分積分学 II』(0.9), 『基礎物理学/ 基礎物理学 f・力学概論』(0.5)

【到達目標】 微分学についての基礎概念を理解し、極限、微分、偏微分の計算ができること。

【授業の計画】

1. 三角関数と指数関数
2. 極限
3. 連続関数
4. 1 変数関数の微分
5. 平均値の定理
6. テーラーの定理
7. テーラー展開
8. 2 変数関数の極限
9. 偏微分
10. 高次偏導関数
11. 全微分可能性
12. 合成関数の微分, テーラーの定理
13. 2 変数関数の極値 (1)
14. 2 変数関数の極値 (2)

15. 定期試験

16. 総括授業

【教科書】 教科書:小竹・天羽共著 「初等微積分」 牧野書店

【成績評価の方法】 随時行うレポートの提出内容を約 3 割, 期末試験の結果を約 7 割として総合的に評価する。なお評価割合は目安であって年度によって変化することがある。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業には積極的に取り組むこと。予習復習は必ず行うこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221006>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 I・物理学概論 (General Physics 1)

(医 ((医)1年))

中山 信太郎・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】 専門教育を理解するうえで必要な物理学とくにニュートン力学を中心とする分野の知識と考え方を習得することを目的とする。高校の物理と大学の物理との連携に重きを置き、力学の基本原則と考え方を学ぶ。

【授業の概要】 古典力学の初歩を学ぶ。ニュートン力学の基本的な 3 法則から物体のさまざまな運動がどのように理解されるのかを知る。個々の事象についての問題演習を通して力学理論を理解し、その考え方を身につける。

【キーワード】 速度・加速度、運動方程式、初期条件、エネルギー、運動量と角運動量

【到達目標】

1. 物体の運動を表す速度および加速度について理解し、運動方程式を用いて簡単な物体の運動を理解する。
2. 運動方程式を立て、微分・積分の技法を用いて解けるようになる。その際、初期条件の意味を理解する。
3. 仕事、運動エネルギー、位置エネルギーおよび力学的エネルギー保存則などについて理解する。
4. 多体系および剛体の運動を扱う方法を学び、運動量、角運動量および力のモーメントなどについて理解する。

【授業の計画】

1. 数式と関数
2. 三角関数とベクトル
3. 微分と積分
4. 力学の基本
5. 運動の表し方
6. 運動の法則
7. 等加速度運動
8. 力と運動
9. 単振動
10. 慣性力
11. 等速円運動
12. 惑星の運動

13. 仕事とエネルギー

14. 保存力と位置エネルギー

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】

◇ 自作テキスト、生協で販売予定

◇ 物理学演習問題集力学編原康夫著学術図書

【参考書等】 参考書 岩波物理入門コース「力学」 戸田盛和著 岩波書店

【成績評価の方法】 期末テストのほか小テストによる演習および授業参加状況などを総合して評価する。

【再試験の有無】 小テストが一定レベルに達しているものは再試験を認める。

【受講者のメッセージ】 私語、居眠り、ガムをかみながらの聴講は厳禁である。真剣に勉強する気が見受けられない学生には単位を出さない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221007>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月～金 17:30～18:00)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論 (Mechanics)

(医 ((放)1年))

真岸 孝一・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】身の周りのいろいろな現象に対する物理学的なものの方とそれらを数学的に取り扱う力を養うための方法として、ニュートン力学を学ぶ。力学は、ほかのさまざまな分野の現象や法則を理解するための基礎を与えるものが多く、その方法論は最も基本となる。

【授業の概要】まず、運動の法則を解説し、運動方程式を用いて種々の運動を解く。特に重力による物体の運動を理解する。さらに、運動の保存量であるエネルギー・運動量・角運動量を導入し、その保存則を用いて運動を解く方法を、例題を用いて解説する。

【キーワード】古典力学、運動方程式、力学的エネルギー保存則、運動量保存則

【先行科目】『大学入門講座/ 大学入門講座 (医・保健)』(1.0)

【関連科目】『基礎数学/ 微分積分学』(0.5)

【到達目標】

1. 運動方程式を用いて物体の運動を理解する。
2. 運動の保存量を用いて物体の運動を理解する。

【授業の計画】

1. 質点と座標系, ベクトル
2. 位置, 速度, 加速度
3. 運動の法則
4. 質点の簡単な運動
5. 仕事とエネルギー
6. 力学的エネルギー保存則
7. いろいろな振動
8. 中間試験
9. 中心力を受ける質点の運動
10. ケプラー法則と万有引力
11. 質点系の運動
12. 質点系の全角運動量と回転運動
13. 剛体の運動
14. 相対運動
15. 学期末試験

16. 総括授業

【教科書】河辺哲次著「スタンダード 力学」裳華房 2006 年 2,100 円

【成績評価の方法】中間試験, 学期末試験, レポート, 授業への取り組み状況などを元に総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】授業中でもオフィスアワーの時間でも、質問や討論をおおいに歓迎します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221008>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 I・物理学概論 (General Physics 1)

(歯((歯)1年))

齊藤 隆仁・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】 歯科医師として、生体内で起きている現象あるいは材料の物性などを理解する必要がある。その基本となる自然科学を理解するために運動・力・エネルギーについての基礎的な知識、考え方を修得し、生命を含めた自然現象の理解をより深め、専門教育の基礎となることを目的とする。

【授業の概要】 まず古典力学の初歩を修得し、その過程で導かれる種々の物理概念、例えば、運動量、仕事、力学的エネルギー、角運動量、力のモーメント等について考察を加える。

【キーワード】 運動, 力, エネルギー

【関連科目】 『基礎数学/微分積分学』(1.0), 『基礎物理学実験/基礎物理学実験 A』(1.0), 『基礎物理学実験/基礎物理学実験 B』(1.0), 『自然科学入門/物理学』(1.0)

【到達目標】

1. 運動方程式を記述し、物体の簡単な運動を解明する方法を修得する。
2. 剛体の性質として、応力とひずみ、回転運動を理解する。

【授業の計画】

1. 導入, 自然科学の構造, 単位と次元
2. 1次元の運動
3. 運動を表すための微分・積分
4. 運動を表すためのベクトル
5. 釣り合う力
6. ニュートンの運動に関する3つの法則
7. いろいろな力
8. 加速度運動
9. 運動量と力積
10. 仕事と運動エネルギー
11. 位置エネルギー
12. 力学的エネルギー保存則
13. 剛体と作用する力
14. 剛体の運動
15. 学期末テスト

16. 総括授業

【教科書】 『専門基礎ライブラリー 基礎物理 1』, 金原繁ほか著, 実教出版, 2005年, 1,800円

【参考書等】 『物理学の世界』 服部敏彦・水野清著, 学術図書 2000円 (税別)

【成績評価の方法】 期末テストに小テストを加味する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 物理の授業は内容の理解が重要である。そのためには、前回の授業内容をよく理解しておくことが必要である。理解の一助として小テストをできる限り行う。高校での物理の未履修者は、自然科学入門・物理学を受講すること。

【WEB 頁】 <http://lms.medsci.tokushima-u.ac.jp>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221009>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp)

MAIL (オフィスアワー: 水曜日 12:00~ 12:50)

基礎物理学 (Basic Physics)

力学及び熱力学 (Mechanics and Thermodynamics)

(薬 (薬1年))

日置 善郎・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】薬学部教育課程の中心をなす化学系・生命科学系の専門科目を履修するときの基礎となる熱力学の基本的事項を解説する。合わせて現代社会の諸問題に対処できる科学的・論理的思考力を養成する。

【授業の概要】前半では、熱力学学習の基礎となる力学を、必要項目に的を絞って解説し、後半において、それを土台としてエネルギー、エントロピーという重要な概念を中心に熱力学へと話を進めていく。

【キーワード】ベクトル、運動方程式、運動量保存則、力学的エネルギー保存則、熱力学第 1 法則、熱力学第 2 法則、カルノーサイクル、熱力学的絶対温度、エントロピー増大則

【到達目標】高校時代に養った(?)物理学に対する苦手意識を克服し、少数の基本法則から種々の現象を理解する物理学、特に熱力学の体系の基本的な構成を理解できるようになること。化学の中に現れる熱力学の諸法則に戸惑わないようになること。

【授業の計画】

1. 数学的準備 (その 1)
2. 数学的準備 (その 2)
3. 力学の基本法則
4. 力学的エネルギー保存則
5. 中間試験
6. 温度と熱
7. 熱力学第 1 法則 (その 1)
8. 熱力学第 1 法則 (その 2)
9. 熱力学第 1 法則 (その 3)
10. 熱力学第 2 法則 (その 1)
11. 熱力学第 2 法則 (その 2)
12. 熱力学第 2 法則 (その 3)
13. エントロピー (その 1)
14. エントロピー (その 2)
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】『基礎物理学 (力学・熱力学)』 (自製テキスト:講義開始時に説明)

【参考書等】

- ◇ 参考書 1: 戸田盛和『熱・統計力学』岩波書店,
- ◇ 参考書 2: 朝永振一郎『物理学とはなんだろうか (上・下)』岩波書店

【成績評価の方法】小テスト・中間試験 (力学)・期末試験 (熱力学) の結果と受講態度を総合して評価する (評価割合基準は小テスト 30%, 中間試験 30%, 期末試験 30%, 受講態度 10%)。なお、言うまでもないことだが、講義中の私語・携帯電話の使用などは厳禁する。違反者は、その時点までの成績には一切無関係に、その場で再受講とする。

【再試験の有無】有 (但し、不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【受講へのメッセージ】高校で物理を履修していれば理解しやすいことは間違いないが、しかしそのような予備知識は前提としない。但し、微分・積分の基本については、全員既習として話を進める。何らかの理由で、微積分の勉強をしていない学生は、必ず前もって自習しておくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221010>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 11:50~ 13:00 (質問などは在室中ならいつでも可))

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論 (Mechanics)

(工 ((建)1 年))

日置 善郎・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】 建設工学を学ぶための重要な基礎となる力学の基本的事項をわかりやすく解説する。合わせて現代社会の諸問題に柔軟に対処できる科学的・論理的思考力を養成する。

【授業の概要】 力学を記述するために必要なベクトルおよびその微分積分を整理し、力学の基礎である運動の法則を学ぶ。次にその応用を通じて理解を深め、力学的エネルギー保存則へと話を進める。続いて、角運動量とそれを土台とした惑星の運動を扱ったのち、より現実的な題材である多体系および剛体の力学の初歩を解説する。

【キーワード】 ベクトル, 運動の法則, 運動方程式, 運動量保存則, 力学的エネルギー保存則, 角運動量保存則, 剛体

【関連科目】 『基礎数学/微分積分学』(0.5), 『高大接続科目/数学』(0.5)

【到達目標】

1. 運動方程式を理解し、その簡単な応用が出来るようになること。
2. 運動量, 力学的エネルギー, 角運動量とその保存則について理解すること。
3. 多体系および剛体の運動を扱う基本的な方法を理解すること。

【授業の計画】

1. 物理量とベクトル
2. 運動の法則
3. 運動量保存則・力積
4. 自由落下 (空気抵抗のない場合)
5. 自由落下 (空気抵抗がある場合)
6. 放物運動
7. 単振動
8. 仕事とエネルギー
9. 偏微分と全微分
10. 力学的エネルギー保存則
11. ベクトル積 (外積) と角運動量
12. 角運動量保存則
13. 惑星の運動
14. 多体系と剛体の力学

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 自製テキスト使用 (詳しい説明は第 1 回目に行う)

【成績評価の方法】 小テスト・期末試験・受講態度を総合して判定する (評価割合の基準:小テスト 30%, 期末試験 60%, 受講態度 10%)。詳しい説明は第 1 回目の講義において行う。なお、言うまでもないことだが、講義中の私語・携帯電話の使用などは厳禁する。違反者は、その時点までの成績には一切無関係に、その場で再受講とする。

【再試験の有無】 有 (但し、不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【受講者のメッセージ】 高校で物理を履修していれば理解しやすいことは間違いないが、しかしそのような予備知識は前提としない。但し、微分・積分の基本については、全員既習として話を進める。何らかの理由で、微積分の勉強をしていない学生は、必ず前もって自習しておくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221011>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 11:50~ 13:00 (質問などは在室中ならいつでも可))

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論 (Mechanics)

(工((機)1年))

中山 信太郎・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】 専門教育を理解するうえで必要な物理学とくにニュートン力学を中心とする分野の知識と考え方を習得することを目的とする。高校の物理と大学の物理との連携に重きを置き、力学の基本原則と考え方を学ぶ。

【授業の概要】 古典力学の初歩を学ぶ。ニュートン力学の基本的な 3 法則から物体のさまざまな運動がどのように理解されるのかを知る。個々の事象についての問題演習を通して力学理論を理解し、その考え方を身につける。

【キーワード】 速度・加速度、運動方程式、初期条件、エネルギー、運動量と角運動量

【到達目標】

1. 物体の運動を表す速度および加速度について理解し、運動方程式を用いて簡単な物体の運動を理解する。
2. 運動方程式を立て、微分・積分の技法を用いて解けるようになる。その際、初期条件の意味を理解する。
3. 仕事、運動エネルギー、位置エネルギーおよび力学的エネルギー保存則などについて理解する。
4. 多体系および剛体の運動を扱う方法を学び、運動量、角運動量および力のモーメントなどについて理解する。

【授業の計画】

1. 数式と関数
2. 三角関数とベクトル
3. 微分と積分
4. 力学の基本
5. 運動の表し方
6. 運動の法則
7. 等加速度運動
8. 力と運動
9. 単振動
10. 慣性力
11. 等速円運動
12. 惑星の運動

13. 仕事とエネルギー

14. 保存力と位置エネルギー

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】

◇ 自作テキスト、生協で販売予定

◇ 物理学演習問題集 力学編 原康夫著 学術図書

【参考書等】 岩波物理入門コース「力学」 戸田盛和著 岩波書店

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、小テスト、期末試験などによる。

【再試験の有無】 小テストが一定レベルに達しているものは再試験を認める

【受講者のメッセージ】 私語、居眠り、ガムを噛みながらの聴講は厳禁である。真剣に勉強する気が見受けられない学生には単位を出さない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221012>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月～金 17:30～18:00)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論 (Mechanics)

(工((化)1年))

岸本 豊 教授/工学部

2単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】学部における専門教育を理解する上で必要になる基礎的な力学的知識およびその考え方を習得する。基礎的な力学現象を中心にそれらの数学的記述を理解することを目的とする。

【授業の概要】質点の運動におけるニュートンの運動法則の数学的記述を示し、基本的な力学現象にそれを適用することにより、その運動を理解する。次いで、運動量、力学的エネルギー、角運動量の保存則を概観する。

【キーワード】ニュートンの運動法則、力学的エネルギー、運動量、角運動量

【関連科目】『基礎物理学/基礎物理学 g・電磁気学概論』(0.5)

【到達目標】

1. 力という抽象的概念及びニュートンの運動方程式を理解する
2. 仕事、運動エネルギー、保存力とポテンシャルエネルギーの関係、及び力学的エネルギーの保存則について理解する
3. 運動量とその保存則、また回転運動を角運動量、トルクという物理量で捉える方法について理解する

【授業の計画】

1. 運動の表し方と数学的基礎-1
2. 運動の表し方と数学的基礎-2
3. 運動法則
4. 自由落下
5. 放物運動
6. 単振動
7. 基本的な力と運動の補足
8. 力学的エネルギー保存則
9. 質点系の運動-I
10. 質点系の運動-II
11. 質点系の運動-III
12. 剛体の運動と慣性モーメント
13. 剛体の運動まとめ
14. 惑星の運動
15. 期末試験

16. 総括

【教科書】近藤淳著、力学、裳華房

【成績評価の方法】レポート、期末試験、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】公式を暗記するのではなく、力やエネルギーという抽象的概念を理解することが肝心である。教科書には独習できるように、丁寧に書かれた本を選定している。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221013>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 岸本 (A 棟 202, 088-656-7548, yutaka@pm.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜日 16:00-17:30)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論 (Mechanics)

(工((生)1年))

大野 隆・非常勤講師/全学共通教育センター

2単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】 専門教育を理解するうえで必要な物理学, 特にニュートン力学を中心とする分野の知識と考え方を習得することを目的とする. 力学の基本原則と考え方を学ぶことにより, 自然の力学現象・物理法則の理解がより容易となることを願う.

【授業の概要】 古典力学の初歩を学ぶ. ニュートン力学の基本的な 3 法則から物体のさまざまな運動がどのように理解されるのかを知る. 個々の事象についての問題演習を通して力学理論を理解し, その考え方を身につける.

【キーワード】 運動方程式, 運動の 3 法則, 運動エネルギー, 位置エネルギー, 仕事, 釣り合い

【関連科目】 『基礎数学/微分積分学 I』(1.0), 『基礎数学/線形代数学 I』(0.5)

【到達目標】

1. 物体の運動を表す速度および加速度について理解し, 運動方程式を用いて簡単な物体の運動を理解する.
2. 運動方程式を立て, 微分・積分の技法を用いて解けるようになる. その際, 初期条件の意味を理解する.
3. 仕事と運動エネルギー, 位置エネルギーの関係, 力学的エネルギーの増減との関係を理解する.

【授業の計画】

1. 力とベクトル
2. 大きさを無視した物体, 大きさがある物体の釣り合い
3. 速度と加速度
4. ニュートンの運動の法則
5. 運動方程式
6. 一様な重力など一定の力の下での運動
7. 速度に比例する抵抗力がある場合の運動
8. 変位に比例する復元力がある場合の運動
9. 接線加速度と法線加速度
10. 円運動, 単振り子, エネルギー積分
11. 仕事と運動エネルギー
12. 仕事と位置エネルギー, 力学的エネルギーの変化

13. 力積と運動量変化

14. 力のモーメントと角運動量の変化, 剛体の平面運動

15. 学期末試験

16. まとめ

【教科書】 第 4 版 「物理学基礎」原 康夫著 学術図書出版社 2,400 円

【参考書等】 岩波物理入門コース「力学」, 戸田盛和著, 岩波書店

【成績評価の方法】 演習, レポート, 小テスト:30%, 期末テスト:70%

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 暗記よりも理解である. そのためには, 前回の授業内容をよく理解しておくことが必要である. 理解の一助として小テストをできる限り行う. 高校での物理の未履修者は, 高校のテキストを通読しておくことをおすすめする.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221015>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大野 (A 棟 201, 088-656-7549,)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論 (Mechanics)

(工((電)1年))

中山 信太郎・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】 専門教育を理解するうえで必要な物理学とくにニュートン力学を中心とする分野の知識と考え方を習得することを目的とする。高校の物理と大学の物理との連携に重きを置き、力学の基本原則と考え方を学ぶ。

【授業の概要】 古典力学の初歩を学ぶ。ニュートン力学の基本的な 3 法則から物体のさまざまな運動がどのように理解されるのかを知る。個々の事象についての問題演習を通して力学理論を理解し、その考え方を身につける。

【キーワード】 速度・加速度、運動方程式、初期条件、エネルギー、運動量と角運動量

【到達目標】

1. 物体の運動を表す速度および加速度について理解し、運動方程式を用いて簡単な物体の運動を理解する。
2. 運動方程式を立て、微分・積分の技法を用いて解けるようになる。その際、初期条件の意味を理解する。
3. 仕事、運動エネルギー、位置エネルギーおよび力学的エネルギー保存則などについて理解する。
4. 多体系および剛体の運動を扱う方法を学び、運動量、角運動量および力のモーメントなどについて理解する。

【授業の計画】

1. 数式と関数
2. 三角関数とベクトル
3. 微分と積分
4. 力学の基本
5. 運動の表し方
6. 運動の法則
7. 等加速度運動
8. 力と運動
9. 単振動
10. 慣性力
11. 等速円運動
12. 惑星の運動

13. 仕事とエネルギー
14. 保存力と位置エネルギー
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 自作テキスト、生協で販売予定
- ◇ 物理学演習問題集 力学編 原康夫著 学術図書

【参考書等】 参考書岩波物理入門コース「力学」戸田盛和著 岩波書店

【成績評価の方法】 期末テストのほか小テストによる演習および授業参加状況などを総合して評価する。

【再試験の有無】 小テストが一定レベルに達していれば再試験を認める。

【受講者のメッセージ】 私語、居眠り、ガムをかみながらの聴講は厳禁である。真剣に勉強する気が見受けられない学生には単位を出さない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221014>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月～金 17:30～18:00)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論 (Mechanics)

(工 ((光)1年))

岸本 豊 教授/工学部

2単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】学部における専門教育を理解する上で必要になる基礎的な力学的知識およびその考え方を習得するとともに、応用能力を身に付けることを目的とする。基礎的な力学現象を中心にそれらの数学的記述を理解することを目的とする。

【授業の概要】質点の運動におけるニュートンの運動法則の数学的記述を示し、基本的な力学現象にそれを適用することにより、その運動を理解する。次いで、運動量、力学的エネルギー、角運動量の保存則を概観する。また、質点系の運動をもとに剛体の運動についての数学的記述を概観する。

【キーワード】ニュートンの運動法則、運動量、力学的エネルギー、質点系の運動、剛体の運動

【到達目標】

1. ニュートンの運動方程式を理解する。
2. 運動量、角運動量、力学的エネルギーについて理解する。
3. 質点系および剛体の運動について理解する。

【授業の計画】

1. 運動の表し方と数学的基礎
2. 基本的な運動
3. 運動法則
4. 基本的な力と運動 I—自由落下
5. 基本的な力と運動 II—放物運動
6. 基本的な力と運動 III—単振動
7. 基本的な力と運動 IV—万有引力
8. 基本的な力と運動-補足
9. 力学的エネルギー保存則
10. 質点系の運動 I-質量中心と相対座標, 運動量保存則
11. 質点系の運動 II-角運動量と中心力
12. 質点系の運動 III-角運動量保存則
13. 剛体の運動と慣性モーメント
14. 剛体の運動まとめ
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】近藤 淳著, 力学, 裳華房

【成績評価の方法】レポート+期末試験 (70%), および授業への取り組み状況 (30%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】再試験期間に再試験を行う。

【授講へのメッセージ】基本的な力学現象を中心にさまざまな法則などが導かれる過程に重点を置き、初歩的な微積分学による数学的な記述を交えながら話を進める。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221016>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 岸本 (A 棟 202, 088-656-7548, yutaka@pm.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜日 16:00-17:30)

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 I・生化学の基礎 (Basic Chemistry 1: Biochemistry)

(医 ((医)1年))

佐々木卓也・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 坂根 亜由子・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

1単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】糖質の化学:単糖の化学, オリゴ糖の化学を理解する. タンパク質の化学:アミノ酸の化学, ペプチドの化学の基礎ならびに化学を理解する. 脂質の化学:脂肪酸の化学, 中性脂肪の化学, リン脂質の化学の基礎を理解する. 核酸の化学:塩基の化学, ヌクレオチドの化学の基礎を理解する. なお, 理解したことを化学的に説明できることを要求する.

【授業の概要】現在, 特に大学病院等の高度医療を行う病院では, 単に患者さんを診るだけではなく, 疾病の病態を分子レベルで理解し, 診断や治療につなげることができる医師が必要とされている. そのためには, この時期に基礎学問 (化学, 生物学, 物理化学, 生化学, 細胞生物学等) をしっかり学習しておくことがいかに重要かを意識できるような講義にしたい.

【キーワード】化学, 生物学

【到達目標】

1. 生命現象を分子レベルで理解するため, 次の基本事項を理解し, 身につける.
2. 化学構造式と生体分子の構造 (詳しくは基礎化学 IIA・IIB で学習する)
3. 基礎となる化学, 物理化学の知識
4. 蛋白質の構造と機能, 特に酵素と触媒機能
5. 主要な代謝経路とその調節機構

【授業の計画】

1. 生化学と医学
2. 細胞
3. アミノ酸・ペプチド・タンパク質
4. 酵素
5. 糖質
6. 糖質の代謝
7. 好氣的代謝
8. 脂質と膜
9. 脂質の代謝
10. 窒素の代謝 I
11. 窒素の代謝 II
12. 核酸

13. 遺伝情報
14. タンパク質の合成
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】マッキー生化学 (第 4 版) 化学同人

【参考書等】

- ◇ イラストレイテッドハーパー生化学 (原著 27 版) 丸善
- ◇ レーニンジャーの新生化学 (上,下)(第 5 版) 廣川書店
- ◇ Essential 細胞生物学 (原著第 2 版) 南江堂
- ◇ 細胞の分子生物学 (第 5 版) ニュートンプレス

【成績評価の方法】小テストおよび学期末試験で評価する

【再試験の有無】100 点満点で 60 点未満の者は 1 回だけ再試験を行う

【受講者のメッセージ】医学部に入ってもすぐに医者にはなれませんが, 医学の勉強は 1 年生からでも自分ひとりでできるはずですよ. そういう「つわもの」になってください.

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221017>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 佐々木 (088-633-9223, sasaki@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学Ⅱ・有機化学(ライフサイエンスの基礎) (Organic Chemistry)

(医((栄)1年))

増田 晃子・非常勤講師

2単位 前期 木 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『基礎化学』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 有機化学は生命体から得られる物質を扱う学問として始まり、現在ではひろく炭素化合物の化学と定義されている。分子レベルで考えると、食物やそれらが摂取される生体の生命現象は「有機物質とその反応」として理解できる。栄養学を専攻するにあたり有機化学を基礎学問として身につけることが望まれる。

【授業の概要】 以下の内容について講義を行う予定である。～有機化合物の構造・有機化合物の分類と命名法・有機化合物の性質と反応機構・食品成分、生体成分の有機化学～教科書に沿って進めるが講義にて内容を補充する。また有機化合物の構造や反応の学習のために演習を行う。

【キーワード】 有機化学, 構造, 反応, 化合物

【関連科目】 『基礎化学実験/基礎化学実験』(0.5), 『基礎化学/基礎化学Ⅰ・物理化学(化学平衡と反応速度論)』(0.5)

【到達目標】

1. 有機化合物の構造式, 命名法を理解する。
2. 有機化合物の性質と反応機構の基礎を理解する。
3. 食品成分や生体成分を分子レベルでとらえ, その性質を有機化学の知識を基に理解する。

【授業の計画】

1. 有機化学の基本概念
2. 原子の構造
3. 化学結合論①
4. 化学結合論②
5. 有機化合物の構造
6. 有機化合物の炭素骨格①アルカン
7. 異性体
8. 有機化合物の炭素骨格②アルケン, アルキン
9. 有機化合物の炭素骨格③芳香族化合物
10. 小テスト
11. 官能基の化学①アルコール, フェノール
12. 官能基の化学②アルデヒド, ケトン

13. 官能基の化学③カルボン酸

14. 官能基の化学④カルボン酸誘導体⑤アミン※以上は授業進度により変更することがある。

15. 学期末試験

16. 総括授業

【教科書】 熊谷 仁, 熊谷 日登美, 大熊 恵美子著 「栄養学・食品学を学ぶ人のための初歩の有機化学」 アイ・ケイコーポレーション

【成績評価の方法】 学期末試験(50%), 小テスト(20%), 授業への取り組み(30%)から評価する。カッコ内パーセントは評価割合の目安である。

【再試験の有無】 原則として無

【受講へのメッセージ】 現時点で化学が得意でも苦手でも, まず取り組んでください。授業の初回に注意事項を話します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221018>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 増田晃子 講義時間前に非常勤講師室で対応します

基礎化学 (Basic Chemistry)

化学の基礎 (Basic Chemistry)

(医 ((放・検)1年))

田村 勝弘・非常勤講師/工学部

2単位 前期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 私たちの周りには化学物質が満ち溢れている。また、全ての物質が原子や原子が結合した分子で構成されている。これら物質について、その構造や性質の理解を深め、生体内での振る舞いや伝搬を理解し、またこれらの事象に対する正しい化学的知識を持つことは、医療に関わる放射線・検査技師として必要不可欠である。この授業では、化学の基礎を学び、化学結合が物質の構造、反応、性質に直接関係していることを学ぶ。また、物質の状態変化や化学反応に伴うエネルギーや有機化合物の性質や特徴について学び、化学的現象についての理解を深めることを目的としている。

【授業の概要】 指定教科書を中心とした講義を行う。物質科学の視点から化学をとらえ、高等学校で履修した基礎理論などを実際に使える知識として完成させる。物質の分類、物質を構成する原子と分子、元素、分子結合理論、物質の状態、物質の変化(反応平衡と速度)、化学反応の基礎(酸・塩基、酸化・還元など)、有機化学の基礎の講義をする。なお、講義は予習・復習を前提として行い、講義の理解度を確認するために小テストも数回行う。

【キーワード】 原子、分子、元素、化学反応

【関連科目】 『基礎生物学/ 基礎生物学 H』(0.5)

【到達目標】

1. 原子・分子の構造について理解すること。
2. 化学反応式の意味を理解する
3. 医農薬に代表される有機化合物の性質について知る

【授業の計画】

1. 物質と人類の発展(物質科学への招待)
2. 物質を構成する粒子 元素と原子
3. 原子の電子配置と周期表
4. 分子とのかたち
5. SI 単位と計算
6. 物質の状態 (気体の状態方程式 1)
7. 物質の状態 (気体の状態方程式 2)
8. 化学反応式が教えてくれること (化学量論)
9. 化学反応式が教えてくれること (反応熱と平衡)

10. 酸と塩基
11. 酸化と還元
12. 有機化学(もう一度結合論, 電子論)
13. 有機化学(芳香族)
14. 有機化学(脂肪族)
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】 教科書: 基礎物質科学 三共出版 2,400 円

【成績評価の方法】 期末試験(60%), 小テスト(30%), 授業への取り組み(10%)で評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 授業で出てくる化学の専門用語は、化学における常識的なものである。予習・復習でよく理解すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221019>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田村 (化 509, 088-656-7416, tamura@chem.tokushima-u.ac.jp) Mail

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 I・物理化学 (平衡と反応速度) (Basic Chemistry and Physical Chemistry(Equilibrium and Reaction Velocity))

(歯 ((歯)1年))

村田 勝夫・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 前期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 将来、臨床上多くの人々と接する歯学部が、人の生体内で生ずる生化学的現象を学習することが必須であると同時に、生体を含めたあらゆる物質がどのような熱力学的な法則に支配され、どのような化学平衡や化学反応速度のもとに化学反応が進行するのかを学習することもまた肝要なことである。そこで本授業では歯学部の学生が、化学反応熱、化学平衡、結合エネルギー、相律等について熱力学的に理解できること。また、酵素反応を含め化学反応速度論についても理解を深めることを目的とする。そして、熱力学と反応速度の諸法則が自然界の物質変化を理解するうえで重要な柱となっており、かつエネルギーを中心とした持続可能な社会を築いていくのに必要な基礎概念であることを認識してもらう。

【授業の概要】 化学の中でも物理化学は、化学の基本となる法則や理論を学ぶ分野であり、化学の本質を理解するためには必要不可欠である。初めに SI 単位を紹介する。量子論や化学結合論は、重要ではあるが割愛する。ここでは理想気体や実在気体の性質、熱力学第 1 法則・第 2 法則、自由エネルギーと相律、そして気体や液体の化学平衡と 1 次反応・2 次反応の反応速度論などを中心に講義する。

【キーワード】 気体の状態方程式、エンタルピー、エントロピー、内部エネルギー、自由エネルギー

【到達目標】

1. 熱力学を通して化学平衡が理解できるようにすること。
2. 熱力学を基礎として、相律や溶液に関する法則を理解すること。
3. 反応速度を支配する因子を理解し、一般の複雑な反応をどのように解釈するかを理解すること。

【授業の計画】

1. SI 単位系
2. 理想気体の性質
3. 気体分子運動論
4. 熱力学第 1 法則
5. 内部エネルギー、エンタルピー
6. 熱力学第 2 法則、エントロピー

7. 自由エネルギー
8. 理想溶液の自由エネルギー、一般の溶液の自由エネルギー
9. 相律と相平衡
10. 固体、溶液、実在気体の自由エネルギーと活動度との関係
11. 電気化学、電離平衡等について熱力学的に検討
12. 化学反応速度の反応次数
13. 速度定数、活性化エネルギー
14. 連続反応、連鎖反応、酵素反応
15. 期末試験
16. 総括講義

【教科書】 真下清, 鈴鹿敢, 沼田靖, 山田和典 著 『物理化学入門』 東京化学社

【成績評価の方法】 主に小テストと期末テストで評価。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 期末テストだけでなく、小テストも時々行うので欠席はしないこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221020>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村田 .

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 IIB・有機化学 (ライフサイエンスの基礎) (Basic Bio-organic Chemistry)

(歯 ((歯)2年))

増田 俊哉・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 中村 光裕・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 歯学を専門に学ぶにあたり, その基礎として, 生体を構成している分子を化学的に理解することは重要である. これらに関する化学的事項を整理し, 受講生全員が同じ基礎知識を有するようになることで, 今後の専門教育に対応できる準備を行うことを目的とする.

【授業の概要】 主要生体成分である糖質, たんぱく質 (含, アミノ酸, ペプチド), 脂質, 核酸 (概略のみ) についてその化学構造, 反応性など基礎的な事項を厳選して講義する. また理解を確実にするために, できる限り小テスト等を行う.

【キーワード】 糖質の化学, たんぱく質の化学, 脂質の化学, 核酸の化学

【先行科目】 『基礎化学/基礎化学 IIA・有機化学 (ライフサイエンスの基礎)』(1.0)

【関連科目】 『基礎化学実験/基礎化学実験』(0.5)

【到達目標】 糖質の化学:単糖の化学, オリゴ糖の化学を理解する. たんぱく質の化学:アミノ酸の化学, ペプチドの化学の基礎ならびに立体化学を理解する. 脂質の化学:脂肪酸の化学, 中性脂肪の化学, リン脂質の化学の基礎を理解する. 核酸の化学:塩基の化学, ヌクレオチドの化学の基礎を理解する. なお, 理解したことを化学的に説明できることを要求する.

【授業の計画】

1. 講義内容の説明, 生体物質理解のための有機化学の復習
2. 生体物質の立体化学
3. 糖質の化学 1
4. 糖質の化学 2
5. 糖質の化学 3
6. 糖質の化学 4
7. 脂質の化学 1
8. 脂質の化学 2
9. アミノ酸, ペプチド, たんぱく質の化学 1
10. アミノ酸, ペプチド, たんぱく質の化学 2
11. アミノ酸, ペプチド, たんぱく質の化学 3
12. アミノ酸, ペプチド, たんぱく質の化学 4
13. 核酸の化学 1
14. 核酸の化学 2

15. 期末試験

16. 総括 (期末試験の解説など)

17. 以上は計画です.

【教科書】

- ◇ 新版ライフサイエンスの有機化学 (樹林, 秋葉著) 三共出版 2900 円
- ◇ 講義は, テキストの内容にとどまらず, 重要な内容を選択および補充して行います. その際, 理解を深めるためにテキスト中の図表を参照使用しますので必ず手持参してください (板書をノートに移す作業が間に合わないことがあります.). また, 復習時の重要な参考書にもなります.

【成績評価の方法】 原則として期末テストの成績で評価します. ただし, 授業態度の悪い場合, また出席調査の小テストにまったく解答しない場合は減点の対象にすることがあります.

【再試験の有無】 再試験は, 対象者の受講態度を評価し, かつ相談の上, 行うか行わないか決定します.

【受講者へのメッセージ】 この期の必修講義の不合格者は留年となる可能性があるので特に注意してください.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221021>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 I・電子と有機化学 (Basic Chemistry. Electron in Organic Chemistry)

(薬 (薬 1 年))

根本 尚夫・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2 単位 前期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 有機化学を理解するにあたり、必要な理屈や規則の基礎を解説する。

⇒ 根本 (088-633-7284, nem@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【授業の概要】 身の回りの物の化学構造は?、これとこれを混ぜるとどうしてこういう化学反応が起こるの?、炭素原子で出来ている分子の形はどうしてこうなるの?、といった事を、「厳密さ」より、「わかりやすい臨場感」に重きをおいて話をすすめる。なおこの授業は薬学コアカリキュラムの C1(1), C4(1), C4(2), C4(3) の一部の内容を含みます。

【キーワード】 電子の矢印, 8 電子則, s 軌道 p 軌道, 化学反応の基礎

【到達目標】 暗記と誤解されるふしのある「化学」が理屈で整理できるということを実感すること。有機化学が好きな人はもっと好きに、嫌いな人もそれなりの愛着と必要性を感じるようにすること。特に必須の薬学部の学生は、今後の有機化学の授業についていくための基礎を固めること。以上が目標となる。

【授業の計画】

1. 電子の表記法と化学反応に伴う電子の移動
2. sp , sp^2 , sp^3 混成軌道
3. 椅子型シクロヘキサン (アキシアル・エカトリアル)
4. ジグザグ構造の書き方
5. 命名の基本
6. 上記内容を 14 回の授業で行い、15 回目に期末試験、16 回目に総括授業を行う

【教科書】

- ◇ 教科書: ボルハルト・ショアー現代有機化学の上巻 (第 1 章 ~ 第 4 章)
- ◇ 参考書: 特になし。教科書に無い点として、化学反応の電子の矢印を詳しく解説する。

【成績評価の方法】 学期末の試験と出席

【再試験の有無】 有

【講師へのメッセージ】 有機化学は暗記でなく、理詰めでわかる事を実感して欲しい。それが高校までの化学の授業とひと味違う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221022>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 III・細胞生物化学の基礎 (Basic Molecular Cell Biology)

(薬 (薬 1 年))

山崎 尚志・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2 単位 前期 水 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】薬学など、生命科学を主体とした学問領域を専攻するにあたって必要な生物化学の基礎、特に生命現象を司る最小単位である細胞を構成する分子の構造とそれらの機能を中心に講義を進めます。

【授業の概要】細胞は様々な分子によって形作られ、それらの働きによって生命活動を営んでいます。本講義では代表的な生体分子 (糖, 脂質, タンパク質, 核酸) の構造と機能を中心に、生体分子同士の関わり合いについて説明します。

【キーワード】細胞生物学, 生物物理化学, 生化学

【到達目標】

1. 生物学や化学の基礎知識を持ち、自分で教科書を読み進める能力の育成を目指します。
2. 生化学や生物物理化学に関連した学部専門講義をスムーズに理解できるようにすることを目指します。

【授業の計画】

1. 講義を開始するにあたって
2. 原子の構造
3. 原子や分子の相互作用
4. 水の性質, 細胞内での水の役割
5. 酸の解離, 緩衝液
6. 糖 1, 生体分子の立体構造
7. 糖 2
8. 糖 3
9. 脂質 1
10. 脂質 2
11. アミノ酸, ペプチド, タンパク質
12. 核酸 1
13. 核酸 2
14. 酵素, 補酵素, ビタミン
15. 定期試験
16. まとめ

【教科書】スライドを使用して説明を行いますので、スライドの縮小コピーを毎回配布します。

【参考書等】学部専門講義で使用する教科書などを参考書として使って下さい。

【成績評価の方法】基本的に毎回出席を取ります。規定の出席回数を満たしていないと定期試験が受けられないので注意して下さい。成績は定期試験の点数で評価しますが、小テストやレポートを評価の対象とする場合は事前にその旨通知します。

【再試験の有無】再試験有り

【講師へのメッセージ】高校までに学んだ化学や生物の復習的な内容を中心としますが、それに関連する細かい事項も説明する予定です。比較的広範囲に及びますが、「生物化学の基礎」ですので講義中に理解する、あるいは頭の片隅に入れるように心がけて下さい。その日のうちに復習したり、ノートをまとめることを推奨します。なお、本講義は、薬学モデル・コアカリキュラムの一部を含みます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221023>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山崎 (088-633-9516, yamazaki@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでも、ただし事前にメールなどで連絡を取られた方が確実です。)

【備考】薬学教育モデル・コアカリキュラム C9-(1) に一部相当

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 i・化学結合論 (Basic Chemistry : Theory of Chemical Bonding)

(工 ((生)1年))

武田 清・准教授/鳴門教育大学

2単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 生物体内で起こる現象を理解するには、生体分子の化学的性質の理解が欠かせない。たとえばタンパク質の性質や機能を把握するには、その分子構造や立体構造を知る必要がある。あらゆる物質の構造や性質、化学変化を、分子論的な立場から理解するための基礎となるのが化学結合の概念である。本授業では、量子力学に基づく化学結合論への入門的講義を通して、原子・分子の性質を、電子状態に基づいて理解する上で必要となる基礎概念の定着を目的とする。

【授業の概要】 量子力学的粒子像を簡単に紹介した後、前半は主として原子の電子配置についての講義を行う。後半は、分子の電子配置および簡単な分子の構造について、原子軌道に基づき、定性的に説明する。常に高等学校で学んだ知識との対比を行いながら授業を進める。

【キーワード】 化学結合, 電子配置, 原子構造, 分子構造

【関連科目】 『量子力学』(0.8), 『有機化学 1』(0.8)

【到達目標】

1. 物質の波動性の意味を理解し、原子の電子配置について説明できること。
2. 簡単な分子の電子状態、および分子構造について、定性的に説明できること

【授業の計画】

1. 自然科学の諸分野と化学、元素の周期律と原子の電子配置
2. 水素原子のエネルギースペクトル、リュードベリの式とボーアモデル
3. 光の波動性と粒子性、ド・ブロイの物質波
4. 物質波の方程式とその意味するもの
5. 水素原子のシュレーディンガー方程式の解
6. 水素原子のエネルギー準位と原子軌道の形
7. 多電子原子のエネルギー準位と電子配置
8. 分子軌道と等核二原子分子
9. 異核二原子分子と電気陰性度
10. 多原子分子の構造(その 1)―中心原子の電子配置と分子構造
11. 多原子分子の構造(その 2)―混成軌道
12. 単結合と多重結合, 結合次数, 共役二重結合
13. 配位結合, ファンデルワールス力,

14. 結合エネルギーと熱化学

15. 期末試験

16. 総括

【教科書】 池田憲昭他”化学序説 第 4 版”学術図書出版

【参考書等】

◇ 野村浩康他”大学化学への入門―演習問題を中心に―”学術図書出版 (2006)

◇ 柴田茂雄”コンピュータグラフィックスによる物理化学の理解”丸善 (2001)

【成績評価の方法】 評価は期末試験(約 50%), 小テスト 3 回(約 30%), 授業への取り組み(約 20%)により行う。

【再試験の有無】 再試験を行う。

【受講へのメッセージ】 大学化学では、高等学校化学で学ぶものとは、まったく異なる考え方が多数現れます。電子の波動性などはその典型です。そのような新しい考え方には少しずつ慣れる以外に方法はありません。授業は、高校化学との共通点や相違点を強調しつつ進めます。その中で、意味のわからないことがある場合は、その場その場での発言・質問を奨励します。一人ひとりが疑問に思うことは、しばしば教室にいる受講者の多くが疑問に思っていることです。

【WEB 頁】 http://ostwald.naruto-u.ac.jp/~takeda/class/ut_baschem/

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221024>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 武田 (takeda@naruto-u.ac.jp) MAIL

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 i・化学結合論 (Basic Chemistry : Chemical Bonding Theory)

(工 ((光)1 年))

山本 孝・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 物質について深く理解するためには、化学結合・物質の電子状態に関する知識を修得しておくことが不可欠である。本授業では、基礎的な化学結合の理論について学習する。

【授業の概要】 原子の電子構造、元素の周期的性質、分子の生成と化学結合の種類、分子の形、結晶状態、電磁波スペクトル等について講義する。理解を深めるために演習問題を課しながら説明する。

【キーワード】 電子配置、化学結合、分子の形、結晶状態、電磁波スペクトル

【到達目標】

1. 原子の電子配置について理解している。
2. 分子軌道法の基礎について理解している。
3. 多原子分子の形について説明できる。
4. 化学結合の種類や性質について説明できる。

【授業の計画】

1. 化学結合論の発展過程と原子のしくみ
2. 量子論の基礎
3. 水素原子の電子軌道
4. 原子の電子配置と周期表
5. 元素の周期的性質
6. 等核二原子分子の分子軌道
7. 異核二原子分子の分子軌道
8. 中間試験
9. 電子対反発則と混成軌道
10. 多電子原子における分子軌道
11. 金属錯体と配位結合
12. 錯体の電子スペクトルと磁性
13. 分子の集積と分子間力
14. 共有結合性結晶、イオン結晶、金属結晶
15. 定期試験
16. 総括授業

【教科書】 松林玄悦 著 「化学結合の基礎」 三共出版

【参考書等】

- ◇ M・J・Winter 「フレッシュマンのための化学結合論」 化学同人
- ◇ 中田宗隆 「量子化学 基本の考え方 16 章」 東京化学同人

【成績評価の方法】 定期試験 (50%)、中間試験 (30%) 及び授業への取り組み状況 (20%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 遅刻、欠席をしないこと。予習、復習を行うこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221025>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎化学実験 (Basic Chemistry Experiments)

基礎化学実験 (Basic Chemistry Experiments)

(医 (医))

佐野 茂樹・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 田中 秀治・教授 / 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生体情報薬科学部門分子情報薬学講座薬品分析学分野
植野 哲・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 大井 高・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 竹内 政樹・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
根本 尚夫・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 吉田 昌裕・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 重永 章・助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
中尾 允泰・助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 宮本 和範・助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2 単位 通年期

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学実験』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 基礎的な化学実験を通じて化学の知識を深めるとともに, 実験器具や装置の使用法を習熟する。

【授業の概要】 有機化学, 分析化学, 物理化学の 3 分野にわたる化学実験を行う。

【到達目標】 化学と化学実験への理解を深める。

【授業の計画】

1. 有機化学実習 (基礎実習)1.5 日
2. 有機化学実習 (応用実習)1 日
3. 分析化学実習 (吸光光度法)1 日
4. 分析化学実習 (演習:データ処理法)0.5 日
5. 物理化学実習 (生体高分子の変性)1 日

【教科書】 実習書を配布する

【成績評価の方法】 出席日数, 実習態度, レポート内容を総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験 (再評価) は行わない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221026>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 田中 (教授室, 088-633-7285, htanaka@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 8:30~ 17:30)
⇒ 佐野 (薬学部本館 6 階東, 088-633-7273, ssano@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 随時)

【備考】 通年集中 (開講期間 9/12~ 9/16(有機化学), 2/16-17(分析化学), 2/20-21(物理化学))

基礎化学実験 (Basic Chemistry Experiments)

基礎化学実験 (Basic Chemistry Experiments)

(歯((歯)2年))

今井昭二・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 山本孝・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

山本裕史・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 7~10

(平成19年度以前の授業科目:『基礎化学実験』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】定性反応および定量分析を通してイオン反応, 有機反応, 酸・塩基反応および物理化学相互作用について理解する。

【授業の概要】無機化学・分析化学・物理化学・有機化学について, 歯学科向けの基礎的な実験を行う。

【キーワード】基礎化学, 実験

【先行科目】『基礎化学/基礎化学IIA・有機化学(ライフサイエンスの基礎)』(1.0), 『基礎化学/基礎化学I・物理化学(平衡と反応速度)』(1.0)

【関連科目】『基礎化学/基礎化学IIB・有機化学(ライフサイエンスの基礎)』(0.5)

【到達目標】

1. イオン反応, 酸・塩基反応を中心とした反応機構と化学量論などをはじめ基礎的内容を理解し応用する。
2. 機器分析により近代的な分析法の基礎を体験する。

【授業の計画】

1. 実験の初学者への安全教育(ケミカルリスクマネジメント)・防災訓練
2. 無機定性反応:水酸化ナトリウム
3. 無機定性反応:アンモニア水
4. 無機定性反応:硫化水素
5. 無機定性反応:酸化・還元
6. 混合陽イオン試料の分離・検出実験
7. 未知混合陽イオン試料の定性実技試験
8. 定量分析:中和滴定
9. 定量分析:酸化還元滴定
10. 定量分析:溶存酸素の定量
11. 物理化学計測:pHメーターを用いた滴定曲線
12. 物理化学計測:吸光度法・・・鉄の定量
13. 機器分析:CaとMgの定量(キレート滴定と併用)
14. 有機化学実験:有機定性反応:アセトアニリドの合成・
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 実験内容の自製テキストを使用。(実費徴収)
- ◇ 近畿化学会安全研究会編「安全の手引き」化学同人

【成績評価の方法】実験のレポートと期末試験の成績により判定

【再試験の有無】希望により, 筆記試験のみ実施する

【受講へのメッセージ】実験者は各自の安全に十分に注意を払ってください。実験に適切な服装で受講すること。白衣は必ず各自持ってくる。不適切な服装および安全めがねと白衣の非着用者は受講できない場合があります。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221027>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 今井 (総合科学部3号館2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp)

MAIL (オフィスアワー: 前・後期 火10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

【備考】第一回目:リスクマネジメント:安全な実験方法, 毒劇物の取り扱い, 不測事・態緊急時の応急処置, 火災・地震避難訓練

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 MI (Basic Biology)

(医 ((医)1年))

六反一仁・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 桑野由紀・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

1単位 前期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎生物学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】医学の専門教育を学ぶにあたって必要な、医学に関係した生物学の基本について講義し、生命に対する考え方を身につけさせることを目的とする。

【授業の概要】生体を構成する組織や器官の構造と働きを理解するため、基本的な生体物質と細胞についての講義し、細胞レベルから見たからだの働きについて理解させる。

【キーワード】細胞の基本構造, 細胞の機能, 遺伝子, 細胞増殖と死, 情報伝達

【到達目標】

1. 細胞の基本構造と機能を説明できる。
2. 遺伝子情報の仕組みを理解できる。
3. 細胞の増殖, 分化, 死の分子機構を説明できる。

【授業の計画】

1. 細胞の基本構造と細胞内小器官 (六反)
2. DNA と染色体 (棚橋)
3. DNA の複製, 修復, 組換え (棚橋)
4. DNA からタンパク質へ - 細胞がゲノムを読み取るしくみ (棚橋)
5. 遺伝子発現の調節 (棚橋)
6. 遺伝子とゲノムの進化 (棚橋)
7. 膜の構造 (六反)
8. 膜輸送 (六反)
9. ミトコンドリアと葉緑体におけるエネルギー産生 (六反)
10. 細胞内区画と細胞内輸送 (六反)
11. 細胞の情報伝達 (桑野)
12. 細胞骨格 (桑野)
13. 細胞周期と細胞死 (桑野)
14. 細胞分裂 (桑野)
15. 本試験
16. 総括授業 (六反)

【教科書】

◇ Essential 細胞生物学 原書第 2 版 南江堂 ¥8,000 円

◇ その他, 適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法】学期末試験で評価する。試験は筆記試験で行い, 100 点満点とする。60 点以上あれば合格とする。不合格者については再試験を行う。

【再試験の有無】再試験は筆記試験を一度のみ行う。不合格者は次年度に再受験。

【受講者のメッセージ】「教えてもらう」ではなく, 「自ら学ぶ」という意識で臨んでいたきたい。授業中の私語は厳禁だが, 勉強に関する質問はどんなものでも歓迎する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221028>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 六反 (088-633-9007, rokutan@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 H (Basic Biology)

(医 ((放・検)1年))

渡部 稔・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎生物学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】 あらゆる多細胞生物の体の基本的な構成要素は細胞である。さまざまなに分化した細胞が集まり、器官を形成し、個体が成立する。またおのおのの細胞の中には遺伝子が存在し、その細胞の性質を決定している。この授業では、細胞や遺伝子に対する理解を深め、これらを概念 (ソフト) としてだけではなく、物質 (ハード) としても理解することを目的とする。またこの授業は医学部の学生対象の授業なので、授業で出てくる化学反応や遺伝のしくみを、実際にわれわれの体で起こっている反応として理解することも目的とする。

【授業の概要】 まず、細胞や細胞内小器官についてその進化や機能について説明する。次に遺伝現象と遺伝子について学ぶ。授業では、前回の授業内容に対する質問の回答、ビデオ教材の視聴、ビデオ教材の内容に対する補足説明を行う。

【キーワード】 細胞、原核生物、真核生物、遺伝、遺伝子

【到達目標】 細胞、遺伝子、DNA、タンパク質という用語を、構造と機能の両面から自分の言葉で説明できるようになる。

【授業の計画】

1. いろいろな細胞
2. 核のはたらき
3. 細胞小器官のはたらき
4. 細胞と酵素
5. 細胞内の物質の出入り
6. 単細胞と多細胞
7. 生物の体のなりたち
8. 遺伝とは何か
9. 遺伝の法則
10. さまざまな遺伝
11. 性と遺伝
12. 遺伝子の連鎖と組換え
13. 遺伝物質 DNA
14. DNA とタンパク質
15. 学期末テスト

16. 総括授業

【教科書】 ダイナミックワイド 図説生物 総合版 東京書籍 880 円

【成績評価の方法】 授業への出席 (20%), ミニレポートの内容 (40%), 期末テスト (40%) で評価する。

【再試験の有無】 行わない。

【受講者へのメッセージ】 毎回の授業中にミニレポートを配布する。このミニレポートの提出をもって、出席の確認とレポートの評価を行うので、授業には必ず出席すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221029>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 DI (Basic Biology)

(歯 ((歯)1年))

北村 清一郎・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 野間 隆文・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 山下 菊治・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

三好 圭子・講師/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

1単位 前期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎生物学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】歯学部学生が2年次後期以降に受講する必修専門基礎科目は、理工学を除き、全てが生物学関連科目(解剖学, 生理学, 生化学, 病理学, 細菌学, 薬理学)である。本講義は後期に開講している基礎生物学 DII と一体で、歯学部学生が専門基礎科目を履修する際に必要な生物学の基礎知識を修得させることを目的とする

【授業の概要】細胞の構造と進化(北村):動物細胞の構造と機能を概説する。また、原核細胞から真核細胞への進化の過程と意義についても解説する。生体成分と生体維持(野間):主として真核細胞の構成成分とその役割、および生体の機能維持に不可欠なエネルギー代謝について概説する。酵素の働き(三好):タンパク質の構造、酵素の一般的性質、酵素反応の種類、および酵素活性の調節機構について概説する。生体膜と細胞骨格(山下):生体膜と細胞骨格の構造と機能について概説する。

【キーワード】生命のしくみ, 細胞の構造, 細胞の機能, 遺伝子, タンパク質

【関連科目】『基礎生物学/基礎生物学 DII』(0.5), 『基礎生物学実験/基礎生物学実験 A』(0.5), 『基礎生物学実験/基礎生物学実験 B』(0.5)

【到達目標】

1. 細胞の構造と機能の概略が説明できる。
2. 細胞の進化の過程と意義を理論的に考察できる。
3. 生体成分の役割と生体内での化学反応についての概略が説明できる。
4. タンパク質の立体構造と分子進化に関する理論的考察ができる。
5. 生体膜の構造と機能の概略が説明できる。
6. 細胞骨格の構造と機能の概略が説明できる。

【授業の計画】

1. 動物細胞の構造と機能
2. 動物細胞の構造と機能
3. 動物細胞の構造と機能
4. 細胞の起源と進化
5. 生体を構成する物質
6. 生体を構成する物質

7. 生体エネルギーの原則
8. 生体エネルギーの原則
9. タンパク質の構造と機能
10. タンパク質の構造と機能
11. タンパク質の構造と機能
12. 生体膜と物質の輸送
13. 生体膜と物質の輸送
14. 細胞骨格と運動
15. 試験
16. まとめ:細胞の構造と機能

【教科書】マッキー生化学第4版 化学同人 7400円+税。この本は専門課程2・3年次の生化学の教科書としても使用します。また、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書等】大学生のための基礎シリーズ2 生物学入門 石川 統・編 東京化学同人 2200円+税。基礎生物学 DII の教科書です。

【成績評価の方法】筆記試験で評価する。本試験の結果が極端に悪い場合は再試験となる。

【再試験の有無】有(1回)

【受講者のメッセージ】入学試験で生物学を選択しなかった学生は、全学共通教育の教養科目群で生物学の基本事項を学ぶこと、が強く求められる。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221030>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 北村(口腔顎顔面形態学分野教授室, 088-633-7319, kitamura@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL(オフィスアワー:前後期:金曜日 12時~13時)

【備考】2年次のこの時間帯には別の必修科目が入っており、再受講の場合には、留年せざるを得なくなります。

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 P (Basic Biology)

(薬 (薬 1 年))

松尾 義則・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎生物学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】薬学を理解していく上で、生命の遺伝現象についての用語、基礎知識を理解することが必要である。特に、ヒトの個体間の遺伝的差異や遺伝病の原因、診断、治療を理解することは、将来、専門の分野の理解や研究の基礎となる。

【授業の概要】生物の分野の中でも最近発展のめざましい遺伝学を中心に講義する。遺伝学全般にわたる内容。授業は基本的には教科書に沿って進めるが、ヒトに関する話題をできるだけ多く取り上げる。最新の情報などについては参考書などを参照すること。章末の練習問題を解けるように理解しておくこと。

【キーワード】基礎遺伝学、遺伝子、DNA

【到達目標】遺伝学の基礎が理解できる。

【授業の計画】

1. メンデル性遺伝 I
2. メンデル性遺伝 II
3. 染色体
4. 性染色体と伴性
5. 家系分析
6. 連鎖と染色体地図
7. ゲノムの構造
8. 細菌およびウイルス遺伝学 I —大腸菌とプラスミド
9. 細菌およびウイルス遺伝学 II —バクテリオファージ
10. 遺伝子ライブラリーと遺伝子のスクリーニング
11. DNA の複製
12. DNA の修復と組み換え
13. 生化遺伝学
14. 遺伝暗号
15. 期末テスト
16. 総括

【教科書】

- ◇教科書:クロー著「遺伝学概説」(第 8 版) 培風館 2266 円
- ◇参考書「ハートウェル遺伝学」メディカルサイエンスインターナショナル

◇参考書:アルバーツ著「細胞の分子生物学」Garland

【成績評価の方法】試験 (90%) と授業への取り組み状況 (10%)

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】わからないところはそのままにしておかずに質問などして必ず理解しておくこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221031>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 T (Basic Biology)

(工 ((生)1 年))

佐藤 高則 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎生物学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】 これから生物工学を学ぶために、まず生体がどのような物質から成り立っており、どのような機能を有しているかを理解することが必要となる。本講義は我々生命を構成する生体高分子に焦点を当て、それらの機能からバイオテクノロジーへの応用に至るまで幅広く基礎知識を学ぶことを目的としている。

【授業の概要】 生体高分子や細胞をベースに、基本的な構造、機能からバイオテクノロジーへの応用までを講義し、今後の専門課程の学習に対する一助とする。高校で生物を履修していない学生を想定して、高校レベルの基礎から講義する。

【キーワード】 生体高分子、遺伝子、バイオテクノロジー

【到達目標】

1. 細胞の細胞小器官の構造と機能が理解できる。
2. 生体高分子の構造が理解できる。
3. 遺伝子の複製、転写、翻訳が理解できる。
4. 基本的なバイオテクノロジーが理解できる。
5. バイオテクノロジーに対する自分の意見が持てるようになる。

【授業の計画】

1. シラバスと講義概要の説明 (1 回)
2. 細胞の構造と機能:細胞の細胞小器官の構造と機能 (3 回)
3. 生体高分子の基礎(タンパク質, 核酸, 脂質, 糖)(6 回)
4. バイオテクノロジーの歴史と概論 (1 回)
5. 遺伝情報の流れ, 遺伝子工学と応用 (遺伝子の複製, 転写, 翻訳)(2 回)
6. タンパク質工学, 酵素工学 (1 回)
7. 定期試験 (1 回)
8. 総括授業 (1 回)

【教科書】 ヴォート「基礎生化学」(第 3 版) 田宮ほか訳 (東京化学同人)

【参考書等】

- ◇ Essential 細胞生物学 (中村他, 南江堂)
- ◇ さらにプリントを適宜配布する。

◇ 配布プリント (一部) および実施済み課題は下記 URL からダウンロードできます。

【成績評価の方法】 毎回の課題の平均点 (60%) と定期試験 (40%) によって評価する。定期試験は持込可とする。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 毎回、授業の最後に課題を出しますので出席してください。

【WEB 頁】 <http://www.geocities.jp/satokichi2004jp/syllabus/jyugyou.htm>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221032>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 授業時間以外の平日9:00-17:00)

【備考】 JABEE 対応科目となっていますので、評価は JABEE の基準 (授業で指示) に合わせます。

基礎生物学実験 (Basic Biology Experiments)

基礎生物学実験 N (Basic Biology Experiments)

(医 ((栄)1年))

佐藤 高則 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 水 7~10

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎生物学実験』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】生物の形態、生理現象などの観察を通じて生命現象の一端を理解するとともに、顕微鏡その他の使用法を身につける。また、毎回のレポート作成により、内容はもちろんのこと、見やすく分かり易いレポートを作ることを目的とする。

【授業の概要】下記のような多彩なテーマで実験を行う。原則、毎回異なる教官が異なるテーマで実験を担当する。内容、順番は変更する場合がある。

【キーワード】顕微鏡、細胞、組織、分類、胚発生

【関連科目】『基礎生物学/基礎生物学 N』(0.5)

【到達目標】実験にあたっての心構えを身につけ、実験器具の使用法に習熟し、レポート作成技術を向上させる。

【授業の計画】

1. 全般的説明及び顕微鏡使用法
2. 人体寄生虫卵の観察
3. 遺伝子組換え実験講習会
4. 真核生物の DNA 抽出
5. プラスミド DNA による大腸菌の形質転換
6. カラムクロマトグラフィーによる生体高分子の分画
7. DNA フィンガープリンティング法
8. 組換え DNA 技術における倫理的側面
9. 生きた心筋細胞の単離と細胞死の観察
10. レクチンによる赤血球の凝集反応
11. 微生物の分類と同定
12. メダカの色素胞の観察
13. 植物の形態の観察
14. 歯とその支持組織の顕微鏡観察
15. 総括授業

【教科書】教科書として実習用テキストを配布予定

【成績評価の方法】毎回のレポートを 100 点満点で採点し、平均点をもって成績とする。

【再試験の有無】無

【受講へのメッセージ】欠席、無断遅刻、無断早退するとその回の成績は零点になるので、健康に留意し、必ず出席するように務めること。病欠の場合には診断書を提出すること。再試験の機会はない。掲示により、使用教室や必要な物の通知が行われることが多いので見落とさないこと。開始時間に遅れないこと。実験中は、担当教官の指導、助言などに細心の注意を払い、注意を守ること(飲食厳禁)。実験態度の著しく悪いものは欠席扱いにする場合があります。また、過去レポートや他人のレポートの丸写し等、レポートの不正行為とみなされる場合には、採点対象とせず、欠席扱いにします

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221033>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

【備考】高校で生物未履修者は、高大接続科目/生物学(前期月曜 1.2 限, 担当:渡部)の履修が望ましい。

6) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties)

歴史と文化

(総) 中国語Ⅱ ... / 部 / 前期 火 5・6	368
-----------------------------------	-----

人間と生命

(医) 生命・健康・病気(Ⅰ) ... (医 ((医)1年)) / 医学部教員 / 前期 金 3・4	369
(歯) 口腔と健康 ... (歯 ((歯)1年)) / 河野 / 前期 金 3・4	370

自然と技術

(医) 臨床検査学入門 ... (医 ((保)1年)) / 西田 / 前期 木 1・2	371
(工) 地域の環境と防災 ... (工 (建)) / 河口 / 前期 木 5・6	372
(工) 機械工学概論 ... (工 (機)) / 機械工学科教員 / 前期 木 5・6	373
(工) 化学応用工学概論 ... (工 (化)) / 金崎 / 前期 木 5・6	374
(工) 電気電子工学概論 ... (工 (電)) / 電気電子工学科教員 / 前期 木 5・6	375
(工) 知能情報工学セミナー ... (工 (知)) / 知能情報工学科教員 / 前期 木 5・6	376
(工) 光の基礎 ... (工 (光)) / 陶山 / 前期 木 5・6	377
(医) 医療情報処理学入門 ... (医 ((保)1年)) / 近藤 / 前期 金 5・6	378
(歯) 医療情報処理 ... (歯 ((歯)1年)) / 河野 / 前期 金 5・6	379

歴史と文化 (History and Culture)

(総) 中国語 II (Handicrafts and Social Communications -Introduction to Japanese pottery-)

邵 迎建・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (2)』)

【授業の目的】 全学共通教育中国語初級・中国語 (1) で学んだ文法の基礎の上に立って、名文に触れ、ことばの感性を育てながら、語彙を増やし、表現を豊かにする。

【授業の概要】 名作を読解する。朗読、翻訳をした後、言い回しや文型を用いて作文の練習をする。

【キーワード】 中国語、現代中国

【到達目標】 確実に中国語の実力を身につけ、実用レベルに到達する。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 第一課「打電話」を朗読、翻訳
3. 作文練習
4. 第二課「弯弯的月亮」を朗読、翻訳
5. 作文練習
6. 6~14 以上のステップで第三課以後の文章を読む。
7. 15 期末試験 (『人民日報』のコラムを翻訳する、辞書持込可)。
8. 16 総括講評
9. 総括講評。なお、より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 渡辺晴夫・大川完三郎編『心あたたまる短い小説 10 選』(同学社, 2006)2, 300 円

【参考書等】 1 年次に使用した辞書及び中国語のテキストを必ず持参のこと。

【成績評価の方法】 平常点及び期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 原則無し。

【受講者へのメッセージ】 総合科学部学生は学部専門科目として登録すること。総合科学部以外の受講希望者はあらかじめ相談のこと。共通教育で中国語初級または中国語 (1)4 単位を履修済み、あるいはそれに相当する語学力を有していることが絶対条件である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221034>

【連絡先 (オフィスマナー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 総合科学部全学生と医学部の平成 17 年度以前の医学部保健学科の入学をのぞき平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化/中国語 II』として 2 単位が認定される。総合科学部の平成 16 年度以前、医学部保健学科の 17 年度以前入学生は授業科目: 『中国語 (2)/中国語 (2)』として 1 単位が認定される。

人間と生命 (Humanity and Life)

(医) 生命・健康・病気 (1) (Life, Health and Disease 1)

(医 ((医)1年))

医学部教員

2単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『学部開放科目』)

【授業の目的】 生命現象, 健康と病気について自然科学あるいは社会科学的視点 ⇒ 医学部教員

から学習することによって, 幅広い知識を得るとともに医師として必要な人間形成に資することを目的とする.

【授業の概要】 2年次の生命・健康・病気(2)に繋がる講義であり, 基礎医学分野, 臨床医学分野, 疾患酵素学研究センター, ゲノム機能研究センターの教授(原則として)が1回ずつ担当する. 専門医学教育とは違った個性的な講義になるはずである.

【到達目標】

1. 医学研究・生命科学研究の最近の進歩について理解する.
2. 医療の持つ社会的影響について理解する.

【授業の計画】

1. プリオンって, 何?(神経変性疾患研究部門:坂口)
2. 脳の機能と病気そして手術(脳神経外科学:永廣)
3. 免疫と病気(生体防御医学:安友)
4. 総合診療とプライマリ・ケア(総合診療医学:谷)
5. 骨と軟骨の一生(運動機能外科学:安井)
6. こころの健康, こころの病気(精神医学:大森)
7. 己を知る免疫系(免疫系発生学:高濱)
8. 薬の剤形(臨床薬剤学:水口)
9. 甦る鼓動, 心臓手術の開発について(心臓血管外科学:北川)
10. 健康食品と薬(薬理学:玉置)
11. 命をあずかる麻酔科医-全身麻酔-(麻酔・疼痛治療医学:大下)
12. ヒトの遺伝学入門(人類遺伝学:井本)
13. HIV-1 の生物学(微生物病原学:足立)
14. 酵素から探る健康と疾患-アミノ酸と酵素パワー-(病態システム酵素学:福井)
15. 予防医学・環境医学入門(予防医学:有澤)

【成績評価の方法】 出席, レポート(感想)

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221035>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

人間と生命 (Humanity and Life)

(歯) 口腔と健康 (Oral Cavity and Health)

(歯 ((歯)1年))

河野 文昭 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2単位 前期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 歯科医学・歯科医療を、「人間学」として広い視野で、疾病医療と保健医療の両面からとらえることができるようになることを目標とする。

【授業の概要】 1. 歯科医学・歯科医療とは何か, 2. 診療各科の現状と将来展望等について臨床各講座教授等により教授する. 現在の歯科医療を紹介しながら健康における口腔機能の役割を検討する. 「食べること」「会話を通して人とコミュニケーションをとること」などが人間の尊厳を保つ上で大きな役割を担っていることから生活の質 (QOL) を豊かにする上での口腔機能の重要性を理解する. さらに先端的歯科医療の現状と将来の歯科医療についても紹介する.

【到達目標】 口腔と健康の関係を理解するために, 各臨床講座, 診療科の診療内容を知識として知る.

【授業の計画】

1. 口腔機能と健康
2. 歯科疾患の予防と口腔の健康の保持増進
3. 内因性感染症としての齲蝕 -そのとらえ方と治療法-
4. 歯周病のはなし
5. 義歯からインプラントへ, 噛むことからしゃべることへ
6. 補綴に関する歯学史, 現状と将来, 咬合について
7. 口腔内科疾患はどんなもの
8. 口腔粘膜癌, 唾液腺癌の病態と治療
9. 不正咬合と矯正治療
10. 健康児, 障害児および有病児の歯科医学, 歯科医療
11. 画像診断技術の発展
12. 歯科治療における麻酔の役割 1
13. 歯科治療における麻酔の役割 2
14. 歯科における審美
15. 総括

【教科書】

- ◇教科書:使用しない.
- ◇参考書:随時プリントを配布する. 随時スライドを使用する.

【成績評価の方法】 出席状況と試験結果とによる.

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 この授業を通して, 臨床系歯学の概要について理解してください.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221036>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 河野 (088-633-9180, fumiaki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

自然と技術 (Science and Technology)

(医) 臨床検査学入門 (Introduction to Laboratory Testing)

(医 ((保)1年))

西田 敏信・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2単位 前期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】医療における臨床検査の役割とそれに携わる医療従事者の心構えについて、初歩的な導入講義を行うことを目的とする。

【授業の概要】臨床検査が病態の解析、疾病の診断、予後の判定にきわめて重要であることを認識させ、検査の歴史からそれぞれの検査部門(臨床化学、輸血検査学、臨床血液学、生理検査学、病理組織解剖学、微生物学など)においてどのような検査が行われているか、検査によりどのような病気がわかるか、検査値の読み方などについて平易に解説する。

【キーワード】臨床化学、微生物学、生理検査学、病理組織解剖学、輸血検査学、臨床血液学

【到達目標】

- 1.1 臨床化学
2. 検査の目的、化学反応を用いた測定方法、コンピュータシステムによる検体処理を理解する。
- 3.2 微生物学
4. 感染症診断法の概略を理解できる。
- 5.3 生理検査学
6. 病気の診断に必要な心電図検査や超音波検査の役割を理解できる。
- 7.4 病理組織解剖学
8. 病理組織学的検査の役割を理解する。
- 9.5 輸血検査学
10. 輸血に関与した免疫反応および輸血検査の概略を説明できる。
- 11.6 臨床血液学
12. 赤血球、白血球および血小板の形態や生体内での役割について説明できる。

【授業の計画】

- 1.1 臨床化学
2. 血液、尿を用いる臨床検査(臨床化学)はどのような目的で実施され、どのようにして測定されているのか。
3. また、大量の検体が整然と処理される過程について概説する。(西田)
- 4.2 微生物学
5. 微生物検査の概略を解説する。(小野)

6.3 生理検査学

7. 心電図や超音波検査などの生理検査の概略や臨床的意義について平易に解説する(齋藤)。

8.4 病理組織解剖学

9. 病的状態、特に腫瘍性病変における、細胞・組織の変化について説明する(香川)。

10.5 輸血検査学

11. 輸血に関与した免疫反応について述べ、輸血検査の重要性を教授する(細井)。

12.6 臨床血液学

13. 赤血球、白血球および血小板の形態や生体内での役割について述べ、血液検査の重要性を教授する(梅野)

【教科書】教科書は使用しない。資料は教官が準備し、配布する。

【参考書等】

- ◇ 検体搬送システム (CD-ROM)
- ◇ 基準範囲学習支援システム (CD-ROM)

【成績評価の方法】成績は受講姿勢、レポート等により評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】初歩的な導入講義であり、医療技術者としての心構えを養う上でも、ぜひ受講して欲しい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221037>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 西田 (088-633-9060, nishida@medsci.tokushima-u.ac.jp) MAIL

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 地域の環境と防災 (Environment and Disaster Prevention in Tokushima)

(工 (建))

河口 洋一・准教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

2単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 私たちが暮らしていく地域の「自然環境」と「防災」関心や興味をもって暮らしていけるよう、それらについての視点・考えかたについて解説する

【授業の概要】 私たちが安心して暮らしていくために必要な「自然環境」と「防災」について、徳島に関連深い事項を例にとりあげながら、1) 身近な自然環境の様子、2) どのようにして身近な自然環境を守ったり、修復したりしようとしているのか、3) 地震や津波への備え、4) 自然環境を保全しつつ災害にも強いまちづくりのあり方、の4つの観点から解説する。

【キーワード】 徳島、自然環境、防災、地域力

【到達目標】 自らが暮らす地域の自然環境の保全や防災がどのように進められようとしているのかを知り、その地域の中で暮らしていく者として、地域の自然環境の保全と防災に興味と自覚を持って暮らし続けられる。

【授業の計画】

1. ガイダンス-足元からの安全と安心
2. 水環境の再生・修復
3. 自然再生と地域再生 / レポート
4. 「なぜ、環境を守らないといけないの?」
5. 「放っておいてくれ!」という人にも防災は必要?
6. ”50 歳のあなた”を考えた環境と防災
7. 「地域力」-ソーシャルキャピタルの視点から 1
8. 「地域力」-ソーシャルキャピタルの視点から 2
9. 「地域力」-ソーシャルキャピタルの視点から 3 / レポート
10. 地震と地震動
11. 地震による被害
12. 地震被害の予測と対策 / レポート
13. 森林の洪水低減機能の仕組みと限界
14. 森林の水質保全機能、森-川-海の繋がり
15. 自然の力を活用した徳島県の省エネの取り組み/レポート

【成績評価の方法】 到達目標の達成度は期間中に課せられる 5 回のレポートの総点 (各レポートは 20% ずつの重み) により評価し、評点が 60% 以上を当目標のクリア

条件とする。

【受講者へのメッセージ】 本科目は本学科の教育目標の 1(1) に 40%、1(2) に 40%、1(3) に 20% 対応する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221038>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 河口 (308, 088-656-9025, kawaguchi@ce.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜午後)

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 機械工学概論 (Outline of Mechanical Engineering)

(工(機))

機械工学科教員

2単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『学部開放科目』)

【授業の目的】この講義では、機械工学のもつ総合的な特性を通して、理系および文系の学生に現代社会における機械工学が果たす役割について理解してもらう。

【授業の概要】機械工学の役割はエネルギー機器から精密・情報機器、半導体生産設備、食品加工機などの企画、開発、設計、生産と非常に幅広く、機械工学は多くの技術、工学を融合したものである。この機械工学の発展の歴史、現在の課題、未来への展望などを各教員の専門分野の話題を通して講義する。

【キーワード】機械科学、機械システム、知能機械、生産システム

【到達目標】機械工学を通して、機械工学の現代社会における役割を理解し、総合的な判断能力を養うことを目標とする。

【授業の計画】

1. 機械を構成する部材に生じる変形と力の係わり
2. 材料の微視構造と新材料の開発動向
3. 機械の破壊の仕組みと防止方法
4. 流体エネルギーの利用について
5. 流れの中の物体に働く揚力と抗力
6. エネルギー変換と環境問題
7. 機械振動の制御
8. エコマテリアルの利用について
9. ロボット工学の将来
10. 加工と生産システム
11. 材料の微細組織と機械的性質
12. 科学計測について
13. 超精密機械としての分光器の原理と性能および応用分野
14. エンジンにおける代替燃料の利用
15. レポート指導と総括

【教科書】

- ◇教科書:使わない
- ◇参考書:各週の講義では OHP 等で具体的な説明があり、テーマごとにプリント等が参考資料として配布される。参考書は、講義の中で随時紹介する。

【成績評価の方法】各テーマの講義について、毎回、レポートの提出が義務付けられる。このレポートの提出と講義への取組みを総合して評価する。

【再試験の有無】無

【講師へのメッセージ】機械工学に関心をもつ者への導入教育科目の一つとして位置づけているので、機械工学科の学生は必ず受講するように希望する。レポートの様式・内容・提出のきまり(場所・期日)は、各回の講義時間に連絡される。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221039>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 機械工学科教員

自然と技術 (Science and Technology)

(I) 化学応用工学概論 (Outline of Chemical Science and Technology)

(工(化))

金崎 英二 教授/工学部
2単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 現代の理工学関係の科学, 技術者には, 多種多様な物質の化学的基礎知識が要求される. 本講義では, 物質の性質を化学結合, 分子構造に基づいて理解させ, 将来英語文献を読解する際に必要となる化学英語の基礎を理解させる.

【授業の概要】 高等学校での化学に接続させるために化学の基礎を学ぶ. クラスを A, B の二つに分ける. A クラスを金崎教授が, B クラスを森賀教授が担当して講義を開始し, その後学期の中間で担当を交代する. 試験はそれぞれの講義最終回に実施.

【到達目標】

1. 無機・有機化合物を含めて, 物質を構成している原子, 分子の化学結合が結晶構造, 反応性, 物理化学的性質にいかに関係しているかを理解させる (金崎).
2. 英字新聞などに掲載された化学に関連した記事を通して, 簡単な化学英語を理解させる (森賀).

【授業の計画】

1. 本講義では以下の内容で講義を行う予定である.
2. 1. 原子論の成立
3. 2. 原子の構造
4. 3. 電子配置
5. 4. 元素の周期的性質
6. 5. 単体と化合物
7. 6. 化学結合
8. 7. 炭素原子の混成軌道と分子の形
9. 8. レアアースとは (英語記事より)
10. 9. 都市鉱山と元素戦略 (英語記事より)

【教科書】 大野, 村田, 錦織共著 『大学生のための例題で学ぶ化学入門』 共立出版社

【参考書等】 英語記事については, 講義が始まる前に配布する.

【成績評価の方法】 定期試験及び平常点 (小テスト・課題レポート) により評価し, その割合は 6(定期試験):4(平常点) とする (森賀, 金崎).

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 最近の先端材料あるいは解析機器についてのトピックスも紹介する. 講義毎に小テスト又は課題レポートを課する. 最初の講義の際にはシラバスを持参すること.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221040>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 金崎 (化 516, 088-656-9444, kanezaki@chem.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 授業計画は変更する場合がある

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 電気電子工学概論 (Outline of Electrical Engineering and Electronics)

(工(電))
電気電子工学科教員
2単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 電気電子工学の初学者に特別な専門知識を必要とせず、身の回りの電気電子工学やホットな研究活動の概要を出来るだけ平易に紹介することにより、初学者に電気電子工学に興味と勉学の意欲を喚起させる。工学部電気電子工学科の受講生においては、さらにキャリアデザインのための情報を得て、これからの学習計画を考える。

【授業の概要】 電気電子工学科の全教授が、関係する分野を中心とした身の回りの電気電子工学や電気電子工学のホットな研究活動を平易に紹介し、毎講義の最後にレポート課題を与える。

【キーワード】 電気電子工学、物性デバイス、電気エネルギー、電気電子システム、知能電子回路

【到達目標】 電気電子工学に関わる基礎的な知識の修得と電気電子工学を学ぼうとする学生の勉学意欲を沸かせる。

【授業の計画】

1. 1. ~ 4. :物性デバイス分野の紹介:気体、液体、固体中での電子や分子の物理現象と半導体を中心とする電子デバイスの設計方法に関する技術分野の概要や最近の研究内容の紹介
2. 5. ~ 8. :電気エネルギー分野の紹介:電気エネルギーの発生や輸送、動力機器とその制御等を含む電気エネルギーの変換および利用法等に関する技術分野の概要や最近の研究内容の紹介
3. 9. ~ 11. :電気電子システム分野の紹介:計算機援用による設計、制御について考察する制御システム分野および各種情報の取り扱いと伝送技術等に関する技術分野の概要や最近の研究内容の紹介
4. 12. ~ 14. :知能電子回路分野の紹介:電子回路の設計や解析およびコンピュータ回路の知能化を実現するハードウェアとソフトウェアに関する技術分野の概要や最近の研究内容の紹介
5. 15 :電気電子工学概論全体に対してのレポート

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントが配布される。参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 毎回の授業に対する課題レポートと電気電子工学概論全体に対してのレポートの内容をもとに評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 電気電子工学科 1 年生は必ず受講すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221041>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 電気電子工学科教員

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 知能情報工学セミナー (Seminar : Information Science and Systems Engineering)

(工(知))

知能情報工学科教員

2単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 知能情報工学科における教育・研究に関する導入教育を行う。また、計算機に親しむための簡単な実習を課して、知能情報工学科の学生としての自覚を芽生えさせると共に、簡単な研究課題を課して、自発的な情報収集能力やコミュニケーション能力の重要性を認識させる。さらに学生生活の送り方、講義の受講および研究のための心構え、社会人としての常識等のガイダンスを行う。

【授業の概要】 受講生を知能情報工学科教授全員にほぼ等分に配属する。授業の内容は教授によって若干異なるが、知能情報工学科の教育・研究内容、学生生活の送り方と心構え、社会人としての常識等についての導入教育が施された後に、計算機を用いた簡単な実習や研究課題が課される。研究課題に関しては、報告書の提出やプレゼンテーションが求められる。

【到達目標】

1. 導入教育を通して知能情報工学科における学生生活に適応する。
2. 研究課題の解決を通して自発的な情報収集能力を育成する。
3. 報告書の作成やプレゼンテーションを通して基礎的なコミュニケーション能力を育成する。

【授業の計画】 授業計画は教授によって異なり、その詳細については配属された教授より指示がある。

【教科書】 配属された教授より指示がある。

【成績評価の方法】 実習の成果および研究課題に関する報告書およびプレゼンテーションに基づき成績評価を行う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221042>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 知能情報工学科教員

【備考】 知能情報工学科の学生は専門科目として登録・受講すること。

自然と技術 (Science and Technology)

(I) 光の基礎 (Basic Properties, Phenomena and Applications of Light)

(工(光))

陶山 史朗 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

2単位 前期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 光の色々な性質, 光が関わる自然現象, 光を応用した商品についてやさしく講義し, 光応用工学に対する関心を引き出すと共に, 光応用工学に必要な基礎知識を修得させる。

【授業の概要】 光の色々な性質について述べた後, 色々な自然現象が光のどのような性質と関係しているかを説明し, 光のどの性質が CD プレイヤー, レーザープリンタ, 電子ディスプレイなど光を応用した商品にどのように使われているかを講義していく。

【キーワード】 光, 反射, 屈折, 回折, 干渉, 偏光, 色, 蜃気楼, 虹, 青い空, 赤い夕焼け, シャボン玉, 眼, 視覚

【関連科目】 『幾何光学』(0.8), 『波動光学』(0.8), 『光情報機器』(0.8), 『光演算処理』(0.7)

【到達目標】

1. 光の性質, 視覚に関する概要を理解できること。
2. 光が関わる自然現象と光の性質との関係を理解できること。
3. 光を応用した商品と光の性質との関係を理解できること。

【授業の計画】

1. 光の性質: 光の直進性
2. 光の性質: 光の速度, 屈折率
3. 光の性質: 光の反射と屈折
4. 光の性質: 光の分散
5. 光の性質: 光の波動性, 光の回折, 光の干渉
6. 光の性質: 偏光, 光の粒子性
7. 光の性質: レンズの諸特性
8. 光の性質?: 色について
9. 自然現象と光の性質: 屈折, 分散 (陽炎, 逃げ水, 蜃気楼, 不知火, 虹など)
10. 自然現象と光の性質: 散乱 (散乱の種類, 青い空, 白い雲, 赤い夕焼け, 海の青など)
11. 自然現象と光の性質: 回折, 干渉 (シャボン玉の色, CD の色, 昆虫の色など)
12. 眼と視覚: 眼の構造, 視覚の特性, 立体視
13. 眼と視覚: 錯視現象と視覚

14. 光応用装置のしくみ: CD プレイヤー, レーザープリンター

15. 光応用装置のしくみ: 電子ディスプレイ

16. 定期試験

【教科書】 教科書: P. G. Hewitt 他著, 本田健訳 「電気・磁気と光 (物理科学のコンセプト 4)」 共立出版

【参考書等】

- ◇ 大津元一 「光科学への招待」 (朝倉書店)
- ◇ リチャード・L. グレゴリー 「脳と視覚」 (ブレーン出版)
- ◇ 安藤幸司 「光と光の記録 光編その 2」 (産業開発機構)
- ◇ E. Hecht 「ヘクト 光学 I」 (丸善)
- ◇ 「光学のすすめ」 (オプトロニクス社)

【成績評価の方法】 講義に対する理解力の評価は, 講義への取り組み状況, 演習, レポート, 小テストおよび最終試験の成績を総合して行う。配点の比率: 講義への取り組み状況 15%, 演習・レポート評価点・小テスト得点 15%, 最終試験得点 70%, 合格基準: 総合点の 60% 以上

【再試験の有無】 再試験は基本的には行わない

【受講へのメッセージ】 頻繁に小テストを実施するので, 毎回の復習を欠かさずに行うこと。教科書中の問題は, 自らの理解度が分かる良い問題なので, 各自復習すること。なお, 教科書以外の参考書, 文献なども, 必要に応じて盛り込んでいく。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221043>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 陶山 (光応用棟 4 階 409, 088-656-9425, suyama.shiro@opt.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 17:00~ 18:00)

【備考】

- ◇ 再試験は基本的に行わない。
- ◇ 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

自然と技術 (Science and Technology)

(医) 医療情報処理学入門 (Introduction to Medical Information Processing)

(医 ((保)1年))

近藤 正 教授 / 大学院ヘルスパイオサイエンス研究部

2単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 近年、医療分野では、病院情報システム、地域医療情報システム、放射線部医用画像情報システムなど、いろいろな種類のコンピュータシステムが導入されており、医療技術者はコンピュータについての高度な知識を要求される。特に、放射線技術分野では、医用画像のデジタル化が急速に進んでおりコンピュータの能力を十分に使いこなしたデジタル医用画像処理技術の習得が求められている。この講義では、医療情報処理学の入門として、コンピュータの基礎的知識とコンピュータの医療応用に関する知識について学びます。また、この講義では、医療技術者が、医療現場で発生する大量の医療情報を、コンピュータを用いて処理を行う時に必要になるコンピュータの基本的な技術について学びます。

【授業の概要】 本授業では、前半でコンピュータの基礎的知識 (ハードウェア、ソフトウェア、コンピュータネットワークなど) について講義し、後半では、医療分野への応用 (病院情報システム、電子カルテシステムなど) について講義する。

【キーワード】 医療情報学、情報リテラシー、マルチメディア

【到達目標】

1. コンピュータの基本的な構造と動作原理を理解できる。
2. 文字、数値、画像、音声などの医療情報がコンピュータ内部でどのように情報処理されるのかを理解できる。
3. コンピュータの医療分野における利用方法を理解できる。

【授業の計画】

1. 講義内容の説明と病院情報システムの概要
2. コンピュータの歴史
3. コンピュータ内部のデータ表現
4. 音響信号、画像のデジタル化
5. ハードウェアの基礎 (2 進数と論理変数、論理素子)
6. ハードウェアの基礎 (論理回路、組み合わせ回路)
7. コンピュータシステム (コンピュータのシステム構成)
8. コンピュータシステム (コンピュータの動作原理)
9. コンピュータシステム (周辺機器)

10. コンピュータシステム (ソフトウェア)

11. ネットワークシステム (プロトコルやインターネットについて)

12. コンピュータの医療への応用 (病院情報システムのような大規模コンピュータシステムの開発手順)

13. コンピュータの医療への応用 (病院情報システムについて)

14. コンピュータの医療への応用 (オーダーリングシステム、電子カルテシステムについて)

15. 試験

16. まとめ

【教科書】 樺澤一之、細井良三、菊池義信 共著、医科系学生のためのコンピュータ入門 共立出版株式会社

【参考書等】 日本医療情報学会編: 医療情報 (情報処理技術編) と医療情報 (医療情報システム編)、篠原出版社

【成績評価の方法】 レポート、学期末試験、授業の取り組み状況などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 内容は、コンピュータに関する入門的なものですが、予習復習が必要です。コンピュータに関する知識は社会人にとって重要なものになっています。特に、医療技術者にとっては必須な知識です。できるだけ積極的に受講してもらいたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221044>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 近藤 (088-633-9024, kondo@medsci.tokushima-u.ac.jp) MAIL

自然と技術 (Science and Technology)

(歯) 医療情報処理 (Medical Information)

(歯 ((歯)1 年))

河野 文昭 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2 単位 前期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 パソコンに慣れ親しみ、歯科医療の中でコンピュータがどのように活用されているのかを知ることが目的である。

【授業の概要】 下記に示す授業内容を講義し、実習では各学生にコンピュータ実習 (インターネット活用、ワープロ、表計算、統計処理) を行う。また、歯科臨床の場で活用しているコンピュータの事例について紹介する。

【到達目標】

1. 情報処理・医療情報の基礎が理解できる
2. コンピュータネットワークの基礎が理解できる
3. コンピュータを活用できる技能を身につけられる

【授業の計画】

1. 情報処理総論
2. 医療情報処理総論
3. 情報通信の仕組み (インターネット)
4. 歯科領域におけるコンピュータの役割
5. ワープロの実習
6. ワープロの実習
7. 表計算の実習
8. 表計算の実習
9. プレゼンソフトの実習
10. プレゼンソフトの実習
11. ホームページ作成ソフトの実習
12. ホームページ作成ソフトの実習
13. 医療統計ソフトの実習
14. 医療統計ソフトの実習

【教科書】

- ◇ 教科書: 私版のテキストを配布。インターネットにて閲覧。
- ◇ 参考書: 各講義中に紹介

【成績評価の方法】 筆記試験 (論述式)

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 コンピュータをツールとして活用できるように講義します。実習は特にインターネット活用および医療統計の方法、に重点をおきます。毎回出席をとるので必ず講義に出席すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221045>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 河野 (088-633-9180, fumiaki@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

第2章

後期(昼間コース)

1) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects)

歴史と文化

古代・中世日本の社会 ... /衣川/後期 月 1・2.....	385
20世紀後半の中国 ... /荒武/後期 月 1・2.....	386
現代日本語の諸問題 ... /仙波/後期 月 1・2.....	387
ドイツ・北欧の伝説とオペラ ... /石川/後期 月 1・2.....	388
沖縄社会文化論 ... /高橋/後期 月 1・2.....	389
考古学概論Ⅱ ... /中村/後期 月 3・4.....	390
民族音楽入門 ... /片岡/後期 月 3・4.....	391
宮澤賢治の時代と社会 ... /中嶋/後期 月 3・4.....	392
江戸時代後期の社会変動と明治維新 ... /桑原/後期 火 1・2.....	393
ヨーロッパ世界の展開 ... /佐久間/後期 火 1・2.....	394
日本図の歴史 ... /平井/後期 火 1・2.....	395
日本中近世文学Ⅱ ... /原水/後期 水 3・4.....	396
東アジア考古学概論Ⅱ ... /東/後期 水 3・4.....	397
日本古代文学Ⅱ ... /堤/後期 木 3・4.....	398
方言と社会 ... /岸江/後期 木 3・4.....	399
中国文学に見える幻術・妖術・呪術 ... /有馬/後期 木 3・4.....	400
写真画像保存技術概論 ... /石井/後期 木 3・4.....	401
西洋音楽の歴史 ... /宮澤/後期 木 3・4.....	402
絵画表現と技法の応用 ... /平木/後期 木 5・6.....	403

人間と生命

心理学入門 ... /濱田/後期 月 1・2.....	404
認知哲学 ... /山口/後期 火 1・2.....	405
罪と悪-旧約聖書の世界- ... /吉田/後期 水 3・4.....	406
心理学基礎 ... /境/後期 水 3・4.....	407
心理学初歩 ... /原/後期 水 3・4.....	408
生体の統合機能 ... /勢井・志内・近久/後期 水 3・4.....	409
現代世界の生涯学習 ... /鈴木/後期 水 3・4.....	410

自己発見の心理学 ... / 香川 / 後期 木 3・4	411
心理学概説 ... / 佐藤 / 後期 木 3・4	412
生物と環境 ... / 佐藤 / 後期 木 3・4	413
社会観の探究 ... / 石田 / 後期 木 3・4	414
異文化交流体験から何を学ぶのか ... / 大橋 / 後期 木 3・4	415
心理学概論 ... / 福森 / 後期 木 5・6	416
自己分析の心理学 ... / 山本 / 後期 木 5・6	417
バイオテクノロジーと生命倫理 ... / 辻 / 後期 金 1・2	418
ゼミナール「くすりと情報」 ... / 山内 / 後期 金 7・8	419
環境とバイオテクノロジー ... / 佐藤 / 後期 金 9・10	420

生活と社会

憲法と人権Ⅱ ... / 瀧 / 後期 月 1・2	421
地球環境問題 ... / 豊田 / 後期 月 1・2	422
マクロ経済学入門 ... / 趙 / 後期 月 3・4	423
地方行政経営論 ... / 石田 / 後期 月 3・4	424
産業と交通 ... / 田中 / 後期 月 3・4	425
都市の人間関係 ... / 矢部 / 後期 火 9・10	426
現代社会と法 ... / 上原 / 後期 水 3・4	427
法学入門 ... / 清水 / 後期 水 3・4	428
市民と政治 ... / 栗栖 / 後期 水 3・4	429
工業経済学 ... / 立花 / 後期 水 3・4	430
相互行為分析と現代社会 ... / 櫻田 / 後期 水 3・4	431
憲法と人権Ⅱ ... / 堀井 / 後期 木 3・4	433
中東経済入門 (第二次世界大戦後の政治と経済) ... / 水島 / 後期 木 3・4	434
ボランティア実践 ... / 樋口 / 後期 木 5・6	435
国際社会と環境問題 ... / 北村 / 後期 木 5・6	436
憲法と人権 ... / 麻生 / 後期 金 7・8	437
国際政治学入門 ... / 饗場 / 後期 金 9・10	438

自然と技術

量子論入門 .../中山/後期 月 1・2.....	439
化学と社会 .../三好/後期 月 1・2.....	440
地震・火山災害を防ぐ .../西山/後期 月 1・2.....	441
現代物理学の世界 .../日置/後期 月 3・4.....	442
地球の科学 .../石田/後期 月 3・4.....	443
身の回りの地球科学 .../村田/後期 月 9・10.....	444
情報メディアと教育 .../金西/後期 火 1・2.....	445
地域の農林水産業とその支援技術 .../浜野/後期 水 3・4.....	446
アクティブラーニングで環境から科学を考える .../齊藤・中恵/後期 水 3・4.....	447
ゼミナール「くすりをつくるー現代の錬金術・有機化学への招待ー」 .../吉田/後期 水 7・8.....	448
数理科学の世界 .../大淵/後期 木 3・4.....	449
遺伝と進化 .../松尾/後期 木 3・4.....	450
原子核・素粒子物理学の最先端 .../伏見/後期 木 5・6.....	451
日本の植物の多様性 .../山城/後期 木 5・6.....	452
ゼミナール「天然物と薬「地球は大きな薬箱」」 .../高石/後期 金 5・6.....	453
災害に備える .../中野/後期 金 9・10.....	454
教養としての統計 .../川野/後期 集中.....	455

日本事情

日本事情Ⅱ ... (留(留))/大石/後期 水 3・4.....	456
日本事情Ⅳ ... (留(留))/三隅/後期 木 3・4.....	457

歴史と文化 (History and Culture)

古代・中世日本の社会 (Ancient and Medieval Japanese History)

衣川 仁・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本史』)

【授業の目的】 歴史はよく暗記物だといわれます。確かにそういった面もありますが、語呂合わせで平安京遷都の年代を覚えることよりも、なぜ 794 年だったのか、なぜ前の都を移る必要があったのか、といった問題の方がはるかに重要なのは明らかです。その上、こうした問題について史料を丹念に読んでじっくりと考える作業の方が、単純に面白いのです。もちろん、そこには答えのない問題に挑むことの難しさがありますが、色々な説を紹介しつつ解説します。歴史を暗記するのではなく考えること、そしてその面白さを感じ取ること、この二つを目的とします。

【授業の概要】 日本の古代・中世史における重要なトピックを概説し、その歴史的な特質を考えます。特に平安時代 (8 世紀末から 12 世紀末) を対象に、律令体制的な秩序の拡大と矛盾、社会の動き、更には摂関政治から院政に至る政治史の流れなどを押さえます。その際には、『日本後紀』や『続日本後紀』など、史料・資料に基づいて説明します。

【キーワード】 天皇、武力、藤原氏、仏教

【先行科目】 『歴史と文化/ 日本の古代史』 (1.0)

【関連科目】 『歴史と文化/ 日本の古代史』 (0.5), 『歴史と文化/ 江戸時代後期の社会変動と明治維新』 (0.5)

【到達目標】 平安時代の政治と社会の歴史をおさえる。そこに深く関わった権力 (特に天皇) の役割を理解する。これらを含む当該期の歴史的な特質を考える。

【授業の計画】

1. 平安時代の武力問題とは何か
2. なぜ寺院は武力を持ったのか
3. 藤原氏は皇位継承にどう関与したのか
4. 道長の権力はどのようなものだったのか
5. 「摂関時代」はなぜ終わったのか
6. なぜ荘園は「整理」されたのか
7. なぜ内裏は復興されたのか
8. 公家と武家はどのような関係だったのか
9. 仏教の役割はどのようなものだったのか
10. 院政時代に頻発した強訴とは何か

11. 巨大な寺はなぜ造られたのか
12. なぜ崇徳院は「叔父子」と呼ばれたのか
13. なぜ「ムサノ世」が始まったのか
14. なぜ鹿ヶ谷事件は起こったのか
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用せず、プリント等を配布します。参考書等は適宜紹介するつもりです。

【成績評価の方法】 主として学期末試験により評価しますが、出席やコメント・小テストなど、平素の授業への取り組みも勘案します。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 歴史は考える学問だといった様に、実際に考えながら受講して欲しいと思います。ですから、予習や復習も必要です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221047>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 12 時 50 分 ~ 14 時 20 分)

歴史と文化 (History and Culture)

20世紀後半の中国 (20th Century China II)

荒武 達朗・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】本授業では 20 世紀後半の中国史, 日中戦争の終結, 内戦, 中華人民共和国成立以降の歴史を講義する。歴史事項の暗記につとめるのではなく, 個々の歴史事項が歴史的文脈の中でどういう意味を持っているのかを「考察」していきたい。

【授業の概要】下の授業の計画を見よ。

【到達目標】我々にとっても極めて重要な中国近現代史のアウトラインを理解する。

【授業の計画】

1. 以下の項目の順番に沿って授業を進める。
2. 1945 年 日本との戦いの終わり
3. 中国共産党と中国国民党の内戦
4. 1949 年 中華人民共和国成立と初期の方針
5. 1950-53 年 朝鮮戦争と中国
6. 1950 年代後半 農業集団化と大躍進の失敗
7. 1960 年代前半 調整期の経済:動乱の予感 毛沢東と劉少奇
8. 1966-76 年 文化大革命期:毛沢東の権力闘争
9. 1966-76 年 文化大革命期:新たな時代の胎動
10. 1970 年代前半 国際社会への復帰
11. 1978 年 ~ 改革開放時期の政治と社会
12. 21 世紀初頭の中国
13. (一回の授業で語り尽くせぬ場合には, 次の回へと順延していく。)
14. (テスト)
15. (総括授業)

【教科書】教科書はプリントを準備する。参考書などは追って指示する。

【成績評価の方法】小テスト (40 点), 期末試験・レポート (60 点)

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】受講態度は授業を受ける前提である。授業開始直後などに出席をとる。睡眠や内職は認めない。携帯電話の使用はもつてのほかであり, これらの行為は叱責の対象である。漫然と受講することはけして出来ないが, ただし本当に中国の歴史について学ぼうとする者に対して有意義な内容を提示

できるものと自負している。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221048>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】内容を変更する場合もある。その場合は掲示にて通知する。

歴史と文化 (History and Culture)

現代日本語の諸問題 (Topics in Contemporary Japanese)

仙波 光明・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本語学』)

【授業の目的】日本語の特質を理解し、日本語に関するさまざまな問題に対して、正確な知識にもとづき、正しい道筋で考え、適切な評価・判断が下せるようになることを目的とする。

【授業の概要】日本語とはどんな言語なのかを、以下の諸観点から概観し、文字・表記に関わる主題を中心に、日本語の特質を検討する。1) 諸言語に例を見ない複数文字体系の使用、2) 日本語の文字の機能、文字と発音との関係、3) 日本語の語彙と表記の関係、4) 日本語の変化と、「正しい」日本語・「乱れた」日本語、等々。

【キーワード】現代仮名遣い、送り仮名、漢字仮名交じり文、日本語の語種と表記、日本語の乱れ

【到達目標】

1. 日本語 (特に表記) について、正確な知識を身につける。
2. 日本語に関する問題を検討するための調査方法を知る。
3. 正確な知識に基づいて、国語問題、日本語を巡る諸問題に対する意見を表明できる。

【授業の計画】

1. 授業の進め方の説明、日本語はどれほどの勢力を持っているのか。
2. 諸言語の中での日本語の特殊性、それは文字・表記。
3. まずは、発音から見た日本語 (1) 古代から中世にかけて
4. 発音から見た日本語 (2) 現代日本語
5. 日本語表記の諸問題 1 日本語はどのようにして文字を獲得したか。
6. 日本語表記の諸問題 2 仮名遣い (なぜ必要になったのか)。
7. 日本語表記の諸問題 3 現代仮名遣いの要点。
8. 日本語表記の諸問題 4 漢字仮名交じり表記に必要な送り仮名。
9. 表記の諸問題 5 外来語の表記の問題 (付:ローマ字表記は簡単か)。
10. 表記の諸問題 6 語種の別 (和語・漢語・外来語・混種語) と日本語表記。
11. 表記の諸問題 7 日本語の文字の役割 (発音との関係)
12. 文字が変えた日本語 (漢字制限のために作られた新語など)
13. 「肉汁 (にくじゅう)」をなぜ「にくじる」と読んでしまうのか等。
14. その他 (内容未定。授業の進展状況によって決定する。)

15. 試験

16. 補足など

【教科書】参考書:『新しい国語表記ハンドブック』三省堂ほか。その他、随時紹介する。

【成績評価の方法】小テスト 50%、期末試験 50%の割合で評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】この授業では、毎回小テストを行う。また、カードに授業に関する質問・感想・疑問等を書いて提出してもらおう。このデータ (出席状況、質問、感想) は、次回の授業資料に記すかたちで受講生に公開される場合がある。ただし、受講者数などの状況によって不可能になるかもしれない。なお、このシラバス作成から授業開始までに 8 ヶ月の時間があるので、内容及び進度に若干の変更・修正がありうる。詳細については、第 1 回目の授業であらためて説明する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221049>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歴史と文化 (History and Culture)

ドイツ・北欧の伝説とオペラ (German-Nordic Legend and Opera)

石川 榮作・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『外国文学』)

【授業の目的】ドイツ・北欧の伝説とオペラに触れることによって、豊かな人間性を培うことを目的とします。

【授業の概要】ドイツ・北欧のジークフリート伝説の系譜を辿りながら、ワーグナーのオペラ『ニーベルングの指環』四部作の特質と魅力を探っていきます。

【キーワード】ドイツ文学, ニーベルンゲン伝説, ニーベルンゲンの歌, ワーグナー, ニーベルングの指環

【到達目標】ジークフリート伝説の変遷を理解し、ワーグナー『ニーベルングの指環』四部作の特質と魅力を文章で表現することができる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション (芸術作品の必要性)
2. ジークフリート伝説の生成, 北欧におけるジークフリート伝説
3. 『ニーベルンゲンの歌』におけるジークフリート像 (1)
4. 『ニーベルンゲンの歌』におけるジークフリート像 (2)
5. 『ニーベルンゲンの歌』におけるジークフリート像 (3)
6. 16~18 世紀におけるジークフリート像
7. ワーグナー『ラインの黄金』
8. ワーグナー『ワルキューレ』
9. ワーグナー『ジークフリート』第一幕・第二幕
10. ワーグナー『ジークフリート』第三幕
11. ワーグナー『神々の黄昏』序幕・第一幕
12. ワーグナー『神々の黄昏』第二幕
13. ワーグナー『神々の黄昏』第三幕
14. 20 世紀におけるニーベルンゲン伝説
15. 定期試験
16. 総括授業

【教科書】石川栄著作:ジークフリート伝説—ワーグナー『指環』の源流 (講談社学術文庫) 1050 円

【成績評価の方法】授業への取り組み (50%) と定期試験 (50%) により、総合的に評価します。

【再試験の有無】有り

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221050>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜日15時~16時)

【備考】ビデオ等をたくさん用います。オペラを大いに楽しんでいただければ幸いです。芸術作品は大いに楽しむことで、私たちの心を豊かにしてくれるものです。

歴史と文化 (History and Culture)

沖縄社会文化論 (Okinawa Society and Culture)

高橋 晋一・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『文化人類学』)

【授業の目的】 異文化/自文化を客観的に把握する視点の獲得は、持続可能な社会・共生社会を考える上で重要なものである。本講義では、とくに沖縄の文化を事例として、こうした視点の獲得を目指したい。これまで沖縄の文化・社会は、日本との関わりにおいて言及されることが多かった。しかし沖縄は古くから日本のみならず、より広大な東アジア・東南アジア世界と結び付きを持ち、それらの地域との密接な交流のなかで、独自の社会・文化・民俗を作り上げていったのである。本講義では、従来の「日本文化と沖縄文化」という視点にとどまらず、「アジアの中の沖縄」(さらには「世界の中の沖縄」)というより広い視点から、現代の沖縄の文化・社会の姿を見つめ直してみたいと考えている。また、沖縄という一地域の事例を通して「文化人類学的なものの方」に対する理解を深めることも、本授業の大きな目的の一つである。

【授業の概要】 毎回、祭り、音楽、食文化など具体的なトピックを取り上げつつ、「アジアの中の沖縄」(さらには「世界の中の沖縄」)という視点から、沖縄の文化と社会の基層構造(沖縄文化・沖縄社会の本質)を解明していく。

【キーワード】 沖縄、文化、アジア、文化人類学、民俗学

【関連科目】 『歴史と文化/異文化/自文化研究へのいざない』(0.5)

【到達目標】 沖縄の文化・社会の持つ特質を、文化人類学的な概念・理論をふまえながら理解することができる。

【授業の計画】

1. はじめに-沖縄文化・社会をとらえる視点
2. 「海上の道」は時空を超えて-沖縄の自然・歴史と文化
3. 祖霊が見守るシマ-沖縄の村落構造と世界観
4. 墓を生きる人々-沖縄の家族・親族と祖先崇拜
5. ニライカナイ(海上他界)と仮面来訪神-沖縄の祭りと芸能
6. 神になった女性-沖縄の女性祭司の世界
7. 琉球音階は黒潮に乗って-伝統音楽から沖縄ポップスまで
8. ウチナンチュ(沖縄人)の見た沖縄-沖縄映画の世界
9. 創り出される「ちゃんぷるー文化」-沖縄の地域イメージと観光文化の展開
10. 食のクロスロード-沖縄の食文化にみる外来文化の影響
11. 環東シナ海の文化交流-沖縄における中国的習俗

12. 「沖縄」を踊る-在阪沖縄人社会の「エイサー」をめぐる

13. 中国文化を生きる-石垣島の華僑社会の事例より

14. 東アジア世界へのひろがり-沖縄の風水

15. レポート提出

16. 総括

【教科書】 教科書は使用しない。毎回、授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

- ◇ 以下に挙げる概論・入門的な参考書のほか、個々のトピックに関する参考書については、講義の中で随時紹介する。
- ◇ 外間守善『沖縄の歴史と文化』中公新書、1986年
- ◇ 赤嶺政信『沖縄の神と食の文化』青春出版社、2003年
- ◇ 多田治『沖縄イメージの誕生』東洋経済新報社、2004年
- ◇ 渡邊欣雄『世界のなかの沖縄文化』沖縄タイムス社、1993年
- ◇ 『アジア遊学』53号(特集=沖縄文化の創造)勉誠出版、2003年
- ◇ 嘉手川学編『沖縄チャンプルー事典』山と溪谷社、2001年

【成績評価の方法】 本授業の成績評価は、授業への取り組み状況(25%)、授業時間中に随時行う小テスト(各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト)の点数(40%)、期末レポートの点数(35%)を総合して行う。ただし、評価割合の目安は括弧内のパーセントである。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講者の理解を助けるため、授業の中ではDVD、CD、パワーポイントによるプレゼンテーションなどの視聴覚教材を多用する。フィールドワークを「疑似体験」しながら、文化現象の意味について考えてもらいたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221046>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (後期)月曜12-13時)

歴史と文化 (History and Culture)

考古学概論 II (Outline of Archeology II)

中村 豊・准教授 / 埋蔵文化財調査室

2単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『考古学』)

【授業の目的】 日本列島は、温暖・湿潤な照葉樹林帯に属する西南日本と、温帯落葉広葉樹林が大半を占める東部日本に分かれ、それぞれの風土に応じた多様な歴史を展開してきた。この講義では、従来の一国史的な歴史像ではなく、「風土」に着目した新たな歴史像を、考古学の成果から学ぶことを目的とする。

【授業の概要】 まず日本列島とそれをとりまく地域における気候や植生の特徴を把握する。次に、過去 1 万年間の気候変化を押さえ、日本列島内での気候・植生区分を見て、多様な生態を把握する。これをふまえた上で、旧石器時代から順に、縄文時代、弥生時代、古墳時代の順に、考古学からみた歴史像をえがいていく。従来の生産力発展の理論に則った一国史的な歴史像を描くだけなのではなく、人びとが、多様な生態とどのように関わりを持って来たのかをふまえた上で論じていく。なお、理解を助けるために、パワーポイントなど映像資料を用いる予定である。

【キーワード】 日本考古学, 風土, 気候変動, 生態系, 多様性

【関連科目】 『歴史と文化/ 考古学概論 I』(0.5), 『歴史と文化/ 東アジア考古学概論 I』(0.5), 『歴史と文化/東アジア考古学概論 II』(0.5)

【到達目標】

1. 日本列島をとりまく気候・風土を理解する。
2. 旧石器時代～ 古代の日本考古学のアウトラインを理解する。
3. 生産様式の発展とは異なる、人間と生態系とのかかわりの歴史を理解する。

【授業の計画】

1. いま、なぜ日本考古学を学ぶのか
2. 東アジアの生態的特徴と日本列島
3. 気候風土から日本列島のなかに多様な生態をみる
4. 生産様式の発展からみた考古学的歴史像とその問題点
5. 自然環境と人間とのかかわりからみた考古学的歴史像
6. 旧石器・縄文時代初期の日本列島
7. 縄文時代の気候変化および列島東部と列島西部の地域性
8. 世界の農業からみた水田稲作
9. 縄文から弥生へ 1 -大陸文化の導入-
10. 縄文から弥生へ 2 -社会・文化の変化-

11. 弥生時代の食生活ー本当に稲穂はゆれたのかー

12. 「邪馬台国」の時代 1 -その前夜-

13. 「邪馬台国」の時代 2 -謎の女王卑弥呼-

14. 前方後円墳の時代

15. レポート提出

16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリント資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、学期末のレポートにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 考古学に興味のある学生なら、学部・専攻分野・文系理系にかかわらず受講を歓迎する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221052>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中村 (088-633-7224, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 8 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

歴史と文化 (History and Culture)

民族音楽入門 (Introduction to Ethnological Music)

片岡 啓一・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】 今日我々を取り巻く世界は極めて複雑かつ流動的で、しかも変化に富んだものである。多くの国々・民族等は多様な文化的様相を呈し、世界中にはさまざまな音楽が存在している。この授業では、民族音楽学的視点から世界の諸民族の音楽について時間の許す限り具体的に言及し、そのことを通じて、音楽の本質・民族性と音楽文化との関係等について一人一人が真剣に考える機会を共有したいと思っている。なお、社会(あるいは学問体系)における同授業を受ける意義とかその必要性、あるいは、同授業の社会における立ち位置等について、私自身が考えていることを書いておきたい。現代社会は外国文化との接触・交流の密度が増し、広い意味での異文化理解についての深い勉強を大学生活の中で積極的に行うことが、どのような分野を専攻しようとしている学生にとっても極めて大切である。この授業は、そのような意味においても大変有益であり、又、多様な音楽文化を最初に書いたような趣旨で学生時代に学ぶことは、どのような研究分野を目指している学生にとっても、直接的にも間接的にもプラスに働くことが多いのではないかと思っている。

【授業の概要】 民族音楽学的な視点に立った世界の諸民族の音楽に関する講義。

【キーワード】 民族音楽学, 民族音楽, 民族性, 音楽文化, 異文化理解

【到達目標】 世界にはさまざまな音楽文化が存在すること、それらはそれぞれの国の民族性と深く結び付いていること等を自覚し、音楽文化全般に対して深い興味と関心を抱く。

【授業の計画】

1. 授業の目的のところで述べたことを具現するために、講義的説明に加えて A.V. 機器を使用した鑑賞を授業の中に取り入れる。
2. 1. 授業の趣旨説明を行い、現代の音楽の特徴について言及する。
3. 2. 日本の音楽。
4. 3-4. 東アジアの音楽。
5. 5. エスキモーの音楽。
6. 6-8. 東南アジアの音楽。
7. 9-10. インドの音楽。
8. 11-13. 西アジアの音楽。
9. 14. アラブの音楽。

10. 15. 試験期間であるが、試験は行わずレポートを提出してもらおう。
11. 16. 総括授業。これまでに行ってきた授業内容を総合的に振り返って、全体的なまとめとか意見交換等を行う。
12. 以上の授業計画は、できるだけ予定通りに実施したいと考えているが、若干予定がずれる可能性はあるので、その点はあらかじめご了承ください。

【教科書】 この授業では教科書等は使用しない。

【成績評価の方法】 試験は行わず、レポートを提出することによって単位を出す。レポートは提出期限を厳守すること。成績評価には、授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される。

【再試験の有無】 行わない。

【受講へのメッセージ】 同授業は、2011 年度(平成 23 年度)は後期・月曜・3-4 講時に開講する。なお同授業は前期・金曜・1-2 講時にも開講するが、内容は全く同一なので、重複履修は認められない。その点、誤解のないよう十分に注意すること。同授業は、総合科学部内マルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」で実施し、受講者数は、部屋の広さの関係からそれぞれの授業において 50 名以内とする。又、総合科学部の学部専門科目で「芸術文化論」(平成 21 年度以降に入学した学生のための授業名称。平成 20 年度以前に入学した学生のための授業名称では「世界の諸民族の音楽」。)が開講されているが、その内容は同授業と相当程度重複するので、総合科学部の学生で上記の授業を受講する予定の者は、この授業を受講しないようにすること。なお、先行科目・関連科目についてはとりたてて指定したくはないので、掲載しないままにしておいた。その点ご了承ください。今年度は試験を含めて全部で 16 回分の授業が予定されているが、この授業では、15 回目の試験(16 回目は総括授業)のかわりにレポートを提出してもらうことによって単位を出す予定である。勿論、授業への出席状況とか受講姿勢等も総合的に評価する。(オフィスアワーは後期・木曜の昼休みです。私の研究室は、マルチメディア A 棟の 2 階にあります。)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221053>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歴史と文化 (History and Culture)

宮澤賢治の時代と社会 (the Age of MIYAZAWA, Kenji and the Social Background)

中嶋 信・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】 社会的現実とは総合的な存在です。私たちは、文学・生物学・経済学など限定した方法で対象を捉えがちです。それは学問の方法として認められていますが、一面的な理解に陥る危険性をはらみます。それを克服するには「総合科学」という方法を修得することが有益です。宮澤賢治は童話作家・詩人として著名ですが、宗教者・教育者・農業技術者としての専門性を見逃すと彼の全体像が得られません。また、多面的な天才・賢治が輩出された時代背景を深く捉えるには経済学の方法も必要です。この講義は、宮澤賢治という対象を総合科学の方法で解析します。

【授業の概要】 宮澤賢治が制作活動を旺盛に展開した「戦間期」の農村社会の状況を整理した上で、彼の作品を読み解きます。作品群を素材に、文学者・教育者・宗教者などの多彩な資質を備えた賢治が模索したことがらを総合的に把握します。そして、現代の私たちが、賢治から何を学び、その志をどう引き継ぐべきかを考えます。進め方は下記の通りです。

【キーワード】 宮澤賢治, 経済史, 社会背景

【到達目標】

1. 宮澤賢治が活躍した時代の状況を総合的に把握できる。
2. 賢治の作品をより深く読み、近現代史上の位置を理解できる。
3. 賢治のメッセージの意味を現代に即して考えることができる。

【授業の計画】

1. 文学作品と諸科学 総合科学の課題と講義の進め方
2. 「戦間期」という時代 賢治が駆け抜けた時代の状況
3. 東北というポジション 日本社会の近代化と賢治の郷里
4. 賢治の生涯と作品 賢治の壮大な思索と実践の背景
5. 賢治の自然観・社会観 賢治が描く独自空間の構成
6. 賢治の教育実践 (1) 天才教師の足跡をたどる
7. 賢治の教育実践 (2) 教育実践が挫折した理由
8. 賢治と国家と戦争 (1) 賢治と戦争との関わり
9. 賢治と国家と戦争 (2) 戦争に関わる評価の混乱の整理
10. 新しい宗教のかたち (1) 近代化と宗教の変容
11. 新しい宗教のかたち (2) 賢治の宗教実践の転換

12. 未来社会のかたち (1) 時代の課題と社会運動の叢生
13. 未来社会のかたち (2) 賢治が目指す社会像とその破綻
14. 現代と宮澤賢治 賢治のメッセージの現代的意味
15. 筆記試験
16. 質疑応答と全体のまとめ 講義内容の補足

【教科書】 テキストは用いず、プリントに従って進めます。進行に沿って参考書を紹介します。

【成績評価の方法】 二つの試験を総合して認定。出席状況で補正します。＜中間試験＞ (1)~ (5) を概括するテーマのリポート提出、＜期末試験＞ (6)~ (13) のいずれかのテーマの筆記試験

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 専用ファイルを準備し、レジュメ・ノート・関連資料などをまとめて私的テキストをつくること。経済社会のダイナミズムを自分の頭でとらえよう。＜The Sense of Wonder＞を磨きあおう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221054>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日13:30~17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

歴史と文化 (History and Culture)

江戸時代後期の社会変動と明治維新 (History of Late Edo)

桑原 恵・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本史』)

【授業の目的】 歴史学は、過去に人間が社会をどのように作り、そのときの社会が抱える問題を解決してきたかを知ることのできる学問である。特に変動の激しい現代の社会を生きるとき、日本の歴史から学ぶことも多い。また、日本の歴史についての知識は、国際化の時代においても必須の教養である。私たちは、自らの国の歴史を知っているようで案外知らないものである。社会の組織やそれぞれの社会の通念などは、個々の人間から見れば、既成のもののように見えるが、歴史的に見れば、すべて人間が作り上げたものである。講義では、歴史学を単なる暗記の学問として、過去の研究成果から得られた通説的理解のみを学生に講義することはしない。史料に基づいて、歴史学的に物事を考察する方法を講義したいと考えている。

【授業の概要】 本講義では、歴史をこのような観点から捉え、江戸時代後期の社会変動と明治維新の過程について講義する。講義では、出来る限り史料を提示し、その意味と歴史的意義付けについて説明しながら、講義を進めていく。そして、幕末の変革期に展開する政治運動の様相についても考察したい。

【キーワード】 江戸時代、明治維新、社会の変化、民衆の思想

【到達目標】 江戸時代後期の社会問題を理解し、明治維新へと進む社会の様相について、史料に基づきながら理解する。

【授業の計画】

1. 本講義について講義の進め方と江戸時代の概要
2. 武士階級から見た幕藩体制の動揺と社会問題
3. 経済の進展と社会の変化-変化の要因-
4. 幕府の経済政策-享保改革・田沼期の政治-
5. 100万人の人口を抱える江戸の社会問題
6. 寛政の改革と都市政策
7. 江戸時代後期の農村-商業的農業の展開と農村-
8. 江戸時代後期の農村-災害・飢饉と農村-
9. 社会不安の増大-「家」存続の危機-
10. 不安に対処する思想-農村復興の思想-
11. 尊王思想の登場-水戸学・国学について-
12. 尊王思想の展開と天皇の政治性の高まり

13. 幕末期の政治-京都を中心とした政局の展開-

14. 志士の活動と明治政府の成立

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 教科書は、指定しない。授業中使用するプリントと資料は適宜配布する。
- ◇ 参考となる本は、講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法】 講義中に抜き打ちで行う小テストもしくは、期末試験の結果をもとに評価する。

【再試験の有無】 なし。

【受講者のメッセージ】 暗記中心のテストは実施しない。理解しやすい講義とするために、受講生の質問なども歓迎する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221055>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歴史と文化 (History and Culture)

ヨーロッパ世界の展開 (Modern European History)

佐久間 亮・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】 高校までの歴史の勉強では、年号、人名などの暗記に四苦八苦してきたこととおもう。しかし、歴史の醍醐味は、教科書に書かれている事実をひたすら修得することではなくて、歴史上の事実をさまざまな視点から位置づけ、評価しなおしてみることにある。だから、歴史を見る人それぞれの立場で、教科書とは別のいろいろな歴史を描くこともできるのである。この授業ではヨーロッパの近代史(16世紀～19世紀)を概論するが、いろいろな観点から歴史を描くことができること、その一例を示すことを目的とする。

【授業の概要】 ヨーロッパ近代史がどのような過程を経て今日の世界のようになったのかについて、二つの見方を提示したい。一つは、ヨーロッパの近代史は、その当初からヨーロッパ外の世界との関係をもつことではじめて成立したのだということ。つまり、ヨーロッパ近代史はヨーロッパ内部で起こった出来事を羅列すれば理解可能だと考えないということである。もう一つは、ヨーロッパと外部世界をむすびつけたモノを重視して歴史を眺めるということである。とりわけヨーロッパ近代史にとって重要なのは植物資源であった。紅茶やコーヒーに砂糖やミルクを入れて飲むという喫茶の習慣は、ヨーロッパにもともとあったのではなく、むしろ、ヨーロッパ人がこの風習を身につけていく過程こそがかねらの近代史なのである。そして、これらの重要な植物資源を求めて、ヨーロッパ人は外部世界との結びつきを深めていく。なぜならば、これらの重要な資源はいずれも熱帯植物であり、ヨーロッパでは生育しないモノばかりだったからである。

【キーワード】 世界システム, 異文化接触, 近代化, 植物資源, 喫茶文化

【関連科目】 『生活と社会/国際政治学入門』(0.5), 『歴史と文化/中東経済入門-歴史と文化基盤-』(0.5)

【到達目標】

1. 現代社会の成り立ちを歴史的なパースペクティブから理解できる
2. 歴史像の多様性について理解を深める

【授業の計画】

1. ヨーロッパ近代の幕開け-ルネッサンス, 宗教改革, 大航海時代-
2. 胡椒をもとめて(1)-レコンキスタと黄金-
3. 胡椒をもとめて(2)-ヨーロッパとアジア, アメリカの接触-

4. コロンブスの交換(1)-植物の大移動-
5. コロンブスの交換(2)-プラント・ハンターの時代-
6. 砂糖はクウルランにしたがう(1)-イスラム教徒と魅惑の白砂糖-
7. 砂糖はクウルランにしたがう(2)-十字軍とヴェネチアの商人-
8. 砂糖はクウルランにしたがう(3)-地中海から大西洋へ-
9. 砂糖はクウルランにしたがう(4)-カリブ海地域の運命-
10. ヨーロッパ喫茶文化の成立
11. 『ロビンソン・クルーゾ』とイギリスの西方植民
12. エコロジー危機と近代世界システム
13. イギリス「商業革命」(1)-「ピューリタン革命」とカリブ海植民地-
14. イギリス「商業革命」(2)-産業革命への道-
15. 期末試験
16. 全体のまとめ

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配布して授業をすすめる。

【参考書等】 参考書はその都度紹介する。

【成績評価の方法】 受講態度, 小テスト, 学期末テスト(論述形式)で総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験はおこなわない。

【受講者へのメッセージ】 大学受験で世界史を選択した者を想定して授業をすすめる。そうでない者は、あらかじめヨーロッパの近代史に関する概説書を読んでおくことが望ましい

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221056>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歴史と文化 (History and Culture)

日本図の歴史 (Pre-Modern Japanese Maps)

平井 松午・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】 様々なスケールの「地域」を研究対象とする地理学にとって、「地域」に関する資料をどのように分析し解釈するかは、重要な研究手続きとなる。この授業では、古代から近代までの各時代ごとに描かれた各種の日本図を手がかりに、国土・世界に対する日本人の地理観の一端を紹介するとともに、日本図の変遷にみる科学的側面について歴史地理学的見地から考察していくことも目的としている。

【授業の概要】 授業では、古代から幕末・明治に至るまでの日本を描いた多様な古地図を、プリント、パソコンによるデジタルデータなどを用いて紹介する。取り上げるおもな古地図は、日本およびその周辺地域を題材としたもので、絵図の記載内容や画像表現から、絵図作成の目的や、そこに描かれている地域像・社会背景などについて解説する。

【キーワード】 地理学, 歴史地理学, 古地図, 地理情報システム

【関連科目】 『生活と社会/暮らしと地図』(0.5)

【到達目標】 絵図が作成されてきた時代ごとの社会背景と技術的発展過程の相互関係が理解できること。

【授業の計画】

1. 見取図と実測図 -絵図と地図の違い-
2. 古代律令体制と国郡図
3. 最古の日本図「行基図」 -中世の日本図-
4. 「行基図」と「海山潮陸図」 -近世初頭の日本図-
5. 「五天竺図」と「世界図屏風」 -日本人の世界観-
6. 幕藩体制の確立と幕府撰国絵図
7. 近世阿波の国絵図 -6 期の国絵図-
8. 国絵図と日本図総図
9. 道中絵図と「改正日本輿地路程全図」 -普及版日本図-
10. 蘭学の発達と世界地理書の刊行
11. 紅毛流規矩術と実測分間絵図
12. 伊能忠敬の全国測量
13. 「大日本沿海輿地全図」とシーボルト事件
14. 間宮林蔵と北方図

15. 期末試験

16. 「日本図の歴史」授業のまとめ

【教科書】

- ◇ 教科書は使用せず、授業の際に資料プリントを配付する。なお、手近な参考図書としては次のものがある。
- ◇ 久武哲也・長谷川孝治編『改訂増補 地図と文化』地人書房、織田武雄『地図の歴史 日本篇』講談社新書

【成績評価の方法】 授業中に数回行う小テストや課題レポート、授業への取り組み状況などにもとづく平常点での評価と、期末試験結果による評価を併用して総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 徳島大学附属図書館のホームページ (<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>) の「古地図・絵図 (貴重資料高精細デジタルアーカイブ)」には、図書館が所蔵する各種絵図 (国絵図、伊能図、世界図など) が掲載されているので、参照のこと。なお、平成 15 年度以前に月曜日 13・14 講時の「地理学・地域と地図 II」を履修したものの、夜間主コースで開講している「日本図の歴史」の単位を取得したものは受講できない。

【WEB 頁】 <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221057>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歴史と文化 (History and Culture)

日本中近世文学 II (Medieval Japanese Literature 2)

原水 民樹・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本文学』)

【授業の目的】日本人である以上、過去の日本文化についての知識を持つべきことは当然である。外国に留学した学生が留学先で日本文化についての質問を受け何も答えられずに恥をかいたというのはよく聞く話である。本授業ではいくつかの古典落語を取り上げ、そのもとねたとなった古典作品をも併せて紹介しながら、落語の仕立てられ方、並びに近世の庶民文化の一端に触れる

【授業の概要】いくつかの落語を紹介した上で、元ネタとなった古典作品を取り上げ、落語の形成のされ方を説明する。

【キーワード】落語, 日本古典文学, 近世庶民の生活

【到達目標】落語の鑑賞を通じて、日本人のユーモアやウイットを理解する。

【授業の計画】

1. 落語についての一般的説明
2. 平家物語・謡曲景清・新話笑眉などと落語の景清
3. 義経記・謡曲船弁慶などと落語の船弁慶
4. 義経記・歌舞伎義経千本桜と落語の猫の忠信
5. 義経・弁慶説話と落語のこぶ弁慶・青菜
6. 近江八景と落語の近江八景
7. 和歌「せをはやみ」と落語の崇徳院
8. 和歌「ちはやぶる」と落語のちはやぶる
9. 怪談皿屋敷と落語の皿屋敷
10. 醒睡笑などと落語のこほめ
11. 狂言ほねかわ・十返舎一九へそくりかねと落語の金明竹
12. 十返舎一九世中貧福論と落語のはてなの茶碗
13. 江戸小話と落語の一目上がり
14. 好色五人女・難波戦記と落語のくしゃみ講釈
15. テスト
16. 総括

【教科書】資料はこちらで用意する。

【成績評価の方法】学期末試験 (50%)・毎回の質疑の内容・受講姿勢 (50%) を総合して判断・評価する

【再試験の有無】無

【受講へのメッセージ】文学や文化を少しは真面目に考える学生、日本の歴史・古典文学に関心のある学生に受講してもらいたい。単位取得だけが目的の学生には退屈で辛いだけ。毎回、講義内容についての質疑を課す。教科書を購入しない者は受講を認めない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221058>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 原水 (1 号中棟 1 階, 088-656-7113, haramizu@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

歴史と文化 (History and Culture)

東アジア考古学概論 II (Outline of East Asian Archaeology 2)

東潮・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『考古学』)

【授業の目的】鳥居龍蔵(1870-1953)はシベリヤ・中国・朝鮮・モンゴル・日本列島のアジア諸地域で考古学的・民族学的調査研究をおこなった。アジアの近代、20世紀の戦争の時代を生きた鳥居龍蔵を時代とともに位置づける。

【授業の概要】私はこれまでの東アジア考古学研究において、鳥居龍蔵の歩いた行程をたどってきた。鳥居龍蔵の百年後の現在のアジアを体験している。そうした踏査行にもとづき、鳥居龍蔵の人と学問をさぐる。

【キーワード】鳥居龍蔵、東北アジア

【到達目標】鳥居龍蔵の座右の銘は「自助而自力」。学びたい。

【授業の計画】

1. 鳥居龍蔵の生涯—徳島からアジアへ
2. [満州], 遼東半島の踏査
3. 大興安嶺・黒龍江(アムール)流域の人類学的・調査
4. 東北アジアの支石墓—巨石文化の世界的研究
5. 漢魏の楽浪郡・帯方郡治の調査
6. 高句麗の將軍塚, 広開土王碑・母丘儉碑の発見
7. 渤海・遼・金の東北三京の調査
8. 遼の歴史と文化(慶陵, 遼上京・中京などの調査)
9. シベリヤ・アムール流域の民族調査
10. 千島・樺太の民族調査
11. 朝鮮半島の考古学・民族学的調査
12. 中国西南地方の民族調査
13. 台湾調査
14. 沖縄調査
15. 日本列島調査—阿波・信濃・日向
16. 鳥居龍蔵とアジアの近代

【教科書】なし

【参考書等】

- ◇ 東潮 2009 「鳥居龍蔵のアジア踏査行」『人間社会文化』17
- ◇ 中藺英助 1995 『鳥居龍蔵—アジアを走破した人類学者』岩波書店

【成績評価の方法】学期末試験による。

【再試験の有無】なし

【受講者へのメッセージ】なし

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221609>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 総合科学部1号館3階の考古学研究室で随時おこなう。)

歴史と文化 (History and Culture)

日本古代文学 II (Ancient Japanese Literature 2)

堤和博・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本文学』)

【授業の目的】 これからの人生を送っていくなかで、種々多様な文学作品に接することは、色々な面において有意義なものとなるはずである。しかし、日本古典文学作品を読むとすると、言葉が現代語と違うのは勿論のこと、何かと取り付きにくいものである。そこで、日本古典文学史上の主要な作品群である平安時代の和歌を取り上げ、古典文学作品読解の基本を身につけることを目的とする。以上のことに加え、文章力を養うことも目的とする。

【授業の概要】 文学作品の読解とは表面上の意味を読み取る (古典で言えば単に現代語訳する) だけではすまされないのは勿論である。作品の成立した過程やその時代の状況、あるいは登場人物の人物像などを考慮に入れながら、作者が真に訴えたかったことを慎重に読み取っていかなくてはならない。つまり、和歌に限らず文学作品はそれが生み出された時代の文化や政治などと不可分なのである。平安時代について言うと、平安時代初期、日本は中国文化の影響を強く受け、その後政治体制の変化などに伴って国風文化といわれるものが花開く。また、その政治史的には摂関制、院政、武家政権と移っていく。そんな時代背景のもと、平安時代の和歌史がどう展開していったかを跡づけることを目的とするが、政治史との関わりに特に重点をおく。平安時代には『古今和歌集』をはじめとして勅撰和歌集がいくつか編まれた。授業は勅撰和歌集が編まれた頃を焦点に時代区分して進めていく。

【キーワード】 勅撰和歌集, 日本古典文学, 日本古代史

【関連科目】 『歴史と文化/ 古代・中世日本の社会』(0.5)

【到達目標】

1. 平安時代のそれぞれの和歌が詠まれた頃の時代や作者の状況を把握した上でその和歌を読解する過程及び結果が理解できる。
2. 1 で理解した内容をわかりやすく文章化できる。

【授業の計画】

1. 全体的な説明
2. 『古今和歌集』成立迄 その 1—詠み人知らずの歌—
3. 『古今和歌集』成立迄 その 2—六歌仙の歌—
4. 『古今和歌集』時代 その 1—紀貫之等の歌—
5. 『古今和歌集』時代 その 2—伊勢等の歌—

6. 『古今和歌集』時代 その 3—その他有力歌人の歌—
7. 『後撰和歌集』時代 その 1—撰関家の歌—
8. 『後撰和歌集』時代 その 2—専門歌人等の歌—
9. 『後撰和歌集』時代 その 3—歌物語的な歌—
10. 『拾遺和歌集』時代 その 1—藤原公任等の歌—
11. 『拾遺和歌集』時代 その 2—花山院等の歌—
12. 『拾遺和歌集』時代 その 3—和泉式部等の歌—
13. 勅撰和歌集空白の時代 その 1—能因等の歌—
14. 勅撰和歌集空白の時代 その 2—相模等の歌—
15. レポート作成, または, テスト
16. 総括授業

【教科書】 無し

【参考書等】 授業中に適宜配布, 提示する。

【成績評価の方法】 数度の小レポートと期末試験 (記述式) の合計点に欠席状況 (注) を加味する。注・授業には出席するのが当然なので, 出席しても加点しないが, 欠席すると減点する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 特に歴史に関する事柄は欠かさず聴講しないと理解しにくいので, やむを得ず欠席した場合は, 個別に質問に来ること。なお, 数度以上無断で欠席した者は, 受講の意志を無くしたものとみなす。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221059>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp) Mail

歴史と文化 (History and Culture)

方言と社会 (Japanese Dialects and Society)

岸江 信介・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本語学』)

【授業の目的】 ことばと地域, ことばと社会のそれぞれの関わりという点から考え, 方言の特色について学ぶ. 自分がこれまでに使ってきたことばについて振り返り, ことばに対する興味をさらに深めていただきたい.

【授業の概要】 前半では東西日本の方言の対立について言語地図を紹介しながら概説する. 後半では西日本の代表格である大阪のことばについて取り上げ, 大阪府の方言分布について学ぶ. また, 大阪方言と四国方言, とりわけ徳島方言との比較を行い, 類似点と相違点について具体例をあげて解説する. 方言と社会との関連では, 特に敬語を取り上げ, 大阪方言と徳島方言での敬語の違いについて解説を行う.

【到達目標】

1. 日本の諸方言について理解する.
2. 方言と社会とのかかわりについて理解する.

【授業の計画】

1. 方言とは何か. 方言の成立について考える.
2. 方言は消滅するか. 危機言語について考える.
3. 日本の方言について考える (1)-東西方言の対立-
4. 日本の方言について考える (2)-方言敬語にみられる全国分布-
5. 社会とことば-敬語を題材として-
6. 西日本における関西中央部方言の位置づけ
7. 大阪語とは何か
8. 大阪のことば地図 (1)-ことばの地域差・世代差・男女差-
9. 大阪のことば地図 (2)-「ことば地図を読む」語彙編-
10. 大阪のことば地図 (3)-「ことば地図を読む」文法編 1-
11. 大阪のことば地図 (4)-「ことば地図を読む」文法編 2-
12. 大阪のことば地図 (5)-「ことば地図を読む」音声編-
13. 大阪のことば地図 (6)-大阪方言の四国方言への影響-
14. 大阪のことば地図 (7)-大阪方言と四国方言の類似性-
15. 大阪のことば地図 (8)-近世上方語と四国方言-
16. まとめ

【教科書】 岸江信介・中井精一・鳥谷善史『大阪のことば地図』(和泉書院)2009.10
1,980円

【成績評価の方法】 出席 (30%), レポート (60%), ミニ調査 (10%) の割合で評価する.
*ミニ調査とはインターネットや図書館などで用語調べや資料収集を行うこと.

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 授業への出席を重視する. ことばに対する質問などをカードに記載し, 提出してもらうことがある. 自分のことばを振り返るために談話資料の作成をレポートとして課する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221060>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー:
12:00-12:45(毎週火曜日))

【備考】 社会人ボランティアの参加要請 (5 名程度)・・・大阪弁や徳島弁など, 地域方言に興味がある方で授業補助をして下さる社会人ボランティアの方を募集しています.

歴史と文化 (History and Culture)

中国文学に見える幻術・妖術・呪術 (Chinese Literature; magic, sorcery and curse)

有馬 卓也・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『外国文学』)

【授業の目的】 本授業は中国の様々な資料 (文学・思想・歴史・画像) などを通して、古代中国の人々の文化や意識を、テーマ別に論じるものである。そして、文化を通して、人間理解へと至ることを目的とする。

【授業の概要】 一般の人間が持ち得ない特殊な能力。そういった能力を持つ者たちを、人々は時に憧憬し、時に恐怖する。本講義では、能力の内容や目的、或はその使い手から、幻術・妖術・呪術をセレクトし、古代人の欲求や恐怖を考察していく。

【キーワード】 幻術, 妖術, 呪術

【到達目標】 幻術・妖術・呪術の理解を通して、古代中国を理解するとともに、古今を通じて変わることのない人間の基本的性情を理解する。

【授業の計画】

1. ガイダンス: 「宮陵人」「東明観道士」
2. 幻術 1: 『板橋三娘子』 (1)
3. 幻術 2: 『板橋三娘子』 (2)
4. 幻術 3: 『板橋三娘子』 (3)
5. 呪術: 「蘇丕女」
6. 妖術: 「頓丘人」「田騷」「虜集」
7. 仙人になれない者 1: 『杜子春伝』 (1)
8. 仙人になれない者 2: 『杜子春伝』 (2)
9. 仙人になれない者 3: 『杜子春伝』 (3)
10. 仙人になれない者 4: 『杜子春伝』 (4)
11. 妖狐: 「歴陽媪」「李恒」「宋子賢」「葉道士」ほか
12. 仙人の教導 1: 『枕中記』 (1)
13. 仙人の教導 2: 『枕中記』 (2)
14. まとめ
15. 試験
16. 総括

【教科書】 毎回プリント (漢文) を配布する。参考書は随時提示する。

【成績評価の方法】 期末にテストを行う (漢文の読みや知識を問うような問題が出さない)。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 授業中の私語厳禁。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221061>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 随時)

歴史と文化 (History and Culture)

写真画像保存技術概論 (Introduction to Photographic Technique)

石井 健二・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】 表現された写真画像の歴史的背景や表現方法の識別を目的とする。なお社会 (あるいは学問体系) における同授業を受ける意義とかその必要性, あるいは, 同授業の社会における立ち位置等について, 私自身が考えていることを書いておきたい。現代社会は外国文化との接触・交流の密度が増し, 広い意味での異文化理解についての深い勉強を大学生活の中で積極的に行うことが, どのような分野を専攻しようとしている学生にとっても, 極めて大切である。この授業は, そのような意味においても大変有益であり, 又, 多様なビジュアルコミュニケーションを最初にしたような趣旨で学生時代に学ぶことは, どのような研究分野を目指している学生にとっても, 直接的にも間接的にもプラスに働くことが多いのではないかと考えている。

【授業の概要】 19 世紀中期以降, 現在までに表現された写真画像を教材とし, 画像の識別方法についても講義する。

【キーワード】 画像保存

【先行科目】 『歴史と文化/ アーツ・アンド・テクノロジー』(1.0)

【関連科目】 『歴史と文化/ ビジュアルコミュニケーション』(0.5)

【到達目標】 表現された写真画像の識別と時代背景についての認識を深める。

【授業の計画】

1. 本講義では, ミュージアムに於ける写真画像について検討を行う。19 世紀中期以降現代に至るまでに表現された, 写真画像を教材として, 画像の識別方法について検討をおこなう。
2. 受講生による発表を中心に授業を進める
3. 21 世紀における画像保存の現状とその必要性について
4. 写真撮影と撮影画像の利用方法について
5. ハウジング実習とその必要性について
6. 写真画像の劣化と古文書の管理方法について
7. コンディションレポートの書き方について
8. コンディションレポート作成
9. 写真画像の識別方法について
10. 白黒フィルムを使った, オブジェの撮影実習
11. 白黒フィルム処理について

12. カラーフィルムを使った, オブジェの撮影実習

13. カラーフィルム処理について

14. 作品の展示方法について

15. レポート提出の締め切り

16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書等】 講義の中で配布する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況, レポート及び出席状況などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 行わない。

【受講者のメッセージ】 講義は総合科学部マルチメディア A 棟 1 階 芸術講義室にて行う。2011 年度は, 後期の木曜日 3・4 講時に開講する。教養様科目の単位となります。30 人で締め切る。写真画像保存に興味関心のある意欲的な学生を望む。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221063>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜昼休み)

歴史と文化 (History and Culture)

西洋音楽の歴史 (History of Classical Music)

宮澤 一人・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】 西洋音楽の約 1000 年の長い歴史を理解し、それぞれの時代の音楽が持つ固有の美しさを体感する。音楽は人間が生物として生きていくためには、必ずしも必要ではない。しかし人間らしく生きていくために必要な「心の情操」を身につけるためには、もっとも有効な手段である。それぞれの時代には、才能にあふれた人間が、自らを奮い立たせ努力した結果としての優れた音楽が存在する。それらを知り味わうことが、現代という時代をよりよく生き抜くために不可欠である。

【授業の概要】 先ず、西洋音楽史全体の流れを説明し、その後重要な時代や作曲家を取り上げて、それぞれの作品を鑑賞する。[公開] ○要件:

【キーワード】 音楽と宗教, 芸術音楽と娯楽音楽, 音楽と世界史の関わり, 音楽と批評

【到達目標】 音楽史の全体を理解し、それぞれの音楽が持つ魅力や美しさについて、文章等での的確に表現する技術を身に付ける。

【授業の計画】

1. 西洋音楽史の全体像, および中世の音楽
2. ルネサンスの音楽
3. バロック音楽
4. J.S. バッハ
5. ハイドンと交響曲の完成
6. モーツァルト
7. ベートーヴェン
8. ベートーヴェンと「交響的概念」
9. シューベルト
10. ベルリオーズと楽器の発展
11. 19 世紀ロマン派音楽の全盛期
12. ワーグナー
13. ブラームス
14. 20 世紀の音楽
15. レポート提出
16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。参考書等は授業の時に紹介する。毎回授業内容についての資料を配布する。

【参考書等】 岡田暁生『西洋音楽史』中公新書 1816 ISBN4-12-101816-8

【成績評価の方法】 授業中に指示するレポートの内容、授業への取り組み状況により決定する

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 音楽に興味を持ち、静かに鑑賞できること、また授業中に楽譜を用いて説明を行うこともあるので、楽譜が読めることが必要である。教室の都合により、受講生を 50 名に限定する。この講義の内容は、前期の「西洋音楽の歴史」と同じである。従って前期にこの講義を受講した学生は、後期の受講はできない。なお、教室が共通教育棟から離れているので、事前に確認しておく方が良い。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221062>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 後期, 木曜日 3~4 講時

歴史と文化 (History and Culture)

絵画表現と技法の応用 (Painting: Expression and Applied Technique)

平木 美鶴・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】 絵を描く基礎としてデッサンがある。デッサンは、物を観察し、紙に写し取る事であるが、描けそうで上手く描けないという経験は誰にでもあるのではないだろうか、. 三次元の世界を二次元である紙の上に形や空間を写す事は、高度な技を必要とするが、案外と難しく頭で考えるよりも無心となって描いた方が、上手く描ける場合も多い。描く時のちょっとした頭の切り替えで飛躍的に描写する力を上げる事ができる。この授業では、絵が描けない状態から描ける状態に戻すための絵画基礎理論を実習をしながら学ぶという前期基礎編に続く応用編である。

【授業の概要】 描かれる絵によって人間の発達段階を計る事ができるが、大人でありながら9歳レベルの壁を越えて、空間の描けるリアリズムに到達していない人も多い。発達と表現について理解した上で、描くための頭の切り替えを練習していく。最終的にどれだけ描写力を身に付ける事ができたか、絵で比較する。

【キーワード】 絵画, 美術, 芸術

【先行科目】 『歴史と文化/ 現代絵画論』(1.0), 『歴史と文化/絵画表現と技法の基礎』(1.0)

【関連科目】 『歴史と文化/ 絵画表現と技法の基礎』(0.5)

【到達目標】 描く基本を身に付ける

【授業の計画】

1. 絵画表現の基本について
2. 描くためのモードの切り替えについて
3. スペースの形を知覚した水彩風景画 雲を描く 1
4. スペースの形を知覚した水彩風景画 雲を描く 2
5. スペースの形を知覚した水彩風景画 雲を描く 3
6. スペースの形を知覚した水彩風景画 建物を描く 1
7. スペースの形を知覚した水彩風景画 建物を描く 2
8. スペースの形を知覚した水彩風景画 建物を描く 3
9. スペースの形を知覚した水彩風景画 木を描く
10. スペースの形を知覚した水彩風景画 木を描く
11. 影を知覚した人物水彩画を描く 模写

12. 影を知覚した人物水彩画を描く 1

13. 影を知覚した人物水彩画を描く 2

14. 影を知覚した人物水彩画を描く 3

15. 批評会

16. まとめ

【教科書】

- ◇教科書は、使用しない。適宜プリントを配布する。
- ◇準備物としてスケッチブック (B4~ A3 サイズ), 水彩の道具一式, 鉛筆 (HB, 2B) が必要である。

【成績評価の方法】 評価は、授業中に行う小テスト式作品評価を基本として、出席や授業への取組み姿勢等を併用して行う。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 絵画に興味のある意欲的な学生を望む。前期開講の「絵画と表現技法 I」を履修している事が望ましい。実技実習のため、教室は、マルチメディア B 棟 1 階, メディア・アート実習室を使用する。そのために人数制限を 30 人とする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221064>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 教室は総合科学部マルチメディア B 棟のメディアアート実習室で行う。教室の都合で 30 名の受講者制限をする。

人間と生命 (Humanity and Life) 心理学入門 (Introduction to Psychology)

濱田 治良・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】「心理学の過去は長い、その歴史は短い」と言われている。すなわち、人の心についての関心は人類の誕生以来長く続いてきたが、心理学が科学として成立してから百数十年が経過したにすぎない。独立した学問として成立した後の心理学が明らかにした科学的成果は多いが、人の心についての未知なる現象はまだ数多く残されている。本講義は、高校では学ばなかった「心理学」への入門科目である。特に心理学的実験を通して得られた成果を手掛かりにして人間の心と行動を理解する試みについて考察することを本講義の目的とする。

【授業の概要】授業は一般心理学として講義する。特に「知覚」「発達」「学習」「動機づけ」について、それらの基礎的なトピックスを、代表的な心理学的実験結果を紹介しながら論ずる。そして、心理学的事実を知ることによって、新たな視点から人間を捉える手掛かりにしてほしい。また、講義の一環として、授業中に知覚心理学の実験実習を行い、各自のデータを分析して簡単なレポートを提出してもらいます。

【キーワード】「知覚」「発達」「学習」「動機づけ」

【到達目標】人間や動物に関する心理学的実験を通して得られた代表的なデータを理解し、そのデータから導き出された基礎的理論や考え方を理解する。

【授業の計画】

1. 授業は概ね次の 5 章から構成され、下記のそれぞれの項目を中心にして講義を進めます。なお 16 回目に総括授業を行います。
2. 1. 知覚
3. 物理的世界と心理的世界、錯視の現象
4. 2. 発達における遺伝と環境
5. 発達過程の原則、遺伝と環境、遺伝係数、発達の臨界期
6. 3. 認知と知覚の発達
7. 認知の発達、知覚の発達
8. 4. 学習
9. 古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤、洞察学習、模倣学習
10. 5. 動機づけ

11. 内発的動機づけ、外発的動機づけ、ヤーキス・ドットソンの法則、潜在学習、目標勾配

【教科書】資料を配布しながら講義を進める。

【参考書等】参考書として、村田孝次著「教養の心理学」培風館、重野純著「心理学入門」北樹出版を勧める。

【成績評価の方法】中間試験(40%)、期末試験(40%)、レポート、出席により総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】心理学に関心のある意欲的な学生の受講を歓迎します。VTR も使用して講義内容を補足します。配布資料と講義内容及び各自の自習に基づいたノートを作成してください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221065>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

人間と生命 (Humanity and Life)

認知哲学 (Philosophy of mind)

山口裕之・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 火 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『人間と生命』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『哲学』)

【授業の目的】 脳と心の間係をめぐる科学や哲学の議論を学ぶ。

【授業の概要】 近年、脳や神経細胞の活動を計測する技術の開発やコンピュータの進歩を背景に、「脳についての科学」や「意識についての科学」の研究が大きな成果を上げつつある。しかしその一方で、心や意識をそう簡単に「脳」と同一視してもよいのかという「哲学的」な疑問もまた根強い。この授業では、そうした「意識の科学」の研究を概観し、「哲学」の立場から、心と脳の間係をめぐる諸問題について考えたい。

【キーワード】 科学と哲学、心理学と哲学、哲学、言語、脳

【関連科目】 『人間と生命/生命倫理学研究』(0.3)

【到達目標】

1. 人間科学(心の科学・脳科学)に関わる幅広い知識の理解。
2. 日本語の論理的な文章を理解する能力を身に付ける。
3. 日本語で論理的な文章を書く能力を身に付ける。

【授業の計画】

1. イントロダクション:心身問題
2. 科学的に理解するとはどのようなことか
3. 心をコンピュータにたとえる 1
4. 同上, 2
5. 同上, 3
6. 同上, 4
7. 心の仕組みと脳の仕組み 1
8. 同上, 2
9. 同上, 3
10. 同上, 4
11. 決定論と自由意志 1
12. 同上, 2
13. 同上, 3
14. 同上, 4
15. まとめ

【教科書】 山口裕之『認知哲学』新曜社

【参考書等】 授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法】 毎回の授業前に提出する「予習カード」(宿題)2点×15=30点、毎回の授業終了時に提出する「授業へのコメント」2点×15=30点、毎回の授業終了時の小テスト10点×14回を40点満点に換算。

【再試験の有無】 なし。

【受講者のメッセージ】 授業は、基本的に、毎回教科書の2~3章分程度を読んできてもらい、それに対する質問や疑問を書いた「予習カード」(宿題)を軸に進めたいと思います。必ず教科書を入手するようにしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221066>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山口(共通教育4号館404(11年3月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL(オフィスアワー: 火曜10:30~11:30)

人間と生命 (Humanity and Life)

罪と悪-旧約聖書の世界- (Evil and Sin: Old Testament Views)

吉田 昌市・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『倫理学』)

【授業の目的】 自己を含めたこの世界に悪が存在するのは紛れもない事実であるが、この事実をどのように受けとめ、どのように理解し、対処するかは人により、思想的立場によってまちまちであろう。また、何を悪であると考えるかも、人により時代によって、けっして一様ではない。この授業では、西洋の人々が「人間と悪」「世界と悪」という問題についてどのようなことを考えてきたのかを顧み、ヘブライ的・キリスト教的世界観の一端にも触れる。倫理(人間の生き方)が単に個人の問題に尽きるのではなく、世界(社会)と自己、自己と世界(社会)という大きな視座で問われるべき問題であることを、知ってほしい。

【授業の概要】 この講義では、主として旧約聖書の中から「悪」や「罪」に関わるいくつかのテキストを選び、それを精読する。特に旧約聖書『ヨブ記』に焦点をあて、この難解とされる書を理解し、その現代的意味を示すことを目指す。なお、西洋との比較のために、日本や東洋の場合(主に仏教の思想)に言及することもあるだろう。

【キーワード】 苦難(悪), 応報思想, 神, 神の似すがた

【到達目標】 『ヨブ記』とそれが提起する問題について、自分なりの見方を持つようになること。

【授業の計画】

1. 今後の講義について、あらましを説明する。
2. 旧約聖書『創世記』:イスラエル民族の歴史を簡単に解説し、その後、旧約聖書『創世記』の創造物語を読む。
3. 旧約聖書『創世記』(その二):第二の創造物語を取り上げる。特に、蛇の誘惑とアダムとエバの墮罪に焦点を当てる。
4. 旧約聖書『創世記』(その三):「カインとアベル」の物語を取り上げる。
5. トマス『神学大全』より「天使の罪」:禁断の果実を食べることがどのような意味で「罪」「悪」なのかを、トマス『神学大全』の「天使の罪」の議論を参照しながら考える。
6. 旧約聖書『ヨブ記』:プロローグとエピローグ、「ヨブ最初の独白」を読み、『ヨブ記』の問題を提示する。

7. 『ヨブ記』その二:「ヨブ最後の独白」「神との対決」と読み進み、テキストについて一通りの解説をするとともに、『ヨブ記』解釈上の問題点をも示す。
8. 『ヨブ記』その三:「ヨブ最後の独白」「神との対決」と読み進み、テキストについて一通りの解説をするとともに、『ヨブ記』解釈上の問題点をも示す。
9. 『ヨブ記』その四:新しいテキストも提示して、『ヨブ記』の解釈を行う。
10. 『ヨブ記』その五:新しいテキストも提示して、『ヨブ記』の解釈を行う。
11. 『ヨブ記』その六:新しいテキストも提示して、『ヨブ記』の解釈を行う。
12. ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』とエリ・ヴィーゼル『夜』より:近現代のヨブ的苦難, ジェノサイドの衝撃
13. ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』とエリ・ヴィーゼル『夜』より(続き):近現代のヨブ的苦難, ジェノサイドの衝撃
14. 旧約聖書に帰って:聖書の宗教は、はたしてジェノサイドの衝撃に耐えることができるのか?こうした観点から、旧約聖書の思想を吟味する作業を試みたい。
15. 成績評価のために使用する。
16. 授業全体の総括にあてる。

【教科書】 適宜プリントを配布し、参考文献も講義の中で紹介する。

【成績評価の方法】 おおよその目安として:授業への取り組み方(30%)+何度か行う予定の小テスト(20%)+学期末の試験(50%)

【再試験の有無】 再試験は一度だけ行うが、不合格者全員が自動的に再試験を受験できるわけではない。

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221067>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学基礎 (Basic Psychology)

境 泉洋・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 現代社会ではこころが関連するさまざまな問題が起こっている。そうした問題に直面する以前に、その問題をどう理解し、どう対応するのかについて知っておくことの予防的意義は大きい。本講義では、心理学の基礎について学ぶと共に、そうした問題の予防・改善に心理学がどのように貢献できるかについて学習することを目的とする。

【授業の概要】 本講義では、心理学の基礎について概説したうえで、学童期から思春期、青年期に至るまでに生じるさまざまな問題を取り上げ、それらの問題に対する心理学的な立場からの理解と援助方法を概説する。

【キーワード】 心理学, 臨床心理学, コミュニティ心理学

【到達目標】 心理学の基礎知識を身につけると共に、本講義で取り上げる種々の問題について心理学的観点から理解し、そうした知識を自らの生活に役立てていくことを目標とする。

【授業の計画】

1. 心の科学としての心理学
2. 発達心理学
3. 社会心理学
4. 生理心理学
5. 心理統計学
6. 学習心理学
7. 臨床心理学
8. コミュニティ心理学
9. こころの健康:ストレス
10. こころの健康:抑うつ
11. こころの健康:不安
12. こころの健康:怒り
13. こころの健康:発達
14. ひきこもり
15. 定期試験
16. まとめ

【教科書】 教科書は指定しない。

【参考書等】 資料は授業中にプリントを配付する。参考図書などは適宜紹介する。

【成績評価の方法】 期末テストの成績、出席状況等により総合的に評価する。

【再試験の有無】 原則として再試験は実施しないが、受講者の事情によっては追加レポート等により可否の判定を行うこともある。

【受講者のメッセージ】 授業で配布した資料はホームページにて公開するので、授業を欠席した場合など適宜参照すること。

【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221068>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)

人間と生命 (Humanity and Life) 心理学初歩 (Psychology for Beginners)

原 幸一・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】心理学が関わる問題を取り上げ、その中でどのように問題をとらえて考えていくのかを理解する。心理学が関わっている問題は実は身近であり、様々な話題の中に心理学が関わっていることを知る。⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【授業の概要】心理学の歴史を簡単に紹介し、現在の問題となっている事柄に焦点をあてる。それらの問題が起きている背景と現状と要因について学ぶ。

【キーワード】臨床心理学, 認知発達

【到達目標】新しい問題と古くからある課題をそれぞれ理解して、それらの関わりについて自分がその一部でもあることを理解する。

【授業の計画】

1. 心理学の領域, 諸問題
2. 心理学の歴史
3. 心理学の基礎 1 知覚, 学習
4. 心理学の基礎 2 認知, 発達
5. 児童虐待 1
6. 児童虐待 2
7. 児童虐待 3
8. 精神障害 1
9. 精神障害 2
10. 知的障害 1
11. 知的障害 2
12. 発達障害 1
13. 発達障害 2
14. その他の諸問題 自殺, 薬物など
15. テスト
16. 総括授業

【教科書】毎回プリントを配布する。ビデオを用いることもある。

【成績評価の方法】受講態度およびテスト

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221069>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

人間と生命 (Humanity and Life)

生体の統合機能 (Integrated higher brain function)

勢井 宏義 教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 志内 哲也 講師/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 近久 幸子 助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】生体リズムや睡眠, 情動, 記憶など, ヒトが持つ高次脳機能の仕組みを知り, ヒトが生きる理(ことわり)を生物学的な見地から考え直してみる.

【授業の概要】高次脳機能について, これまでの知見をまとめながら, 日々発表されている論文の中から話題のものをピックアップし, 先端研究とともに学ぶ.

【キーワード】脳, 高次機能, 生理学

【到達目標】

1. 脳に興味を持てる
2. 自分の行動を科学的に解析できる

【授業の計画】

1. 序ー脳ー
2. 生体リズム 1
3. 生体リズム 2
4. 生体リズム 3 ープロフェッショナルな研究ー
5. 睡眠 1
6. 睡眠 2
7. 睡眠 3 ープロフェッショナルな研究ー
8. 情動・ストレス 1
9. 情動・ストレス 2
10. 情動・ストレス 3 ープロフェッショナルな研究ー
11. 記憶・学習 1
12. 記憶・学習 2
13. 記憶・学習 3 ープロフェッショナルな研究ー
14. 何を知りたいか, 模索 1
15. 何を知りたいか, 模索 2
16. まとめ

【教科書】特に使用しない. 適宜資料を配付する.

【成績評価の方法】各テーマ(「プロフェッショナルな研究」)ごとのレポート作成・最終的に「何を知りたいか?」のレポート作成

【再試験の有無】なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221070>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 勢井 (088-633-7056, sei@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 志内 (088-633-7057, shiuchi@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 近久 (088-633-7057, chika@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL

人間と生命 (Humanity and Life)

現代世界の生涯学習 (Lifelong Learning in the Modern World)

鈴木 尚子・准教授/大学開放実践センター

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『教育学』)

【授業の目的】国内外における「生涯学習」の理念と実状について学ぶことにより、「生涯学習」が様々な年代の一人ひとりの人間に及ぼしうる影響について世界的な動向の中で捉え、その普遍的価値について考えていく力を身につける。

【授業の概要】本授業では、我が国における「生涯学習」をめぐる概況を踏まえた上で、世界の主要な地域の現状についても考察し、「生涯学習」が今日求められている意味について、グローバルな視点から考えていきます。授業の最初から数回は、世界の状況を知るための前提として、我が国における「生涯学習」の起源と生成ならびにその特徴と課題について考えていきます。その過程において、皆さんのご出身の都道府県もしくは市町村における「生涯学習」の動向について、各自調べた上で発表してもらいます。その後、本授業担当者が研究対象としている欧州の「生涯学習」を中心として、世界の主要な地域における「生涯学習」の現状へと視野を広げていきます。本授業の意義は、国内外の事例を通じて幅広い視点から「生涯学習」について学ぶことにより、それが一人ひとりの異なった状況に置かれている人間に与える影響について正しく理解し、その普遍的価値を考えていくことにあります。

【キーワード】生涯学習, 世界, 欧州, 教育, 普遍的価値

【到達目標】

1. 国内外の「生涯学習」を取り巻く状況について正確に理解する。
2. 「生涯学習」の普遍的価値について考える力を身につける。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 我が国における教育の現状
3. 我が国における生涯学習の起源と生成
4. 我が国における生涯学習の特徴と課題
5. UNESCO 及び OECD における生涯学習政策と我が国における受容のあり方
6. 都道府県及び市町村レベルでの生涯学習 レポート I 個人発表①
7. 都道府県及び市町村レベルでの生涯学習 レポート I 個人発表②
8. 世界の人々と生涯学習①
9. 世界の人々と生涯学習②
10. 世界の人々と生涯学習③

11. 世界の人々と生涯学習④

12. 世界の人々と生涯学習⑤

13. 世界の人々と生涯学習⑥

14. 世界の人々と生涯学習⑦

15. 世界の生涯学習 レポート II 個人発表①

16. 世界の生涯学習 レポート II 個人発表②及び総括授業

【教科書】特に指定しませんが、授業内容に応じて適宜プリントを配布します。

【参考書等】

◇ 新海英行・牧野篤編『現代世界の生涯学習』, 大学教育出版, 2002 年 (3000 円+税)。

◇ 川野辺敏監修『生涯学習・日本と世界』全二巻, エムティ出版, 1995 年 (9000 円)

【成績評価の方法】授業中に与えられた課題への取り組み状況を含む受講姿勢, 提出してもらったレポート (一回につき 3000 字程度 x2) の内容及びその発表等を元に, 総合的に判断します。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】他者との交流の中で, 様々な考え方を受け止めながら, 自発的かつ積極的に学びたい人を歓迎します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221071>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 鈴木 尚子 (大学開放実践センター) 教員への連絡方法については, 初回のオリエンテーション時に説明します。

【備考】本授業は, 前後の授業の関連性を踏まえながら進めていくため, 毎回の授業への出席と受講態度を重視し, 総合評価に反映させます。また, 授業中に適宜自分の意見を述べたり, 皆の前でレポートを発表したりする機会があります。

人間と生命 (Humanity and Life)

自己発見の心理学 (Psychology for Self-Discovery)

香川 順子・准教授/大学開放実践センター

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 他者との交流を通して、自分について根本的なところから見直し、今後自分がどうあるべきかを分析していきます。生き生きと大学生活を送るために必要な知識とスキルを身につけると共に、自他肯定的態度、自己実現的な態度を身につけることがこの授業での目的です。

【授業の概要】 人との交流を通して自分や他者を理解していくための授業です。心理テストやワークショップを通して授業を進めていきながら、自分について考えていきます。自分を理解するための枠組みを提供することで、皆さんが今後ご自身で自己理解を行う際に役立つ理論を学び、講義の中で実践へと結びつけていきます。

【キーワード】 自己分析, 交流分析, 心理学, コミュニケーション

【到達目標】

1. 自己理解に関する知識とスキルを身につけ、実践できるようになる。
2. 自他肯定的態度、自己実現的な態度を身につける。
3. 自分の経験について、心理学の理論をもとに説明ができる。

【授業の計画】

1. 導入 (授業参加の留意点)
2. 自己発見の心理学 (理論的背景)
3. 交流分析による自己分析 I (心理テスト・理論の解説)
4. 交流分析による自己分析 II (自己分析)
5. 短所の見方から自分について考える
6. 過去の自分をふりかえる
7. 将来の人生に望むものを考える
8. 天職を見つけるためのワークショップ
9. 前半のふりかえり (中間レポート・テスト)
10. コミュニケーション場面での自己分析 I (交流の構えの分析)
11. コミュニケーション場面での自己分析 II (自己主張の仕方)
12. コミュニケーション場面での自己分析 III (とらわれに気づく)
13. コミュニケーション場面での自己分析 IV (気持ちの良い交流の仕方)
14. まとめ (後半・全体のふりかえり)
15. レポート提出

16. 総括授業

【参考書等】 芦原睦著 自分が分かる心理テスト PART1(1992), PART2(1995) 講談社

【成績評価の方法】 日々の授業における課題と、レポートにより評価を行います。

【受講へのメッセージ】 意欲的に授業へ参加し、他者と積極的に交流してください。そうすればよりよい自分探しにつながるでしょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221072>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 香川 (206, 088-656-7283, kagawa@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水・木曜日 12:10~ 12:40 6号館2階香川研究室)

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学概説 (Survey of Psychology)

佐藤 健二・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 現代社会を生きていく上で、自らの心の働き、他者の心の働きを理解することは重要である。そこで、本講義では、心の働きに関する学問である心理学の基本的な知識を学習することを目的とする。

【授業の概要】 心理学の重要分野における発想、研究結果を概説する。特に、大学生において関心の高い「こころの問題」に関連させながら、心理学の重要分野における研究結果を概説する。

【キーワード】 心理学, こころの問題, 臨床心理学

【到達目標】 心理学の重要分野における発想、研究結果を理解できる。

【授業の計画】

1. 授業の進め方, 心理学概観 (定義, 隣接領域との異同, 歴史)
2. 異常心理学: 「こころの問題」とは?(不安障害など)
3. 臨床心理学: 「こころの問題」をどう治療する?(さまざまな心理療法)
4. 学習心理学: 「こころの問題」は誤った学習の問題か?
5. 障害児心理学: 学習心理学を用いて発達障害をどのように治療するか?(ADHD など)
6. 認知心理学: 「こころの問題」は不適切な認知の問題か? どのようにすれば記憶力を高められるか?
7. 生理心理学: 心・脳・身体はどのように関係しているのか?
8. ストレス心理学: (トラウマティック) ストレスは、心・脳・身体にどのような影響を与えているのか?
9. 性格心理学: 性格には、どのようなタイプがあるのか?
10. 健康心理学: 性格が健康 (ガンなど) に影響を及ぼすか?
11. 社会心理学: 状況の力はどのくらい強いか?-同調, 服従, 役割実験を題材に-
12. 発達心理学: 赤ちゃんは無力な存在か?
13. 感覚・知覚心理学: 人間はどのようにして外界から情報を取り入れ、処理しているのか?(痛みなど)
14. 犯罪心理学: 犯罪はどうすれば防げるか?
15. 試験
16. 総括

【教科書】

◇ 教科書は使用しない。

◇ プリントの配布, OHP, 液晶プロジェクタ, VTR による資料の呈示を行う。参考書等は、適宜紹介する。

【成績評価の方法】 期末試験 (客観式, 持ち込み不可, 60 分), 授業への取組状況を元に総合的に評価する。2/3 以上の出席者のみ受験資格有り。他に授業態度の悪い者 (私語が多い等) も受験資格無し。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 大学での勉強は、主体的な取り組みが必要です。予習復習, とりわけ, 復習を行い, 知識の定着をはかるようにしてください。その他, 他の受講者の迷惑になるので, 私語は厳禁です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221073>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 12:10-12:40)

人間と生命 (Humanity and Life)

生物と環境 (Life and Environment)

佐藤 征弥・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『生物学』)

【授業の目的】 環境問題を考慮せずには、これからの社会づくりはできません。そして個人の生活にもますます大きな影響を与えていくことは間違いなく、私達は環境のことをよく知る必要があります。人間は自然環境に対して無限に搾取できると考えていました。しかし、近年になって大規模な環境破壊が、様々な形で人間に悪影響を及ぼすようになり、このような考えが幻想であることが明らかになりました。環境破壊をくいとめるためには、破壊の現状を正しく認識するとともに、環境のもつ価値を具体的に評価するシステムが必要です。また、このような流れを受けて、農林水産業や都市構造も変容を余儀なくされてきています。この講義では具体例を多く取り上げながら、環境保全、農業や食の問題、都市づくりについて考えていきます。

【授業の概要】 まず環境破壊の現状や対策について解説する。次に生物資源をどのように利用しているのか、利用するべきかについて解説する。最後により良い環境とは何か、そして目指すべき環境創造について考える。

【キーワード】 生態系, 環境問題, 農業問題, 生物多様性

【到達目標】 環境の価値とは何かを具体的に理解する。

【授業の計画】

1. 環境問題の歴史
2. 森林 1 - 熱帯雨林の開発, 山火事
3. 森林 2 - 森林の再生法, 砂漠化対策
4. 地球温暖化 1 - 地球温暖化のメカニズム
5. 地球温暖化 2 - 京都議定書による温室効果ガスの排出抑制
6. 地球温暖化 3 - ポスト京都議定書
7. 生物多様性
8. 農業問題 1 - 食料危機, 食用植物について
9. 農業問題 2 - 品種改良技術 (緑の革命, GM 作物)
10. 医薬品 - 生物から発見された薬と作用
11. 植物と文化 - 自然観の変遷と地域差
12. 環境創造 1 - 今後目指すべき環境とはどういうものか
13. 環境創造 2 - ゴミ問題, 車社会からの転換, コンパクトシティ
14. 環境創造 3 - 自然景観と文化的景観

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。参考書は、適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況 (毎回課すミニッツペーパー) と期末試験 (ノート, 資料持ち込み可) により評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221610>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK, 植物生理学研究室(総合科学部3号館3階北棟))

人間と生命 (Humanity and Life)

社会観の探究 (Inquiry for vision of society)

石田 三千雄・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 グローバル化によって、世界は全体化された。グローバル化によって、力 (物理的力, 政治的力, 精神的な力) の支配が世界のすみずみにまで及んでいく状況になった。人間が人間性を喪失し、自然も物理的自然へと回帰している。魂を喪失した人間と物理的な自然との間には和解も調和も存在しない。グローバル化した世界での思考と自由の倒壊に抗して、持続可能な社会を形成し、グローバルな社会を生きる倫理的な視点を再興することを考える。

【授業の概要】 グローバル化された世界の課題と希望を探究し、グローバル化の経済的側面・政治的側面、グローバル化された世界における人間の権利を考える。グローバル化に関わるテクノロジー、南北間格差や環境の政治、福祉国家のあり方、帝国やナショナリズムのあり方、グローバル化とフェミニズム、メディアのあり方、テロリズムの問題、平和の文化を考える。

【キーワード】 グローバル化, 人権, 国家

【先行科目】 『人間と生命/ 認知哲学』(1.0)

【到達目標】 グローバル化された現代世界のあり方、およびその背後にある諸問題について、哲学的・倫理的に考える力を身につける。

【授業の計画】

1. はじめに一授業全体の説明
2. グローバル世界の課題と希望
3. 自然の法と倫理の理法
4. 人権とヒューマニズムの未来
5. 歓待の権利と歓待の倫理
6. テクノロジーと国家のゆくえ
7. テクノロジー・ナショナリズム・主権国家
8. 南北格差と環境の政治
9. 福祉国家と管理社会
10. 帝国とナショナリズム
11. グローバル化とフェミニズム
12. 大衆とメディア
13. テロリズムの闇と恐怖
14. グローバリズム対反グローバリズム

15. 平和の文化に向けて

16. 総括授業

【教科書】 石崎嘉彦・太田義器他『グローバル世界と倫理』ナカニシヤ出版, 2008年, 1995円

【成績評価の方法】 学期末試験 (40%), 小レポート (30%), 授業への取り組み状況 (30%) などにより総合的に評価する (ただし, 評価割合の目安は括弧内のパーセントである)。

【再試験の有無】 再試験有り

【受講者へのメッセージ】 グローバル化を考える基礎的視野を養ってください。質問等は、メールでも受け付けます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221074>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜日 14時~ 15時)

【備考】 授業計画は一部変更があるかもしれません。

共創型学習 (Creativity Development)

異文化交流体験から何を学ぶのか (What should we learn in the exchange program with foreign countries)

大橋 眞・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 グローバル社会の課題や、異文化についての考えを深めるために、留学生や海外の大学生と交流することを通じて多様な視点で考え表現する力を身につけます。また、地域社会人との交流を通じて対話力を身につけます。「異文化交流」をテーマとして、同世代の文化的背景が異なる学生が「交流」ということの意味を考えます。

【授業の概要】 現代社会ではグローバル化が進行し、様々な価値観や文化的背景をもった人間同士の交流が必要となってきました。このような異文化交流において、相手方の文化に興味を持つとともに、自身の文化的背景についての理解を深めておく必要があります。この授業では、留学生との交流や、遠隔ビデオ会議による海外の大学生との交流を通じて、実際に異文化交流を体験しながら、異文化交流に必要な視点を探り、自身の文化的背景を学ぶことを目指していきます。

【キーワード】 留学生, 異文化交流, 体験学習, 外国, 文化, 地域社会人, 遠隔ビデオ会議, 課外学習

【関連科目】 『共創型学習/ 異文化交流からの FD -グローバル社会とは何か-』(0.5), 『共創型学習/ 異文化交流からの FD -グローバル社会に向けた教育とは-』(0.5), 『共創型学習/ 学生 FD ボランタリースクール -地域のボランティアリーダーと考える FD-』(0.5)

【到達目標】

1. 留学生との異文化交流により、相手方と自身の文化的背景を理解する
2. 海外の大学生や地域社会人とのコミュニケーション力をつける
3. 人によって考え方が違うということについて、その背景に関する理解を深める

【授業の計画】

1. 授業ガイダンス
2. 「異文化交流」を語る
3. 「異文化交流」の意義
4. 異文化交流に必要な視点
5. 相手側の文化と自分の文化
6. 異文化交流実践 1

7. 異文化交流実践 2
8. 異文化交流実践 3
9. 異文化交流実践 4
10. 異文化交流実践 6
11. 異文化交流実践 7
12. 異文化交流実践 8
13. 異文化交流実践 9
14. 異文化交流実践 10
15. 異文化交流実践の課題
16. 総括授業

【教科書】 特になし

【参考書等】 特になし

【成績評価の方法】 毎回のミニレポート 40%・授業及び関連する課外活動参加への積極性とこれに関する期末レポート 60% として評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 この授業は、地域社会人向けの公開授業と同時開講する授業です。また、原則として留学生向けの授業と合同でおこないます。①この授業では、留学生との交流を通じて、グローバル社会を体験します。また、地域の社会人との議論をおこないます。②関連する授業外の時間での課外活動への積極的な参加も、成績評価の対象として重視されます。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life/GP/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221075>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜日-金曜日 午前10時-12時)

人間と生命 (Humanity and Life)

心理学概論 (Outline of Psychology)

福森 崇貴・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 人間は、感じる・覚える・学ぶ・思う・悩む、など毎日「こころ」を動かしている。人間が社会の中で生活する上で、「こころ」は欠かすことのできないものであると言える。心理学とは、このような、人間にとって非常に身近な対象に関する学問である。しかし一方、身近であるが故にその理解は困難であり、マスコミからの表層的な情報の影響もあって、心理学の内容が歪めて受け取られていることもまた事実である。本講では、心理学の各領域における主要な理論・概念を理解し、科学としての心理学の基礎的な知識や考え方を獲得することを目的とする。

【授業の概要】 様々な心理学の研究領域のうち、代表的な領域を取り上げ、それぞれの領域で提唱されている理論や研究結果について紹介する。

【キーワード】 知覚心理学, 認知心理学, 学習心理学, 発達心理学, 社会心理学, 臨床心理学

【到達目標】 心理学的な知識を学ぶことによって、自分を含めた「人間」を、俗説に惑わされることなく科学的に理解する力を身につけることを目標とする。

【授業の計画】

1. 心理学とは
2. 知覚・認知
3. 学習
4. 動機
5. 発達 (1)
6. 発達 (2)
7. 個人と集団 (1)
8. 個人と集団 (2)
9. 記憶 (1)
10. 記憶 (2)
11. 知能
12. パーソナリティ (1)
13. パーソナリティ (2)
14. ストレス
15. 期末試験

16. 総括

【教科書】 教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法】 期末試験 (70%), 授業への取り組み (30%) などを元に総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 毎回、授業内容に関する意見・感想を求める。なお、意見・感想の記入のない者は、欠席扱いとする。是非、積極的に授業に参加して欲しい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221077>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

人間と生命 (Humanity and Life)

自己分析の心理学 (The Psychology of self-analysis)

山本 真由美・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 本授業では、心理学という学問を通して自己について考えることを目的とする。以前から「持続可能な社会」、「共生社会」と言われている。そのような社会を目指す個人として、心が豊かな人間であることが求められる。まず、人間の知覚的特徴、認知的特徴、記憶の特徴、思考の特徴、パーソナリティ特徴、発達特徴、社会との関係などを知り、その上で自己について考える。

【授業の概要】 本講義では、以下の視点に基づいて授業を進める。(1) グループを作り、グループ内でインタビューを相互に実施し、その内容を全員が発表する、(2) 授業時に説明した内容に基づき、グループで討議する、(3) その内容を各自レポートにまとめる、(4) グループで話し合った内容をまとめる。

【キーワード】 アイデンティティ、自己理解、自己分析、自己と他者

【到達目標】

1. 自己理解でき、自分のことを説明ができる
2. 自分から見た他者について説明できる
3. 心理学の知覚、認知、記憶、パーソナリティ、発達について説明できる

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. グループ分け検査実施 (パーソナリティ検査)
3. グループ発表、他者紹介とは、インタビュー実施、レポート (1)
4. 発表方法について、グループ発表、他者紹介①
5. 1. 人間は周りの世界をどのように捉えるのか (認知)
6. 心理検査から自己を見る グループ討議とまとめ、他者紹介②
7. 2. こころの構造について (パーソナリティ)
8. 心理検査から自己を見る 他者紹介③ レポート (2)
9. 3. 自己と他者の関係について
10. 心理検査から自己を見る グループ討議とまとめ、他者紹介④
11. 心理検査から自己を見る レポート (3)
12. 4. 発達について、他者紹介⑤
13. 心理検査から自己を見る レポート (4)
14. 心理検査から自己を見る 他者紹介⑥
15. 期末試験

16. レポート返却、全体総括

【教科書】 特に使用しない。適宜資料を配付する。

【成績評価の方法】 課題レポート (80%)、グループ討議と発表 (30%)

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 グループ単位で授業を進めるので、途中で授業を放棄しないようにしてほしい。グループの中で何か一言でもいいから発言することを心がけてほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221076>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

人間と生命 (Humanity and Life)

バイオテクノロジーと生命倫理 (Biotechnology and Bioethics)

辻明彦 教授/工学部
2単位 後期 金 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『生物学』)

【授業の目的】 遺伝子診断, ES細胞, オーダメド医療, 遺伝子組み換え農作物, バイオ燃料等バイオテクノロジーに関するキーワードが新聞や雑誌に氾濫する時代となったが, これらの技術は, 半導体やコンピューター技術と異なり, 生命倫理と深い関わりがあるため, 新しい技術が直ちに社会に受け入れられるとは限らない. 個人の遺伝子情報の流出は健康保険や社会での差別に繋がる可能性がある. 地球温暖化防止のためのバイオ燃料普及によって, 小麦, 大豆作付面積が減少し, その価格が上昇し, 発展途上国ではさらに飢餓の危険性が高まっている. この講義では, バイオテクノロジーを多面的に考え, 正當に評価判断できる素養を身につけることを目的とする.

【授業の概要】 最初にバイオテクノロジーに関する先端技術について紹介したのち, 遺伝子・細胞に関する基礎知識と技術の原理と応用について解説する. 後半部では, バイオテクノロジーに対する批判とその問題点, 法律によるバイオテクノロジーの安全対策, 今後のバイオテクノロジーの方向性について解説する.

【キーワード】 遺伝子工学, 幹細胞, GE作物, バイオディーゼル, 食糧危機, 再生医学

【到達目標】 多面的にバイオテクノロジーを考える能力を身につける.

【授業の計画】

1. シラバスの説明, 医療に関するバイオテクノロジーの進歩
2. 工学, 農学に関するバイオテクノロジーの進歩
3. セントラルドグマ (遺伝子から蛋白質へ)
4. 遺伝子の構造と機能
5. 遺伝子工学の基礎 (ベクター)
6. 遺伝子を増幅する PCR 法の原理
7. 遺伝子解析方法
8. 遺伝子組み換え細胞, 生物の作成 (動物と植物)
9. 遺伝病と遺伝子診断
10. 出生前診断と着床前診断
11. 再生医療とバイオテクノロジー
12. 胚性幹細胞

13. 組み替え農作物の有用性と危険性

14. 法律によるバイオテクノロジーの規制

15. 期末試験

16. 授業総括

【教科書】 授業中にプリントを配布します.

【参考書等】

- ◇ 中込弥男著 絵でわかるゲノム・遺伝子・DNA 講談社サイエンティフィク
- ◇ 図書館にある分子生物学, 遺伝学, 遺伝子工学などに関する図書

【成績評価の方法】 課題レポート (40%), 期末試験 (60%) で評価する. それぞれ60%以上の達成度で合格とする (課題レポート 24点以上, 期末試験 36点以上, 合計 60点以上). 出席日数が不足した場合, 期末試験は受験できません.

【再試験の有無】 行いません.

【受講へのメッセージ】 高校で生物学を履修していない学生も理解できるよう平易に解説しますので, バイオテクノロジーに関する広い視野を持つてくださることを期待しています.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221078>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 辻 (化生棟 710, 088-656-7526, tsuji@bio.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 16:20-17:50)

人間と生命 (Humanity and Life)

ゼミナール「くすりと情報」 (seminar on Drugs and Information)

山内 あい子 教授 / 大学院ヘルスパイオサイエンス研究部

2単位 後期 金 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『自然科学ゼミナール』)

【授業の目的】人は誰しも病気にかかったり、事故にあつて怪我をしたりします。このような時、健康で快適な生活を取り戻すため、あるいは病気を予防するための手段の一つとして、私達はくすりを使います。しかし、くすりが適正に使用されなければ薬害が起こり大きな社会問題となることもあります。ここでは、過去の薬害などをテーマにして、「くすりと情報」についてともに考えてみましょう。本ゼミナールではまた、受講生自らが、課題選択、調査とまとめ、発表と質疑応答などを通じて、必要な情報を適切に伝える能力を身につけることを目指します。

【授業の概要】くすりは情報の化身です。薬学を学ぶためには、「くすりを創る、くすりを使う、くすりを育てる」いずれのプロセスにおいても情報を収集し、解析し、評価し、加工し、提供し、そして利用するための正しい倫理観と知識に加えて適切な手技を持つことが重要です。最近では、インターネットが普及し、色々なサイトから膨大な情報があふれているので、一般の人でもくすりに関する情報を簡単に手に入れることができます。本ゼミナールでは、将来、薬剤師や薬学研究者を目指す受講生とともに、「くすりに関連した情報」について様々な観点から考えたいと思います。学生主体でゼミナールを展開することをモットーに、以下の項目について学生自身が調査・学習・発表することにより、ともに意見を交わし合いながらコミュニケーション能力を養います。少なくとも一人一回の課題発表(プレゼンテーション)を義務づけます。

【キーワード】医薬品情報学, 薬害, 医薬品適正使用, 薬剤師, 医薬分業

【到達目標】

1. 「くすりを創る、使う、育てる」の過程における情報の重要性を説明できる。
2. くすりと社会のかかわりを、薬害などの例を挙げて説明できる。
3. 医薬品の適正使用について説明できる。
4. 医薬品情報のスペシャリストとしての薬剤師の役割について説明できる。
5. パソコンで情報を適切にまとめ、人に分かり易くプレゼンテーションすることができる

【授業の計画】

1. ガイダンス:くすりと情報
2. 創薬・医薬品適正使用・育薬との関連から「くすりと情報」を考える。

3. 過去に起こった薬害からともに学ぶ。
4. 過去に起こった薬害からともに学ぶ。
5. 過去に起こった薬害からともに学ぶ。
6. 過去に起こった薬害からともに学ぶ。
7. 過去に起こった薬害からともに学ぶ。
8. くすりの開発と情報についてともに考える。
9. くすりの開発と情報についてともに考える。
10. 医療過誤と医薬品適正使用についてともに考える。
11. 医療過誤と医薬品適正使用についてともに考える。
12. くすりの安全を守る社会のあり方についてともに考察する。
13. くすりの安全を守る社会のあり方についてともに考察する。
14. 医薬品情報のスペシャリストとしての薬剤師の役割をともに考える。
15. 医薬品情報のスペシャリストとしての薬剤師の役割をともに考える。
16. 総合討論

【教科書】特に指定しません。

【成績評価の方法】レポート(30%), 課題発表(20%), 授業への取り組み状況(50%)を基に総合的に評価する(ただし、評価割合の目安は括弧内パーセントである)。

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221079>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山内 (088-633-7266, aiko@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 山内(088-633-7266, aiko@ph.tokushima-u.ac.jp))

人間と生命 (Humanity and Life)

環境とバイオテクノロジー (Environment and Biotechnology)

佐藤 高則 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 金 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】 近年, バイオテクノロジーの発展はめざましく, 我々の周りにはバイオテクノロジーを利用した製品が数多く見受けられる。また, バイオエタノールのように生物資源を利用した環境関連のバイオテクノロジーも発展している。こうしたバイオテクノロジーや環境との関係に対しては, 基礎知識を正しく理解し, 自分の意見を持つことが重要である。本講義は, バイオテクノロジーの生体高分子・産業・環境への利用の現状に対して幅広く見識を広げることを目的としている。

【授業の概要】 生体高分子の基礎から, 種々のバイオテクノロジー技術およびその環境への応用までを幅広く講義し, バイオテクノロジーの恩恵とその功罪について述べる。

【キーワード】 生体高分子, バイオテクノロジー, 遺伝子組換え, 環境

【到達目標】

1. バイオテクノロジーの理解
2. バイオテクノロジーと生体高分子や環境の関連の理解
3. バイオテクノロジーに対する自分の意見を持てるようになる

【授業の計画】

1. シラバスの説明, 講義概要
2. 生体高分子の基礎 (1)
3. 生体高分子の基礎 (2)
4. 生体高分子の機能・構造
5. バイオテクノロジーの歴史および概論 (1)
6. バイオテクノロジーの歴史および概論 (2)
7. 遺伝子工学と応用
8. タンパク質工学と応用
9. 酵素工学と応用
10. 微生物工学と応用
11. 環境工学と応用
12. 遺伝子組み換え作物
13. バイオリソースとその利用
14. バイオテクノロジーの将来と問題点 (1), 課題レポートの説明

15. バイオテクノロジーの将来と問題点 (2), 課題レポートの説明

16. 統括授業

【教科書】 プリントを適宜配布する。

【参考書等】 熊谷・金谷編: 生命工学—分子から環境まで— (共立出版)

【成績評価の方法】 毎回の課題 60%, 定期レポート 40% として評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 毎回, 課題を出しますので出席してください。

【WEB 頁】 <http://www.geocities.jp/satokichi2004jp/syllabus/jyugyou.htm>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221080>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

【備考】 高校生・市民への公開授業となっています。

生活と社会 (Living and Society)

憲法と人権 II (Constitution and Human Rights 2)

瀧 誠司・非常勤講師

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】 弁護士及び弁護士会が取り組んでいる人権問題を紹介し、日本の人権問題について考察するとともに、憲法の理念や人権感覚を身につけてもらうことを目的とします。人権問題は難しい問題のように思われるかも知れませんが、人が人として生きるための権利であって、すごく私たちの生活に密接にからむ問題であります。このようなことからいえば、実に様々なことが人権の問題となり得るのです。そこで、この講義を通じて、少しでも人権問題に関心を持ってもらいたいと思います。

【授業の概要】 弁護士及び弁護士会が取り組んでいる人権問題を、毎回 1 つないし 2 つ取りあげながら講義を進めます。憲法や基本的人権の知識は前期の講義に譲り (憲法と人権 I)、後期の講義では必要に応じて言及する程度に留めたいと考えていますので、できれば前期の講義を受講したうえで、後期の講義に臨んでいただきたいと思います。

【先行科目】 『生活と社会/ 憲法と人権 I』(0.0)

【関連科目】 『生活と社会/ 憲法と人権 I』(1.0)

【到達目標】

1. 具体的な人権問題を通じて、日本の社会や法制度の問題を理解する。
2. 法的な枠組で問題を処理する能力を身につける。

【授業の計画】

1. 弁護士の仕事、弁護士会の公益活動について
2. 誤判・冤罪
3. 死刑制度
4. 裁判員制度
5. マスメディアと人権 -犯罪報道の問題を中心として
6. ジェンダー・マイノリティの人権 -DV の問題を中心として
7. 労働問題と人権
8. 環境と人権
9. 児童虐待・高齢者虐待
10. 少年非行 (少年犯罪) と司法
11. 悪徳商法・消費者被害
12. 多重債務と自殺

13. 民事介入暴力

14. 犯罪被害者支援

15. 試験

16. 総括講義 -法律一般について

【教科書】

- ◇ プリントを配布してわかりやすく説明したいと思います。
- ◇ コンパクトなものでよいので、六法を御持参ください。

【参考書等】 参考書等は、講義の中で随時紹介します

【成績評価の方法】 試験とレポートの結果を総合して評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 憲法という素材を使用して、自分で考える・堂々と自分の意見を持つということを学んでいただければと思います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221086>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 瀧 . (オフィスアワー: seiji-dreamer.1201@gamma.ocn.ne.jp)

生活と社会 (Living and Society)

地球環境問題 (Global Environmental Problems)

豊田 哲也・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】 21 世紀に生きる人類にとって地球環境問題は差し迫った課題である。いかなる専門分野や職業に進むにせよ、私たち自身の未来がかかっていると一言で過言ではない。増え続ける人口、伸び悩む食糧生産、枯渇する資源、加速化する環境破壊。今日の日本に住む私たちは豊かで快適な生活に恵まれているが、それが莫大な輸入資源の消費によって支えられていること、同じ地球上には貧困や飢餓に生命をすら脅かされている多くの人々がいることを忘れてはならない。授業では人口、食糧、資源、環境といったキーワードを地域の視点からとらえ、問題の本質を問いかけることを目的とする。国連が目指す「持続可能な開発のための教育 (ESD)」の入門となる科目である。

【授業の概要】 授業では原則として毎週 1 つのテーマを取り上げ、ビデオ視聴などなるだけ豊富なデータを示しながら解説をおこなう。各人が事実を正確に認識し、自ら考えを深める手がかりにしてほしい。なお、授業に関連する情報の提供やレポートの提出は下記ウェブページ上でおこなう。

【キーワード】 地理学、地球環境、人口問題、食糧危機、南北問題、資源とエネルギー

【関連科目】 『生活と社会/ 食生活の経済学』(0.5)、『歴史と文化/ 世界遺産が語る地理と歴史』(0.5)、『生活と社会/ 国際社会と環境問題』(0.5)、『生活と社会/ 人口経済学入門』(0.5)、『自然と技術/ 資源と環境のはなし』(0.5)

【到達目標】 地球環境問題についての関心を高め、基礎的な知識を身につけた上で、自分で探した資料をもとに考察をおこない、意見を論理的な文章にまとめることができる。

【授業の計画】

1. 人口問題とはなにか -世界人口の歴史的推移と将来予測
2. マルサスの人口論 -人口論の意義と人口転換モデル
3. 人口抑制政策の試み -中国における一人っ子政策とその社会的影響
4. 発展途上国の都市問題 -貧困がもたらす農村の疲弊と都市の人口爆発
5. 日本の人口問題 -進む少子化・高齢化と人口減少社会のゆくえ
6. 飢餓と低開発の構造 -モノカルチャー経済のゆがみと南北問題
7. 食糧問題と緑の革命 -高収量品種の開発と普及に見る光と影
8. 食糧生産の現状と問題 -農業生産と食糧貿易から見た地域の格差

9. 日本の食糧需給 -輸入食料の増大と国内農業の課題
10. 破壊される熱帯林 -熱帯林の急激な減少とその経済的要因
11. 有限な資源と成長の限界 -エネルギー資源の地理的分布と国際情勢
12. 日本のエネルギー需給 -原子力エネルギーの経済性と安全性
13. 広がる酸性雨被害 -酸性雨のメカニズムと越境する大気汚染
14. 進む地球温暖化 -京都議定書と温室効果ガス排出削減の取り組み
15. 持続可能な文明と社会 -環境問題が問いかけるものと私たちの選択
16. 授業の総括

【教科書】

- ◇ 西川潤著 『世界経済入門・第 3 版』 岩波新書 2004 年 819 円
- ◇ このほか参照する図表等を各回プリントして配布する。

【参考書等】 関連する図書を毎回授業で紹介する。

【成績評価の方法】 5 回に分けて小レポートを課す (80%) ほか、授業へ取り組み状況 (20%) をもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 高校での授業や受験科目で地理を履修・選択したかどうかは受講の必要条件ではない。この授業の単位は、教員免許取得 (中学校・社会、高校・地歴) のための「教科に関する科目」に算入できる。

【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/env/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221081>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜 12:00~ 13:00)

【備考】 授業の 1~ 6 回目は、大学開放実践センターの公開授業として受講可能。

生活と社会 (Living and Society)

マクロ経済学入門 (Introduction to Macroeconomics)

趙彤 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】 マクロ経済学の重要な概念を理解し、日経新聞の経済記事が読めるようになることが本授業のねらいである。

【授業の概要】 はじめはマクロ経済学の概念の説明につとめる。身近な世界経済問題から出発し、金融の仕組み、経済の仕組み、そしてマクロ経済学の基本を学習する。

【キーワード】 為替相場、金利、金融・財政政策、グローバル化世界経済

【到達目標】

1. 日経新聞の記事が読めること
2. 経済理論をもって経済現象を考えること

【授業の計画】

1. これまでの円の動きについて
2. ヘッジファンドと「ポンド危機」について
3. 「アジア通貨危機」について
4. 「ロシア通貨危機」について
5. これからの「世界の通貨体制」

【教科書】 講義中指示する

【参考書等】

- ◇ 細野真宏 『経済のニュースがよく分かる本 (世界経済編)』 小学館
- ◇ 大久保隆弘 『経済学が面白いほどわかる本 (マクロ経済編・経済政策論)』, 『経済学が面白いほどわかる本 (マクロ経済編・マーケット論)』 中経出版

【成績評価の方法】 出席と期末試験あるいはレポート

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 受講学生に 2 回ほどディスカッションしてもらうので、受講人数を 40 名とする

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221082>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 趙 (088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 12:50~ 14:20 水曜日 12:50~ 14:20)

生活と社会 (Living and Society)

地方行政経営論 (Local Public Management)

石田和之・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『経営学』)

【授業の目的】「～未来を創造する若者たちへ(とくしま未来創造学)～」をサブテーマとして、地方行政の現状や課題、そして未来の姿を共有する中で、共に考え、共に行動するためのきっかけを提供し、将来の行動に繋がることを目的とする。

【授業の概要】この講義は徳島県庁との連携により、県においてそれぞれの施策を担当している職員を外部講師として招聘することにより実施する講義である。地域社会が抱えるさまざまな課題は、すべて行政が抱える課題でもある。行政が地域の課題に対してどのように取り組んでいるのかを知るとともに、行政による取り組みの限界も理解して欲しい。

【キーワード】とくしま未来創造学, 少子化, 行政経営, 徳島, 人生設計

【到達目標】

1. 地方行政の現状と課題を理解する。
2. 自己のキャリア・デザインに対する意識を高める。
3. 活力のある徳島を創ろうとして(いつか)行動をおこす。

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. 徳島の未来の姿
3. 少子高齢化問題(1)
4. 少子高齢化問題(2)
5. 少子高齢化問題(3)
6. 徳島の歴史・文化
7. 中間試験(または、中間レポート)
8. 徳島の産業・観光(1)
9. 徳島の産業・観光(2)
10. 徳島における低炭素社会への取り組み
11. 南海地震と防災対策
12. 地域医療の課題
13. 新しい公共の役割
14. 徳島が抱える行財政の課題
15. 定期試験(期末レポート)

16. 総括

【教科書】無

【参考書等】講義中に随時、配布する。

【成績評価の方法】授業への参加態度(出席およびコメントなど)、中間試験(または、中間レポート)、期末試験(または期末レポート)を総合的に勘案して評価する。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】この講義では、単なる行政課題の解説に留まるのではなく、行政課題の理解を通じて、ふるさとに誇りを持ち、地域の未来に積極的に関わっていく、そして人生設計のきっかけを提供することを意図している。学生諸君には、徳島を良く知る機会に、また、自分が育った「ふるさと」を想う心を育てる機会として役立つことを期待する。徳島県出身の学生諸君には、とくにふるさと徳島を誇りに思う心や愛する心を持って、自分の人生設計に役立ててもらいたいことを期待する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221084>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】上記の講義計画は、昨年度の講義内容である。担当講師の都合等の事情により、テーマに多少の変更の可能性があることを承知されたい。

生活と社会 (Living and Society)

産業と交通 (Industry and Transportation)

田中耕市・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】 1つの都市は、住宅地や商業地区など様々な地域で成り立っており、1つの国はそのような都市の集合体で形成されているといえる。交通ネットワークは異なる都市間や地域間を結ぶ重要な役割を果たしており、地域産業の発展に大きく寄与してきた。本講義では、交通ネットワークの形成・展開過程から、交通が地域に与える影響や問題点までを、空間的視点から考察する。

【授業の概要】 距離とは何を意味するか?移動はなぜ発生するか?という根本的な問題から、交通流動分析を用いた空間構造の解明まで、交通と地域にまつわるトピックを解説する。担当者から一方的に話すのではなく、受講者にも多くの発言を求める授業である。

【キーワード】 地理学, 産業, 地域問題

【到達目標】 様々な事象を地図化することによって、地域の諸問題を発見して、それに対する自分の意見を述べられるようになる。

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. 距離と空間
3. 移動手段の誕生と発達
4. 高速道路網の拡大と問題点
5. 諸外国の高速道路
6. 新幹線が日本に果たす役割
7. 欧州の高速鉄道
8. 第1回テスト
9. 交通アクセシビリティの測定法
10. 交通ネットワークの分析モデル
11. 都市内交通の問題点
12. 地方における公共交通問題
13. 日本の空港・航空問題
14. チェーン店の物流システム
15. 第2回テスト
16. テスト解説

【教科書】 高等地図帳 (高校で利用した地図帳でよい)

【成績評価の方法】 授業での発言を重視する。他に、授業への取組、小レポート、レポート、期末試験で評価する。

【再試験の有無】 なし

【講師へのメッセージ】 授業では毎回、小レポートを実施する。そのほかに、2回のテストを実施する予定。大レポートの提出・テストの受験が義務。授業中、受講生には積極的な発言を求めます。

【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/sis/index.htm>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221085>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田中 .

生活と社会 (Living and Society)

都市の人間関係 (personal network in the urban life)

矢部 拓也・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『社会学』)

【授業の目的】現代の都市社会構造を人間関係 (パーソナルネットワーク) の側面に注目して明らかにしてゆく事が本講義の目的である。

【授業の概要】森岡清志編著 (2000) 『都市社会の人間関係』放送大学教育振興会を基本テキストとする。それに加えて、適宜、ベーカー著、中嶋豊訳、2001 『ソーシャル・キャピタル ―一人と組織の間にある「見えざる資産」を活用する』、ダイヤモンド社、安田雪、1997、『ネットワーク分析:何か行為を決定するか』新曜社の内容で、重要と思われるところを加えながら講義を進める。

【キーワード】都市社会学, 現代社会, パーソナルネットワーク

【到達目標】自分たちの身近な生活世界と <社会> とのつながりを語れるような「社会学的想像力」を身につける

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. ワークショップ「ワニの川」社会の多様性
3. 社会的ネットワークとパーソナルネットワーク
4. 都市生活と社会的ネットワーク
5. 北カリフォルニアのパーソナルネットワーク
6. 日本の大都市におけるパーソナルネットワーク
7. 都市化と親族関係
8. 現代の都市家族
9. 都市家族とネットワーク
10. 連帯的なネットワークと家族/現代日本の『家族・コミュニティ問題』1
11. 解放化するネットワークと家族/現代日本の『家族・コミュニティ問題』2
12. 階層とネットワーク
13. 社会的資源としてのネットワーク
14. 高齢者のパーソナルネットワーク
15. インターネットと人間関係
16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 森岡清志編著、2000、『都市社会の人間関係』、放送大学教育振興会 (放送大学教材 83138-1-0011) 参考書

- ◇ ベーカー著、中嶋豊訳、2001 『ソーシャル・キャピタル ―一人と組織の間にある「見えざる資産」を活用する』、ダイヤモンド社

- ◇ 安田雪、1997、『ネットワーク分析:何か行為を決定するか』新曜社

【成績評価の方法】期末レポート 80%、出席 20%。授業の進め方も含めて、初回の授業で詳しく説明するので、必ず出席すること。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】単に座って講義を聴くのではなく、これまでの自分の身の回りの経験を元に自分なりの社会を語れるようになってもらいたいと考えている。社会に対するいろいろな疑問や不満を持っている人の参加を期待する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221087>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

生活と社会 (Living and Society)

現代社会と法 (Modern Society and Law)

上原 克之・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】「社会あるところに法あり。」われわれの市民生活は法ぬきには考えることはできないほど、それを意識するかしないかはともかく、法に囲まれて生活している。法とは一定の、社会を見る視点であり、本授業では、法的思考を身につけることにより、現代社会をこれまでとは違った観点から見ることができるようになることを目的とする。

【授業の概要】はじめに法とは何か、近代法とは何か、また、法が他の社会規範とどのように区別されるのかを明らかにしたうえで、われわれの社会生活に関係する財産法、家族法、刑法等についての具体的な問題を検討していく。

【キーワード】法、道徳、財産、家族、犯罪

【関連科目】『生活と社会/家族法の諸問題』(0.5)

【到達目標】

1. 法的な諸概念を正確に理解すること
2. 法的な論理を理解すること
3. 法的なものを見方を文章で説得的に展開することができること

【授業の計画】

1. 法とは何か 1) 法の分類
2. 法とは何か 2) 近代法の観念
3. 法とは何か 3) 法と道徳
4. 財産と法 1) 法的人格
5. 財産と法 2) 財産権 物権
6. 財産と法 3) 財産権 債権
7. 財産と法 4) 財産権 物権と債権の関係
8. 家族と法 1) 家族法の推移
9. 家族と法 2) 婚姻をめぐる法
10. 家族と法 3) 離婚と法
11. 家族と法 4) 相続
12. 犯罪と法 1) 概説
13. 犯罪と法 2) 罪刑法定主義
14. 犯罪と法 3) 刑法の機能
15. 犯罪と法 4) 刑事訴訟手続

16. 犯罪と法 5) 刑事訴訟手続の諸問題

【教科書】

- ◇ 教科書は特に指定しないが、法令集(六法)を持参すること。
- ◇ 【参考書等】については、適宜指示する

【成績評価の方法】筆記試験を中心とし、小テスト、授業への取り組みなど(20%)を総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】授業はあくまでも出発点であると考え、授業だけに満足せず自ら積極的に学ぶ姿勢を大切にしてください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220756>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

法学入門 (Introduction to Law)

清水真人・講師 / 総合科学部

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】 本講義は、法律をはじめて学ぶ学生を対象に、主として私法分野における法律学の基本的な考え方を理解していただくことを目的とします。私たちの市民生活は法律と密接に関係しています。法律学の考え方を身につけることにより、皆さんが生活を送る上で直面するであろう様々な問題に対し、自ら考え対処する能力を養っていただきたいと思います。

【授業の概要】 新聞記事・雑誌記事等を用いて身近な法律問題について皆さんと一緒に考えたいと思います。

【キーワード】 法律学

【関連科目】 『生活と社会/経済と法』(0.5), 『生活と社会/家族法の諸問題』(0.5)

【到達目標】

1. 私たちの身の回りに存在する法律問題について考える。
2. 法律学的な考え方を身につける。

【授業の計画】

1. 私法の学び方
2. 法の分類と私法の意義
3. 私法の基本原理
4. 私法の法源
5. 私法の効力
6. 私法の適用と解釈
7. 私法上の権利
8. 権利の主体
9. 権利の客体
10. 法律行為
11. 違法行為
12. 消滅時効
13. 民事手続法 (1)
14. 民事手続法 (2)
15. 総括
16. 試験

【教科書】 五十嵐清 『私法入門 [改訂 3 版]』(有斐閣, 2007), 小型六法を各自用意して下さい。

【成績評価の方法】 成績は出席, レポート, 期末試験等によって評価する

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220757>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 清水 (088-656-7174, shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

市民と政治 (Politics and Citizen)

栗栖 聡・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『政治学』)

【授業の目的】人間の社会がある限り、公共的な問題を何らかの形で解決すること、すなわち政治が必要となる。この授業においては、政治の基本的枠組み、基本的概念、近代国家や現代国家の基本原則等を理解することが目的である。

【授業の概要】そもそも政治とは何を意味するのかという問題から出発し、政治学の基本的概念を理解し、さらに近代国家の基本原則や現代国家のあり方について、自由民主主義国家、福祉国家、行政国家、大衆民主主義国家といった類型に即して考察する予定である。

【到達目標】政治現象を理解するための、市民としての基本的教養を身につける。

【授業の計画】

1. 政治とは何か
2. 公共的事柄とは
3. 意思決定 (その 1)
4. 意思決定 (その 2)
5. 実施
6. 近代国家のあり方
7. 社会契約論 (その 1)
8. 社会契約論 (その 2)
9. 立憲主義 (その 1)
10. 立憲主義 (その 2)
11. 立憲主義 (その 3)
12. 福祉国家
13. 行政国家
14. 大衆民主主義国家
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】授業中に指示する。

【成績評価の方法】授業への取組 (30%) 論文形式による試験 (70%)

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220764>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 栗栖 (2207-1, 0886567185, kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

工業経済学 (Economics of Industry)

立花 敬雄・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】工業経済学の基礎的内容について、わかりやすく解説することを目的とする。

【授業の概要】現代の経済社会を十分に理解するためには、工業の経済学的な理解が不可欠である。これまで工業経済学の内容として論じられてきた、工業の分類、工業化の法則、生産手段と経営形態の展開などについての的確な知識に基づいて現代工業の動向を読みとり、これからの展望について検証する必要がある。そのことによって現代経済が直面している諸課題についても明らかにしたい。

【到達目標】工業経済学の基礎的知識を習得する。

【授業の計画】

1. 1 国民経済と工業
2. 2 工業の分類
3. 3 工業化と経済成長
4. 4 工業化の法則
5. 5 経済成長と比較生産性
6. 6 生産手段と経営形態
7. 7 労働手段と技術
8. 8 経営形態の展開
9. 9 生産の集積と独占形態
10. 10 現代工業と地域社会

【教科書】プリントを配布する。参考書等は適宜紹介する。

【成績評価の方法】定期試験、レポート等により評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】質問等は、メールでも受け付けています。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221089>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 立花 (656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

相互行為分析と現代社会 (Interaction analysis and contemporary society)

檜田 美雄・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】 相互行為分析は、社会学の方法であり、1960 年代の米国西海岸に始元をもつエスノメソドロロジーの影響を強く受けた方法である。それは、人々の相互行為を会話や動作の連続体(シークエンス)であると見なして、詳細に検討する学問であり、録音録画機を用いた「会話分析」との組み合わせによって大きく発展した。現在では、医学・看護学・教育学・工学らの諸学問と連携して大きな成果を上げている。本講義は、この新しい学問をとにかく最低限イメージできるようにするまで実践的に紹介する。イメージするのに必要な限りで、コンピューター実習もおこなう(データの加工能力がレポート作成に必要なため)

【授業の概要】 講義(ビデオ・音声教材を用いる)が中心。ただし、会場の確保ができれば、途中で2回は、コンピューター教室で、トランスクリプト(転写文)作成や、動画編集の作業を行いたい。芸能活動において、どうして1人の演者が複数人を演じることができているのか(cf. 落語)という問題を実際の落語をみながら考える。お笑い芸人が人間の相互行為分析能力を活用していること(cf. アンジャッシュのDVDを活用!)を隣接対の用語を用いて解明する。マジシャンがマジックを可能にしている状況を観客とマジシャンの相互支え合い関係として分析する。医療現場でひとびとがいかにお互いに対する期待をボディを通して表示しているのかをビデオを通して確認する。教室で教員と生徒がどのようにコミュニケーションしているかをビデオだけでなく、当事者インタビューを通して解明する。これらの事例を見せたあとで、学生自身に事例を探索させ、分析を可能な限り共同で行い、レポートに結実させる。盛りだくさんでたいへんだが、楽しい知的エンターテイメントとなるよう努力したい。

【キーワード】 相互行為、エスノメソドロロジー会話分析、発話の秩序、隣接対

【先行科目】 『生活と社会/ ボランティア論』(0.0)

【到達目標】

1. 日常生活をふりかえりながら、社会の仕組みを考える能力を身につける。
2. トラブルや闘争もまた、社会秩序のひとつの形であることを理解する。
3. 言語論的転回や手続き論的転回という現代思潮の最新状況の概況を知る

【授業の計画】

1. オリエンテーション。参加は必須。欠席者には後日その理由を問う

2. アンジャッシュのDVDを見ながら、そこに我々の社会の秩序性が活用されていることを見る
3. 放送スタジオの相互行為分析。息を吸うことと吐くことの相互行為的意味。
4. 居酒屋の相互行為分析。選択肢が前提となった相互行為。適切であること。
5. 信頼に底が抜けていることの確認。ウイナーの交信モデルと相互行為。
6. サンチアゴに雨が降る、というラジオ放送の意味。意味はどこに生じるのか。
7. 病院に行くことのエスノメソドロロジー(救急車を呼ぶ、病院で診察をうける・・・)
8. トランスクリプトの作り方の説明 1(田中 2004 に基づいて実習する)
9. トランスクリプトの作り方の説明 2(配布のDVDに基づいて実習する)TA活用
10. 視線の秩序。配布のDVDに基づいて動画分析の練習。
11. 医療の相互行為分析(悪いニュースの伝え方、自閉症の秩序・・・)
12. 学生が探索したデータによる相互行為分析検討会(1)
13. 学生が探索したデータによる相互行為分析検討会(2)
14. 施設で暮らすことの相互行為分析(待つこと、待たせること:作業療法の現場から)
15. 教育の相互行為分析(高等教育における少人数教育、幼児のスイミングスクール現場から)
16. 全体のまとめ

【教科書】 教科書は使用しない。

【参考書等】

- ◇ 好井 裕明・串田 秀也編『エスノメソドロロジーを学ぶ人のために』世界思想社、2010
- ◇ 山崎 敬一編『実践エスノメソドロロジー入門』有斐閣、2004
- ◇ ダグラス・メイナード著、檜田美雄・岡田光弘訳『医療現場の会話分析』勁草書房。
- ◇ 好井・山田・西阪編『会話分析への招待』世界思想社
- ◇ 平 英美・中河 伸俊編『新版 構築主義の社会学』世界思想社

【成績評価の方法】 授業中の出席と発言、授業内での小テスト、最後のレポートによって評価する。半ば実習のようにして進めていくので、通常の講義とは異なるこ

とを予め理解してほしい。詳しくは初回に資料を配付して説明するので、必ず出席すること。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 自分や社会を振り返り、物の見方を変えたり豊かにするような講義を目指したい。そうした意味での「教養」を身につけたい学生の受講を歓迎する。

【WEB 頁】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221090>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐。1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき。、088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日14:00~ 15:00atSVBL棟3階プロジェクト研究室1)

生活と社会 (Living and Society)

憲法と人権Ⅱ (Constitution and Human Rights 2)

堀井 秀知・非常勤講師/全学共通教育センター

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】憲法改正を巡る議論や裁判員制度など、具体的な問題を中心にしながら、憲法の理念や人権の考え方を身につけてもらうことを目的としています。憲法は「この国のかたち」に関わる最も重要なルールですが、同時に、日常生活とはもっとも縁遠いと思われがちです。しかし、実際には、日常生活の様々な場面で重要な役割を果たしています。この講義を通じて、そうしたことを学びとっていただけたらと思っています。

【授業の概要】憲法の基礎と人権を中心に講義をすすめます。その際、実際に裁判になった事例などをベースにして、憲法の基本的な論点を講義形式で検討していく予定です。前期の「憲法と人権Ⅰ」を受講している必要はありませんが、前期の講義を受講していると、より憲法についての理解が深まるでしょう。

【キーワード】憲法, 人権

【先行科目】『生活と社会/ 憲法と人権Ⅰ』(1.0)

【到達目標】憲法と人権の基本的な考え方を理解し、社会人として求められる最低限の法的素養を身につける。

【授業の計画】

1. 憲法・人権総論 (1)
2. 憲法・人権総論 (2)
3. 法の下の平等
4. 出生と生殖医療をめぐる人権問題
5. 未成年者の人権 (1)-未成年者の自己決定権を中心にして
6. 未成年者の人権 (2)-少年法を中心にして
7. 表現の自由 (1)
8. 表現の自由 (2) インターネットと憲法問題
9. 信教の自由
10. 財産権と職業選択の自由
11. 生存権
12. 家族を巡る憲法問題-夫婦別姓・非嫡出子制度を中心にして
13. 参政権
14. 裁判員制度と裁判を受ける権利 (1)
15. 裁判員制度と裁判を受ける権利 (2)

16. 総括 憲法改正を巡る議論

【教科書】特に指定しませんが、六法全書(『コンパクト六法』、『デイリー六法』などの小型のもの)を持参してください。

【参考書等】「四訂 憲法入門」(樋口陽一著 勁草書房)・「やさしい憲法入門(第4版)」(戸波江二編 法学書院)・「はじめて学ぶやさしい憲法」(長尾一紘著 実務教育出版)・「いちばんやさしい憲法入門(第3版)」(初宿正典ほか編 有斐閣)・「基本的人権の事件簿(第3版)」(棟居快行ほか編 有斐閣)・「憲法判例を読む」(芦部信喜 岩波書店)・「はじめて学ぶ憲法判例」(資格実務研究会編 実務教育出版)・「確認基本用語 300」(大沢秀介編 成文堂)

【成績評価の方法】講義中に実施する小テストと期末のレポートの結果を総合して評価します。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】法学は決して難しくありません。自分の頭で考えるうちに自然と法的な考え方が身につくようになると思います。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221091>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 堀井 .

生活と社会 (Living and Society)

中東経済入門 (第二次世界大戦後の政治と経済) (Introduction to Middle East Economy (Post WW2 Politics))

水島 多喜男・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】 最近中東地域に関する関心が高まっているが、依然として中東地域に対する日本の関心は石油・天然ガス問題に限られている。しかし、この地域は共通性とともにも多様性をもち、一面的な理解を拒絶する世界である。授業を通じて、この地域を理解するための基礎的知識を獲得することを目的とする。

【授業の概要】 この講義では、映像資料を見ながら、以下の点についてこの地域の特性を概観することにした。1. 中東地域の政治的、経済的多様性、2. 中東地域とその他の地域との間の経済関係、3. 資本主義の世界的性格と中東地域との緊張関係。

【キーワード】 中東、政治、第二次世界大戦、経済、資本主義、地域

【先行科目】 『歴史と文化/ 中東経済入門-歴史と文化基盤-』(0.7)

【関連科目】 『歴史と文化/ 中東経済入門-歴史と文化基盤-』(0.7)

【到達目標】 中東に関する報道を、自分の知識と照らし合わせながら理解できるようになる。

【授業の計画】

1. ユダヤ人問題
2. パレスチナ問題
3. ユダヤ過激派
4. イスラエルの核開発
5. イラク
6. イラク
7. イラン
8. イラン
9. サウジアラビア
10. サウジアラビア
11. アラブ過激派
12. 中東と民主主義
13. 中東と民主主義
14. (予備) 進捗度に遅れが出た場合に使用
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 配付する資料を使用する。

【参考書等】 参考書等は、適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業への取り組みと、授業中の小レポート・課題レポートを重視する。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 平成 16 年度に開講した授業科目『中東経済入門 2』を受講したものは履修できません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221093>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

ボランティア実践 (Volunteer and society)

樋口直人・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『生活と社会』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『社会学』)

【授業の目的】 ボランティアを理論としてではなく、実践的な活動として理解すること。また、実際のボランティア活動を通じて、市民セクターが社会を支えることの意味を理解すること。

【授業の概要】 社会学者であり、阿波市で農業を営みつつ地域活動に携わる稲井由美氏を講師に迎えて、実際に地域社会を維持するための活動に参加する中で、「ボランティア」について考えてゆく。旧小学校を拠点に景観保全活動を行なうグループでの梅林の剪定、石垣の修復、人工池の植栽や掃除といった活動のなかから適宜選択し、実際に汗をかいてもらう。ボランティアをしてもらう事例を通じて、個人のボランティア活動だけではなく、組織として社会問題に関わるNPO、中間支援など、実際にボランタリーセクターが地域社会を支えている現状についての理解を深めてもらう。

【キーワード】 ボランティア, 環境, NPO

【先行科目】 『生活と社会/ ボランティア論』(0.0)

【到達目標】 受講者が日常的に地域でボランティア活動に関わるライフスタイルを持ったまちづくりの主体となることを目指す。

【授業の計画】 15回のうち、週末2日間実際に阿波市の活動現場に赴くので8回分とする。残り7回は、ボランティア実践の意味を考える講義や文献購読、ディスカッションにあてる。「実践」を重んじるので、参加する会の活動予定に合わせて授業を組み立てる。第1回目のガイダンス時に授業計画をお知らせします。

【教科書】 教科書は使用しない。

【参考書等】 金子郁容『ボランティア -もうひとつの情報社会』岩波書店, 1992

【成績評価の方法】 授業中の出席と発言, イベントへの参加, 最後のレポートによって評価する。半ばゼミのようにして進めていくので、通常の講義とは異なることを予め理解してほしい。詳しくは初回に資料を配付して説明するので、必ず出席すること。また、ボランティアへの参加にあたって、必要な交通費を自己負担してもらう。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 自分や社会を振り返り、物の見方を変えたり豊かにするような講義を目指したい。そうした意味での「教養」を身につけたい学生の受講を歓迎

する。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221094>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

国際社会と環境問題 (Internationalization and Environmental Problems)

北村 修二・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】近年、経済成長や地域開発に伴って、世界およびわが国で起きている環境問題を取り上げ、われわれが取り組むべき課題を考察する。

【キーワード】今問われているもの、私たちと国際化、生活と環境、地域開発と環境問題

【到達目標】環境に関する基礎的な素養を、具体的事例のなかで考えながら、身につけさせることを課題とする。特に国際化の進展のなかで行われている、地域開発に伴って生じている地域環境問題を、私たちの生活との関わりをなかで考察する能力を培う。

【授業の計画】

1. ガイダンス・講義の趣旨と進め方
2. 今問われているもの
3. 国際化・地球化時代
4. 国際化時代の経済および産業
5. 国際化時代の地域システム
6. 世界の環境問題
7. わが国の環境問題 (1)
8. わが国の環境問題 (2)
9. 大都市地域の環境問題
10. 企業の環境問題への取り組み
11. 地方自治体の環境問題への取り組み
12. 原子力をめぐる環境問題
13. 新たな時代の地域開発とまちづくり
14. 環境問題と私たち
15. まとめ
16. 総括

【教科書】教科書は最初の授業で紹介するので入手すること。

【成績評価の方法】講義時間内のまとめ (小まとめ (配点は 60%), 総まとめ①, ② (配点は 40%)), もしくはレポートにより評価する。

【再試験の有無】無

【受講へのメッセージ】受講に際して、高校や大学等で地域開発や環境に関する科目の受講の有無は問わないが、国際時代の地域問題や環境問題に関心があり、それらの課題を勉強する意志があり、かつそれが実行できる人は参加できる。オフィスアワー 随時。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221095>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 北村 .

生活と社会 (Living and Society)

憲法と人権 (Constitution and Human Rights)

麻生 多聞・非常勤講師
2単位 後期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】 統治規範の最高法規たる日本国憲法により保障される人権の体系について概観し、近代立憲主義という思想と関連づけながら「人権とは何か」というテーマについて、受講者各自が主体的な回答に及ぶことのできるよう講義する。いかなる問題についても、自分自身が当事者になったつもりで考察する姿勢(当事者交替可能性)が重要である。

【授業の概要】 適宜、映像・音声資料なども用いるが、基本的には一般的な講義形式によるものとする。

【キーワード】 当事者交替可能性、憲法、人権

【到達目標】 立憲主義という枠組においては、主権者たる市民には、そもそも主体的・能動的なシティズンシップが求められるはずであるが、今日では、このような統治主体としての個人像がきわめて希薄化しているといわざるを得ない。このような現状を踏まえながら、現代的な社会問題の解決のために求められる憲法学的観点からの思考法(リーガルマインド)

【授業の計画】

1. 立憲主義概説(人権の享有主体とは)
2. マイノリティの権利①
3. マイノリティの権利②
4. 平等①(尊属殺人重罰規定違憲判決を素材として)
5. 平等②(性差別, 逆差別・女性専用車両)
6. 生存権
7. 包括的基本権①(生死と自己決定)
8. 包括的基本権②(産む権利, プライバシー権)
9. 信教の自由と政教分離
10. 表現の自由
11. 教育と憲法
12. 刑事手続と憲法
13. 労働法制
14. 平和的生存権(「人権としての平和」)
15. 成績判定試験
16. 総括

【教科書】 無し

【成績評価の方法】 学期末試験により評価する。

【再試験の有無】 無し

【講師へのメッセージ】 意欲ある学生の受講を歓迎する。私語の甚だしい受講者については教室での受講を認めない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221096>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 麻生 .

生活と社会 (Living and Society)

国際政治学入門 (Introduction to International Politics)

饗場 和彦・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 金 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『政治学』)

【授業の目的】「一種のチーズの臭いか…」, 人間の死臭をどうたとえていいか思索しながら, 死体を見回した. 部屋いっぱいには'展示'してある遺体は白くミイラ化していた. 次の部屋には子供のなきがらばかり横たわる. アフリカのルワンダでは, 1994 年の 4 月から 6 月にかけて, フツとツチの二つのグループがからむ対立で約 80 万人が殺害された——(饗場和彦「虐殺から六年 和解と対立に揺れるルワンダ」『世界』2000 年 10 月号より引用). 世界のあちこちで依然, 紛争が絶えない. この授業では戦争, 平和の問題を中心に, 国際社会, 国際政治について関心と問題意識を高め, 基本的な知識を得ることを目的とする.

【授業の概要】国際社会の基本的な仕組み, 特徴などを概説した上で, 具体的な問題を取りあげて考察する. 筆者はルワンダやボスニア, コソボ, 東ティモール, カンボジア, ミャンマー, パレスチナ, グアテマラなどの紛争地を歩き, 2001 年 9 月にはニューヨークでテロに遭遇. 02, 04 年はアフガニスタンで調査を行った. 授業ではこうした現場の視点を取り入れ, 臨場感のある解説を試みる. ビデオやスライドなども多用し, 2 週間で一つのテーマを扱う. テーマごとに受講者からの質問や意見を集め, 講義中にそのフィードバックも行う.

【キーワード】国際政治, 戦争, 紛争, 平和

【関連科目】『生活と社会/ 国際協力論 2 -四国から世界へ 輝く瞳のつくり方-』(0.5), 『生活と社会/ 政治とメディア』(0.5)

【到達目標】

1. 国際社会の基本的原理, 仕組みが理解できる.
2. 国際社会の平和と戦争の問題について知識を広げる.
3. 国際政治の現実と理想について認識でき, バランスの取れた視点から思考ができる.

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. 国際社会の特徴, 原則 —国内社会とどう違う?弱肉強食の世界か(前)—
3. 国際社会の特徴, 原則 —国内社会とどう違う?弱肉強食の世界か(後)—
4. なぜ戦争は起きるか-国連の平和への取り組み(前)
5. なぜ戦争は起きるか —国連の平和への取り組み(後)—

6. 民族紛争の仕組みと実態 —東京と大阪間でも起きる?(前)—
7. 民族紛争の仕組みと実態 —東京と大阪間でも起きる?(後)—
8. ベトナム戦争 —死者 300 万人, やらずに済んだ戦争?(前)—
9. ベトナム戦争 —死者 300 万人, やらずに済んだ戦争?(後)—
10. 日本の戦争と靖国参拝問題 —まず知ること, そして多面的な見方を(前)—
11. 日本の戦争と靖国参拝問題 —まず知ること, そして多面的な見方を(後)—
12. 人間の安全保障と国際協力 —平和のための多様なアプローチ(前)—
13. 人間の安全保障と国際協力 —平和のための多様なアプローチ(後)—
14. 社会問題の考え方再確認 —自立して, 多面的にとらえて, バランスよく考える—
15. 補足と総括

【教科書】教科書は特に指定しない. 授業中に配布するレジュメや資料にしたがって講義を進める. 参考書などは, たとえば以下の書籍など. 高柳先男『戦争を知るための平和学入門』(筑摩書房, 2000 年, 1200 円), 『新国際関係学がわかる. (AERA Mook)』(朝日新聞社, 1999 年, 1050 円), 池上彰『そうだったのか!現代史』(集英社, 2000 年, 1,700 円), 津守滋『地球が舞台 -国際 NGO 最前線からの活動報告-』(勁草書房, 2002 年, 2800 円), 『グローバル時代の平和学 1~4』(法律文化社, 2004 年, 各 2500 円), 石弘之『子どもたちのアフリカ』(岩波書店, 2005 年, 1700 円), 松村高夫・矢野久『大量虐殺の社会史-戦慄の 20 世紀』(ミネルヴァ書房, 2007 年, 4500 円)

【成績評価の方法】期末の試験はあらかじめ問題を提示するので, 試験日までに準備し, 当日は持ち込み禁止で解答する. また, 平常点として授業の取り組み姿勢と出席状況を評価する. おおむね試験 50%, 平常点 50%.

【再試験の有無】有り.

【受講者へのメッセージ】新聞の国際面の記事はよく読むようにしてください.

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221097>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 13:30~ 14:30, 金曜日 14:30~ 16:00. この時間以外でも在室時はいつでも可.)

自然と技術 (Science and Technology) 量子論入門 (Introduction to Atomic Physics)

中山 信太郎・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『物理学』)

【授業の目的】 科学としての物理的方法論について解説する。物理法則の認識と法則化を経て得られた自然観について理解することを目的とする。現代物理学の中核をなす相対論と量子論をもとにした物質構造について解説する。

【授業の概要】 自然界における光の振る舞いは、200 年もの間さまざまな検証に耐えてきたニュートンの自然観を根底から覆した。それらは光速度不変性であり、光の粒子性・波動性である。前者は相対論として、後者は量子論として、全く新しい自然観が確立されることになる。これらをもとにした物質構造について考える。自然界に存在する物質に作用する力と物質構造の関わりに振れる。

【キーワード】 光と黒体放射, 粒子性と波動性, 物質の二重性, 不確定性原理, 粒子と反粒子

【到達目標】

1. 光の粒子性・波動性を理解する。
2. 物質の二重性 (粒子性・波動性) について理解する。
3. 量子論を基礎とする自然構造を理解する。

【授業の計画】

1. 自然を見ること, 自然の広がり
2. 気体分子運動論
3. 気体分子の運動とマクスウェル・ボルツマン分布則
4. 特殊相対論
5. 相対論と光量子
6. ド・ブロイの波動説
7. 箱の中の粒子と原子
8. 波動と粒子の二重性
9. 原子スペクトルと原子構造
10. ラザフォード散乱
11. 原子核の存在
12. 原子核の性質
13. 原子核反応
14. 陽子と中性子

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 教科書は使用しない。毎講時プリントを配布する。
- ◇ 参考書: 鈴木・釜江著「素粒子の世界」岩波新書
- ◇ 長島著「ニュートリノの謎」サイエンス社

【成績評価の方法】 毎講時小テストを行う。レポートを1つ提出してもらう。小テストとレポートの中から、試験問題を出す。以上を総合評価して成績を出す。

【再試験の有無】 小テストやレポートが一定水準に達していれば再試験を認めることがある。

【受講者へのメッセージ】 講義ノートを準備する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221098>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月～金 17:30～18:00)

自然と技術 (Science and Technology)

化学と社会 (Chemistry and Society)

三好 徳和・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『化学』)

【授業の目的】 現在, 環境問題と考えるとき化学の知識無くて考えられません。例えばダイオキシン, ダイオキシンって一分子食べただけで体壊すのですか? 答えは否です。これは化学的な量的視点があれば簡単にわかることです。そこで, 先ず化学的視点を通じ, 何故 why?と考えることを, 本講義の目的とします。今までの問題は答えが用意されていたことと思います。しかし, この世の中に答えがある問題など無いのが現実です。答えのない問題に敢えて答えを出す。それは大変難しいことです。往々にして間違えるものです。ではどうしたらよいのでしょうか?その一つとして, 常に何故と自分にそしてあらゆる事に問いかけることだと考えます。

【授業の概要】 社会を化学の目で見れば, 不思議だらけであることがわかります。また, あるものは漠然と当たり前に見ていたものが, 実は精密機械のように計算され尽くした現象であることがわかります。そこで, 身のまわりのことに目を付けながら, あらゆる事に何故?と疑問を投げかけながら講義します。

【キーワード】 化学, 身の回りの化学, 生活

【到達目標】 身のまわりの事象に化学的視点から何故と問いかけることが出来るようになること。

【授業の計画】

1. 科学および化学とは何だろう?
2. 構造と機能について
3. —1) 炭素の三次元構造について (2 回)
4. —2) 身の回りの化学について (2 回)
5. —3) 薬について
6. ——構造と薬効について (2 回)
7. ——薬って?
8. ——薬が出来るまで
9. 3. 環境と化学について (2 回)
10. 4. 風習・文化・伝統と化学
11. —お酒の化学(日本酒から見る環境破壊)(3 回)
12. 5. 試験
13. 6. 総括授業

【教科書】 特になし。授業中に参考書を紹介。

【成績評価の方法】 授業への取り組み (30%)・レポート (20%)・期末試験 (50%) の総合評価

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 授業の初回に, 本授業に関する注意事項を話すので, 遅刻せず必ず出席すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220784>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

自然と技術 (Science and Technology)

地震・火山災害を防ぐ (Disaster prevention of seismic and volcanic hazards)

西山賢一・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『地学』)

【授業の目的】 日本列島はプレートが沈み込む変動帯に位置しているので、地震や火山による災害を受けやすい。さらに四国では、南海地震の発生による被害も懸念されている。このような災害を減らすためには、地球科学の知識が必須といえる。それに加え、過去に生じた災害の実例から学びながら、具体的な防災・減災の方法を考えていく。

【授業の概要】 災害科学の基礎となる地球科学の知識を学びながら、地震災害と火山災害について理解を深める。また、防災情報やハザードマップ(災害予測図)の活用法についても学ぶ。

【キーワード】 災害地質学, 地球科学, 自然災害

【到達目標】 地震・火山災害のしくみを地球科学に基づいて理解するとともに、その知識を防災のために活用できるようになる。

【授業の計画】

1. 地震・火山災害の特徴
2. 地震と火山のしくみ:プレートテクトニクス
3. 地震の特徴
4. 地震災害 1:1923 年関東大震災
5. 地震災害 2:1995 年阪神大震災
6. 地震災害 3:2004 年インド洋大津波
7. 地震予知
8. 南海地震の特徴と予測
9. 火山の特徴
10. 火山災害 1:1990~ 1995 年・雲仙普賢岳噴火
11. 火山災害 2:2000 年有珠山・三宅島噴火
12. 火山災害 3:1991 年フィリピン・ピナツボ巨大噴火
13. 火山噴火予知
14. 火山のめぐみ
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】 教科書:指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書等】 参考書:「自然災害を読む」岩波書店,「自然の猛威」岩波書店,「日本の地震災害」岩波新書,「Q&A 火山噴火」講談社ブルーバックス,「災害に出会うとき」朝日新聞社

【成績評価の方法】 期末試験と、毎回実施する小テストを総合的に判断して評価する。

【再試験の有無】 再試験あり

【受講者のメッセージ】 毎回パワーポイントを使用します。毎回の講義の最後に、当日の理解度を確認するための小問題を出します。講義に関する質問を歓迎します。ビデオを使う場合があります。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tigaku/index.htm>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221100>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp)

MAIL (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

自然と技術 (Science and Technology)

現代物理学の世界 (Introduction to Modern Physics)

日置 善郎・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『物理学』)

【授業の目的】 現代社会の諸問題に科学的・論理的に対処し、特に物理学の視点からその調和ある発展に寄与できる総合的な力を養成する。

【授業の概要】 物理学は現代の科学技術を支える大きな柱であり、理系学生 of 基礎としてだけでなく、大学生の教養として文系の学生にとっても重要と考えられる。本講義では、この物理学の中で巨視的な現象を扱う分野から現代物理学の中核をなす量子論・相対論の基本的な構成までを概観する。そこには通常の常識では全く理解できないような現象も登場するが、それが正に現代の科学技術の基礎となった諸法則に結び付いている。それらをゆっくりと、数式の取り扱いよりも基礎概念の理解を目標に解説することを講義の目的とする。

【キーワード】 古典物理学, 現代物理学, 自然法則の適用限界

【先行科目】 『高大接続科目/ 数学』 (1.0)

【到達目標】

1. 自然科学の法則とはどのようなものかを知ること。
2. 現代科学と言えども完全とは言いがたく、結果として全ての法則には避けられない適用限界が存在することを理解すること。

【授業の計画】

1. 物理学の目的・現代物理学概観
2. 古典物理学の世界 (1) 素朴な自然観
3. 古典物理学の世界 (2) 古典力学の話
4. 古典物理学の世界 (3) 電磁気学の話
5. 古典物理学の世界 (4) 熱力学・統計力学の話
6. 古典物理学は万能か?(1) 原子の世界と古典物理学
7. 古典物理学は万能か?(2) 古典物理学の破綻
8. 古典物理学は万能か?(3) 量子力学と現代物理学
9. 量子物理学の世界 (1) 量子の概念
10. 量子物理学の世界 (2) ボーアの原子模型
11. 量子物理学の世界 (3) 粒子の波動性
12. 量子物理学の世界 (4) 量子力学の完成
13. 相対性理論の世界 (1) 研究の歴史:光とは何か

14. 相対性理論の世界 (2) 特殊相対性理論

15. 期末試験

16. 総括

【教科書】 『物理学 (現代物理学の世界)』 (自製テキスト:生協書籍部へ)

【参考書等】 アインシュタイン・インフェルト 『物理学はいかに創られたか (上・下)』 岩波新書, 内山龍雄 『相対性理論入門』 岩波新書, その他講義中にも説明する。

【成績評価の方法】 毎回のレポート・小テスト, 受講態度, 学期末の筆記試験 (持ち込み不可) の結果を総合して判定する。詳しくは第 1 回目の講義において説明する。なお, 言うまでもないことだが, 講義中の私語・携帯電話の使用などは厳禁する。違反者は, その時点までの成績には一切無関係に, その場で再受講とする。

【再試験の有無】 有 (但し, 不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【受講へのメッセージ】 総合科学部の授業「物理科学の基礎」を履修した学生は, 履修を控えてください (内容に共通点が多いため)。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221101>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 11:50~ 13:00 (質問などは在室中ならいつでも可))

自然と技術 (Science and Technology) 地球の科学 (The Earth and Environmental History)

石田 啓祐・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地学』)

【授業の目的】 日本列島というきわめて活動的な地盤に生活する私たちにとって、グローバルな視点から固体地球の物理的な性質と、関連する自然環境の変化を理解することは大切な課題です。現在地球の姿を理解し、地層や化石の記録から、地球誕生以来の地球表層～生物圏でのできごとを明らかにする事例を学びながら、プレート運動などによる地球環境の変遷の結果、私たちヒトが、「現在この地球に存在する」こと、そして「命の大切さ」への理解を深めることを目的とします。

【授業の概要】 講義の前半は、固体地球の姿とプレート運動論の成り立ちを学び、後半は地球と生命の歴史を学びます。

【キーワード】 現在の地球、地球の歴史、環境変化、化石と生物進化

【到達目標】 現在に至る地球環境の変遷と生物進化の歴史を学ぶ方法の基本が理解できる。

【授業の計画】

1. 幾何測地と物理測地:光学的な測地と重力ポテンシャルを考慮した手法の紹介。地球球形説と楕円体説:地球はどれほど球に近いのか、なぜ楕円体と考えるのか。
2. ジオイド:平均海面と一致する等ポテンシャル面が地球楕円体と実地形との中間項。アイソスタシー:ヒマラヤの引力の影響から地殻とマントルのバランス概念は生まれた。
3. 重力からみた地球:地球の引力と遠心力の合力である重力、標準重力は地球楕円体上の理論値の概念。標準重力と重力異常の意味。
4. 地磁気の原因と古地磁気からわかること:地磁気の性質と変化、その原因。地磁気の逆転、大洋底の磁気縞、磁極の移動と大陸の移動。
5. 地球内部の温度の推定:断熱圧縮を熱源とした場合の地球内部の温度分布の見積り。
6. 地震波と地球の内部構造:地球内部を伝わる P 波・S 波の速度、P 波の陰の存在、地震の地理的分布と深度分布、和達-ベニオフ帯とプレート境界。
7. 大陸移動説からプレートテクトニクスへ:ウェゲナーの大陸移動説とその後。
8. 地球の年齢を測る:地球の年齢の推定、最古の岩石や隕石からわかること。

9. 大衝突から始まる固体地球と大気・海洋の生い立ち:隕石衝突による地球生成からラン藻類による大気・水圏の環境変化。
10. 化石の定義:化石から何がわかるか。地質時代と生物界の変遷:動物の進化によって順序立てられた地質時代の区分。
11. 初期の大型動物群の誕生の謎と進化の試行錯誤:エディアカラ動物群とバージェス動物群。
12. セキツイ動物の上陸:セキツイ動物の出現と進化、大海からの離脱。
13. 地質時代の環境変化と生物の絶滅繁栄:時代の節目の大量絶滅の環境要因は?
14. プレートテクトニクスと環境変化:気候や海水準の変化が海陸の分布や生物進化に与えた影響。
15. ヒトへの道のり:なぜ私たちホモ・サピエンスが今ここに存在するのか?
16. 総括授業 (授業評価含む)

【教科書】 教科書は特に指定しない。資料を配布する。

【参考書等】 「地球大進化 46 億年・人類への旅」全 6 巻, NHK プロジェクト編, 2004 年, S. スタンレー著「生物と大絶滅」, 東京化学同人, 1991 年, 平野弘道「繰り返す大量絶滅」岩波書店, 1994 年, 参考書:丸山茂徳「46 億年地球は何をしてきたか?」岩波書店, 1994 年

【成績評価の方法】 自主的・自発的な学びの姿勢 (30%) と、期末までに数回にわたって実施する授業内容の課題レポート提出 (70%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 授業への積極的な取り組みが見られる受講生には、行うことがある。

【受講者へのメッセージ】 前期月曜 3・4 講時開講の同一題目と同じ内容ですので、単位の重ね読みはできません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221102>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 12 時～13 時)

自然と技術 (Science and Technology) 身の回りの地球科学 (Geology and Environment)

村田 明広 教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地学』)

【授業の目的】 地球科学の分野のいくつかのトピックスを学ぶことによって、我々の住む地球とそこで起こっている地学現象を理解することを目的とします。また、地震などの地質学のかかわる自然災害について理解を深め、防災意識を高めたり、地球環境問題について理解を深めることを目的とします。高校で地学を学んでいない学生にも地学に興味を持ってもらえるようにすることも目的とします。

【授業の概要】 地球科学の分野で、最近、話題になっているテーマを選び、それぞれ 1~2 回完結の講義を行います。生物の進化、恐竜の絶滅、南海地震、アスベスト問題、鉄と石炭など、地球と生物との関わりや、地球環境と資源に関するテーマを主に扱います。

【キーワード】 ダイヤモンド、恐竜、進化、氷河時代、地震、地球環境

【関連科目】 『自然と技術/地球と地層の科学』(1.0)

【到達目標】 地球上で起こっている地学現象の基礎的な事項を理解することができる。

【授業の計画】

1. ダイヤモンドはどのようなところで生成するか。
2. 中生代白亜紀末の恐竜の絶滅と巨大隕石の衝突。
3. カンブリア紀のバージェス頁岩の奇妙な動物たち (1)
4. カンブリア紀のバージェス頁岩の奇妙な動物たち (2)
5. 惑星・衛星の地質学 (火星の火山・地層・流水跡、金星の火山・山脈)。
6. 先カンブリア時代の縞状鉄鉱層と地球環境。
7. 氷河時代。地球上に氷期・間氷期が訪れるのはなぜか。
8. 石炭と環境。
9. イギリスの景勝地と地質学 (ネス湖、ピート、湖水地方、チョークの崖)。
10. 南海地震の再来。
11. 阪神・淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震と野島断層。
12. 徳島県下の中央構造線活断層系の発生確率。
13. アスベストと環境問題。
14. 徳島県と世界の景勝地 (鳴門の渦潮、大歩危峡、阿波の土柱、エアーズロック)
15. 日本のジオパーク、世界のジオパーク。

16. 試験。

【教科書】 「身の回りの地球科学ノート」を生協で購入してください。

【成績評価の方法】 毎回実施する小テスト (50%) と期末試験 (50%) を総合的に判断して評価します。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 期末試験は 16 週目に実施します。高校で地学を学んでいなくてもかまいません。液晶プロジェクターを使って授業を行います。「身の回りの地球科学ノート」を生協で購入し、毎回必ず持参してください。携帯電話は音が鳴らないよう設定して鞆の中にしまい、授業中には絶対出さないこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221104>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)

自然と技術 (Science and Technology)

情報メディアと教育 (Information Media and Learning Science)

金西 計英 教授 / 大学開放実践センター

2単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 現代社会での各種メディアの進展により、学校教育および社会教育においてもそれらの活用が期待され積極的に導入されつつある。我々はメディアに埋もれて生活している。メディアを使っているが、メディアのことが分かっているわけではない。高度な情報化社会において、適切にメディアを活用できる能力の育成が求められる。多様な情報メディアについて理解し、適切に活用できる人材の養成が急務となっている。本授業では、インターネット上でのメディアを中心に、仕組みや特徴について理解することを目指す。その上で、情報化社会において、適切にメディアを使いこなせる能力の育成を目指す。

【授業の概要】 本授業では、インターネット上の多様な情報メディアについて、その仕組みや特徴を理解し、適切に活用できるようになることを目指す。また、学習科学についての基本的な理解も目指す。これらをあわせ、教育と現代メディアの関わりについて理解を深める。各メディアの特性・特色を生かし、広く教育全般に有用なように準備をできることができるようになることを目指す。本授業では、受講生の数が多くなった場合 (70 名以上を目安として想定している)、昨年度と同様に橋本メソッドに基づいた授業をおこないます。その場合、本シラバスの内容が変更されることがあります。橋本メソッドを用いる場合は、1 回目の授業で詳細を説明します。また、橋本メソッドを用いた場合は、グループ活動が主体になります。

【キーワード】 情報化社会、著作権、メディアリテラシー、情報メディア、学習科学

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・PC の基礎的な利用・応用ができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス、オリエンテーション
2. 報メディアと現代社会
3. インターネットの概要
4. 情報検索 (1)
5. 情報検索 (2)
6. インターネットを使った情報発信

7. インターネットの未来と課題
8. 情報メディアと学び (1)
9. 情報メディアと学び (2)
10. 情報メディアを使った学習支援
11. インターネットのセキュリティ
12. 情報リテラシーと倫理
13. 情報メディアと著作権 (1)
14. 情報メディアと著作権 (2)
15. 期末の評価のための試験
16. 学習のまとめと総括

【教科書】 参考にする文献については講義の中で適宜紹介する。また、一部は、資料等で配布することがある。

【成績評価の方法】 授業中に課すことのある小レポート等の課題と、期末のテストの成績を総合的に評価する。橋本メソッドを用いる場合は、グループ活動に対する評価が加わる。詳細は、ガイダンスに説明する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 高校で科目「情報」を履修していることを前提としています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221105>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 金西 (大学開放実践センター 2 階, 088-656-7610, marukin@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL

自然と技術 (Science and Technology)

地域の農林水産業とその支援技術 (Agriculture, Forestry and Fisheries in Tokushima and Technological Researches)

浜野 龍夫・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】地域の農林水産業, 特産物, 食について学び, その振興のために行われている研究開発について学習することを通して, 農林水産業の重要性やおもしろさを認識し, それぞれの進路で農林水産業をサポートできることについて考える. 地域の農林水産業が, 各人がこれから学んで行く専門分野に支えられながら, 各人の食生活を支えていることを理解する.

【授業の概要】徳島県の農林水産業を総合的にサポートしている「徳島県立農林水産総合技術支援センター」の第一線で活躍している研究者らを招き, 映像を使って, 地域の農林水産業, ブランド戦略, 特産品の味, その技術開発研究などを紹介する.

【キーワード】生物資源, 農林水産業, 徳島県, 地域おこし

【関連科目】『自然と技術/ 水産と生物』(0.2)

【到達目標】

1. 徳島県の農林水産物の銘柄を理解し, 徳島の「食」を発見する
2. 徳島県のブランド開発の歴史や実情を知る
3. 農林水産業に関連する環境問題について理解する
4. 農林水産業の面白さを認識する

【授業の計画】

1. シラバス・講義概要の説明
2. 徳島県の農林水産業
3. 農業の話題 (1)
4. 農業の話題 (2)
5. 農業の話題 (3)
6. 果樹の話題 (1)
7. 果樹の話題 (2)
8. 畜産の話題 (1)
9. 畜産の話題 (2)
10. 森林林業の話題 (1)
11. 森林林業の話題 (2)
12. 水産の話題 (1)
13. 水産の話題 (2)

14. 販売やブランド戦略

15. いのちの食べかた

16. 総括授業

【教科書】なし

【参考書等】必要なときには配付する

【成績評価の方法】出席 (50 点), および, 講義時間の中で書いてもらう感想レポート (50 点)

【再試験の有無】なし

【受講者のメッセージ】講義は計画の順番どおりには行われません.

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221106>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

自然と技術 (Science and Technology)

アクティブラーニングで環境から科学を考える (Regard Science from Social Elements by Active Learning)

齊藤 隆仁・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 中恵 真理子・学術研究員/全学共通教育センター

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 環境問題はエネルギーをはじめとする資源, 経済状況などが複雑な地球システムに絡み合って連動している。これらの問題の解決には科学技術の進歩や経済的, 政策的手法はもちろんであるが, 市民一人一人が複雑なシステムを理解する把握する力, 聡明な判断力, そして社会に関与する力などが求められている。この授業では能動的学習 (アクティブラーニング) によって多角的視野から環境問題について論理的に考えていく。他者を通して理解をより深いものとするとともに, 身近の物から世界とのつながりを考えていく。

【授業の概要】 まず論理的思考法について学ぶ, その後, 種々の環境に関する課題についてグループ学習を行う。科学と社会のかかわりに関しての多様性を知り, 望ましい未来像について討議していく。最終的には, 各自が課題を設定して小論文としてまとめる。

【キーワード】 アクティブラーニング, 科学と社会, 環境問題

【到達目標】 環境問題について能動的学習者として自ら調べ, グループで議論ができ, 小論文が書けるようになる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. この授業で何を学ぶのか?何を学びたいのか?
3. 吉野川から学ぶ
4. 水と環境のグループ学習
5. 科学技術と経済に関する疑似体験ゲーム
6. 疑似体験ゲームを通してグループ学習
7. 人類とエネルギー
8. 環境科学と物理
9. 地球温暖化を考える
10. 地球温暖化のグループ学習
11. 資源と環境
12. 個別課題設定
13. 個別課題の検討
14. 個別課題の小論文作成
15. 小論文発表

16. 総括授業

【教科書】 「論理的に説明する技術」福澤一吉著, ソフトバンククリエイティブ, 952 円

【成績評価の方法】 授業の要約や課題について文章にまとめ提出 50%, 課題小論文・発表 50%として総合的に評価する。

【再試験の有無】 有り

【受講者のメッセージ】 授業は, グループ討論と自分の考えを文章にまとめることが中心となる。様々な人の意見をよく聞き, 自分で良く考え, 積極的に発言・行動できる姿勢が望まれる。講義に社会人が参加する予定である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221107>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp)

MAIL (オフィスアワー: 金曜日 12:00~ 12:50 3号館スタジオ学習支援室)

⇒ 中恵 .

自然と技術 (Science and Technology)

ゼミナール「くすりをつくるー現代の錬金術・有機化学への招待ー」 (Synthesis of Medicines: Invitation to Organic Chemistry)

吉田 昌裕 准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『自然科学ゼミナール』)

【授業の目的】 将来薬学研究者や薬剤師を志す者にとって、医薬品を分子レベルより理解することは極めて重要である。本授業では主な医薬品・生理活性物質の薬理作用、歴史的な背景ならびに合成法について紹介することで、創薬化学の基礎を理解し、更に医薬品創製に必要な基礎的な有機合成の知識習得を目指す。

【授業の概要】 現在用いられている医薬品の多くは、単純で容易に手に入る化合物に対し様々な有機化学反応を積み重ねていくことにより合成される。本授業では代表的な医薬品・生理活性物質の分子構造をあげ、開発された経緯、どのようにして薬理活性が発現するのかその概要について解説する。また様々な生理活性分子の合成法について、わかりやすく説明する。

【キーワード】 有機化学, 有機合成, 医薬品, 創薬化学, 天然物

【先行科目】 『基礎化学/ 基礎化学 I・電子と有機化学』(1.0)

【関連科目】 『基礎化学/ 基礎化学 II・原子と分子』(0.5)

【到達目標】

1. 薬の発見の歴史について具体例を挙げて概説できる。
2. 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。
3. 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。

【授業の計画】

1. ガイダンス: 創薬における有機合成化学の重要性 ~ くすりはどのようにして創られるのか ~
2. 代表的な医薬品の分子構造: 薬理活性発現と構造活性相関
3. 鎮痛薬 (1): アスピリン誕生の歴史
4. 鎮痛薬 (2): 主な鎮痛薬の構造と合成法
5. 医薬品と立体化学: 野依触媒によるメンソールの大量合成
6. 麻薬の化学 (1): 咳止め・覚せい剤と長井長義との密接な関係
7. 麻薬の化学 (2): ヘロイン, コカイン, LSD の合成法
8. 有機リン化合物: 神経ガス サリンの合成法
9. ステロイド: アトピーから薬物ドーピングまで
10. 抗生物質 (1): ペニシリン発見の歴史

11. 抗生物質 (2): 新規抗生物質開発物語 ~ 細菌と人間との終わりなき闘い ~
12. 神経毒: ふぐ毒の本体テトロドトキシンとゾンビ伝説
13. 抗がん剤 (1): タキソールの発見と全合成競争
14. 抗がん剤 (2): 新規抗がん剤の開発物語
15. アルツハイマー治療薬: 日本発の医薬品・ドネペジルについて
16. まとめ: 有機化学の未来展望 ~ 有機合成化学は不死鳥になりうるか?~

【教科書】 特に指定しません。随時プリントなどを配布します。

【成績評価の方法】 レポート及び課題発表 (50%), 授業への取り組み (50%) を基に総合的に評価する (ただし、評価割合の目安は括弧内パーセントである)。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221108>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 吉田 (088-633-7294, yoshida@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL

自然と技術 (Science and Technology) 数理科学の世界 (Invitation to Mathematics)

大淵 朗・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『自然と技術』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『数学』)

【授業の目的】 高校までの数学では、「与えられた問題に公式を当てはめて答えを出す」ことの繰り返しだったかも知れませんが、「数学する」ことの本質は、素朴な問題やパズルを解いてゆく過程の中に見ることができます。この講義では、誰にも分かる素朴な問題を取り上げ、それを考察する中から数学的なアイデアが育ってゆく様子を実感することを目的とします。全ての学問研究のルーツはギリシャ時代の数学(幾何学)にさかのぼることができます。このように「数学する」ことの本質を知ることが人間社会の文化、科学、技術を支える人間の知的活動を体感することにつながるものと言えます。

【授業の概要】 第1部では、歴史にかかわる問題を出発点として数学の古い時代からの流れについて解説する。第2部では、様々なトピックを取り上げ、色々なところに潜んでいる数学の問題をさぐる。さらに、高校数学の内容の拡がりについて考える。

【キーワード】 正多面体, 対称性, 置換, 代数方程式, 歴史

【到達目標】

1. 数学的概念や理論が作り出されていく過程を学び、「数学する」ことを実感する。
2. 自分の頭で論理的に考え、さらに、自分の考えを的確に表現(説明)することができる能力を高める。

【授業の計画】

1. 導入(講義の概要の説明)
2. 第1部: 歴史的な流れ(第2週～第8週):古代数学
3. プラトンと多面体
4. 「方程式」の語源(古代中国の数学)
5. 二次方程式とアラビア
6. 中世ヨーロッパの怪しげな数学
7. ケプラーの「嘘」(星占術の数学)
8. 微積分誕生にまつわるドロドロ
9. 第2部:幾つかのトピック(第9週～第15週):折り紙と鏡
10. 不思議の国のアリス(ルイス・キャロス伝)
11. ネイピアの対数と金儲け

12. 美術と数学(存在しない立体を作ってみるという変な話)

13. エッシャーの世界

14. 音楽と数学(3は2で割れ切れないんですけど・・・)

15. CD(コンパクトディスク)の数学

16. 総括授業

【教科書】 教科書は指定せず、板書あるいはプリントによる講義。

【参考書等】 適宜、紹介します。

【成績評価の方法】 授業中に行われる何らかの課題(例えば小テスト)による授業への取り組み状況(75%)および期末レポート(25%)をもとに総合的に判断します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 「すぐに役に立つ数学」の講義と思わないで下さい。

【WEB 頁】 <http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~kuwabara/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221109>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大淵 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日11:50~12:50)

自然と技術 (Science and Technology) 遺伝と進化 (Genetics and Evolution)

松尾 義則・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『生物学』)

【授業の目的】生物の進化のしくみを理解することは自然を理解するのに重要である。生物多様性ともかかわりがあるため、現代の社会がかかえる問題とも密接に関係している分野である。この講義では、遺伝と進化の関係、進化学の歴史、ヒトの進化についての解説と紹介をする。

【授業の概要】生物の進化のしくみを理解するためには、遺伝の知識が重要であり、まずそのかかわりを説明し、進化の考え方の歴史やヒトの進化については詳しく紹介する。

【キーワード】遺伝学、進化、集団遺伝

【到達目標】遺伝学と進化のかかわりが理解でき、生物の進化に興味をわくようになる。

【授業の計画】

1. 進化学と遺伝学 1
2. 進化学と遺伝学 2
3. 進化学と遺伝学 3
4. 進化学と遺伝学 4
5. 分子生物学の起源 1
6. 分子生物学の起源 2
7. 分子生物学の起源 3
8. 分子生物学の起源 4
9. ヒトの進化史 1
10. ヒトの進化史 2
11. ヒトの進化史 3
12. 人類進化の現在の問題 1
13. 人類進化の現在の問題 2
14. 人類進化の現在の問題 3
15. 期末テスト
16. 総括授業

【教科書】教科書:購入指定ではないが、「進化:メディカルサイエンスインターナショナル 監訳 宮田・星山」に沿っておこなう。

【参考書等】「分子進化のほぼ中立説」ブルーバックス 太田朋子著

【成績評価の方法】試験とレポート (90%) および授業への取り組み状況 (10%)

【再試験の有無】有

【WEB 頁】<http://www.evolution-textbook.org>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221110>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

自然と技術 (Science and Technology)

原子核・素粒子物理学の最先端 (Frontier of Nuclear and Particle Science)

伏見賢一・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『物理学』)

【授業の目的】原子核や素粒子は我々を構成する基本粒子である。これらの性質を明らかにしてきた実験などを紹介しながら物質の究極に迫る。

【授業の概要】1. 量子論の基礎, 2. 原子の構造, 3. 原子核の性質, 4. 原子核の崩壊と放射能, 5. 素粒子の種類, 6. 素粒子の性質

【キーワード】放射線, 実験核物理学, ニュートリノ, 物質の起源, 原子力エネルギー

【到達目標】環境放射能など, 身の周りに存在する放射能とその計測の意義について理解する。放射線障害および放射線医療の最先端について理解する。素粒子の分類や素粒子実験の最先端について理解する。

【授業の計画】

1. 量子論の基礎:物質をどんどん細かく見ていくと…。古典物理学の破綻, 物質波, 量子論, 量子とは?
2. 原子の構造:電子の質量, 原子核の質量, 原子核の大きさ。
3. 陽子・中性子の性質, 原子核の構造。
4. 原子核の崩壊と放射能: α 崩壊, β 崩壊, γ 線放射, 核分裂
5. 環境放射能とは?
6. 原子核エネルギーの利用 (原子炉)
7. 放射線生物学 (放射線障害)
8. 放射線被ばくによる影響
9. 放射線医学 (X線治療, 重粒子線治療)
10. 素粒子の種類:素粒子の分類 (バリオン, レプトン)
11. 素粒子の性質:素粒子の質量の測定
12. 自然界の力 (四つの相互作用)
13. 統一理論とは
14. 究極理論の探求
15. 素粒子の崩壊からわかる物質の起源
16. 総括

【教科書】

- ◇教科書: なし
- ◇参考書: 講義中に適宜指示する

【成績評価の方法】 単元ごとのレポート 3 回程度 (50%) 及び期末レポート (50%)

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 講義ノートを用意すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221111>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 平日の 11:50-12:50)

自然と技術 (Science and Technology) 日本の植物の多様性 (Introduction to Botany)

山城 考・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『生物学』)

【授業の目的】 日本列島は南北に長い形をしており、亜熱帯から寒帯におよぶ気候環境が見られる。日本の植物相は非常に豊かで、約 5000 種の維管束植物が知られている。本講義では日本の植物相の多様性とその保全について解説をおこなう

【キーワード】 高等植物, 固有種, 植物区系, 日本列島, 多様性

【到達目標】 日本の植物相の複雑な成り立ちとその多様性を知識として習得させ、身近な植物や地域の自然保護の大切さに関心を持たせることを目的としている

【授業の計画】

1. 生物の多様性とそれを制限する要因
2. 植物の生活 (個体のあり方)
3. 植物の戦略 (適応と繁殖)
4. 日本の植物相の形成に影響をもたらしたもの
5. 高山, 針葉樹林, 夏緑樹林を構成する植物
6. 照葉樹林を構成する植物
7. 日本海側と太平洋側の植物の分化
8. 湿地帯と東海丘陵要素
9. ソハヤキ要素と阿哲要素
10. 海洋島 (小笠原) の植物
11. 大陸島 (琉球列島) の植物
12. 雑草の生活
13. 帰化植物とその危険性
14. 野生植物の保全
15. レポートの課題提示
16. 総括授業

【成績評価の方法】 小テストと授業への取り組み。

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221112>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

自然と技術 (Science and Technology)

ゼミナール「天然物と薬」「地球は大きな薬箱」 (Natural products and drugs)

高石 喜久 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2単位 後期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『自然科学ゼミナール』)

【授業の目的】 人類はどの様にして天然物から薬を発見してきたのか, 天然物由来の薬にはどのようなものがあるのか, 近代薬はこれら天然医薬品からどの様にして作られたのかに関する知識習得を目指す. 更にこれら基礎知識を基に医療現場で使用されている天然医薬品の現状に関する知識を把握し, 天然物化学の果たす役割について習得する. 本授業の3分の2はゼミナール形式で実施するので, 課題発見, 発表・質疑応答能力の習得も目指します.

【授業の概要】 私たちは現在多くの近代薬を持っています. しかしその近代薬の歴史は150年ありません. それまで人類は何を薬として用いたのでしょうか. どの様にして薬を見つけたのでしょうか, そしてどのような薬があるのでしょうか. また, 近代薬はこれら薬から生まれました. それはどの様にして生まれたのでしょうか. 天然物化学とはどのような学問でしょうか. これら概要について解説すると共にゼミナール形式で受講生が課題を設定, 発表会を開催し質疑に応答する.

【キーワード】 天然物化学, 医薬品, 生薬, 薬用植物, 地球は大きな薬箱

【到達目標】

1. 薬の発見に関する歴史について具体例を挙げて概説できる.
2. 天然物から開発された医薬品について具体例を挙げて概説できる.
3. 医薬品として使われている天然医薬品を, 具体例を挙げて説明できる.

【授業の計画】

1. ガイダンス: 人類はどのようにして薬を発見したのか. 地球は大きな薬箱
2. 天然医薬品にはどのようなものがあるのか.
3. 天然医薬品から開発された近代薬.
4. 天然医薬品の現状
5. 天然物化学とは
6. ゼミナール形式 (1): 学生が課題設定
7. ゼミナール形式 (1): 学生が課題に関する資料収集
8. ゼミナール形式 (1): 学生が課題に関し発表資料作成
9. ゼミナール形式 (1): 学生が課題発表・質疑応答 (その 1)
10. ゼミナール形式 (1): 学生が課題発表・質疑応答 (その 2)
11. ゼミナール形式 (2): 学生が課題設定

12. ゼミナール形式 (2): 学生が課題に関する資料収集
13. ゼミナール形式 (2): 学生が課題に関し発表資料作成
14. ゼミナール形式 (2): 学生が課題発表・質疑応答 (その 1)
15. ゼミナール形式 (2): 学生が課題発表・質疑応答 (その 2)
16. 総合討論

【教科書】 特に指定しません. 随時プリントなどを配布します.

【成績評価の方法】 出席 (50%) 課題発表 (30%), 授業への取り組み (20%) を基に総合的に評価する (ただし, 評価割合の目安は括弧内パーセントである).

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221113>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 高石 (088-633-7275, takaishi@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL

自然と技術 (Science and Technology)

災害に備える (Preparing for Disasters)

中野 晋 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

2単位 後期 金 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】近年、地震、津波、洪水、高潮、竜巻など過去に例をみないような災害が頻発している。災害列島日本で暮らしていくために必要である災害への対応策を考え、さらに行動できる人材を育てる。

【授業の概要】地震や風水害などに備えるためには自助、共助、公助それぞれが、できることを実行し、地域の防災力を高めることが重要である。自主防災、学校防災、企業防災などの自助・共助の進め方について講述するとともに建物の耐震化や最新の防災情報の収集・伝達方法などについて各分野の専門家がわかりやすく説明する。

【キーワード】自主防災、避難所、災害情報、減災

【先行科目】『自然と技術/災害を知る』(1.0)

【到達目標】災害を理解し、自ら災害への備えについて考える力を身につける。

【授業の計画】

1. オリエンテーション・自助・共助・公助/レポートまたは小テスト (中野)
2. 建物の耐震化/レポートまたは小テスト (佐藤)
3. 企業防災/レポートまたは小テスト (中野)
4. 自主防災活動の進め方/レポートまたは小テスト (浜)
5. 災害と保険/レポートまたは小テスト (加渡)
6. 地盤の震動とそれに対応する方法論/レポートまたは小テスト (三神)
7. 災害予警報/レポートまたは小テスト (徳島気象台)
8. 緊急地震速報/レポートまたは小テスト (徳島気象台)
9. 防災図上演習 (中野)
10. 土砂危険情報/レポートまたは小テスト (徳島県)
11. 洪水予報/レポートまたは小テスト (徳島県)
12. 防災の法律/レポートまたは小テスト/防災士試験ガイダンス (村上)
13. 災害ボランティア/レポートまたは小テスト (木村)
14. くらしと水防工法 (実技訓練)(山本)
15. 災害時要援護者対策/レポートまたは小テスト (黒崎)
16. 徳島大学防災リーダー認定証授与
17. 日本防災士機構・防災士認定試験

【教科書】防災士教本, 平成 23 年度版, 日本防災士機構編

【成績評価の方法】各講義ごとに理解度確認のための小テストまたはレポートを課す。到達目標の達成度は小テストまたはレポートの総点を 100 点に換算して評価し、評点が 60%以上を当目標のクリア条件とする。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221114>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中野 (A310, 088-656-7330, nakano@ce.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: オフィスアワー:年度ごとに学科の掲示板を参照のこと。)

【備考】

- ◇ 前期の「災害を知る」と本講義「災害に備える」は特定非営利活動法人・日本防災士機構の「防災士養成研修プログラム」に準拠している。
- ◇ 本講義は「徳島大学防災リーダー養成講座」の後半部分に相当する。
- ◇ 前期に開講する講義「災害を知る」と本講義「災害に備える」の両科目に合格したものを、「徳島大学防災リーダー」として認定する。またこの認定をもって、「防災士」の受験資格が与えられる。
- ◇ 「防災士」認定試験(有料)は全講義終了後、学内で実施される。
- ◇ 一部の授業(9,14回)は土曜日午後が開講する予定である。

自然と技術 (Science and Technology)

教養としての統計 (Statistics: Foundation for Scientific Research)

川野卓二 教授 / 大学開放実践センター

2 単位 後期 集中

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 統計学は、社会調査から始まり、とくに生物学の研究の中で理論化が進み、昔より現在に至るまで、自然科学のみならず、社会科学、人文科学などの諸科学分野において重大な役割を分担してきた。近年は、大量生産技術の進展にともなって、品質管理などに、さらに、コンピュータの発展にあいまって、理工学だけでなく、生産、政策や行動などの政治、経済、心理や健康科学関連の疫学などにかかわる実践的施策を行う際にも必要な学問となってきたており、その基礎概念を教養として学ぶことはこれからの学生生活にとって有益である。

【授業の概要】 上の記述からも分かるように統計の知識が必要とされる領域は多岐にわたっており、将来、何らかの調査、観察、実験などによって収集されたデータをもとに身の回りの現象を理解しようとする際には有用な道具となるはずである。そこで本講義では、微分・積分を使った難しい議論はできるだけ避け、代数学的な説明を中心にして統計学の基礎的事項について文系の学生にも理解しやすいように解説する。また、具体的な例題演習問題を解くことで社会現象を統計の目で眺めるための基本的な手法を身につけることを目的とする。

【キーワード】 データ分析、記述統計・推測統計、確率的判断

【到達目標】

1. 記述統計と推測統計の区別を理解し、統計的な解釈・判断に利用することが出来る。
2. データの特徴や分析の目的に合った統計分析の手法を選択することが出来る。
3. 正確な計算を行って分析し、確率分布を利用して、その結果を正しく解釈することが出来る。

【授業の計画】

1. 統計的調査:統計とは何だろう
2. 収集された標本の記述, 表とグラフ
3. データのまとめ方:代表値, ばらつきの尺度
4. データのまとめ方:2 変数の関係, 相関
5. データのまとめ方:2 変数の関係, クロス表
6. データの変換と分布の形状

7. 標本から母集団へ:記述統計から推測統計へ

8. 標本から母集団へ:推測と検定

9. 適切な検定の選択

10. 2 標本間の比較

11. 統計的検定の応用:差の検定

12. 統計的検定の応用:関係の検定

13. 統計的検定の問題点と留意点

14. 統計との日常的な関わり方

15. 全体のまとめ

16. 期末試験

【教科書】

- ◇ 教科書: 吉田 寿夫 著 「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」 北大路書房
- ◇ 参考書: D. ロウントリー 著 「新・涙なしの統計学」 新世社 その他適宜紹介する。

【成績評価の方法】 講義中の課題 (30%) と期末試験 (70%) との合計点により最終評価を行う。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 ※ 講義には、√ 演算可能な電卓 (ノートパソコンでも可) を持参すること。質問等は、メールでも受け付けています。なお、この授業の一部は一般市民にも公開されます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221939>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 川野 (088-656-7282, kawano@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 後期: 集中講義期間中 12時10分~ 12時40分 場所:川野研究室 (6号館 2階))

日本事情 (Japanese Culture)

日本事情 II (Japanese Culture 2)

(留(留))

大石 寧子・教授/国際センター

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本事情』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本事情』)

【授業の目的】徳島大学で学び、徳島に住むことを選んだ留学生に対して「徳島」を深く知ること、さらに自分にとっての「徳島」をつかむことを第一の目的とする。徳島の象徴の一つであり、心の故郷といわれている「吉野川」をいろいろな側面から学ぶ。総合的な日本語の習得も目指す。

【授業の概要】徳島在住の様々な分野の方から「吉野川」に関する講義を聞く。事前にことばや表現の学習を終えて、講義を聴き、どのぐらい話の内容が理解できかを確認する。また吉野川について各自でテーマを探し、調査発表をする。今年度は、1 吉野川概要 2 吉野川流域の農業 3 吉野川流域の生活 4 第十堰問題について等様々な分野の講義を考えている。

【キーワード】吉野川、徳島を知る

【到達目標】

1. 「吉野川」に対する知識を持ち、徳島や徳島の人を知る
2. 徳島を知ると同時に、自分の国、故郷についてももう一度考えてみる
3. 様々な人の講義を聞き、準備と振り返りの活動を通し、授業の形式を理解すると共に受身でない係わり方を体得する。

【授業の計画】

1. 授業の目的説明 自己紹介 受講者のレディネス (これまでの学習等) 調査
2. 講義①準備 (資料による地名・ことば・表現の確認, 質問作成)
3. 講義を聴く①
4. 講義を振り返る (内容の確認, 意見・感想の交換), 講義②準備 (資料による地名・ことば・表現の確認, 質問作成)
5. 講義を聴く②
6. 講義②を振り返る (内容の確認, 意見・感想の交換), 講義③準備 (資料による地名・ことば・表現の確認, 質問作成)
7. 講義を聴く③
8. 講義③を振り返る (内容の確認, 意見・感想の交換), 自分の発表テーマについての準備①
9. 講義④を聴く
10. 講義④を振り返る (内容の確認, 意見・感想の交換), 自分の発表テーマについての準備②

11. 地域の人々への聞き取り調査, ディスカッション
12. 今までの振り返りや聞き取りの整理, 自分の発表テーマについての準備③
13. 発表準備
14. 発表 (地域の人々, 学生サポーターが参加)
15. 発表した録画を使つての評価 (相互評価, 試験)
16. 総括授業 (講義を振り返つて)

【教科書】随時プリント等の資料を配布する。

【成績評価の方法】出席 50%, 講義ごとのまとめ 20%, 最終発表 30%を総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】最終的に自分のテーマを決めて、調査・研究・発表という流れを体験します。従つて積極的な授業への取り組みを期待します。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221115>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 金曜日9:30~ 12:00 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します。

日本事情 (Japanese Culture)

日本事情 IV (Japanese Culture 4)

(留(留))

三隅 友子・教授/国際センター

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本事情』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本事情』)

【授業の目的】 大学生にとって必要な日本語の知識と能力を身につける。ニュースを含めた現代日本の時事問題を通して総合的な日本語力をつける。また日本語能力試験等の能力をつけたい受講者が多い場合にはその内容を加える予定である。

【授業の概要】 時事問題に関しては、NHK の番組「視点論点」からトピックを選び、番組の視聴と共にそれに関連した新聞雑誌の記事から情報を読み取る。さらに、自分の意見をまとめて書き、発表するといった総合的な日本語力をつける。最終的に「日本人への提言」という冊子を作成する。

【キーワード】 メディア、ニュース、講義を聞く、提言を書く、外国人労働者

【到達目標】

1. ミニ・講義を理解する。
2. テーマに関連した文献を読む。
3. 自分の意見をまとめ、発表する力をつける。

【授業の計画】

1. ガイダンス (授業の説明とレベルチェック)
2. ミニ講義を聞く①
3. テーマに関連した文献を読む①
4. テーマに関して話し合い、意見を書く①
5. ミニ講義を聞く②
6. テーマに関連した文献を読む②
7. テーマに関して話し合い、意見を書く②
8. ミニ講義を聞く③
9. テーマに関連した文献を読む③
10. テーマに関して話し合い、意見を書く③
11. ミニ講義を聞く④
12. テーマに関連した文献を読む④
13. テーマに関して話し合い、意見を書く④
14. 自分にとってのテーマを選んで調べ提言を書く
15. 発表会 (日本人を招いて)
16. まとめと発表会の振り返り

【教科書】 無

【参考書等】 講義のスク립トや資料を適宜配布

【成績評価の方法】 出席、授業への取り組み、レポートや発表などの課題をもとに、総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 日本語で「読む」「聞く」「話す」「書く」の活動をたくさん行います。予習復習も必要です。積極的に授業に取り組んでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221116>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 三隅 (国際センター, 088-656-7120, misumi@isc.tokushima-u.ac.jp) Mail (オフィスアワー: 金曜日午前中)

【備考】 H17 のカリキュラムでは授業科目:「日本語 4」

2) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects)

ウェルネス総合演習

ウェルネス総合演習 ... (総科 ((人文)1 年))/佐藤/後期 水 5・6	460
ウェルネス総合演習 ... (総科 ((人文)1 年))/三浦/後期 水 5・6	461
ウェルネス総合演習 ... (総科・医 ((社創・総理・保)1 年))/佐竹/後期 火 7・8	462
ウェルネス総合演習 ... (総科・医 ((社創・総理・保)1 年))/中村/後期 火 7・8	463
ウェルネス総合演習 ... (総科・医 ((社創・総理・保)1 年))/三浦/後期 火 7・8	464
ウェルネス総合演習 ... (工 ((建)1 年))/荒木/後期 水 7・8	465
ウェルネス総合演習 ... (工 ((建)1 年))/中村/後期 水 7・8	466
ウェルネス総合演習 ... (工 ((機)1 年))/佐竹/後期 金 3・4	467
ウェルネス総合演習 ... (工 ((機)1 年))/的場/後期 金 3・4	468
ウェルネス総合演習 ... (工 ((機)1 年))/行實/後期 金 3・4	469
ウェルネス総合演習 ... (工 ((化・生)1 年))/小原/後期 月 7・8	470
ウェルネス総合演習 ... (工 ((化・生)1 年))/佐竹/後期 月 7・8	471
ウェルネス総合演習 ... (工 ((化・生)1 年))/的場/後期 月 7・8	472
ウェルネス総合演習 ... (工 ((電・知)1 年))/荒木/後期 月 5・6	473
ウェルネス総合演習 ... (工 ((電・知)1 年))/佐藤/後期 月 5・6	474
ウェルネス総合演習 ... (工 ((電・知)1 年))/三浦/後期 月 5・6	475

共創型学習

最新の酵素学が切り開く疾患生命科学研究の世界 ... /福井・木戸・谷口・蛭名・坂口・松本/後期 水 5・6	476
「つたえること」と「ものづくり」-科学と遊ぼう- ... /齊藤/後期 月 1・2	477
学生FD ボランティアスクール-持続可能な社会に向けた教育とは- ... /大橋/後期 月 7・8	478
名著講読 ー未知との出会い-文学作品や随筆を読むー ... /依岡/後期 月 7・8	479
空海と歩く-歩き遍路の世界- ... /田中/後期 月 9・10	480
異文化交流からのFD -グローバル社会に向けた教育とは- ... /大橋/後期 月 9・10	481
宇宙を探る ... /伏見/後期 月 9・10	482
名著講読 ー生き抜く力とは何か?ー ... /香川/後期 火 9・10	483
国際交流の扉を拓(ひら)く ... /三隅・坂田・金/後期 水 7・8	484
「つたえること」と「ものづくり」ー藍染めの科学ー ... /佐藤/後期 木 3・4	485

埋もれた文化遺産Ⅱ ... / 中村・遠部 / 後期 金 9・10 486

ヒューマンコミュニケーション

乳幼児との交流から学ぶ ... / 荒木・内海 / 後期 木 1~4 487

高齢者との交流から学ぶ ... (歯 ((歯)1年)) / 日野出・竹内 / 後期 木, 集中 5~8, 10/6~12/22 489

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(総科((人文)1年))

佐藤 充宏・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】運動が心身の健康に及ぼす影響について検討し、からだところを使ったアクティビティやスポーツの演習から、自らの生活をウェルネスデザインする力を身につける。

【授業の概要】持続可能な健康生活を構築する素養を身につけるため、グループワークを中心に学習を進める。健康運動の意義や効果などの理解を深め、大学生活における自らの健康行動をふりかえる。また、グループを通じて体を使ったコミュニケーションであるアクティビティや、スポーツ、健康トレーニングについて実習し、健康生活における身体知を身につける。

【到達目標】

1. 健康生活と運動との関係について理解する。
2. グループワークを通じて健康運動、スポーツ及びアクティビティの技法と意義を理解する。

【授業の計画】

1. クラス分けガイダンス
2. 活動グループの決定「演習による学習の仕方」
3. 「身体を動かす知」(トレーニングの考え方と身体資本)
4. 「サッカー・ソフトボール・テニス」
5. 「サッカー・ソフトボール・テニス」
6. 「サッカー・ソフトボール・テニス」
7. 「サッカー・ソフトボール・テニス」
8. グループワーク「健康な生活」
9. クラブ設立検討会
10. 活動計画と役割分担
11. 屋内ラケット種目の選択制活動
12. 屋内ラケット種目の選択制活動
13. 屋内ラケット種目の選択制活動
14. 屋内ラケット種目の選択制活動
15. ふりかえり「ウェルビーイングと大学生活」
16. 総括

【教科書】使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法】実習態度、技能、グループノート、レポート等を総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221117>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(総科((人文)1年))

三浦 哉・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】生活習慣病などの後天的な要因で発症する疾病は、医療による治療が可能であるが、その一方で自己の身体の仕組みを理解し、日常生活を改善することで一次予防が可能である。そこで本講義では、ウェルネスという概念に基づき、身体の科学的側面を理解することで、自らの身体・健康に対する意識を高めると同時に、具体的な身体活動の方法(運動処方)を実践することを目的とする。

【授業の概要】身体の構造・働き、身体活動量、エネルギー消費量などについて概説する。また、運動を通じた健康の意義およびその重要性を理解させるために、運動処方の概念を理解させ、個人および集団で実施する運動を修得させる。

【キーワード】健康、運動、ウェルネス

【到達目標】

1. ウェルネスの概念について理解する
2. 身体の構造・機能を理解する
3. 様々な運動の経験を日常生活の中で、健康づくりに応用する

【授業の計画】

1. オリエンテーション(体育館1F 武道場)
2. (講義) ウェルネスとは何か?
3. (講義) 我が国の健康状況
4. (実習) テニス:ストロークの基本動作
5. (実習) テニス:サーブ・ボレーの基本動作
6. (実習) テニス:簡易ゲーム
7. (講義) 生活習慣病に対する対策
8. (実習) バレーボール:パス・トスの基本動作
9. (実習) バレーボール:サーブ・レシーブの基本動作
10. (実習) バレーボール:集団での基本動作
11. (実習) バレーボール:基本的な戦術
12. (実習) バスケットボール:パス・ドリブルの基本動作
13. (実習) バスケットボール:シュートの基本動作
14. (実習) バスケットボール:基本的な戦術

15. 試験

16. 総括 ウェルネスライフをデザインする

【教科書】教科書は使用しない。随時、資料を配布する。

【成績評価の方法】成績評価は出席状況、授業への取り組み姿勢などによる平常点での評価(30点)と、レポートおよび試験結果(70点)から総合的に評価(合計100点)する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】個々人の健康に対して問題意識を持った学生が受講することを希望する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221118>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(総科・医((社創・総理・保)1年))

佐竹昌之・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 火 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 持続可能な社会づくりの必要性が今日よく言われている。これは、政策や環境教育だけではない。一番大切なこととして、人が「よりよく生きる(ウェルビーイング)」ことがあげられる。その一つとして健康体力づくりがあげられる。この授業では、運動の重要性、自分の現状にあった筋力トレーニング、持久力トレーニングなどの方法などを、スポーツ医科学の観点から説明するとともに、実践を通して学んでいきます。また、生涯スポーツを教材に、自分にあった楽しみ方を見つけることも目的とします。

【授業の概要】 健康的な生活を営むうえで、運動やスポーツが重要な役割を果たしていることは、すでにご存じでしょう。しかし、健康のために運動を実践することは、必ずしもたやすいものではありません。運動は薬の処方と似ており、うまく行くと健康のために良いものですが、間違ってしまうと事故を起こしてしまうこともあります。また、スポーツ・運動を継続することも重要です。そのためには自分にあったスポーツの取り組み方を見つけ、楽しむための工夫も欠かせないものです。この授業では、目的、体力にあった運動のやり方を理解するとともに、それらの運動を実践し、さらに継続するための方策を考えていきます。

【キーワード】 ウェルネス、体力づくり、生涯スポーツ、スポーツマンシップ

【到達目標】

1. ウェルネスとは何か、また、その必要性を理解する。
2. 目的に応じたトレーニング方法を理解し、実践できる。
3. 自分の体力、能力、目的に応じてスポーツを楽しむことができる。
4. スポーツマンシップについて理解する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション (体育館1階武道場で行います)
2. (実習) ソフトバレーボールとバレーボール (1)
3. (実習) ソフトバレーボールとバレーボール (2)
4. (実習) インディアカ (1)
5. (実習) インディアカ (2)
6. (実習) バドミントン
7. (実習) パドルテニス (1)

8. (実習) パドルテニス (2)

9. (講義) スポーツマンシップについて

10. (講義) ウェルネス・健康関連体力について

11. (講義) 持久力トレーニングとその効果

12. (講義) 筋力トレーニングとその効果

13. (講義) オリンピズム (1)

14. (講義) オリンピズム (2)

15. 定期試験

16. 総括授業

【教科書】 なし

【参考書等】 資料を適宜配布します

【成績評価の方法】 定期試験 (50)、レポート (30) および授業への取り組み状況 (20) により総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講者数が多い場合は、授業形態を変更する場合があります。(実習を他の教員が担当する)

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221119>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日:16時30分～17時30分)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(総科・医((社創・総理・保)1年))

中村 久子・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 火 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 社交ダンスの踊り方を習得する中でそれらを生み出した思想や文化について考え、また、ジェンダーについて学習し、心身の健康とともに社会生活においても健康な人間関係を構築することの必要性を知ることを目的とする。

【授業の概要】 講義ではウェルネスについて概説し、ジェンダーと身体及び身体行動について理解することによって、健康でよりよい生き方を探る。実習ではワルツ、スクエア・ルンバなどの基本的なフィガーを習得し、簡単なアマルガメーションを踊ることができるように実践を通して学習する。また、楽しみながら体力づくりに貢献できるようにし、生涯スポーツにつなげる。

【キーワード】 ジェンダー、ダンス

【到達目標】

1. ジェンダーについて理解する
2. 社交ダンスの各フィガーをリズムに合わせて踊れるようにする

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. ジルバの解説、リズムの取り方とジルバのフィガーの実習
3. ジルバのアマルガメーションを踊る
4. ワルツの解説、ワルツのリズム
5. ワルツのアマルガメーションを踊る
6. ブルースのリズムとフィガーを知る
7. ブルースのアマルガメーションを踊る
8. スクエア・ルンバのリズムとフィガーを知る
9. スクエア・ルンバのアマルガメーションを踊る
10. マンボのリズムとフィガーを知る
11. マンボのアマルガメーションを踊る
12. 実技のまとめ
13. ジェンダーについて考える
14. ジェンダーと体力
15. ジェンダーについてのまとめ
16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。参考書等は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況(20%)、実技試験(50%)、レポート(30%)と併せて総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221121>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(総科・医 ((社創・総理・保)1年))

三浦 哉・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 火 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】生活習慣病などの後天的な要因で発症する疾病は、医療による治療が可能であるが、その一方で自己の身体の仕組みを理解し、日常生活を改善することで一次予防が可能である。そこで本講義では、ウェルネスという概念に基づき、身体の科学的側面を理解することで、自らの身体・健康に対する意識を高めると同時に、具体的な身体活動の方法(運動処方)を実践することを目的とする。

【授業の概要】身体の構造・働き、身体活動量、エネルギー消費量などについて概説する。また、運動を通じた健康の意義およびその重要性を理解させるために、運動処方の概念を理解させ、個人および集団で実施する運動を修得させる。

【キーワード】健康、運動、ウェルネス

【到達目標】

1. ウェルネスの概念について理解する
2. 身体の構造・機能を理解する
3. 様々な運動の経験を日常生活の中で、健康づくりに応用する

【授業の計画】

1. オリエンテーション (体育館 1F 武道場)
2. (講義) ウェルネスとは何か?
3. (講義) 身体の構造・機能について
4. (実習) テニス:ストロークの基本動作
5. (実習) テニス:サーブ・ボレーの基本動作
6. (実習) テニス:簡易ゲーム
7. (講義) 我が国の健康状況
8. (講義) 生活習慣病に対する対策
9. (実習) バレーボール:パス・トスの基本動作
10. (実習) バレーボール:サーブ・レシーブの基本動作
11. (実習) バレーボール:基本的な戦術
12. (実習) バスケットボール:パス・ドリブルの基本動作
13. (実習) バスケットボール:シュートの基本動作
14. (実習) バスケットボール:基本的な戦術

15. 試験

16. 総括 ウェルネスライフをデザインする

【参考書等】 随時、資料を配布する

【成績評価の方法】 成績評価は出席状況、授業への取り組み姿勢などによる平常点での評価(30点)と、レポートおよび試験結果(70点)から総合的に評価(合計100点)する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 個々人の健康に対して問題意識を持った学生が受講することを希望する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221120>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 この授業は保健学科対応で健康スポーツ実習(1単位)に読み替える科目です

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(工((建)1年))

荒木 秀夫・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 現代社会における様々な問題は、一つのこととしてではなく、多くのことが複雑に絡み合いながら巨大化している。そのため、「持続可能な社会づくり」の重要性が指摘されているが、このことは、単に政策上の問題だけではなく、人間そのものの健全さ(ウェルネス)、すなわち人間性に満ちた生活の追求とも深く関わっている。今日では、人間の諸能力における「身体」と「運動」は、単に身体そのものの問題としてではなく、「身体知」、「運動知」と言われるような人間の知性や社会性とも深く関係していることが明らかにされつつある。本来、「身体を介した学習能力」は知覚と運動の発達、さらには知覚と運動の統合によって達成される。このような機能をコーディネーション能力という。本演習ではスポーツ、音楽、労働、工芸創作活動などのコーディネーショントレーニングをテーマにして、講義、演習、実習を組み合わせ、より幅広い視点から、この能力を理解し獲得することを目的とする。今後の生活において自信を持ち生き生きとした「知性」を体得することを願うものである。授業は、特にスポーツや音楽を実践している学生を念頭に行っているが、それ以外の学生でも、これを契機にして何かを始めることを願っている。

【授業の概要】 コーディネーションの理論について学習しながら、そのトレーニング方法を習得する。また各自の能力を把握するための測定も行い、これら実践を通じて、具体的な技能の目標を立てて、その効果を体得する。

【キーワード】 コーディネーショントレーニング、運動、感覚

【到達目標】 コーディネーショントレーニングの原理を理解し、自ら学習トレーニングメニューの作成ができる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. コーディネーション能力とは -芸術とスポーツは一つ-
3. コーディネーションの構造 -知覚運動統合と創造性-
4. コーディネーションの科学と実践 -「神かがり」でないアートの世界-
5. 基礎的コーディネーショントレーニング-自らを感じる-
6. 体幹運動と平衡能力 1
7. 体幹運動と平衡能力 2

8. 運動連結能力の基礎 1
9. 運動連結能力の基礎 2
10. 体幹-末梢運動の構成
11. 定位分化能力トレーニング
12. 反応リズム能力トレーニング
13. 運動変換能力トレーニング 1
14. 運動変換能力トレーニング 2
15. 「まとめ」の作成
16. 総括授業

【教科書】 資料を配布する

【成績評価の方法】 実習時では、毎回、評価テストを行う (70%)。講義においてレポートを提出し、評価の対象とする (30%)。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221122>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(工 ((建)1年))

中村 久子・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】心身の健康とともに社会生活においても健康な人間関係を構築することの必要性を社交ダンスを学習するなかで知ること、さらにダンスと生産形態が関連性もっていることについて学習することを目的とする

【授業の概要】講義ではウェルネスについて概説し、生産形態とダンスとの関連性について学習することによって、運動の文化と健康について理解する。実習ではワルツ、ジルバ、ブルース、スクエア・ルンバなどの簡単なフィガーを習得し、簡単なアマルガメーションを踊ることができるように実践を通して学習する。

【キーワード】健康な生活、ダンス、生産形態

【到達目標】

1. ダンスと生産形態の関連性について理解を深める
2. 社交ダンスの各フィガーをリズムに合わせて踊れるようにし、それぞれのダンスの文化的背景を知る

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. ウェルネスとは何か
3. ジルバのリズムとフィガーを実習する
4. ジルバの簡単なアマルガメーションを踊る
5. ワルツのリズムの取り方を実習する
6. ワルツのフィガーを実習する
7. ワルツの簡単なアマルガメーションを踊る
8. スクエア・ルンバのリズムとフィガーを実習する
9. スクエア・ルンバの簡単なアマルガメーションを踊る
10. ブルースのリズムとフィガーを実習する
11. ブルースの簡単なアマルガメーションを踊る
12. 五つの生産形態とリズムについて
13. 海洋漁労民のリズムとダンス、狩猟民のリズムとダンス
14. 牧畜民のリズムとダンス、山村畑作民のリズムとダンス
15. 水田稲作農耕民のリズムとダンス、まとめ
16. 総括授業

【教科書】教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。参考書等は適宜紹介する。

【成績評価の方法】授業への取り組み状況 (20%)、実技試験 (50%)、レポート (30%) と併せて総合的に評価します。

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221123>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(工((機)1年))

佐竹昌之・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 金 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 持続可能な社会づくりの必要性が今日よく言われている。これは、政策や環境教育だけではない。一番大切なこととして、人が「よりよく生きる(ウェルビーイング)」ことがあげられる。その一つとして健康体力づくりがあげられる。この授業では、運動の重要性、自分の現状にあった筋力トレーニング、持久力トレーニングなどの方法などを、スポーツ医科学の観点から説明するとともに、実践を通して学んでいきます。また、生涯スポーツを教材に、自分にあった楽しみ方を見つけることも目的とします。

【授業の概要】 健康的な生活を営むうえで、運動やスポーツが重要な役割を果たしていることは、すでにご存じでしょう。しかし、健康のために運動を実践することは、必ずしもたやすいものではありません。運動は薬の処方と似ており、うまく行くと健康のために良いものですが、間違ってしまうと事故を起こしてしまうこともあります。また、スポーツ・運動を継続することも重要です。そのためには自分にあったスポーツの取り組み方を見つけ、楽しむための工夫も欠かせないものです。この授業では、目的、体力にあった運動のやり方を理解するとともに、それらの運動を実践し、さらに継続するための方策を考えていきます。

【キーワード】 ウェルネス、体力づくり、生涯スポーツ、スポーツマンシップ、オリンピック

【到達目標】

1. ウェルネスとは何か、また、その必要性を理解する。
2. 目的に応じたトレーニング方法を理解し、実践できる。
3. 自分の体力、能力、目的に応じてスポーツを楽しむことができる。
4. スポーツマンシップについて理解する。
5. オリンピズムについて理解する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション(体育館1F 武道場で行います)
2. (講義) スポーツマンシップについて
3. (実習) ソフトバレーボールとバレーボール(1)
4. (実習) ソフトバレーボールとバレーボール(2)
5. (実習) インディアカ(1)

6. (実習) インディアカ(2)
7. (実習) バドミントン
8. (実習) パドルテニス(1)
9. (実習) パドルテニス(2)
10. (講義) ウェルネス・健康関連体力について
11. (講義) 持久力トレーニングとその効果
12. (講義) 筋力トレーニングとその効果
13. (講義) オリンピズム(1)
14. (講義) オリンピズム(2)
15. 定期試験
16. 総括授業

【教科書】 なし

【参考書等】 資料プリント配布

【成績評価の方法】 定期試験(30)、レポート(50)および授業への取り組み状況(20)により総合的に評価します。

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221125>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐竹(2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL(オフィスアワー: 月曜日:16時30分~17時30分)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(工((機)1年))

的場 秀樹・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 金 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】生涯にわたり生産的な生活を送るためには、豊かさの中で自らを律し、健康なライフスタイルを確立する必要がある。この授業を通して、学生諸君にトータルウェルネスの視点から健康なライフスタイルの確立に向けて努力する態度を養ってもらうことを目的とする。

【授業の概要】この授業では、健康体力、日常の身体活動、運動と栄養について講義をするとともに、それらの測定方法やトレーニング法を紹介する。加えて、生涯スポーツとして楽しむことのできるスポーツ(テニス)も体験してもらう。これらを通して、学生諸君には積極的に健康な生活を設計し実践する能力を養ってもらいたい。

【到達目標】

1. ウェルネスに関わる要因について理解する。 [公開]
2. 健康なライフスタイルの確立に努力する態度を養う。
3. 心身の健康を増進させる態度を養う。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. ウェルネスとは何か? 健康体力の捉え方
3. テニス(基礎練習:グランドストローク)
4. テニス(基礎練習:グランドストローク)
5. テニス(基礎練習:ボレー)
6. テニス(基礎練習:サーブ)
7. テニス(総合練習:簡易ゲーム)
8. テニス(総合練習:簡易ゲーム)
9. テニス(総合練習:ゲーム)
10. テニス(総合練習:ゲーム)
11. 健康体力の測定
12. レジスタンストレーニング
13. 日常生活における身体活動量の測定
14. 栄養と運動
15. 期末試験
16. まとめ

【教科書】使用しない。資料を配布する。

【成績評価の方法】授業への取り組みと課題レポートにより評価する

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221126>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(工((機)1年))

行實 鉄平・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 金 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】「ウェルネス」とは、疾病や障害の有無にかかわらず、心の豊かさ・生命の尊厳を大切に、食・身体活動・休養・睡眠をバランスよく取り入れて生活習慣を改善し、生活の質(QOL)を高めて生涯にわたるより健康なライフスタイルの確立を目指す生き方((財)日本ウェルネス協会)として捉えられている言葉である。本授業では、そのなかでも運動・スポーツとQOLとの関係性を体験的に学習することにより、ウェルネスの理解を深めていくことを目的としている。

【授業の概要】この授業では、形態・身体組成、健康体力、運動と栄養について講義をするとともに、それらの測定・調査方法やトレーニング法を紹介する。加えて、生涯スポーツとして楽しむことのできるスポーツ(サッカー&野球)も体験してもらう。また、健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みについての講義も行う。学生には、これらを通して積極的に健康的な生活を設計し実践する能力、いわゆる「ウェルネス実践能力」を養ってほしい。

【キーワード】ウェルネス、生涯スポーツ、スポーツとの多様な関わり(する・みる・ささえる)

【到達目標】

1. “ウェルネスとは何か?”, またその必要性を理解する。
2. 自らの身体理解と、その測定・調査・トレーニング方法を理解する。
3. 健康づくりやスポーツを日常生活で実践し、豊かな人生を過ごそうとする積極的な姿勢を身につける。
4. 他者や集団と積極的にかかわり、楽しみの場を演出し、コーディネートできるようにする。
5. 健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みを理解する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. ウェルネスとは!(健康づくり概論)
3. 形態・身体組成の測定法
4. 体力・持久力の測定法
5. 運動・栄養調査
6. サッカー 1(ボールを飛ばす:キック・ヘディング・スローイン)

7. 〃 2(ボールを受ける:トラップ・ストップ)
8. 〃 3(ボールを運ぶ:ドリブル・フェイント)
9. 〃 4(ボールを奪う:タックル・シールドチャージ)
10. 野 球 1(ピッチング:pitching)
11. 〃 2(バッティング:batting)
12. 〃 3(フィールディング:fielding)
13. 〃 4(ベースランニング:base running)
14. 健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みとは!
15. 期末試験
16. 授業の総括

【教科書】基本的に使用せず、随時プリントを配布する。

【成績評価の方法】「出席 60%」「受講態度 10%」「試験 30%」の3つの観点から総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】これから歩む人生と健康、またはライフスタイルとの関わりについて自らが考え、積極的な姿勢で授業に取り組む、学生の受講を希望する。体調には充分配慮し、授業に臨むこと。なお、雨天時は、体育館内で行える実習種目に切り替える場合もある。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221124>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 毎週木曜日夕方)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(工((化・生)1年))

小原 繁・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】持続可能な社会づくりの必要性が今日よく言われている。これは、政策や環境教育だけではない。一番大切なこととして、人が「よりよく生きる(ウェルビーイング)」ことがあげられる。ウェルビーイングを支えるものとして住居、食事、生活環境など様々な因子があるが、まず健康の維持という点が基本になると考えられる。この授業では身体運動、スポーツを通しての身体機能の維持、向上の理論と方法を学ぶことを通じて、運動が疾病の予防と健康の維持、増進とがどのような関わりを持っているかを理解できるようにする。

【授業の概要】身体機能向上の方法として、準備運動の後にサーキットトレーニングを行う。ここでは主に筋力増強が中心となる。全身的な身体の動かし方については卓球を通じて神経系の働き、循環系の働きなどについて説明をしながら、卓球による身体機能改善を目指す。

【キーワード】健康、身体活動、身体機能、生活の質、生活習慣病

【到達目標】

1. 運動、スポーツがどのような仕組みで身体を改善していくかを理解する。
2. 身体機能、特に筋力を増強させる。
3. 健康の意味を理解する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション (体育館 1F 武道場で行います)
2. 卓球ラリーの技術 (1)
3. 卓球ラリーの技術 (2)
4. 班別個人対抗戦
5. 卓球サーブの技術
6. 卓球ショートカットの技術
7. 卓球バックハンドの技術
8. 卓球左右移動の技術
9. ダブルスの練習
10. 卓球の技術総合復習 (1)
11. 卓球の技術総合復習 (2)
12. ウェルネス卓球選手権大会
13. ウェルネス講義 (生活習慣病について)

14. ウェルネス講義 (栄養・休養に関する生活スタイルについて)

15. ウェルネス講義 (運動による健康づくりについて)

16. 講義内容関連の試験

【教科書】使用しない

【参考書等】資料配付

【成績評価の方法】授業への取組の態度、試験(講義内容関係)、卓球技能テストでの総合評価とする。

【再試験の有無】再試験はしない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221128>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】授業当日は運動着と体育館シューズを準備すること。

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(工(化・生)1年))

佐竹昌之・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 持続可能な社会づくりの必要性が今日よく言われている。これは、政策や環境教育だけではない。一番大切なこととして、人が「よりよく生きる(ウェルビーイング)」ことがあげられる。その一つとして健康体力づくりがあげられる。この授業では、運動の重要性、自分の現状にあった筋力トレーニング、持久力トレーニングなどの方法などを、スポーツ医科学の観点から説明するとともに、実践を通して学んでいきます。また、サッカーを教材に、自分にあった楽しみ方を見つけることも目的とします。

【授業の概要】 健康的な生活を営むうえで、運動やスポーツが重要な役割を果たしていることは、すでにご存じでしょう。しかし、健康のために運動を実践することは、必ずしもたやすいものではありません。運動は薬の処方と似ており、うまく行くと健康のために良いものですが、間違ってしまうと事故を起こしてしまうこともあります。また、スポーツ・運動を継続することも重要です。そのためには自分にあったスポーツの取り組み方を見つけ、楽しむための工夫も欠かせないものです。この授業では、目的、体力にあった運動のやり方を理解するとともに、それらの運動を実践し、さらに継続するための方策を考えていきます。

【キーワード】 ウェルネス、体力づくり、サッカー、オリンピック、スポーツマンシップ

【到達目標】

1. ウェルネスとは何か、また、その必要性を理解する。
2. 目的に応じたトレーニング方法を理解し、実践できる。
3. 自分の体力、能力、目的に応じてスポーツを楽しむことができる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション (体育館1階武道場で行います)
2. (講義) スポーツマンシップについて
3. (実習) サッカーの個人技術(1)
4. (実習) サッカーの個人技術(2)
5. (実習) サッカーの攻撃と守備
6. (実習) サッカーのチーム戦術
7. (実習) サッカーのゲームの組み立て

8. (実習) サッカーのリーグ(1)
9. (実習) サッカーのリーグ(2)
10. (講義) オリンピズムについて(1)
11. (講義) オリンピズムについて(2)
12. (講義) ウェルネス・健康関連体力について
13. (講義) 筋力のトレーニング
14. (講義) 持久力のトレーニング
15. 定期試験
16. 総括授業

【教科書】 なし

【成績評価の方法】 定期試験(30) レポート(40) および授業への取り組み状況(30)により総合的に評価します(ただし、評価割合の目安は括弧内パーセントである)。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221127>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日:16時30分～17時30分)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(工((化・生)1年))

的場 秀樹・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】生涯にわたり生産的な生活を送るためには、豊かさの中で自らを律し、健康なライフスタイルを確立する必要がある。この授業を通して、学生諸君にトータルウェルネスの視点から健康なライフスタイルの確立に向けて努力する態度を養ってもらうことを目的とする。

【授業の概要】この授業では、健康体力、日常の身体活動、運動と栄養について講義をするとともに、それらの測定方法やトレーニング法を紹介する。加えて、生涯スポーツとして楽しむことのできるスポーツ(テニス)も体験してもらう。これらを通して、学生諸君には積極的に健康な生活を設計し実践する能力を養ってもらいたい。

【到達目標】

1. ウェルネスに関わる要因について理解する。
2. 健康なライフスタイルの確立に努力する態度を養う。
3. 心身の健康を増進させる態度を養う。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. ウェルネスとは何か? 健康体力の捉え方
3. テニス(基礎練習:グランドストローク)
4. テニス(基礎練習:グランドストローク)
5. テニス(基礎練習:ボレー)
6. テニス(基礎練習:サーブ)
7. テニス(総合練習:簡易ゲーム)
8. テニス(総合練習:簡易ゲーム)
9. テニス(総合練習:ゲーム)
10. テニス(総合練習:ゲーム)
11. 健康体力の測定
12. レジスタンストレーニング
13. 日常生活における身体活動量の測定
14. 栄養と運動
15. 期末試験
16. まとめ

【教科書】使用しない。資料を配布する。

【成績評価の方法】授業への取り組みと課題レポートにより評価する

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221129>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(工(電・知)1年))

荒木 秀夫・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 現代社会における様々な問題は、一つのこととしてではなく、多くのことが複雑に絡み合いながら巨大化している。そのため、「持続可能な社会づくり」の重要性が指摘されているが、このことは、単に政策上の問題だけではなく、人間そのものの健全さ(ウェルネス)、すなわち人間性に満ちた生活の追求とも深く関わっている。今日では、人間の諸能力における「身体」と「運動」は、単に身体そのものの問題としてではなく、「身体知」、「運動知」と言われるような人間の知性や社会性とも深く関係していることが明らかにされつつある。本来、「身体を介した学習能力」は知覚と運動の発達、さらには知覚と運動の統合によって達成される。このような機能をコーディネーション能力という。本演習ではスポーツ、音楽、労働、工芸創作活動などのコーディネーショントレーニングをテーマにして、講義、演習、実習を組み合わせ、より幅広い視点から、この能力を理解し獲得することを目的とする。今後の生活において自信を持ち生き生きとした「知性」を体得することを願うものである。授業は、特にスポーツや音楽を実践している学生を念頭においているが、それ以外の学生でも、これを契機にして何かを始めることを願っている

【授業の概要】 コーディネーションの理論について学習しながら、そのトレーニング方法を習得する。また各自の能力を把握するための測定も行い、これら実践を通じて、具体的な技能の目標を立てて、その効果を体得する。

【キーワード】 コーディネーショントレーニング、運動、感覚

【到達目標】 コーディネーショントレーニングの原理を理解し、トレーニングメニューの作成ができる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. コーディネーション能力とは -芸術とスポーツは一つ-
3. コーディネーションの構造 -知覚運動統合と創造性-
4. コーディネーションの科学と実践 -「神かがり」でないアートの世界-
5. 基礎的コーディネーショントレーニング-自らを感じる-
6. 体幹運動と平衡能力 1
7. 体幹運動と平衡能力 2
8. 運動連結能力の基礎 1

9. 運動連結能力の基礎 2

10. 体幹-末梢運動の構成

11. 定位分化能力トレーニング

12. 反応リズム能力トレーニング

13. 運動変換能力トレーニング 1

14. 運動変換能力トレーニング 2

15. 「まとめ」の作成

16. 総括授業

【教科書】 プリント、関連資料を配付する。

【成績評価の方法】 実習時では、毎回、評価テストを行う (70%)。講義においてレポートを提出し、評価の対象とする (30%)。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221130>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(工((電・知)1年))

佐藤 充宏・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)(平成 16 年度以前(医保は 17 年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】運動が心身の健康に及ぼす影響について検討し、からだところを使ったアクティビティやスポーツの演習から、自らの生活をウェルネスデザインする力を身につける。

【授業の概要】持続可能な健康生活を構築する素養を高めるため、グループワークを中心に学習を進める。健康運動の意義や効果などの理解を深め、大学生活における自らの健康行動をふりかえる。また、グループを通じて体を使ったコミュニケーションであるアクティビティや、スポーツ、健康トレーニングについて実習し、健康生活における身体知を身につける。

【到達目標】

1. 健康生活と運動との関係について理解する。
2. グループワークを通じて健康運動、スポーツ及びアクティビティの技法と意義を理解する。

【授業の計画】

1. 全体ガイダンス:クラス分け
2. 「ウェルネス」とは
3. 健康づくりのための運動とは
4. 健康づくりアクティビティの計画
5. 健康づくりアクティビティの実施
6. 健康づくりアクティビティの評価
7. 栄養・休養・運動のライフスタイル
8. 中間試験
9. サッカー・フットサルの個人技術
10. サッカー・フットサルの攻撃と守備
11. サッカー・フットサルのチーム戦術
12. サッカー・フットサルのゲームの組み立て
13. サッカー・フットサルのゲーム演習
14. サッカー・フットサルのリーグ
15. ふりかえりテスト
16. 総括

【教科書】授業には適宜資料やプリントを配布する

【成績評価の方法】活動状況、提出物、グループノートにより総合的に評価する

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】大学生活を豊かにするために、自らの生活を振り返り、ウェルネスの実現に向けて改善していきましょう

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221131>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(工(電・知)1年)

三浦 哉・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】生活習慣病などの後天的な要因で発症する疾病は、医療による治療が可能であるが、その一方で自己の身体の仕組みを理解し、日常生活を改善することで一次予防が可能である。そこで本講義では、ウェルネスという概念に基づき、身体の科学的側面を理解することで、自らの身体・健康に対する意識を高めると同時に、具体的な身体活動の方法(運動処方)を実践することを目的とする。

【授業の概要】身体の構造・働き、身体活動量、エネルギー消費量などについて概説する。また、運動を通じた健康の意義およびその重要性を理解させるために、運動処方の概念を理解させ、個人および集団で実施する運動を修得させる。

【キーワード】健康、運動、ウェルネス

【到達目標】

1. ウェルネスの概念について理解する
2. 身体の構造・機能を理解する
3. 様々な運動の経験を日常生活の中で、健康づくりに応用する

【授業の計画】

1. オリエンテーション(体育館1F 武道場)
2. (講義) ウェルネスとは何か?
3. (実習) テニス:ストロークの基本動作
4. (実習) テニス:ボレーの基本動作
5. (実習) テニス:サーブの基本動作
6. (実習) テニス:簡易ゲーム
7. (講義) エネルギー摂取量・消費量について
8. (実習) バレーボール:パス・トスの基本動作
9. (実習) バレーボール:サーブ・レシーブの基本動作
10. (実習) バレーボール:集団での基本動作
11. (実習) バレーボール:基本的な戦術
12. (実習) バスケットボール:パス・ドリブルの基本動作
13. (実習) バスケットボール:シュートの基本動作
14. (実習) バスケットボール:基本的な戦術

15. 試験

16. 総括 ウェルネスライフをデザインする

【参考書等】資料は随時、配布する

【成績評価の方法】成績評価は出席状況、授業への取り組み姿勢などによる平常点での評価(30点)と、レポートおよび試験結果(70点)から総合的に評価(合計100点)する。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】個々人の健康に対して問題意識を持った学生が受講することを希望する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221132>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

共創型学習 (Creativity Development)

最新の酵素学が切り開く疾患生命科学研究の世界 (Cutting-edge topics in the fields of disease-targeted life science revealed by the Institute for Enzyme Research)

福井清・教授/疾患酵素学研究センター, 木戸博・教授/疾患酵素学研究センター, 谷口寿章・教授/疾患酵素学研究センター, 蛭名洋介・教授/疾患酵素学研究センター
坂口末廣・教授/疾患酵素学研究センター, 松本満・教授/疾患酵素学研究センター

2単位 後期 水 5・6

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 疾患酵素学研究センターの各研究部門で実施されている基礎医学から創薬・臨床医学に展開する生命科学研究の最前線を, 幅広い選考分野の初年次の学生にもわかり易い内容で概説する. さらに研究者としてのキャリアパスを考える一助とする.

【授業の概要】 全国共同利用・共同研究拠点として認定されている疾患酵素学研究センターにおける疾患生命科学研究の最新の研究活動をわかり易く解説することにより, 研究者としてのキャリアパスを目指す学生への指針を示し, 研究現場の最新の知識と技術を得るとともに, 研究者として必要なキャリア形成に資することを目的とする. 受講者のうち, とくに希望する学生には, 酵素学研究拠点オープンラボにおける酵素学・タンパク質実験実習による Hands-on experience を実施する.

【到達目標】

1. 疾患酵素学・生命科学研究の最新の進歩と研究成果について理解する.
2. 研究者としてのキャリアパスを理解する.

【授業の計画】

1. 高病原性鳥インフルエンザの病原性を解き明かす酵素 (応用酵素・疾患代謝:木戸)
2. インフルエンザの重症化とハイリスク患者の原因を明らかにする体内酵素群 (応用酵素・疾患代謝:木戸・千田)
3. タンパク質の網羅的解析による疾患生命科学研究 (疾患プロテオミクス:谷口)
4. 疾患に関与するタンパク質キナーゼの研究 (疾患プロテオミクス:小迫)
5. 酵素と阻害剤の複合体構造を基盤にした薬剤設計 (疾患プロテオミクス:真板)
6. 遺伝子と病気 (シグナル伝達と糖尿病:蛭名)
7. 糖尿病の基礎研究紹介 (シグナル伝達と糖尿病:蛭名)
8. アミノ酸が担う脳の機能と神経疾患のなりたち (病態システム酵素学:福井)
9. 細胞死制御とがん化のメカニズム (病態システム酵素学:坂井)
10. 酵素学研究者のキャリアパス (病態システム酵素学:福井)
11. タンパク質が感染する一プリオンの正体は? (神経変性疾患:坂口)

12. プリオンと遺伝子改変マウス (神経変性疾患:坂口)
13. どうなってるの?酵素を運ぶ仕組み (神経変性疾患:内山)
14. 免疫系が自分の身体を攻撃する病気, 自己免疫疾患 I(免疫病態:松本)
15. 免疫系が自分の身体を攻撃する病気, 自己免疫疾患 II(免疫病態:松本)
16. 総括

【教科書】 使用しない.

【成績評価の方法】 出席, レポート (感想)

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221750>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

- ⇒ 福井 (401号室, 088-633-7429, kiyo@ier.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 午前8時30分から午後5時30分)
- ⇒ 木戸 (088-633-7423, kido@ier.tokushima-u.ac.jp) MAIL
- ⇒ 谷口 (088-633-7426, hisatan@ier.tokushima-u.ac.jp) MAIL
- ⇒ 蛭名 (088-633-7436, iden@ier.tokushima-u.ac.jp) MAIL
- ⇒ 坂口 (sakaguch@ier.tokushima-u.ac.jp) MAIL
- ⇒ 松本 (701号室, 088-633-7432, mitsuru@ier.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 午前9時から午後6時まで)

共創型学習 (Creativity Development)

「つたえること」と「ものづくり」-科学と遊ぼう- (Handicrafts and Social Communications (Introduction to Science))

齊藤隆仁・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『自然と技術』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 遊びの中には科学として取り上げると大変興味深い題材がたくさんあるが、深く考えながら遊ぶわけではないであろう。あるいは知識として知っているけれど、実際に行ったことがない遊びもあるであろう。実際に手を動かしてみることで、疑問がわいたり、理解が深まるのは大切な経験である。この授業では、科学的な思考・研究とはどのようなものかを体験することを目的として、身近に手に入る材料や道具を使って工作し、科学的・社会的な考察を加える。グループワークで実施し、作業体験やそこで得られる知識を共有しながら、健全な社会の基礎となる成長するグループづくりを目指す。

【授業の概要】 本講義では数名のグループを組み、熱気球・ブーメラン・たこなどの飛行する物あるいは管楽器・弦楽器・打楽器などの楽器の製作を企画し、実際に作成し、作成されたものの性能の評価を行う。同時にそれらの科学的な意義に加え社会的意義を自ら学習し、グループ内あるいは教員との討論を行う。グループで体験し、理解した内容を各自が小論文としてまとめるとともに、プレゼンテーション発表を行う。

【キーワード】 グループ学習、ものづくり、コミュニケーション、科学工作

【到達目標】 科学工作を通じて「ものづくり」への興味を喚起するとともに、小論文・プレゼンテーションを通じて探求課題を科学的に説明できるようにする。

【授業の計画】

1. 講義ガイダンス
2. 共通テーマについてのグループ討論
3. 共通テーマについての製作実習
4. 共通テーマについての実験・討論
5. 中間発表の準備
6. 中間発表
7. 後半のテーマについての課題設定
8. グループ活動、文献などの情報収集
9. グループ活動の方針確認
10. グループ活動、実験と観察
11. グループ活動、データの整理とグラフ
12. グループ活動、プレゼンテーションソフトの活用

13. グループ活動、効果的な発表を行うには

14. 発表会の準備

15. 発表会

16. 総括授業

【教科書】 特になし

【成績評価の方法】 授業中の課題提出 60%、発表会 40% として評価する。

【再試験の有無】 有り

【受講者へのメッセージ】 講義に社会人が参加し学生と共に議論を行う予定である。

【WEB 頁】 <http://lms.medsci.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221133>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 齊藤 (総合科学部3号館1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp)

MAIL (オフィスアワー: 水曜日 12:00~ 12:50)

共創型学習 (Creativity Development)

学生FD ボランティアスクール -持続可能な社会に向けた教育とは- (Student voluntary school for FD-an educational program for sustainable development-)

大橋 眞・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 自主的な学びを重視した授業です。持続可能な社会に向けた取組について、地域の社会人と議論をしながら考えます。また、教養とはなにかという議論を通じて、教養教育をどのように改革すべきなのかについて考えます。さらに、海外の大学生や留学生との交流、その他様々な課外活動を通じて自分の考えを持つことを目指します。

【授業の概要】 この授業では、自主的に活動に関わることの意義を体験的に学ぶことを重視しています。留学生との交流、また地域社会人との交流を通じて、人から学ぶことの意味を考えます。遠隔ビデオ会議により、海外の大学生とこりゆすることもあります。持続可能な社会をめざした教育について、様々な活動を通じて議論をしながら考えていきます。常に積極的に取り組む姿勢が必要です。課外活動への参加が求められることもあります。

【キーワード】 自主活動、地域社会人、持続可能な社会、課外活動、留学生、海外大学生、教養教育

【関連科目】 『共創型学習/ 学生FD ボランティアスクール -持続可能な社会に向けた教育とは-』(0.5), 『共創型学習/ 学生FD ボランティアスクール -地域のボランティアリーダーと考えるFD-』(0.5), 『共創型学習/ 異文化交流からのFD -グローバル社会とは何か-』(0.5)

【到達目標】

1. 地域社会人と対話する
2. 地域社会人との議論をしながら、自分の意見を表明する
3. 留学生と交流する
4. 持続可能な社会についての理解を深める
5. 海外の大学生と交流する
6. 課外活動へ積極的に参加する

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 教養とは何か
3. 持続可能な社会をめざした教育を考える 1
4. 持続可能な社会をめざした教育を考える 2
5. 持続可能な社会をめざした教育を考える 3

6. 持続可能な社会をめざした教育を考える 4
7. 持続可能な社会をめざした教育を考える 5
8. 海外の大学生との交流 1
9. 海外の大学生との交流 2
10. 海外の大学生との交流 3
11. 海外の大学生との交流 4
12. 海外の大学生との交流 5
13. 地域社会人と考えるグローバル化社会の課題 1
14. 地域社会人と考えるグローバル化社会の課題 2
15. 地域社会人と考えるグローバル化社会の課題 3
16. 地域社会人と考えるグローバル化社会の課題 4

【教科書】 資料はその都度配布します。

【参考書等】 必要に応じて配布します。

【成績評価の方法】 毎回の小レポート 40%、授業に関する課外活動参加への積極性とこれに関わる期末レポート 60%として評価する

【再試験の有無】 再試験は行いません。

【受講へのメッセージ】 この授業は、地域社会人向けの公開授業と同時開講する授業です。
①この授業では、地域の社会人との議論をおこないます。②授業外の時間での課外活動も、成績評価の対象として重視されます。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life/GP/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221134>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】

- ◇ ①課外活動には積極的に参加して下さい
- ◇ 地域社会人との交流に積極的に関わって下さい。
- ◇ 海外の大学生との交流は、時間の関係で課外活動になることがあります。

共創型学習 (Creativity Development)

名著講読 ―未知との出会い-文学作品や随筆を読む― (great books reading - encounter with the unknown)

依岡 隆児・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 7・8

【授業の目的】本を読む習慣をつけます。カーソンからル＝グウィン、宮澤賢治までの古今の名著を通して、未知なるものに触れる体験したいと思います。社会人の方も交えて一緒に考え、互いに読み方や考え方の違いに触れることで、現代に生きる意味についてより深い理解が得られるようにします。

【授業の概要】20世紀に書かれた評論・エッセイ、文学作品を中心に、今までの自分にとって未知の世界に触れることで、現代社会の様々な問題をより深く考察できるようにします。基本的には、一回の授業で一つの作品の一部を、受講生全員で読んでいきます。古今東西の名著(文学作品や随筆)を分野に捉われずにバラエティ豊かに取り上げ、線を引きながら一緒に読んで生きていきます。内容を確認したうえで、お互いに興味を引かれた箇所を披露しながら、理解を深めます。必要事項の検索ができるようにして、最後にはグループで発表を行います。また、図書館ツアーもする予定。

【キーワード】講読、読書、名著、未知

【到達目標】読書の習慣をつけること。異なる価値観や考え方に触れることで社会性を身につける。

【授業の計画】

1. 授業ガイダンス
2. 文献リストの内容確認、作品のピックアップ(取り上げる予定の作品は、外山滋比古『読みの整理学』、カーソン『沈黙の春』、内田樹『先生はえらい』、サン＝テグジュペリ『星の王子様』、北条民雄『いのちの初夜』、村上春樹『海辺のカフカ』、河合隼雄『影の現象学』、ル＝グウィン『ゲド戦記I 影との戦い』、フロイト『無気味なもの』、宮澤賢治『注文の多い料理店』、鷺田清一『「聴く」ことの本質』、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』など)
3. 図書館ツアー
4. 作品講読(毎回違う作品の一部のコピーを三色ボールペン方式で読む)
5. 作品講読
6. 作品講読
7. 作品講読
8. 作品講読
9. 作品講読

10. グループ分け、テーマ選定、文献に基づいた発表の準備、ディスカッション、レジュメ作成、文献検索

11. 発表準備、ディスカッション

12. ディスカッション

13. ディスカッション

14. グループ発表

15. グループ発表

【参考書等】依岡隆児『読書のススメ～四国から、グローバルに』(徳島新聞社)

【成績評価の方法】授業への取り組み(出席・発表など)により総合的に評価します。

【再試験の有無】有

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221135>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 12時から 13時)

【備考】

- ◇ 紹介された本は各自が生協や本屋、図書館などで手に入れておいてください。
- ◇ 本授業題目は20年度、21年度入学者(適用年度)が対象となります。
- ◇ 25人で受講者調整

共創型学習 (Creativity Development)

空海と歩く-歩き遍路の世界- (Walk with Kukai (World of Henro on Foot))

田中俊夫・教授/大学開放実践センター

2単位 後期 月 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 88ヶ寺を巡る四国遍路は四国固有の文化として何百年にも渡って、形を変えながら、継承されてきた。この四国遍路を世界遺産として申請しようという活動も始まっている。車遍路が全盛の今日にあって、また「歩き遍路」が見直されてきている。特に若者が急増しているのである。遍路の文化と歴史を知り、そしてなぜ今歩くのか、その意味を考え、さらには実際の遍路体験の中から自分自身に起こる変化を体験してみよう。またグループ活動として遍路に関わるレポートテーマを決め、体験型の調査を行い、発表する。

【授業の概要】 「歩き遍路」をテーマにした授業であるから、「歩く」ということと「遍路から学ぶ」を2本の柱として授業を組み立てる。「歩く」トレーニングでは、歩数計を使って仮想遍路旅を行う。「遍路から学ぶ」では、歩き遍路に関連するテーマをグループ毎に設定し、文献調査や実地調査を行い、クラスで報告する。両者の融合として、実際の歩き遍路を体験する。また、実際に歩き遍路を行っている社会人との合同授業も行い、体験談を聞いたり意見交換をしたりする。

【キーワード】 歩き遍路, 空海, ウォーキング, 健康, 自分探し

【到達目標】 歩き遍路1日体験をやり遂げる。遍路についての知識を身につける。仲間と協力してレポートを作成し、発表する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション, 歩き遍路とは
2. 歩き遍路に必要なトレーニング, 健康に対する効果
3. 歩き遍路体験者のお話を聞く
4. 歩き遍路半日体験「お遍路さんになろう」
5. お遍路を支えるボランティア活動
6. 歩き遍路1日体験
7. レポートテーマの検討, グループワーク
8. パワーポイントを使ったレポートプレゼンテーション

【参考書等】 参考図書を紹介する

【成績評価の方法】 グループレポート (20点), 出席状況・授業に対する熱意 (50点), ウォーキング実践 (6点), 歩き遍路体験 (12点), 期末レポート (12点)

【再試験の有無】 なし

【受講へのメッセージ】 歩き遍路体験などは日曜・祝日などを利用して実施します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221137>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田中 (088-656-7280, tanaka@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL

共創型学習 (Creativity Development)

異文化交流からのFD-グローバル社会に向けた教育とは- (Cross-cultural communications for FD-a educational program for global society-)

大橋 眞・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 現代社会の諸問題や、文化についての考えを深めたり、社会人も交えて異なる世代・異なる考えを持った人と意見の交換をすることで、多様な視点で考え表現する力を身につけます。特に「異文化交流」をテーマとして、同世代の文化的背景が異なる学生同士が議論をする実践力をつけるための教育について理解を深めます。また、学生参画型のFD活動を体験することにより、積極的な行動力を身につけることを目標としています。

【授業の概要】 現代社会ではグローバル化が進行し、様々な価値観や文化的背景をもった人間同士の交流が必要となってきました。このような異文化交流において、相手方の文化に興味を持つとともに、自身の文化的背景についての理解を深めておく必要があります。この授業では、実際に異文化交流を体験しながら、異文化交流に必要な視点を探り、自身の文化的背景を学ぶ教育についての理解を深めます。さらに課外活動に積極的に参加することにより、実践的な会話力を身につけると共に積極的な行動力を育成することを目指します。海外の大学生と遠隔ビデオ会議をすることもあります。

【キーワード】 共創型学習, 異文化交流, グローバル化, 異文化交流, FD, 地域社会人, 課外学習, 遠隔ビデオ会議

【到達目標】

1. 異文化交流により、相手方と自身の文化的背景を理解する
2. 海外の大学生や地域社会人とのコミュニケーション力をつける
3. 実践的な会話力から議論ができるような論理的な考え方を身につける
4. 課外授業にも積極的に参加する行動力を身につける

【授業の計画】

1. 授業ガイダンス
2. 「異文化交流」で何を学ぶのか
3. 「異文化交流」実践力を身につけることの意義
4. 異文化交流に必要な視点と教育1
5. 異文化交流に必要な視点と教育2
6. 異文化交流に必要な視点と教育3
7. 異文化交流に必要な考え方を育成するには1
8. 異文化交流に必要な考え方を育成するには2

9. 異文化交流に必要な考え方を育成するには3

10. 異文化交流に必要な考え方を育成するには4

11. 「異文化交流」とグローバル社会1

12. 「異文化交流」とグローバル社会2

13. 「異文化交流」とグローバル社会3

14. 「異文化交流」とグローバル社会4

15. まとめと発表会

16. 総括授業

【教科書】 特になし

【参考書等】 特になし

【成績評価の方法】 毎回の小レポート 40%, 授業に関連する課外活動参加などの積極性とこれに関わる期末レポート 60% として評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 この授業は、地域社会人向けの公開授業と同時開講する授業です。地域社会人と討論をしながら、理解を深めます。成績評価では、授業と関連する課外活動参加などの積極性が重視されます。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life/GP/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221136>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

共創型学習 (Creativity Development)

宇宙を探る (Introduction to Astronomical Observation)

伏見賢一・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 宇宙の観測を体験して、現代の科学技術との関連を実感する。宇宙を観測する方法は対象によってさまざまである。はじめにいろいろな天体とその観測方法について紹介する。その後いくつかの観測方法によって宇宙の探求を実践する。

【授業の概要】 1. 天体とは、宇宙の広がりについて 2. 宇宙観測の方法 3. 宇宙観測の実践 (下記のどれかを実践する) 3-1. 天体望遠鏡による観測 (写真・CCD 観測など) 3-2. 望遠鏡を使わない観測 (写真・ビデオ観測など) 3-3. 電波などによる観測

【キーワード】 宇宙論, 天体観測, 写真撮影・画像処理

【関連科目】 『自然と技術/宇宙物理学入門』(0.5)

【到達目標】 季節の代表的な星座を見つけられること。全ての惑星、主な恒星の名前を言えること。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 天体の階層 (講義)
3. 参考文献購読
4. 参考文献購読・解説
5. いろいろな天体観測の方法 (歴史)
6. いろいろな天体観測の方法 (最新技術の紹介)
7. 天体観測 I
8. 天体観測 II
9. 解説
10. 天体観測 III
11. 天体観測 VI
12. 解説
13. 天体観測 V
14. 天体観測 VI
15. 解説
16. 総括授業

【参考書等】 天文ガイド (伏見教員室に常備しているものを適宜貸与することができる)

【成績評価の方法】 レポート (2~3 回) 50 点。星座解説ができる 20 点。全ての一等星の名前と位置がわかる 10 点。全ての惑星について解説することができる 10 点。メシエ天体について、いくつかの解説ができる 10 点。

【受講者のメッセージ】 受講登録をする時間は 9・10 講時ですが、天体観測をする都合上、天体観測を実施する日 (晴天) は 13・14 講時に開催します。月曜日は 13・14 講時に出席できるよう予定を調整してください。天体観測は屋外で夜間に実施します。冬季なので非常に寒くなることが予想されますので、温かい服装を用意してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221138>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 平日の 11:50-12:50)

共創型学習 (Creativity Development)

名著講読 「生き抜く力とは何か?」 (Seminar for Memorial Books -What is competence for professional and life?)

香川 順子・准教授/大学開放実践センター

2単位 後期 火 9・10

【授業の目的】 現代における「プロフェッショナル」をテーマとして、世代の違う社会人との交流の中で、21世紀を生き抜く力について考えるとともに、自己実現に向けての自分を意識し、大学で何を学ぶべきか考え、計画できることを目的とします。

【授業の概要】 「プロフェッショナル」に関する文献を読み進めながら、「生きる」という意味でスペシャリストである世代の違う地域の社会人と交流しつつ、自分について考えていきます。多様な価値観にふれ、仕事、自己実現、人生において大切な事は何かを参加者と共に考えていきます。授業の中では、文献を読み、全員で議論するという形式をとります。

【キーワード】 プロフェッショナル、仕事の流儀、自己実現、大学での学び

【到達目標】

1. 現代の生き抜く力について説明できる。
2. 多様な価値観を理解しつつコミュニケーションができる。
3. 自分の人生における大学での学びの意義について説明ができる。

【授業の計画】

1. 導入 (授業の説明、今後の予定など)
2. プロフェッショナルとは何か?1
3. プロフェッショナルとは何か?2・講読準備
4. プロフェッショナルに関する文献講読 1
5. プロフェッショナルに関する文献講読 2
6. プロフェッショナルに関する文献講読 3
7. プロフェッショナルに関する文献講読 4
8. プロフェッショナルに関する文献講読 5
9. プロフェッショナルに関する文献講読 6
10. プロフェッショナルに関する文献講読 7
11. プロフェッショナルに関する文献講読 8
12. プロフェッショナルに関する文献講読 9
13. プロフェッショナルに関する文献講読 10
14. 21世紀を生き抜く力とは何か?
15. レポート作成・提出
16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 茂木健一郎, NHK「プロフェッショナル」制作班 2009 「プロフェッショナルたちの脳活用法」NHK出版 (700円)
- ◇ *テキスト以外の資料は授業で配布します。

【参考書等】

- ◇ 茂木健一郎 (編集), NHK「プロフェッショナル」制作班 (編集)『プロフェッショナル 仕事の流儀』〈1巻 2006/04~ 15巻 2007/09〉
- ◇ 大前 研一 2005 「ザ・プロフェッショナル 21世紀をいかに生き抜くか」

【成績評価の方法】 授業における課題とレポートから到達目標に関連した評価を行う【講師へのメッセージ】意欲的な参加と、地域の社会人との積極的な交流・議論を期待します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221139>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 香川 (206, 088-656-7283, kagawa@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水・木曜日 12:10~ 12:40 6号館2階香川研究室)

【備考】 本授業題目は20年度入学者 (適用年度) が対象となります。

共創型学習 (Creativity Development)

国際交流の扉を拓(ひら)く (Cross-cultural Interactions)

三隅 友子・教授/国際センター, 坂田 浩・准教授/国際センター, 金成海・教授/国際センター

2単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 私たちのまわりの「文化」を日本人と外国人の視点からとらえ直す。受講者相互の対話を通して「文化」「交流」とは何かを考える。

【授業の概要】 ①国際交流とは, ②異文化理解とは, ③共に生きるとは, をテーマに「異文化コミュニケーション」「日本語と異文化理解」「留学生事情」をはじめとし, 様々な視点から国際センター 3 名の教員が講義する。

【キーワード】 国際交流, 異文化理解, 異文化間コミュニケーション, 言語教育, 人間関係づくり

【到達目標】

1. 自分なりの国際交流に対する枠組ができる。
2. 自分を中心とした新たな世界観を作る
3. 様々な文化背景を持つ人達とコミュニケーションができる。
4. 「国際人」としての基礎を身につけることができる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 徳島の留学生事情
3. 異文化理解とコミュニケーション (1)
4. 異文化理解とコミュニケーション (2)
5. 異文化理解とコミュニケーション (3)
6. 異文化理解とコミュニケーション (4)
7. 異文化理解とコミュニケーション (5)
8. 異文化理解とコミュニケーション (6)
9. 異文化理解とコミュニケーション (7)
10. 異文化理解と外国語学習 (1)
11. 異文化理解と外国語学習 (2)
12. 異文化理解と外国語学習 (3)
13. 異文化理解と外国語学習 (4)
14. 異文化理解と外国語学習 (5)
15. 異文化理解と外国語学習 (6)
16. 総括

【教科書】 随時プリント等を配付

【成績評価の方法】 授業への取り組み, レポート, 出席などにより, 担当の 3 教員で総合的に評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 授業の詳細は, 初回で説明するので休まずに出席すること

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221140>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 * 留学生を交えて授業を展開する場合があります。

共創型学習 (Creativity Development)

「つたえること」と「ものづくり」ー藍染めの科学ー (Handicrafts and Social Communications (Indigo Dyeing))

佐藤 高則 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 藍染め文化は、吉野川の自然との共生の結果生まれてきた徳島の伝統文化である。このような地域文化を体系的に理解するためには、協同的作業を通じた体験型学習が必要であり、さらに今後の大学での能動的な学習の一助ともなりうる。この授業では、藍染めを体験しながらクラフト作品を創作することにより、藍染め文化を知り、経験を通して伝統的な日本の文化を知る。また、創作活動のグループワークを通じて、お互いのコミュニケーションをはかる。また、伝えたいことを作品作品に表現することにより、コミュニケーションについて考える。

【授業の概要】 本講義ではグループ単位で、作品の企画と製作、作品に込めるメッセージについて話し合う。藍染めや草木染めを基本としたクラフト作品を作成しながら、藍染めの原理と文化を学習する。作品をどのようにメッセージとして生かすかについて、グループディスカッションにより深めてゆく。

【キーワード】 共創型学習, ものづくり, コミュニケーション, 伝統文化, 藍染め

【関連科目】 『共創型学習/「つたえること」と「ものづくり」-科学と遊ぼう-』(0.5), 『歴史と文化/ (総) 中国語 II』(0.5)

【到達目標】 藍染めの体験学習を通じて「藍染め文化」への興味を喚起するとともに、創造力を作品に反映させながら、コミュニケーション力の向上を目指す

【授業の計画】

1. 講義ガイダンス
2. 藍染めとは
3. 藍の発色を化学で考えよう
4. 藍染めしてみよう
5. 身近な草木で染めよう
6. 草木染めを科学する
7. クラフト作品の構想
8. 染料の調製と試し染め
9. 藍染め・草木染めで表現
10. 染色の完成
11. ソーイング
12. 作品の制作 (1)

13. 作品の制作 (2)

14. 発表会の準備

15. 発表会

16. 統括授業

【教科書】 特になし

【参考書等】 特になし

【成績評価の方法】 毎回のワークシート 60%, 報告・発表会 40% として評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 本授業は「社会性形成科目群」です。

【WEB 頁】 <http://www.geocities.jp/satokichi2004jp/syllabus/jyugyou.htm>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221142>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

【備考】 地域社会人の方も受講する場合があります。

共創型学習 (Creativity Development)

埋もれた文化遺産 II (Buried Cultural Heritage 2)

中村 豊・准教授/埋蔵文化財調査室, 遠部 慎・助教/埋蔵文化財調査室

2単位 後期 金 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 受講生自身が能動的に行動することによって、自ら問題点を見出し、創成する一手法を学ぶ場とする。本授業では、古代人の技術を体験し、また遺跡に自らの足で赴くことによって、単なる知識としてではなく、実際の古代人の生活を知り、現代社会を相対化する機会としたい。

【授業の概要】 徳島大学近辺の遺跡を散策する。また、出土した考古遺物を製作することによって、古代人の実生活を体験してもらう。その後、県内の遺跡を訪問する機会を設け、グループ形式で調べて、まとめ、それぞれ発表を行う。それらの作業を通して、古代人の生活についての理解を深め、現代社会を相対化する。

【キーワード】 出土遺物, 庄・蔵本遺跡, 常三島遺跡・新蔵遺跡, 遺物整理実習

【先行科目】 『歴史と文化/考古学概論 I』(1.0)

【関連科目】 『歴史と文化/徳島を考える』(0.5)

【到達目標】 大学構内、県内の遺跡出土遺物に触れ、その製作法を試したりする過程において、古代人の生活についての理解を深める。

【授業の計画】

1. オリエンテーション・常三島遺跡散策
2. 徳島大学構内の遺跡について
3. 徳島城下町・新蔵遺跡散策
4. 徳島城散策
5. 石器に触れる
6. 土器に触れる
7. 拓本を取ろう
8. 勾玉づくり
9. 研究発表課題概要説明・準備
10. 研究発表課題:文献探索・現地踏査
11. 研究発表課題:文献探索・現地踏査
12. 研究発表課題:中間発表・討議
13. 研究発表課題:文献探索・現地踏査
14. 研究発表課題:文献探索・現地踏査
15. 研究発表会

16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況 50%, 報告・発表会 50%として評価する

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221143>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中村 (088-633-7224, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 8時30分~17時30分)

⇒ 遠部 (088-633-7236,) (オフィスアワー: 8時30分~17時30分)

【備考】 石器づくりなどの考古学的な実習があります。汚れてもかまわない服装をお勧めします。また、遺跡散策の際には歩き易い靴をお勧めします。主に常三島キャンパスにおいて授業を行います。その他、土日を利用してフィールドワークを予定しています。

ヒューマンコミュニケーション (Human Communication)

乳幼児との交流から学ぶ (Collaborative Learning with Kids)

荒木 秀夫・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 内海 千種・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 1~4

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 「持続的な社会づくり」というテーマが多く分野で提起されている。広くは環境、経済、科学技術問題など、人間にとっても社会にとっても一つの問題としてだけで捉えることができない大きな課題である。そのテーマとして、「コミュニケーション」問題があげられる。コミュニケーションは、単に「言葉のやりとり」ではない。その「崩壊?」は、極めて重大な結果を導くといっても過言ではない。この授業では、社会人としての人間力を高め、学生自らのコミュニケーション能力を自らの力によって向上させることを目的とする。

【授業の概要】 授業ではコミュニケーション能力の開発を支援する「体験学習」を通して、自分と向き合い自分自身の人間関係について考える場を学生に提供する。社会人ボランティアの協力を得て授業を行い、学生が世代や立場の異なる人々との関係を膨らませ、考えや視野を拓ける機会とする。授業は、学内演習・地域の保育所実習等の体験実習を柱とし、学内演習では、参加型のワークを基本として、コミュニケーション・スキルについて学び、自分自身の人間関係について考える。保育所では毎週、特定の乳幼児との交流を通し「乳幼児期のヒト」と「親」を実験的に理解して、相手の気持ちを察する感性を磨く。授業を通して関わる様々な人々との交流を通し、社会人として求められる態度について考え、学生自身の視野を広げること場とする。

【キーワード】 人間力、ホスピタリティ・マインド、役立ち感、自己肯定感、子育て支援

【到達目標】 1. 適切な礼儀やマナーを身につける。2. 相手の考えや気持ちを受け止めることができる。3. 自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる。4. 仲間の様子に目を向けることができ、共に喜び合ったり、励ますことができる。5. 関わりを通して、自己を振り返ることができる。

【授業の計画】

1. 「コミュニケーション」-なぜ乳幼児から学ぶのか-
2. 学内演習Ⅰ・コミュニケーションスキルトレーニング・乳幼児との交流実習準備
3. 学内演習Ⅱ・コミュニケーションスキルトレーニング・乳幼児との交流実習準備

4. 学内演習Ⅳ・保育所実習にむけて (グループ討議)・乳幼児との保育所実習準備
5. 保育所実習 1
6. 保育所実習 2
7. 保育所実習 3
8. 保育所実習 4
9. 保育所実習 5
10. 保育所実習 6
11. 保育所実習 7
12. 保育所実習 8
13. 保育所実習 9
14. 保育所実習 10
15. 振り返り・まとめ
16. 総括授業-自分への気づき-

【教科書】 なし。配布する資料を使用する。

【参考書等】 高塚人志著「いのちにふれる授業」小学館、「自分が好きになっていく」アリス館、「いのちを慈しむヒューマン・コミュニケーション授業」大修館書店、「赤ちゃん力」エイデル研究所

【成績評価の方法】 出席状況 (33%), レポート (33%), 授業に取り組む姿勢・態度 (33%) から総合評価する。

【再試験の有無】 原則として行わない

【受講者へのメッセージ】 人間関係が希薄な現代においては、年齢を超えた人間関係作りや、コミュニケーション (お互いの考えや気持ちを理解しあうこと) を意図的に学ぶことが必要である。人と関わるには、相手の心の有り様を想像し、相手の心に寄り添った行動をすることが大切である。交流する乳幼児達はなかなか自分の思うようにならないかもしれないが、自分のパートナーに寄り添い、相手の気持ちを表情や言動から推し量り、必死になって自分のこととして考え、関わりをもってほしい。そんな体験を積み重ねることでホスピタリティ・マインドに気づき、「達成感」や「人の役に立つ喜び=役立ち感」そして「自己肯定感」を実感するだろう。この授業をステップに、社会人としての人間力

を高め、専門的な知識を積み上げるための基礎力を充実させてほしい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221144>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ヒューマンコミュニケーション (Human Communication)

高齢者との交流から学ぶ (Collaborative Learning with Aged People)

(歯 ((歯)1年))

日野出 大輔 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 竹内 祐子 助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2単位 後期 木, 集中 5~8, 10/6~12/22

【授業の目的】 歯科医療系学生における人間力を高めるため, 早期から学生自らのコミュニケーション能力を向上させ, ホスピタリティ・マインドを体得し, 将来患者と向き合える歯科医療従事者を育てる一助とする。

【授業の概要】 この授業では, 学内講義・演習と学外体験学習 (高齢者交流学習) を柱とする。学内講義・施設説明を受けた後, 学外の養護老人ホームにおいて高齢者と8回にわたり交流し, 教育管理ネットワークシステム (エデュネット) を用いて学習内容を記録・提出する。また, 学内演習 (中間ふり返り授業・最終ふり返り授業) を行い, 体験学習を通して得られた内容について, 意見交換する機会を設ける。

【キーワード】 対人コミュニケーション, 高齢者, ホスピタリティ・マインド

【到達目標】

1. 基本的マナーを守る。
2. コミュニケーション力を養う。
3. ホスピタリティ・マインドをもって対応する。
4. 相手を受容して適切に行動する。

【授業の計画】

1. 授業説明, 講義「生と死, 老いを考える」, 高齢者施設説明
2. 高齢者交流学習 1 (学外体験学習)
3. 高齢者交流学習 2 (学外体験学習)
4. 高齢者交流学習 3 (学外体験学習)
5. 高齢者交流学習 4 (学外体験学習)
6. 学内演習 (中間ふり返り授業)
7. 高齢者交流学習 5 (学外体験学習)
8. 高齢者交流学習 6 (学外体験学習)
9. 高齢者交流学習 7 (学外体験学習)
10. 高齢者交流学習 8 (学外体験学習)
11. 学内演習 (最終ふり返り授業)

【教科書】 適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法】 出席状況 (40%) とレポート (60%) によって総合的に評価する。

【再試験の有無】 原則として行なわない

【受講へのメッセージ】 人間関係が希薄な現代においては, 年齢を超えた人間関係作りや, ヒューマン・コミュニケーション (お互いの考えや気持ちを理解しあうこと) を意図的に学ぶことが必要である。人と関わるには, 相手の立場に立って心の有り様を想像し, 相手の心に寄り添った行動をすることが大切である。そのための学外体験学習を行う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221145>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 日野出 (088-633-7543, hinode@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

3) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects)

主題別英語

主題別英語 ... (総科 ((人文・社創・総理 A)1 年))/米原/後期 月 5・6	496
主題別英語 ... (総科 ((人文・社創・総理 A)1 年))/小野原/後期 月 5・6	497
主題別英語 ... (総科 ((人文・社創・総理 A)1 年))/山森/後期 月 5・6	498
主題別英語 ... (総科 ((人文・社創・総理 A)1 年))/山田/後期 木 1・2	499
主題別英語 ... (総科 ((人文・社創・総理 A)1 年))/前田/後期 木 1・2	500
主題別英語 ... (総科 ((人文・社創・総理 A)1 年))/吉田/後期 木 1・2	501
主題別英語 ... (総科 ((人文・社創・総理 B)1 年))/早内-プリングル/後期 火 3・4	502
主題別英語 ... (総科 ((人文・社創・総理 B)1 年))/樋口/後期 火 3・4	503
主題別英語 ... (総科 ((人文・社創・総理 B)1 年))/フロスト/後期 火 3・4	504
主題別英語 ... (総科 ((人文・社創・総理 B)1 年))/ラックストン/後期 水 1・2	505
主題別英語 ... (総科 ((人文・社創・総理 B)1 年))/田中/後期 水 1・2	506
主題別英語 ... (総科 ((人文・社創・総理 B)1 年))/三宅/後期 水 1・2	507
主題別英語 ... (医 ((医 A)1 年))/山森/後期 月 7・8	508
主題別英語 ... (医 ((医 A)1 年))/ポンド/後期 金 3・4	509
主題別英語 ... (医 ((医 B)1 年))/座喜/後期 月 7・8	510
主題別英語 ... (医 ((医 B)1 年))/石田/後期 金 3・4	511
主題別英語 ... (医 ((医 C)1 年))/小野原/後期 月 7・8	512
主題別英語 ... (医 ((医 C)1 年))/早内-プリングル/後期 金 3・4	513
主題別英語 ... (医 ((栄)1 年))/山田/後期 水 5・6	514
主題別英語 ... (医 ((栄)2 年))/米原/後期 月 3・4	515
主題別英語 ... (医 ((保 A)1 年))/上野/後期 火 5・6	516
主題別英語 ... (医 ((保 B)1 年))/石田/後期 火 5・6	517
主題別英語 ... (医 ((保 C)1 年))/宮田/後期 火 5・6	518
主題別英語 ... (医 ((放)2 年))/樋口/後期 月 1・2	519
主題別英語 ... (医 ((放・検)2 年))/宮崎/後期 月 1・2	520
主題別英語 ... (歯 ((歯・口)1 年))/魚崎/後期 火 3・4	521
主題別英語 ... (歯 ((歯・口)1 年))/森岡/後期 水 5・6	522
主題別英語 ... (薬 (薬 A1 年))/早内-プリングル/後期 火 5・6	523

主題別英語 ... (薬 (薬 B1 年))/魚崎/後期 火 5・6	524
主題別英語 ... (工 ((建 A)1 年))/パロログ/後期 水 5・6	525
主題別英語 ... (工 ((建 B)1 年))/パトリック/後期 水 5・6	526
主題別英語 ... (工 ((機 A)1 年))/宮田/後期 月 7・8	527
主題別英語 ... (工 ((機 A)2 年))/山内/後期 火 1・2	528
主題別英語 ... (工 ((機 B)1 年))/山内/後期 月 7・8	529
主題別英語 ... (工 ((機 B)2 年))/坂田/後期 火 1・2	530
主題別英語 ... (工 ((機 C)1 年))/吉田/後期 月 7・8	531
主題別英語 ... (工 ((機 C)2 年))/中島/後期 火 1・2	532
主題別英語 ... (工 ((化 A)1 年))/石田/後期 金 5・6	533
主題別英語 ... (工 ((化 B)1 年))/三浦/後期 金 5・6	534
主題別英語 ... (工 ((生 A)1 年))/マーシェソ/後期 金 5・6	535
主題別英語 ... (工 ((生 A)2 年))/山田/後期 水 3・4	536
主題別英語 ... (工 ((生 B)1 年))/ギュンター/後期 金 5・6	537
主題別英語 ... (工 ((生 B)2 年))/三宅/後期 水 3・4	538
主題別英語 ... (工 ((電 A)1 年))/藪下/後期 金 3・4	539
主題別英語 ... (工 ((電 A)2 年))/山田/後期 水 3・4	540
主題別英語 ... (工 ((電 B)1 年))/樋口/後期 金 3・4	541
主題別英語 ... (工 ((電 B)2 年))/田中/後期 水 3・4	542
主題別英語 ... (工 ((電 C)1 年))/三浦/後期 金 3・4	543
主題別英語 ... (工 ((電 C)2 年))/鎌田/後期 水 3・4	544
主題別英語 ... (工 ((知 A)1 年))/樋口/後期 木 1・2	545
主題別英語 ... (工 ((知 B)1 年))/ニムチャック/後期 木 1・2	546
主題別英語 ... (工 ((光)1 年))/山田/後期 水 7・8	547

発信型英語

発信型英語 ... (総科 ((人文 A)2 年))/早内-プリングル/後期 月 1・2	548
発信型英語 ... (総科 ((人文 B)2 年))/フロスト/後期 月 1・2	549
発信型英語 ... (総科 ((人文 C)2 年))/ステイーヴンズ/後期 月 1・2	550
発信型英語 ... (総科 ((人文 D)2 年))/パトリック/後期 月 1・2	551
発信型英語 ... (総科 ((人文 E)2 年))/フェネリー/後期 月 1・2	552

発信型英語 ... (総科 ((社創 A)2 年))/ギュンター/後期 火 7・8	553
発信型英語 ... (総科 ((社創 B)2 年))/スティーヴンズ/後期 火 7・8	554
発信型英語 ... (総科 ((社創 C)2 年))/スタージ/後期 火 7・8	555
発信型英語 ... (総科 ((社創 D)2 年))/パトリック/後期 火 7・8	556
発信型英語 ... (総科 ((社創 E)2 年))/座喜/後期 火 7・8	557
発信型英語 ... (総科 ((総理 a)2 年))/岩佐/後期 火 7・8	558
発信型英語 ... (総科 ((総理 b)2 年))/木里/後期 火 7・8	559
発信型英語 ... (総科 ((総理 c)2 年))/石田/後期 火 7・8	560
発信型英語 ... (医 ((看 a)2 年))/座喜/後期 月 1・2	561
発信型英語 ... (医 ((看 b)2 年))/ポンド/後期 月 1・2	562
発信型英語 ... (医 ((看 c)2 年))/福田/後期 月 1・2	563
発信型英語 ... (工 ((建 A-1)2 年))/座喜/後期 火 1・2	564
発信型英語 ... (工 ((建 A-2)2 年))/宮田/後期 火 1・2	565
発信型英語 ... (工 ((建 B-1)2 年))/スティーヴンズ/後期 火 1・2	566
発信型英語 ... (工 ((建 B-2)2 年))/ポンド/後期 火 1・2	567
発信型英語 ... (工 ((化 A-1)2 年))/早内-プリングル/後期 火 1・2	568
発信型英語 ... (工 ((化 A-2)2 年))/福田/後期 火 1・2	569
発信型英語 ... (工 ((化 B-1)2 年))/フロスト/後期 火 1・2	570
発信型英語 ... (工 ((化 B-2)2 年))/スタージ/後期 火 1・2	571
発信型英語 ... (工 ((知 A-1)2 年))/ポンド/後期 水 3・4	572
発信型英語 ... (工 ((知 A-2)2 年))/パトリック/後期 水 3・4	573
発信型英語 ... (工 ((知 B-1)2 年))/福田/後期 水 3・4	574
発信型英語 ... (工 ((知 B-2)2 年))/マーシェソ/後期 水 3・4	575
発信型英語 ... (工 ((光 A)2 年))/ラックストーン/後期 水 3・4	576
発信型英語 ... (工 ((光 B)2 年))/ギュンター/後期 水 3・4	577

ドイツ語入門

ドイツ語入門 ... (医・歯 ((栄・口)1 年))/今井/後期 月 7・8	578
ドイツ語入門 ... (医 ((看)1 年))/ギュンター/後期 火 9・10	579
ドイツ語入門 ... (医 ((放・検)1 年))/井戸/後期 火 3・4	580
ドイツ語入門 ... (薬 (薬 A1 年))/曾田/後期 火 3・4	581

ドイツ語入門 ... (薬 (薬 B1 年)) / ヘルベルト / 後期 火 3・4	582
ドイツ語入門 ... (工 ((建)1 年)) / ギュンター / 後期 金 7・8	583
ドイツ語入門 ... (工 ((機 A)1 年)) / 石川 / 後期 水 7・8	584
ドイツ語入門 ... (工 ((機 B)1 年)) / ヘルベルト / 後期 水 7・8	585
ドイツ語入門 ... (工 ((化)1 年)) / 桂 / 後期 月 5・6	586
ドイツ語入門 ... (工 ((生)1 年)) / 石川 / 後期 水 5・6	587
ドイツ語入門 ... (工 ((電)1 年)) / 石田 / 後期 水 7・8	588
ドイツ語入門 ... (工 ((知)1 年)) / ギュンター / 後期 水 5・6	589
ドイツ語入門 ... (工 ((光)1 年)) / 今井 / 後期 月 9・10	590

ドイツ語初級

ドイツ語初級 ... (総科 ((人文)1 年)) / ヘルベルト / 後期 月 5・6	591
ドイツ語初級 ... (総科 ((人文)1 年)) / 井戸 / 後期 水 1・2	592
ドイツ語初級 ... (総科 ((社創)1 年)) / 桂 / 後期 火 3・4	593
ドイツ語初級 ... (総科 ((社創)1 年)) / 今井 / 後期 木 1・2	594
ドイツ語初級 ... (総科 ((総理)1 年)) / ギュンター / 後期 火 3・4	595
ドイツ語初級 ... (総科 ((総理)1 年)) / 桂 / 後期 木 1・2	596
ドイツ語初級 ... (医 ((医 A)1 年)) / 曾田 / 後期 月 9・10	597
ドイツ語初級 ... (医 ((医 A)1 年)) / 井戸 / 後期 火 5・6	598
ドイツ語初級 ... (医 ((医 B)1 年)) / 依岡 / 後期 月 9・10	599
ドイツ語初級 ... (医 ((医 B)1 年)) / 石川 / 後期 火 5・6	600
ドイツ語初級 ... (歯 ((歯)1 年)) / ヘルベルト / 後期 月 7・8	601
ドイツ語初級 ... (歯 ((歯)1 年)) / 石川 / 後期 火 9・10	602
ドイツ語初級 ... (薬 (薬 2 年)) / 桂 / 後期 月 7・8	603

フランス語初級

フランス語初級 ... (総科 ((総科 A)1 年)) / 田島 / 後期 月 5・6	604
フランス語初級 ... (総科 ((総科 A)1 年)) / 田島 / 後期 水 1・2	605
フランス語初級 ... (総科 ((総科 B)1 年)) / 長井 / 後期 火 3・4	606
フランス語初級 ... (総科 ((総科 B)1 年)) / 長井 / 後期 木 1・2	607

フランス語初級 ... (医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年))/田島/後期 月 9・10	608
フランス語初級 ... (医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年))/田島/後期 火 9・10	609

中国語入門

中国語入門 ... (医・歯・工 ((栄・口・化・光)A1年))/李/後期 月 9・10	610
中国語入門 ... (医・歯・工 ((栄・口・化・光)B1年))/施/後期 月 9・10	611
中国語入門 ... (医 ((保)1年))/荒武/後期 火 3・4	612
中国語入門 ... (工 ((建)1年))/山木/後期 金 7・8	613
中国語入門 ... (工 ((機)1年))/施/後期 水 7・8	614
中国語入門 ... (工 ((生)1年))/李/後期 水 5・6	615
中国語入門 ... (工 ((電 A)1年))/李/後期 火 9・10	616
中国語入門 ... (工 ((電 B)1年))/邵/後期 火 9・10	617
中国語入門 ... (工 ((知)1年))/山木/後期 金 5・6	618

中国語初級

中国語初級 ... (総科 ((総科 A)1年))/田中/後期 月 5・6	619
中国語初級 ... (総科 ((総科 A)1年))/李/後期 水 1・2	620
中国語初級 ... (総科 ((総科 B)1年))/李/後期 月 5・6	621
中国語初級 ... (総科 ((総科 B)1年))/田中/後期 水 1・2	622
中国語初級 ... (総科 ((総科 C)1年))/邵/後期 火 3・4	623
中国語初級 ... (総科 ((総科 C)1年))/李/後期 木 1・2	624
中国語初級 ... (総科 ((総科 D)1年))/李/後期 火 3・4	625
中国語初級 ... (総科 ((総科 D)1年))/邵/後期 木 1・2	626
中国語初級 ... (医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年))/田中/後期 月 9・10	627
中国語初級 ... (医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年))/施/後期 火 9・10	628

日本語

日本語 2 ... (留 (留))/遠藤/後期 月 7・8	629
日本語 4 ... (留 (留))/大石/後期 月 9・10	630
日本語 8 ... (留 (留))/三隅/後期 火 7・8	631

日本語 6 ... (留 (留))/大石/後期 火 9・10.....	632
-------------------------------------	-----

情報科学

情報科学入門 ... (医 ((栄)1 年))/村上/後期 月 3・4.....	633
情報科学入門 ... (医 ((看 A)1 年))/中山/後期 水 1・2.....	634
情報科学入門 ... (医 ((看 B)1 年))/蓮沼/後期 水 1・2.....	635
情報科学入門 ... (医 ((放・検)1 年))/金西/後期 火 9・10.....	636
情報科学入門 ... (歯 ((歯・口)1 年))/河原崎/後期 月 3・4.....	637
情報科学入門 ... (工 ((化 A)1 年))/金西/後期 金 1・2.....	638
情報科学入門 ... (工 ((化 B)1 年))/村上/後期 金 1・2.....	639
情報科学入門 ... (工 ((生 A)1 年))/中山/後期 水 3・4.....	640
情報科学入門 ... (工 ((光)1 年))/香川/後期 水 3・4.....	641

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(総科 ((人文・社創・総理 A)1 年))

米原 晶子・非常勤講師

1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】今日の社会において英語による情報の授受の必要性はもはや論を俟たないであろう。この授業では、実際に使われる英語表現の習得を目的とする。題材としてはドラマの DVD と時事英語を使用して、聴取力・読解力を養っていく。

【授業の概要】DVD を視聴しながらプリントに従い、リスニング、単語の学習、内容理解、背景の説明などを行う。授業の初めには、前週に報じられている国内外の最新ニュース英語の読解を行う。

【キーワード】ドラマ、リスニング、時事英語

【到達目標】

1. 自然なスピードの英語の聞き取りに慣れる。
2. 様々な場面での英語表現に習熟する。
3. ニュース英語の表現に慣れる。

【授業の計画】

1. 授業の説明
2. ドラマ 1
3. ドラマ 2
4. ドラマ 3
5. ドラマ 4
6. ドラマ 5
7. ドラマ 6
8. ドキュメンタリー 1
9. ドキュメンタリー 2
10. ドキュメンタリー 3
11. ドキュメンタリー 4
12. ドキュメンタリー 5
13. ドキュメンタリー 6
14. ドキュメンタリー 7
15. 期末試験
16. まとめ

【教科書】プリントを配布します

【成績評価の方法】予習状況、期末試験、レポートまたは中間試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】普段からラジオ講座等でリスニング力をつけておいてください。日常のニュースにも新聞等で接してください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221148>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 米原 .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(総科 ((人文・社創・総理 A)1 年))

小野原 信善・非常勤講師/全学共通教育センター

1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的情報をいち早く知るためには英語を用いてコミュニケーションを行う能力は不可欠であろう。そのために本演習では英文を確実に音読しながら、言語と文化の関係を探る。

【授業の概要】 全員で英文を音読した後、順番に、英文を訳す。その後、全員で、内容について討論する。そうする中で、世界の諸文化に触れ、我が日本と日本人の文化、アイデンティティ等について考える。

【キーワード】 文化、多様性、アイデンティティ

【到達目標】 格調高い英文を読み、高度の英語力を養いつつ、外国人の価値観や信念形成の仕方を学ぶと共にわれわれ自身のアイデンティティ形成の仕方を探る。

【授業の計画】

1. 文化の疑念
2. アイデンティティ
3. 文化の多様性
4. 価値観
5. 信念

【教科書】 Beneath the Surface (Seibido) Paul Stapleton 著

【参考書等】 小野原信善・大原始子編著 (2004) 『ことばとアイデンティティ』三元社

【成績評価の方法】 学期末試験、平素の授業への取り組み状態、出席状況等を、総合的に判断する。本授業は演習科目であるので、出席は大前提。1 回の欠席で 8 点減点されるので注意されたい。

【再試験の有無】 無 (平常の授業を重んじるため)

【受講者へのメッセージ】 本演習はテーマ別クラスである。高等学校で体験したような、単に英文を日本語に置き換えるだけの作業ではないことに留意されたい。本文を熟考し文化および文化を創り上げた人間を考察することが目的である。日頃の授業で積極的に発言して欲しい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221147>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小野原 (オフィスアワー: 毎週月曜日午後非常勤講師控え室)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(総科 ((人文・社創・総理 A)1 年))

山森 直人・准教授 / 鳴門教育大学

1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 社会のさまざまな場において英語を通して情報を得たり, 人と交流する機会が確実に増えてきている. 英語でコミュニケーションができるようになれば, 多様な言語や文化背景をもつ人々とのネットワークが広がり, 新しい世界や新しい自分と出会う機会が芽生えていく. 英語技能の獲得は確実に自分自身の将来の可能性を広げてくれる. そのためにもまずは「メッセージを理解する」ことをコミュニケーションの基本と考え, 本授業の主題とした. そこで, 本授業は, 受講生の英語理解力 (とくに聴解力) を高めることを目的とする.

【授業の概要】 英語の聴解力を養うためのトレーニングを中心に授業を進める.

【キーワード】 英語, 理解力, リスニング, 聴解力

【到達目標】

1. 受講生各人の到達目標は第 2 回授業での実力試験の結果に基づき設定する.
2. 英語聴解のためのトレーニングを習慣化する.

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 実力試験
3. 実力試験の結果と学習方法に関する講義
4. 英語聴解トレーニング 1
5. 英語聴解トレーニング 2
6. 英語聴解トレーニング 3
7. 英語聴解トレーニング 4
8. 英語聴解トレーニング 5
9. 中間試験
10. 英語聴解トレーニング 6
11. 英語聴解トレーニング 7
12. 英語聴解トレーニング 8
13. 英語聴解トレーニング 9
14. 英語聴解トレーニング 10
15. 最終試験
16. 総括授業

【教科書】 國弘正雄・千田潤一 (監修) 『英会話・ぜったい音読 続・標準編』 講談社 1,200 円 (税別)

【成績評価の方法】 中間試験 (35%), 最終試験 (35%), 小レポート (20%), 受講姿勢 (10%) をもとに評価する.

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 受講生には授業において実施するトレーニングを授業外でも継続的に行い, 習慣化することを期待する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221146>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山森 . (オフィスアワー: 鳴門教育大学 yamamori@naruto-u.ac.jp)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(総科 ((人文・社創・総理 A)1年))

山田仁子・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】英語の文章を聞く力と読み取る力を養い、かつ深いコミュニケーション力を養う

【授業の概要】男女の違い、出身の違い、世代の違いなどによるコミュニケーションの行き違いは、日々の生活や人生に大きな影響を与えてしまう。懸命に会話を交わす事で、よりよい人間関係を築こうとしながら、逆の結果になってしまうことは多い。日本語や英語といった言語を修得していても、言語を実際に使用する際には、より深いコミュニケーションの力が求められる。本授業では、こういったコミュニケーションの問題を扱った文章を読み、英語の力を高めながらも同時にコミュニケーションの力も高めたい。

【キーワード】*rapid reading, listening comprehension*, コミュニケーション能力

【到達目標】

1. 英語で書かれた文章を読み深く理解する能力を高める。
2. コミュニケーションの方法について意識する

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. Chapter 1
3. Chapter 1
4. Chapter 1
5. Chapter 2
6. Chapter 2
7. Chapter 2
8. 中間試験
9. Chapter 3
10. Chapter 3
11. Chapter 3
12. Chapter 4
13. Chapter 4
14. Chapter 4
15. 最終試験
16. 総括授業

【教科書】何故言葉が伝わらないのか (金星堂)

【成績評価の方法】中間試験、最終試験、授業への参加する態度などから、総合的に評価する。

【再試験の有無】なし。

【受講者のメッセージ】予習を必ずすること。予習も成績に反映される。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221156>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(総科 ((人文・社創・総理 A)1 年))

前田 一平 / 鳴門教育大学

1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語文献やインターネット検索の英語情報を正しく理解することは、現代を生きる我々にとって必須の能力・技術・教養である。これを受けて、本授業は英文読解力の養成を目的とする。特にパラグラフ・リーディング (段落ごとに内容を確認し、一節全体の論理的構造を把握し、最終的に主張や主旨および結論を理解する読解方法) の実践による読解力養成を期する。

【授業の概要】 個々の英文については和訳をせず、長い文章や複雑な文章の構造を指摘することを基本とする。不必要な和訳は避け、パラグラフの内容を解読する練習をする。全体の主旨の理解を確認するべく様々な問題練習を行う。練習問題と英文の問題点について常に受講生に質問し、予習状況を確認しながら授業を進める。高等学校までと比較して”one up”の授業を展開する。

【キーワード】 英語リーディング, パラグラフ・リーディング, 英文構造理解, 語彙

【到達目標】 徹底的に英語を読むことによる英語基礎力の伸長と文構造理解。

【授業の計画】

1. Introduction
2. Conclusion/Reasons
3. Analysis
4. Theory/Proof
5. Controversy
6. Comparison/Contrast
7. Classification
8. Midterm exam. (中間試験)
9. Instructions
10. Chronological Order (History)
11. Cause & Effect
12. Process
13. Explanation (New Product)
14. Definition
15. Final exam. (学期末試験)
16. 総括授業

【教科書】 Skills for Better Reading (Revised Edition) (南雲堂)

【参考書等】 英和辞書を常に持参すること。電子辞書の使用も OK だが、購入する場合は英語辞書に『リーダーズ』があるものを推薦する。

【成績評価の方法】 中間試験 (50%) と学期末試験 (50%) を評価の基本とする。これに受講姿勢の評価を加味して総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 予習は不可欠。授業の中で予習と理解の有無を常に確認する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221157>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 前田 (kmaeda@naruto-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: kmaeda@naruto-u.ac.jp 遠距離なので、オフィスアワーを利用することは不可能と思える。ただし、Eメールでの相談・指導は時間を問わず可能である。または、授業後などに相談されたし。)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(総科 ((人文・社創・総理 A)1 年))

吉田 文美・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的な情報をいち早く知るために、英語を用いてコミュニケーションを行う能力は必要不可欠であろう。このクラスでは、英語ニュースや一般書を理解するために最低限必要と思われる読解力、語彙力を身につけ、英語で論文や専門書を読む基礎を養成する。関連した内容のリスニングも行うことで、総合的な英語力の向上をめざす。

【授業の概要】 テキスト Reading Fusion 2 で、文化、科学、環境問題などに関する記事を読み、内容理解、語彙習得、記事に関連した内容のリスニングを行う。学期中に 2 度のテストを行う他、毎回授業中に単語・慣用句の小テストを実施する。授業は学生用コンピューター端末を備えた LL 教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんどで、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】 *reading comprehension, vocabulary building*

【到達目標】

1. 英語の文章を読んで理解する力を高める。
2. 語彙力を高める。

【授業の計画】

1. Class Guidance
2. 1. Art Therapy (The Arts)
3. 2. From Sci-Fi to Reality (Science and Technology)
4. 3. Exporting Labor (Business)
5. 4. Celebrating the Earth (The Environment)
6. 5. Virtual Lives (The Internet)
7. 6. Kidults (Growing and Aging)
8. Midterm Test
9. 7. Genetically Modified Foods (Agriculture)
10. 8. Empires of the Stars (Entertainment)
11. 9. Destination: Mars (Space)
12. 10. Cross-Cultural Friendship (Culture)
13. 11. Muscle Memory (Health)
14. 12. Maritime Piracy (Law and Crime)

15. Final Test

16. Class Review

【教科書】 Andrew E. Bennet. Reading Fusion 2. Nan'un-do, 2010. ¥2310 (tax included)

【成績評価の方法】 学期中に試験を 2 回おこなう他に、授業中に各 Unit の小テストも実施します。Mid-term and final exams (60%), Weekly mini-tests (40%).

【再試験の有無】 なし

【WEB 頁】 <https://lms.medsci.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221155>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 後期/木曜 1-2

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(総科((人文・社創・総理B)1年))

早内-プリングルジュディス・非常勤講師

1単位 後期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammatical ability, reading ability and fluency. Various media forms will be used in this class.

【授業の概要】 Speaking, reading, presentation Notes: 1. Students are expected to speak and write only in English during class. They are expected to work not only in class, but outside of class as well. Homework is required, and they are expected to complete it even if they are absent from class. 2. The following class schedule is tentative and only shows the general contents which will be adjusted due to student input and other factors. There may be other modifications based on class size, etc.

【キーワード】 *Thematic English, fluency, Twilight*

【到達目標】 In today's globalized society, English has become the common language of communication and is necessary for gaining more knowledge of world events, and to process information. This class requires students to put their skills into practice, and while doing so, increase fluency and confidence in using English while also increasing vocabulary and polishing grammatical skills.

【授業の計画】

1. General Class Guidance Introduction; Survey
2. Twilight: Introduction to the movie, book & cultural background
3. Movie Scene 1; listening & reading activities
4. Movie Scene 2; listening & writing activities
5. Movie Scene 3; listening & role play
6. Movie Scene 4; listening & discussion
7. Movie Scene 5; listening & group activity
8. Mid-term evaluation; presentation
9. Movie Scene 6; listening & writing activities
10. Movie Scene 7; listening & role play
11. Movie Scene 8; listening & discussion

12. Movie Scene 9; listening & interview

13. Movie Scene 10; listening & reading

14. Movie Scene 11; listening & discussion

15. Final Evaluation; Presentations Week 1

16. Final Presentations Week 2

【教科書】 Class handouts and other materials will be provided as necessary. Some content will also be student-generated.

【参考書等】 Twilight by Stephenie Meyer; Twilight: The Movie

【成績評価の方法】 Grading will be as follows: Class Attendance and participation (including class activities, homework, etc):50% Mid-term and final evaluations: 20% Skits/Role plays/mini-presentations: 30%

【再試験の有無】 Allowable if student has attendee more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221150>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル (juditheph@yahoo.com) MAIL (オフィスアワー: by appointment only)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(総科((人文・社創・総理B)1年))

樋口友乃・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 グローバル化の時代の中に置かれた私たちは、いまや世界の「共通語」とみなされるようになった英語の運用能力を身に付け、高めていくことを求められている。世界の多様な文化や環境への理解を深めながら、英語の基礎的な語彙や表現を習得し、同時に、リスニング・リーディング能力を高めることがこの授業の目的である。

【授業の概要】 健康や環境に関するニュースの聴き取りをした後にディクテーションや読解を行い、幅広い英語表現を学ぶ。

【到達目標】 基礎的な語彙や表現を確実に身につける。リスニング、リーディング能力を高める

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. Beware of D-Ficiency!
3. Cancer: the World Leading Killer?
4. Vertical Farms to the Resucue
5. No-Smoking City
6. Hot Weather Can Be a Headache
7. No Water? No Problem!
8. 中間試験
9. Just a Little Pinprick
10. Wising Up About Wisdom Teeth
11. Cleaner Coal in Australia
12. Keeping Children Safe
13. What is the Asian Flush?
14. How Green is My Rooftop?
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 『Health & Environment from VOA:How Everyday Life Affects Global Issues VOA で知る健康と環境―屋上菜園から牛ゲノム解読まで』(安浪誠祐/Richard S. Lavin 編著, 松柏社)

【成績評価の方法】 授業への出席・参加状況, 課題の提出状況, 中間テストなどを含めた授業への取組状況(50%)と期末試験(50%)などを元に総合的に評価する(ただし評価割合のおおよその目安は括弧内のパーセントである)。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221151>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(総科 ((人文・社創・総理 B)1 年))

フロスト ダン・非常勤講師

1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To present topical themes encapsulating grammatical patterns. This encourage the student to see modern global values and see English as an important tool in understanding them. It will also aid their ability to respond appropriately to such ideas.

【授業の概要】 The course will consist of a series of themes listed below, which will be explored. Students will be required to produce works on those themes to be presented verbally and in writing to enforce the stated goal. These exercises will be derived from handouts as well as from multimedia presentations. Progression through the themes will depend on the student's ability but hopefully one unit will take two classes.

【到達目標】

1. Through the use of ESL activities build up the skill and confidence level of the students
2. Use group work to promote better exploration of the themes
3. Require presentation of work completed to ensure real understanding of the subject matter covered.

【授業の計画】

1. Nations and Nationalities around the world
2. Brands and Advertising
3. Great People
4. Society, traditions, and problems
5. Dreams, Hopes, and Ambitions

【教科書】 Handouts and other class materials will be given

【成績評価の方法】 Evaluation is based on attendance, participation in class, completion of homework, as well as examinations.

【再試験の有無】 Consideration will be given for reexamination. Meritorious work will also be accepted in lieu of missed assignments. Individual performance will also affect the final grade

【受講者へのメッセージ】 Please always bring dictionary, notebook, pen, pencil, and red pencil to class. Pocket translators can be used.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221149>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ フロスト .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(総科((人文・社創・総理B)1年))

ラックストーンロバート・非常勤講師

1単位 後期 水 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 This class will take a thematic approach to the learning of conversational English. Themes include: excursions, shopping, dining, and personal history.

【授業の概要】 Pronunciation practice, thematic lessons, role-plays and short skits.

【到達目標】 Students will improve their English by considering different situations and themes.

【授業の計画】

1. Introductions
2. Unit 6.1
3. Unit 6.2
4. Unit 7.1
5. Unit 7.2
6. Unit 8.1
7. Quiz One and Skit Preparation
8. Skits
9. Unit 9.1
10. Unit 9.2
11. Unit 10.1
12. Unit 10.2
13. Unit 11.1
14. Unit 11.2
15. Quiz Two and Skit Preparation
16. Skit Day

【教科書】 Jack C. Richards: New Person to Person, Student Book 1

【成績評価の方法】 Quiz 1 25%; Skit 1 25%; Quiz 2 25%; Skit 1 25%

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221152>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ラックストーン .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(総科 ((人文・社創・総理 B)1 年))

田中 孝雄・非常勤講師

1 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 英米文学における「内なる心」と「外なる心」について理解を深める。

【授業の概要】 和歌・英米の詩人、小説家にみられる「内なる心」、英文学における禅について考察し、ウィリアム・ブレイクの詩を鑑賞する。

【キーワード】 英米文学, 詩, 禅

【到達目標】 英米文学を鑑賞しながら理解を深めると同時に、「内なる心」獲得をめざす。

【授業の計画】

1. 和歌における「内なる心」と「外なる心」:至道無難禅師, 若山牧水
2. 北原白秋, 西田幾多郎, 盤珪禅師
3. 英文学における「内なる心」と「外なる心」:Emily Dickinson
4. Nathaniel Hawthorne, Henry James
5. ウィリアム・ブレイクの「四重の幻像」
6. 英文学における禅:禅とは何か, 公案における禅思想, 仏性とは何か
7. 諸行無常の認識と脱執着心
8. 「他者愛」「隣人愛」と「自己愛」「世間愛」
9. J. D. Salinger における禅
10. 文学と禅における「出会い」と「別れ」
11. Dylan Thomas'Wales
12. Robert Burns'Scotland
13. 格調と詩脚, 連と韻, 英詩の種類
14. William Blake's Poems
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 田中孝雄著 (編):『英文学入門』 2007 年 1,000 円。

【参考書等】 松島正一著:『孤高の芸術家 ウィリアム・ブレイク』 北星堂書店 1982 年 5,150 円

【成績評価の方法】 学期末試験, 課題発表及び授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 毎回, 出される課題の準備をして積極的に発表することが期待される。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221154>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田中 . (オフィスアワー: sp-tanaka@kxe.biglobe.ne.jp)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(総科 ((人文・社創・総理 B)1 年))

三宅 恵美・非常勤講師

1 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 本授業では、TOEIC のスコアを伸ばすための応用力をつけることを目的とする。現在のグローバル化社会においては、個人のアドバンテージとして、またその力をもって社会に貢献するために、英語運用能力を身につけることが必須である。TOEIC は現在、多くの企業で、新入社員のレベルチェック、社内語学研修、配属、海外出張、駐在、昇進など様々な場面で活用されており、採用、配属 (グローバル化に伴い、海外部門以外でも英語力を必要とされ、評価される場面は非常に多い)、昇進時に必須となるスキルである。また、TOEIC 学習は文法事項やリスニングのポイントなど項目にしぼった学習が可能なので、自分の弱点を探ったり、その学習項目に絞った効果的な学習が可能である。さらに、学習の持続に重要なのはモチベーションだが、TOEIC 対策学習は目的と方法が明確なのでモチベーションを持続しやすく、最終的には英語運用能力を総合的にレベルアップできる。

【授業の概要】 1. 語彙力、文法力、長文読解力、リスニング力、会話スタイルの英語などについて、実際の TOEIC 問題を、文法項目別、Topic 別に系統立てて学習する。2. DVD など視聴覚教材を用い、楽しみながらリスニング力、語用力、実践力をつける。3. 通訳訓練法を取り入れた練習などでバリエーションをつけながら幅広い学習を行う。4. TOEIC テスト対策を行う

【到達目標】 TOEIC500 点をまずは確実に取得することを目標とする。また試験のテクニックや知識のみならず、英語の実用力をつけることで 500~600 点を目指す。特にリスニング力を上げる。

【授業の計画】

1. インストラクション
2. 交通と情報案内
3. 指示と説明
4. 飲食
5. ビジネス
6. 通信・コミュニケーション
7. 社交
8. 模擬テスト・チャレンジ
9. 招待・案内

10. 医療・保険
11. 文化・娯楽
12. 買い物
13. 運動・フィットネス
14. トラブル・申請
15. 定期試験
16. 総括

【教科書】 Start-up Course for the TOEIC Test, 成美堂 (2,000 円), その他の資料は配付します。

【成績評価の方法】 試験で約 70%, 小テスト, 課題等の平常点で約 30%

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 「必要だ!」と思った時に慌てても、レベルアップが間に合わないのが言語運用能力!今から準備しておきましょう。100%必ず役に立ちます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221153>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 授業開始後連絡します

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 ((医 A)1 年))

山森 直人・准教授 / 鳴門教育大学

1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 社会のさまざまな場において英語を通して情報を得たり, 人と交流する機会が確実に増えてきている。英語でコミュニケーションができるようになれば, 多様な言語や文化背景をもつ人々とのネットワークが広がり, 新しい世界や新しい自分と出会う機会が芽生えていく。英語技能の獲得は確実に自分自身の将来の可能性を広げてくれる。そのためにもまずは「メッセージを理解する」ことをコミュニケーションの基本と考え, 本授業の主題とした。そこで, 本授業は, 受講生の英語理解力 (とくに聴解力) を高めることを目的とする。

【授業の概要】 英語の聴解力を養うためのトレーニングを中心に授業を進める。

【キーワード】 英語, 理解力, リスニング, 聴解力

【到達目標】

1. 受講生各人の到達目標は第 2 回授業での実力試験の結果に基づき設定する。
2. 英語聴解のためのトレーニングを習慣化する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 実力試験
3. 実力試験の結果と学習方法に関する講義
4. 英語聴解トレーニング 1
5. 英語聴解トレーニング 2
6. 英語聴解トレーニング 3
7. 英語聴解トレーニング 4
8. 英語聴解トレーニング 5
9. 中間試験
10. 英語聴解トレーニング 6
11. 英語聴解トレーニング 7
12. 英語聴解トレーニング 8
13. 英語聴解トレーニング 9
14. 英語聴解トレーニング 10
15. 最終試験
16. 総括授業

【教科書】 國弘正雄・千田潤一 (監修) 『英会話・ぜったい音読 続・標準編』 講談社 1,200 円 (税別)

【成績評価の方法】 中間試験 (35%), 最終試験 (35%), 小レポート (20%), 受講姿勢 (10%) をもとに評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 受講生には授業において実施するトレーニングを授業外でも継続的に行い, 習慣化することを期待する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221158>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山森 (オフィスアワー: 鳴門教育大学 yamamori@naruto-u.ac.jp)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 ((医 A)1 年))

ポンド クリストファー・非常勤講師 / 全学共通教育センター

1 単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This class gives students the opportunity to develop their English communicative ability through the exploration and discussion of themes relevant to our modern global world. Practice with speaking, reading, writing and listening will be provided through class activities around a textbook and other media.

【授業の概要】 This is a communicative style class. Students will be expected to take part in various pair-work and small group activities such as role-plays, discussions and information-gap tasks. There will be a short homework activity each week that is necessary preparation for the following week's class. The mid-term and final exams are presentation based.

【到達目標】 In today's globalized society, English has become the common language of communication and is necessary to participate in today's global community. This class requires students to put their skills into practice, and in the process increase fluency and confidence in using English while also increasing vocabulary and polishing grammatical skills.

【授業の計画】

1. Introduction to the class, expectations and getting to know each other.
2. Theme 1: General knowledge quiz
3. Introductory presentations
4. Theme 2: The clown doctor
5. Theme 3: The painter and the writer
6. Theme 4: Books and films
7. Theme 5: Planning a trip
8. Mid-term presentations
9. Theme 6: How to behave abroad
10. Theme 7: Hotels with a difference
11. Theme 8: travelling around
12. Theme 9: The world's favorite food
13. Theme 10: A lifelong passion
14. Theme 11: Writing a biography

15. Final presentations

16. Review

【教科書】 New Headway 3rd Edition Intermediate STUDENT BOOK. Liz and John Soars, Oxford University Press. ISBN-13 9780 1943 87507

【成績評価の方法】 Weekly attendance, active participation and homework are an important part of this course. Students are evaluated as follows: Attendance, participation and homework 50%, mid term presentation 15%, final presentation 35%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【受講者へのメッセージ】 Reading English books and keeping an English diary are both recommended as great ways to improve your English ability. Above all be afraid to take any opportunity to communicate in English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221159>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ポンド .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 ((医 B)1 年))

座喜純・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This Thematic English class designed to assist in developing English abilities in general. Especially, It will focus on Listening, Reading and Writing skills.

【授業の概要】 All classes will be running in ENGLISH language only . There is no specific text book but there will be some other media depending on the 'Theme' which will be selected up to date. Listening and Reading practices will take place during the class hour. As homework, all attendances will be expected to submit an A4 one page report about the 'Theme' within one week after the class. The next class will be a Presentation of some Homework Reports.

【到達目標】 Learners will get more skills as much as themes they put into practice.

【授業の計画】

1. Class outline Guidance
2. Info Clip 1
3. Presentation of Selected Reports
4. Info Clip 2
5. Presentation of Selected Reports
6. Info Clip 3
7. Presentation of Selected Reports
8. Info Clip 4
9. Presentation of Selected Reports
10. Info Clip 5
11. Presentation of Selected Reports
12. Info Clip 6
13. Presentation of Selected Reports
14. Info Clip 7
15. Presentation of Selected Reports
16. General Review

【教科書】 No specific text book but some other media regarding the 'Theme' which will be selected up to date.

【参考書等】 BBC

【成績評価の方法】 All Attendance, Homework fulfillment and Participation in class

【再試験の有無】 No make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Asking questions is very important.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221160>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 座喜 . (オフィスアワー: contact E-mail: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 ((医 B)1 年))

石田 和枝・非常勤講師

1 単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】さまざまな形式で書かれた, さまざまなジャンルの英文に慣れ, 速読できるようにする.

【授業の概要】新聞のスポーツ記事から学術論文の一節に至るまで, 難易度も形式も幅広く異なる英文に数多く取り組むことで, 速読力を養成する.

【キーワード】*rapid reading*

【到達目標】あらゆるジャンルの英文に対応できるようにすること.

【授業の計画】初回の授業時に後期分の詳しい講義計画書を配布する. 授業はその計画書にそって進められていくので, 学生にはそれに合わせて予習・復習することが望まれる. 7 週目には中間試験をする予定である.

【教科書】教科書購入の必要はありません.

【成績評価の方法】中間・期末試験と小テストの成績+日頃の授業に取り組む姿勢

【再試験の有無】原則的に無し

【講師へのメッセージ】3 分の 1 以上欠席すると再受講となりますから各自注意してください.

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221161>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 ((医 C)1 年))

小野原 信善・非常勤講師/全学共通教育センター

1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的情報をいち早く知るためには英語を用いてコミュニケーションを行う能力は不可欠であろう。そのために本演習では英文を確実に音読しながら、言語と文化の関係を探る。

【授業の概要】全員で英文を音読した後、順番に、英文を訳す。その後、全員で、内容について討論する。そうする中で、世界の諸文化に触れ、我が日本と日本人の文化、アイデンティティ等について考える。

【キーワード】文化、多様性、アイデンティティ

【到達目標】格調高い英文を読み、高度の英語力を養いつつ、外国人の価値観や信念形成の仕方を学ぶと共にわれわれ自身のアイデンティティ形成の仕方を探る。

【授業の計画】

1. 文化の疑念
2. アイデンティティ
3. 文化の多様性
4. 価値観
5. 信念

【教科書】Beneath the Surface (Seibido) Paul Stapleton 著

【参考書等】小野原信善・大原始子編著 (2004) 『ことばとアイデンティティ』三元社

【成績評価の方法】学期末試験、平素の授業への取り組み状態、出席状況等を、総合的に判断する。本授業は演習科目であるので、出席は大前提。1 回の欠席で 8 点減点されるので注意されたい。

【再試験の有無】無 (平常の授業を重んじるため)

【受講者へのメッセージ】本演習はテーマ別クラスである。高等学校で体験したような、単に英文を日本語に置き換えるだけの作業ではないことに留意されたい。本文を熟考し文化および文化を創り上げた人間を考察することが目的である。日頃の授業で積極的に発言して欲しい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221162>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 小野原 (オフィスアワー: 毎週月曜日午後非常勤講師控え室)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 ((医 C)1 年))

早内-プリングルジュディス・非常勤講師

1 単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammar ability and fluency. A textbook will be used along with other media forms. Practice in the four skills reading, writing, listening and speaking will be provided during class and through homework.

【授業の概要】 Students are expected to speak and write only in English during class. They are expected to work not only in class, but also outside. Homework is required, and they are expected to complete it even if they are absent from class. The following class schedule is tentative and only shows the general contents which will be adjusted due to student input and other factors. There may be other modifications based on class size, etc.

【キーワード】 *Thematic English, fluency*

【到達目標】 In today's globalized society, English has become the common language of communication and is necessary to gain more knowledge of world events, and process information. This class requires students to put their skills into practice, and in the process increase fluency and confidence in using English while also increasing vocabulary and polishing grammatical skills.

【授業の計画】

1. General Class Guidance Introduction; Survey
2. Twilight: Introduction to the movie, book & cultural background
3. Movie Scene 1; listening & reading activities
4. Movie Scene 2; listening & writing activities
5. Movie Scene 3; listening & role play
6. Movie Scene 4; listening & discussion
7. Movie Scene 5; listening & group activity
8. Mid-term evaluation; presentation
9. Movie Scene 6; listening & writing activities
10. Movie Scene 7; listening & role play
11. Movie Scene 8; listening & discussion

12. Movie Scene 9; listening & interview

13. Movie Scene 10; listening & reading

14. Movie Scene 11; listening & discussion

15. Final Evaluation; Presentations Week 1

16. Final Presentations Week 2

【教科書】 Class handouts and other materials will be provided as necessary. Some content will also be student-generated.

【参考書等】 Twilight by Stephenie Meyer; Twilight: The Movie

【成績評価の方法】 Grading will be as follows: Class Attendance and participation (including class activities, homework, etc):50% Mid-term and final evaluations: 20% Skits/Role plays/mini-presentations: 30%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【受講者へのメッセージ】 Make the most of all opportunities to expand your horizons, and especially when communicating in another language.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221163>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル (juditheph@yahoo.com) MAIL (オフィスアワー: by appointment only)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 ((栄)1年))

山田 紀美・非常勤講師

1単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】現代の食をめぐる話題と英米の伝統的な祝祭と食文化をテーマに取り上げ、専門的語彙や表現を学びつつ、会話力、読解力を身につける。

【授業の概要】各ユニットは、導入の会話、語彙確認、本文、内容把握のための正誤問題などで構成されている。予習を前提に毎回できるだけ全員が発言する機会を設ける。また、CD を利用して、自然な英語を発することが出来るよう訓練する。教科書以外に、食物や医療に関するビデオも視聴し、多角的に英語の運用能力を高める。

【到達目標】食と健康、文化に関する英語に親しみ、読んだり聞いたりして理解できるようになるとともに自分でも発言できるようになることを目標とする。

【授業の計画】

1. Counting Calories
2. A New Sports Tradition
3. As American as Apple Pie
4. The End of Home Cooking?
5. *Nutrition
6. Just Follow the Recipe
7. Supplemental Health / *Vitamins and Supplement
8. Time for Tea
9. Fresh from the Garden
10. Local Delicacies
11. Trick or Treat
12. Giving Thanks
13. Turkey and All the Trimmings
14. From Your Valentine
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】Food for Thought—Eating for Health and Happiness 南雲堂 「授業の計画」の*印は、ビデオで、資料を配布する

【成績評価の方法】授業への取り組み、定期試験などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講へのメッセージ】教科書に添付の CD で聞き読む練習を行うこと。予習を前提に授業を行う。質問などの発言は積極的に。なお、便宜上、シラバスに番号順に列挙してあるが、学生の進捗や関心度に応じて各課の順番は変更する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221164>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山田 .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 (栄)2 年)

米原 晶子・非常勤講師

1 単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】今日の社会において英語による情報の授受の必要性はもはや論を俟たないであろう。この授業では、実際に使われる英語表現の習得を目的とする。題材としてはドラマの DVD と時事英語を使用して、聴取力・読解力を養っていく。

【授業の概要】DVD を視聴しながらテキストに沿って、リスニング、単語の学習、内容理解、背景の説明などを行う。授業の初めには、前週に報じられている国内外の最新ニュース英語の読解を行う。

【キーワード】ドラマ、リスニング、慣用表現

【到達目標】

1. 自然なスピードの英語の聞き取りに慣れる。
2. 時事英語を読めるようにする。
3. 社会的、文化的背景についての理解を深める。

【授業の計画】

1. 授業の説明
2. ドラマ 1
3. ドラマ 2
4. ドラマ 3
5. ドラマ 4
6. ドラマ 5
7. ドラマ 6
8. ドキュメンタリー 1
9. ドキュメンタリー 2
10. ドキュメンタリー 3
11. ドキュメンタリー 4
12. ドキュメンタリー 5
13. ドキュメンタリー 6
14. まとめ
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】プリントを用意します。テキストは使用しません。

【成績評価の方法】予習状況、期末試験などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】普段からラジオ講座等でリスニング力をつけておいてください。また新聞などで日々のニュースに接しておいてください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221165>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 米原 .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 ((保 A)1 年))

上野 加代子・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 ドラマや映画で英語を楽しく学ぶ。

【授業の概要】 ハリウッド映画やドラマ番組でリスニング力を向上させ、役に立つ英語表現をたくさん習得する。

【キーワード】 映画

【到達目標】 英語学習への意欲が高まる

【授業の計画】

1. 授業の説明
2. 映画・ドラマ視聴
3. 映画・ドラマ視聴
4. 映画・ドラマ視聴
5. 映画・ドラマ視聴
6. 映画・ドラマ視聴
7. 映画・ドラマ視聴
8. 映画・ドラマ視聴
9. 映画・ドラマ視聴
10. 映画・ドラマ視聴
11. 映画・ドラマ視聴
12. 映画・ドラマ視聴
13. 映画・ドラマ視聴
14. 映画・ドラマ視聴
15. 学期末試験
16. 総括授業

【教科書】 指定しない

【成績評価の方法】 成績は、学期末試験 (60%)、授業での発言 (20%)、単語テスト (20%) で総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 学期末試験は、授業時間数の 3 分の 2 以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221166>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 毎週水曜日 11 時 40 分 ~ 12 時 40 分)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 ((保 B)1 年))

石田 メグ・非常勤講師

1 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 This English course is more about using the knowledge of English in conversation and written form. In this way, students will be ever ready for service in a global community. Japanese students will be prepared to face a global field without hesitation or insecurity. This course focuses on conversational English, maximizing speaking time spent in the classroom.

【授業の概要】 Students will create their own conversations about topics familiar to them. Classes will include whole, small group and pair activities. Students will be required to take risks and assess their own progress as the course develops. Students who take risks will do well in this class.

【到達目標】 Students who complete this course should feel more confident when speaking or writing in English

【授業の計画】

1. OUTLINE
2. Works
3. Hobbies
4. Dreams
5. Shopping
6. Story Making
7. Tell me -expository-

【教科書】 No textbook is needed, but you do need a dictionary. Handouts will be provided.

【成績評価の方法】 Attendance 10% Class participation 40% Student self-evaluation 10% Final Interview 40%

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 Come to class and participate and you will succeed! The contract for this class follows University guidelines. If more than 4 classes are missed there will be no pass grade for this course. Students more than 20 minutes late are considered absent. If students are late twice it equals one absence. Students should bring a notebook, black and red pens, a pencil, the textbook, and a Japanese-English dictionary with them to class. Do not use ketai phones in class.

Be present and participate. The contents of this class may change according to the level of the students who are participating.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221167>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石田 .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 ((保 C)1 年))

宮田 政徳 准教授 / 大学開放実践センター

1 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 1970 年代最大の米国ポップスグループであるカーペンターズの名曲に触れ、カーペンターズの歌を理解することを目的とする。

【授業の概要】 毎時間 1~2 曲ずつカーペンターズの歌の歌詞の英語を精読し、その歌についての解説を読み、彼らの曲を鑑賞するとともに歌の練習をする。また随時 DVD やビデオによる彼らの映像も紹介する。

【キーワード】 カーペンターズ, 英語のポップス

【到達目標】

1. カーペンターズの歌の意味が分かり、歌を歌えるようになる。
2. カーペンターズの歌の背景を理解する。

【授業の計画】

1. 導入
2. テキスト購読+歌 (I Need To Be in Love)
3. テキスト購読+歌 (We've Only Just Begun & Superstar)
4. テキスト購読+歌 (Rainy Days and Mondays)
5. テキスト購読+歌 (Top Of The World & Sing)
6. テキスト購読+歌 (Only Yesterday)
7. テキスト購読+歌 (Ticket To Ride & Goodbye To Love)
8. テキスト購読+歌 (It's Going To Take Some Time & This Masquerade)
9. テキスト購読+歌 (Sweet, Sweet Smile & I Won't Last a Day Without You)
10. テキスト購読+歌 (Solitaire)
11. テキスト購読+歌 (Please Mr. Postman & Hurting Each Other)
12. テキスト購読+歌 (There's a Kind of Hush)
13. テキスト購読+歌 (For All We Know & Touch Me When We're Dancing)
14. テキスト購読+歌 (Close to You & Yesterday Once More)
15. 期末試験
16. 振り返り

【教科書】 カーペンターズで学ぶ英語; ジェイムズ・ハウス著, (成美堂, 1988 年, 1700 円)

【成績評価の方法】 学期末試験 (85%), 授業への取り組み (15%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験を行う。

【受講者のメッセージ】 出席を重視するので、毎回必ず出席すること。またテキストを忘れたら減点するので注意すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221168>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 宮田 (D304, 088-656-9866, miyata@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日16時10分~17時30分)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 ((放)2年))

樋口友乃・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】グローバル化の時代の中に置かれた私たちは、いまや世界の「共通語」とみなされるようになった英語の運用能力を身に付け、高めていくことを求められている。世界の多様な文化や環境への理解を深めながら、英語の基礎的な語彙や表現を習得し、同時に、リスニング・リーディング能力を高めることがこの授業の目的である。

【授業の概要】健康や環境に関するニュースの聴き取りをした後にディクテーションや読解を行い、幅広い英語表現を学ぶ。

【到達目標】基礎的な語彙や表現を確実に身につける。リスニング、リーディング能力を高める

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. Beware of D-Ficiency!
3. Cancer: the World's Leading Killer?
4. Vertical Farms to the Rescue
5. No-Smoking City
6. Hot Weather Can Be a Headache
7. No Water? No Problem!
8. 中間試験
9. Just a Little Pinprick
10. Wising Up About Wisdom Teeth
11. Cleaner Coal in Australia
12. Keeping Children Safe
13. What is the Asian Flush?
14. How Green is My Rooftop?
15. 定期試験
16. 総括授業

【教科書】『Health & Environment from VOA: How Everyday Life Affects Global Issues VOA で知る健康と環境—屋上菜園から牛ゲノム解読まで』(安浪誠祐/Richard S. Lavin 編著, 松柏社)

【成績評価の方法】授業への出席・参加状況、課題の提出状況、中間テストなどを含めた授業への取組状況 (50%) と期末試験 (50%) などを元に総合的に評価する (ただし評価割合のおおよその目安は括弧内のパーセントである)。

【再試験の有無】なし

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221169>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(医 ((放・検)2年))

宮崎 隆義・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】外国語の理解と習得は、今や国際的な交流や相互の理解に不可欠なことは言うまでもないが、言葉は単なるコミュニケーションのための道具ではない。言葉は、それを使う人々の考え方や文化の基礎を成すものであって、言葉を理解することは、その言葉を使う人々が、外界の事象をどのように捉えているかを理解することであり、その人々の考え方や文化を理解することに通ずる。大学入学時までの力を確認しつつ、大学において必要な基盤となる英語の力をつけることを目的とするが、同時に英語という言葉をしつくりと味わうことによって、英語を使う人々の考え方やその文化も理解したい。

【授業の概要】大学における英語力習得の基盤を踏まえ、さらに自主的にその力を発展させることができるように、主題という観点から多様なトピックに目を向ける。また TOEIC 等の資格試験にも役立つ学習を交えつつ、英語の構造を確認しながら、英語の力をさらに総合的に高める。

【キーワード】総合英語, リーディング, ライティング, リスニング

【到達目標】

1. 英語の 4 技能を伸ばすための基盤を作る。
2. 英語の構造を主にライティングを通して概括的に理解する。
3. 英語運用能力の幅をさらに広げ高める。

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. Is Salt That Bad For You?
3. The Goal is Development
4. Sleep: a Genetic Link?
5. The Healthiest Countries in the World?
6. How Can We Reduce Agricultural Emissions?
7. Loneliness and Social Networks
8. Crop Insurance for Small Farmers
9. Understanding Language and the Brain
10. Too Many People, Not Enough Water
11. How to Live Healthier
12. Watch Out for Pirates!

13. Gelotophobia Is No Laughing Matter

14. Is Genetic Engineering Bad for the Environment?

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】健康と環境を知る—〈塩分と健康の関係〉から〈遺伝子組み換え作物と環境〉まで、松柏社、1900 円。

【成績評価の方法】授業への取り組み状況、小テスト、期末試験の結果等を総合的に判断し単位認定の評価とする。

【再試験の有無】有り

【受講者へのメッセージ】日々の積み重ねを重視してください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221170>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火・木曜日 12 時 ~ 13 時)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(歯 ((歯・口)1年))

魚崎 典子・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】社会がグローバル化する中、英語コミュニケーション能力は必要不可欠になっています。本クラスでは自然な音声英語の聞き取り能力を向上させると同時にことばの文化的背景への理解を深め、更に自らのコミュニケーション能力を向上させることを目的とします。

【授業の概要】映画“HARRY POTTER”シリーズを観てシナリオを読み、リーディング能力及びリスニング能力の向上をはかります。適宜課題や小テストが課せられます。

【到達目標】

1. 自然なスピードで話された音声英語の聞き取りができる。
2. 会話文がスムーズに読める。

【授業の計画】

1. INTRODUCTION
2. Aunt Marge
3. LEAKY CAULDRON
4. Welcome to Another Year at Hogwarts
5. Boggart & Hogsmeads Days
6. You Could Teach Me
7. The Marauder's Map
8. Shrieking Shack
9. Time-Turner
10. Quidditch World Cup
11. The Triwizard Tournament
12. The Champion Selection
13. Horntail
14. Harry Vs. Horntail
15. 期末試験
16. 総括

【教科書】使用しない。随時プリント等を配布する。参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法】小テスト、レポート、学期末試験、授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】リスニング上達のコツはとにかくたくさん聞くことです。日頃からいろいろな英語をよく聞くように心掛けて下さい。学期末試験は、授業時間数の3分の2以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること！

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221171>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 魚崎。(オフィスアワー: 初回の授業でお知らせします。)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(歯((歯・口)1年))

森岡 芳洋・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 基盤英語をふまえて、英語の読解力をさらに伸ばすことを目的とする。

【授業の概要】 アメリカの雑誌 Science News で伝えられた様々な話題を材料にした文章を正確に読み取り、演習問題を解くことを重ねることにより、目標の達成をめざす。

【キーワード】 科学雑誌, 読解力

【到達目標】 英文の正確な読み取り

【授業の計画】

1. 導入
2. Shifting priorities at the wheel
3. Kilimanjaro snow may soon vanish
4. Nanotech powers up paper battery
5. Raft out of Africa
6. Where funny faces come from
7. Tsunami could telegraph arrival
8. New planet-hunter captures quarry
9. Junk food turns rats into addicts
10. Fingerprints filter vibrations
11. Bird's distinct bill offers a big chill
12. Depression drug shifts personality
13. Churning water by the numbers
14. Record low for blood oxygen levels
15. 期末試験
16. まとめ

【教科書】 野崎嘉, 他 (編著) Science Flash (2011) 金星堂 1,950 円 (税別)

【成績評価の方法】 演習への参加と学期末試験とで総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221172>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(薬(薬A1年))

早内-プリングルジュディス・非常勤講師

1単位 後期 火 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammatical ability, reading ability and fluency. Various media forms will be used in this class.

【授業の概要】 Speaking, reading, presentation Notes: 1. Students are expected to speak and write only in English during class. They are expected to work not only in class, but outside of class as well. Homework is required, and they are expected to complete it even if they are absent from class. 2. The following class schedule is tentative and only shows the general contents which will be adjusted due to student input and other factors. There may be other modifications based on class size, etc.

【キーワード】 *Thematic English, fluency, Twilight*

【到達目標】 In today's globalized society, English has become the common language of communication and is necessary for gaining more knowledge of world events, and to process information. This class requires students to put their skills into practice, and while doing so, increase fluency and confidence in using English while also increasing vocabulary and polishing grammatical skills.

【授業の計画】

1. General Class Guidance Introduction; Survey
2. Twilight: Introduction to the movie, book & cultural background
3. Movie Scene 1; listening & reading activities
4. Movie Scene 2; listening & writing activities
5. Movie Scene 3; listening & role play
6. Movie Scene 4; listening & discussion
7. Movie Scene 5; listening & group activity
8. Mid-term evaluation; presentation
9. Movie Scene 6; listening & writing activities
10. Movie Scene 7; listening & role play
11. Movie Scene 8; listening & discussion

12. Movie Scene 9; listening & interview

13. Movie Scene 10; listening & reading

14. Movie Scene 11; listening & discussion

15. Final Evaluation; Presentations Week 1

16. Final Presentations Week 2

【教科書】 Class handouts and other materials will be provided as necessary. Some content will also be student-generated.

【参考書等】 Twilight by Stephenie Meyer; Twilight: The Movie

【成績評価の方法】 Grading will be as follows: Class Attendance and participation (including class activities, homework, etc):50% Mid-term and final evaluations: 20% Skits/Role plays/mini-presentations: 30%

【再試験の有無】 Allowable if student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221173>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル (juditheph@yahoo.com) MAIL (オフィスアワー: By appointment)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(薬 (薬 B1 年))

魚崎 典子・非常勤講師 / 全学共通教育センター

1 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 社会がグローバル化する中、英語コミュニケーション能力は必要不可欠になっています。本クラスでは自然な音声英語の聞き取り能力を向上させると同時にことばの文化的背景への理解を深め、更に自らのコミュニケーション能力を向上させることを目的とします。

【授業の概要】 映画“HARRY POTTER”シリーズを観てシナリオを読み、リーディング能力及びリスニング能力の向上をはかります。適宜課題や小テストが課せられます。

【到達目標】

1. 自然なスピードで話された音声英語の聞き取りができる。
2. 会話文がスムーズに読める。

【授業の計画】

1. INTRODUCTION
2. Aunt Marge
3. LEAKY CAULDRON
4. Welcome to Another Year at Hogwarts
5. Boggart & Hogsmeads Days
6. You Could Teach Me
7. The Marauder's Map
8. Shrieking Shack
9. Time-Turner
10. Quidditch World Cup
11. The Triwizard Tournament
12. The Champion Selection
13. Horntail
14. Harry Vs. Horntail
15. 期末試験
16. 総括

【教科書】 使用しない。随時プリント等を配布する。

【成績評価の方法】 小テスト、レポート、学期末試験、授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 リスニング上達のコツはとにかくたくさん聞くことです。日頃からいろいろな英語をよく聞くように心掛けて下さい。学期末試験は、授業時間数の3分の2以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221174>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 魚崎 . (オフィスアワー: 初回の授業でお知らせします。)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((建 A)1 年))

バロックスザンネ・非常勤講師/全学共通教育センター

1 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 English has become the lingua franca in today's global society. As globalization brings the world closer together, the need for global citizens to be able to communicate clearly in English is becoming more urgent. The aim of this course is to give students the opportunity to practice speaking English with an emphasis on correct pronunciation, rhythm and intonation. Listening to authentic native speaker pronunciation (through DVD and other media) will be an important part of the course. Practice in the four skills reading, writing, listening and speaking will be provided during class and through homework.

【授業の概要】 Students will be expected to take part in a number of role-plays and memorize short skits based on movie scenes. Emphasis will be placed on producing good English pronunciation with natural rhythm and intonation. The following schedule is tentative and shows only general topics for each class. It may be modified depending on students' level and interest.

【到達目標】

1. Students will gain confidence in their pronunciation and speaking skills.
2. Students will have improved listening comprehension and a more thorough understanding of the English phonetic system and other prosodic features of English.

【授業の計画】

1. Introductions
2. Background to The Sound of Music
3. Listening 1: Maria meets the children
4. Listening 2: In Maria's room
5. Listening 3: Song: Do Re Mi
6. Listening 4: The Captain returns
7. Listening 5: Maria returns to the abbey
8. Listening 6: Climb every mountain
9. Listening Test
10. Listening 7: Maria and the Captain
11. Listening 8: Maria and Liesl

12. Listening 9: Escape from Austria

13. The 'real' Maria and her life

14. Listening Test 2

15. Meeting the children 40 years on

16. Consolidation

【教科書】 Handouts will be prepared by the instructor and no textbook is required.

【成績評価の方法】 Students will be assessed on class participation, listening tests and written assignments. Tentative coursework evaluation: Attendance: 30%, Listening Tests: 40%, Written Assignments: 30%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221175>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ バロックス .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((建B)1年))

パトリックジェフ・非常勤講師

1単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 Students will be made aware of global current events and trends and will be exposed to language and expressions that will help them discuss the issues.

【授業の概要】 Every week a different topic is discussed. Those topics will be chosen by the students.

【到達目標】 To gain a broader understanding of current events and the language necessary to discuss it

【授業の計画】

1. The first weekly topic sheet will be handed out & groups formed
2. The first topic will be chosen. The second weekly topic sheet will be handed out
3. Grammar and expressions in the first topic will be practiced. The second topic will be decided.
4. Issues and themes addressed in the first topic will be discussed. Third weekly topic sheets will be handed out.
5. Grammar and expressions in the second topic will be practiced. The third topic will be decided.
6. Issues and themes addressed in the second topic will be discussed. Fourth weekly topic sheets will be handed out.
7. Grammar and expressions in the third topic will be practiced. The fourth topic will be decided.
8. Issues and themes addressed in the third topic will be discussed. The fifth topic sheet will be handed out.
9. 中間試験
10. Grammar and expressions used in the fourth topic will be practiced. The fifth topic will be chosen.
11. Issues and themes addressed in the fourth topic will be discussed. The sixth topic sheet will be handed out.
12. Grammar and expressions used in the fifth topic will practiced. The sixth topic will be chose.

13. Issues and themes addressed in the fifth topic will be discussed.

14. Grammar and expressions used in the sixth topic will be practiced.

15. 期末試験

16. 復習;DVD

【教科書】無し。授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法】作文・態度・期末試験

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】 Bring a good dictionary. We will be using natural college level English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221176>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック .

【備考】旧カリキュラムでは授業科目:英語(2)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((機 A) 1 年))

宮田 政徳 准教授 / 大学開放実践センター

1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 国際語としての英語の実用的な運用能力をつけるために、TOEIC (=Test of English for International Communication) 受験対策を目的とする。

【授業の概要】 TOEIC 試験問題をテーマ別に扱い、そのテーマに関連する語彙を覚えながら、文法事項も項目別に確認し、リスニング問題とリーディング問題を通して解答を探して行く。

【キーワード】 トーイック試験

【到達目標】

1. TOEIC に出てくる日常会話とビジネス関連の語彙が理解できる。
2. TOEIC に出てくる文法事項が理解できる。
3. TOEIC のリスニング、リーディング問題に正しく解答できる。

【授業の計画】

1. 導入
2. 第 1 章: 採用する側の心理は?
3. 第 2 章: インターネットを使いこなそう
4. 第 3 章: いろいろある最近の結婚式
5. 第 4 章: 社員のやる気は会社の雰囲気次第
6. 第 5 章: 幅広い音楽のジャンル
7. 第 6 章: 最近の映画情報をゲットしよう
8. 第 7 章: いろんなところへ行ってみよう!
9. 第 8 章: 有能な人材を探すのは大変
10. 第 9 章: 買い物上手でお金をセーブ
11. 第 10 章: やっぱり見たい天気予報
12. 第 11 章: ところ変われば習慣も変わる
13. 第 12 章: 犯罪を防ぐには?
14. 第 13 章: だんだん高性能になっていく機器
15. 期末試験
16. 期末試験の振り返り

【教科書】 TOEIC テスト・ナビゲーター, ドナルド・ビーバー編 (南雲堂, 2006 年, 1800 円)

【成績評価の方法】 学期末テスト (85%), 及び授業への取り組み (15%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【講師へのメッセージ】 リスニング上達のコツはとにかくたくさん聞くことです。日頃からいろいろな英語をよく聞くように心掛けて下さい。学期末試験は、授業時間数の 3 分の 2 以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221177>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 宮田 (D304, 088-656-9866, miyata@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 16 時 10 分 ~ 17 時 30 分)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((機 A)2 年))

山内 暁彦 准教授 / 大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 理工系の学生用のテキストを用い理系の特有の英語の基礎力を養う。

【授業の概要】 授業で用いるテキストは理工系の分野に関する短い読み物と練習問題から成る。巻末の小テストは随時行なう。

【キーワード】 理工系英語

【到達目標】 理工系の英語の力を向上させることを目的とする。

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. Unit 1. Reading Numbers
3. Unit 2. Natural Numbers
4. Unit 3. Different Kinds of Numbers
5. Unit 4. The Pythagorean Theorem
6. Unit 5. The Calculus
7. 中間テスト
8. Unit 6. Vectors
9. Unit 7. Mechanics
10. Unit 8. Global Warming
11. Unit 9. Elements and Atoms
12. Unit 10. Electricity and Magnetism
13. Unit 11. The Big Bang
14. Unit 12. The Formation of Stars
15. 後期試験
16. 総括授業

【教科書】 上原慎吾他著『Basic English for Engineers and Scientists』金星堂 2008 年 1,800 円

【成績評価の方法】 後期試験 (60%)、中間テスト (30%) および授業への貢献度などの平常点 (10%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 よく予習をしたうえで授業に臨むこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221178>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜日 12時~13時)

【備考】 後期 火 1-2 機械 2 年 A クラス

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((機 B)1 年))

山内 暁彦 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 理工系の学生用のテキストを用い理系の特有の英語の基礎力を養う。

【授業の概要】 授業で用いるテキストは理工系の内容の短い読み物と練習問題から成る。巻末の小テストは随時行なう。

【キーワード】 理工系英語

【到達目標】 理工系の英語の力を向上させることを目的とする。

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. Unit 1. Reading Numbers
3. Unit 2. Natural Numbers
4. Unit 3. Different Kinds of Numbers
5. Unit 4. The Pythagorean Theorem
6. Unit 5. The Calculus
7. 中間テスト
8. Unit 6. Vectors
9. Unit 7. Mechanics
10. Unit 8. Global Warming
11. Unit 9. Elements and Atoms
12. Unit 10. Electricity and Magnetism
13. Unit 11. The Big Bang
14. Unit 12. The Formation of Stars
15. 後期試験
16. 総括授業

【教科書】 上原慎吾他著『Basic English for Engineers and Scientists』金星堂 2008 年 1,800 円

【成績評価の方法】 前期試験 (60%), 中間テスト (30%) および授業への貢献度などの平常点 (10%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 事前の予習が大切である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221179>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜日 12時~ 13時)

【備考】 後期 月 7-8 機械 1 年 B クラス

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((機 B) 2 年))

坂田 浩 准教授 / 国際センター

1 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 学習者自らが学習テーマおよび目標を設定し、試行錯誤しながら学習に取り組む。

【授業の概要】 日本人が英語を学習する際には長期的な自律学習が求められる。そこで、本授業では、①学習者自らが学習テーマおよび目標を設定し、②学習計画を立案し、③その学習計画に基づいて学習を展開し、④評価を行い、必要に応じて目標および計画を修正する、ことを行う。

【キーワード】 自律学習、英語やる気 UP ワークシート

【到達目標】

1. 自らの学習テーマおよび目標を設定することが出来る
2. 目標を達成するための計画を立てることが出来る
3. 学習計画を実行することが出来る
4. 定期的に計画を評価することが出来る
5. 定期的な評価を基に、学習計画および学習目標を修正することが出来る

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 学習目標とテーマを決める
3. 学習計画を立てる
4. 評価方法について考える
5. 「やる気が出ない時」への対応を考える
6. 自律学習実習 (1)
7. 自律学習実習 (2)
8. 自律学習実習 (3)
9. 目標と計画の評価 (1)
10. 自律学習実習 (4)
11. 自律学習実習 (5)
12. 自律学習実習 (6)
13. 自律学習実習 (6)
14. 自律学習実習 (7)
15. 目標と計画の評価 (2), 全体評価
16. まとめ

【教科書】 教員および学生が適時準備

【成績評価の方法】 教員からの評価 (30%), 学生の自己評価 (40%), 各種レポート (30%)

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 本授業を 4 回以上欠席した場合は、成績は出ません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221180>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((機 C)1 年))

吉田 文美・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的な情報をいち早く知るために、英語を用いてコミュニケーションを行う能力は必要不可欠であろう。このクラスでは、英語ニュースや一般書を理解するために最低限必要と思われる読解力、語彙力を身につけ、英語で論文や専門書を読む基礎を養成する。関連した内容のリスニングも行うことで、総合的な英語力の向上をめざす。

【授業の概要】 テキスト Reading Fusion 2 で、文化、科学、環境問題などに関する記事を読み、内容理解、語彙習得、記事に関連した内容のリスニングを行う。学期中に 2 度のテストを行う他、毎回授業中に単語・慣用句の小テストを実施する。授業は学生用コンピューター端末を備えた LL 教室で行い、授業中のワーク、テストのほとんどで、コンピューター・プログラムを利用する。

【キーワード】 *reading comprehension, vocabulary building*

【到達目標】

1. 英語の文章を読んで理解する力を高める。
2. 語彙力を高める。

【授業の計画】

1. Class Guidance
2. 1. Art Therapy (The Arts)
3. 2. From Sci-Fi to Reality (Science and Technology)
4. 3. Exporting Labor (Business)
5. 4. Celebrating the Earth (The Environment)
6. 5. Virtual Lives (The Internet)
7. 6. Kidults (Growing and Aging)
8. Midterm Test
9. 7. Genetically Modified Foods (Agriculture)
10. 8. Empires of the Stars (Entertainment)
11. 9. Destination: Mars (Space)
12. 10. Cross-Cultural Friendship (Culture)
13. 11. Muscle Memory (Health)
14. 12. Maritime Piracy (Law and Crime)

15. Final Test

16. Class Review

【教科書】 Andrew E. Bennet. Reading Fusion 2. Nan'un-do, 2010. ¥2310 (tax included)

【成績評価の方法】 学期中に試験を 2 回おこなう他に、授業中に各 Unit の小テストも実施します。Mid-term and final exams (60%), Weekly mini-tests (40%).

【再試験の有無】 なし

【WEB 頁】 <https://lms.medsci.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221181>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 後期/月 7-8

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((機 C)2 年))

中島 浩二・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 基礎的なニュース英語を耳で聞いて理解できることを目標に、リスニング力および読解力の伸長を図る。

【授業の概要】 VOA (Voice of America) の英語ソースを繰り返し聞いた後で、語彙力や内容理解度をチェックする問題を解く。また、ディクテーション (穴埋め問題) やスクリプトの読解を通して相乗的に英文理解力を向上させる。

【キーワード】 *e-ラーニング*, *Authentic English*, *Twitter in English*

【到達目標】

1. 自然なスピードで話される英語の音声に慣れる。
2. 英語を通じて健康や環境問題について考える。
3. 心に浮かんだことや日常の出来事を英語で表現する癖をつける。

【授業の計画】

1. Class Guidance
2. Beware of D-Ficiency!
3. Beware of D-Ficiency!
4. Cancer: the World's Leading Killer?
5. Cancer: the World's Leading Killer?
6. Vertical Farms to the Rescue
7. Vertical Farms to the Rescue
8. No-Smoking City
9. No-Smoking City
10. Hot Weather Can Be a Headache
11. Hot Weather Can Be a Headache
12. No Water? No Problem!
13. No Water? No Problem!
14. Wrap-Up
15. Final Exam
16. Review

【教科書】 「VOA で知る健康と環境-屋上菜園から牛ゲノム解読まで」 (安浪誠 祐/Richard S. Lavin 編著, 松柏社)

【参考書等】 授業中に指示します。

【成績評価の方法】 課題への取り組み状況 (30%程度), 小テスト (30%程度), 期末試験 (40%程度) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有 (ただし, 課題や小テストへの取り組み状況がよく, 定期試験の得点が一定水準以上の場合に限る)

【受講者へのメッセージ】 英和辞書は必ず持参すること。受身の姿勢では英語力は決して上達しない。ラジオやテレビの英語番組等を利用して能動的に語学学習に取り組むこと。

【WEB 頁】 <http://uzu.ias.tokushima-u.ac.jp/staff/nakasima/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221182>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工((化A)1年))

石田和枝・非常勤講師

1単位 後期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】さまざまな形式で書かれた, さまざまなジャンルの英文に慣れ, 速読できるようにする.

【授業の概要】新聞のスポーツ記事から学術論文の一節に至るまで, 難易度も形式も幅広く異なる英文に数多く取り組むことで, 速読力を養成する.

【キーワード】*rapid reading*

【到達目標】あらゆるジャンルの英文に対応できるようにすること.

【授業の計画】初回の授業時に後期分の詳しい講義計画書を配布する. 授業はその計画書にそって進められていくので, 学生にはそれに合わせて予習・復習することが望まれる. 7週目には中間試験をする予定である.

【教科書】教科書購入の必要はありません.

【成績評価の方法】中間・期末試験と小テストの成績+日頃の授業に取り組む姿勢

【再試験の有無】原則的に無し

【講師へのメッセージ】3分の1以上欠席すると再受講となりますから各自注意してください.

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221183>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((化 B) 1 年))

三浦 博・非常勤講師

1 単位 後期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語の 4 技能 (読む・書く・聴く・話す) の能力の育成を目標とする。コミュニケーションに必要な基本的構文の習得を目指す。日常の会話ができるようにするとともに、英語を通して言語や異文化への関心を高める。

【授業の概要】 授業はテキストに沿って進められる。毎回の授業で Listening の小テストをする。また毎回ではないがテキストに出てくる英単・熟語の小テストをする。

【到達目標】

1. 英語の Listening に慣れ、違和感なく Spoken English を聴けるようになる。
2. Essay (エッセー) の書き方を習い、エッセー (小論文・レポート) が書けるようになる。
3. 英文読解力の向上。

【授業の計画】

1. 授業内容の紹介
2. Looking for Something New
3. Off We Go: Here We Are!
4. Hotel or Resort?
5. Now We Are International Students
6. Easay (小論文・レポート) の書き方
7. Hiromi's Home stay Family
8. Comparing First Impressions
9. Yukiko's Dormitory Life
10. Hiromi finds an Apartment
11. Outing with Other International Students
12. Holiday Season
13. Hey! We Learned a Lot
14. Tears in Eyes
15. 学期末試験
16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 桐原書店編集部 『Hyper Listening (Intermediate)』 桐原書店 630 円

◇ 行時 潔 / Daniel Droukis 著 『Experience an English Program (語学留学に行こう!)』 松柏社 1900 円+税

【成績評価の方法】 Listening Test(15%)+英単・熟語小テスト (15%)+エッセー (20%)+
期末試験 (50%)

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 授業には毎回出席してほしい。また、毎回 Listening の小テスト (家庭学習用 CD 付き) および英単・熟語小テストをするので、これらに関しても予習した方が良い点がとれると思う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221184>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 三浦 (オフィスアワー: 非常勤講師室またはshomachi43211@yahoo.co.jpまで)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((生 A)1 年))

マーシェソ ジェラルド・准教授 / 鳴門教育大学

1 単位 後期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This class will focus on primarily on listening, speaking and writing. Students will complete a variety of integrated tasks to improve their General English ability

【授業の概要】 This class will require students to complete theme-based integrated tasks. Some themes will be general, such as ‘taking vacations’, and other themes will center around the current events and will be decided later (depending on what students wish and what is happening in the news, etc.)

【到達目標】 The purpose of this class is to improve students’ basic English skills. The syllabus will be task based. Tasks will be integrated, targeting a variety of discrete skills. Grammar and vocabulary items will be addressed, but they will be viewed as subservient to meaning, rather than generative and devoid of context. The communicative aspect of language will be at the forefront.

【授業の計画】

1. Introductions / Getting to know your fellow students and teacher
2. Discussing language learning strategies and goals
3. Pronunciation workshop
4. How to take point form notes effectively
5. Using past tense to talk about events
6. Language for cause and effect, drawing conclusions
7. Expressing cause and effect in writing, developing a written argument
8. Preparation for presentations
9. Presentations
10. Using adjectives and descriptive language to describe cities and places
11. Describing your hometown, describing other cities
12. Pragmatically correct usage of various past tenses
13. Describing a vacation you have taken
14. Test practice
15. Test
16. Final class

【教科書】 Students will use material prepared by the instructor and self-generated material. There will be no textbook.

【成績評価の方法】 Presentation: 25 Homework assignments: 25 Speaking test: 25 Participation and attendance: 25

【再試験の有無】 Students who miss the exam or fail to perform adequately will not receive a reexamination except under special circumstances. Sufficient documentation must be provided.

【受講者へのメッセージ】 This is a general English course and will focus on many English skills in an integrated way. You have already learned a lot of grammar but most of you have not had much opportunity to use what you have learned. In this class, you will be required to actually use the English which you have learned in the past. You have all got a lot of English ‘packed’ inside your head. My job as your teacher is to help you get it out; to give you opportunities to speak. I will teach grammar and vocabulary sometimes, but not usually. Many grammar and vocabulary points will come up in the lesson, as you complete work and talk with your classmates. It is very important to ask questions in class, since this will raise important grammar and vocabulary points. Good luck, work hard and have fun

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221193>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ マーシェソ .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工((生A)2年))

山田紀美・非常勤講師

1単位 後期 水 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 いろいろな分野の科学に関するビデオを視聴し、関連の資料を読むことにより、自然な英語に接し、身につけることを目的とする。

【授業の概要】 ビデオに関連した英文を読み、まず概要を把握する。さらに語彙を学習し、要約の聞き取り練習をした後、ビデオを視聴。リスニング問題で内容把握が出来ているか確認する。

【キーワード】 科学技術

【到達目標】 科学的な英語を聞いて読んで理解でき、自らも、内容についての考えが話せるようにする。

【授業の計画】

1. Unit 1 Artificial Intelligence 1
2. Unit 1 Artificial Intelligence 2
3. Unit 2 Dolphins
4. Unit 3 Airplane Flight
5. Unit 4 Health
6. Unit 5 Digital Movies 1
7. Unit 5 Digital Movies 2
8. Unit 6 Sensors
9. Unit 7 Nutrition
10. Unit 8 Robots
11. Unit 9 Information Technology
12. Unit 10 Weather
13. Unit 11 The Sun
14. Unit 12 The International Space Station
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】 ”Science World, Vol. 1” John S. Lander 著 (Asahi Press)

【成績評価の方法】 授業への取り組み、小テスト、定期試験などにより総合的に評価する

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 できるだけ多くの人に答えてもらうので、予習復習をしてきてほしい。質問などの発言は積極的にしてもらいたい

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221194>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山田 .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((生 B)1 年))

ギュンター・ディルク・非常勤講師

1 単位 後期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。

【授業の概要】 ペア練習と(グループ)プレゼンテーションを通じて基本的な文法を復習し、日常生活会話能力を高める。

【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化

【到達目標】

1. 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。
2. 英語を使う自信を高める。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. "Getting To Know You"
3. 単語ミニテスト "Friends & Relationships 1"
4. 単語ミニテスト "Friends & Relationships 2"
5. 単語ミニテスト "Seeking A Job 1"
6. 単語ミニテスト "Seeking A Job 2"
7. 単語ミニテスト "Describing Situations 1"
8. 中間テスト
9. "Just Talk 1"
10. "Just Talk 2"
11. 単語ミニテスト "Describing Situations 2"
12. 単語ミニテスト "歌の聞き取り"
13. 単語ミニテスト "Living Abroad"
14. 単語ミニテスト "Writing A Story"
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 英語での 5 分程度のプレゼンテーション, (カ) 出席。単位取得のためには(ア)~(カ)の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア~カ)の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英語は"ただの勉強しなければならない事"ではなく、言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して、遠慮せずに身に付けた英語を使ったら、その扉を開けることができます。教室でお会いするのを楽しみにしています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221195>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ギュンター。(オフィスアワー: 毎週授業のすぐあと(または、希望により他の時間にも))

【備考】 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((生 B)2 年))

三宅 恵美・非常勤講師

1 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 本授業では、TOEIC のスコアを伸ばすための応用力をつけることを目的とする。現在のグローバル化社会においては、個人のアドバンテージとして、またその力をもって社会に貢献するために、英語運用能力を身につけることが必須である。TOEIC は現在、多くの企業で、新入社員のレベルチェック、社内語学研修、配属、海外出張、駐在、昇進など様々な場面で活用されており、採用、配属 (グローバル化に伴い、海外部門以外でも英語力を必要とされ、評価される場面は非常に多い)、昇進時に必須となるスキルである。また、TOEIC 学習は文法事項やリスニングのポイントなど項目にしぼった学習が可能なので、自分の弱点を探ったり、その学習項目に絞った効果的な学習が可能である。さらに、学習の持続に重要なのはモチベーションだが、TOEIC 対策学習は目的と方法が明確なのでモチベーションを持続しやすく、最終的には英語運用能力を総合的にレベルアップできる。

【授業の概要】 1. 語彙力、文法力、長文読解力、リスニング力、会話スタイルの英語などについて、実際の TOEIC 問題を、文法項目別、Topic 別に系統立てて学習する。2. DVD など視聴覚教材を用い、楽しみながらリスニング力、語用力、実践力をつける。3. 通訳訓練法を取り入れた練習でバリエーションをつけながら幅広い学習を行う。4. TOEIC のテスト対策を行う

【到達目標】 TOEIC500 点をまずは確実に取得することを目標とする。また試験のテクニックや知識のみならず、英語の実用力をつけることで 500~600 点を目指す。特にリスニング力を上げる。

【授業の計画】

1. インストラクション
2. 交通と情報案内
3. 指示と説明
4. 飲食
5. ビジネス
6. 通信・コミュニケーション
7. 社交
8. 模擬テスト・チャレンジ
9. 招待・案内

10. 医療・保険
11. 文化・娯楽
12. 買い物
13. 運動・フィットネス
14. トラブル・申請
15. 定期試験
16. 総括

【教科書】 Start-up Course for the TOEIC Test 成美堂 (2,000 円)、その他の資料は配付します。

【成績評価の方法】 試験で約 70%、小テスト、課題等の平常点で約 30%

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 「必要だ!」と思った時に慌てても、レベルアップが間に合わないのが言語運用能力!今から準備しておきましょう。100%必ず役に立ちます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221196>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 授業開始後お知らせします

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((電 A)1 年))

藪下 克彦 教授 / 鳴門教育大学

1 単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 我々の身の回りでは、好むと好まざるに関わらず「グローバルゼーション」の名のもと、様々な分野で国際化が進行している。そのような国際社会で生きていくためには、実質的国際語である英語によるコミュニケーションを習得することは非常に重要なことである。本授業は、映画を教材に使うことによって、実際の場面で使われる「生きた英語」を体験し、聞くことや話すことなどの「実践的コミュニケーション力」の基礎を養うことを目的とする。

【授業の概要】 まず、最初の 2 回で映画「マトリックス」の全編を視聴しあらすじを把握する。その後の回から、映画の一部分を使って、セリフの聞き取り・内容理解、セリフの書き取り・発話練習などの活動を行う。上記の活動以外に発音 (記号)、文法、文化的背景知識、異文化理解などに関する内容も扱う。

【キーワード】 映画、リスニング、スピーキング、文化的背景知識、異文化理解

【到達目標】

1. 英語で聞いたり話したりすることに関しての抵抗感を克服する。
2. いわゆる「カタカナ英語発音」からの脱却。
3. 「日本語と英語の間に一語対一語対応が存在する」という幻想を捨て去り、談話レベルでの解釈・表現を試みる。

【授業の計画】

1. 映画「マトリックス」前半鑑賞
2. 映画「マトリックス」後半鑑賞
3. "Follow The White Rabbit" Part 1
4. "Follow The White Rabbit" Part 2
5. "The Agents" Part 1
6. "The Agents" Part 2
7. "Down the Rabbit Hole" Part 1
8. "Down the Rabbit Hole" Part 2
9. 中間テスト
10. "There is No Spoon"
11. "Déjà Vu"
12. "Heroes Unplugged"
13. "He is the One"

14. まとめ

15. 期末テスト

16. 総括授業

【教科書】 名作映画完全セリフ集 スクリーンプレイ・シリーズ「マトリックス」(ISBN4-89407-242-4)、株式会社スクリーンプレイ、1、200 円

【成績評価の方法】 中間テスト、期末テスト、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中の使用言語は原則として英語なので、英語を使うことに積極的な態度の人に受講していただきたい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221185>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 藪下 (yabuchan@naruto-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工((電A)2年))

山田仁子・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】英語の文章を聞く力と読み取る力を養い、かつ深いコミュニケーション力を養う

【授業の概要】男女の違い、出身の違い、世代の違いなどによるコミュニケーションの行き違いは、日々の生活や人生に大きな影響を与えてしまう。懸命に会話を交わす事で、よりよい人間関係を築こうとしながら、逆の結果になってしまうことは多い。日本語や英語といった言語を修得していても、言語を実際に使用する際には、より深いコミュニケーションの力が求められる。本授業では、こういったコミュニケーションの問題を扱った文章を読み、英語の力を高めながらも同時にコミュニケーションの力も高めたい。

【キーワード】*listening comprehension, vocabulary building*, コミュニケーション能力

【到達目標】

1. 英語で書かれた文章を読み深く理解する能力を高める。
2. コミュニケーションの方法について意識する

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. Chapter 1
3. Chapter 1
4. Chapter 1
5. Chapter 2
6. Chapter 2
7. Chapter 2
8. 中間試験
9. Chapter 3
10. Chapter 3
11. Chapter 3
12. Chapter 4
13. Chapter 4
14. Chapter 4
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】何故言葉が伝わらないのか (金星堂)

【成績評価の方法】中間テスト、最終テスト、授業への参加する態度などから、総合的に評価する。

【再試験の有無】なし。

【受講者へのメッセージ】予習を必ずすること。予習も成績に反映される。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221186>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工((電B)1年))

樋口友乃・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 グローバル化の時代の中に置かれた私たちは、いまや世界の「共通語」とみなされるようになった英語の運用能力を身に付け、高めていくことを求められている。世界の多様な文化や環境への理解を深めながら、英語の基礎的な語彙や表現を習得し、同時に、リスニング・リーディング能力を高めることがこの授業の目的である。

【授業の概要】 世界の多様な文化や環境に関する素材のディクテーションや読解演習を通して幅広い英語表現を学ぶ。

【到達目標】 基礎的な語彙や表現を確実に身につける。リスニング、リーディング能力を高める

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. 中間試験
9. Unit 7
10. Unit 8
11. Unit 9
12. Unit 10
13. Unit 11
14. Unit 12
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 『Discovery: World Cultures—ビデオで見る世界の文化』(朝日出版社)

【成績評価の方法】 出席状況、課題の提出状況、小テストなどを含めた授業への取組状況 (50%) と期末試験 (50%) などを元に総合的に評価する (ただし評価割合のおおよその目安は括弧内のパーセントである)。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221187>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工((電B)2年))

田中 孝雄・非常勤講師

1単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 英米文学における「内なる心」と「外なる心」について理解を深める。

【授業の概要】 和歌・英米の詩人、小説家にみられる「内なる心」、英文学における禅について考察し、ウィリアム・ブレイクの詩を鑑賞する。

【キーワード】 英米文学, 詩, 禅

【到達目標】 英米文学を鑑賞しながら理解を深めると同時に、「内なる心」獲得をめざす。

【授業の計画】

1. 和歌における「内なる心」と「外なる心」:至道無難禅師, 若山牧水
2. 北原白秋, 西田幾多郎, 盤珪禅師
3. 英文学における「内なる心」と「外なる心」:Emily Dickinson
4. Nathaniel Hawthorne, Henry James
5. ウィリアム・ブレイクの「四重の幻像」
6. 英文学における禅:禅とは何か, 公案における禅思想, 仏性とは何か
7. 諸行無常の認識と脱執着心
8. 「他者愛」「隣人愛」と「自己愛」「世間愛」
9. J. D. Salinger における禅
10. 文学と禅における「出会い」と「別れ」
11. Dylan Thomas'Wales
12. Robert Burns'Scotland
13. 格調と詩脚, 連と韻, 英詩の種類
14. William Blake's Poems
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 田中孝雄著 (編):『英文学入門』2007 年 1,000 円。

【参考書等】 松島正一著:『孤高の芸術家 ウィリアム・ブレイク』 北星堂書店 1982 年 5,150 円

【成績評価の方法】 学期末試験, 課題発表及び授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 毎回, 出される課題の準備をして積極的に発表することが期待される。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221188>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 田中 . (オフィスアワー: sp-tanaka@kxe.biglobe.ne.jp)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工((電C)1年))

三浦博・非常勤講師

1単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】英語の 4 技能 (読む・書く・聴く・話す) の能力の育成を目標とする。コミュニケーションに必要な基本的構文の習得を目指す。日常の会話ができるようにするとともに、英語を通して言語や異文化への関心を高める。

【授業の概要】授業はテキストに沿って進められる。毎回の授業で Listening の小テストをする。また毎回ではないがテキストに出てくる英単・熟語の小テストをする。

【到達目標】

1. 英語の Listening に慣れ、違和感なく Spoken English を聴けるようになる。
2. Essay (エッセー) の書き方を習い、エッセー (小論文・レポート) が書けるようになる。
3. 英文読解力の向上。

【授業の計画】

1. 授業内容の紹介
2. Looking for Something New
3. Off We Go: Here We Are!
4. Hotel or Resort?
5. Now We Are International Students
6. Essay (小論文・レポート) の書き方
7. Hiromi's Home stay Family
8. Comparing First Impressions
9. Yukiko's Dormitory Life
10. Hiromi finds an Apartment
11. Outing with Other International Students
12. Holiday Season
13. Hey! We Learned a Lot
14. Tears in Eyes
15. 学期末試験
16. 総括授業

【教科書】

◇ 桐原書店編集部 『Hyper Listening (Intermediate)』 桐原書店 630 円

◇ 行時 潔 / Daniel Droukis 著 『Experience an English Program (語学留学に行こう!)』 松柏社 1900 円+ 税

【成績評価の方法】 Listening Test (15%) + 英単・熟語小テスト (15%) + エッセー (20%) + 試験 (50%)

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業には毎回出席してほしい。また、毎回 Listening の小テスト (家庭学習用 CD 付き) および英単・熟語小テストをするのでこれらに関するも予習したほうが良い点がとれると思う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221189>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 三浦 .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工((電C)2年))

鎌田 スザーン・非常勤講師

1単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 In today's globalized society, the ability to communicate in English has become increasingly important to gain knowledge of world events and the ability to process technical information. In this class, students will participate in a variety of guided activities meant to foster communication skills. The emphasis will be on communication, as opposed to grammar.

【授業の概要】 This class will be conducted entirely in English. You will be expected to speak, listen, read and write individually, in pairs and in groups. There will be a mid-term test and a final test at the end of the course.

【キーワード】 *English communication*

【到達目標】 To become better at and more comfortable with using English for communication.

【授業の計画】

1. Meeting and Greeting
2. Names
3. Kiss, Bow, or Shake Hands?
4. Prized Possessions
5. Cheers
6. What's the Occasion?
7. Mid-term Test
8. First Dates
9. On the Job
10. A Gift for Me?
11. Feast on This
12. Looking Good
13. That's Shocking!
14. Glued to the Tube
15. Review
16. Final Test

【教科書】 J-Talk: Conversation Across Cultures by Linda Lee, Kensaku Yoshida and Steve Ziolkowski (Oxford University Press)

【成績評価の方法】 Grading will be based on attendance and participation (50%), mid-term test (25%), final test (25%).

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 I hope that students will learn to enjoy using English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221190>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 鎌田 . (オフィスアワー: suekamata@msn.com)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((知 A)1 年))

樋口友乃・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 グローバル化の時代の中に置かれた私たちは、いまや世界の「共通語」とみなされるようになった英語の運用能力を身に付け、高めていくことを求められている。世界の多様な文化や環境への理解を深めながら、英語の基礎的な語彙や表現を習得し、同時に、リスニング・リーディング能力を高めることがこの授業の目的である。

【授業の概要】 世界の多様な文化や環境に関する素材のディクテーションや読解演習を通して幅広い英語表現を学ぶ。

【到達目標】 基礎的な語彙や表現を確実に身につける。リスニング、リーディング能力を高める。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. 中間試験
9. Unit 7
10. Unit 8
11. Unit 9
12. Unit 10
13. Unit 11
14. Unit 12
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 『Discovery: World Cultures—ビデオで見る世界の文化』(朝日出版社)

【成績評価の方法】 出席状況、課題の提出状況、小テストなどを含めた授業への取組状況 (50%) と期末試験 (50%) などを元に総合的に評価する (ただし評価割合のおおよその目安は括弧内のパーセントである)。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221191>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((知 B)1 年))

ニムチャックアーレン・非常勤講師

1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 Students will work on practicing discussion. The goal is for students to be active, not passive in class discussions.

【授業の概要】 Students will discuss a different topic each week, practicing the English necessary for each week's lesson.

【キーワード】 *discussion; communication*

【到達目標】 Students should come to class and try to use only English, without fear of making mistakes. Mistakes will happen, and students should not worry when they make them. Enjoy the class, have fun, and use English.

【授業の計画】

1. Introductions
2. Bookcrossing
3. Names
4. Gender roles
5. Movies
6. Food for thought
7. Winter
8. Mid-term Test
9. Sleep and Dreams
10. Stress
11. Holidays
12. Opinions
13. Weather
14. Gestures
15. Canada
16. Final test

【教科書】 無

【参考書等】 Practical English Textbook - Thematic (¥500) - available from teacher, 2nd week

【成績評価の方法】 Students' grades will be as follows: Attendance = 50% of students' grades. Mid-term test = 25% of students' grades. Final test = 25% of students'

grades. Final grades will consist of an attendance score and test scores. (ie. 50% + 25% + 25% = 100%)

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 Have fun, enjoy and speak English!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221192>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ニムチャック . (オフィスアワー: canadaclubjp@bloom.ocn.ne.jp)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(工 ((光)1 年))

山田仁子・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語を聞いて理解する力を養う。このためには、英語音声に慣れること、語彙力や文法的知識を高めることが必要となる。

【授業の概要】 BBC 放送の番組を編集した DVD 教材を視聴し、まずは大まかな内容を捉え、次に単語や表現など細部まで理解するようにする。

【キーワード】 *listening comprehension, vocabulary building, writing in English*

【到達目標】 英語音声により伝えられる情報を、理解できるようになることを目指す。

【授業の計画】

1. イントロダクション
2. Chapter 1
3. Chapter 2
4. Chapter 3
5. Chapter 4
6. Chapter 5
7. Chapter 6
8. 中間試験
9. 中間試験の返却と講評 / Chapter 7
10. Chapter 8
11. Chapter 9
12. Chapter 10
13. Chapter 11
14. Chapter 12
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 Welcome to BBC on DVD, Seibido

【成績評価の方法】 中間試験、最終試験、授業への参加する態度などから、総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし。

【受講者へのメッセージ】 授業開始前までに自習用の DVD を視聴し、教科書の問題を解いてくること。また、音声を聞き取り書いたものを毎回提出してもらいます。予

習も成績に反映されます。授業中には積極的に参加する事も期待します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221197>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((人文 A)2 年))

早内-プリングルジュディス・非常勤講師

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammatical ability, reading ability and fluency. A textbook will be used along with other media forms. Practice in the four skills reading, writing, listening and speaking will be provided during class and through homework.

【授業の概要】 Speaking, reading, presentation Notes: 1. Students are expected to speak and write only in English during class. They are expected to work not only in class, but outside of class as well. Homework is required, and they are expected to complete it even if they are absent from class. 2. The following class schedule is tentative and only shows the general contents which will be adjusted based on student input. There may be other modifications based on class size and other factors.

【キーワード】 *Communicative English, fluency*

【到達目標】 In today's globalized society, English has become the common language of communication and is necessary to gain more knowledge of world events, and process information. This class requires students to put their skills into practice, and in the process increase fluency and confidence in using English while also increasing vocabulary and polishing grammatical skills.

【授業の計画】

1. General Class Guidance Introduction; Survey & Interview
2. Presentations: Basic Skills
3. Topic 1: Pop Culture: Trending now: Explore the topic
4. Topic 1: Discuss
5. Topic 1: Expand
6. Topic 2: Health in the News: Explore the topic
7. Topic 2: Discuss & interview
8. Mid-term Evaluation/Group Presentation
9. Topic 3: Regional Events: What's happening in our world? Explore the topic
10. Topic 3: Discuss

11. Topic 3: Expand

12. Topic 4: Technology: Innovations that have changed our world: Explore the topic

13. Topic 4: Discuss

14. Topic 4: Expand

15. Final Examination; Individual Presentations 1

16. Individual Presentations 2

【教科書】 Class handouts and other materials will be provided as necessary. Some content will also be student-generated.

【成績評価の方法】 Grading will be as follows: Class Attendance and participation (including homework, etc):40% Mid-term and final examinations: 20% Presentations: Individual & Group: 20% Media & Current Event Journal: 20%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221198>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル (juditheph@yahoo.com) MAIL (オフィスアワー: by appointment only)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科((人文B)2年))

フロスト ダン・非常勤講師

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 Let the students recognize the global value and necessity of English by presenting topics relevant to modern life. In this way expand the student's grasp of spoken English and their ability to respond appropriately.

【授業の概要】 The course will consist of a series of exercises to enforce the stated goal. These exercises will be derived from the textbook as well as from outside materials.

【到達目標】 Through the use of ESL activities build up the skill and confidence level of the students

【授業の計画】

1. Class weekly-schedule: We will follow a systematic overview of important spoken patterns. Speed depends on class comprehension and level. Generally we strive to cover one pattern over 2 classes but may repeat if needed. The patterns will work in a cumulative manner. This schedule will also depend on collateral ESL activities undertaken.
2. Coursework: Assignments will be given based on the need for reinforcement. These regular tasks count toward the final grade. Optional assignments may be added or suggested.
3. An outline of patterns: Self Introduction: present-past. Travel: Past Perfect. Transportation and Services: Adverbs, Wh questions. Travel: Future and necessity Instructions: Sequences. Contrasts: Past Present Comparisons. Jobs, Machines, and Descriptions; Things we do and have.

【教科書】 Class handouts and other materials to be given at the appropriate points.

【成績評価の方法】 Evaluation is based on attendance, participation in class, completion of homework, and examination

【再試験の有無】 Consideration will be given for reexamination. Meritorious work will also be accepted in lieu of missed assignments and will affect the final grade.

【受講者へのメッセージ】 Please bring dictionary, notebook, pen, pencil, and red pencil. Pocket translators may also be used.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221199>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ フロスト .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((人文C)2年))

スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To develop listening and speaking skills through purposeful interaction.

【授業の概要】 The class will begin with a dictation. We will then do communication activities and complete work from the textbook.

【キーワード】 *Listening, Dictation, Australian culture*

【到達目標】 Students will develop confidence in oral communication and refine their listening skills.

【授業の計画】

1. Geography and Climate
2. Homestays
3. Family Roles
4. Transport
5. The Royal Show
6. Language Schools and Universities
7. South Australia
8. Sport
9. Australian Flora
10. Australian Fauna
11. The Aborigines
12. The Sea
13. Mutliculturalism
14. Australian English
15. Test
16. Review

【教科書】 Modern Life Down Under, Meredith Stephens and Richard Blight

【成績評価の方法】 Speaking Tasks, Homework, Tests

【再試験の有無】 Only possible with a medical certificate or other official documentation.

【受講者へのメッセージ】 Punctuality and regular attendance are extremely important. Up to three absences will be permitted. Students are expected to communicate actively

with all members of the class in English.

【WEB 頁】 <http://lexis.ias.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221200>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

MAIL

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((人文D)2年))

パトリックジェフ・非常勤講師

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to better prepare the student to express ideas and interact in both written and spoken English environments.

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数-複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】

1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介
2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課
3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物
4. 講義:所有代名詞, 天気宿題:天気の作文
5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族
6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動
7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味
8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店
9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔
10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験
11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴
12. 講義:can, could, may 宿題:健康
13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物
14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221201>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科((人文E)2年))

フェネリー, マーク・グレアム

2単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 This course aims to help students to develop their communicative language skills through activities and tasks that require real language use. The policy is to learn by doing and students will be asked to engage in real communication using the skills acquired.

【授業の概要】 Students are expected to take a positive attitude towards participation and preparation and will be required to work in pairs and small groups. Homework and preparation will be expected.

【到達目標】

1. To help students to become confident communicators.
2. Develop active listening skills.

【授業の計画】

1. Introduction: self introductions
2. Shadowing in Conversation
3. Describing People
4. Mini Presentation 1: A Person I Admire
5. Active Listening
6. Talking about daily life
7. Describing Places
8. Reacting in Conversation
9. Mini Presentation 2: A Place I want to Visit
10. Giving Directions
11. Agreeing and Disagreeing
12. Talking About News and Events
13. Mini Presentation 3: My Important NEWS
14. Giving an Opinion
15. Mini Debate
16. Final Assessment

【教科書】 English Firsthand 1 (4th Edition) Student Book with CDs

【成績評価の方法】 Students will be assessed on class participation, homework and performance in mini-presentations. Attendance and participation: 45%,

Homework: 15%, Mini-presentations/debate: 20%, Final Assessment 20%

【再試験の有無】 原則として無し

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221202>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ フェネリー . (オフィスアワー: fenn@shikoku-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((社創 A)2 年))

ギョウターディルク・非常勤講師

2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。

【授業の概要】 ペア練習と(グループ)プレゼンテーションを通じて基本的な文法を復習し、日常生活会話能力を高める。

【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化

【到達目標】

1. 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。
2. 英語を使う自信を高める。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. "Getting To Know You"
3. 単語ミニテスト "Giving Advice 1"
4. 単語ミニテスト "Giving Advice 2"
5. 単語ミニテスト "Planning An Event 1"
6. 単語ミニテスト "Planning An Event 2"
7. 単語ミニテスト "Meeting A Star"
8. 中間テスト
9. "Just Talk 1"
10. "Just Talk 2"
11. 単語ミニテスト "Describing Situations 1"
12. 単語ミニテスト "Describing Situations 2"
13. 単語ミニテスト "Dialogue"
14. 単語ミニテスト "歌の聞き取り"
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 英語での 5 分程度のプレゼンテーション, (カ) 出席。単位取得のためには(ア)~(カ)の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア~カ)の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英語は"ただの勉強しなければならない事"ではなく、言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して、遠慮せずに身に付けた英語を使ったら、その扉を開けることができます。教室でお会いするのを楽しみにしています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221203>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ギョウター .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((社創 B)2 年))

スティーヴンズ, メリディス・アン・講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To develop listening and speaking skills through purposeful interaction.

【授業の概要】 The class will begin with a dictation. This will be followed by a communication exercise. We will learn about Australian society and culture.

【キーワード】 *Listening, Dictation, Australian Culture*

【到達目標】 Students will develop confidence in oral communication and refine their listening skills.

【授業の計画】

1. Geography and Climate
2. Homestays
3. Family Roles
4. Transport
5. The Royal Show
6. Language Schools and Universities
7. South Australia
8. Sport
9. Australian Flora
10. Australian Flora
11. The Aborigines
12. The Sea
13. Multiculturalism
14. Test
15. Review

【教科書】 Modern Life Down Under

【成績評価の方法】 Speaking Tasks, Homework, Tests

【再試験の有無】 Only possible with a medical certificate or other official documentation.

【受講者へのメッセージ】 Punctuality and regular attendance are extremely important. Up to three absences will be permitted. Students are expected to communicate actively with all members of the class in English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221204>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

MAIL

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((社創 C)2 年))

スタージドナルド・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The primary aim of this course is to improve the student's ability to communicate in English in a variety of formal and informal situations.

【授業の概要】 There will be lectures, video presentations, and reading and writing exercises, but the main focus will be on speaking and listening exercises. Class presentations will be an important component, and students will be expected to speak in class and to prepare written summaries of oral presentations given by other students.

【キーワード】 *Communicative English*

【到達目標】 Students who complete this course will have experience using English to describe orally and in writing experiences and opinions of themselves and others. Oral presentation exercises should make students more comfortable in public speaking. In addition, students should have increased confidence in their foreign language ability because they have followed a course given by a foreign instructor entirely in English.

【授業の計画】

1. Course Outline
2. Self-Introduction
3. Discussion on Selected Topic(s)/Video
4. Class Presentations/Summarizing
5. Class Presentations/Summarizing
6. Discussions on Selected Topic(s)/Video
7. Discussions on Selected Topic(s)/Video
8. Mid Term Exam
9. Class Presentations/Summarizing
10. Class Presentations/Summarizing
11. Discussion on Selected Topic(s)/Video
12. Discussion on Selected Topic(s)/Video
13. Discussion on Selected Topic(s)/Video
14. Class Presentations/Summarizing/Course Evaluation
15. Class Presentations/Summarizing/Course Evaluation

16. [Note: This schedule is tentative and may be modified due to class size or other factors.]

【教科書】 There will be teacher handouts and text materials created by students. Students may also be expected to purchase copies, of newspapers for class activities.

【成績評価の方法】 Class presentations and written summaries of presentations, oral/written examinations and participation will be used for evaluation. Tentative evaluation scheme: Presentations=30% (3 X 10%), Examinations=20% (2 X 10%), Participation=50%.

【再試験の有無】 There is no make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Class structure depends on the number of students enrolled. It may be possible to divide the class into smaller groups to facilitate conversation activities.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221205>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または応相談)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((社創 D)2 年))

パトリックジェフ・非常勤講師

2単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to better prepare the student to express ideas and interact in both written and spoken English environments.

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数-複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】

1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介
2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課
3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物
4. 講義:所有代名詞, 天気宿題:天気の作文
5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族
6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動
7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味
8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店
9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔
10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験
11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴
12. 講義:can, could, may 宿題:健康
13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物
14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221206>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ パトリック .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((社創 E)2 年))

座喜純・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This Communicative English class considered to provide a good aid in growing up English communicating abilities.

【授業の概要】 Classes will be running in only ENGLISH language. There is no specific text book but there will be some other media depending on the 'Topic' which will be selected up to date. Listening and Conversational practices will take place during the classes.

【到達目標】 To build up higher self-confidence and more effective communication skills.

【授業の計画】

1. General Guidance
2. Selected Conversation 1
3. Selected Conversation 2
4. Selected Conversation 3
5. Selected Conversation 4
6. Selected Conversation 5
7. Selected Conversation 6
8. Selected Conversation 7
9. Selected Conversation 8
10. Selected Conversation 9
11. Selected Conversation 10
12. Selected Conversation 11
13. Selected Conversation 12
14. Selected Conversation 13
15. Selected Conversation 14
16. Review

【教科書】 No specific text book but there will be some other media depending on the 'Topic' which will be selected up to date.

【成績評価の方法】 Attendance, Homework fulfillment and Participation in class.

【再試験の有無】 There is no make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Asking questions in class is so important.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221207>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 座喜 . (オフィスアワー: contact E-mail: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((総理 a)2 年))

岩佐 憲明・非常勤講師

2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の概要】 未定

【受講者へのメッセージ】 シラバスは後期授業開始前に全学共通教育掲示板で掲示します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221208>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 岩佐 .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((総理 b)2 年))

木里 恭子・非常勤講師/全学共通教育センター

2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 The English style of writing differs from the Japanese style of writing. To be an effective writer in English language, students need to learn the English style of writing in addition to words and grammar rules. The purpose of taking this course is to learn the English method of direct development which will make students' own writing not only clear and convincing, but interesting and readable.

【授業の概要】 Students will learn the paragraph-writing skills in English. The course emphasizes both content and form: to help students express ideas and convey information in writing (1) with logical reasoning and adequate support and (2) with clarity of purpose, organization, and language. The course guides students through the composing process of prewriting, writing, and postwriting.

【キーワード】 *EFL, Composition, Paragraphs, Rhetoric, Academic writing*

【到達目標】 The goal of this course is to help students improve their written communication skills. By the end of the course, students will have an overview of academic writing. They will learn, practice, and master the basic composition skills and strategies.

【授業の計画】

1. Paragraph Organization
2. TS/ SS/ CS
3. Characteristics of Good Writing
4. Unity/ Coherence/ Cohesion
5. Narration
6. Narration
7. Narration
8. MIDTERM EXAM
9. Description
10. Description
11. Description
12. Persuasion
13. Persuasion

14. Persuasion

15. FINAL EXAM

16. Recapitulation

【教科書】 Blanchard, K and Root, C. Ready to Write 2: Perfecting Paragraphs (4th ed.)

【成績評価の方法】 Portfolio Assignments = 60% Midterm & Final = 40%

【再試験の有無】 No make-up exams will be given.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221209>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 木里 . (オフィスアワー: Tue. (Preferred by appointment only.))

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(総科 ((総理 c)2 年))

石田 メグ・非常勤講師

2 単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This English course is more about using the knowledge of English in conversation and written form. In this way, students will be ever ready for service in a global community. Japanese students will be prepared to face a global field without hesitation or insecurity. This course focuses on conversational English, maximizing speaking time spent in the classroom.

【授業の概要】 Students will create their own conversations about topics familiar to them. Classes will include whole, small group and pair activities. Students will be required to take risks and assess their own progress as the course develops. Students who take risks will do well in this class.

【到達目標】 Students who complete this course should feel more confident when speaking or writing in English.

【授業の計画】

1. OUTLINE
2. I think I'd like that job
3. What's playing
4. What are you going to do?
5. How much is this?
6. How was it?
7. How do you make it?

【教科書】 No text is needed. Handouts will be prepared. Please bring your English Japanese Dictionary.

【成績評価の方法】 Attendance 10% Class participation 40% Student self-evaluation 10% Final Interview 40%

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 Come to class and participate and you will succeed! The contract for this class follows University guidelines. If more than 4 classes are missed there will be no pass grade for this course. Students more than 20 minutes late are considered absent. If students are late twice it equals one absence. Students should bring a notebook, black and red pens, a pencil, the textbook, and a Japanese-English dictionary with them to class. Do not use ketai phones in

class. Be present and participate. The contents of this class may vary due to the interests and also the level of the students.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221210>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石田 .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(医 ((看 a)2 年))

座喜純・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This Communicative English class considered to provide very good aid in growing up English communicating abilities.

【授業の概要】 Classes will be running in ENGLISH language only for more practice chance. There is no specific text book but there will be some other media depending on the 'Topic' which will be selected up to date. Listening and Conversational practices will take place during the classes.

【到達目標】 To build up more self-confidence and higher effective communication skills.

【授業の計画】

1. Overall Guidance
2. Selected Conversation 1
3. Selected Conversation 2
4. Selected Conversation 3
5. Selected Conversation 4
6. Selected Conversation 5
7. Selected Conversation 6
8. Selected Conversation 7
9. Selected Conversation 8
10. Selected Conversation 9
11. Selected Conversation 10
12. Selected Conversation 11
13. Selected Conversation 12
14. Selected Conversation 13
15. Selected Conversation 14
16. Review

【教科書】 There is no specific text book but there will be some other media depending on the 'Topic' which will be selected up to date.

【成績評価の方法】 Attendance, Homework fulfillment and Participation in class.

【再試験の有無】 There is no make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Asking questions in class is very important.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221211>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 座喜 . (オフィスアワー: contact E-mail: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(医 (看 b) 2 年))

ポンド クリストファー・非常勤講師 / 全学共通教育センター

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 In today's globalized society the ability to communicate effectively in English is becoming more and more important. This class helps students to develop their communicative ability through the use of in class communicative activities around various, everyday topics. Students will also be given the opportunity to improve other skills such as reading ability, grammatical knowledge, listening skills and as well as build their level of vocabulary.

【授業の概要】 This is a communicative style class. Students will be expected to take part in various pair-work and small group activities such as role-plays, discussions and information-gap tasks. There will be a short homework activity each week that is necessary preparation for the following week's class. The mid-term and final exams are presentation based.

【到達目標】 By the end of this course students will have gained the communicative ability, vocabulary, listening skills and grammar necessary to take part in discussions on everyday topics.

【授業の計画】

1. Introduction to the course, course outline and requirements.
2. Getting to know you talking about you, friends, family and neighbors. Tenses and questions
3. Introductory presentations
4. Getting to know you, talking about friends, family and neighbors. Listening and speaking
5. Getting to know you, talking about friends, family and neighbors. Reading and speaking
6. Everyday English and social expressions. Using a bilingual dictionary.
7. The way we live. Present tenses
8. Mid-term presentation
9. The way we live. Vocabulary and speaking
10. The tales of two cities. Reading and speaking
11. 24/7 society listening and speaking, everyday English
12. Famous people. Present perfect, past simple, for and since

13. Music. Listening and speaking

14. Writing a biography

15. Final presentation

16. Review and feedback

【教科書】 New Headway 3rd Edition Pre-intermediate STUDENT BOOK, Liz and John Soars, Oxford University Press, ISBN-13: 9780 1947 15850

【成績評価の方法】 Weekly attendance, active participation and homework are an important part of this course. Students are evaluated as follows: Attendance, participation and homework 50%, mid term presentation 15%, final presentation 35%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221212>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ポンド .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(医 (看 c) 2 年))

福田, スティーブ・利久・助教 / 全学共通教育センター

2 単位 後期 月 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 実践的な英語コミュニケーション活動を通し、英語での自己表現に慣れ・親しむ。

【授業の概要】 「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」は基本的な思考法や言語運用能力を身に付けことを目的にしている。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視することを定めている。分かるように、英語は言葉であり、言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションとは物事を「伝える」ことや情報を「集める」ことである。講義では英語の「勉強」というより、Speaking と Writing 活動を通し、自分自身のことについて「伝える」練習と、Listening と Reading 活動を通して、他の学生の地元や過去の経験についての情報を「集める」練習を、英語プレゼンテーションを作成しながらする。

【キーワード】 英語プレゼンテーション

【到達目標】 ①英語プレゼンテーションスキルを身につける。 ②英語を使うことに対する自信をつける。 ③これからの大学生活と自分の将来について深く考える。

【授業の計画】

1. 言葉・コミュニケーションとは何かを考える。
2. ミニ・プレゼンにチャレンジをする。
3. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン①の準備をする。
4. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン①の準備をする。
5. ミニ・プレゼン①をする。
6. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン②の準備をする。
7. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン②の準備をする。
8. ミニ・プレゼン②をする。
9. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン③の準備をする。
10. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン③の準備をする。
11. ミニ・プレゼン③をする。
12. ファイナルプレゼンの準備をする。
13. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。
14. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。

15. ファイナルプレゼンをする。

16. ファイナルプレゼンをする。

【教科書】 なし

【参考書等】 マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳) 2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN: 475032163X

【成績評価の方法】 20%ミニ・プレゼン①・②・③ 20%ファイナル・プレゼン 10%授業参加評価 10%宿題 注意:再履修者は他のシラバスになるので、第 1 回目の授業までに連絡をすること。

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221213>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((建 A - 1)2 年))

座喜純・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This Communicative English class planned to give a good assistance in rising up English speaking and communicating abilities.

【授業の概要】 The Classes will be running in ENGLISH language only for more practices chance. There is no specific text book but there will be some other media depending on the 'Topics' which will be selected up to date. Speaking out practices will take place during the classes.

【到達目標】 To create a person with so high self-confidence and effective communication skills.

【授業の計画】

1. Overall Guidance
2. Conversational Topic 1
3. Conversational Topic 2
4. Conversational Topic 3
5. Conversational Topic 4
6. Conversational Topic 5
7. Conversational Topic 6
8. Conversational Topic 7
9. Conversational Topic 8
10. Conversational Topic 9
11. Conversational Topic 10
12. Conversational Topic 11
13. Conversational Topic 12
14. Conversational Topic 13
15. Conversational Topic 14
16. Review

【教科書】 There is no specific text book but there will be some other media depending on the 'Topics' which will be selected up to date.

【成績評価の方法】 Attendance, Homework fulfillment and Participation in class

【再試験の有無】 There is no make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Asking questions in class is very important.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221214>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 座喜 . (オフィスアワー: contact E-mail: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((建 A - 2) 2 年))

宮田 政徳 准教授 / 大学開放実践センター

2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 語学研修や観光旅行でイギリス、アメリカ、カナダなどの英語圏を訪れる際、現地の日常生活の色々な場面で使われる表現を適切な英語を用いて表現できるようになることを目的とする。

【授業の概要】 アメリカやカナダで放送された ESL (English as a Second language) 番組から精選された 15 のスキットをビデオで観る。それから先ずリスニングの練習をし、その後各スキットの場面で使われている重要表現を確認する。最後に友達同士 4, 5 人でそのスキットをロールプレイして英語で演じる。

【キーワード】 日常会話英語、ロールプレイによるスキット

【到達目標】

1. 英語のテレビ放送のスキットの内容を聴き取ることが出来る。
2. スキットの会話の中の重要表現を覚える。
3. スキットを友達とロールプレイして演じることができる。

【授業の計画】

1. Introduction
2. Lesson 1: Greetings
3. Lesson 2: Asking for Directions
4. Lesson 3: Requesting Information
5. Lesson 4: Making Things Clear
6. Lesson 5: Explaining What's Wrong
7. Lesson 6: Going for a Job Interview
8. Lesson 7: Making a Phone Call
9. Lesson 8: Reporting Emergencies (1)
10. Lesson 9: Reporting Emergencies (2)
11. Lesson 10: Getting Invited to a Party
12. Lesson 11: Making Complaints
13. Lesson 12: Asking a Favor
14. Lesson 13: Comparing Things
15. 期末試験
16. 期末試験の振り返り

【教科書】 日常英語; 小野田榮とノエル・ゴスマン著 (金星堂, 2001 年, 2200 円)

【成績評価の方法】 毎回のロールプレイ (50%) と学期末試験 (50%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 出席を重視するので、毎回出席すること。またテキストを忘れてから減点するので注意すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221215>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 宮田 (D304, 088-656-9866, miyata@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日16時10分~17時30分)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((建 B - 1) 2 年))

スティーヴンズ, メリディス・アン・講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To develop listening and speaking skills through purposeful interaction.

【授業の概要】 The class will begin with a dictation. We will then do communication activities and complete work from the textbook.

【キーワード】 *Listening, Dictation, Australian culture*

【到達目標】 Students will develop confidence in oral communication and refine their listening skills.

【授業の計画】

1. Geography and Climate
2. Homestays
3. Family Roles
4. Transport
5. The Royal Show
6. Language Schools and Universities
7. South Australia
8. Sport
9. Australian Flora
10. Australian Fauna
11. The Aborigines
12. The Sea
13. Mutliculturalism
14. Australian English
15. Test
16. Review

【教科書】 Modern Life Down Under, Meredith Stephens and Richard Blight

【成績評価の方法】 Speaking Tasks, Homework, Tests

【再試験の有無】 Only possible with a medical certificate or other official documentation.

【受講者へのメッセージ】 Punctuality and regular attendance are extremely important. Up to three absences will be permitted. Students are expected to communicate actively

with all members of the class in English.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221216>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

MAIL

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((建 B - 2) 2 年))

ポンド クリストファー・非常勤講師 / 全学共通教育センター

2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 In today's globalized society the ability to communicate effectively in English is becoming more and more important. This class helps students to develop their communicative ability through the use of in class communicative activities around different, everyday topics. Students will also be given the opportunity to increase other skills such as reading ability, grammatical knowledge, listening skills and as well as build their level of vocabulary.

【授業の概要】 This is a communicative style class. Students will be expected to take part in various pair-work and small group activities such as role-plays, discussions and information-gap tasks. There will be a short homework activity each week that is necessary preparation for the following week's class. The mid-term and final exams are presentation based.

【到達目標】 By the end of this course students will have gained the communicative ability, vocabulary, listening skills and grammar necessary to take part in discussions on everyday topics.

【授業の計画】

1. Introduction to the course, course outline and requirements.
2. Getting to know you talking about you, friends, family and neighbors. Tenses and questions
3. Introductory presentations
4. Getting to know you, talking about friends, family and neighbors. Listening and speaking
5. Getting to know you, talking about friends, family and neighbors. Reading and speaking
6. Everyday English and social expressions. Using a bilingual dictionary.
7. The way we live. Present tenses
8. Mid-term presentation
9. The way we live. Vocabulary and speaking
10. The tales of two cities. Reading and speaking
11. 24/7 society listening and speaking, everyday English
12. Famous people. Present perfect, past simple, for and since

13. Music. Listening and speaking

14. Writing a biography

15. Final presentation

16. Review and feedback

【教科書】 New Headway 3rd Edition Pre-intermediate STUDENT BOOK, Liz and John Soars, Oxford University Press, ISBN-13: 9780 1947 15850

【成績評価の方法】 Weekly attendance, active participation and homework are an important part of this course. Students are evaluated as follows: Attendance, participation and homework 50%, mid term presentation 15%, final presentation 35%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221217>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ポンド .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((化 A - 1) 2 年))

早内-プリングルジュディス・非常勤講師

2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 To give students opportunities to develop their English abilities through the exploration and discussion of a variety of themes. Students will develop their real-life communicative skills while expanding their vocabulary, grammatical ability, reading ability and fluency. Various media forms will be used in this class.

【授業の概要】 Speaking, reading, presentation Notes: 1. Students are expected to speak and write only in English during class. They are expected to work not only in class, but outside of class as well. Homework is required, and they are expected to complete it even if they are absent from class. 2. The following class schedule is tentative and only shows the general contents which will be adjusted based on student input. There may be other modifications based on class size and other factors.

【キーワード】 *Communicative English, fluency*

【到達目標】 In today's globalized society, English has become the common language of communication and is necessary to gain more knowledge of world events, and process information. This class requires students to put their skills into practice, and provides tools to increase fluency and confidence in using English.

【授業の計画】

1. General Class Guidance Introduction; Survey & Interview
2. Presentations: Basic Skills
3. Topic 1: Pop Culture: Trending now: Explore the topic
4. Topic 1: Discuss
5. Topic 1: Expand
6. Topic 2: Health in the News: Explore the topic
7. Topic 2: Discuss & interview
8. Mid-term Evaluation/Group Presentation
9. Topic 3: Regional Events: What's happening in our world? Explore the topic
10. Topic 3: Discuss
11. Topic 3: Expand

12. Topic 4: Technology: Innovations that have changed our world: Explore the topic

13. Topic 4: Discuss

14. Topic 4: Expand

15. Final Examination; Individual Presentations 1

16. Individual Presentations 2

【教科書】 Class handouts and other materials will be provided as necessary. Some content will also be student-generated.

【成績評価の方法】 Grading will be as follows: Class Attendance and participation (including homework, etc):40% Mid-term and final examinations: 20% Presentations: Individual & Group: 20% Media & Current Event Journal: 20%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221218>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 早内-プリングル (juditheph@yahoo.com) MAIL (オフィスアワー: by appointment only)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((化 A - 2) 2 年))

福田, スティーブ・利久・助教 / 全学共通教育センター

2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 実践的な英語コミュニケーション活動を通し、英語での自己表現に慣れ・親しむ。

【授業の概要】 「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」は基本的な思考法や言語運用能力を身に付けことを目的にしている。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視することを定めている。分かるように、英語は言葉であり、言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションとは物事を「伝える」ことや情報を「集める」ことである。講義では英語の「勉強」というより、Speaking と Writing 活動を通し、自分自身のことについて「伝える」練習と、Listening と Reading 活動を通して、他の学生の地元や過去の経験についての情報を「集める」練習を、英語プレゼンテーションを作成しながらする。

【キーワード】 英語プレゼンテーション

【到達目標】 ①英語プレゼンテーションスキルを身につける。 ②英語を使うことに対する自信をつける。 ③これからの大学生活と自分の将来について深く考える。

【授業の計画】

1. 言葉・コミュニケーションとは何かを考える。
2. ミニ・プレゼンにチャレンジをする。
3. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン①の準備をする。
4. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン①の準備をする。
5. ミニ・プレゼン①をする。
6. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン②の準備をする。
7. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン②の準備をする。
8. ミニ・プレゼン②をする。
9. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン③の準備をする。
10. コミュニケーション活動をしながら、ミニプレゼン③の準備をする。
11. ミニ・プレゼン③をする。
12. ファイナルプレゼンの準備をする。
13. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。
14. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。

15. ファイナルプレゼンをする。

16. ファイナルプレゼンをする。

【教科書】 なし

【参考書等】 マルカム S. ノールズ. (著). 渡辺洋子. (翻訳). 2005 年. 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ. 明石書店. ISBN:475032163X.

【成績評価の方法】 20%ミニ・プレゼン①・②・③ 20%ファイナル・プレゼン 10%授業参加評価 10%宿題 注意:再履修者は他のシラバスになるので、第 1 回目の授業までに連絡をすること。

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221219>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((化 B - 1) 2 年))

フロスト ダン・非常勤講師

2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 Let the students recognize the global value and necessity of English by presenting topics relevant to modern life. In this way expand the student's grasp of spoken English and their ability to respond appropriately.

【授業の概要】 The course will consist of a series of exercises to enforce the stated goal. These exercises will be derived from the textbook as well as from outside materials.

【到達目標】 Through the use of ESL activities build up the skill and confidence level of the students

【授業の計画】

1. Class weekly-schedule: We will follow a systematic overview of important spoken patterns. Speed depends on class comprehension and level. Generally we strive to cover one pattern over 2 classes but may repeat if needed. The patterns will work in a cumulative manner. This schedule will also depend on collateral ESL activities undertaken.
2. Coursework: Assignments will be given based on the need for reinforcement. These regular tasks count toward the final grade. Optional assignments may be added or suggested.
3. An outline of patterns: Self Introduction: present-past. Travel: Past Perfect. Transportation and Services: Adverbs, Wh questions. Travel: Future and necessity. Instructions: Sequences. Contrasts: Past Present Comparisons. Jobs, Machines, and Descriptions; Things we do and have.

【教科書】 Class handouts and other materials to be given at the appropriate points.

【成績評価の方法】 Evaluation is based on attendance, participation in class, completion of homework, and examination

【再試験の有無】 Consideration will be given for reexamination. Meritorious work will also be accepted in lieu of missed assignments and will affect the final grade.

【受講者へのメッセージ】 Please bring dictionary, notebook, pen, pencil, and red pencil. Pocket translators may also be used.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221220>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ フロスト .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((化 B - 2) 2 年))

スタージドナルド・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 火 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The primary aim of this course is to improve the student's ability to communicate in English in a variety of formal and informal situations.

【授業の概要】 There will be lectures, video presentations, and reading and writing exercises, but the main focus will be on speaking and listening exercises. Class presentations will be an important component, and students will be expected to speak in class and to prepare written summaries of oral presentations given by other students.

【キーワード】 *Communicative English*

【到達目標】 Students who complete this course will have experience using English to describe orally and in writing experiences and opinions of themselves and others. Oral presentation exercises should make students more comfortable in public speaking. In addition, students should have increased confidence in their foreign language ability because they have followed a course given by a foreign instructor entirely in English.

【授業の計画】

1. Course Outline
2. Self-Introduction
3. Discussion on Selected Topic(s)/Video
4. Class Presentations/Summarizing
5. Class Presentations/Summarizing
6. Discussions on Selected Topic(s)/Video
7. Discussions on Selected Topic(s)/Video
8. Mid Term Exam
9. Class Presentations/Summarizing
10. Class Presentations/Summarizing
11. Discussion on Selected Topic(s)/Video
12. Discussion on Selected Topic(s)/Video
13. Discussion on Selected Topic(s)/Video
14. Class Presentations/Summarizing/Course Evaluation
15. Class Presentations/Summarizing/Course Evaluation

16. [Note: This schedule is tentative and may be modified due to class size or other factors.]

【教科書】 There will be teacher handouts and text materials created by students. Students may also be expected to purchase copies, of newspapers for class activities.

【成績評価の方法】 Class presentations and written summaries of presentations, oral/written examinations and participation will be used for evaluation. Tentative evaluation scheme: Presentations=30% (3 X 10%), Examinations=20% (2 X 10%), Participation=50%.

【再試験の有無】 There is no make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Class structure depends on the number of students enrolled. It may be possible to divide the class into smaller groups to facilitate conversation activities.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221221>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((知 A - 1) 2 年))

ポンド クリストファー・非常勤講師 / 全学共通教育センター

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 In today's globalized society the ability to communicate effectively in English is becoming more and more important. This class helps students to develop their communicative ability through the use of in class communicative activities around various, everyday topics. Students will also be given the opportunity to improve other skills such as reading ability, grammatical knowledge, listening skills and as well as build their level of vocabulary.

【授業の概要】 This is a communicative style class. Students will be expected to take part in various pair-work and small group activities such as role-plays, discussions and information-gap tasks. There will be a short homework activity each week that is necessary preparation for the following week's class. The mid-term and final exams are presentation based.

【到達目標】 By the end of this course students will have gained the communicative ability, vocabulary, listening skills and grammar necessary to take part in discussions on everyday topics.

【授業の計画】

1. Introduction to the course, course outline and requirements. Introductions
2. Getting to know you talking about you, friends, family and neighbors. Tenses and questions
3. Introductory presentations
4. Getting to know you, talking about friends, family and neighbors. Listening and speaking
5. Getting to know you, talking about friends, family and neighbors. Reading and speaking
6. Everyday English and social expressions. Using a bilingual dictionary.
7. The way we live. Present tenses
8. Mid-term presentation
9. The way we live. Vocabulary and speaking
10. The tales of two cities. Reading and speaking
11. 24/7 society listening and speaking, everyday English
12. Famous people. Present perfect, past simple, for and since

13. Music. Listening and speaking

14. Writing a biography

15. Final presentation

16. Review and feedback

【教科書】 New Headway 3rd Edition Pre-intermediate STUDENT BOOK, Liz and John Soars, Oxford University Press, ISBN-13: 9780 1947 15850

【成績評価の方法】 Weekly attendance, active participation and homework are an important part of this course. Students are evaluated as follows: Attendance, participation and homework 50%, mid term presentation 15%, final presentation 35%

【再試験の有無】 Allowable if the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221222>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ポンド .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((知 A - 2) 2 年))

パトリックジェフ・非常勤講師

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to better prepare the student to express ideas and interact in both spoken and written English environments.

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数-複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】

1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介
2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課
3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物
4. 講義:所有代名詞, 天気宿題:天気の作文
5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族
6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動
7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味
8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店
9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔
10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験
11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴
12. 講義:can, could, may 宿題:健康
13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物
14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221223>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ パトリック .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((知 B - 1) 2 年))

福田, スティーブ・利久・助教 / 全学共通教育センター

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 実践的な英語コミュニケーション活動を通し、英語での自己表現に慣れ・親しむ。

【授業の概要】 「学びのファーストステップ」によると、「基盤形成科目」は基本的な思考法や言語運用能力を身に付けことを目的にしている。その中、「発信型英語」は能動的に運用するコミュニケーション力を重視することを定めている。分かるように、英語は言葉であり、言葉はコミュニケーションの道具である。コミュニケーションとは物事を「伝える」ことや情報を「集める」ことである。講義では英語の「勉強」というより、Speaking と Writing 活動を通し、自分自身のことについて「伝える」練習と、Listening と Reading 活動を通して、他の学生の地元や過去の経験についての情報を「集める」練習を、英語プレゼンテーションを作成しながらする。

【キーワード】 英語プレゼンテーション

【到達目標】 ①英語プレゼンテーションスキルを身につける。 ②英語を使うことに対する自信をつける。 ③これからの大学生活と自分の将来について深く考える。

【授業の計画】

1. 言葉・コミュニケーションとは何かを考える。
2. ミニ・プレゼンをやってみる。
3. コミュニケーション・ミニプレゼン①の準備活動をする。
4. コミュニケーション・ミニプレゼン①の準備活動をする。
5. ミニ・プレゼン①をする。
6. コミュニケーション・ミニプレゼン②の準備活動をする。
7. コミュニケーション・ミニプレゼン②の準備活動をする。
8. ミニ・プレゼン②をする。
9. コミュニケーション・ミニプレゼン③の準備活動をする。
10. コミュニケーション・ミニプレゼン③の準備活動をする。
11. ミニ・プレゼン③をする。
12. ファイナルプレゼンの準備活動をする。
13. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。
14. ファイナルプレゼンのリハーサルをする。

15. ファイナルプレゼンとまとめ・振り返り。

16. ファイナルプレゼンとまとめ・振り返り。

【教科書】 なし

【参考書等】 マルカム S. ノールズ. (著). 渡辺洋子. (翻訳). 2005 年. 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ. 明石書店. ISBN:475032163X.

【成績評価の方法】 20%ミニ・プレゼン①・②・③ 20%ファイナル・プレゼン 10%授業参加評価 10%宿題 *再履修者は他のシラバスになるので、第 1 回目の授業までに連絡をすること。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 1

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221224>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((知 B - 2) 2 年))

マーシェソ ジェラルド・准教授 / 鳴門教育大学

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to give students an opportunity to use the skills they have developed in the past, for practical and communicative purposes

【授業の概要】 Students will complete a variety of tasks which follow several themes through the course of the term. Themes include 'talking about cities and places around the world', 'vacations students have taken or would like to take' and 'describing events and drawing conclusions from evidence'.

【到達目標】 The purpose of this class is to improve English communicative and productive skills. Students will develop confidence as they use English for a variety of functions. Grammar and vocabulary will be dealt with sometimes, but they will arise in context, from students' need to communicate as they complete tasks, rather than being introduced by the teacher without context. Language form will not be viewed as generative, but subservient to communication.

【授業の計画】

1. Introductions / Getting to know your fellow students and teacher
2. Pronunciation workshop
3. Using past tenses to describe your life
4. Describing other people's life and abilities
5. Presentation preparation
6. Presentations
7. Using present tense to talk about University life
8. Comparing Universities in Canada and Japan
9. Using adjectives to talk about neighborhoods in Tokushima
10. Using adjectives to describe various cities
11. Describing your hometown
12. Describing cities and countries around the world
13. Describing neighborhoods in Toronto
14. Choosing an apartment in Toronto (group decision task)
15. Test
16. Final class

【教科書】 Students will use material prepared by the instructor and self-generated material. There will be no textbook.

【成績評価の方法】 Speaking test: 25%, Presentation: 25%, Homework and participation: 30%, Attendance: 20%

【再試験の有無】 Students who miss the exam or fail to perform adequately will not receive a reexamination except under special circumstances. Sufficient documentation must be provided.

【受講者へのメッセージ】 This is a practical English class, which means the focus will be on communication. You have already learned a lot of grammar but most of you have not had much opportunity to use what you have learned. In this class, you will be required to actually use the English which you have learned in the past. You have all got a lot of English 'packed' inside your head. My job as your teacher is to help you get it out; to give you opportunities to speak. I will teach grammar and vocabulary sometimes, but not usually. Many grammar and vocabulary points will come up in the lesson, as you complete work and talk with your classmates. It is very important to ask questions in class, since this will raise important grammar and vocabulary points.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221225>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ マーシェソ .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工((光A)2年))

ラックストーンロバート・非常勤講師

2単位 後期 水 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to improve English conversational ability. We will do textbook exercises, role-plays and skits. Students will increase their confidence about speaking English.

【授業の計画】

1. Introductions
2. Unit 7.1
3. Unit 7.2
4. Unit 8.1
5. Unit 8.2
6. Unit 9.1
7. Quiz One and Skit Preparation
8. Skit Day
9. Unit 10.1
10. Unit 10.2
11. Unit 11.1
12. Unit 11.2
13. Unit 12.1
14. Unit 12.2
15. Quiz Two and Skit Preparation
16. Skit Day

【教科書】 Jack C. Richards: New Person to Person, Student Book 2

【成績評価の方法】 Quiz 1 25%; Skit 1 25%; Quiz 2 25%; Skit 1 25%

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221226>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ラックストーン .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(工 ((光 B)2 年))

ギンター ディルク・非常勤講師

2 単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 英語のコミュニケーション能力を高める。

【授業の概要】 ペア練習と(グループ)プレゼンテーションを通じて基本的な文法を復習し、日常生活会話能力を高める。

【キーワード】 現代英語, コミュニケーション, 外国文化

【到達目標】

1. 英語で話しをしたり英語を聞くことに対する抵抗感を無くす。
2. 英語を使う自信を高める。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. ” Getting To Know You”
3. 単語ミニテスト ”Giving Advice 1”
4. 単語ミニテスト ”Giving Advice 2”
5. 単語ミニテスト ”Planning An Event 1”
6. 単語ミニテスト ”Planning An Event 2”
7. 単語ミニテスト ”Meeting A Star”
8. 中間テスト
9. ”Just Talk 1”
10. ”Just Talk 2”
11. 単語ミニテスト ”Describing Situations 1”
12. 単語ミニテスト ”Describing Situations 2”
13. 単語ミニテスト ”Dialogue”
14. 単語ミニテスト ”歌の聞き取り”
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト, (イ) 中間テスト, (ウ) 期末テスト, (エ) 授業への積極的な参加, (オ) 英語での 5 分程度のプレゼンテーション, (カ) 出席。単位取得のためには(ア)~(カ)の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア~カ)の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 英語は”ただの勉強しなければならない事”ではなく、言葉通り「世界への扉」です。授業によく参加して、遠慮せずに身に付けた英語を使ったら、その扉を開けることができます。教室でお会いするのを楽しみにしています。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221227>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ギンター .

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(医・歯 ((栄・口)1年))

今井 晋哉・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 月 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】 本科目は、第二外国語を学び始めた学生が、ドイツ語の基礎を日常的会話表現に重点を置きながら学習し、また学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する初歩的能力を習得することを目的としている。また、併せて現代ドイツ事情についても、少々紹介してみたい。この授業を通じて、英語圏以外の外国文化に触れることにより、受講生の皆さんの視野が少しでも広がれば、と考えている。

【授業の概要】 前期に引き続き、この授業では、日常生活上の具体的な場面に即したドイツ語の会話表現やテキストを理解するとともに、学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する演習を重点的に行いたい。具体的には、パートナーとの練習をも交えた基本文型の学習、関連基本語彙や初級文法の基礎の学習、テキストの読解、教科書付属のCDを用いた聞き取り練習、口頭あるいは筆記によるドイツ語の表現練習などを授業時に、あるいは家庭学習としてやってもらい、毎回できるだけ多くの受講者にその成果を発表してもらおうと考えている。また、各種のビデオなどを用いながら、現代ドイツ事情についても、少々紹介してみたい。

【キーワード】 対話文、初級文法、テキストの読解、現代ドイツ事情

【到達目標】

1. 日常的な場面に即してドイツ語の基礎を理解し、また初歩的なドイツ語の表現能力を習得すること。
2. 現代ドイツの社会や文化に関心を持ち、その一端を理解すること。

【授業の計画】

1. 以下は、各回でとりあげる場面や関連文法項目などを示している。なお、以下の計画は暫定的なものであって、実際の授業の進行によっては、変更もあり得る。
2. 第1-4回: 語学コース (不規則動詞の現在人称変化, 名詞の複数形, 名詞の3格)
3. 第5回: コラム ~ 世界に誇るアウトバーン
4. 第6-9回: 学生食堂で (前置詞と名詞の格, 副文)
5. 第10回: コラム ~ 無賃乗車はダメ

6. 第11-14回: お医者さん (人称代名詞の3-4格, 再帰代名詞と再帰動詞, 名詞の2格)

7. 第15回: 期末試験

8. 第16回: 総括授業

【教科書】 清野智昭『ドイツ語の時間』(文法補足集付き)[CD/DVD付き][朝日出版社, 2007年]。

【参考書等】 プリント教材・資料を配付する場合もある。

【成績評価の方法】 平常点 (=授業中の発表や教員とのやりとりに対する評価), 中間試験および期末試験による。平常点の比重が、全体の2割程度を占めることになるであろう。

【再試験の有無】 行う場合もある。

【受講者へのメッセージ】 せっかく新しく学習しかけた外国語の科目なのだから、ドイツ語とドイツの社会や文化に対する好奇心をもって積極的な姿勢で受講してほしい。単に出席しているだけでは、あまり意味はない。毎回指示される家庭学習も怠らないように。なお、初回の授業時に指定の教科書を必ず持参すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221228>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(医 (看)1 年)

ギュンター デルク・非常勤講師

1 単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 今まで学習したドイツ語の基礎文法を応用し、会話能力を高める。
ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。

【授業の概要】 表現力 (会話、筆記、聞き取り) の能力を高める。今まで学習した内容を応用して、自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や、発表など、授業への積極的な参加が望まれる。

【キーワード】 現代ドイツ語、コミュニケーションの力、ドイツ文化

【到達目標】 基本的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。

【授業の計画】

1. 前期の復習
2. 行きたい所を説明する・前置詞 1
3. 部屋の予約・前置詞 2
4. レストランのメニューを読む
5. 道の案内、交通手段
6. 動詞の現在完了形 1
7. 動詞の現在完了形 2
8. 中間テスト
9. 中間テストの復習
10. ドイツの国・現代社会・文化について 2
11. ドイツ語で買い物をする
12. ドイツの青空市場で買い物をする (値段の交渉等)
13. ドイツ旅行で役に立つ表現 1
14. ドイツ旅行で役に立つ表現 2
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【教科書】 前期で使った教科書

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト、(イ) 中間テスト、(ウ) 期末テスト、(エ) 授業への積極的な参加、(オ) 出席。単位取得のためには (ア)~(オ) の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア~オ) の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 ドイツ語は難しい言葉ですが山登りと一緒に、途中は大変でも、頂上について話せるようになるととても楽しいものです。楽しい授業にしようと思いますので、一緒に頑張りましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221229>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ギュンター .

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(医 ((放・検)1年))

井戸 慶治・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】 ドイツ語の基礎を習得し、またドイツ事情に触れる。英語以外の外国語を学び、英語圏以外の外国の事情や文化を知ることが、偏りのない健全な国際感覚を持つために必要であり、知的な刺激を得るためにも有益である。ドイツはヨーロッパにおける日本の重要な貿易や文化交流の相手であり、かつて板東収容所でドイツ人捕虜が「第九」を初演したことなどにより、徳島との関連も深い。

【授業の概要】 読章、文法説明、練習問題からなる総合的な教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確実なものにしてゆくため、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ事情、ドイツ文化を紹介する。

【到達目標】 ドイツ語文法の基本や簡単な表現を理解し、応用すること。

【授業の計画】

1. 導入
2. 動詞の3基本形・過去人称変化
3. 接続詞
4. 完了時称
5. 分離動詞・非人称動詞
6. zu 不定詞
7. 形容詞
8. 中間試験
9. 比較
10. 受動
11. 現在分詞・過去分詞
12. 関係代名詞
13. 接続法
14. 接続法(2)
15. 期末試験
16. 予備

【教科書】 「行ってらっしゃい」(朝日出版社)。

【成績評価の方法】 中間試験、期末試験、平常点(小テスト、授業への取り組み方など)で総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【講師へのメッセージ】 出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221230>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日16-17時, 3号館1階学習支援室。)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(薬(薬A1年))

曾田 紘二

1単位 後期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】ドイツ語の運用能力を身に付ける。ドイツ語学習を通じて異文化を理解する。 ⇒ 曾田 .

【授業の概要】ドイツ語で使用される文字と読み方および文法を勉強し、読解力を身に付ける。基礎的な問いと答えの文を憶える。

【キーワード】文字・表記, 発音, 文法, 表現

【到達目標】1. ドイツ語文を正しく読めるようにする。2. 辞書を使ってドイツ語文を読解できるようにする。3. ドイツ語で基本的な問いと答えができるようにする。

【授業の計画】

1. 人を問う問い方
2. 不定冠詞, 練習問題
3. 挨拶の表現 1
4. 挨拶の表現 2, 人称代名詞
5. 人称代名詞, 練習問題
6. 時刻の表現 1
7. 時刻の表現 2, 分離動詞
8. 分離動詞, 練習問題
9. 中間試験, 電話での会話 1
10. 電話での会話 2, 前置詞, 命令文
11. 前置詞, 命令文, 練習問題
12. 大学生の会話 1, 再帰代名詞, 再帰動詞
13. 再帰代名詞, 再帰動詞, 練習問題
14. 大学生の会話 2, 未来形, 接続詞, 動詞の三基本形
15. 期末試験
16. まとめ

【教科書】信岡資生『新しいドイツ語の時間』第三書房, 2006年。

【成績評価の方法】中間試験5割, 期末試験5割。

【再試験の有無】再試験

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221231>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(薬 (薬 B1 年))

ヘルベルト ウォルフガング・講師 / 大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける。
ドイツ語だけではなく、外国語の学習方法も指導します

【授業の概要】ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、慣習、考え方、ライフスタイル等も紹介します。日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話を練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文を作ったりします。

【到達目標】ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きができるようになること。基礎文法を身につけること。

【授業の計画】

1. オリエンテーション, 前期の復習
2. 持ち物, 指示代名詞, 不定代名詞, 否定代名詞の 4 格
3. 品物の感想, 形容詞
4. 住居, 部屋, 所有代名詞
5. 間取り, 家具の位置, 前置詞
6. 時刻と日付, 一日の生活, 分離動詞 1
7. 生年月日, 大学の年間予定, 分離動詞 2
8. 大学, 道案内 1, 副詞 (場所) 命令形
9. 交通手段, ドイツの大学, 学生の生活, 前置詞 (方向)
10. 地図の読み方, 道案内 2
11. 休暇の計画 (活動, 名所, 期間, 同伴者等)
12. 手紙の書き方, 話法の助動詞
13. 過去の表現, 天気
14. 日記, 現在完了形
15. 期末試験
16. 纏め, 質疑応答

【教科書】

- ◇ Szenen 1 integriert
- ◇ 佐藤修子, 下田恭子, H. Papenthin, G. Oldehaver: 場面で学ぶドイツ語, CD 付きスツェーネン 1, 三修社

【成績評価の方法】学期末試験, 小テスト, 宿題, 出席, 授業への取り組み状況により総合的に評価します。抜き打ちテストあり

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】居眠り厳禁

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221232>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 16.15h-17.30h (総合科学部 1 号館 1 階 N06))

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工 ((建)1年))

ギュンター デルク・非常勤講師

1単位 後期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 今まで学習したドイツ語の基礎文法を応用し、会話能力を高める。
ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。

【授業の概要】 表現力 (会話、筆記、聞き取り) の能力を高める。今まで学習した内容を応用して、自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や、発表など、授業への積極的な参加が望まれる。

【キーワード】 現代ドイツ語、コミュニケーションの力、ドイツ文化

【到達目標】 基本的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。

【授業の計画】

1. 前期の復習
2. 行きたい所を説明する・前置詞 1
3. 部屋の予約・前置詞 2
4. レストランのメニューを読む
5. 道の案内、交通手段
6. 動詞の現在完了形 1
7. 動詞の現在完了形 2
8. 中間テスト
9. 中間テストの復習
10. ドイツの国・現代社会・文化について 2
11. ドイツ語で買い物をする
12. ドイツの青空市場で買い物をする (値段の交渉等)
13. ドイツ旅行で役に立つ表現 1
14. ドイツ旅行で役に立つ表現 2
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【教科書】 前期で使った教科書

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト、(イ) 中間テスト、(ウ) 期末テスト、(エ) 授業への積極的な参加、(オ) 出席。単位取得のためには (ア)~ (オ) の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア ~ オ) の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 ドイツ語は難しい言葉ですが山登りと一緒に、途中は大変でも、頂上について話せるようになるととても楽しいものです。楽しい授業にしようと思いますので、一緒に頑張りましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221233>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ギュンター .

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工 ((機 A)1 年))

石川 榮作・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】ドイツ語初級文法の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌 (鱒, 歓喜に寄せてなど) やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】ドイツ文化, 異文化理解, 比較文化, 比較言語, コミュニケーション能力

【到達目標】ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得するとともに、たいいていのドイツ語文章を自由に読むことができる。

【授業の計画】

1. 第 6 課 もつとビールが飲みたいです (副文/接続法第 II 式/接続法第 I 式/)
2. 第 6 課 練習問題
3. 第 7 課 早起きは三文の徳 (分離動詞/話法の助動詞/命令形/zu 不定詞/)
4. 第 7 課 練習問題
5. 第 8 課 久しぶりに会えて嬉しいです (再帰代名詞/再帰動詞/特定の意味のない es を用いた表現の例/時刻/)
6. 第 8 課 練習問題
7. 第 6 課から第 8 課までの総まとめ
8. 中間試験 (第 6 課 ~ 第 8 課)
9. 第 9 課 ベルリン- 過去と現在 (受動態/態の転換/状態受動/序数/zu 不定詞の注意すべき用法/)
10. 第 9 課 練習問題
11. 第 10 課 この道を行けば, 駅に行けますか (定関係代名詞/形容詞の比較変化/形容詞の名詞化/)
12. 第 10 課 練習問題
13. 第 9 課から第 10 課までの総まとめ
14. ドイツ映画鑑賞
15. 定期試験 (第 10 課 ~ 第 12 課)
16. 総括授業

【教科書】改訂版・菊池悦朗 『ドイツ語を楽しく一入門総合教材』 (同学社) 2000 円

【成績評価の方法】授業への取り組みと筆記試験 (中間試験と定期試験) により総合的に評価します。

【再試験の有無】有

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221234>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時~16時)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工 ((機 B)1 年))

ヘルベルト ウォルフガング・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける。
ドイツ語だけではなく、外国語の学習方法も指導します

【授業の概要】ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、慣習、考え方、ライフスタイル等も紹介します。日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話を練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文を作ったりします。

【到達目標】ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きができるようになること。基礎文法を身につけること。

【授業の計画】

1. オリエンテーション, 前期の復習
2. 持ち物, 指示代名詞, 不定代名詞, 否定代名詞の 4 格
3. 品物の感想, 形容詞
4. 住居, 部屋, 所有代名詞
5. 間取り, 家具の位置, 前置詞
6. 時刻と日付, 一日の生活, 分離動詞 1
7. 生年月日, 大学の年間予定, 分離動詞 2
8. 大学, 道案内 1, 副詞(場所) 命令形
9. 交通手段, ドイツの大学, 学生の生活, 前置詞(方向)
10. 地図の読み方, 道案内 2
11. 休暇の計画(活動, 名所, 期間, 同伴者等)
12. 手紙の書き方, 話法の助動詞
13. 過去の表現, 天気
14. 日記, 現在完了形
15. 期末試験
16. 纏め, 質疑応答

【教科書】

- ◇ Szenen 1 integriert
- ◇ 佐藤修子, 下田恭子, H. Papenthin, G. Oldehaver: 場面で学ぶドイツ語, CD 付きスツェーネン 1, 三修社

【成績評価の方法】学期末試験, 小テスト, 宿題, 出席, 授業への取り組み状況により総合的に評価します。抜き打ちテストあり

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】居眠り厳禁

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221235>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工 ((化)1 年))

桂 修治・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 外国語を学ぶことによって、私たちは新しい世界への窓を開くことができます。この授業では、音声やテキストを中心とした練習の中で自然にドイツ語の構造を習得すること、ドイツの生活に結びついた文化事情を学ぶことを目的とします。

【授業の概要】 この授業は、家庭生活や社会生活をテーマとした単元で構成されますが、それぞれの単元で、ドイツ語のテキストを読み、テーマに即した口頭表現を学びます。またビデオなども併用しながら、ドイツの人々の生活ぶりの一端を眺めてみましょう。

【キーワード】 自律的な外国語学習、ドイツ語圏の文化を知る

【到達目標】

1. ドイツ語の入門レベルの知識を身につけ、簡単なテキストや発話が理解できる。
2. ドイツ語を自信を持って音読できる。
3. ドイツ語圏の社会や生活の一端を知る。

【授業の計画】

1. 映画を見に行こう (ドイツ語の助動詞, ドイツ語独特の動詞 - 分離動詞)
2. 映画を見に行こう (ドイツ語の助動詞, ドイツ語独特の動詞 - 分離動詞)
3. 映画を見に行こう (ドイツ語の助動詞, ドイツ語独特の動詞 - 分離動詞)
4. 私の願い (形容詞の使い方, zu 不定詞 (句) の使い方)
5. 私の願い (形容詞の使い方, zu 不定詞 (句) の使い方)
6. 休暇旅行 (動詞の過去形と過去分詞, 現在完了形を用いた表現)
7. 休暇旅行 (動詞の過去形と過去分詞, 現在完了形を用いた表現)
8. 休暇旅行 (動詞の過去形と過去分詞, 現在完了形を用いた表現)
9. オペラを見にゆく (過去形, 再帰代名詞と再帰動詞)
10. オペラを見にゆく (過去形, 再帰代名詞と再帰動詞)
11. オペラを見にゆく (過去形, 再帰代名詞と再帰動詞)
12. ホテルに宿泊 (形容詞や副詞の比較級と最上級, 関係代名詞)
13. ホテルに宿泊 (形容詞や副詞の比較級と最上級, 関係代名詞)
14. ホテルに宿泊 (形容詞や副詞の比較級と最上級, 関係代名詞)
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 小野寿美子 クロイツンク・ネオ (朝日出版社) 2500 円. 辞書を持参のこと.
- ◇ その他, 教材のプリントを配布します.

【成績評価の方法】 小テスト, レポート, 試験, 授業参加への所見などを総合して評価します。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 ドイツ語のような, 日本語と離れた外国語を習得することは簡単なことではありません。授業外にも自主学習が必要です。この授業では, 授業のホームページを開設し, これを積極的に活用します。授業の前後に, このページを何度も見て, 復習と予習を行ってください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/kokusai-b/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221236>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜 3-4 時間, 金曜 5-6)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工 ((生)1年))

石川 榮作・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 水 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】ドイツ語初級文法の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌(鱒、歓喜に寄せてなど)やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】ドイツ文化、異文化理解、比較文化、比較言語、コミュニケーション能力

【到達目標】ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得するとともに、たいいていのドイツ語文章を自由に読むことができる。

【授業の計画】

1. 第9課 話法の助動詞・未来形・従属接続詞
2. 第10課 分離動詞・zu不定詞句
3. 第11課 再帰動詞・分詞
4. 第12課 指示代名詞・関係代名詞
5. 第9課から第12課までの総まとめ
6. 中間試験(第9課~第12課)
7. 第13課 受動態
8. 第14課 接続法(1)
9. 第15課 接続法(2)
10. 付録1と2
11. 第13課から第15課および付録まで総まとめ
12. 教科書前半の総復習
13. 教科書後半の総復習
14. ドイツ映画鑑賞
15. 定期試験(第13課~第15課および付録)
16. 総括授業

【教科書】西本・アンゲリカ・高田『文法システム15—新改訂版』(同学社)

【成績評価の方法】授業への取り組みと筆記試験(中間試験と定期試験)により総合的に評価します。

【再試験の有無】有

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221239>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜日15時~16時)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工((電)1年))

石田基広・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 水 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】 社会人として必要な国際的教養を身につける一環として、ごく簡単なドイツ語表現を習得する。またドイツ語圏の文化に関する知識を身につける

【授業の概要】 前期引き続きやや高度な文法を習得する。またドイツ語文化に触れる

【先行科目】 『ドイツ語/ドイツ語入門』(1.0)

【到達目標】 やや複雑な表現を覚える

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. 前期の復習
3. 日常の表現1
4. 日常の表現2
5. やや高度な文法を覚える1
6. やや高度な文法を覚える2
7. やや高度な文法を覚える3
8. やや高度な文法を覚える4
9. やや高度な文法を覚える5
10. 高度な文法を覚える1
11. 高度な文法を覚える2
12. 高度な文法を覚える3
13. 高度な文法を覚える4
14. 総復習1
15. 学期末考査
16. 今後自習する人たちのために

【教科書】 未定

【成績評価の方法】 小テスト 6割 期末試験 4割

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 前期を習得していること、端末数の関係で他学科の学生や、1年生以外の学生は受講できない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221237>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 機械工学科1年のみ受講可能

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工 ((知)1年))

ギュンター デルク・非常勤講師

1単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 今まで学習したドイツ語の基礎文法を応用し、会話能力を高める。
ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。

【授業の概要】 表現力 (会話、筆記、聞き取り) の能力を高める。今まで学習した内容を応用して、自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や、発表など、授業への積極的な参加が望まれる。

【キーワード】 現代ドイツ語、コミュニケーションの力、ドイツ文化

【到達目標】 基本的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。

【授業の計画】

1. 前期の復習
2. 行きたい所を説明する・前置詞 1
3. 部屋の予約・前置詞 2
4. レストランのメニューを読む
5. 道の案内、交通手段
6. 動詞の現在完了形 1
7. 動詞の現在完了形 2
8. 中間テスト
9. 中間テストの復習
10. ドイツの国・現代社会・文化について 2
11. ドイツ語で買い物をする
12. ドイツの青空市場で買い物をする (値段の交渉等)
13. ドイツ旅行で役に立つ表現 1
14. ドイツ旅行で役に立つ表現 2
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【教科書】 前期で使った教科書

【成績評価の方法】 (ア) 単語ミニテスト、(イ) 中間テスト、(ウ) 期末テスト、(エ) 授業への積極的な参加、(オ) 出席。単位取得のためには (ア)~ (オ) の全ての分野で最低 60 点を取る必要があります。(ア~ オ) の中で 60 点より少ない点数があった場合には不合格です。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 ドイツ語は難しい言葉ですが山登りと一緒に、途中は大変でも、頂上について話せるようになるととても楽しいものです。楽しい授業にしようと思いますので、一緒に頑張りましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221238>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ギュンター .

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(工 (光)1 年)

今井 晋哉・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】 本科目は、第二外国語を学び始めた学生が、ドイツ語の基礎を日常的会話表現に重点を置きながら学習し、また学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する初歩的能力を習得することを目的としている。また、併せて現代ドイツ事情についても、少々紹介してみたい。この授業を通じて、英語圏以外の外国文化に触れることにより、受講生の皆さんの視野が少しでも広がれば、と考えている。

【授業の概要】 前期に引き続き、この授業では、日常生活上の具体的な場面に即したドイツ語の会話表現やテキストを理解するとともに、学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する演習を重点的に行いたい。具体的には、パートナーとの練習をも交えた基本文型の学習、関連基本語彙や初級文法の基礎の学習、テキストの読解、教科書付属の CD を用いた聞き取り練習、口頭あるいは筆記によるドイツ語の表現練習などを授業時に、あるいは家庭学習としてやってもらい、毎回できるだけ多くの受講者にその成果を発表してもらおうと考えている。また、各種のビデオなどを用いながら、現代ドイツ事情についても、少々紹介してみたい。

【キーワード】 対話文、初級文法、テキストの読解、現代ドイツ事情

【到達目標】

1. 日常的な場面に即してドイツ語の基礎を理解し、また初歩的なドイツ語の表現能力を習得すること。
2. 現代ドイツの社会や文化に関心を持ち、その一端を理解すること。

【授業の計画】

1. 以下は、各回でとりあげる場面や関連文法項目などを示している。なお、以下の計画は暫定的なものであって、実際の授業の進行によっては、変更もあり得る。
2. 第 1-4 回: 語学コース (不規則動詞の現在人称変化, 名詞の複数形, 名詞の 3 格)
3. 第 5 回: コラム ~ 世界に誇るアウトバーン
4. 第 6-9 回: 学生食堂で (前置詞と名詞の格, 副文)
5. 第 10 回: コラム ~ 無賃乗車はダメ

6. 第 11-14 回: お医者さん (人称代名詞の 3-4 格, 再帰代名詞と再帰動詞, 名詞の 2 格)
7. 第 15 回: 期末試験
8. 第 16 回: 総括授業

【教科書】 清野智昭『ドイツ語の時間』(文法補足集付き)[CD/DVD 付き](朝日出版社, 2007 年)。

【参考書等】 プリント教材・資料を配付する場合もある。

【成績評価の方法】 平常点 (=授業中の発表や教員とのやりとりに対する評価), 中間試験および期末試験による。平常点の比重が、全体の 2 割程度を占めることになるであろう。

【再試験の有無】 行う場合もある。

【受講者へのメッセージ】 せっかく新しく学習しかけた外国語の科目なのだから、ドイツ語とドイツの社会や文化に対する好奇心をもって積極的な姿勢で受講してほしい。単に出席しているだけでは、あまり意味はない。毎回指示される家庭学習も怠らないように。なお、初回の授業時に指定の教科書を必ず持参すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221240>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(総科((人文)1年))

ヘルベルト ウォルフガング・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 月 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定:ドイツ語初級(総科((人文)1年))井戸/後期 水 1・2 ⇒ 592頁)

【授業の目的】話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける。
ドイツ語だけではなく、外国語の学習方法も指導します

【授業の概要】ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、慣習、考え方、ライフスタイル等も紹介します。日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話を練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文を作ったりします。

【到達目標】ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きができるようになること。基礎文法を身につけること。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、前期の復習
2. 持ち物、指示代名詞、不定代名詞、否定代名詞の4格
3. 品物の感想、形容詞
4. 住居、部屋、所有代名詞
5. 間取り、家具の位置、前置詞
6. 時刻と日付、一日の生活、分離動詞1
7. 生年月日、大学の年間予定、分離動詞2
8. 大学、道案内1、副詞(場所)命令形
9. 交通手段、ドイツの大学、学生の生活、前置詞(方向)
10. 地図の読み方、道案内2
11. 休暇の計画(活動、名所、期間、同伴者)
12. 手紙の書き方、話法の助動詞
13. 過去の表現、天気
14. 日記、現在完了形
15. 期末試験
16. 纏め、質疑応答

【教科書】

- ◇ 場面で学ぶドイツ語
- ◇ 佐藤修子, 下田恭子

【成績評価の方法】学期末試験、小テスト、宿題、出席、授業への取り組み状況により総合的に評価します。抜き打ちテストあり

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】居眠り厳禁

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221241>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(総科((人文)1年))

井戸慶治・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 水 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定:ドイツ語初級(総科((人文)1年))ヘルベルト / 後期 月 5・6 ⇒
591頁)

【授業の目的】ドイツ語文法の基礎を学び、ドイツ語圏の文化や事情を知る。英語以外の外国語を学び、英語圏以外の外国の事情や文化を知ること、偏りのない健全な国際感覚を持つために必要であり、知的な刺激を得るためにも有益である。ドイツはヨーロッパにおける日本の重要な貿易や文化交流の相手であり、かつて板東収容所でドイツ人捕虜が「第九」を初演したことなどにより、徳島との関連も深い。

【授業の概要】ペア授業のひとつであるが、この授業では主として文法説明、練習問題、読章からなる教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確実なものにしてゆくため、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ語圏の文化や事情を紹介する。

【到達目標】1. 辞書を用いて簡単なドイツ語を読むことができ、初歩的なドイツ語作文ができるようになること。

【授業の計画】

1. 導入
2. 動詞の3基本形・過去
3. 現在完了・過去完了
4. 話法の助動詞・未来
5. 形容詞の格変化・名詞化
6. zu 不定詞・man
7. 比較
8. 中間試験
9. 再帰代名詞
10. 非人称動詞
11. 受動・分詞
12. 関係詞・指示代名詞
13. 接続法

14. 接続法(2)

15. 期末試験

16. 予備

【教科書】ドイツ文法の森(第三書房)

【成績評価の方法】中間試験、期末試験、平常点(小テスト、授業への取り組み方など)で総合的に評価する。

【再試験の有無】なし

【受講者のメッセージ】出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221242>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】この授業は、月曜日5・6講時のヘルベルト先生の授業とペアになっており、原則として両方を受けなければならない。

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(総科 ((社創)1年))

桂 修治・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (総科 ((社創)1年)) 今井 / 後期 木 1・2 ⇒ 594 頁)

【授業の目的】 外国語を学ぶことによって、私たちは世界に向けて新しい窓を開くことができます。この授業では、ドイツ語の文法や発音の基礎を学びます。そして同時にそれらを応用し、さまざまなテキストを読み、ドイツの社会や文化を知ることが、もう一つの目的です。

【授業の概要】 授業では、ドイツでの家庭生活や社会生活やめぐるさまざまなテーマを取り扱い、いくつかのヨーロッパの都市を紹介します。ドイツ語のテキストを読み、テーマに即した口語表現を学びながら、ドイツ語の基礎的な文法知識や語彙を身に付けることがねらいです。

【キーワード】 ドイツ語圏の文化を知る, 異文化理解, 比較文化, 自律的な学習, コミュニケーション能力

【到達目標】

1. ドイツ語の入門レベルの知識を身につけ、簡単なテキストや発話が理解できる。
2. ドイツ語を自信を持って音読できる。
3. 学習の方法を理解し、自律的に学習できるようになる。

【授業の計画】

1. 冬学期の始まり (動詞の過去形, 過去分詞, 現在完了形を用いた表現)
2. 冬学期の始まり (動詞の過去形, 過去分詞, 現在完了形を用いた表現)
3. 冬学期の始まり (動詞の過去形, 過去分詞, 現在完了形を用いた表現)
4. 森の散歩 - 環境問題 (受動態, 比較級と最上級)
5. 森の散歩 - 環境問題 (受動態, 比較級と最上級)
6. ベルリンの魅力 (関係代名詞, 再帰動詞)
7. ベルリンの魅力 (関係代名詞, 再帰動詞)
8. ベルリンの魅力 (関係代名詞, 再帰動詞)
9. クリスマス市にて (zu 不定詞 (句), 過去分詞と現在分詞)
10. クリスマス市にて (zu 不定詞 (句), 過去分詞と現在分詞)
11. クリスマス市にて (zu 不定詞 (句), 過去分詞と現在分詞)
12. 子育てはだれがする?(接続法を用いた表現)

13. 子育てはだれがする?(接続法を用いた表現)

14. 子育てはだれがする?(接続法を用いた表現)

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 佐藤和弘:新ドイツに行ってみませんか 郁文堂 2500 円 それ以外に辞書を用意すること

【成績評価の方法】 授業への取り組みと筆記試験 (小テストと定期試験) により総合的に評価します。

【再試験の有無】 原則として行わない

【受講者のメッセージ】 語学力は新しい創造の力を生み出す。語学力の習得には予習と復習が特に必要です。しっかり学びましょう!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221243>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜 3-4 時間, 金曜 5-6)

【備考】 この授業は木 1・2 講時「ドイツ語初級」(今井)とペアになっています。必ず両方を受講してください。

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(総科 ((社創)1年))

今井晋哉・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 木 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (総科 ((社創)1年)) 桂 / 後期 火 3・4 ⇒ 593頁)

【授業の目的】 本科目は、第二外国語を学び始めた学生が、ドイツ語の基礎を日常的会話表現に重点を置きながら学習し、また学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する初歩的能力を習得することを目的としている。また、併せて現代ドイツ事情についても、少々紹介してみたい。この授業を通じて、英語圏以外の外国文化に触れることにより、受講生の皆さんの視野が少しでも広がれば、と考えている。

【授業の概要】 前期に引き続き、この授業では、日常生活上の具体的な場面に即したドイツ語の会話表現やテキストを理解するとともに、学習したことを用いて、ドイツ語によって表現する演習を重点的に行いたい。具体的には、パートナーとの練習をも交えた基本文型の学習、関連基本語彙や初級文法の基礎の学習、テキストの読解、教科書付属のCDを用いた聞き取り練習、口頭あるいは筆記によるドイツ語の表現練習などを授業時に、あるいは家庭学習としてやってもらい、毎回できるだけ多くの受講者にその成果を発表してもらおうと考えている。また、各種のビデオなどを用いながら、現代ドイツ事情についても、少々紹介したい。

【キーワード】 対話文、初級文法、現代ドイツ事情、テキストの読解

【到達目標】

1. 日常的な場面に即してドイツ語の基礎を理解し、また初歩的なドイツ語の表現能力を習得すること。
2. 現代ドイツの社会や文化に関心を持ち、その一端を理解すること。

【授業の計画】

1. 以下は、各回でとりあげる場面や関連文法項目などを示している。なお、以下の計画は暫定的なものであって、実際の授業の進行によっては、変更もあり得る。
2. 第1-4回: 語学コース (不規則動詞の現在人称変化, 名詞の複数形, 名詞の3格)
3. 第5回: コラム ~ 世界に誇るアウトバーン
4. 第6-9回: 学生食堂で (前置詞と名詞の格, 副文)

5. 第10回: コラム ~ 無賃乗車はダメ

6. 第11-14回: お医者さん (人称代名詞の3-4格, 再帰代名詞と再帰動詞, 名詞の2格)

7. 第15回: 期末試験

8. 第16回: 総括授業

【教科書】 清野智昭『ドイツ語の時間』(文法補足集付き)[CD/DVD付き](朝日出版社, 2007年)。

【参考書等】 プリント教材・資料を配付する場合もある。

【成績評価の方法】 平常点 (=授業中の発表や教員とのやりとりに対する評価), 中間試験, 期末試験による。平常点が一定の比重を占めることになるであろう。

【再試験の有無】 行う場合もある。

【受講者のメッセージ】 せっかく新しく学習しかけた外国語の科目なのだから、ドイツ語とドイツの社会や文化に対する好奇心をもって積極的な姿勢で受講してほしい。単に出席しているだけでは、あまり意味はない。毎回指示される家庭学習も怠らないように。なお、初回の授業時に教科書を必ず持参すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221244>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

【備考】 このクラスは、火曜日3・4講時の桂先生担当の「ドイツ語初級」とペアになっているので、両方のクラスを受講すること。ただし成績は各クラス別に出される。なお再受講の場合には、また事情が異なるので、事前に相談してほしい。

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(総科((総理)1年))

ギュンター・ディルク・非常勤講師

1単位 後期 火 3・4

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定:ドイツ語初級(総科((総理)1年))桂 / 後期 木 1・2 ⇒ 596頁)

【授業の目的】今まで学習したドイツ語の基礎文法を応用し、会話能力を高める。ドイツの文化や現代社会についての理解を深める。

【授業の概要】表現力(会話、筆記、聞き取り)の能力を高める。今まで学習した内容を応用して、自分の言葉で表現する練習をする。パートナーとの会話練習や、発表など、授業への積極的な参加が望まれる。

【キーワード】現代ドイツ語、コミュニケーションの力、ドイツ文化

【到達目標】基礎的な会話と筆記を自分の言葉を使ってできるようにする。

【授業の計画】

1. 前期の復習
2. 住居(住宅、部屋、家具の位置)
3. 時刻と日付(時刻、時間、日付、1日の生活)
4. 私たちの大学1(大学の設備、ドイツの大学)
5. 私たちの大学2(道の案内、交通手段)
6. 休暇の前(休暇の計画、活動、場所)
7. 休暇の後(天気、日記など)
8. 中間テスト
9. ドイツの国・現代社会・文化について2
10. 簡単なドイツ語のテキストを読む1(翻訳練習)
11. ドイツの歌のテキストの聞き取り
12. ドイツ旅行で役に立つ表現1(買い物)
13. ドイツ旅行で役に立つ表現2(ホテル、レストラン)
14. 期末試験のための準備
15. 期末テスト
16. 総括授業 ※参加する人数やクラスのレベルによっては上記の内容が変更されることもあります。

【教科書】前期で使った教科書

【成績評価の方法】(ア)単語ミニテスト、(イ)中間テスト、(ウ)期末テスト、(エ)授業への積極的な参加、(オ)出席。単位取得のためには(ア)~(オ)の全ての分

野で最低60点を取る必要があります。(ア~オ)の中で60点より少ない点数があった場合には不合格です。桂先生とのペア授業になっているので、必ず両方受講のこと。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】ドイツ語は難しい言葉ですが山登りと一緒に、途中は大変でも、頂上について話せるようになるととても楽しいものです。楽しい授業にしようと思いますので、一緒に頑張りましょう。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221245>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ギュンター .

【備考】

- ◇ 木曜1・2講時の桂先生のクラスとペア授業になっているので、必ず両方受講のこと。
- ◇ 連絡先 学務課教育支援係 (kykyotuk@jim.tokushima-u.ac.jp)

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(総科 ((総理)1年))

桂 修治・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 木 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (総科 ((総理)1年)) ギュンター / 後期 火 3・4 ⇒ 595頁)

【授業の目的】 外国語を学ぶことによって、私たちは世界に向けて新しい窓を開くことができます。この授業では、ドイツ語の文法や発音の基礎を学びます。そして同時にそれらを応用し、さまざまなテキストを読み、ドイツの社会や文化を知ることが、もう一つの目的です。

【授業の概要】 授業では、ドイツでの家庭生活や社会生活やめぐるさまざまなテーマを取り扱い、ヨーロッパのいくつかの都市を紹介します。ドイツ語のテキストを読み、テーマに即した口語表現を学びながら、ドイツ語の基礎的な文法知識や語彙を身に付けることがねらいです。

【キーワード】 ドイツ語圏の文化を知る、国際交流につながる学習

【到達目標】

1. ドイツ語の入門レベルの知識を身につけ、簡単なテキストや発話が理解できる。
2. ドイツ語を自信を持って音読できる。
3. ドイツ語圏の文化についての知識を深める

【授業の計画】

1. 大学での課外研修 (分離動詞と非分離動詞, 副文を使った表現)
2. 大学での課外研修 (分離動詞と非分離動詞, 副文を使った表現)
3. メールを書く (動詞の過去形と過去分詞, 過去形を使った表現)
4. メールを書く (動詞の過去形と過去分詞, 過去形を使った表現)
5. 家に招待されて (完了形の使い方, 非人称の代名詞 es)
6. 家に招待されて (完了形の使い方, 非人称の代名詞 es)
7. スポーツについて (zu 不定詞, 再帰動詞, 再帰代名詞)
8. スポーツについて (zu 不定詞, 再帰動詞, 再帰代名詞)
9. 音楽について (関係代名詞の使い方)
10. 音楽について (関係代名詞の使い方)
11. ドイツのクリスマス (受動態, 過去分詞と現在分詞)
12. ドイツのクリスマス (受動態, 過去分詞と現在分詞)

13. ドイツの冬 (接続法を用いた表現)

14. ドイツの冬 (接続法を用いた表現)

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 Takayam 他:ウニ・プラッツ (大学広場) 同学社 2500円 そのほかに独和辞典を用意すること。

【参考書等】 独和辞典を用意すること

【成績評価の方法】 小テスト, レポート, 試験, 授業参加への所見などを総合して評価します。

【再試験の有無】 なし

【受講者のメッセージ】 ドイツ語のような、日本語と離れた外国語を習得することは簡単なことではありません。授業外にも自主学習が必要です。この授業では、授業のホームページを開設し、これを積極的に活用します。授業の前後に、このページを何度も見て、復習と予習を行ってください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221246>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜 3-4 時間, 金曜 5-6)

【備考】 この授業は、月曜日7・8の授業とペアになっており、原則として両方を受けなければなりません。

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(医 ((医 A)1 年))

曾田 紘二

1 単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (医 ((医 A)1 年)) 井戸 / 後期 火 5・6 ⇒ 598 頁)

【再試験の有無】再試験

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221247>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 曾田 .

【授業の目的】ドイツ語の運用能力を身に付ける。ドイツ語学習を通じて異文化を理解する。

【授業の概要】ドイツ語で使用される文字と読み方および文法を勉強し、読解力を身に付ける。基礎的な問いと答えの文を憶える。

【キーワード】文字・表記, 発音, 文法, 表現

【到達目標】1. ドイツ語文を正しく読めるようにする。2. 辞書を使ってドイツ語文を読解できるようにする。3. ドイツ語で基本的な問いと答えができるようにする。

【授業の計画】

1. オリエンテーション, ドイツとドイツ語
2. 文字と発音 1
3. 文字と発音 2
4. ものについての問い方・答え方
5. 性 (gender) と冠詞, 練習問題
6. 不定詞と定動詞, 練習問題
7. 自己紹介の表現 1
8. 自己紹介の表現 2
9. 中間試験, 動詞の活用 1
10. 動詞の活用 2
11. 動詞の活用練習問題
12. 買い物の表現 1
13. 買い物の表現 2
14. 名詞の複数形, 練習問題
15. 期末試験
16. まとめ

【教科書】信岡資生他『新しいドイツ語の時間』第三書房, 2006 年。

【成績評価の方法】期末試験 5 割, 中間試験 5 割。

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(医 ((医 A)1 年))

井戸慶治・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (医 ((医 A)1 年)) 曾田 / 後期 月 9・10 ⇒ 597 頁)

【授業の目的】 ドイツ語の基礎を習得し、またドイツ事情に触れる。英語以外の外国語を学び、英語圏以外の外国の事情や文化を知ることは、偏りのない健全な国際感覚を持つために必要であり、知的な刺激を得るためにも有益である。ドイツはヨーロッパにおける日本の重要な貿易や文化交流の相手であり、かつて板東収容所でドイツ人捕虜が「第九」を初演したことなどにより、徳島との関連も深い。

【授業の概要】 ペア授業のひとつであるが、この授業では、日独交流をテーマとした読章、文法説明、練習問題からなる教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確実なものにしてゆくため、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ事情、ドイツ文化を紹介する。

【到達目標】 ドイツ語文法の基本を理解し、辞書を用いて簡単なドイツ語を読んだり書いたりできるようになること。

【授業の計画】

1. シーボルトとその業績
2. 形容詞の格変化と比較表現
3. 日本最初の女医
4. 話法の助動詞
5. 従属接続詞と副文
6. 森鷗外とドイツ
7. 動詞の三基本形と過去
8. 中間試験
9. 完了形
10. 板東収容所における第九の日本初演
11. 関係代名詞と指示代名詞
12. サッカーコーチ、クラーマー
13. 再帰表現
14. ドイツにおける日本文化、マンガなど

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 日独交流 400 年 (白水社)。独和辞典が必要であるが、最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法】 中間試験、期末試験、平常点 (小テスト、授業への取り組み方など) で総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221248>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日16-17時, 3号館1階学習支援室)

【備考】 この授業は、月曜日9・10の曾田先生の授業とペアになっており、原則として両方を受けなければならない。

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(医 ((医 B)1 年))

依岡 隆児・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (医 ((医 B)1 年)) 石川 / 後期 火 5・6 ⇒ 600 頁)

【授業の目的】前期の内容を踏まえて、初級文法を復習しながら、簡単なドイツ語を読み、書き、聞き、話すことができるようになること。また、ドイツ語圏の文化や社会についての知識を深めること。

【授業の概要】初級ドイツ語の教科書を使用し、基本的な文法事項を復習しながら、ドリル形式で練習し、自然とドイツ語が身につくようにする。また、ビデオなどを適宜鑑賞しながら、ドイツ語圏の社会や文化に興味を喚起し、国際人としての教養が身につくようにする。

【キーワード】ドイツ語、異文化理解、比較文化

【到達目標】ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得するとともに、基本的なコミュニケーション能力を養うことと、ドイツ語圏の文化について理解を深めること。

【授業の計画】

1. 授業ガイダンス, 前期の復習, ビデオ「ドイツ人がやってくる」
2. 7 課, 兵役 話法の助動詞, 未来の助動詞
3. 同上, ドリル
4. 8 課, 外国人 形容詞, 比較変化
5. 同上, ドリル, ビデオ「環境先進国ドイツ」
6. 9 課, 病院 再帰代名詞・動詞など
7. 同上, ドリル
8. 10 課, クリスマス 動詞の三基本形, 過去人称変化
9. 同上, ドリル
10. 中間テスト
11. 11 課, 葬式, 現在完了, 受動態
12. 同上, ドリル
13. 12 課, カーニバル, 関係代名詞など
14. 復習
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 荻野蔵平ほか『ドイツ 暮らしのスケッチ』(同学社)
- ◇ 前期に使用した教科書および辞書を持参のこと
- ◇ その他, 教材のプリントを配布します。

【成績評価の方法】授業への取り組みと筆記試験(中間試験と定期試験)により総合的に評価します。

【再試験の有無】なし

【受講者へのメッセージ】語学の習得には予習と復習が必要。楽しく、そして、根気よく!

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221249>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)

【備考】この授業は、ドイツ語初級(火曜 5・6 時限, 石川教員担当)とのペアクラスです。

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(医 ((医 B)1 年))

石川 榮作・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (医 ((医 B)1 年)) 依岡 / 後期 月 9・10 ⇒ 599 頁)

【授業の目的】ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】ドイツ語初級読本の教科書を用いて一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌 (鱒, 歓喜に寄せてなど) やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】ドイツ文化, 異文化理解, 比較文化, 比較言語, コミュニケーション能力

【到達目標】ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得するとともに、たいいていのドイツ語文章を自由に読むことができる。

【授業の計画】

1. 第 8 課 動詞の三基本形/過去人称変化/数詞
2. 第 9 課 未来形/完了形
3. 第 10 課 分離動詞/再帰動詞/zu 不定詞
4. 第 11 課 関係代名詞/指示代名詞
5. 第 8 課から第 11 課までの総まとめ
6. 中間試験 (第 8 課 ~ 第 11 課)
7. 第 12 課 非人称動詞/形容詞の比較級・最上級
8. 第 13 課 受動態/現在分詞・過去分詞
9. 第 14 課 接続法 (要求話法/間接話法)
10. 第 15 課 接続法 (非現実話法)
11. 第 11 課から第 15 課までの総まとめ
12. 後期の総復習
13. 1 年間の総まとめ
14. ドイツ映画鑑賞
15. 定期試験 (第 11 課 ~ 第 15 課)
16. 総括授業

【教科書】ヘルベルト/石川/井戸/依岡 『出会いのドイツ語』 (郁文堂) 2000 円

【成績評価の方法】授業への取り組みと筆記試験 (中間試験と定期試験) により総合的に評価します。

【再試験の有無】有

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221250>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時~16時)

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(歯 ((歯)1年))

ヘルベルト ウォルフガング・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 月 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (歯 ((歯)1年)) 石川 / 後期 火 9・10 ⇒ 602頁)

【授業の目的】 ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きができるようになること。基礎文法を身につけること。ドイツ語圏の文化と人々についての理解を深める。ドイツ語だけではなく、外国語の学習方法も指導する

【授業の概要】 ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、習慣、考え方、ライフスタイルなどを紹介します。日常的に使う文章、言い回しを中心にペアや小グループで会話練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文を作ったりします。

【到達目標】 話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、前期の復習
2. 飲食について:食事、好物、ドイツ料理
3. レストランにて1、メニューの読み方、複合語
4. レストランにて2、注文、支払い、チップなど
5. 旅、ホテルで使う表現
6. 道案内、前置詞の使い方
7. 交通手段、時刻、日付、小テスト
8. 平日と週末の予定、未来形
9. 手紙と葉書の書き方
10. 天気、気候、天気予報:聞き取り練習
11. 体、健康について、話法の助動詞
12. 医者にかかる:病気と治療の話
13. ドイツの祭り、祝賀、祝詞
14. ドイツ、オーストリーへの観光旅行と名所
15. 定期試験
16. ドイツ、オーストリー、スイス事情:総論と討論

【教科書】 プリントなど

【成績評価の方法】 学期末試験、小テスト、宿題、出席、授業への取り組み方などで総合的に評価する。抜き打ちテストあり

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 居眠り厳禁

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221251>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

【備考】 外国語は新しい世界への扉だ。

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(歯 ((歯)1年))

石川 榮作・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目: 『ドイツ語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『ドイツ語 (1)』)

(ペア指定: ドイツ語初級 (歯 ((歯)1年)) ヘルベルト / 後期 月 7・8 ⇒ 601 頁)

【授業の目的】ドイツ語を学ぶことによって、異文化理解を深め、国際的感覚を身に付けることを目的とします。

【授業の概要】ドイツ語初級読本の教科書を用いて、一通りの文法事項を習得するとともに、ドイツ語の歌 (鱒, 歓喜に寄せてなど) やビデオを通じてドイツ文化の一端にも触れます。

【キーワード】ドイツ文化, 異文化理解, 比較文化, 比較言語, コミュニケーション能力

【到達目標】ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得するとともに、たいいていのドイツ語文章を読むことができる。

【授業の計画】

1. 第 8 課 動詞の三基本形/過去人称変化/数詞
2. 第 9 課 未来形/完了形
3. 第 10 課 分離動詞/再帰動詞/zu 不定詞
4. 第 11 課 関係代名詞/指示代名詞
5. 第 8 課から第 11 課までの総まとめ
6. 中間試験 (第 8 課 ~ 第 11 課)
7. 第 12 課 非人称動詞/形容詞の比較級・最上級
8. 第 13 課 受動態/現在分詞・過去分詞
9. 第 14 課 接続法 (要求話法/間接話法)
10. 第 15 課 接続法 (非現実話法)
11. 第 12 課から第 15 課までの総まとめ
12. 後期の総復習
13. 1 年間の総まとめ
14. ドイツ映画鑑賞
15. 定期試験 (第 12 課 ~ 第 15 課)
16. 総括授業

【教科書】ヘルベルト/石川/井戸/依岡 『出会いのドイツ語』 (郁文堂) 2000 円

【成績評価の方法】授業への取り組みと筆記試験 (中間試験と定期試験) により総合的に評価します。

【再試験の有無】有

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221252>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時~16時)

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(薬(薬2年))

桂 修治・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 月 7・8

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】 この科目は、1年時に学習したドイツ語の入門を引き継ぎながら、さらに聞き、読み、話し、書く力を伸ばしていくことを目的としています。また、ドイツ語をとおして現代ドイツの事情に触れ、ドイツの社会や文化に対する関心を展開させて行きます。

【授業の概要】 この授業では、既習事項の復習や補足学習をしながら、日常生活上の具体的な場面に即したドイツ語の会話表現や文章表現を学びます。また、各種のビデオなどを用いながら、現代ドイツ事情を紹介します。

【キーワード】 継続的学習、現代ドイツ事情

【到達目標】

1. 日常的な場面に即してドイツ語の基礎を理解し、またドイツ語による基礎的な発信能力を習得すること。
2. 現代ドイツの社会や文化に対して関心をもち、その一端を理解すること。

【授業の計画】

1. 前期授業の復習
2. ケストナーの「二人のロッセ」(zu 不定詞句, 分離動詞と非分離動詞)
3. ケストナーの「二人のロッセ」(zu 不定詞句, 分離動詞と非分離動詞)
4. ミヒャエル・エンデの「モモ」(話法の助動詞, 未来形)
5. ミヒャエル・エンデの「モモ」(話法の助動詞, 未来形)
6. サマータイムについて(過去形と現在完了形, 受動態)
7. サマータイムについて(過去形と現在完了形, 受動態)
8. 中間試験
9. カフカの「変身」(形容詞の格変化, 比較級と最上級)
10. カフカの「変身」(形容詞の格変化, 比較級と最上級)
11. ミヒャエル・エンデの「モモ」(2)(関係代名詞, 命令形)
12. ミヒャエル・エンデの「モモ」(2)(関係代名詞, 命令形)
13. ミヒャエル・エンデの「終わりのない物語」(接続法とは, 接続法の使い方)
14. ミヒャエル・エンデの「終わりのない物語」(接続法とは, 接続法の使い方)
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 清野智明他:「ドイツ語の時間 - 読解編」朝日出版社 2300円 その他に辞書を用意すること。

【参考書等】 プリント教材・資料を配付しますので、ファイルを用意のこと。

【成績評価の方法】 小テスト, レポート, 期末試験などを総合して行う。

【再試験の有無】 原則として行わない。

【受講者のメッセージ】 ドイツ語のような日本語と離れた言語の学習は、決して簡単ではありません。授業への積極的な参加と、授業外の自己学習が必要です。それによって、自分の力でドイツ語で、情報を引き出すことができるようになり、新たな展開が見えてくることでしょうか。1年次に使用した教科書も捨てずにとっておくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221253>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜 3-4 時間, 金曜 5-6)

フランス語 (French)

フランス語初級 (Elementary French)

(総科 ((総科 A)1 年))

田島 俊郎・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『フランス語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語初級 (総科 ((総科 A)1 年)) 田島 / 後期 水 1・2 ⇒ 605 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。1 年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっているはずです。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたります。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【先行科目】 『フランス語/ フランス語入門』(1.0)

【到達目標】

1. 口頭での簡単な質問や意見の交換ができる。
2. 過去や未来に関する平易な文章が読め、書ける。

【授業の計画】

1. 第 1 週 - 第 3 週 時間を言う、夏休みについて話す。意見を言う。
2. 第 4 週 - 第 6 週 半過去、自分について話す。
3. 第 7 週 - 第 9 週 未来の表現を学ぶ。
4. 第 10 週 - 第 12 週 依頼する、仮定する。条件法。
5. 第 13 週 - 第 14 週 感情の表現、義務の表現。接続法。
6. 第 15 週 - 第 16 週 期末試験、総括授業

【教科書】 小笠原著、『Pierre et Hugo』, 白水社, 2500 円

【参考書等】 辞書は、『クラウン仏和辞典』(三省堂), 『現代フランス語辞典 (ル・ディコ)』(白水社), 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社) など。電子辞書版もあります。

【成績評価の方法】 教室での質問や発言などの授業への貢献度と学期末試験の得点を総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 月曜 5-6 講時と水曜日 1-2 講時の両日を受講してください。どちらか一方だけでは単位として認定しません。語学学習は、受講生の意識と努力が成果に直結しますから、積極的な態度で授業に臨んでください。また、前期に「入門」の単位を取得できなかった学生の受講も認めますが、授業は「入門」のレベルをクリアしていることを前提にして進めます。積極的な自宅学習で遅れを取り戻してください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221254>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 12 時から 13 時)

【備考】 月曜 5-6 講時と水曜日 1-2 講時の両方を受講してください。

フランス語 (French)

フランス語初級 (Elementary French)

(総科 ((総科 A)1 年))

田島 俊郎・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『フランス語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語初級 (総科 ((総科 A)1 年)) 田島 / 後期 月 5・6 ⇒ 604 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、フランス語の総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目指します。1 年間受講したあとは、簡単な読み書きや会話ができるようになっています。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたります。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【先行科目】 『フランス語/ フランス語入門』(1.0)

【到達目標】

1. 口頭での簡単な質問や意見の交換ができる。
2. 過去や未来に関する平易な文章が読め、書ける。

【授業の計画】

1. 第 1 週 - 第 3 週 時間を言う、夏休みについて話す。意見を言う。
2. 第 4 週 - 第 6 週 半過去、自分について話す。
3. 第 7 週 - 第 9 週 未来の表現を学ぶ。
4. 第 10 週 - 第 12 週 依頼する、仮定する。条件法。
5. 第 13 週 - 第 14 週 感情の表現、義務の表現。接続法。
6. 第 15 週 - 第 16 週 期末試験、総括授業

【教科書】 小笠原著、『Pierre et Hugo』, 白水社, 2500 円

【参考書等】 辞書は、『クラウン仏和辞典』(三省堂), 『現代フランス語辞典 (ル・ディコ)』(白水社), 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社) など。電子辞書版もあります。

【成績評価の方法】 教室での質問や発言などの授業への貢献度と学期末試験の得点を総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 月曜 5-6 講時と水曜日 1-2 講時の両日を受講してください。どちらか一方だけでは単位として認定しません。語学学習は、受講生の意識と努力が成果に直結しますから、積極的な態度で授業に臨んでください。また、前期に「入門」の単位を取得できなかった学生の受講も認めますが、授業は「入門」のレベルをクリアしていることを前提にして進めます。積極的な自宅学習で遅れを取り戻してください。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221255>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 12 時から 13 時)

【備考】 月曜 5-6 講時と水曜日 1-2 講時の両方を受講してください。

フランス語 (French)

フランス語初級 (Elementary French)

(総科 ((総科 B)1 年))

長井 伸仁・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『フランス語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語初級 (総科 ((総科 B)1 年)) 長井 / 後期 木 1・2 ⇒ 607 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、前期の「入門」で得た知識をもとに、フランス語の総合的コミュニケーション能力を高めることを目指します。この「初級」を修了すれば、文法的な知識はひととおり身につけているはずで、あとは語彙を増やし、さまざまな表現を身につけるだけです。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたります。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【キーワード】 フランス語、言語

【先行科目】 『フランス語/ フランス語入門』(1.0)

【関連科目】 『フランス語/ フランス語初級』(1.0)

【到達目標】

1. 簡単な質問や意見の交換が口頭でできる。
2. 過去や未来に関する平易な文章が読め、書ける。

【授業の計画】

1. 1-3 週: マンガ、目的語。
2. 4-6 週: 言語と通貨、複合過去と半過去。
3. 7-9 週: 植民地と移民、大過去、単純未来。
4. 10-12 週: フランス人と法、接続法、ジェロンディフ。
5. 13-14 週: フランス人とワイン、条件法。
6. 15-16 週: 期末試験・総括授業

【教科書】 大木 充ほか『グラメール・アクティヴー文法で複言語・複文化―』朝日出版社、2010 年、2,500 円+税、ISBN: 978-4-255-35210-7。

【参考書等】 仏和辞典を必ず購入し、授業に持参してください(どの出版社のものでも構いません)。

【成績評価の方法】 平常点 (授業への取り組み、小テストの得点) と学期末試験の得点をもとに、総合的に評価します。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 この授業は木曜 1・2 講時の授業とセットであり (ペアクラスと呼ばれる制度です)、どちらかの授業だけ受講することはできません。単位は各学期 2 単位ずつ認定されます。なお、前期に「入門」の単位を取得できなかった学生の受講も認めますが、授業は「入門」のレベルをクリアしていることを前提にして進めます。積極的な自宅学習で遅れを取り戻してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221256>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜の昼休み)

【備考】 木曜 1・2 講時のフランス語初級とのペアクラスです。

フランス語 (French)

フランス語初級 (Elementary French)

(総科 ((総科 B)1 年))

長井 伸仁・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『フランス語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語初級 (総科 ((総科 B)1 年)) 長井 / 後期 火 3・4 ⇒ 606 頁)

【授業の目的】 フランス語は、フランスの他、ベルギー、スイス、カナダ、カリブ海諸島、アフリカなど、世界の多くの地域で話されています。また、言語としてはスペイン語やイタリア語と近い関係にあります。この授業では、前期の「入門」で得た知識をもとに、フランス語の総合的コミュニケーション能力を高めることを目指します。この「初級」を修了すれば、文法的な知識はひととおり身につけているはずで、あとは語彙を増やし、さまざまな表現を身につけるだけです。

【授業の概要】 学習内容は、文法、読解、作文、会話のすべてにわたります。また、ことばだけでなく、ことばを話す人たちについても知ってもらうため、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【キーワード】 フランス語、言語

【先行科目】 『フランス語/ フランス語入門』(1.0)

【関連科目】 『フランス語/ フランス語初級』(1.0)

【到達目標】

1. 簡単な質問や意見の交換が口頭でできる。
2. 過去や未来に関する平易な文章が読め、書ける。

【授業の計画】

1. 1-3 週: マンガ、目的語。
2. 4-6 週: 言語と通貨、複合過去と半過去。
3. 7-9 週: 植民地と移民、大過去、単純未来。
4. 10-12 週: フランス人と法、接続法、ジェロンディフ。
5. 13-14 週: フランス人とワイン、条件法。
6. 15-16 週: 期末試験・総括授業

【教科書】 大木充ほか『グラメール・アクティヴー文法で複言語・複文化―』朝日出版社、2010 年、2,500 円+税、ISBN: 978-4-255-35210-7。

【参考書等】 仏和辞典を必ず購入し、授業に持参してください(どの出版社のものでも構いません)。

【成績評価の方法】 平常点(授業への取り組み、小テストの得点)と学期末試験の得点をもとに、総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 この授業は火曜 3・4 講時の授業とセットであり(ペアクラスと呼ばれる制度です)、どちらかの授業だけ受講することはできません。単位は各学期 2 単位ずつ認定されます。なお、前期に「入門」の単位を取得できなかった学生の受講も認めますが、授業は「入門」のレベルをクリアしていることを前提にして進めます。積極的な自宅学習で遅れを取り戻してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221257>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜の昼休み)

【備考】 火曜 3・4 講時のフランス語初級とのペアクラスです。

フランス語 (French)

フランス語初級 (Elementary French)

(医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年))

田島 俊郎・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『フランス語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語初級 (医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年)) 田島 / 後期 火 9・10 ⇒ 609 頁)

【授業の目的】フランス語による総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけ、さらに仏検 (実用フランス語技能検定試験)4 級合格を目指します。

【授業の概要】文法の問題解説、長文読解、基本構文の暗唱、音声教材のシャドウイングやディクテーション、などを組み合わせて総合的な能力の向上を目指します。さらに音声や映像教材も使用して、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【キーワード】フランス語, 言語

【先行科目】『フランス語/ フランス語入門』(1.0)

【関連科目】『フランス語/ フランス語初級』(1.0)

【到達目標】フランス語で書かれた平易な文章を読める。仏検 (実用フランス語技能検定試験)4 級合格を目指す。

【授業の計画】

1. 1-3 週:動詞・代名動詞, 複合過去の復習
2. 4-6 週:単純未来, 前未来, 半過去, 大過去
3. 7-9 週:条件法, 関係代名詞, 現在分詞と過去分詞
4. 10-12 週:接続法
5. 13-14 週:総合的な問題と長文読解
6. 15-16 週:期末試験・総括授業

【教科書】沼田ほか『Le français au quotidien 2』朝日出版社, 2011 年, ISBN978-4-255-35215-2

【参考書等】辞書は、『クラウン仏和辞典』(三省堂), 『現代フランス語辞典 (ル・ディコ)』(白水社), 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)など。電子辞書版もあります。

【成績評価の方法】授業への貢献と学期末試験をもとに総合的に評価します。

【再試験の有無】なし

【受講へのメッセージ】「フランス語入門」の単位の有無は問いませんが、授業は「入門」のレベルをクリアしていることを前提にして進めます。火曜 9-10 講時の授業とセットで、どちらかの授業だけ受講することはできません。

【WEB 頁】<http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221258>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 12 時から 13 時)

【備考】火曜 9-10 講時のフランス語初級とのペアクラスです。

フランス語 (French)

フランス語初級 (Elementary French)

(医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年))

田島 俊郎・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『フランス語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『フランス語 (1)』)

(ペア指定: フランス語初級 (医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年)) 田島 / 後期 月
9・10 ⇒ 608 頁)

【授業の目的】フランス語による総合的コミュニケーション能力の基礎を身につけ、さらに仏検 (実用フランス語技能検定試験)4 級合格を目指します。

【授業の概要】文法の問題解説、長文読解、基本構文の暗唱、音声教材のシャドウイングやディクテーション、などを組み合わせて総合的な能力の向上を目指します。さらに音声や映像教材も使用して、フランスやフランス語圏の社会や文化にもふれます。

【キーワード】フランス語, 言語

【先行科目】『フランス語/ フランス語入門』(1.0)

【関連科目】『フランス語/ フランス語初級』(1.0)

【到達目標】フランス語で書かれた平易な文章を読める。仏検 (実用フランス語技能検定試験)4 級合格を目指す。

【授業の計画】

1. 1-3 週:動詞・代名動詞, 複合過去の復習
2. 4-6 週:単純未来, 前未来, 半過去, 大過去
3. 7-9 週:条件法, 関係代名詞, 現在分詞と過去分詞
4. 10-12 週:接続法
5. 13-14 週:総合的な問題と長文読解
6. 15-16 週:期末試験・総括授業

【教科書】沼田ほか『Le français au quotidien 2』朝日出版社, 2011 年, ISBN978-4-255-35215-2

【参考書等】辞書は、『クラウン仏和辞典』(三省堂), 『現代フランス語辞典 (ル・ディコ)』(白水社), 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)など。電子辞書版もあります。

【成績評価の方法】授業への貢献と学期末試験をもとに総合的に評価します。

【再試験の有無】なし。

【受講者のメッセージ】「フランス語入門」の単位の有無は問いませんが、授業は「入門」のレベルをクリアしていることを前提にして進めます。月曜 9-10 講時の授業とセットで、どちらかの授業だけ受講することはできません。

【WEB 頁】<http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221259>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 12 時から 13 時)

【備考】月曜 9-10 講時のフランス語初級とのペアクラスです。

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(医・歯・工((栄・口・化・光)A1年))

李国勝・客員教授

1単位 後期 月 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

【授業の目的】中国語学習の基盤となる正しい発音, 基礎文法を学んだ上で, さまざまな場面を思い描きながら基本表現をゆっくり確実に身につけていく。また, 中国人の考え方, 生活習慣, 中国の文化, 中国の社会事情などについて紹介し, 隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】テキストで新出単語・文法事項を学習し, 発音練習をした後, 教師と学生, あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き, 会話運用能力を高めていく。また, 中国に関するビデオ教材やCD等も適宜使用し, 中国事情の紹介をする。

【キーワード】中国語, ピンイン, 中国事情

【到達目標】中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 第11課
3. 第12課
4. 第13課
5. 第14課
6. 第15課
7. 第16課
8. 第17課
9. 中間テスト
10. 第18課
11. 第19課
12. 第20課
13. 第21課
14. 期末復習
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版②』(朝日出版社)1000円。
CDがあるので必ず購入すること。

【成績評価の方法】小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。具体的な点数配分については, 出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が10%, 中間考査が40%, 期末試験が50%ということになっています。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】授業中は恥ずかしがらず, 積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221260>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 李 .

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(医・歯・工((栄・口・化・光)B1年))

施国恩・非常勤講師

1単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

【授業の目的】前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一步進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一步進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【キーワード】コミュニケーション、中国語、発音、基礎文法

【到達目標】中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. 第 8 課 街上(街)
2. 第 8 課 (文型:前置詞“从”, “往”, 時間量の言い方, 動詞に付く“了”)
3. 第 9 課 京都
4. 第 9 課 (“在”“是~的”構文, 進行の表し方)
5. 第 10 課 寿司
6. 第 10 課 (主述述語文, 助動詞“能”, 結果補語)
7. 復習
8. 中間テスト
9. 第 11 課 滑雪(スキー)
10. 第 11 課 (助動詞“会”, 二重目的語を取る動詞, 様態補語)
11. 第 12 課 動物園
12. 第 12 課 (方向補語, 助動詞“可以”)
13. 第 13 課 春假(春休み)
14. 第 13 課 (疑問詞の不定用法, 助動詞のまとめ)
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】相原 茂 陳 淑梅 飯田 敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』(朝日出版社)2011年, 2,625円(必ず購入すること)※前期のテキスト終了後, これを使用するが最後の課まで到達するとは限らない。

【成績評価の方法】小テスト, 期末試験, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】授業中は恥ずかしがらず, 積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には, 教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ, 「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221261>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 施。

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(医 ((保)1年))

荒武 達朗・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

【授業の目的】 前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一步進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【到達目標】 中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. 前期のかんたんな復習
2. ★ 後期は前期の続き、第五課から開始する予定である。
3. ★ 一回で一課進むとは限らない。状況に応じて適宜進度を変える。
4. 第五課 あそこで少しお待ちください
5. 第六課 少し話せます
6. 第七課 検査室に行つて検査をしてください
7. 第八課 どうしましたか
8. 第九課 口を開けてください
9. 第十課 この薬を飲んだことがありますか
10. 第十一課 服をあそこに置いてください
11. 第十二課 病状はずっとよくなりました
12. ★ 十二月の終わり頃に中間テストを一回実施する
13. 期末テスト

【教科書】 山田真一 『医療系学生のための初級中国語』(白帝社)2,500 円 (必ず購入すること) ※前期より継続して使用する。

【成績評価の方法】 まず、授業での態度が評価の前提となる。授業での態度が良好な学生とは睡眠、私語を一切しないことは勿論、教師に対して畏敬の念を抱き、己が修行中の身であることを自覚する者をさす。授業態度の良好な学生に対しては、小テスト 33. 33%, 中間テスト+期末テスト 66. 67%で評価を実施する。

【再試験の有無】 原則としては有り。ただし小テスト及び中間テストの成績が著しく悪い場合には再試験を認めない。

【受講者のメッセージ】 授業中は積極的に声を出して練習する。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用する。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができる。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221262>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】

- ◇ 学生諸君の向学心、新たな領域に踏み込む積極性を期待する。
- ◇ 心して授業に臨むこと。
- ◇ 当然の事ながら、前期不合格者は後期の授業を受講できない。

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(工 ((建)1年))

山木 真理子・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 後期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

【授業の目的】前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一歩進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、そして中国の文化や社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】コミュニケーション、中国語、発音、基礎文法

【到達目標】中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス、前期の復習
2. 第 6 課
3. 第 7 課
4. 第 8 課
5. 復習
6. 第 9 課
7. 第 10 課
8. 中間試験
9. 第 11 課
10. 第 12 課
11. 第 13 課
12. 復習
13. 第 14 課
14. 第 15 課
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】劉 穎, 喜多山幸子, 松田かの子 『1 冊目の中国語 - 会話クラス』(白水社)2,300 円※前期に引き続いて使用する

【成績評価の方法】中間試験, 期末試験, 小テスト, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221263>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山木 .

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(工 ((機)1 年))

施国恩・非常勤講師

1 単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

【授業の目的】 前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一步進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】 コミュニケーション、中国語、発音、基礎文法

【到達目標】 中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. 第 8 課 街上 (街)
2. 第 8 課 (前置詞“从”“往”，時間量の言い方，動詞につく“了”)
3. 第 9 課 京都
4. 第 9 課 (“在”，“是～的”構文，進行の表し方)
5. 第 10 課 寿司
6. 第 10 課 (主述述語文)
7. 復習
8. 中間テスト
9. 第 11 課 滑雪 (スキー)
10. 第 11 課 (助動詞“会”，二重目的語を取る動詞)
11. 第 12 課 動物園
12. 第 12 課 (方向補語，助動詞“可以”)
13. 第 13 課 春假 (春休み)
14. 第 13 課 (疑問詞の不定用法，助動詞のまとめ)
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 相原 茂 陳 淑梅 飯田 敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』(朝日出版社)2011 年，2,625 円 (必ず購入すること) ※前期のテキスト終了後，これを使用するが最後の課まで到達するとは限らない。

【成績評価の方法】 小テスト，期末試験，授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず，積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には，教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ，「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221264>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 施。

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(工 ((生)1年))

李国勝・客員教授

1単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

【授業の目的】前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一歩進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】コミュニケーション、中国語、発音、基礎文法

【到達目標】中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 第 11 課
3. 第 12 課
4. 第 13 課
5. 第 14 課
6. 第 15 課
7. 第 16 課
8. 第 17 課
9. 中間テスト
10. 第 18 課
11. 第 19 課
12. 第 20 課
13. 第 21 課
14. 期末復習
15. 期末テスト
16. 総括授業

【教科書】董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版②』(朝日出版社)1000 円。
CD があるので必ず購入すること。

【成績評価の方法】小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。具体的な点数配分については、出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が 10%、中間考査が 40%、期末試験が 50%ということになっています。

【再試験の有無】有

【授講者へのメッセージ】授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221268>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 李 .

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(工(電A)1年)

李国勝・客員教授

1単位 後期 火 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

【授業の目的】 前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一步進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】 テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材やCD等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】 コミュニケーション、中国語、発音、基礎文法

【到達目標】 中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 第11課
3. 第12課
4. 第13課
5. 第14課
6. 第15課
7. 第16課
8. 第17課
9. 中間テスト
10. 第18課
11. 第19課
12. 第20課
13. 第21課
14. 期末復習
15. 期末テスト
16. 総括授業

【教科書】 董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版②』(朝日出版社)1000円。
CDがあるので必ず購入すること。

【成績評価の方法】 小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。具体的な点数配分については、出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が10%、中間考査が40%、期末試験が50%ということになっています。

【再試験の有無】 有

【授講者へのメッセージ】 授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221265>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 李 .

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(工((電B)1年))

邵迎建・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 火 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『中国語入門』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

【授業の目的】前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一步進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、中国の文化、中国の社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関係するビデオ教材やCD等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】コミュニケーション能力、中国語、発音、基礎文法

【到達目標】基本文法と簡単な会話能力を身につけることを目標とする。

【授業の計画】

1. 復習
2. 2-3 第7課
3. 4-5 第8課
4. 6-7 第9課
5. 8 中間考察
6. 9-10 第10課
7. 11-12 第11課
8. 13-14 第12課
9. 15 期末試験
10. 16 総括授業

【教科書】張偉雄、黃麗華、邵迎建『活用中国語』(白帝社、2010年)2,600円。

【成績評価の方法】小テスト、期末試験、授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221266>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

中国語 (Chinese)

中国語入門 (Introductory Chinese)

(工 ((知)1年))

山木 真理子・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 後期 金 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語入門』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

【授業の目的】前期で学んだ発音や基礎文法を生かし、そこから一歩進んだ会話ができるように、日常生活に必要な中国語の表現方法や話し方を身に付ける。また、中国人の考え方、生活習慣、そして中国の文化や社会事情を紹介し、隣国である中国に対する理解を深める。

【授業の概要】テキストで新出単語・文法事項を学習し、発音練習をした後、教師と学生、あるいは学生同士による会話練習に最も重点を置き、会話運用能力を高めていく。また、中国に関するビデオ教材や CD 等も適宜使用し、中国事情の紹介をする。

【キーワード】コミュニケーション、中国語、発音、基礎文法

【到達目標】中国語で場面に応じたコミュニケーションができる。

【授業の計画】

1. ガイダンス、前期の復習
2. 第 6 課
3. 第 7 課
4. 第 8 課
5. 復習
6. 第 9 課
7. 第 10 課
8. 中間試験
9. 第 11 課
10. 第 12 課
11. 第 13 課
12. 復習
13. 第 14 課
14. 第 15 課
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】劉 穎, 喜多山幸子, 松田かの子 『1 冊目の中国語 - 会話クラス』 (白水社)2,300 円※前期に引き続いて使用する

【成績評価の方法】中間試験, 期末試験, 小テスト, 授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】授業中は恥ずかしがらず、積極的に声を出して練習しましょう。予習・復習時には、教科書付録の音声教材を活用して下さい。繰り返して聞くことで中国語の音とリズムに慣れ、「聴き取る能力」と「話す能力」を養うことができます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221267>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山木 .

中国語 (Chinese)

中国語初級 (Elementary Chinese)

(総科 ((総科 A)1 年))

田中智行・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級 (総科 ((総科 A)1 年)) 李 / 後期 水 1・2 ⇒ 620 頁)

【授業の目的】 「普通話」と呼ばれる現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。中国語には多くの方言がありますが、「普通話」は中国国内のみならず世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際的舞台で大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語入門 (前期開講) に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス・前期の復習
2. 8 課
3. 8 課 (続)・9 課
4. 9 課 (続)
5. 10 課
6. 10 課 (続)・11 課
7. 11 課 (続)
8. 中間試験
9. 12 課
10. 12 課 (続)・13 課
11. 13 課 (続)
12. 14 課
13. 14 課 (続)・15 課
14. 15 課 (続)
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 楊凱榮, 張麗群 『身につく中国語』 (白帝社, 2009), 2520 円。辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】 教員二名がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(田中) の評価方法: 平常点約 15%, 中間試験約 35%, 及び期末試験約 50% を合計して評価します。

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221269>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 中国語入門を履修済みのこと。

中国語 (Chinese)

中国語初級 (Elementary Chinese)

(総科 ((総科 A)1 年))

李国勝・客員教授

1 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級 (総科 ((総科 A)1 年)) 田中 / 後期 月 5・6 ⇒ 619 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるために大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語入門 (前期開講) に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やすことで、簡単な日常会話ができるようになります。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 第 11 課
3. 第 12 課
4. 第 13 課
5. 第 14 課
6. 第 15 課
7. 第 16 課
8. 第 17 課
9. 中間テスト
10. 第 18 課
11. 第 19 課
12. 第 20 課
13. 第 21 課
14. 期末復習
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム出版②』(朝日出版社)1000 円。CD があるので必ず購入すること。

【成績評価の方法】 教員二名がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(李) の評価方法: 平常点、中間考査及び期末試験により総合的に評価します。三つの部分の点数配分については、出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が 10%、中間考査が 40%、期末試験が 50%ということになっています。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221270>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 李。

【備考】 中国語入門を履修済みのこと

中国語 (Chinese)

中国語初級 (Elementary Chinese)

(総科 ((総科 B)1 年))

李国勝・客員教授

1 単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級 (総科 ((総科 B)1 年)) 田中 / 後期 水 1・2 ⇒ 622 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在, 世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち, 世界各地の華人社会の共通語であり, 国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語入門 (前期開講) に引き続き, 基本文型を学びます。文法を理解し, 少しずつ語彙を増やし, 簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため, 週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 第 11 課
3. 第 12 課
4. 第 13 課
5. 第 14 課
6. 第 15 課
7. 第 16 課
8. 第 17 課
9. 中間テスト
10. 第 18 課
11. 第 19 課
12. 第 20 課
13. 第 21 課
14. 期末復習
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版②』(朝日出版社)1000 円。
CD があるので必ず購入すること。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い, 合算して最終的な評価を決定します。(李) の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。三つの部分の点数配分については, 出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が 10%, 中間考査が 40%, 期末試験が 50%ということになっています。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221271>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 李。

【備考】 中国語入門を履修済みのこと。

中国語 (Chinese)

中国語初級 (Elementary Chinese)

(総科 ((総科 B)1 年))

田中智行・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級 (総科 ((総科 B)1 年)) 李 / 後期 月 5・6 ⇒ 621 頁)

【授業の目的】 「普通話」と呼ばれる現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。中国語には多くの方言がありますが、「普通話」は中国国内のみならず世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際的舞台で大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語入門 (前期開講) に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス・前期の復習
2. 8 課
3. 8 課 (続)・9 課
4. 9 課 (続)
5. 10 課
6. 10 課 (続)・11 課
7. 11 課 (続)
8. 中間試験
9. 12 課
10. 12 課 (続)・13 課
11. 13 課 (続)
12. 14 課
13. 14 課 (続)・15 課
14. 15 課 (続)
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】

◇ 楊凱榮, 張麗群 『身につく中国語』 (白帝社, 2009), 2520 円.

◇ 辞書については授業で指示する (必ず購入すること).

【成績評価の方法】 教員二名がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(田中) の評価方法: 平常点約 15%, 中間試験約 35%, 及び期末試験約 50% を合計して評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221272>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 中国語入門 2 単位を履修済みのこと。

中国語 (Chinese)

中国語初級 (Elementary Chinese)

(総科 ((総科 C)1 年))

邵 迎建・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級 (総科 ((総科 C)1 年)) 李 / 後期 木 1・2 ⇒ 624 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語入門 (前期開講) に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 第 7 課
3. 第 8 課
4. 第 9 課
5. 第 10 課
6. 復習
7. 中間考査
8. 第 11 課
9. 第 12 課
10. 第 13 課
11. 第 14 課
12. 第 15 課
13. 総復習
14. 朗読考査
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 張偉雄, 黄麗華, 邵迎建 『活用中国語』 (白帝社, 2010 年) 2,600 円。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(邵) の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221273>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](mailto:yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 木 1・2 李先生とペア。中国語入門を履修済みのこと。

中国語 (Chinese)

中国語初級 (Elementary Chinese)

(総科 ((総科 C)1 年))

李国勝・客員教授

1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級 (総科 ((総科 C)1 年)) 邵 / 後期 火 3・4 ⇒ 623 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるために大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語入門 (前期開講) に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やすことで、簡単な日常会話ができるようになります。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 第 11 課
3. 第 12 課
4. 第 13 課
5. 第 14 課
6. 第 15 課
7. 第 16 課
8. 第 17 課
9. 中間テスト
10. 第 18 課
11. 第 19 課
12. 第 20 課
13. 第 21 課
14. 期末復習
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版②』(朝日出版社)1000 円。
CD があるので必ず購入すること。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(李) の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。三つの部分の点数配分については、出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が 10%, 中間考査が 40%, 期末試験が 50% ということになっています。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスを行うので必ず出席すること)。週一回のみの履修は不可なので、再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221274>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 李。

【備考】 中国語入門を履修済みのこと

中国語 (Chinese)

中国語初級 (Elementary Chinese)

(総科 ((総科 D)1 年))

李国勝・客員教授

1 単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級 (総科 ((総科 D)1 年)) 邵 / 後期 木 1・2 ⇒ 626 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるための大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語入門 (前期開講) に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やし、簡単な日常会話もできるようになるでしょう。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して授業を進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 第 11 課
3. 第 12 課
4. 第 13 課
5. 第 14 課
6. 第 15 課
7. 第 16 課
8. 第 17 課
9. 中間テスト
10. 第 18 課
11. 第 19 課
12. 第 20 課
13. 第 21 課
14. 期末復習
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 董燕・遠藤光暁『ともだち・朋友・スリム版②』(朝日出版社)1000 円。
CD があるので必ず購入すること。

【成績評価の方法】 二人の教員がそれぞれ別個に評価を行い、合算して最終的な評価を決定します。(李) の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。三つの部分の点数配分については, 出席や授業に対する姿勢などを含めた平常点が 10%, 中間考査が 40%, 期末試験が 50% ということになっています。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 間違えることを恐れずに積極的に中国語で話しかけてください。それが上達への近道です。欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)。週一回のみの履修不可なので再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221275>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 李。

【備考】 中国語入門を履修済みのこと。

中国語 (Chinese)

中国語初級 (Elementary Chinese)

(総科 ((総科 D)1 年))

邵 迎建・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『中国語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級 (総科 ((総科 D)1 年)) 李 / 後期 火 3・4 ⇒ 625 頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるために大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語入門 (前期開講) に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やすことで、簡単な日常会話ができるようになります。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 第 7 課
3. 第 8 課
4. 第 9 課
5. 第 10 課
6. 復習
7. 中間考査
8. 第 11 課
9. 第 12 課
10. 第 13 課
11. 第 14 課
12. 第 15 課
13. 総復習
14. 朗読考査
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 張偉雄, 黄麗華, 邵迎建 『活用中国語』 (白帝社, 2010 年) 2,600 円。

【成績評価の方法】 教員二名がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(何) の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスを行うので必ず出席すること)。週一回のみの履修は不可なので、再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221276>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](mailto:yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 火 3.4 李先生とペア

中国語 (Chinese)

中国語初級 (Elementary Chinese)

(医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年))

田中智行・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『中国語初級』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『中国語 (1)』)

(ペア指定: 中国語初級 (医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年))施 / 後期 火 9・10
⇒ 628 頁)

【授業の目的】「普通話」と呼ばれる現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約 5 分の 1 の人々が中国語を使用しています。中国語には多くの方言がありますが、「普通話」は中国国内のみならず世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際的舞台で大変役立つ言語です。

【授業の概要】中国語入門 (前期開講) に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やすことで、簡単な日常会話ができるようになります。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して進めます。

【到達目標】正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. ガイダンスと前期の復習
2. 7 課
3. 7 課 (続)
4. 8 課
5. 8 課 (続)
6. 9 課
7. 9 課 (続)
8. 中間試験
9. 10 課
10. 10 課 (続)
11. 11 課
12. 11 課 (続)
13. 12 課
14. 12 課 (続)
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】山田真一『医療系学生のための初級中国語』(白帝社, 2009), 2625 円。辞書については授業で指示する (必ず購入すること)。

【成績評価の方法】教員二名がそれぞれ別個に評価し、合算して最終的な評価を決定します。(田中)の評価方法: 平常点約 15%, 中間試験約 35%, 及び期末試験約 50%を合計して評価します。

【再試験の有無】有

【受講へのメッセージ】欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスを行うので必ず出席すること)。週一回のみの履修は不可なので、再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221277>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

中国語 (Chinese)

中国語初級 (Elementary Chinese)

(医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年))

施国恩・非常勤講師

1単位 後期 火 9・10

(平成19年度以前の授業科目:『中国語初級』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『中国語(1)』)

(ペア指定: 中国語初級 (医・歯・薬 ((医・歯・薬)1年)) 田中 / 後期 月 9・10 ⇒ 627頁)

【授業の目的】 現代標準中国語を学ぶことを目的とします。現在、世界の約5分の1の人々が中国語を使用しています。現代中国語は数ある方言に対して普遍的な価値を持ち、世界各地の華人社会の共通語であり、国連の公用語のひとつともなっています。国際人になるために大変役立つ言語です。

【授業の概要】 中国語入門(前期開講)に引き続き、基本文型を学びます。文法を理解し、少しずつ語彙を増やすことで、簡単な日常会話ができるようになります。上記の目標を達成するため、週二回の授業を二人の教員が分担して進めます。

【到達目標】 正確な発音と基礎文法を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

1. 第8課 街上(街)
2. 第8課 (前置詞“从”“往” 時間量の言い方, 動詞につく“了”)
3. 第9課 京都
4. 第9課 (“在”“是～的” 構文, 進行の表し方)
5. 第10課 寿司
6. 第10課 (主述述語文, 助動詞“能”, 結果補語)
7. 復習
8. 中間テスト
9. 第11課 滑雪(スキー)
10. 第11課 (助動詞“会”, 二重目的語を取る動詞, 様態補語)
11. 第12課 動物園
12. 第12課 (方向補語, 助動詞“可以”)
13. 第13課 春假(春休み)
14. 第13課 (疑問詞の不定用法, 助動詞のまとめ)
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 相原 茂 陳 淑梅 飯田 敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』(朝日出版社)2011年, 2,625円(必ず購入すること)※前期のテキスト終了後, これを使用するが最後の課まで到達するとは限らない。

【成績評価の方法】 教員二名がそれぞれ別個に評価し, 合算して最終的な評価を決定します。(施)の評価方法: 平常点, 中間考査及び期末試験により総合的に評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 欠席・遅刻はしないこと(特に第一回目はガイダンスを行うので必ず出席すること)。週一回のみの履修は不可なので, 再受講希望者は要注意。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221278>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 施。

日本語 (Japanese Language)

日本語 2 (Japanese Language 2)

(留(留))

遠藤 かおり・非常勤講師/国際センター

1単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語(1)』)

【授業の目的】 大学生として生活していく上で、必要な日本語力を身につけ、大学での様々な場面に対応できることを目指す。例えば、実際の講義やゼミでの演習などを想定し、「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能すべてにおいてレベルアップすることを目的とする。またその獲得した能力を応用し、実際の場面で生かせるようにする。さらにその過程で、自らの日本語力で不足している技能を見極め、それを伸ばす意欲を高める。

【授業の概要】 テキストを中心に各課のテーマに沿って進めていく。内容は課ごとに異なるが、「読む」「聞く」「書く」「話す」のそれぞれの技能を伸ばし、さらにより適切な表現を身に付けるためのタスクを行う。また、テキストで学んだ知識を活用できるように実践的な活動も取り入れる。

【キーワード】 総合的な日本語(「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能)、運用力、コミュニケーション能力

【関連科目】 『日本語/日本語4』(0.5), 『日本語/日本語6』(0.5), 『日本語/日本語8』(0.5), 『日本事情/日本事情II』(0.5), 『日本事情/日本事情IV』(0.5)

【到達目標】

1. 大学生活に必要な日本語力を身につける。
2. 大学で想定される様々なコミュニケーション場面で、身につけた日本語力を用いて、適切に対応することができる。
3. 自分に必要な日本語力を知り、学習方法が獲得できる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション, レディネス(これまでの学習)・ニーズ(これからの学習希望)調査
2. 第7課:人前で自己紹介を含めたあいさつをする。
3. 第7課:人前で自己紹介を含めたあいさつをする。
4. 第7課:自分のエピソードを述べる。
5. 第7課:自分のエピソードを述べる。
6. 第8・9課:発表用のレジюмеを作成する。
7. 第8・9課:発表用のレジюмеを作成する。
8. 第12課:スピーチの準備をし、発表する。
9. 第12課:スピーチの準備をし、発表する。

10. 第12課:スピーチの準備をし、発表する。

11. 第12課:スピーチの準備をし、発表する。

12. 第13課:討論の準備をし、発表する。

13. 第13課:討論の準備をし、発表する。

14. 第13課:討論の準備をし、発表する。

15. 第13課:討論の準備をし、発表する。

16. レポート・発表などのフィードバック

【教科書】 佐々木瑞枝他著 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(The Japan Times)2001年 2,500円

【成績評価の方法】 レポート, 発表, 授業中の小テスト, 授業への取り組み状況などをもとに, 総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 日本で充実した大学生活を送るために、必要な日本語力を身につけましょう。実践的な活動も取り入れるので、積極的な授業への取り組みが必要とされます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221279>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 遠藤 (088-656-7491, 7kao-beeguru@kmd.biglobe.ne.jp) MAIL

【備考】 緊急時の連絡先:大石(地域・国際交流プラザ内 国際センター, 088-656-9875)

日本語 (Japanese Language)

日本語 4 (Japanese Language 4)

(留(留))

大石 寧子 教授/国際センター

1単位 後期 月 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語(2)』)

【授業の目的】「大学生としての日本語」にとどまらず、社会人として必要な日本語能力と知識を身につける「社会人のための日本語」を習得する。公的な場面や日本企業の職場などの場面を通して、日本人の考え方を深く知る。新聞記事やニュースなどを通して、情報の読み取り方・まとめ方・発表の仕方を身につける。

【授業の概要】1 社会人としての知識や日本語能力を身につける 2 日経新聞の記事を通して情報の取り方、まとめ方、要点の言い方を身につける 3 場面に応じたスピーチレベルを知る 4 公的文書の書き方を知る 5 社会人としてのプレゼンテーションのスキルを身につける

【キーワード】社会人のための日本語、大人としての日本語、自己分析、スピーチレベル、社会人基礎力

【到達目標】

1. 社会人としての日本語力を身につける
2. 様々な状況に応じたスピーチレベルを身につける
3. 公的な文書の書き方を知る
4. 日本・日本人を深く知り、社会人基礎力を身につける

【授業の計画】

1. 授業の概要、自己紹介、受講者レディネス(これまでの学習等)調査
2. 自分のコミュニケーション能力(日本語能力)について
3. 社会人のための日本語①挨拶
4. 社会人のための日本語②伝言
5. 社会人のための日本語③依頼を受ける、断る
6. 社会人のための日本語④意見を言う、聞く、反論
7. 社会人のための日本語⑤お礼、お詫び
8. 新聞雑誌記事の読み取り、まとめ、要点を言う①
9. 新聞雑誌記事の読み取り、まとめ、要点を言う②
10. 発表を聞く、まとめる①
11. 発表を聞く、まとめる②
12. 自分について表現する①
13. 自分について表現する②

14. テーマについてディスカッションする

15. ディスカッション振り返り(自己分析、ディスカッションスキルの見直し)

16. 総括授業 まとめ

【教科書】無

【参考書等】適宜プリント等の資料を配布します。

【成績評価の方法】授業への取り組み、出席、小レポート、ディスカッションなどの課題をもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】前の授業を元に次の授業が展開しますから休まず参加してください。今の日本語力よりさらに向上できるよう自分を見つめなおしてください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221280>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大石 寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30~ 12:00 但し事前に連絡があれば、他の曜日・時間でも対応します)

日本語 (Japanese Language)

日本語 8 (Japanese Language 8)

(留(留))

三隅 友子 教授/国際センター

1単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語(2)』)

【授業の目的】 映画やテレビドラマの日本語を使って、社会人として必要な日本語の知識と能力を習得する。多文化理解の視点についても検証する。

【授業の概要】 日本における男女の役割、期待される行動や表現を考える。特に、漫画、映画、歌、CM 等のサブカルチャーを取り上げ「ジェンダー＝性」に対する考えを考察する。これらの生素材を日本語教材として「読む」「聞く」「話す」「書く」の力を伸ばす。

【キーワード】 ジェンダー、メディア、サブカルチャー、プレゼンテーション

【到達目標】

1. 大学で必要な読解能力を高め、語彙を増やす。
2. 様々な素材から日本語で情報を得る。
3. 自分の意見をまとめ、発表する力をつける。
4. 人の前でプレゼンテーションをする能力を伸ばす。

【授業の計画】

1. 自己紹介授業の概要について
2. ジェンダー論
3. 社会の中での男と女
4. 結婚と性別役割
5. 恋愛と結婚
6. 漫画の中のジェンダー①
7. 漫画の中のジェンダー②
8. 漫画の中のジェンダー③
9. ドラマや映画のジェンダー①
10. ドラマや映画のジェンダー②
11. ドラマや映画のジェンダー③
12. ドラマや映画のジェンダー④
13. 雑誌や広告のジェンダー①
14. 雑誌や広告のジェンダー②
15. 自分で見つける日本社会のジェンダー調査報告会
16. まとめ総括授業

【教科書】 無

【参考書等】 適宜プリント等の資料を配布します。

【成績評価の方法】 授業への取り組み、プレゼンテーションやマニュアル作りなどの課題をもとに、総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 10月時点で、受講生の日本語レベルに応じて内容を変更することがあります。教室と外で、日本語で「読む」「聞く」「話す」「書く」の活動をたくさん行います。積極的に授業に取り組んでください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221281>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三隅 (国際センター, 088-656-7120, misumi@isc.tokushima-u.ac.jp) MAIL
(オフィスアワー: 水曜日9:30~12:00)

【備考】 内容は、H17 のカリキュラム「日本語2」

日本語 (Japanese Language)

日本語 6 (Japanese Language 6)

(留(留))

大石 寧子・教授/国際センター

1単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『日本語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語(1)』)

【授業の目的】大学生として必要な日本語力を身に付ける。「読む」能力の向上をめざすと共に、レポートや小論文の書き方を身につける。

【授業の概要】様々なタイプの文章の読解力を養うだけでなく、読み取りのテクニックを身に付ける。新しい語彙・表現の獲得も目指し、これらを元にレポートの書き方も習得する。また講義を受けるだけでなく、留学生同士、留学生と日本人学生のような組み合わせで、レポートの書き方や内容について意見を言い合うピアレスポンスの形態も取り込んで行う。

【キーワード】「読み取り」の方法、語彙・表現の獲得、キーセンテンス・キーワード、ピア・レスポンス

【到達目標】

1. 論文, エッセイ, 新聞記事, 広告など様々なタイプの文の「読み取り方」を身に付ける。
2. より多くの語彙・文型・表現を身に付ける。
3. 自分の日本語力を見極め、不足している部分の学習方法を獲得する。
4. レポートの書き方を身につける。

【授業の計画】

1. 授業についてのオリエンテーション, 受講者のレディネス(これまでの学習)調査
2. 難易度をつけて, 様々なタイプの文を対象とし, 読解演習, 文型・語彙の復習または獲得, トピックに沿った調査・タスク①
3. 難易度をつけて, 様々なタイプの文を対象とし, 読解演習, 文型・語彙の復習または獲得, トピックに沿った調査・タスク②
4. 難易度をつけて, 様々なタイプの文を対象とし, 読解演習, 文型・語彙の復習または獲得, トピックに沿った調査・タスク③
5. 難易度をつけて, 様々なタイプの文を対象とし, 読解演習, 文型・語彙の復習または獲得, トピックに沿った調査・タスク④
6. 難易度をつけて, 様々なタイプの文を対象とし, 読解演習, 文型・語彙の復習または獲得, トピックに沿った調査・タスク⑤
7. 難易度をつけて, 様々なタイプの文を対象とし, 読解演習, 文型・語彙の復習または獲得, トピックに沿った調査・タスク⑥

8. 難易度をつけて, 様々なタイプの文を対象とし, 読解演習, 文型・語彙の復習または獲得, トピックに沿った調査・タスク⑦

9. レポートの書き方, アンケートのとり方, グラフの見方, 書き方などを実施①

10. レポートの書き方, アンケートのとり方, グラフの見方, 書き方などを実施②

11. レポートの書き方, アンケートのとり方, グラフの見方, 書き方などを実施③

12. レポートの書き方, アンケートのとり方, グラフの見方, 書き方などを実施④

13. レポートの書き方, アンケートのとり方, グラフの見方, 書き方などを実施⑤

14. レポートの書き方, アンケートのとり方, グラフの見方, 書き方などを実施⑥

15. プレゼンテーション

16. 総括授業

【教科書】随時プリントを配布する。

【成績評価の方法】授業に対する取り組みやレポートなどをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】的確に内容が読み取れるようになりましょう。また、語彙や文型・表現を更に増やしましょう。前の授業を元に次の授業が展開するので、休まずに出席してください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221282>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大石 寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30~ 12:00 但し事前に連絡があれば, 他の曜日・時間でも対応します。)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(医 ((栄)1年))

村上 明子・非常勤講師

2単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 現代の情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、大学生として必要とされる基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生生活
2. ガイダンス・パソコンと Windows XP の基礎 1
3. パソコンと Windows XP の基礎 2
4. ワードプロソフト Word の実習 1
5. ワードプロソフト Word の実習 2
6. ワードプロソフト Word の実習 3
7. インターネットの基礎
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1
14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2
15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3
16. 総括授業

【教科書】 講義中に指示する。

【成績評価の方法】 課題レポート (60%)・授業への取り組み状況 (20%) 及び PowerPoint による発表 (20%) により総合的に評価を行う。(ただし、評価割合の目安は括弧内パーセントである。) テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 コンピュータ初心者が情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221283>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村上 (akiko@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(医 ((看 A)1 年))

中山 慎一・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】現代の情報化社会において、ネットワーク、および、PC を使いこなす技術は必須である。大学の授業におけるレポート作成、研究においてもこれらの技術なくしては成り立たない。本授業では、ネットワークを用いた情報収集・発信、PC を用いた文書作成、計算、データ処理などを実習を通じて習得することを目的とする。

【授業の概要】ワープロ、インターネット、電子メール、表計算、プレゼンテーション等の各項目について、順次実習を行い、習得していく。それぞれの項目について適宜レポート課題を出し提出してもらう。

【キーワード】情報リテラシー

【到達目標】現代社会において必須の情報技術であるネットワーク、パーソナルコンピュータの基礎的な利用、応用ができる。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. ワープロの実習 (1)
3. ワープロの実習 (2)
4. ワープロの実習 (3)
5. ワープロの実習 (4)
6. インターネットと電子メールの実習 (1)
7. インターネットと電子メールの実習 (2)
8. インターネットと電子メールの実習 (3)
9. インターネット利用許可システムの知識認定試験
10. 表計算の実習 (1)
11. 表計算の実習 (2)
12. POWER POINT によるプレゼンテーションの実習 (1)
13. POWER POINT によるプレゼンテーションの実習 (2)
14. POWER POINT によるプレゼンテーションの実習 (3)
15. 表計算またはプレゼンテーションに関するレポート作成
16. 総括授業

【教科書】授業時に指示する

【成績評価の方法】課題レポート (60%)・授業への取り組み状況 (20%) 及び PowerPoint による発表 (20%) により総合的に評価を行う。(ただし、評価割合の目安は括弧内パーセントである。) テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】本講義はコンピュータの初心者を対象とする。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221284>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(医 ((看 B)1 年))

蓮沼 徹・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『情報科学』)

【授業の目的】 パソコンを有効的に利用するための基礎的操作・技術を、実習を通して習得することを目的とする。

⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【授業の概要】 ワードプロ、インターネット、電子メール、プレゼンテーション、表計算などについて、実習を行う。ほぼ毎回課題を設定し、授業の最後に提出してもらう。

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. ワードプロソフト Word の実習 1
3. ワードプロソフト Word の実習 2
4. ワードプロソフト Word の実習 3
5. インターネットの基礎 (ネチケット)
6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習
7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. 情報科学からのトピックス 1
14. 情報科学からのトピックス 2
15. 情報科学からのトピックス 3
16. 総括授業

【教科書】 授業の時に指定する。

【成績評価の方法】 課題レポート、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221285>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(医 ((放・検)1年))

金西 計英 教授 / 大学開放実践センター

2単位 後期 火 9・10

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 現代生活にもはや欠かすことのできない「情報」について総合的に学習します。医療人を目指す皆さんにとって、医療現場の情報化にはめざましいものがあり、各種情報スキルの獲得や、情報倫理についての学習は重要です。大学生生活において、学習・研究・プレゼンテーションなどに役立つ PC の利用法の基礎技術の習得を目的とします。最終的に PC を用いて統合的に情報を扱う方法を身につけることを目的とします。

【授業の概要】 1. PC の基礎知識とし周辺機器の名称や役割を説明し、これらの機器の基礎的な使い方を身につける。2. 動作環境としてのソフト (OS) の使い方の基礎を理解し操作に慣れる。3. 基礎的なアプリケーション・ソフトの使い方を身につけ、また PC を用い各自プレゼンテーションを行う。4. ネットワーク下での PC の統合的な情報の取り扱いを身につける。

【キーワード】 情報リテラシー、セキュリティ、アルゴリズム、情報化社会、著作権

【関連科目】 『大学入門講座/ 大学入門講座 (医・保健)』 (0.5)

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・PC の基礎的な利用・応用ができる。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. 授業のガイダンス
3. WWW ブラウザソフト・電子メールの利用者登録と利用法基礎
4. レポートの作成方法について (ワードをつかった文章作成)
5. レポートの作成方法について (図表等を取り込んだポスター等の作成)
6. 表計算ソフトの基本 (エクセルによる表作成)
7. 効果的なグラフの活用 (エクセルによるグラフ作成)
8. データ処理の基礎 (エクセルによる実験データ処理)
9. インターネットのしくみ
10. WEB による情報発信 1 (WEB ページ作成の基礎)
11. WEB による情報発信 2 (WEB ページ作成の基礎)
12. WEB による情報発信 3 (WEB ページ作成の基礎)
13. 効果的なプレゼンテーション (パワーポイントを用いた資料作成)

14. プレゼンテーション実習 (各自発表)

15. プレゼンテーション実習 (各自発表)

16. 総括授業

【教科書】 授業時に必要に応じて、資料等の配布をおこなう。また、教科書を使用する場合は、ガイダンス時に説明する。

【参考書等】

- ◇ 「報科学入門-ソフト操作編-(学術図書出版社) 1785 円
- ◇ ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる (ちくま新書) 梅田望夫著
- ◇ 理科系の作文技術 (中公新書) 木下是雄著

【成績評価の方法】 毎週の課題の提出状況とプレゼンテーション (発表) 実習から総合的に成績判断を行う。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 高校で科目「情報」を履修していることを前提としています。講義は全て積み重ねが大事なので欠席すると追いつくための自習が必要。学部 1 年生のみ対象の講義。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221286>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 金西 (大学開放実践センター 2 階, 088-656-7610, marukin@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(歯((歯・口)1年))

河原崎 貴光・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 近年、コンピュータは我々の生活環境に確実に浸透しつつあり、その重要性は加速度的に増してきている。このような状況において、コンピュータを使いこなす能力「コンピュタリテラシー」は欠かすことのできない必須技術となってきた。本授業では、実際にコンピュータを操作することによりコンピュタリテラシーを習得することを目的とする。また、実際の操作を通してコンピュータ及びそのネットワークの仕組みについても概観する。

【授業の概要】 コンピュータを利用した情報収集の仕方、情報のまとめ方、情報発信の仕方について講義・実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー、情報処理、インターネット

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. パソコンと Windows XP の基礎 (2)
3. ワードプロソフト Word 利用法 (1)
4. ワードプロソフト Word 利用法 (2)
5. ワードプロソフト Word 利用法 (3)
6. インターネットの基礎 (WWW ブラウザ利用法)
7. インターネットの基礎 (電子メール利用法)
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint 利用法 (1)
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint 利用法 (2)
10. プレゼンテーション発表会 (1)
11. プレゼンテーション発表会 (2)
12. 表計算ソフト Excel 利用法 (1)
13. 表計算ソフト Excel 利用法 (2)
14. 表計算ソフト Excel 利用法 (3)
15. ホームページの作成 (1)
16. 総括授業

【教科書】 授業の時に指示する

【成績評価の方法】 レポート及びプレゼンテーションの発表により評価する。テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 本講義はコンピュータの初心者を対象とする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221287>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(工 ((化 A)1 年))

金西 計英 教授 / 大学開放実践センター

2 単位 後期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 情報化の進んだ現代において、技術者にも高い情報スキルが求められます。実験のデータをまとめたり、分析するのに PC は欠かせません。また、関連する情報を調べるにもインターネットは欠かせません。本授業では、技術者の日常に欠かすことのできない「情報」について、基本的なスキルの獲得を目指して学習を進めます。大学生活において、学習・研究・プレゼンテーションなどに役立つ PC 利用法の基礎技術の習得を目的とする。また、情報倫理やセキュリティについても学習します。最終的に PC を用いて統合的に情報を扱う方法を身につけることを目的とします。

【授業の概要】 1. PC の基礎知識とし周辺機器の名称や役割を説明し、これらの機器の基礎的な使い方を身につける。2. 動作環境としてのソフト (OS) の使い方の基礎を理解し操作に慣れる。3. 基礎的なアプリケーション・ソフトの使い方を身につけ、また PC を用い各自プレゼンテーションを行う。4. ネットワーク下での PC の統合的な情報の取り扱いを身につける。5. 情報倫理やセキュリティについて基本的な内容を理解する。

【キーワード】 情報リテラシー、セキュリティ、情報化社会、アルゴリズム

【関連科目】 『大学入門講座/ 大学入門講座 (工・化学)』 (0.5)

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・PC の基礎的な利用・応用ができる。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. 授業のガイダンス
3. WWW ブラウザソフト・電子メールの利用者登録と利用法基礎
4. レポートの作成方法について (ワードをつかった文章作成)
5. レポートの作成方法について (図表を埋め込んだポスト等の作成)
6. 表計算ソフトの基本 (エクセルによる表作成)
7. 効果的なグラフの活用 (エクセルによるグラフ作成)
8. データ処理の基礎 (エクセルによる実験データ処理)
9. インターネットのしくみ
10. 情報倫理、セキュリティについて
11. WEB による情報発信 1 (WEB ページ作成の基礎)

12. WEB による情報発信 2 (WEB ページ作成の基礎)

13. 効果的なプレゼンテーション (パワーポイントを用いた資料作成)

14. プレゼンテーション実習 (各自発表)

15. プレゼンテーション実習 (各自発表)

16. 総括授業

【教科書】 授業時に必要に応じて、資料等の配布をおこなう。また、教科書を使用する場合は、ガイダンス時に説明する。

【参考書等】

◇ 情報科学入門-ソフト操作編-(学術図書出版社) 1785 円

◇ ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる (ちくま新書) 梅田望夫著

◇ 理科系の作文技術 (中公新書) 木下是雄著

【成績評価の方法】 毎週の課題の提出状況とプレゼンテーション実習の結果から総合的に成績判断を行う。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 高校で科目「情報」を履修していることを前提としています。講義は全て積み重ねが大事なので欠席すると追いつくための自習が必要。学部 1 年生のみ対象の講義。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221288>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 金西 (大学開放実践センター 2 階, 088-656-7610, marukin@cue.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](mailto:marukin@cue.tokushima-u.ac.jp)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(工((化B)1年))

村上 明子・非常勤講師

2単位 後期 金 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】現代の情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、大学生として必要とされる基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】情報リテラシー

【関連科目】『情報科学/ 情報科学入門』(1.0)

【到達目標】現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生生活
2. ガイダンス・パソコンと Windows XP の基礎 1
3. パソコンと Windows XP の基礎 2
4. ワードプロソフト Word の実習 1
5. ワードプロソフト Word の実習 2
6. ワードプロソフト Word の実習 3
7. インターネットの基礎
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1
14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2
15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3
16. 総括授業

【教科書】講義中に指示する。

【成績評価の方法】課題レポート (60%)・授業への取り組み状況 (20%) 及び PowerPoint による発表 (20%) により総合的に評価を行う。(ただし、評価割合の目安は括

弧内パーセントである。) テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】コンピュータ初心者が情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221289>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村上 (akiko@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(工((生A)1年))

中山 慎一・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 現代の情報化社会において、ネットワーク、および、PC を使いこなす技術は必須である。大学の授業におけるレポート作成、研究においてもこれらの技術なくしては成り立たない。本授業では、ネットワークを用いた情報収集・発信、PC を用いた文書作成、計算、データ処理などを実習を通じて習得することを目的とする。

【授業の概要】 ワードプロ、インターネット、電子メール、表計算、プレゼンテーション等の各項目について、順次実習を行い、習得していく。それぞれの項目について適宜レポート課題を出し提出してもらう。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. ワードプロソフト Word の実習 1
3. ワードプロソフト Word の実習 2
4. ワードプロソフト Word の実習 3
5. インターネットの基礎 (ネチケット)
6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習
7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. 情報科学からのトピックス 1
14. 情報科学からのトピックス 2
15. 情報科学からのトピックス 3
16. 総括授業

【教科書】 授業時に指示する

【成績評価の方法】 課題レポート、授業への取り組みなどをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 本講義はコンピュータの初心者を対象とする。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221290>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(工 ((光)1年))

香川 順子・准教授/大学開放実践センター

2単位 後期 水 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 情報化社会では、コンピュータなど情報関連技術を習得し積極的に情報を活用することのできる能力「情報リテラシー」が必要となっている。本授業では、基礎的な情報リテラシーの習得を目的とする。

【授業の概要】 IT(情報技術)の基礎及び関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。

【キーワード】 情報リテラシー

【到達目標】 現代社会において必須の情報技術であるネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用技術を身につける。

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生活
2. ワードプロソフト Word の実習 1
3. ワードプロソフト Word の実習 2
4. ワードプロソフト Word の実習 3
5. インターネットの基礎 (ネチケット)
6. インターネットの基礎 (Web ブラウザ) の実習
7. インターネットの基礎 (電子メール) の実習
8. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 1
9. プレゼンテーションソフト PowerPoint の実習 2
10. 表計算ソフト Excel の実習 1
11. 表計算ソフト Excel の実習 2
12. 表計算ソフト Excel の実習 3
13. PowerPoint によるプレゼンテーション 1
14. PowerPoint によるプレゼンテーション 2
15. PowerPoint によるプレゼンテーション 3
16. 総括授業

【教科書】 授業の際に指示します

【成績評価の方法】 課題レポート・授業への取り組み状況及び PowerPoint による発表により総合的に評価を行う。テーマ・期限等は講義中に指示する。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 コンピュータ初心者が情報機器を道具として活用できるよう、基本的事項から実習を行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221291>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 香川 (206, 088-656-7283, kagawa@cue.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水・木曜日 12:10~ 12:40 6号館2階香川研究室)

4) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects)

基礎数学

統計学 ... (医・歯 ((医・歯)A1年)) / 大橋 / 後期 火 7・8	644
統計学 ... (医・歯 ((医・歯)B1年)) / 守安 / 後期 火 7・8	645
統計学 ... (薬 (薬2年)) / 片山 / 後期 月 5・6	646
線形代数学 II ... (工 ((建)1年)) / 守安 / 後期 水 1・2	647
微分積分学 II ... (工 ((建)1年)) / 伊藤 / 後期 金 3・4	648
微分積分学 II ... (工 ((機 A)1年)) / 宇野 / 後期 水 5・6	649
線形代数学 II ... (工 ((機 A)1年)) / 村上 / 後期 木 1・2	650
微分積分学 II ... (工 ((機 B・電 A)1年)) / 竹内 / 後期 水 5・6	651
線形代数学 II ... (工 ((機 B・電 A)1年)) / 片山 / 後期 木 1・2	652
線形代数学 II ... (工 ((化)1年)) / 桑原 / 後期 水 1・2	653
微分積分学 II ... (工 ((化)1年)) / 鍋島 / 後期 金 3・4	654
線形代数学 II ... (工 ((生)1年)) / 大沼 / 後期 水 1・2	655
微分積分学 II ... (工 ((生)1年)) / 大橋 / 後期 金 3・4	656
微分積分学 II ... (工 ((電 B)1年)) / 鍋島 / 後期 水 5・6	657
線形代数学 II ... (工 ((電 B)1年)) / 蓮沼 / 後期 木 1・2	658
線形代数学 II ... (工 ((知)1年)) / 岡本 / 後期 月 7・8	659
微分積分学 II ... (工 ((知)1年)) / 伊藤 / 後期 水 7・8	660
線形代数学 II ... (工 ((光)1年)) / 大淵 / 後期 月 7・8	661
微分積分学 II ... (工 ((光)1年)) / 片山 / 後期 火 5・6	662

基礎物理学

基礎物理学 II・物理学概論 ... (医 ((医)1年)) / 大野 / 後期 火 3・4	663
基礎物理学 II・物理学概論 ... (歯 ((歯)1年)) / 齊藤 / 後期 火 5・6	664
基礎物理学 g・電磁気学概論 ... (工 ((化)1年)) / 中村 / 後期 水 5・6	665
基礎物理学 g・電磁気学概論 ... (工 ((生)1年)) / 大野 / 後期 水 7・8	666
基礎物理学 f・力学概論 ... (工 ((知)1年)) / 日置 / 後期 金 7・8	667

基礎物理学実験

基礎物理学実験 A ... (医・歯 ((医・歯)A1 年)) / 伏見・齊藤・折戸 / 後期 金 7~10	668
基礎物理学実験 B ... (医・歯 ((医・歯)B1 年)) / 中山・小山・真岸 / 後期 水 7~10	669

基礎化学

基礎化学 II ... (医 ((医)1 年)) / 伊藤・徳村・根本・山崎・重永・辻・宮本 / 後期 木 5・6	670
基礎化学 I・物理化学 (化学平衡と反応速度論) ... (医 ((薬)1 年)) / 植野 / 後期 金 3・4	671
基礎化学 IIA・有機化学 (ライフサイエンスの基礎) ... (歯 ((歯)1 年)) / 三好 / 後期 月 5・6	672
基礎化学 II・原子と分子 ... (薬 (薬)1 年)) / 植野 / 後期 水 5・6	673
基礎化学概論 ... (工 ((建)1 年)) / 村田 / 後期 木 1・2	674

基礎化学実験

基礎化学実験 ... (医 ((薬)1 年)) / 増田・中村・板東 / 後期 火 5~8	675
基礎化学実験 ... (工 ((化)2 年)) / 三好・菊池 / 後期 水 5~8	676

基礎生物学

基礎生物学 MII ... (医 ((医)1 年)) / 六反・桑野 / 後期 月 5・6	677
基礎生物学 N ... (医 ((薬)1 年)) / 金丸 / 後期 水 7・8	678
基礎生物学 DII ... (歯 ((歯)1 年)) / 細井・赤松・長谷川・三宅・弘田・村上 / 後期 木 3・4	679

基礎生物学実験

基礎生物学実験 A ... (医・歯 ((医・歯)A1 年)) / 佐藤 / 後期 水 7~10	680
基礎生物学実験 B ... (医・歯 ((医・歯)B1 年)) / 渡部・佐藤 / 後期 金 7~10	681

基礎数学 (Basic Mathematics)

統計学 (Statistics)

(医・歯 ((医・歯)A1年))

大橋 守・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 統計学は、様々な実験科学・実証科学において、欠かすことのできない有用な道具として使われている。この講義では、統計学の基本事項の理解と、データ処理のための計算の基礎の習得を目的とする。

【授業の概要】 統計的仮説検定を中心に、なるべく難しい数学理論を用いなくて、統計学の基本事項を解説する。データ処理の計算に慣れてもらうため、授業時間中に電卓を使った問題演習も取り入れる。尚、学生の理解度に依って、内容や進度を調整することもある。

【キーワード】 確率、統計量、検定

【到達目標】 統計的推定と仮説検定の考え方を理解し、電卓と確率分布表を使ってデータの基本的な統計処理ができるようになること。

【授業の計画】

1. 授業の概要、確率
2. 条件付き確率と独立
3. 確率変数と期待値
4. 確率分布 (1)
5. 確率分布 (2)
6. 中心極限定理と大数の法則
7. 母集団と標本
8. 母平均の区間推定
9. 母分散の区間推定
10. 母比率の検定
11. 母平均の検定
12. 母分散の検定
13. 等平均・等分散の検定
14. 適合度の検定
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 森本, 大橋共著「これならわかる確率・統計セミナー」学術図書出版社

【成績評価の方法】 講義中に課す演習問題と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有。ただし、本試験や授業への取り組み状況によっては、再試験を受けられない場合がある。

【受講者のメッセージ】 授業中および期末試験で電卓 (四則と平方根の計算機能だけでよい) が必要となるので、各自で準備しておいて下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221292>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 11 時 55 分 ~ 12 時 50 分)

基礎数学 (Basic Mathematics)

統計学 (Statistics)

(医・歯 ((医・歯)B1年))

守安 一峰・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 火 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 統計学は、様々な実験科学・実証科学において、欠かすことのできない有用な道具として使われている。この講義では、統計学についての基本概念の理解と、実験や調査におけるデータ処理の基礎の習得を目的とする。

【授業の概要】 統計的仮説検定を中心に、統計学の基本事項をなるべく難しい数学理論を用いずに解説する。

【キーワード】 仮説検定, 推定

【到達目標】 電卓と分布表を使って、仮説検定および推定ができるようになること

【授業の計画】

1. 授業の概要
2. データの整理
3. 確率変数と確率分布 (1)
4. 確率変数と確率分布 (2)
5. 母平均の検定
6. 母平均の差の検定 (1)
7. 母平均の差の検定 (2)
8. 母比率・母比率の差の検定
9. 適合度の検定 (1)
10. 適合度の検定 (2)
11. 独立性の検定
12. 点推定
13. 区間推定 (1)
14. 区間推定 (2)
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 鈴木義也・洲之内長一郎共著「すぐに役立つ統計」学術図書出版社

【成績評価の方法】 期末試験と授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有。ただし、本試験や授業への取り組み状況によっては、再試験を受けられない場合がある。

【受講者へのメッセージ】 授業中に電卓(四則と平方根の計算機能があればよい)を使用するので、準備しておいてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221293>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

統計学 (Statistics)

(薬 (薬2年))

片山真一・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 薬品は、現代人にとって生活の維持発展のために欠かせないものとなっている。確率・および統計の考え方は、薬学の基礎となる数学の道具である。本講義では、高校で習った数学II, 数学IIIおよび前期で学んだ微分積分学を基礎として専門での薬品開発のための基本的な統計学の概念の理解と、実験や調査などのための基本的なデータの処理の仕方の基礎を習得することを目的とする。

【授業の概要】 統計学は、理工系の学生だけでなく文系の学生にとっても必須の考え方になっている。この講義では、統計学の基礎となる確率と統計学の基本的な事項を基本的な数学の基礎から解説する。また、授業時間中に随時受講生に演習を課し、統計の基本的な計算を行う。

【キーワード】 確率, 統計量, 検定

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学』(0.9)

【関連科目】 『医薬品開発論3』(0.8)

【到達目標】 統計的推定および帰無仮説の概念で検定の使い方を理解し、分布表を使って統計処理ができる。

【授業の計画】

1. 授業の概要, 確率
2. 条件付確率と独立
3. 確率変数と期待値
4. 確率分布 (2項分布)
5. 確率分布 (正規分布)
6. 中心極限定理と大数の法則
7. 母集団と標本
8. 正規分布と母平均の区間推定
9. カイ二乗分布と母分散の区間推定
10. 帰無仮説の概念
11. 母平均の検定
12. 母分散の検定
13. F-分布と等分散の検定
14. 適合度の検定

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 教科書: 森本, 大橋著「これならわかる確率・統計セミナー」, 学術図書出版

【成績評価の方法】 講義中に課す演習問題 (約5割で評価) と期末試験 (約5割で評価) によって総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業中に電卓 (四則と平方根の計算機能だけでよい) を使用するの
で、準備しておくこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221294>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 薬学教育モデル・コアカリキュラム C-16-(5) に一部該当

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II (Linear Algebra 2)

(工 ((建)1 年))

守安 一峰・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 今や線形代数学は、工学や社会科学の広い分野で大きな役割を演じている。また、微分積分学と並んで数学やその応用の研究を志す人にとって車の車輪の如く基本的な学問分野である。本講義では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理科学の基礎的手法の修得を目指す。

【授業の概要】 高校で学習する幾何ベクトルを拡張した n 次元数ベクトルとそれの属する線形空間の概念は、行列や行列式をより深く数学的に理解する上で必要不可欠である。特にベクトルの 1 次独立性は線形代数学の根幹をなす基本概念である。ここでは線形空間の一般論、線形写像と行列、固有値問題などについて講義する。

【キーワード】 線形空間, 線形写像, 内積, 固有値

【先行科目】 『基礎数学/線形代数学 I』(0.9)

【到達目標】 線形空間, 線形写像の概念に基づき, ベクトル, 行列の理解を深める。また, 固有値や固有ベクトルを求め, 行列の対角化 (標準化) が実行できる。

【授業の計画】

1. 授業ガイダンス
2. 固有値と固有ベクトル (1)
3. 固有値と固有ベクトル (2)
4. 行列の対角化
5. 行列の標準化 (1)
6. 行列の標準化 (2)
7. 線形空間
8. 1 次独立
9. 基底と次元 (1)
10. 基底と次元 (2)
11. 線形写像 (1)
12. 線形写像 (2)
13. 表現行列 (1)
14. 表現行列 (2)
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 守安一峰・小野公輔著 『理工系の線形代数学入門』 サイエンス社

【参考書等】

- ◇ 裕野敏博・加藤芳文著 『理工系の基礎線形代数学』 学術図書出版社
- ◇ 戸田暢茂著 『基礎線形代数学』 学術図書出版社

【成績評価の方法】 期末試験, レポート, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有。ただし, 本試験や授業への取り組み状況によっては, 再試験を受けられない場合がある。

【受講者へのメッセージ】 授業には積極的に取り組むこと。予習復習は必ず行うこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221295>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 II (Calculus 2)

(工((建)1年))

伊藤 正幸・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、線形代数学と並び、現代の数学の基礎をなすものであり、学生諸君が将来各方面で諸問題に出会ったときに、数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠な考え方や知識を提供するであろう。微積分は、高等学校でもある程度学んでいるが、この枠を越え真に有用な知識の体系を得るには緻密で長い理論展開が要求され、かなりの努力が必要になる。この授業は、このような微積分を学ぶことによって、断片的な知識の習得のみならず、今後必要となる、理論的な推論法、論理的な推論展開を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 微分積分学 II は前期に開講される微分積分学 I を前提に講義がなされる。便宜上、微分積分学 I においては、主として微分法を、微分積分学 II においては、積分法を学ぶ。主な項目は、1. 不定積分、2. 定積分、3. 広義積分、4. 重積分 である。

【キーワード】 多変数関数、定積分、重積分

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学 I』(1.0)

【到達目標】

1. 基本的な定積分計算が出来、広義積分の意味を理解する。また応用上重要な各種重積分ができる。
2. 重積分を理解し、計算法を習得する。

【授業の計画】

1. 不定積分
2. 置換積分と部分積分
3. 有理式の積分
4. 不定積分の計算
5. 定積分
6. 定積分の基本性質
7. 定積分と不定積分 (微分積分学の基本定理)
8. 定積分の応用
9. 広義積分
10. 無限積分
11. 重積分

12. 2重積分と累次積分

13. 重積分の計算

14. 変数変換

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】

◇ 微分積分学の基礎 (改訂版) 水本久夫著 培風館

◇ 自習用参考書:解析入門 I,II 杉浦光夫著 東大出版会

【成績評価の方法】 受講姿勢と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無し

【受講へのメッセージ】 講義内容の理解には日々の予習、復習が必要不可欠です。積極的な取り組みを期待しています。実際の積分計算には、微分計算と違い常に小さな発見を必要とする。したがって日頃の勉強習慣が必要です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221296>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 1. 火曜日 12:00-12:45, 2. 月曜日 16:30-17:30)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学Ⅱ (Calculus 2)

(工 ((機 A) 1 年))

宇野 剛史・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は線形代数学と並んで数学やその応用の研究を志す人にとって車の両輪の如く基本的な学問分野となっており, 工学系技術者・研究者においても必須である. 本講義では数学の基本的教養の一翼を担う微分積分学それ自体の実体的, 構造的, 法則的理解をめざすと同時に数理科学の基本的手法の習得をめざしたい.

【授業の概要】 本講義では, 1 変数と多変数の関数のリーマン積分について講義する.

【到達目標】

1. リーマン積分の基礎的概念の意味を理解できる.
2. リーマン積分について構造的論理的に理解できる.
3. 発展的応用的問題への応用ができる. (自学自習による)

【授業の計画】

1. 不定積分の定義, 置換積分法
2. 部分積分法, 有理式の積分
3. その他の積分法
4. リーマン積分の定義
5. リーマン積分の基本性質
6. 定積分と不定積分の関係, 定積分の計算
7. 平面図形の面積
8. 立体の体積, 曲線の長さ
9. 有界でない関数の積分
10. 無限積分
11. 重積分, 累次積分
12. 積分変数の変換
13. n 重積分
14. 曲面積
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 水本久夫著「微分積分学の基礎 改定版」培風館

【成績評価の方法】 毎回の授業のまとめのレポートと期末試験の成績による総合評価

【再試験の有無】 再試験などは決して行いません.

【受講者のメッセージ】 各自が主体的に演習問題に取り組んでもらいたい.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221297>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 宇野 (総合科学部 1 号棟 2S08 室, 088-656-7294, uno@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学Ⅱ (Linear Algebra 2)

(工((機A)1年))

村上公一・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『基礎数学』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】線形代数学は、微分積分学とならんで大学初年度の数学の2本の大きな柱の一つである。それは線形代数学の理論が、自然科学や工学はもちろんのこと、情報科学や社会科学などの広い範囲で応用可能であるためである。この授業では、線形代数学についての基本概念の理解と、行列に関する計算力の習得を目的とする。

【授業の概要】行列の標準化を中心に、基本事項を解説する。また、授業時間中に毎回問題演習を行い、行列の計算に慣れてもらう。

【キーワード】対角化、標準化、基底と次元

【先行科目】『基礎数学/線形代数学Ⅰ』(1.0)

【到達目標】固有値・固有空間を理解し、行列の標準化ができるようになること

【授業の計画】

1. 授業の概要
2. 数ベクトル空間
3. 行列の標準化(1) 固有値と固有ベクトル
4. 行列の標準化(2) 固有空間とその次元
5. 行列の標準化(3) 行列の対角化
6. 行列の標準化(4) 行列の m 乗(対角化の応用)
7. 行列の標準化(5) ジョルダン標準形(1)
8. 行列の標準化(6) ジョルダン標準形(2)
9. 行列の標準化(7) 行列の m 乗(標準化の応用)
10. 行列の標準化(8) 標準化の応用
11. 行列の標準化(9) 標準化の補足
12. 線形空間 次元と基底
13. 線形写像 像と核
14. 内積空間 グラム-シュミットの直交化法
15. 期末試験
16. 総括

【教科書】守安一峰, 小野公輔 共著 「理工系の線形代数学入門」サイエンス社

【成績評価の方法】期末試験と授業への取り組み状況により総合的に評価する。

【再試験の有無】有。ただし、本試験や授業への取り組み状況によっては、再試験を受けられない場合がある。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221298>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村上 (総科1号館2F南棟, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学Ⅱ (Calculus 2)

(工((機B・電A)1年))

竹内敏己 教授/工学部

2単位 後期 水 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 積分の基本的概念および積分の計算法を習得し、長さ、面積、体積を初めとする工学上の実際問題へ応用できる力を身につける。また、級数についての理解を深める。

【授業の概要】 微分積分学は工学において最も基本的な道具として用いられる学問の一つである。本講義では、まず1変数関数の積分法について十分学んだ上で、2変数関数の積分法および実際問題への応用について学ぶ。最後に、級数についての基本事項を学習する。

【キーワード】 積分, 2重積分, 級数

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学Ⅰ』(1.0)

【到達目標】

1. 1変数関数の積分法を理解し、計算法を習得する。
2. 2重積分を理解し、計算法を習得する。

【授業の計画】

1. 不定積分
2. 置換積分法
3. 部分積分法
4. 有理式の積分
5. 三角関数の積分
6. 無理式の積分
7. 定積分
8. 長さ、面積、体積
9. 無限級数
10. べき級数の微分と積分
11. 広義積分
12. 2重積分
13. 2重積分における積分変数の変換
14. 立体の体積、表面積
15. 期末試験
16. 総括

【教科書】

◇教科書:水本久夫 『微分積分学の基礎 改訂版』 培風館

◇問題集:水本久夫 『微分積分学問題集 改訂版』 培風館

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況や授業中に行う演習問題および授業時間外に行うレポート等の平常点(30%)と期末試験(70%)により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【講師へのメッセージ】 「微分積分学Ⅰ」の履修を前提とする。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221299>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 竹内 (A206, 088-656-7544, takeuchi@pm.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 14:00-15:00)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II (Linear Algebra 2)

(工 ((機 B・電 A)1 年))

片山 真一・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は微分積分学と並んで数学の基本的な両輪であり, 自然科学や工学はもちろん, 情報科学や社会科学な, どの多くの分野で広く用いられている数学的手法である. 本授業の目的は線形代数学の基礎知識の習得であり, 前期, の「線形代数学 I」の続きである.

【授業の概要】 前期に引き続き現代の科学技術に欠かすことができない線形代数学の内容について学ぶ. 線形写像と行列の関係及び行列の標準化について学習する. 本講義では, 定理や理論の証明の厳密性と具体的な易しい例を織りまぜて, 今後の工学の専門知識の習得に欠かせない基礎である線形代数の基本的な手法が修得できるようにすることをめざす.

【到達目標】

1. 1. 線形空間の基本的な概念を理解できるようになる.
2. 2. 固有値, 固有空間を求められるようになる.
3. 3. 行列の標準化が計算出来るようになる.

【授業の計画】

1. 平面の一次変換
2. 一次変換と図形
3. 線形写像
4. 線形写像の像と核
5. 固有値と固有ベクトル
6. 固有空間
7. 内積空間
8. シュミットの正規直交化
9. 基底の延長
10. 行列の三角化
11. 行列の対角化
12. 実対称行列の対角化
13. 表現行列と線形変換
14. 標準形およびまとめ
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 中原徹・片山真一 『線形代数学入門』 学術図書

【成績評価の方法】 学期末試験を約 6 割, レポート等授業への取り組み状況を約 4 割として総合的に評価する.

【再試験の有無】 有. ただし総合評価が 3 割に満たないものは受験を認めないことがある.

【受講者のメッセージ】 10-15 分程度の僅かな時間でも良いですから, 必ず講義の行われたその日のうちに復習を行って下さい.

【WEB 頁】 <http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~ohbuchi/index1.html>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221300>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II (Linear Algebra 2)

(工((化)1年))

桑原 類史・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は、現代の工学や社会科学の広い分野で大きな役割をはたす数学の基礎的な技術である。本講義では、高校で学習したベクトルや 2 次行列を一般化して専門での数学的基礎となる線形代数の基本概念を理解する。また将来、線形代数学を日常的に使う工学部の学生がこの線形代数の理論の理解の上で、基本的な計算力が習得できることを目標とする。

【授業の概要】 本講義では、前期「線形代数学 I」に引き続き、線形代数学の理論体系 (線形構造) に焦点をあてて講義する。線形写像、基底等、前期に比べて抽象度の高い線形構造を扱うので言葉を正しく理解して使えるようになることが大切である。

【キーワード】 線形空間、基底と次元、線形写像、内積、固有値

【先行科目】 『基礎数学/線形代数学 I』(0.9)

【到達目標】

1. 線形空間、線形写像の概念に基づき、ベクトル、行列の理解を深める。
2. 固有値や固有ベクトルを求め、行列の対角化 (標準化) が実行できる。

【授業の計画】

1. 導入、幾何ベクトル、数ベクトル
2. 線形空間、部分空間
3. ベクトルの 1 次独立性
4. 基底と次元
5. 線形写像 (1)
6. 線形写像 (2)
7. 線形写像と行列
8. 内積空間 (1)
9. 内積空間 (2)
10. 固有値と固有ベクトル (1)
11. 固有値と固有ベクトル (2)
12. 行列の対角化 (1)
13. 行列の対角化 (2)
14. 行列の標準化-応用
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 裕野敏博・原祐子・山辺元雄 共著 「理工系の入門線形代数」 学術図書出版社

【参考書等】 「線形代数学」佐竹一郎著 裳華房

【成績評価の方法】 期末試験 (70~90%) およびレポート、授業への取り組み状況 (10~30%) をもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有り。ただし、期末試験の成績が 30 点未満の者は再試験の受験資格なし。

【受講者へのメッセージ】 線形代数の言葉をちゃんと理解して使えるように授業の復習と適宜課すレポートを欠かさないで行うようにしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221301>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学Ⅱ (Calculus 2)

(工((化)1年))

鍋島 克輔・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】1 変数関数の積分法については、高校で履修した事項の理論的な基礎付けと、応用上重要な広義積分をいくつかの応用例を通して理解する。最後に、級数についての基本事項を学習する。

【授業の概要】積分法、1 変数および多変数の関数の積分法を学ぶ。具体的な例題を通し基礎的な計算技術も修得する。

【キーワード】積分、2 重積分、級数

【先行科目】『基礎数学/微分積分学Ⅰ』(1.0)

【関連科目】『基礎数学/微分積分学Ⅰ』(1.0)

【到達目標】1 変数積分法、多変数積分法、級数について一定の概念的理解を得ると共に、具体的な問題について計算できるようになること。

【授業の計画】

1. 1 変数関数の積分 (1) 原始関数・不定積分
2. 1 変数関数の積分 (2) 不定積分の計算
3. 1 変数関数の積分 (3) 定積分、置換積分、部分積分
4. 1 変数関数の積分 (4) 広義積分
5. 1 変数関数の積分 (5) 曲線の長さ
6. 多変数関数の積分 (1) 二重積分
7. 多変数関数の積分 (2) 累次積分 1
8. 多変数関数の積分 (3) 累次積分 2
9. 多変数関数の積分 (4) 三重積分
10. 多変数関数の積分 (5) 変数変換の公式
11. 多変数関数の積分 (6) 広義積分
12. 多変数関数の積分 (7) 曲面積、面積分
13. 級数 (1) 無限級数
14. 級数 (2) ベキ級数の微分と積分
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】荒井正治著『理工系微分積分学』学術図書出版社

【成績評価の方法】優:期末試験 80%以上、良:レポートなどの平常点 (30%) と期末試験 (70%) で合計 70%以上、可:レポートなどの平常点 (30%) と期末試験 (70%)

で合計 60%以上。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】演習問題等を自分自身で考え、理解を深めてください。また、定理や公式の証明もきちんと理解するよう心がけてください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221302>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜 14:00 ~ 15:30 火曜 14:00~ 15:30)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II (Linear Algebra 2)

(工 ((生)1 年))

大沼 正樹・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 水 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】線形代数学は、微分積分学と共に数学の基本であると同時に、様々な自然科学分野や工学の分野にとどまらず、経済学などの社会科学分野にも広い応用のある基本的な道具です。本講義では、具体的な計算を通して、線形性という概念に慣れ親しみ、ベクトル空間や線形写像の基本的な性質を使いこなせることをその目的とします。

【授業の概要】授業は主にテキストに沿って講義形式で行われます。始めに n 次元ユークリッド空間とその部分空間についての性質や構造を学習します。次に線形写像について学習します。その後に行列の固有値と固有ベクトルについて学習し行列の対角化の方法とその応用について学習します。

【キーワード】ベクトル空間、線形写像、行列の固有値と固有ベクトル、行列の対角化

【先行科目】『基礎数学/線形代数学 I』(1.0)

【関連科目】『基礎数学/線形代数学 I』(1.0)

【到達目標】ベクトル空間、線形写像の概念を理解しその性質や構造を理解できる。また、行列の固有値および固有空間を求めることができる。

【授業の計画】

1. n 次元ユークリッド空間とその部分空間
2. 部分空間の生成系
3. 1 次独立と 1 次従属
4. 部分空間の次元と基底
5. 部分空間の次元と行列の階数
6. 基底と座標
7. 基底の変換
8. 線形写像の定義とその行列による表現
9. 線形写像の像と核
10. 線形変換
11. 内積空間
12. 固有値と固有ベクトル
13. 固有空間
14. 行列の対角化

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】戸田暢茂著「基礎線形代数学」学術図書出版社

【成績評価の方法】受講姿勢とレポート提出物による平常点と期末試験の得点によって評価します。

【再試験の有無】有

【受講者のメッセージ】授業内での問題演習の時間を多く取ることは困難なので各自で教科書の問や練習問題に取り組んでください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221307>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (後期)水曜日 16時20分~17時 総合科学部1号館南棟2階2S10室)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 II (Calculus 2)

(工 ((生)1年))

大橋 守・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、線形代数学と並び、現代の数学の基礎をなすもので、生物工学を学ぶ上で数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠なものである。微積分は、高等学校でもある程度学んでいるが、断片的な知識の習得のみならず、基礎概念がどのように形成されたかが明らかになるようにする。特に、微分積分学 II では、多変数関数の微分法と積分法の修得を目的とする。

【授業の概要】 微分積分学 II は前期に開講される微分積分学 I を前提に講義を行う。便宜上、微分積分学 I においては、主として 1 変数関数の微積分を学んだ。本講義では多変数関数の微分法と積分法の理解を深める。主な項目は、偏微分法と重積分である。なお余裕がある場合は級数についても述べる。

【キーワード】 偏微分法, 重積分

【先行科目】 『基礎数学/ 微分積分学 I』(1.0)

【到達目標】 偏微分法とその応用が出来ること。重積分の意味を理解し、また応用上重要な各種重積分の計算ができる。

【授業の計画】

1. 多変数関数の極限 (1)
2. 多変数関数の極限 (2)
3. 偏導関数 (1)
4. 偏導関数 (2)
5. 高次偏導関数
6. 多変数関数の極値
7. 陰関数定理
8. 条件つき極値問題
9. 重積分 (1)
10. 重積分 (2)
11. 変数変換
12. 広義重積分
13. 重積分の応用 (1)
14. 重積分の応用 (2)
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 高桑昇一郎著『例題で分かる微分積分』培風館

【参考書等】 池辺信範, 神崎正則, 中村幹雄, 緒方明夫著『微分積分学概説』培風館

【成績評価の方法】 受講態度, 期末試験等を総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 演習問題等を自分自身で考え、理解を深めてください。定理や公式の証明もきちんと理解するよう心がけてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221308>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 11 時 55 分 ~ 12 時 50 分)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学Ⅱ (Calculus 2)

(工((電B)1年))

鍋島 克輔・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『基礎数学』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 積分の基本的概念および積分の計算法を習得し、長さ、面積、体積を初めとする工学上の実際問題へ応用できる力を身につける。また、級数についての理解を深める。

【授業の概要】 微分積分学は工学において最も基本的な道具として用いられる学問の一つである。本講義では、まず1変数関数の積分法について十分学んだ上で、2変数関数の積分法および実際問題への応用について学ぶ。最後に、級数についての基本事項を学習する。

【キーワード】 積分, 2重積分, 級数

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学Ⅰ』(1.0)

【到達目標】

1. 1変数関数の積分法を理解し、計算法を習得する。
2. 重積分法を理解し、計算法を習得する。

【授業の計画】

1. 不定積分
2. 置換積分法・部分積分法
3. 有理式の積分・三角関数の積分
4. 定積分
5. 定積分の計算
6. 長さ、面積、体積(1)
7. 長さ、面積、体積(2)
8. 広義積分
9. 二重積分
10. 二重積分における積分変数変換
11. 立体の体積、表面積(1)
12. 立体の体積、表面積(2)
13. 無限級数
14. べき級数の微分と積分
15. 期末試験
16. 総括

【教科書】 微分積分Ⅰで使用した教科書。水本久夫『微分積分学の基礎 改定版』培風館

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況や授業中に行う演習問題および授業時間外に行うレポート等の平常点(30%)と期末試験(70%)により総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 「微分積分学Ⅰ」の履修を前提とする。また、講義内容を確実に理解するには各自が普段から自主的な演習を行い復習を重ねることが必要である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221303>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜 14:00~16:00 火曜14:00~16:00)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学Ⅱ (Linear Algebra 2)

(工((電B)1年))

蓮沼 徹・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 木 1・2

(平成19年度以前の授業科目:『基礎数学』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】線形代数学は、微分積分学とならんで数学の基本であり、自然科学、工学、情報科学、社会科学などの様々な分野への応用をもっている。本講義では、線形代数学の基本的概念の理解と基本的手法の習得を目的とする。

【授業の概要】授業は主に教科書に沿って(ただし、5章の前に6、7章を扱う)講義形式で行い、線形空間、線形写像、固有値、行列の標準化について解説する。また、演習の時間を設け、演習問題を解いてもらう。

【キーワード】線形空間、線形写像、固有値、行列の標準化

【先行科目】『基礎数学/線形代数学Ⅰ』(1.0)

【関連科目】『基礎数学/線形代数学Ⅰ』(1.0)

【到達目標】線形空間、線形写像の概念を理解する。行列の固有値および固有空間を求めることができる。

【授業の計画】

1. 線形空間
2. 部分空間
3. ベクトルの1次独立性
4. 次元と基底
5. 次元の特徴付け
6. 線形写像
7. 像と核
8. 次元定理
9. 表現行列
10. 固有値と固有ベクトル
11. 固有空間
12. 行列の対角化
13. 行列の標準化(2次正方行列)
14. 行列の標準化(3次正方行列)
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】守安一峰・小野公輔 共著 「理工系の線形代数学入門」 サイエンス社

【成績評価の方法】期末試験(65%)、授業への取り組み状況及び演習課題レポート(35%)により総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】授業に積極的に取り組むようにしてください。予習・復習も心がけてください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221304>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II (Linear Algebra 2)

(工 ((知)1 年))

岡本 邦也 講師 / 工学部

2 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は、微分積分学とならんで大学初年度の数学の 2 本の大きな柱である。それは線形代数学の理論が、自然科学や工学はもちろんのこと、情報科学や社会科学などの分野において広く応用されているからである。この授業では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理科学の基礎的手法の修得を目的とする。

【授業の概要】 行列式、抽象線形空間、固有値問題等について解説する。また、必要に応じて演習問題を解いてもらう。

【到達目標】 固有値や固有空間の求め方を理解し、固有値問題に応用できること。また、線形空間の基本事項への理解を深めること。

【授業の計画】

1. 行列式の定義と性質
2. 余因子展開
3. 行列のランク再考
4. 抽象線形空間
5. 線形写像の行列表現
6. 基底変換
7. 固有値・固有ベクトル
8. 固有空間と一般化された固有空間
9. ハミルトン-ケーリーの定理と最小多項式
10. 対角化可能のための十分条件 I(固有値が単根)
11. 対角化可能のための十分条件 II(正規行列)
12. ジョルダン標準形
13. 計量線形空間, 直交基底
14. エルミート変換の固有値問題
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 松本和一郎著『線形代数入門』, 共立出版

【成績評価の方法】 講義への取り組み状況, 演習の回答, レポート等の平常点 (30%) と期末試験の成績 (70%) を総合して行う。全体で 60%以上で合格とする。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 授業には積極的に取り組むこと。予習復習は必ず行うこと。

【WEB 頁】 <http://math9.pm.tokushima-u.ac.jp/lecture/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221305>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 岡本(工学部A棟212室, TEL/FAX: 088-656-9441, E-mail: okamoto@pm.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: **【WEB頁】** のHPを参照のこと)

【備考】 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 II (Calculus 2)

(工 (知)1 年))

伊藤 正幸・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は、線形代数学と並び、現代の数学の基礎をなすものであり、学生諸君が将来各方面で諸問題に出会ったときに、数理科学的なアプローチをする場合必要不可欠な考え方や知識を提供するであろう。微積分は、高等学校でもある程度学んでいるが、この枠を越え真に有用な知識の体系を得るには緻密で長い理論展開が要求され、かなりの努力が必要になる。この授業は、このような微積分を学ぶことによって、断片的な知識の習得のみならず、今後必要となる、理論的な推論法、論理的な推論展開を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 微分積分学 II は前期に開講される微分積分学 I を前提に講義がなされる。便宜上、微分積分学 I においては、主として微分法を、微分積分学 II においては、積分法を学ぶ。主な項目は、1. 不定積分、2. 定積分、3. 広義積分、4. 重積分である。

【キーワード】 多変数関数、定積分、重積分

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学 I』(1.0)

【到達目標】

1. 基本的な定積分計算が出来、広義積分の意味を理解する。また応用上重要な各種重積分ができる。
2. 重積分を理解し、計算法を習得する。

【授業の計画】

1. 不定積分
2. 置換積分と部分積分
3. 有理式の積分
4. 不定積分の計算
5. 定積分
6. 定積分の基本性質
7. 定積分と不定積分 (微分積分学の基本定理)
8. 定積分の応用
9. 広義積分
10. 無限積分
11. 重積分

12. 2 重積分と累次積分

13. 重積分の計算

14. 変数変換

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】

◇ 微分積分学の基礎 (改訂版) 水本久夫著 培風館

◇ 自習用参考書: 解析入門 I, II 杉浦光夫著 東大出版会

【成績評価の方法】 受講姿勢と期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無し

【受講者のメッセージ】 講義内容の理解には日々の予習、復習が必要不可欠です。積極的な取り組みを期待しています。実際の積分計算には、微分計算と違い常に小さな発見を必要とする。したがって日頃の勉強習慣が必要です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221306>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 1. 火曜日 12:00-12:45, 2. 月曜日 16:30-17:30)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II (Linear Algebra 2)

(工 (光)1 年))

大瀨 朗・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 線形代数学は微分積分学と並んで数学の基本的な両輪であり、自然科学や工学はもちろん、情報科学や社会科学な、どの多くの分野で広く用いられている数学的手法である。本授業の目的は線形代数学の基礎知識の習得であり、前期、の「線形代数学 I」の続きである。

【授業の概要】 固有値問題、行列の標準化、線形空間、線形写像、内積空間の基本事項について解説する。また、必要に応じて演習問題を解いてもらう。

【キーワード】 線形代数学

【先行科目】 『基礎数学/ 線形代数学 I』(1.0)

【関連科目】 『基礎数学/ 線形代数学 I』(0.5)

【到達目標】

1. 線形空間の基本的な概念を理解できるようになる。
2. 固有値、固有空間を求められるようになる。
3. 行列の標準化が計算出来るようになる。

【授業の計画】

1. 固有値と固有ベクトル
2. 行列の対角化
3. 行列の対角化の演習
4. Jordan の標準形 1
5. Jordan の標準形の演習 1
6. Jordan の標準形 2
7. Jordan の標準形の演習 2
8. 行列の m 乗の求め方について
9. 線形空間・ベクトルの一次独立性
10. 次元定理
11. 線形空間などに関する演習
12. 線形写像・同型写像
13. 表現行列と線形変換
14. 線形写像などに関する演習
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 理工系の入門線形代数 裕野敏博他著 (学術図書)(線形代数 I で使用した教科書)

【成績評価の方法】 学期末試験、レポート、中間試験、授業への取り組み状況などを基に総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 10-15 分程度の僅かな時間でも良いですから、必ず講義の行われたその日のうちに復習を行って下さい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221309>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 大瀨 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 11:50-12:50)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 II (Calculus 2)

(工 (光)1 年))

片山 真一・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 微分積分学は現代社会の持続発展のための工学全般において基本となる重要な数学の技術の 1 つである。前期の微分積分学 I に引き続き、本講義では 1 変数の積分について、高校で習った数学 II, 数学 III の基礎の概念の理解を深める。また 2 変数以上の多変数についての積分の基礎概念を学び、専門分野の応用において役に立つ基本的な積分の計算力を身につけることを目的とする。

【授業の概要】 本講義では、高等学校で履修した数学 I, 数学 II, 前期の「微分積分学 II」に引き続き、1 変数関数の積分法の基礎事項の理解を深める。また 2 変数以上の多変数関数の積分法の理論と応用について学習する。

【キーワード】 不定積分, 1 変数の定積分, 重積分

【先行科目】 『基礎数学/ 微分積分学 I』(0.9)

【関連科目】 『基礎物理学/ 基礎物理学 f・力学概論』(0.5)

【到達目標】 積分学についての基礎概念を理解し、1 変数関数の積分計算および重積分の計算ができる。

【授業の計画】

1. 微分と積分
2. 不定積分
3. 1 変数の定積分
4. 置換積分と部分積分
5. 定積分の応用
6. 広義積分
7. 定積分の応用
8. 2 重積分
9. 累次積分
10. 変数変換 1
11. 変数変換 2
12. 多重積分の計算
13. 広義の重積分
14. 重積分の応用
15. 定期試験

16. 総括授業

【教科書】 小竹・天羽共著「初等微積分」 牧野書店

【成績評価の方法】 随時行うレポートの提出内容を 3 割程度、期末試験の結果を 7 割程度を目安に総合的に評価する。なお評価割合は、年度によって前後することがある。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業には積極的に取り組むこと。予習復習は必ず行うこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221310>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学Ⅱ・物理学概論 (General Physics 2)

(医 ((医)1年))

大野 隆・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 後期 火 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】我々の周りで見られる様々な電氣的・磁氣的現象を理解し、その背後にある基本的な法則を学ぶ。

【授業の概要】前期に学んだ基礎物理学の力学における力の作用をもとにして、まず、電気における力のはたらき方、電氣的な力の場合である電場の考え方、電氣的位置エネルギーである電位について学ぶ。次に、電気回路の素子であるコンデンサー、電気の流れである電流、抵抗器について解説する。さらに、磁氣の間の力、磁場、電流のつくる磁場について学ぶ。また、電磁誘導、電磁波についても述べる。

【キーワード】静電場、電流と磁場、電磁誘導、電磁波

【先行科目】『基礎物理学/基礎物理学Ⅰ・物理学概論』(1.0)

【到達目標】

1. 電氣的、磁氣的現象を理解し、それを表現する法則を理解できる。
2. 法則を用いて計算をおこない、現象を数値的に表せる。

【授業の計画】

1. 電氣量、電氣力とクローンの法則
2. 電場
3. ガウスの法則
4. 電位
5. コンデンサーと静電容量
6. コンデンサーの接続
7. 誘電体
8. 電流とオームの法則
9. 抵抗の接続、キルヒホフの法則
10. 磁石と磁場
11. 定常電流のつくる磁場、アンペールの法則
12. 電磁誘導
13. 交流
14. 電磁波
15. 期末試験
16. 総括(まとめ)

【教科書】R.A.Serway 著 松村博之訳 「科学者と技術者のための物理学Ⅲ 電磁気学」 学術図書 3,360 円

【参考書等】参考書:竹内淳著「高校数学でわかるマクスウェル方程式」講談社ブルーバックス 860 円

【成績評価の方法】レポート、期末試験、受講態度により総合的に評価する。

【再試験の有無】有(但し、不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【受講へのメッセージ】高校で物理を履修していれば理解しやすいことは間違いないが、そのような予備知識がなくても理解できるように平易に解説する。但し、微分・積分の基本については、全員既習として話を進める。何らかの理由で、微積分の勉強をしていない学生は、必ず前もって自習しておくこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221311>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大野 (A 棟 201, 088-656-7549,)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学Ⅱ・物理学概論 (General Physics 2)

(歯((歯)1年))

齊藤 隆仁・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 火 5・6

(平成19年度以前の授業科目:『基礎物理学』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】 歯科医師として、生体内で起きている現象あるいは材料の物性などを理解する必要がある。その基本となる自然科学を理解するために電磁気、波動、熱についての基礎的な知識、考え方を修得し、生命を含めた自然現象の理解をより深め、専門教育の基礎となることを目的とする。

【授業の概要】 電荷、電流、磁石が周囲に電場、磁場を作り、電磁場が電気、磁気を持つ物体と相互作用することを示す。電磁現象の理解の積み重ねから、電磁場が従う法則、マクスウェルの電磁方程式を導き、その意味を考察する。また波動と熱の基礎的な知識について学ぶ。

【キーワード】 電磁気力、電磁場、電流、波動、熱、エントロピー

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学』(1.0), 『基礎物理学/基礎物理学Ⅰ・物理学概論』(1.0)

【関連科目】 『基礎物理学実験/基礎物理学実験A』(1.0), 『基礎物理学実験/基礎物理学実験B』(1.0), 『基礎数学/線形代数学Ⅰ』(0.5)

【到達目標】

1. 電磁気力を電場、磁場が電荷、磁荷、電流に及ぼす作用であることを理解する。
2. 磁荷(磁石)、電流分布が作る磁場について簡単な場合求めることかでき、磁荷、電流と磁場との一般法則について理解する。
3. 振動・波動の式と性質について理解する。
4. 熱とエネルギーの関係について理解する。

【授業の計画】

1. 導入
2. 静電気
3. 電位
4. 電流
5. 磁場
6. アンペールの法則
7. 電磁誘導
8. 振動
9. 波動

10. 光

11. 温度と熱

12. 期待の熱的性質

13. エネルギーの保存と可逆過程

14. エネルギーの流れと不可逆変化

15. 学期末テスト

16. 総括授業

【教科書】 『専門基礎ライブラリー 基礎物理2』, 金原繁ほか著, 実教出版, 2006年, 1,800円

【参考書等】 『物理学の世界』 服部敏彦・水野清著, 学術図書 2000円(税別)

【成績評価の方法】 期末テストに小テストを加味する。

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 前期の力学は基礎となるので充分理解しておくこと。理解を進める一助として小テストを行う。ベクトルを多用するので自信のない人は高校のテキストを復習しておくこと。また高校で物理を未履修の方は、前期の自然科学入門 物理学を受講しておくことをお勧めする。

【WEB 頁】 <http://lms.medsci.tokushima-u.ac.jp>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221312>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 齊藤 (総合科学部3号館1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp)

MAIL (オフィスアワー: 水曜日 12:00~12:50)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 g・電磁気学概論 (Electricity and Magnetism)

(工((化)1年))

中村 浩一 講師/工学部

2単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】学部における専門教育を理解する上で必要となる基礎的な電磁気学的知識及びその考え方を拾得するとともに、応用能力を身につけることを目的とする。基礎的な電磁気現象を中心にそれらの数学的記述法を理解する。

【授業の概要】静電場、定常電流、電流と磁場、電磁誘導等の身近な電磁気現象の考察により、その現象を記述する法則を説明する。そこに現れる電磁気現象の多くは高校物理で既に取り扱われているが、より一般的な定式化を行い、電磁場を支配するマクスウェルの方程式の導入部分までを講義する。

【キーワード】電場、ガウスの法則、磁場

【到達目標】

1. 電磁気現象を理解し、それを記述する法則を理解する。
2. 法則を用いて、簡単な応用例を解くことが出来る。

【授業の計画】

1. はじめに
2. クーロンの法則と静電場
3. ガウスの法則
4. 静電位
5. 電気容量
6. 定常電流と電気抵抗
7. 定常電流のつくる静磁場
8. アンペールの法則
9. まとめ I-静電場および静磁場の基本法則
10. 電磁誘導
11. 準定常電流
12. 変位電流
13. マクスウェルの方程式と電磁波
14. まとめ II
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】D. ハリディ他, 野崎光昭監訳, 物理学の基礎 [3] 電磁気学, 培風館

【成績評価の方法】期末試験 (70%), および授業への取り組み状況 (30%) で評価する。
なお、授業のまとめを兼ねてレポートも課し試験点数に加える。

【再試験の有無】無

【講師へのメッセージ】基本的な電磁気現象を中心にさまざまな法則などが導かれる過程に重点を置き、初歩的な微積分学による数学的な記述を交えながら話を進める。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221313>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中村 (A216, koichi@pm.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 g・電磁気学概論 (Electricity and Magnetism)

(工 ((生)1年))

大野 隆・非常勤講師/全学共通教育センター

2単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】 我々の周りで見られる様々な電氣的・磁氣的現象を理解し, その背後にある基本的な法則を学ぶ.

【授業の概要】 前期に学んだ基礎物理学・力学概論での力の作用をもとにして, まず, 電気における力のはたらき方, 電氣的な力の場合である電場の考え方, 電氣的位置エネルギーである電位について学ぶ. 次に, 電気回路の素子であるコンデンサー, 電気の流れである電流, 抵抗器について解説する. さらに, 磁気間の力, 磁場, 電流のつくる磁場について学ぶ. また, 電磁誘導, 電磁波についても述べる.

【キーワード】 静電場, 電流と磁場, 電磁誘導, 電磁波

【先行科目】 『基礎物理学/基礎物理学 f・力学概論』(1.0), 『高大接続科目/数学』(1.0)

【到達目標】

1. 電氣的, 磁氣的現象を理解し, それを表現する法則を理解できる.
2. 法則を用いて計算をおこない, 現象を数値的に表せる.

【授業の計画】

1. 電氣量, 電氣力とクーロンの法則
2. 電場
3. ガウスの法則
4. 電位
5. コンデンサーと静電容量
6. コンデンサーの接続
7. 誘電体
8. 電流とオームの法則
9. 抵抗の接続, キルヒホフの法則
10. 磁石と磁場
11. 定常電流のつくる磁場, アンペールの法則
12. 電磁誘導
13. 交流
14. 電磁波
15. 期末試験

16. 総括(まとめ)

【教科書】 R.A.Serway 著 松村博之訳 「科学者と技術者のための物理学 III 電磁気学」 学術図書 3,360 円

【参考書等】 参考書:竹内淳著「高校数学でわかるマクスウェル方程式」講談社ブルーバックス 860 円

【成績評価の方法】 レポート, 期末試験, 受講態度により総合的に評価する.

【再試験の有無】 有(但し, 不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【受講者のメッセージ】 高校で物理を履修していれば理解しやすいことは間違いないが, そのような予備知識がなくても理解できるように平易に解説する. 但し, 微分・積分の基本については, 全員既習として話を進める. 何らかの理由で, 微積分の勉強をしていない学生は, 必ず前もって自習しておくこと.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221314>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大野 (A 棟 201, 088-656-7549,)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学概論 (Mechanics)

(工 ((知)1 年))

日置 善郎・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】工学を学ぶ全ての学生にとっての重要な基礎である力学の基本的な構成をわかりやすく解説する。合わせて現代社会の諸問題に柔軟に対処できる科学的・論理的な思考力を養成する。

【授業の概要】力学を記述するために必要なベクトルおよびその微分積分を整理し、力学の基礎である運動の法則を学ぶ。次にその応用を通じて理解を深め、力学的エネルギー保存則へと話を進める。続いて、角運動量とそれを土台とした惑星の運動を扱ったのち、より現実的な題材である多体系および剛体の力学の初歩を解説する。

【キーワード】ベクトル、運動の法則、運動方程式、運動量保存則、力学的エネルギー保存則、角運動量保存則、剛体

【先行科目】『基礎数学/微分積分学 I』(1.0), 『高大接続科目/数学』(1.0)

【関連科目】『基礎数学/微分積分学 II』(0.5)

【到達目標】

1. 運動方程式を理解し、その簡単な応用が出来るようになること。
2. 運動量、力学的エネルギー、角運動量とその保存則について理解すること。
3. 多体系および剛体の運動を扱う基本的な方法を理解すること。

【授業の計画】

1. 物理量とベクトル
2. 運動の法則
3. 運動量保存則・力積
4. 自由落下 (空気抵抗のない場合)
5. 自由落下 (空気抵抗がある場合)
6. 放物運動
7. 単振動
8. 仕事とエネルギー
9. 偏微分と全微分
10. 力学的エネルギー保存則
11. ベクトル積 (外積) と角運動量
12. 角運動量保存則
13. 惑星の運動

14. 多体系と剛体の力学

15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】自製テキスト使用 (詳しい説明は第 1 回目に行う)

【成績評価の方法】小テスト・期末試験・受講態度を総合して判定する (評価割合:小テスト 30%, 期末試験 60%, 受講態度 10%)。詳しい説明は第 1 回目の講義において行う。なお、言うまでもないことだが、講義中の私語・携帯電話の使用などは厳禁する。違反者は、その時点までの成績には一切無関係に、その場で再受講とする。

【再試験の有無】有 (但し、不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【受講へのメッセージ】高校で物理を履修していれば理解しやすいことは間違いないが、しかしそのような予備知識は前提としない。但し、微分・積分の基本については、全員既習として話を進める。何らかの理由で、微積分の勉強をしていない学生は、必ず前もって自習しておくこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221315>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 11:50~ 13:00 (質問などは在室中ならいつでも可))

基礎物理学実験 (Basic Physics Experiments)

基礎物理学実験 A (Laboratory Physics)

(医・歯 ((医・歯)A1年))

伏見賢一・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 齊藤隆仁・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

折戸玲子・助教/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 金 7~10

(平成19年度以前の授業科目:『基礎物理学実験』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】物理学は、数多くの実験事実から法則性を見出し、仮説法則を実験的に確かめながら体系化されてきた。その過程が物事の探求の仕方(方法論)として確立された。一方で今日、医学・歯学の分野でも物理的な原理を応用した機器が多数利用されるようになってきている。この授業では、実験を通じて基礎的な物理現象および法則性について理解を深め、基本的な計測機器の取り扱いを修得し、科学的方法論を体得することを目的とする。

【授業の概要】自然科学においては、現象に伴う量を定量的に測定し、その測定値の精度や誤差を評価する必要がある。その方法を学んだ後、以下に示す基本的な物理現象について実験を行い、その現象や法則性について理解を深める。(1)力学: 斜面、単振り子 (2)熱: 熱の仕事等量、緩和現象 (3)波動: 気柱の共鳴、屈折率、光の干渉 (4)電気と磁気: 円電流と磁気双極子、電気抵抗の温度変化、電気回路の基礎 (5)現代物理: 半導体の特性、電子の比電荷、プランク定数、放射線の特性。

【キーワード】物理学実験

【到達目標】

1. 基本的測定機器の原理を理解し、その取り扱いができる。
2. 測定値の精度や誤差を評価できる。
3. 物理法則と測定結果から物理現象の考察ができる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、測定と誤差 (1)
2. 測定と誤差 (2)
3. 測定と誤差 (3)
4. 基本測定 1(棒の密度の測定)
5. 基本測定 2(エレクトロニクス)
6. パソコンによるデータ処理
7. 誤差の分布
8. 実験の解説
9. 実験 1
10. 面接 1

11. 実験 2
12. 面接 2
13. 実験 3
14. 実験 4
15. 面接試験
16. 総括

【教科書】「基礎物理学実験テキスト」総合科学部物理学教室編

【参考書等】基礎物理学の教科書

【成績評価の方法】出席して、実験を行い、レポートを提出する。提出されたレポートについての面接試験を行う。これらをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】指定の実験ノート、グラフ用紙、関数電卓を準備する。

【WEB 頁】<http://physics.ias.tokushima-u.ac.jp/butsuri/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221317>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伏見 (総合科学部 3号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 平日の 11:50-12:50)

⇒ 齊藤 (総合科学部 3号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜日12:00~ 12:50 3号館スタジオ学習支援室)

⇒ 折戸 (orito@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎物理学実験 (Basic Physics Experiments)

基礎物理学実験 B (Laboratory Physics)

(医・歯 ((医・歯)B1年))

中山信太郎・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 小山晋之・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

真岸孝一・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 7~10

(平成19年度以前の授業科目:『基礎物理学実験』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】物理学は、数多くの実験事実から法則性を見出し、仮説法則を実験的に確かめながら体系化されてきた。その過程が物事の探求の仕方(方法論)として確立された。一方で今日、医学・歯学の分野でも物理的な原理を応用した機器が多数利用されるようになってきている。この授業では、実験を通じて基礎的な物理現象および法則性について理解を深め、基本的な計測機器の取り扱いを修得し、科学的方法論を体得することを目的とする。

【授業の概要】自然科学においては、現象に伴う量を定量的に測定し、その測定値の精度や誤差を評価する必要がある。その方法を学んだ後、以下に示す基本的な物理現象について実験を行い、その現象や法則性について理解を深める。(1)力学: 斜面、単振り子 (2)熱: 熱の仕事等量、緩和現象 (3)波動: 気柱の共鳴、屈折率、光の干渉 (4)電気と磁気: 円電流と磁気双極子、電気抵抗の温度変化、電気回路の基礎 (5)現代物理: 半導体の特性、電子の比電荷、プランク定数、放射線の特性。

【キーワード】物理学実験

【到達目標】

1. 基本的測定機器の原理を理解し、その取り扱いができる。
2. 測定値の精度や誤差を評価できる。
3. 物理法則と測定結果から物理現象の考察ができる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、測定と誤差 (1)
2. 測定と誤差 (2)
3. 測定と誤差 (3)
4. 基本測定 1(棒の密度の測定)
5. 基本測定 2(エレクトロニクス)
6. パソコンによるデータ処理
7. 誤差の分布
8. 実験の解説
9. 実験 1
10. 面接 1

11. 実験 2
12. 面接 2
13. 実験 3
14. 実験 4
15. 面接試験
16. 総括

【教科書】「基礎物理学実験テキスト」総合科学部物理学教室編

【参考書等】基礎物理学の教科書

【成績評価の方法】出席して、実験を行い、レポートを提出する。提出されたレポートについての面接試験を行う。これらをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】指定の実験ノート、グラフ用紙、電卓、フロッピーディスクまたはUSBフラッシュメモリを準備する。

【WEB 頁】<http://physics.ias.tokushima-u.ac.jp/butsuri/>

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221316>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月～金 17:30～18:00)

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 II (Basic Chemistry 2)

(医 ((医)1年))

伊藤 孝司・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 徳村 彰・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 根本 尚夫・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

山崎 尚志・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 重永 章・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 辻 大輔・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

宮本 和範・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

1単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】医学部医学科の学生が専門教育を受けるにあたり, 理解しておくべき生体分子の有機化学的・生物化学的知識の修得を目的とする。

【授業の概要】有機化学の基礎的事項を講義する。さらに, 生体の主要成分である糖質, タンパク質, 脂質, 核酸の化学構造, 反応性などの基礎的事項を講義する。

【キーワード】生体分子, アミノ酸, ペプチド, 糖質, 脂質, 核酸

【先行科目】『基礎化学/ 基礎化学 I・生化学の基礎』(0.5)

【到達目標】

1. 有機化学に関する基礎知識を修得する。
2. 有機化学の知識を基盤に, 糖質, タンパク質, 脂質, 核酸の化学的な性質の基礎を理解する。

【授業の計画】

1. 有機化学の基礎 -分子の構造と化学結合の性質-
2. 有機化合物の性質
3. 有機化合物構造の三次元的把握の基礎
4. 電子の表記法と有機化合物の化学反応に伴う電子移動の基礎
5. タンパク質・ペプチドの化学 1
6. タンパク質・ペプチドの化学 2
7. 糖質化学の基礎
8. 複合糖質の生化学 1
9. 複合糖質の生化学 2
10. 核酸の化学 1
11. 核酸の化学 2
12. 脂質の構造と機能 1
13. 脂質の構造と機能 2
14. 脂質の構造と機能 3
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 講義ごとにプリントなどの資料を準備する。
- ◇ 参考書についてはその都度紹介する。

【参考書等】

- ◇ 基礎化学 I などで使用した教科書
- ◇ 樹林・秋葉著「ライフサイエンスの有機化学」三共出版

【成績評価の方法】出席状況と期末試験の成績を基に評価する。

【再試験の有無】あり

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221318>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山崎 (088-633-9516, yamazaki@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでも, ただし事前にメールなどで連絡を取られた方が確実です。)

【備考】

- ◇ 薬学部の教員が分担して講義を行う。
- ◇ 授業計画は変更になる場合もある。

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 I・物理化学 (化学平衡と反応速度論) (Basic and Physical Chemistry (Chemical Equilibrium and Kinetics))

(医 ((栄)1年))

植野 哲・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2単位 後期 金 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 理系学科に入学した学生が、化学反応熱、化学平衡、結合エネルギー、相律等について熱力学的に理解できること。また、酵素反応を含め化学反応速度論についても理解を深めることを目的とする。また、今後必要だと考えられる厳選した無機化学および物理化学の基本的な内容について理解し、専門科目の基礎となることを目的とする。

【授業の概要】 原子、イオン、分子、化学結合、物質の三態、化学平衡、反応速度、エンタルピー、エントロピーなどについて理系学科の学生の基礎となる内容について講義する。

【キーワード】 化学熱力学、反応速度、化学平衡、化学基礎

【到達目標】

1. 化学熱力学、化学平衡、反応速度論の基礎を理解し応用ができること
2. 無機化合物について知識を得ること
3. 物質の三態、化学結合の基礎を理解し応用ができること

【授業の計画】

1. 原子と周期律:原子構造、イオン化ポテンシャル、電子親和力、電気陰性度
2. 化学結合:イオン結合、共有結合、配位結合、水素結合、分子間力
3. 物質の三態:固体、気体、液体
4. 溶液の構造と物性:相転移、沸点上昇、凝固点降下、相図
5. 溶液: 酸塩基、加水分解、緩衝溶液、pH と溶存イオン種の関係
6. 溶液:溶解度、溶解平衡、溶解度積と沈殿生成
7. 酸化還元平衡:酸化と還元、酸化還元反応、化学平衡
8. 化学熱力学 1
9. 化学熱力学 2
10. 化学熱力学 3
11. 化学熱力学 4
12. 化学平衡と化学ポテンシャル
13. 反応速度論:反応速度、一次反応、二次反応、半減期
14. 反応速度論:衝突理論、アレニウスの式、遷移状態理論
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書等】 蒲池、岩井、伊藤共著 基礎物質科学:大学の化学入門 三共出版

【成績評価の方法】 確認問題 (30%), 学期末試験 (40%), 授業への取り組み状況 (30%) などを元に総合的に評価する (ただし、評価割合の目安は 括弧内パーセントである)

【再試験の有無】 有

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221319>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 植野 (088-633-7268, sueno@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 IIA・有機化学 (ライフサイエンスの基礎) (Basic Chemistry 2: Organic Chemistry)

(歯 ((歯)1年))

三好 徳和・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 医師として、生体内で起こっている様々な複雑な反応を理解する必要があります。生体 (生理) 反応も分子のレベルで見れば各々単純な有機反応が幾つか連続して進行していると考えられる。そこで、歯学部の学生に対し、生体反応を理解する基礎知識としての有機化学を教える。

【授業の概要】 化学反応は何故起こるか、先ずそのことを理解する。また、有機化合物の 3 次元構造に関する基礎知識を学び、立体と化学反応との関連について学ぶ。さらに、基本的な有機化学反応を理解する。

【キーワード】 基礎化学, 化学, 有機化学

【先行科目】 『基礎化学/ 基礎化学 I・物理化学 (平衡と反応速度)』(1.0)

【関連科目】 『基礎化学/ 基礎化学 IIB・有機化学 (ライフサイエンスの基礎)』(0.5)

【到達目標】 化学反応は何故起こるか、そして有機化合物の 3 次元構造に関する基礎知識を理解する。さらに、基本的な有機化学反応を理解する。

【授業の計画】

1. 有機化学の歴史と現代有機化学の意義・役割
2. 有機化合物の構造と種類 (化学結合)
3. 有機化合物の構造と種類 (酸と塩基)
4. 有機化合物の構造と種類 (有機化合物の分類と命名)
5. 有機化合物の立体構造 (立体異性体)
6. 有機化合物の立体構造 (立体配座)
7. 反応は何故起こるのか
8. 電子の流れ図の書き方と考え方 (求核置換反応)
9. 官能基の性質と反応 (脂肪族化合物)
10. 官能基の性質と反応 (脱離反応)
11. 官能基の性質と反応 (酸化反応と還元反応)
12. 官能基の性質と反応 (アルデヒドとケトン)
13. 官能基の性質と反応 (ケト-エノール平衡と付加反応)
14. 官能基の性質と反応 (カルボン酸とカルボン酸誘導体)
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】 「はじめて学ぶ大学の有機化学」深澤義正 笛吹修治 著 化学同人 2, 800 円+税

【成績評価の方法】 授業への取り組みを勘案しつつ、期末試験の成績により判定

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 授業の初回に、本授業に関する注意事項を話すので、遅刻せず必ず出席すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221320>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学 II ・原子と分子 (Basic Chemistry 2: Atoms and Molecules)

(薬 (薬 1 年))

植野 哲 准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2 単位 後期 水 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎化学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎化学』)

【授業の目的】 薬学部学生が、専門教育を学ぶ上で基礎となる化学の中でも、もっとも基礎となる原子・分子の成り立ちから物質の構造と性質の理解を目的とする。すなわち、各元素の物理的、化学的性質を決定している核外電子の配置や周期律等についての理解を目的とする。

【授業の概要】 前期量子論および量子力学に基づいた原子模型を中心に、原子構造の基礎を概説する。

【キーワード】 前期量子論, 周期表, 分子間相互作用, 化学結合

【関連科目】 『無機化学』(0.8)

【到達目標】

1. 原子模型が理解できる。
2. 量子数が理解できる。
3. 諸元素の核外電子の配置が理解できる。

【授業の計画】

1. 原子を構成する素粒子
2. 原子を構成する素粒子
3. Bohr の理論
4. Bohr の理論
5. Sommerfeld の量子条件
6. Sommerfeld の量子条件
7. Schrödinger の波動方程式
8. Schrödinger の波動方程式
9. 電子スピン, スピン量子数, 内量子数
10. 電子スピン, スピン量子数, 内量子数
11. Zeeman 効果
12. 諸元素の核外電子の配置
13. 諸元素の核外電子の配置
14. 諸元素の核外電子の配置
15. 学期末試験
16. 総括授業

【教科書】 使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書等】 田中, 佐野共著 原子・分子の現代化学 学術図書

【成績評価の方法】 確認問題 (20%), 小テスト (20%), 学期末試験 (30%), 授業への取り組み状況 (30%) などを元に総合的に評価する (ただし, 評価割合の目安は 括弧内パーセントである)

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 「自ら学ぶ」という積極的な姿勢を期待する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221321>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 植野 (088-633-7268, sueno@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 薬学教育モデル・コアカリキュラム C1-(1) に一部相当

基礎化学 (Basic Chemistry)

基礎化学概論 (Outline of Chemistry)

(工((建)1年))

村田 勝夫・非常勤講師/全学共通教育センター

2単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 建設工学科の学生は、将来わが国の基幹産業の分野で活躍する機会が多い。その基幹産業を支えているのは、豊富で多種多様な資材である。この生産業の中心は、鉄鋼や非鉄などの特殊金属、コンクリート、プラスチックなどの原材料から種々な機能を持つ製品を産出している。これらの製品を構成している物の性質や反応性を基礎化学的に知ることは、それらを活用する上できわめて重要である。化学の進歩とともに、新しい機能を持った物質が作り出され、私たちに快適な環境をもたらしている。一方、物質文明は人類に環境汚染などの深刻な問題をもたらしている。持続可能な社会を形成するには、化学の力のみで解決することはできないが、化学の力なくしては解決することのできない問題である。このような状況を考えると、今まで以上に多くの学生が化学を理解することが重要である。本授業では、高校教育における物理や化学と現代の学問としての化学とのスムーズなつながりを意識しながら、理工系大学生として学問的雰囲気を感じて知的好奇心が刺激され、高学年となってからも役に立つことを目的とする。

【授業の概要】 広範囲な化学の領域をすべて網羅して学習することは困難であるので、本授業では抽象的な概念の思考を主とする熱力学を割愛し、化学結合、化学反応、化学平衡などの基礎的な学習と、触媒や電池などの反応速度や電気化学などの応用例の理解から構成した。つまり理工系学生が化学的現象の根本的な原理を理解できるような授業をする。

【キーワード】 電子配置, 周期律表, 化学結合, 化学平衡, イオン化傾向

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学』(1.0), 『基礎物理学/力学及び熱力学』(1.0)

【関連科目】 『量子力学』(1.0), 『基礎物理学/力学及び熱力学』(1.0)

【到達目標】

1. 原子の構造と軌道の性質, そして量子化学の基礎が理解できる。
2. 気体, 液体, 固体の基本的な性質と状態変化, 化学平衡や反応速度の応用ができる。
3. 触媒や電池の基礎的な理解を深め, 多くの最先端の応用例を知る。

【授業の計画】

1. 概論と SI 単位
2. 水素原子のスペクトルとエネルギー

3. 原子の電子配列と周期表
4. 化学結合
5. 分子の極性
6. 化学反応の種類
7. 有機化合物の反応
8. 気体分子運動論
9. 相変化と相平衡
10. 状態図と相律
11. 固体と結晶構造
12. 溶液
13. 反応速度
14. 化学平衡
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 篠崎 開・大窪 潤・大野清伍・柴 隆一・鈴木隆之・藤本 明 共著 『理工系一般化学』 東京化学社

【成績評価の方法】 小テスト, 学期末試験, 授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221322>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 村田 .

基礎化学実験 (Basic Chemistry Experiments)

基礎化学実験 (Basic Chemistry Experiments)

(医 ((栄)1年))

増田 俊哉 教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 中村 光裕 講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 板東 紀子

2単位 後期 火 5~8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学実験』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 化学実験を通して、基本的な実験操作を修得すると同時に化学的知識を深めます。また、実験結果に基づいた結論の出し方を学びます。

【授業の概要】 酸塩基滴定、酸化還元滴定などの定量分析、比色分析、滴定曲線などの分析・物理化学実験、簡単な有機合成や物質の単離などの有機化学実験を行います。

【キーワード】 化学実験, 分析化学, 物理化学, 有機化学

【先行科目】 『基礎化学/ 基礎化学 II・有機化学 (ライフサイエンスの基礎)』 (1.0)

【到達目標】

1. 基本的な実験操作を習熟する。
2. 定量操作について習熟する。
3. 実験のデータ処理の基本を身につける。

【授業の計画】

1. 受講にあたって、安全教育 (全般)
2. 中和滴定
3. 酸化還元滴定
4. ヨウ素滴定
5. キレート滴定
6. 滴定曲線
7. 吸収曲線と比色定量
8. 連続変化法
9. 有機化学実験の説明, 安全教育 (有機化学編), 有機定性試験
10. アセトアニリドの合成と IR スペクトル
11. メチルオレンジの合成
12. カフェインの抽出
13. カゼインの単離
14. ルチンの加水分解と糖分析
15. まとめ

【教科書】 共通教育化学分野にて作成したテキストを使用 (初日に購入してください)

【成績評価の方法】 出席・レポート・試験の結果を総合して行います。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 本授業は実習です。従って与えられた課題について実験を行い結果をレポートにして提出することが必要です。なお、課題は、時間内に行えるものを用意していますが、失敗等により時間内に終わらない場合もありますので 9、10 講時の他授業の履修には注意してください。また、実験開始前に当日の課題について説明するので遅刻は厳禁です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221323>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 上記の担当者のほか栄養学科教員 1 名が担当する予定です。また、まとめは提出されたレポートを元に毎週行うことにすることがあります。(その場合特にまとめ週 [16 週目] をとりません)。

基礎化学実験 (Basic Chemistry Experiments)

基礎化学実験 (Basic Chemistry Experiments)

(工 ((化)2 年))

三好 徳和・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 菊池 淳・助教 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

2 単位 後期 水 5~8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎化学実験』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎化学』)

【授業の目的】 本授業は、化学における基本中の基本を再認識し身につけるための授業です。化学実験を通じて、化学実験操作に慣れると同時に授業で学習した内容を深めること、および実験結果に基づいた結論の出し方、結果のまとめかたを身につけることを目的とします。

【授業の概要】 陽イオンと種々の試薬との個別反応を観測し、陽イオンの性質を把握するとともに、定量実験を試みる。また、機器分析を利用して物理化学的実験や簡単な有機化学的実験を行う。

【キーワード】 化学実験

【到達目標】

1. 定性・定量分析化学、物理化学、有機化学実験における基本的な化学実験を行うこと。
2. 定性・定量分析化学、物理化学、有機化学における基礎的な知識と原理を実験をとうして理解すること。
3. 実験についてレポートにまとめて報告すること。

【授業の計画】

1. 実験概要の解説、実験レポートの書き方、化学実験時の安全教育 (試薬の性質と取り扱い)。
2. 陽イオンと NaOH との反応と生成物の濃 NaOH 水に対する溶解性
3. 陽イオンと NH₃ 水との反応と生成物の濃 NH₃ 水に対する溶解性
4. 陽イオン (特に III 族陽イオン) の酸化還元反応
5. III 族陽イオンの分離
6. 混合試料の分離定性試験
7. 定量分析の仕方 (講義)
8. 標準溶液の調整と中和滴定
9. 酸化還元滴定
10. キレート滴定による天然水の硬度測定
11. 吸収曲線-MnO₄⁻イオンの吸収曲線・検量線の作成と、未知試料の濃度決定-
12. 滴定曲線-酢酸と炭酸の滴定曲線を作成と、酸解離指数の決定-
13. アセトアニリドの合成実験
14. 有機定性反応

15. 試験

16. 総括 (予備日)

【教科書】 担当教員側で作成した実験指導書を使用 (実費購入していただきます)

【参考書等】

- ◇ 化学実験を安全に行うために (化学同人)
- ◇ 続・化学実験を安全に行うために (化学同人)

【成績評価の方法】 各実験のレポート、テストの結果を総合して評価する。

【再試験の有無】 有り

【受講者のメッセージ】 実験はまず出席し、自分で実験を行い、結果を考え整理することが大事で、この点を重要視して下さい。必ず予習復習を行ってください。11&12) のテーマは 2 班に分けて実施します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221324>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 MII (Basic Biology)

(医 ((医)1年))

六反一仁・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 桑野由紀・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

1単位 後期 月 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎生物学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】基礎生物学 M1 の知識をもとに, 生体を構成する細胞の種類とそれぞれの機能について, 特に, 生体の三大調節機構 (神経, 内分泌, 免疫) を重点的に取り上げ, その破綻による病気の発症のメカニズムを理解することを目的とする。

【授業の概要】体を構成する細胞のうち特に重要な細胞を取り上げ, 基本的な働きと病気との関連について講義する。

【キーワード】生体調節機構, 神経, 内分泌, 免疫

【到達目標】

1. ホルモンが産生される仕組みとそれぞれのホルモンの働きを説明できる。
2. 神経細胞の種類, 構造, 及びニューロンネットワークの仕組みを説明できる。
3. 免疫担当細胞の種類とそれぞれの細胞の基本的な働きを説明できる。

【授業の計画】

1. 内分泌総論 (棚橋)
2. 視床下部, 下垂体 (棚橋)
3. 甲状腺, 副腎 (棚橋)
4. 睪, 性腺ホルモン (棚橋)
5. 循環調節ホルモン, カルシウム調節ホルモン (棚橋)
6. 神経細胞学総論 (六反)
7. シナプス伝達とニューロンネットワーク (六反)
8. 中枢神経系の各部位の主な機能 (六反)
9. 脊椎, 脳幹部の働き (六反)
10. 大脳皮質, 大脳辺縁系, 大脳基底核の働き (六反)
11. 免疫反応総論:自然免疫と獲得免疫 (桑野)
12. T 細胞の機能 (桑野)
13. B 細胞と抗体の働き (桑野)
14. 自己免疫疾患とアレルギー (桑野)
15. 本試験
16. 総括授業 (六反)

【教科書】

- ◇ トートラ 人体解剖生理学 原書 7 版 丸善 ¥6,900 円

◇ その他, 適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法】学期末試験で評価する。試験は筆記試験で行い, 合計 100 点満点とする。60 点以上であれば合格とする。不合格者については再試験を行う。

【再試験の有無】再試験は筆記試験で行い, 1 度限りとする。不合格者は次年度に再受験とする。

【受講者へのメッセージ】とにかく授業に出ること。授業では「独学」では味わえない多元的かつダイナミックなテーマの展開も体験できる。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221325>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 六反 (088-633-9007, rokutan@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 N (Basic Biology)

(医 ((栄)1年))

金丸 芳 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎生物学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】 栄養士課程において、栄養関連の高度な専門知識や技術を習得しなければなりません。その習得度のレベルを上げるためには、ヒトを中心とした生物学の基礎知識を持ち、生命とはどのようなものかを知ることが必要です。そのためには、生命の基本単位である細胞について理解することが必須です。栄養士過程に必要な基礎生物学として、細胞生物学の基礎知識を概説します。

【授業の概要】 細胞の営みや生命現象に関する細胞の分子生物学

【キーワード】 細胞, 生命, 遺伝, 情報, 機能

【到達目標】 細胞や生命現象のしくみ・面白さ・美しさを知る。細胞生物学の基礎的知識を習得

【授業の計画】

1. 細胞生物学とは
2. 生物の多様性と一様性
3. 遺伝情報の複製
4. 遺伝子の発現
5. 遺伝子発現の調節
6. 細胞の膜構造と細胞内小器官
7. 細胞骨格
8. 代謝
9. 生体エネルギー
10. 細胞周期
11. シグナル伝達
12. 発生と分化
13. 生殖と減数分裂
14. まとめ
15. テスト
16. 総括

【教科書】 「生命科学」ISBN4-89706-115-6 羊土社 (東京大学教養学部理工系生命科学教科書編集委員会編)

【成績評価の方法】 試験 (約 80%), 授業への取り組み状況等 (約 20%) などを基に、総合的に評価する

【再試験の有無】 行いません。

【講師へのメッセージ】 出席回数が規定に達していない場合はテストを受けられません。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221326>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎生物学 (Basic Biology)

基礎生物学 DII (Basic Biology DII)

(歯 ((歯)1年))

細井 和雄・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 赤松 徹也・准教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 長谷川 敬展・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

三宅 洋一郎・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 弘田 克彦・講師/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 村上 圭史・助教/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

1単位 後期 木 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎生物学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】 歯科医師として生体の仕組みを分子レベルで理解する必要がある。そこで歯学部对学生に対し、本講義は前期に開講している基礎生物学 DI と一体で、生物学の基礎知識を習得させることを目的とする。

【授業の概要】 遺伝の仕組み、生物の設計図である DNA の構造、複製機構、発現機構、変異などを教科書の「4. 遺伝と遺伝情報」で学ぶ。また、感覚と感覚器、神経系とその働き、内部環境と調節、生体制御と免疫などを教科書の「6. 動物の反応と調節」を中心に学ぶ。

【キーワード】 遺伝子発現, 感覚, 神経系, 内部環境, 生体制御, 免疫

【先行科目】 『基礎生物学/ 基礎生物学 DI』 (1.0)

【到達目標】 遺伝子の構造と機能が説明できる。感覚と感覚器、神経とその働きが説明できる。内部環境の調節、生体制御と免疫が説明できる。

【授業の計画】

1. 遺伝子と染色体
2. 遺伝子と DNA I
3. 遺伝子と DNA II
4. 遺伝子の発現 I
5. 遺伝子の発現 II
6. 変異と進化
7. 遺伝子の改変
8. 感覚と感覚器
9. 神経とその働き
10. 神経系とその働き, 効果器
11. 内部環境の調節 I
12. 内部環境の調節 II
13. 生体制御と免疫 I
14. 生体制御と免疫 II
15. 試験
16. 総括

【教科書】 教科書:石川統編 大学生のための基礎シリーズ 2『生物学入門』東京化学同人 2,200 円 参考書:補助プリントを配布する。

【成績評価の方法】 筆記試験と授業への取り組み状況で評価する。本試験の結果が極端に悪い場合は再受講となる。

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 入学試験で生物学を選択しなかった学生は全学共通教育の教養科目と基礎教育科目で生物学の基本事項を学ぶことを強く求められる。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221327>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 細井 (088-633-7323, hosoi@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日, 16:40-17:40)

⇒ 赤松 (口腔分子生理学 第 2 研究室, 088-633-7324, akamatsu@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 長谷川 (口腔分子生理学 第 2 研究室, 088-633-7324, thase@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 三宅 (088-633-7329, miyake@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 弘田 (088-633-7330, hirota@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

⇒ 村上 (088-633-7330, mkeiji@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎生物学実験 (Basic Biology Experiments)

基礎生物学実験 A (Basic Biology Experiments)

(医・歯 ((医・歯)A1年))

佐藤 高則 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 水 7~10

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎生物学実験』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】 生物の形態, 生理現象などの観察を通じて生命現象の一端を理解するとともに, 顕微鏡その他の使用法を身につける。また, 毎回のレポート作成により, 内容はもちろんのこと, 見やすく分かり易いレポートを作成することを目的とする。

【授業の概要】 下記のような多彩なテーマで実験を行う。原則, 毎回異なる教官が異なるテーマで実験を担当する。内容, 順番は変更する場合がある。

【キーワード】 顕微鏡, 細胞, 組織, 分類, 胚発生

【先行科目】 『基礎生物学/ 基礎生物学 DI』(1.0), 『基礎生物学/ 基礎生物学 MI』(1.0)

【関連科目】 『基礎生物学/ 基礎生物学 DII』(0.5), 『基礎生物学/ 基礎生物学 MII』(0.5)

【到達目標】 実験にあたっての心構えを身につけ, 実験器具の使用法に習熟し, レポート作成技術を向上させる。

【授業の計画】

1. 全般的説明および顕微鏡の使用法, 節足動物の構造と機能
2. 生きた心筋細胞の単離と細胞死の観察
3. 微生物の分類と同定
4. 遺伝子組換え実験講習会
5. 真核生物の DNA 抽出
6. プラスミド DNA による大腸菌の形質転換
7. カラムクロマトグラフィーによる生体高分子の分画
8. DNA フィンガープリンティング法
9. 組換え DNA 技術における倫理的側面
10. メダカの色素胞の観察
11. 生物学の役割と生命倫理
12. ヒトだ液アミラーゼの酵素活性
13. 医学生心理行動解析
14. ウニの初期発生
15. 総括授業

【教科書】 教科書として実習用テキストを配布予定

【成績評価の方法】 毎回のレポートを 100 点満点で採点し, 平均点をもって成績とする。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 欠席, 無断遅刻, 無断早退するとその回の成績は零点になるので, 健康に留意し, 必ず出席するように務めること。病欠の場合には診断書を提出すること。再試験の機会はない。掲示により, 使用教室や必要な物の通知が行われることが多いので見落とさないこと。開始時間に遅れないこと。実験中は, 担当教官の指導, 助言などに細心の注意を払い, 注意を守ること (飲食厳禁)。実験態度の著しく悪いものは欠席扱いにする場合があります。また, 過去レポートや他人のレポートの丸写し等, レポートの不正行為とみなされる場合には, 採点対象とせず, 欠席扱いにします。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221328>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

【備考】 高校で生物未履修者は, 高大接続科目/生物学 (前期月曜 1・2 限, 担当:渡部) の履修が望ましい。

基礎生物学実験 (Basic Biology Experiments)

基礎生物学実験 B (Basic Biology Experiments)

(医・歯 ((医・歯)B1年))

渡部 稔・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部, 佐藤 高則・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 金 7~10

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎生物学実験』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『基礎生物学』)

【授業の目的】 生物の形態, 生理現象などの観察を通じて生命現象の一端を理解するとともに, 顕微鏡その他の使用法を身につける。また, 毎回のレポート作成により, 内容はもちろんのこと, 見やすく分かり易いレポートを作成することを目的とする。

【授業の概要】 下記のような多彩なテーマで実験を行う。原則, 毎回異なる教官が異なるテーマで実験を担当する。内容, 順番は変更する場合がある。

【キーワード】 顕微鏡, 細胞, 組織, 分類, 胚発生

【先行科目】 『基礎生物学/基礎生物学 DI』(1.0), 『基礎生物学/基礎生物学 MI』(1.0)

【関連科目】 『基礎生物学/基礎生物学 DII』(0.5), 『基礎生物学/基礎生物学 MII』(0.5)

【到達目標】 実験にあたっての心構えを身につけ, 実験器具の使用法に習熟し, レポート作成技術を向上させる。

【授業の計画】

1. 全般的説明及び顕微鏡使用法, 節足動物の構造と機能
2. ヒトだ液アミラーゼの酵素活性
3. 生きた心筋細胞の単離と細胞死の観察
4. 微生物の分類と同定
5. 遺伝子組換え実験講習会
6. 真核生物の DNA 抽出
7. プラスミド DNA による大腸菌の形質転換
8. カラムクロマトグラフィーによる生体高分子の分画
9. DNA フィンガープリンティング法
10. 組換え DNA 技術における倫理的側面
11. メダカの色素胞の観察
12. 生物学の役割と生命倫理
13. 医学生心理行動解析
14. ウニの初期発生
15. 総括授業

【教科書】 教科書として実習用テキストを配布予定

【成績評価の方法】 毎回のレポートを 100 点満点で採点し, 平均点をもって成績とする。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 欠席, 無断遅刻, 無断早退するとその回の成績は零点になるので, 健康に留意し, 必ず出席するように務めること。病欠の場合には診断書を提出すること。再試験の機会はない。掲示により, 使用教室や必要な物の通知が行われることが多いので見落とさないこと。開始時間に遅れないこと。実験中は, 担当教官の指導, 助言などに細心の注意を払い, 注意を守ること (飲食厳禁)。実験態度の著しく悪いものは欠席扱いにする場合があります。また, 過去レポートや他人のレポートの丸写し等, レポートの不正行為とみなされる場合には, 採点対象とせず, 欠席扱いにします

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221329>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

【備考】 高校で生物未履修者は, 高大接続科目/生物学 (前期月曜 1.2 限, 担当:渡部) の履修が望ましい。

5) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties)

歴史と文化

(総) 中国語Ⅱ ... / 葭森 / 後期 火 5・6 683

人間と生命

(医) 放射線医学入門 ... (医 ((保)1 年)) / 上野・生島 / 後期 金 7・8 684

自然と技術

(歯) 歯学概論 ... (歯 ((歯)1 年)) / 歯学部教授・吉本 / 後期 木 1・2 685

(工) 生物工学概論 ... (工 ((生)1 年)) / 中村 / 後期 木 5・6 686

歴史と文化 (History and Culture)

(総) 中国語 II (Chinese Language 2)

葎森 健介・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 火 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『中国語 (2)』)

【授業の目的】 全学共通教育中国語初級で身につけた中国語の能力を高め、実用として使いこなす事のできるよう、読解と聞き取りを中心にトレーニングを行う。

【授業の概要】 教材に現代中国の社会や文化に関する記事を取り上げ、時事や現代文化に関する語彙力と速読の能力を養成する。特にインターネット等で探した、最新の中国についての記事を扱う。そのために必要な中国語サイトの閲覧方法、中国語ワープロの使い方などの知識も身につけてもらう。

【キーワード】 中国語、時事問題、現代中国

【到達目標】 中国語の新聞やインターネットの記事が辞書を引いて読めること。指定する基本単語及び基本表現を覚え使いこなせることを目標とする。

【授業の計画】

1. 中国語の文法と表現 の復習
2. 日常生活で聞く中国語
3. 中国語のテレビ番組を見てみよう (リスニング練習)
4. 中国語のホームページの閲覧方法
5. インターネットの記事を読む (1-a)
6. インターネットの記事を読む (1-b)
7. 中国語の文法と表現 (2)
8. 中国語ワープロを打ってみよう (1)
9. 中国語ワープロを打ってみよう (2)
10. 中国語ワープロを打ってみよう (3)
11. インターネットの記事を読む (2)
12. インターネットの記事を読む (3)
13. インターネットの記事を読む (4)
14. 中国語 II の総復習
15. 後期学期末試験
16. 後期学期末試験講評

【教科書】 プリント配布

【参考書等】 1 年次に使用した辞書及び中国語のテキストを必ず持参のこと。

【成績評価の方法】 授業での発表、小テストと学期末テストの点数を総合して行う。

【再試験の有無】 原則無し。ただし受講状況に応じて再試験を行うこともある。

【受講者のメッセージ】 総合科学部学生は学部専門科目として登録すること。総合科学部以外の受講希望者はあらかじめ相談のこと。共通教育で中国語初級または中国語 (1)4 単位を履修済み、あるいは HSK3 級、中国語検定 4 級及びそれに相当する語学力を有していることが絶対条件である。従ってこれに該当しない学生には受講資格認定試験を行い、不合格の場合は受講できない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221330>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 葎森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 16:30~ 17:30)

【備考】 総合科学部全学生と医学部の平成 17 年度以前の医学部保健学科の入学生をのぞき平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化 / 中国語 II』として 2 単位が認定される。総合科学部の平成 16 年度以前、医学部保健学科の 17 年度以前 入学生は授業科目: 『中国語 (2) / 中国語 (2)』として 1 単位が認定される。

人間と生命 (Humanity and Life)

(医) 放射線医学入門 (Introduction to Radiation Medicine)

(医 ((保)1年))

上野 淳二 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 生島 仁史 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2単位 後期 金 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】放射線の平和利用の一つに医学分野での利用がある。医学は科学的手法を用いて発展してきたが、放射線医学における近年の発展は著しいものがある。放射線は使い方次第で、兵器にもなれば病気を治すことにも役立てられる。医学分野では薬剤などにおいても同様のことが多くみられる。放射線医学をとらえて医学に対する理解を深めるとともに、現代医療における放射線診断および放射線治療の役割を理解させることを目的とする。

【授業の概要】人体に対する各種放射線の影響を理解させ、放射線の作用、医学的利用等について分りやすく概説する。

【先行科目】『人間と生命/ 生体のしくみ』(1.0), 『自然と技術/ 身のまわりの物性科学』(1.0), 『人間と生命/ 科学技術と人間』(1.0)

【関連科目】『放射線衛生学』(0.5), 『先端医療と放射線』(0.5), 『放射線腫瘍学』(0.5)

【到達目標】放射線の概略について、物理学・生物学的に認識を深めるとともに、医学的利用につき理解する。

【授業の計画】

1. 放射線診断 1 総論・歴史
2. 放射線診断 2 各種センサー技術
3. 放射線診断 3 投影像から断層像, 三次元画像へ
4. 放射線診断 4 造影検査
5. 放射線診断 5 低侵襲医療・IVR
6. 放射線診断 6 デジタル化・PACS
7. 放射線診断 7 コンピュータによる支援
8. 放射線治療 1 臨床腫瘍学総論
9. 放射線治療 2 放射線腫瘍学総論
10. 放射線治療 3 放射線治療装置
11. 放射線治療 4 中枢神経系腫瘍の放射線治療
12. 放射線治療 5 頭頸部腫瘍の放射線治療
13. 放射線治療 6 胸部腫瘍の放射線治療
14. 放射線治療 7 腹骨盤部腫瘍の放射線治療 1
15. 放射線治療 8 腹骨盤部腫瘍の放射線治療 2

16. 総括授業

【成績評価の方法】成績は受講姿勢, 試験, レポートによって評価する。

【再試験の有無】有り。

【受講者へのメッセージ】医療および放射線, 画像情報の医学利用などに興味を持つ学生に受講してほしい。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221331>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 上野 (088-633-9020, ueno@medsci.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 毎週金曜日 16:30-17:30)

⇒ 生島 (088-633-9051, ikushima@medsci.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】この授業はどの学部学科の学生が受講した場合も教養科目の単位となる。

自然と技術 (Science and Technology)

(歯) 歯学概論 (Outline of Dental Science)

(歯 ((歯)1年))

歯学部教授, 吉本勝彦 教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2単位 後期 木 1・2

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 この歯学概論では、現在歯科医学で関心が持たれている研究と技術開発に焦点をしばって講義を行い、歯科医学を学ぶ学生としての自覚と意識を高めることを目的とする。

【授業の概要】 歯科医学では、歯・顎・口腔・顔面・唾液腺の構造と機能、ならびにこれらの領域に発生する疾患の病因、病態、治療、予防に関する研究が行われている。上記の身体領域は、全身各部位と分かれて存在するのではなく、機能発現において緊密に関連している。また、口腔に発現する病気も全身系疾患と関連していることがある。故に、歯科医学では、医学・生物学の基本的な知見に基づいて構築されていることは言うまでもない。この歯学概論では以下に述べる内容につき講義する。

【到達目標】 歯、唾液腺を含む顎、口腔領域の構造と機能ならびにこれらの領域に発生する疾患の病因、病態、治療および予防に関する基本的な概略を説明できる。

【授業の計画】

1. 歯科医学の概要
2. 口腔とその周辺の構造
3. "
4. 歯の種類とその組織学的構造についての概説
5. "
6. 唾液腺の構造と機能並びに分泌とその調節
7. "
8. 顎顔面領域の形態形成における遺伝子の働き
9. "
10. ヒトの死に至る病気、口腔の難病、老化と性差について概説
11. "
12. 感染症をひきおこす病原微生物およびヒトの防御機構について
13. "
14. 全身疾患と口腔内疾患の関連
15. バイオマテリアル概説、その成形法と生体内での挙動

【教科書】

◇ 教科書: 使用しない。

◇ 参考書: 随時プリントを配布する。授業に参考となる著書、論文は、授業中に随時知らせる。

【成績評価の方法】 記述形式によるテストを実施する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 口腔の構造と機能及びその異常について、興味を持つよう努力すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221332>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 歯学部教授

【備考】 試験は試験期間に行う。

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 生物工学概論 (Outline of Biotechnology)

(工 ((生)1年))

中村 嘉利 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

2単位 後期 木 5・6

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 生物工学 (バイオテクノロジー) は、ナノテクノロジーや情報技術 (IT) と共に 21 世紀を拓く革新技術として期待されている。特にバイオテクノロジーは、医療、環境、食糧、資源、エネルギーなどの分野に広く活用されようとしており、人類の直面する諸問題の解決に大きく寄与し、人類の福祉に貢献するものと考えられている。バイオテクノロジーを支える生命科学から応用技術にいたるまで広く浅く学び、全体として生物工学に関する知識が修得できることを目的とする。

【授業の概要】 生物工学科の各教員がそれぞれの専門分野を踏まえて、バイオテクノロジーの入門から最先端バイオテクノロジーまでのトピックスについてわかりやすく解説する。トピックスの内容は担当教員ごとに異なり、毎回の課題についてレポートを作成する。

【キーワード】 バイオテクノロジー、遺伝子、タンパク質、微生物

【到達目標】 生物工学の基本的な考え方や生物工学の現状が理解できる。

【授業の計画】

1. 授業概要ならびに生物工学大系について講述する。
2. 生体関連物質の両親媒的性質と界面現象が関与した生体コロイドについて講述する。
3. 生物活性物質分子設計の技法を学ぶメディシナルケミストリー入門: 生命の誕生と進化における合成の意味論について講述する。
4. 地球環境における物質循環の根幹を支える微生物の役割と機能について講述し、バイオテクノロジーへの応用について講述する。
5. 環境中の有害および有益微生物の制御方法に関する最近のトピックスを講述する。
6. 各種疾病治療における抗体工学やワクチン工学の応用について講述する。
7. 先端医療における生物工学の役割について講述する。
8. DNA の戦略”発生と進化のメカニズム”について講述する。
9. 生物資源の有効利用について講述する。
10. 発育鶏卵を用いた種々の薬剤評価法について講述する。
11. 抗生物質と細菌の多剤耐性機構について講述する。
12. 細菌 (バクテリア) 研究の歴史について講述する。

13. タンパク質生合成と細胞および個体機能との関連について講述する。

14. 遺伝子の発現機構について講述する。

15. 微生物酵素の産業利用と機能開発について講述する。

16. 生物工学概論のまとめ

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配付する。参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 受講態度とレポートによって評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221333>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中村 (機械棟 7 階, 088-656-7518, ynakamu@bio.tokushima-u.ac.jp) Mail (オフィスアワー: 水曜日 17:00-18:00)

第3章

前期(工学部夜間主コース)

1) 【大学入門科目群】 (Category of Introductory Seminars on University Education)

大学入門講座

大学入門講座(工・建設)(夜) ... (夜間主(建))/教務委員会委員/前期 集中	689
大学入門講座(工・機械)(夜) ... (夜間主(機))/教務委員会委員/前期 集中	690
大学入門講座(工・化学)(夜) ... (夜間主(化))/教務委員会委員/前期 集中	691
大学入門講座(工・生物)(夜) ... (夜間主(生))/教務委員会委員/前期 集中	692
大学入門講座(工・電気電子)(夜) ... (夜間主(電))/教務委員会委員/前期 集中	693
大学入門講座(工・知能)(夜) ... (夜間主(知))/教務委員会委員/前期 集中	694

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・建設)(夜) (Introduction to University Education)

(夜間主(建))

教務委員会委員/工学部 建設工学科

1単位 前期 集中

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は、学部学科毎に授業が行われます。大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう各学部学科に応じて構成されています。各講義は、そのテーマに応じて適切な授業方法で行われます。大学では一般に講義形式の授業が主になりますが、この講座では、講義を聞き、その主題についてノートを取り、グループで討論をしたり、その経過・まとめを口頭で報告したり、また文章でレポートすることなどの、学習方法も取り入れて実践されます。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身に付けることを目指します。

【キーワード】 導入授業、大学入門、オリエンテーション

【関連科目】 『学びの技』(1.0)

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、その概要や問題点を理解し、友人たちや教員と討論ができ、文章としてまとめられること、また皆の前で報告発表ができること。

【授業の計画】

1. 心と体の健康 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。
2. 読書のすすめ・対話の重要性 コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。
3. 学びのしくみ・学習支援室 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに学習支援室の上手な利用方法を紹介し、4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法等を紹介する。

5. 建設工学科のおいたちと教育目標 本学の建設工学科の創立から現在までの歴史を紹介し、本学科の教育目標を建設技術者に求められる資質と関連づけて説明する。
6. 建設関連施設の見学 建設関連施設を1, 2箇所見学し、ものづくりの流れや、大学で習得すべき事項等について説明する。
7. 防災センターの見学 徳島県立防災センターを見学し、防災への取り組み事例等を介して、大学で習得すべき事項等について説明する。
8. 自分の将来像と大学生活 グループで各自の将来像や夢について語り、夢を実現するために如何に大学で学ぶかについて討議し、検討結果を発表する。

【教科書】 工学部『「学びの技」はじめの一步』、その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無(欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講者へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【WEB 頁】 <http://ksys.ce.tokushima-u.ac.jp/mizuguchi/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221334>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・機械)(夜) (Introduction to University Education)

(夜間主(機))

教務委員会委員/工学部 機械工学科

1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は、大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されています。各講義は、そのテーマに応じて適切な授業方法で行われます。大学では一般に講義形式の授業が主になりますが、この講座では、講義を聞き、その主題についてノートを取り、グループで討論をしたり、その経過・まとめを口頭で報告したり、また文章でレポートすることなどの、学習方法も取り入れて実践されます。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身に付けることを目指します。

【キーワード】 機械工学科, 履修計画, 大学生活

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、その概要や問題点を理解し、友人たちや教員と討論ができ、文章としてまとめられること、また皆の前で報告発表ができること。

【授業の計画】

1. 健康的に学生生活を送るために 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・生活習慣病を予防するための健康管理法とその重要性・及び注意が必要な感染症について説明する。
2. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。
3. 附属図書館からのオリエンテーション
4. 学びの相談について
5. 学生委員からの諸注意
6. 教務委員からの諸注意
7. 履修計画の作成 1
8. 履修計画の作成 2
9. 履修登録

10. 読書のすすめ・英語のすすめ コミュニケーションのために、自分の意見を構築することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力が重要であることを認識する。
11. 学びと倫理 人間また技術者として、何を身に付けなければならないか、その基本を理解する。
12. レポートの書き方 その意味と書き方について説明する。またプレゼンテーションの重要性を説く。
13. 機械工学の生い立ち、教育理念・教育目標・教育方針を説明し、これから4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
14. 進路の探し方 これからの生き方、進学、就職等の状況と心構えを説明する。
15. パソコンを使う 情報を収集・発信するためのテクニックを紹介する。

【教科書】 工学部 『「学びの技」はじめの一步』、その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 ()

【受講者へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221335>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

【備考】 機械工学科・教務委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・化学)(夜) (Introduction to University Education)

(夜間主(化))

教務委員会委員 / 工学部 化学応用工学科

1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 大学で学ぶために必要な術を、化学応用工学科の教員を始め、徳島大学の教員が各方面から講述します。

【キーワード】 学生生活, 学習, コミュニケーション

【到達目標】 大学での学びに関する全体像が把握できること。

【授業の計画】

1. 健康的に学生生活を送るために保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。
2. 大学で学ぶとはどういうことか、化学応用工学科で学ぶとはどういうことかについて考え、学ぶために必要な事柄を紹介する。
3. 情報を検索する方法として、基本的なインターネットの利用方法を紹介する。
4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。
5. 読書のすすめ・コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。
6. 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに学習支援室の上手な利用方法を紹介し、これからの4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
7. ものづくりのすすめ (創成学習開発センターと創成科目を紹介する)
8. コミュニケーションの取り方の向上を図り、学生と学生、学生と教員の相互理解を深める。

【教科書】 「学びの技」はじめの一步

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講者へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221336>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・生物)(夜) (Introduction to University Education)

(夜間主(生))

教務委員会委員/工学部 生物工学科

1単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学での学習・生活は高校までとは異なり, 積極的に取り組む自己責任が要求される。自己責任の達成には, 入学から卒業するまでの間に生物工学科で何を学び(学習目標), 学んだことを将来どのように生かすか(将来像)をしっかりと持つことが必要である。これからの勉学や健康的な生活を送るうえで, 基本的に重要な事柄を学び, 大学での学習と生活の方法, 学習目標と将来像などについて全体的に理解することを目的とする。

【授業の概要】 授業では, 履修の手引(講義シラバス), 学生生活の手引, 学びの技はじめの一步をテキストとして使い, 教員の経験を織りまぜながら, 生物工学科の教育目標, カリキュラム, 学習方法, 成績評価, 大学生に要求される能力, 健康的な学生生活, また卒業後の進路について説明するとともに, 討論を通じて学生自身の大学での学習目標や自分の将来像などについて考える。

【到達目標】 大学における健康で有意義な生活を達成するための学び方について理解し, 将来について考える。

【授業の計画】

1. 大学生とは? 生物工学科とは? 大学院とは? 教員や先輩の対談を含めて学習する。
2. 生物工学科の教育目標とカリキュラムについて学習する。
3. 全学共通科目と専門科目, 単位制, Web 登録, 講義ノートのとり方, レポートのまとめ方, 評価方法, ポートフォリオの作り方などについて学習する。
4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり, 利用方法などを学習する。
5. 学びのしくみ・学習支援室の紹介, 教育の理念・目標や教育方針, これから 4 年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
6. 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用, 心と体の健康管理法とその重要性, 及び注意が必要な感染症について学習する。
7. 読書の重要性, またコミュニケーションのために自分の意見を構築して発表することの大切さ, さらに国際社会で活躍するために英語能力の重要性について認識する。
8. 大学生活における目標と自分の将来像について考える。

【教科書】 「学びの技」はじめの一步 徳島大学工学部導入教育テキスト, 平成 18 年度「履修の手引」講義概要(シラバス)

【成績評価の方法】 到達目標の達成度をレポート, プレゼンテーションによって評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 何のため何をどのように学ぶのか考え, 有意義な大学生活を送ろう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221339>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・電気電子)(夜) (Introduction to University Education)

(夜間主(電))

教務委員会委員 / 工学部 電気電子工学科

1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 大学入門講座は、大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されています。電気電子工学科の紹介をはじめ、国際化も視野に入れた各自の将来像を描き、それに向かうための目標について考えます。また、充実した大学生活を送るための種々の情報を修得し、それらを通じて、「自ら学び」「自ら考える」姿勢が身につくことを目標とします。

【キーワード】 電気電子工学科、大学生活、履修計画、履修登録

【到達目標】 大学での学びのしくみを理解し、何をなぜ学ぶかを知り、学び方についての知識、技術を身につけること。

【授業の計画】

1. 健康的に大学生活を送るために保健管理センターの紹介、酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。
2. 読書のすすめ・コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。
3. 学びにしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに、学習支援室の上手な利用方法を紹介し、4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
4. 電気電子工学科とは:電気電子工学科の紹介、カリキュラムの概要および教育目標との関係を理解する。
5. 電気電子技術者としての将来像および各自の学習目標について考え、自分と社会の将来像を描いてみる。
6. 全学共通教育の履修・学習方法:全学共通教育の意義・目的、単位とは何か等を理解し、履修・学習方法を考え、履修計画を作成する。
7. 専門教育科目の履修・学習方法:各学年での専門教育学習の意味と学習方法を説明し、大学院を含めた6年間の一環教育としての履修・学習方法を考える。

8. 学生生活の道しるべ 有意義な大学生活を送るための情報を活用する

9. 施設見学:常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。

【教科書】 工学部『「学びの技」はじめの一步』、『履修の手引き』、『学生生活の手引き』、その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【受講者へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221337>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)

大学入門講座 (工・知能)(夜) (Introduction to University Education)

(夜間主(知))

教務委員会委員 / 工学部 知能情報工学科

1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学では、高校までとは異なった、学ぶ姿勢が必要である。これからの学習において重要となる様々なことについてその全体像を把握し、深く学ぶために必要な事柄を理解してもらうことを目的とする。

【授業の概要】 大学における授業の形態、学び方、発表技術、および、レポートの作成技術について説明する。

【キーワード】 大学入学、学生生活、履修登録

【到達目標】 大学で何をなぜ学ぶかを知り、その学び方についての知識、技術を身に付けること。

【授業の計画】

1. 施設見学常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。
2. 健康的に学生生活を送るために保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・生活習慣病を予防するための健康管理法とその重要性・及び注意が必要な感染症について説明する。
3. 読書のすすめ・英語のすすめ コミュニケーションのために、自分の意見を構築することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力が重要であることを認識する。
4. 学びのしくみ・学習支援室 教育の理念・目標や教育方針、そして学習支援室の上手な利用方法を紹介し、これから4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。
5. スライドを作成して効果的に発表するためのプレゼンテーション・スキルを学ぶ。
6. PowerPoint を用いたスライドの作成法を学ぶ。
7. レポートを分かりやすくまとめるためのテクニカルライティング・スキルを学ぶ。
8. Latex を用いたレポートの作成法を学ぶ。
9. 教員と大学院学生との小グループ討論 1. 大学で大事なことは何か?
10. 教員と大学院学生との小グループ討論 2. 学習及び学生生活上の指導、大学生活の上手な過ごし方。

11. 教員と大学院学生との小グループ討論 3. 4年間のマイルストーン、講義概要・創成科目の説明、就職・進路。
12. 履修方法の説明・指導、時間割の組み方。
13. 履修登録システムのガイダンス。
14. Web 履修登録 1。
15. Web 履修登録 2。
16. 質疑応答。

【教科書】

- ◇ 履修の手引き、「学びの技」はじめての一步、学生生活の手引き
- ◇ 配布するプリント

【成績評価の方法】 授業への参加姿勢とレポートにより評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 新入生は必ず受講すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221338>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

2) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects)

歴史と文化

日本の古代史 ... (夜間主 (全 1~4 年))/衣川/前期 月 13・14	696
日本図の歴史 ... (夜間主 (全 1~4 年))/平井/前期 月 13・14	697
日本中近世文学Ⅱ ... (夜間主 (全 1~4 年))/原水/前期 木 11・12	698

人間と生命

社会観の探究 ... (夜間主 (全 1~4 年))/石田/前期 月 13・14	699
知覚の心理学 ... (夜間主 (全 1~4 年))/濱田/前期 木 11・12	700

生活と社会

現代社会と法 ... (夜間主 (全 1~4 年))/上原/前期 木 11・12	701
------------------------------------------------	-----

自然と技術

日本の植物の多様性 ... (夜間主 (全 1~4 年))/山城/前期 木 11・12	702
---------------------------------------------------	-----

歴史と文化 (History and Culture)

日本の古代史 (Ancient Japanese History)

(夜間主 (全 1~ 4 年))

衣川 仁・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本史』)

【授業の目的】 歴史といえば、たとえ日本の歴史であったとしても、自分にとって遠い昔の無関係な話として受け取られがちです。確かにそうですが、その遠い昔から存在し、現在に影響を与えているかも知れないものは結構多いのです。そういった要素を見つけることで、歴史はぐっと身近なものになるでしょう。また、史料を細かく読み込むことで、今までは感じる暇もなかった当時の人々の思いにまでたどりつくことができます。それは覚えた年号からは分からない“生きた歴史”です。そこに行き着くには、柔軟に考えることが必要です。歴史は考える学問だということを踏まえ、その考え方を知ってもらうこと、これがこの授業の目的です。

【授業の概要】 日本の古代史に関わる重要なトピックを概説し、その歴史的な特質を考えます。時期としては 6 世紀から 11 世紀あたりまでを、皇統をめぐる争いや律令体制下の政治、更には社会・文化も視野に入れながらたどります。その際には、『日本書紀』や『続日本紀』など、史料・資料に基づいて説明します。

【キーワード】 天皇、律令、仏教、怨霊

【先行科目】 『歴史と文化/ 戦国時代から近世社会への変化』(1.0)

【関連科目】 『歴史と文化/ 古代・中世日本の社会』(0.5)

【到達目標】 日本古代の政治と社会の歴史をおさえる。そこに深く関わった権力(特に天皇)の役割を理解する。これらを含む当該期の歴史的特質を考える。

【授業の計画】

1. なぜ仏教は広まったのか
2. 「壬申の乱」の首謀者は誰か
3. 「日本」はどのように作られたか
4. なぜ古代には女帝が立てられたのか
5. 誰が長屋王を殺したのか
6. なぜ大仏は造られたのか
7. なぜ怨霊は生まれたのか
8. 蝦夷とは何か
9. 「薬子の変」をどう考えるべきか
10. 「国風文化」の底にあるものは何か

11. なぜ陽成天皇はクビになったのか
12. なぜ菅原道真は左遷されたのか
13. 平安時代の社会問題とは何か
14. なぜ平安京では火災が多発したのか
15. 試験
16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用せず、プリント等を配布する予定です。参考書等は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法】 期末試験を中心に評価しますが、出席やコメント・小テストなど、平素の授業への取り組みも勘案します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 歴史は考える学問だといった様に、実際に考えながら受講して欲しいと思います。ですから、予習や復習も必要です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221340>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜10時30分~12時)

歴史と文化 (History and Culture)

日本図の歴史 (Pre-Modern Japanese Maps)

(夜間主 (全1~4年))

平井 松午・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】 様々なスケールの「地域」を研究対象とする地理学にとって、「地域」に関する資料をどのように分析し解釈するかは、重要な研究手続きとなる。この授業では、古代から近代までの各時代ごとに描かれた各種の日本図を手がかりに、国土・世界に対する日本人の地理観の一端を紹介するとともに、日本図の変遷にみる科学的側面について歴史地理学的見地から考察していくことも目的としている。

【授業の概要】 授業では、古代から幕末・明治に至るまでの日本を描いた多様な古地図を、プリント、パソコンによるデジタルデータなどを用いて紹介する。取り上げるおもな古地図は、日本およびその周辺地域を題材としたもので、絵図の記載内容や画像表現から、絵図作成の目的や、そこに描かれている地域像・社会背景などについて解説する。

【キーワード】 地理学, 歴史地理学, 古地図, 地理情報システム

【関連科目】 『生活と社会/暮らしと地図』(0.5)

【到達目標】 絵図が作成されてきた時代ごとの社会背景と技術的発展過程の相互関係が理解できること。

【授業の計画】

1. 見取図と実測図 -絵図と地図の違い-
2. 古代律令体制と国郡図
3. 最古の日本図「行基図」 -中世の日本図-
4. 「行基図」と「海山潮陸図」 -近世初頭の日本図-
5. 「五天竺図」と「世界図屏風」 -日本人の世界観-
6. 幕藩体制の確立と幕府撰国絵図
7. 近世阿波の国絵図 -6期の国絵図-
8. 国絵図と日本図総図
9. 道中絵図と「改正日本輿地路程全図」 -普及版日本図-
10. 蘭学の発達と世界地理書の刊行
11. 紅毛流規矩術と実測分間絵図
12. 伊能忠敬の全国測量
13. 「大日本沿海輿地全図」とシーボルト事件
14. 間宮林蔵と北方図

15. 期末試験

16. 「日本図の歴史」授業のまとめ

【教科書】

- ◇ 教科書は使用せず、授業の際に資料プリントを配付する。なお、手近な参考図書としては次のものがある。
- ◇ 久武哲也・長谷川孝治編『改訂増補 地図と文化』地人書房、織田武雄『地図の歴史 日本篇』講談社新書

【成績評価の方法】 授業中に数回行う小テストや課題レポート、授業への取り組み状況などにもとづく平常点での評価と、期末試験結果による評価を併用して総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 徳島大学附属図書館のホームページ (<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>)の「古地図・絵図 (貴重資料高精細デジタルアーカイブ)」には、図書館が所蔵する各種絵図 (国絵図, 伊能図, 世界図など) が掲載されているので、参照のこと。

【WEB 頁】 <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221341>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) **MAIL**

歴史と文化 (History and Culture)

日本中近世文学 II (Medieval Japanese Literature 2)

(夜間主 (全 1~4 年))

原水 民樹・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『日本文学』)

【授業の目的】日本人である以上、過去の日本文化についての知識を持つべきことは当然である。外国に留学した学生が留学先で日本文化についての質問を受け何も答えられずに恥をかいたというのはよく聞く話である。本授業では、いくつかの落語を取り上げ、もとねたとなった古典作品を紹介し、その形成のされ方を説明する。よって、日本文化に流れるユーモア精神を理解させる。

【授業の概要】いくつかの落語をとりあげ、そのもとねたとなった古典作品を紹介して、落語の形成のされ方を考える。

【キーワード】落語、日本古典文学、近世庶民の生活

【到達目標】落語の形成過程を探ることで、日本人のユーモアやウィットを理解する。

【授業の計画】

1. 落語についての基本的な説明
2. 平家物語・謡曲景清・新話笑眉などと落語の景清
3. 義経記・歌舞伎義経千本桜と落語猫の忠信
4. 義経記・謡曲船弁慶と落語の船弁慶
5. 義経・弁慶説話と落語こぶ弁慶・青菜
6. 近江八景と落語の近江八景
7. 和歌「せをはやみ」と落語の崇徳院
8. 和歌「ちはやぶる」と落語のちはやぶる
9. 怪談皿屋敷と落語皿屋敷
10. 醒睡笑と落語のこほめ
11. 狂言ほねかわ・十返舎一九へそくりかねと落語の金明竹
12. 十返舎一九世中貧福論と落語のはてなの茶碗
13. 江戸小話と落語の一目上がり
14. 好色五人女・難波戦記と落語のくしゃみ講釈
15. テスト
16. 総括

【教科書】資料はこちらで用意する。

【成績評価の方法】学期末試験 (50%)・毎回の質疑の内容・受講姿勢 (50%) を総合して判断・評価する

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】文学という存在を少しは真面目に考える学生、日本の歴史・古典文学に関心のある学生に受講してもらいたい。単位取得だけが目的の学生には退屈で辛いだけ。毎回、講義内容についての質疑を課す。教科書を購入しない者は受講を認めない。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221342>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 原水 (1 号中棟 1 階, 088-656-7113, haramizu@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

人間と生命 (Humanity and Life)

社会観の探究 (Inquiry for vision of society)

(夜間主 (全1~4年))

石田 三千雄・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『人間と生命』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『哲学』)

【授業の目的】 グローバル化によって、世界は全体化された。グローバル化によって、力(物理的力, 政治的力, 精神的な力)の支配が世界のすみずみにまで及んでいく状況になった。人間が人間性を喪失し、自然も物理的自然へと回帰している。魂を喪失した人間と物理的な自然との間には和解も調和も存在しない。グローバル化した世界での思考と自由の倒壊に抗して、持続可能な社会を形成し、グローバルな社会を生きる倫理的な視点を再興することを考える。

【授業の概要】 グローバル化された世界の課題と希望を探究し、グローバル化の経済的側面・政治的側面、グローバル化された世界における人間の権利を考える。グローバル化に関わるテクノロジー、南北間格差や環境の政治、福祉国家のあり方、帝国やナショナリズムのあり方、グローバル化とフェミニズム、メディアのあり方、テロリズムの問題、平和の文化を考える。

【キーワード】 グローバル化, 人権, 国家

【先行科目】 『人間と生命/ 認知哲学』(1.0)

【到達目標】 グローバル化された現代世界のあり方、およびその背後にある諸問題について、哲学的・倫理的に考える力を身につける。

【授業の計画】

1. はじめに一授業全体の説明
2. グローバル世界の課題と希望
3. 自然の法と倫理の理法
4. 人権とヒューマニズムの未来
5. 歓待の権利と歓待の倫理
6. テクノロジーと国家のゆくえ
7. テクノロジー・ナショナリズム・主権国家
8. 南北格差と環境の政治
9. 福祉国家と管理社会
10. 帝国とナショナリズム
11. グローバル化とフェミニズム
12. 大衆とメディア
13. テロリズムの闇と恐怖
14. グローバリズム対反グローバリズム

15. 平和の文化に向けて

16. 総括授業

【教科書】 石崎嘉彦・太田義器他『グローバル世界と倫理』ナカニシヤ出版, 2008年, 1995円

【成績評価の方法】 学期末試験(40%), 小レポート(30%), 授業への取り組み状況(30%)などにより総合的に評価する(ただし, 評価割合の目安は括弧内のパーセントである)。

【再試験の有無】 再試験有り

【受講者へのメッセージ】 グローバル化を考える基礎的視野を養ってください。質問等は、メールでも受け付けます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221343>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜日14~15時)

【備考】 授業計画は一部変更があるかもしれません。

人間と生命 (Humanity and Life)

知覚の心理学 (Introduction to Perception)

(夜間主 (全 1~ 4 年))

濱田 治良・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目: 『人間と生命』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『心理学』)

【授業の目的】 私たちを取り巻いている物理的環境と私たちが見聞きした結果である主観的な知覚の世界の間には大きな違いがある。私たちは外界・環境をどのように知覚しているのだろうか?この講義では認識や行動の出発点である知覚の基礎について論じ、未知なる人間、我々自身を理解するための科学的試みを紹介する。その為に、代表的な錯視現象を通して「人間が外界をいかに知覚し、認識しているのか」を論じ、科学の歴史をたどりながら錯視の成立機序とその意義を考察する。また心理学的・人間工学的見地から人間の知覚を考察する。

【授業の概要】 錯覚や錯視は私たちの目の不完全さを示しているのではなく、人間の知覚の機能の素晴らしさを示している。そこで日常生活で経験する知覚現象を心理学的・人間工学的に考察する。また、講義の一環として、授業中に知覚心理学の実験実習を行い、各自のデータを分析して簡単なレポートを提出してもらいます。

【キーワード】 人間の知覚

【到達目標】 人間の知覚に関する現象や実験を通して得られたデータを理解し、それらから導き出された基礎的理論や考え方を理解する。

【授業の計画】

1. 授業は概ね次の 5 章から構成され、下記のそれぞれの項目を中心にして講義を進めます。なお 16 回目に総括授業を行います。
2. 1. 輪郭線知覚
3. マッハ・バンドとクレイク・オブライエン効果
4. 2. 主観的輪郭線
5. 主観的輪郭線と透明視
6. 3. 明るさ知覚
7. 明るさの対比・同化・恒常性
8. 4. 幾何学的錯視
9. 大きさ錯視における対比と同化、大きさ・距離不変仮説
10. 5. 知覚の体制化
11. 図と地・群化の要因

【教科書】 資料を配布しながら講義を進める。

【参考書等】 参考書として松田隆夫著「視知覚」培風館を勧める。

【成績評価の方法】 中間試験 (40%)、期末試験 (40%)、レポート、出席率により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 知覚心理学に関心のある意欲的な学生の受講を歓迎します。VTR も使用して講義内容を補足します。配布資料と講義内容及び各自の自習に基づいたノートを作成してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221345>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

現代社会と法 (Modern Society and Law)

(夜間主 (全1~4年))

上原 克之・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 木 11・12

(平成19年度以前の授業科目:『生活と社会』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】「社会あるところに法あり。」われわれの市民生活は法ぬきには考えることはできないほど、それを意識するかしないかはともかく、法に囲まれて生活している。法とは一定の、社会を見る視点であり、本授業では、法的思考を身につけることにより、現代社会をこれまでとは違った観点から見ることができるようになることを目的とする。

【授業の概要】はじめに法とは何か、近代法とは何か、また、法が他の社会規範とどのように区別されるのかを明らかにしたうえで、われわれの社会生活に関係する財産法、家族法、刑法等についての具体的な問題を検討していく。

【キーワード】法、道徳、財産、家族、犯罪

【関連科目】『生活と社会/経済と法』(0.5), 『生活と社会/家族法の諸問題』(0.5)

【到達目標】

1. 法的な諸概念を正確に理解すること
2. 法的な論理を理解すること
3. 法的なものを見方を文章で説得的に展開することができること

【授業の計画】

1. 法とは何か 1) 法の分類
2. 法とは何か 2) 近代法の観念
3. 法とは何か 3) 法と道徳
4. 財産と法 1) 法的人格
5. 財産と法 2) 財産権 物権
6. 財産と法 3) 財産権 債権
7. 財産と法 4) 財産権 物権と債権の関係
8. 家族と法 1) 家族法の推移
9. 家族と法 2) 婚姻をめぐる法
10. 家族と法 3) 離婚と法
11. 家族と法 4) 相続
12. 犯罪と法 1) 概説
13. 犯罪と法 2) 罪刑法定主義
14. 犯罪と法 3) 刑法の機能
15. 犯罪と法 4) 刑事訴訟手続

16. 犯罪と法 5) 刑事訴訟手続の諸問題

【教科書】

- ◇ 教科書は特に指定しないが、法令集(六法)を持参すること。
- ◇ 【参考書等】については、適宜指示する

【成績評価の方法】筆記試験を中心とし、小テスト、授業への取り組みなど(20%)を総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【受講者のメッセージ】授業はあくまでも出発点であると考え、授業だけに満足せず自ら積極的に学ぶ姿勢を大切にしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221611>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー:
前期:水曜日 12時から13時 総合科学部1号館3階(行政法研究室))

自然と技術 (Science and Technology) 日本の植物の多様性 (Introduction to Botany)

(夜間主 (全 1~ 4 年))

山城 考・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】 日本列島は南北に長い形をしており、亜熱帯から寒帯におよぶ気候環境が見られる。日本の植物相は非常に豊かで、約 5000 種の維管束植物が知られている。本講義では日本の植物相の多様性とその保全について解説をおこなう

【キーワード】 高等植物, 固有種, 植物区系, 日本列島, 多様性

【到達目標】 日本の植物相の複雑な成り立ちとその多様性を知識として習得させ、身近な植物や地域の自然保護の大切さに関心を持たせることを目的としている

【授業の計画】

1. 生物の多様性とそれを制限する要因
2. 植物の生活 (個体のあり方)
3. 植物の戦略 (適応と繁殖)
4. 日本の植物相の形成に影響をもたらしたものの
5. 高山, 針葉樹林, 夏緑樹林を構成する植物
6. 照葉樹林を構成する植物
7. 日本海側と太平洋側の植物の分化
8. 湿地帯と東海丘陵要素
9. ソハヤキ要素と阿哲要素
10. 海洋島 (小笠原) の植物
11. 大陸島 (琉球列島) の植物
12. 雑草の生活
13. 帰化植物とその危険性
14. 野生植物の保全
15. レポートの課題提示
16. 総括授業

【成績評価の方法】 小テストと授業への取り組み。

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221344>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

3) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects)

ウェルネス総合演習

ウェルネス総合演習 ...(夜間主(全1年))/行実/前期 月 11・12.....704

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)

(夜間主 (全1年))

行實 鉄平・講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 月 11・12

(平成19年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】 「ウェルネス」とは、疾病や障害の有無にかかわらず、心の豊かさ・生命の尊厳を大切に、食・身体活動・休養・睡眠をバランスよく取り入れて生活習慣を改善し、生活の質(QOL)を高めて生涯にわたるより健康なライフスタイルの確立を目指す生き方 ((財)日本ウェルネス協会)として捉えられている言葉である。本授業では、そのなかでも運動・スポーツとQOLとの関係性を体験的に学習することにより、ウェルネスの理解を深めていくことを目的としている。また、運動・スポーツを通して履修者相互の関係を深め、社会人基礎力として必要なコミュニケーション能力を養うことも目的としている。

【授業の概要】 この授業では、形態・身体組成、健康体力、運動と栄養について講義をするとともに、それらの測定・調査方法やトレーニング法を紹介する。加えて、生涯スポーツとして楽しむことのできるスポーツ(バドミントン)も体験してもらう。また、健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みについての講義も行う。学生には、これらを通して積極的に健康的な生活を設計し実践する能力、いわゆる「ウェルネス実践能力」を養ってほしい。

【キーワード】 ウェルネス、生涯スポーツ、スポーツとの多様な関わり(する・みる・ささえる)

【到達目標】

1. "ウェルネスとは何か?", またその必要性を理解する。
2. 自らの身体理解と、その測定・調査・トレーニング方法を理解する。
3. 健康づくりやスポーツを日常生活で実践し、豊かな人生を過ごそうとする積極的な姿勢を身につける。
4. 他者や集団と積極的にかかわり、楽しみの場を演出し、コーディネートできるようにする。
5. 健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みを理解する。

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. ウェルネスとは!(健康づくり概論)
3. 形態・身体組成の測定法
4. 体力・持久力の測定法

5. 健康・栄養調査
6. バドミントン(ラケットを使いこなす)
7. " (シャトルコントロール)
8. " (各種フライト)
9. " (フットワーク)
10. " (総合練習:シングルス)
11. " (総合練習:シングルス)
12. " (総合練習:ダブルス)
13. " (総合練習:ダブルス)
14. 健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みとは!
15. 期末試験
16. 授業の総括

【教科書】 基本的に使用せず、随時プリントを配布する。

【成績評価の方法】 「出席 60%」「受講態度 10%」「試験 30%」の3つの観点から総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 これから歩む人生と健康、またはライフスタイルとの関わりについて自らが考え、積極的な姿勢で授業に取り組む、学生の受講を希望する。体調には充分配慮し、授業に臨むこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221348>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜午後)

4) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects)

基盤英語

基盤英語 ... (夜間主 ((建機電)1年)) / 貝沼 / 前期 水 13・14	706
基盤英語 ... (夜間主 ((化生知)1年, (機)2年)) / 米原 / 前期 水 13・14	707
基盤英語 ... (夜間主 ((建電)1年)) / 上野 / 前期 火 11・12	708
基盤英語 ... (夜間主 ((化生知)1年)) / 魚崎 / 前期 火 11・12	709

主題別英語

主題別英語 ... (夜間主 ((建化生知)2年, 全3・4年)) / 座喜 / 前期 火 13・14	710
-----------------------------------------------------------	-----

発信型英語

発信型英語 ... (夜間主 ((建)2年, (機)3年, 全3・4年)) / パトリック / 前期 火 13・14	711
発信型英語 ... (夜間主 ((化電知)2年, 全3・4年)) / ワイス / 前期 火 13・14	712

ドイツ語入門

ドイツ語入門 ... (夜間主 (全1~4年)) / 井戸 / 前期 水 13・14	713
--------------------------------------------------	-----

ドイツ語初級

ドイツ語初級 ... (夜間主 (全2~4年)) / ヘルベルト / 前期 火 13・14	714
-----------------------------------------------------	-----

情報科学

情報科学入門 ... (夜間主 ((建機化生電)1~4年)) / 松浦 / 前期 木 11・12	715
--------------------------------------------------------	-----

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(夜間主 ((建機電)1年))

貝沼 恵美・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 前期 水 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 ボードレス化する世界情勢を理解し適応していくためにも、英語によるコミュニケーション能力の必要性はますます高まっているといえよう。本授業においてはリスニングとリーディングを中心に、英語の総合的運用能力の向上を図る。また特にアジア地域に焦点をあて、異文化に対する理解も深めていく。

【授業の概要】 アジア諸国の文化に触れながら、テキストやCDを用いてリーディングやリスニングを行う。また、文法的基礎事項を確認し、語彙や表現を増やし英語による総合的なコミュニケーション能力の向上を図る。毎回授業中に、単語や慣用句、ディクテーションなどの小テストを実施し、理解度を確認していく。

【キーワード】 アジア、リーディング、リスニング

【到達目標】

1. 英語によるリーディングやリスニングに慣れる。
2. 英語によるコミュニケーションが可能になるよう、語彙を増やしていく。
3. アジア地域を中心に、異文化に対する理解力を深める。

【授業の計画】

1. Class Guidance
2. Unit1: India
3. Unit1: India
4. Unit4: Malaysia
5. Unit4: Malaysia
6. Unit6: Indonesia
7. Unit6: Indonesia
8. TOEIC Guidance
9. Unit7: The Philippines
10. Unit7: The Philippines
11. Unit10: Korea
12. Unit10: Korea
13. Unit12: Japan
14. Unit12: Japan

15. Final Examination

16. Test Review

【教科書】 Nobuyuki Honna 他『Understanding Asia』センゲージ ラーニング株式会社。2,000 円 (税別)。

【成績評価の方法】 出席状況、学期末試験、予習状況、毎回行う小テストなどにより総合的に評価します。

【再試験の有無】 出席率 2/3 以上、小テストの平均点が 60%以上の者についてのみ実施します。

【受講者へのメッセージ】 1) 予習をして授業に臨んでください。2) 毎回小テストを行いますので、欠席・遅刻が多いと単位の取得は困難になります。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221350>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 貝沼 .

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(夜間主 ((化生知)1年, (機)2年))

米原 晶子・非常勤講師

1単位 前期 水 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 今日の世界において英語による情報の授受の必要性はもはや論を俟たないであろう。この授業では、英語の実用的運用能力をはかる客観式テストとして近年広く普及している TOEIC (Test of English for International Communication) の受験の準備を目的とする。

【授業の概要】 TOEIC の問題集を解いていく。リスニング問題、リーディング問題とともに各自が事前学習をして来ることが前提で、教室は答え合わせと解説の場とする。またビデオで簡単な日常会話・旅行会話の慣用表現も学習する。

【キーワード】 TOEIC, 語彙

【到達目標】

1. TOEIC 問題パターンに慣れる。
2. TOEIC に出てくる語彙、特にビジネス系の語句に習熟する。
3. TOEIC にでてくるビジネス文書に慣れる。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. Unit 13
15. 期末試験
16. まとめ

【教科書】 鈴木薫 『The Next Stage to the TOEIC Test Pre-intermediate』 金星堂

【成績評価の方法】 学期末試験、予習状況、中間試験などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 必ず予習をして来て下さい。CD 付きテキストですから、リスニング問題は何度でも分かるまで聞いて解答してみてください。TOEIC はとにかく忙しい試験で、時間勝負で慣れが必要です。平素のリスニングやポキャピルも欠かせません。ラジオ語学講座は有効です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221349>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 米原 .

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(夜間主 ((建電)1年))

上野 加代子・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC(Test of English for International Communication) 試験のリスニング学習を通して、リスニング力を高めるとともに、有用な単語やフレーズを学習し、映画・ドラマを数多く視聴し、スピードの速いネイティブ英語に慣れる。

【授業の概要】 授業は 2 つのパートから成る。① TOEIC のリスニング練習等を行い、TOEIC 試験のこつをつかむ。②そして海外英語ドラマや映画を視聴し、穴埋めの聞き取りを行うことで、有用なフレーズを習得し、リスニングの力を高める。

【キーワード】 リスニング、映画、TOEIC

【到達目標】

1. 英語学習の意欲が高まる
2. TOEIC500 点以上を取る

【授業の計画】

1. オリエンテーション
2. TOEIC&映画などのリスニング
3. TOEIC&映画などのリスニング
4. TOEIC&映画などのリスニング
5. TOEIC&映画などのリスニング
6. TOEIC&映画などのリスニング
7. TOEIC&映画などのリスニング
8. TOEIC&映画などのリスニング
9. TOEIC&映画などのリスニング
10. TOEIC&映画などのリスニング
11. TOEIC&映画などのリスニング
12. TOEIC&映画などのリスニング
13. TOEIC&映画などのリスニング
14. TOEIC&映画などのリスニング
15. TOEIC&映画などのリスニング
16. 総括授業

【成績評価の方法】 成績は、期末試験 (60%) 中間テスト (20%) 授業中の正解回数 (20%) で総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221352>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 毎週水曜日 11 時 40 分 ~ 12 時 40 分)

英語 (English)

基盤英語 (Basic English)

(夜間主 ((化生知)1年))

魚崎 典子・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 前期 火 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】社会がグローバル化する中、英語コミュニケーション能力は必要不可欠になっています。本クラスでは親しみある歌を通して英語の Listening, reading, speaking 能力の向上を目指します。

【授業の概要】ポピュラーソングを鑑賞して歌詞を理解し、歌について書かれたエッセイ文を読んだり、リスニング行い、リーディング力、リスニング力の向上を目指します。適宜課題や小テストが課せられます。また TOEIC 対策もする予定です。

【到達目標】

1. 平易な英文が読めるようになる。
2. 会話でよく使われる表現の聞き取りができるようになる。
3. 英米文化への理解を深める。

【授業の計画】

1. Introduction
2. Material Girl
3. Closer to Home/I'm Your Captain
4. High School
5. No Fun
6. Leader of the Pack
7. I'm Eighteen
8. Search and Destroy
9. Frozen
10. TOEIC TEST REHEARSAL
11. Shakin' Street
12. We're an American Band
13. Bohemian Like You
14. A Whiter Shade of Pale
15. 期末試験
16. 総括

【教科書】魚崎典子 (松柏社)

【成績評価の方法】小テスト, レポート, 学期末試験, 授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】日頃から英語の歌に親しみましょう。学期末試験は、授業時間数の3分の2以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること!

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221351>

【連絡先(オフィスマワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 魚崎 . (オフィスマワー: 初回の授業でお知らせします。)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(夜間主 ((建化生知)2年, 全3・4年))

座喜純・准教授 / 大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 13・14

(平成19年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前) の授業科目: 『英語(2)』)

【授業の目的】 This Thematic English class designed to provide a good assistance in developing English abilities in general. Especially, It will focus on Listening, Reading and Writing skills.

【授業の概要】 Classes will be running in ENGLISH language only. There is no specific text book but there will be some other media regarding the 'Theme' which will be selected up to date. Listening and Reading practices will take place during the class hour. As homework, all attendances will be expected to submit an A4 one page report about the 'Theme' within one week after the class. The next class will be a Presentation of some Homework Reports.

【到達目標】 You will gain more skills as much as themes they put into practice.

【授業の計画】

1. Overall Guidance
2. Info Clip 1
3. Presentation of Selected Reports
4. Info Clip 2
5. Presentation of Selected Reports
6. Info Clip 3
7. Presentation of Selected Reports
8. Info Clip 4
9. Presentation of Selected Reports
10. Info Clip 5
11. Presentation of Selected Reports
12. Info Clip 6
13. Presentation of Selected Reports
14. Info Clip 7
15. Presentation of Selected Reports
16. Review

【教科書】 No specific text book but there will be some other media depending on the 'Theme' which will be selected up to date.

【成績評価の方法】 All Attendance, Homework fulfillment and Participation in class

【再試験の有無】 No make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Asking questions in class is very important.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221353>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 座喜 . (オフィスアワー: contact E-mail: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(夜間主 ((建)2年, (機)3年, 全3・4年))

パトリックジェフ・非常勤講師

2単位 前期 火 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to better prepare the student to express ideas and interact in both written and spoken English environments.

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数-複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】

1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介
2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課
3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物
4. 講義:所有代名詞, 天気宿題:天気の作文
5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族
6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動
7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味
8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店
9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔
10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験
11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴
12. 講義:can, could, may 宿題:健康
13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物
14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221355>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック .

【備考】 旧カリキュラムでは授業科目:英語(2)

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(夜間主 ((化電知)2年, 全3・4年))

ワイス ドナルド・非常勤講師/全学共通教育センター

2単位 前期 火 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to develop the student's speaking and listening skills for everyday English in an international society.

【授業の概要】 TOPICS: Meeting and getting to know people, expressing preferences, describing and asking about everyday life and life-styles, shopping, eating out, asking about and describing various countries.

【到達目標】

1. Talk about life in Japan and other countries using English.
2. Learn the English you will need to make friends.

【授業の計画】

1. Introduction to the course; self introductions; making introductions.
2. Daily activities: yourself, your country, other countries.
3. Shopping and cost of living in various countries.
4. Entertainment: What do you like? What's popular in Japan? In other countries?
5. Review lessons 1- 4; Self-assessment and mini-test.
6. Families
7. Sports, games, and exercise.
8. What do you do for fun?
9. Neighborhoods around the world.
10. Review lessons 6- 9; Self assessment and mini-test.
11. Describing people: appearance, behavior, fashion, and style.
12. Wonderful and strange activities all over the world.
13. Tourist destinations: great places to go.
14. 1. Eating out around the world. 2. Preparation for the final exam.
15. Final exam
16. Course review.

【教科書】 TITLE: New Interchange Student Book 1; Author - Jack C. Richards
Publisher: Cambridge University Press

【成績評価の方法】 Final exam 50% Mini-tests 20% Class participation and homework 30%.

【受講者へのメッセージ】 Please be prepared to talk about the world in our class.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221354>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ワイス . (オフィスアワー: woosongdonald@yahoo.com)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(夜間主 (全1~4年))

井戸 慶治・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 水 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】 ドイツ語の基礎を習得し、またドイツ事情に触れる。英語以外の外国語を学び、英語圏以外の外国の事情や文化を知ることが、偏りのない健全な国際感覚を持つために必要であり、知的な刺激を得るためにも有益である。ドイツはヨーロッパにおける日本の重要な貿易や文化交流の相手であり、かつて板東収容所でドイツ人捕虜が「第九」を初演したことなどにより、徳島との関連も深い。

【授業の概要】 読章、文法説明、練習問題からなる総合的な教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確実なものにしてゆくため、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ事情、ドイツ文化を紹介する。

【キーワード】 外国語、ドイツ語、異文化理解

【到達目標】 ドイツ語文法の基本や簡単な表現を理解し、応用すること。

【授業の計画】

1. 授業ガイダンス
2. 発音
3. 1課, 規則動詞の現在人称変化
4. 同上, ドリル問題
5. 2課, 名詞の性と冠詞
6. 同上, ドリル問題
7. 3課, 語順, 不規則動詞
8. 同上, ドリル練習
9. 4課, 不規則動詞, 前置詞
10. 中間テスト
11. 5課, 副文, 従属接続詞, 人称代名詞, 非人称動詞
12. 同上, ドリル問題
13. 6課, 話法の助動詞, 未来形
14. 7課, 分離動詞, 前期の復習
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 「行ってらっしゃい」(朝日出版社). 独和辞典が必要であるが、最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法】 中間試験, 期末試験, 平常点(小テスト, 授業への取り組み方)で、総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221356>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(夜間主 (全2~4年))

ヘルベルト ウォルフガング・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 前期 火 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(2)』)

【授業の目的】 これまで学んだドイツ語のレベルアップ。外国語を習得するために必要な四つの能力、話す、聞く、読む、書くをどうとうに鍛錬し、よりの確なドイツ語の表現を身につけえる。ドイツ語圏の文化と人々についての理解を深める。

【授業の概要】 ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、習慣、考え方、ライフスタイルなども紹介します。日常的に使う文、章、言い回しを中心にペアや小グループで会話練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作、文を作ったりします。

【到達目標】 ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きが出来るようになること。ドイツ語圏の文化と事情にふれる。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、外国語の学び方について、辞書などの使い方
2. 挨拶、自己紹介、職業、勉強、専門についての会話
3. 国名、都市、アルファベット、発音、ナンバープレートゲーム
4. 数詞、ドイツ語で電話をする
5. 家族、親類、目的確
6. 事務所の設備、仕事、アルバイトについて
7. 趣味、不規則動詞の現在人称変化
8. 余暇、週末の過ごし方について、小テスト
9. 旅に出る、ホテルで
10. 駅、空港で、時刻表の読み方
11. レストランでの大事な表現
12. 食事、飲み物の話、ドイツ、オーストリーの喫茶店
13. 外出、約束すると関係ある表現
14. ドイツ、オーストリー料理について
15. 定期試験
16. 纏めと質疑応答

【教科書】 プリントを配布する。

【成績評価の方法】 学期末試験、小テスト、宿題、出席、授業への取り組み状況をもとにして総合的に評価する。抜き打ちテストあり

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 居眠り厳禁

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221357>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

【備考】

- ◇ ドイツ語、本気の人歓迎。一緒に楽しく勉強しましょう。
- ◇ 旧カリキュラムでは授業科目:ドイツ語(2)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (Introduction to Information Science)

(夜間主 ((建機化生電)1~4年))

松浦 健二・准教授 / 情報化推進センター

2単位 前期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 今やコンピュータの利用なくして、学習も研究も、あるいは卒業社会で活躍するにも成立しない時代となっている。コンピュータが身近になったとは言え、その適切な使い方や、それを生かす考え方、あるいは学び方について学ぶ事は今後の人生にとって欠かせない。本授業では、その基本的な考え方やスキルの習得を目指し開講する。

【授業の概要】 1. コンピュータを扱う上での情報セキュリティの概念と知識を習得する。 2. 社会に参画する上での、情報倫理を考える。 3. コンピュータによる情報リテラシーを身につける 4. 情報の整理と表現方法を習得する。

【キーワード】 情報リテラシー、セキュリティ、情報化社会

【到達目標】 現代社会において必須ツールであるネットワークとコンピュータを用いて学び方、情報整理、情報表現のスキルを身につける

【授業の計画】

1. 情報セキュリティと大学生生活
2. 情報管理
3. 情報社会と情報倫理
4. ネットワークと電子メール
5. オンラインコンテンツを用いた学び
6. 文書の作成技法
7. 文書を用いた情報伝達
8. 表計算とグラフ表現
9. 表計算とデータ処理
10. 統計的な考え方の基礎
11. 情報の表現方法に関する学習 (HTML 基礎)
12. 情報の表現方法に関する学習 (HTML 演習)
13. 情報の表現方法に関する学習 (プレゼンテーション設計)
14. 情報の表現方法に関する学習 (プレゼンテーション演習 I)
15. 情報の表現方法に関する学習 (プレゼンテーション演習 II)
16. 総括授業

【参考書等】 内容が多岐に渡るため、関連図書等は随時示す

【成績評価の方法】 毎週のレポート提出状況と授業への取り組みから総合的に成績判断を行う。

【再試験の有無】 無

【講師へのメッセージ】 ワードプロや表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等の基本的な操作知識やスキルは既知のものと仮定します。コンピュータの初心者の方は、事前にこれらを習得しておくことが望ましい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221358>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 松浦 (院生棟 505, matsuura@ait.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜日18時~20時)

5) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects)

基礎数学

線形代数学 I ... (夜間主 (全 1 年)) / 桑原 / 前期 火 13・14 717

微分積分学 I ... (夜間主 (全 1 年)) / 坂口 / 前期 水 11・12 718

基礎物理学

基礎物理学 f・力学 ... (夜間主 (全 1 年)) / 川崎 / 前期 木 13・14 719

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I (Linear Algebra 1)

(夜間主 (全1年))

桑原 類史・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 前期 火 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】今や線形代数学は、工学や社会科学の広い分野で大きな役割を演じている。また、微分積分学と並んで数学やその応用の研究を志す人にとって車の車輪の如く基本的な学問分野であり、工学の専門分野の修得には線形代数学の理解は欠かすことができない。本講義では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理科学の基礎的手法の修得を目指す。

【キーワード】行列、連立 1 次方程式、行列式

【関連科目】『基礎数学/線形代数学 II』(1.0)

【到達目標】行列、行列式に関する基本的な計算方法を習得し、連立 1 次方程式の解法に応用できる。

【授業の計画】

1. 導入 (授業計画の説明など)
2. 行列
3. 行列の演算
4. 正則行列、逆行列
5. 色々な行列
6. 行列式
7. 行列式の性質
8. 行列式の展開公式
9. 行列式的应用
10. 行列の基本変形 (1)
11. 行列の基本変形 (2)、逆行列の求め方
12. 連立 1 次方程式とその解法 (1)
13. 連立 1 次方程式とその解法 (2)
14. 幾何ベクトルと数ベクトル
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】裕野敏博・原祐子・山辺元雄 共著「理工系の入門線形代数」 学術図書出版社

【成績評価の方法】期末試験 (70~90%) およびレポート、授業への取り組み状況 (10~30%) などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】有り。ただし、期末試験の成績が 30 点未満のものは、再試験の受験資格なし。

【受講者へのメッセージ】講義中は集中して講義内容の理解に努め、自宅で十分な復習を行ってください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221359>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I (Calculus 1)

(夜間主 (全1年))

坂口 秀雄・助教/工学部

2単位 前期 水 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 近年の工学諸分野の発展は、微分積分学の単なる形式的応用能力にとどまらず、基礎概念をしっかりと把握すること、を要求するようになってきている。本講義では、高校で履修した数学と密接な関係を保ちつつ、1変数関数の微分学の、基礎事項の理解を深め、さらに、2変数関数の微分の取り扱いに習熟することを目的としている。

【授業の概要】 微分積分学の基礎になっている極限の概念からはじめて、基本的な初等関数の導関数やテイラー展開について講義する。さらに2変数関数については、偏微分と全微分及び偏微分法の基本的な公式とその応用を講義する。

【到達目標】

1. 極限の厳密な取り扱いが理解できる。
2. 簡単な1変数関数に対してテイラー展開ができる。
3. 簡単な2変数関数に対して偏微分ができる。
4. 偏微分法の基本的な公式が使える。

【授業の計画】

1. 数列の極限
2. 関数の極限
3. 連続関数の性質
4. 微分法の基本公式
5. 基本的な初等関数の導関数
6. 平均値の定理
7. テイラーの定理
8. 平面の位相と2変数関数
9. 2変数の連続関数
10. 偏微分係数
11. 全微分
12. 偏微分法の基本公式
13. 2変数関数のテイラー展開
14. 偏微分法の応用
15. 前期テスト

16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 教科書:大原一孝著 『実例で学ぶ微分積分』 学術図書出版
- ◇ 参考書:伊東由文著 『解析学(上)』 サイエンスハウス

【成績評価の方法】 テストを実施する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 特になし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221360>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 坂口 (A棟 221, 088-656-7547, saka@pm.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学 (Mechanics)

(夜間主 (全1年))

川崎 祐 講師/工学部

2単位 前期 木 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『基礎物理学』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『基礎物理学』)

【授業の目的】 学部における専門教育を理解する上で必要になる基礎的な力学的知識およびその考え方を習得するとともに、応用能力を身に付けることを目的とする。基礎的な力学現象を中心にそれらの数学的記述を理解することを目的とする。

【授業の概要】 質点の運動におけるニュートンの運動法則の数学的記述を示し、基本的な力学現象にそれを適用することにより、その運動を理解する。次いで、運動量、力学的エネルギー、角運動量の保存則を概観する。

【キーワード】 ニュートンの運動法則、力学的エネルギー、運動量、角運動量

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学 I』(1.0)

【関連科目】 『基礎物理学/基礎物理学 g・電磁気学概論』(0.5)

【到達目標】

1. 力という抽象的概念及びニュートンの運動方程式を理解する
2. 仕事、運動エネルギー、保存力とポテンシャルエネルギーの関係、及び力学的エネルギーの保存則について理解する
3. 運動量とその保存則、また回転運動を角運動量、トルクという物理量で捉える方法について理解する

【授業の計画】

1. 物理学と測定
2. ベクトル
3. 1次元の運動
4. 2次元の運動
5. 運動の法則
6. 円運動とニュートンの法則の他の適用例 1
7. 円運動とニュートンの法則の他の適用例 2
8. 仕事とエネルギー
9. ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存則
10. 運動量と衝突
11. 固定軸周りの剛体の回転
12. 転がり運動、角運動量およびトルク
13. 演習

14. 演習

15. 期末試験

16. 総括

【教科書】 R.A. サウウェイ 科学者と技術者のための物理学 Ia 力学・波動 (学術図書)

【成績評価の方法】 期末試験、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 公式を暗記するのではなく、力やエネルギーという抽象的概念を理解することが肝心である。教科書には独習できるように、丁寧に書かれた本を選定している。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221361>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 川崎 (A棟 217, 088-656-9878, yu@pm.tokushima-u.ac.jp) MAIL

6) 【学部が開放する授業科目】 (Subjects offered by Faculties)

自然と技術

(工) 機械工学概論 ... (夜間主 ((機)1~4年)) / 機械工学科教員 / 前期 月 13・14	721
(工) 情報理論 ... (夜間主 ((知)1~4年)) / 大濱・渡辺 / 前期 金 11・12	722

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 機械工学概論 (Outline of Mechanical Engineering)

(夜間主 ((機)1~4年))

機械工学科教員

2単位 前期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】この講義では、機械工学のもつ総合的な特性を通して、理系および文系の学生に現代社会における機械工学が果たす役割について理解してもらう。

【授業の概要】機械工学の役割はエネルギー機器から精密・情報機器、半導体生産設備、食品加工機などの企画、開発、設計、生産と非常に幅広く、機械工学は多くの技術、工学を融合したものである。この機械工学の発展の歴史、現在の課題、未来への展望などを各教官の専門分野の話題を通して講義する。

【キーワード】機械科学、機械システム、知能機械、生産システム

【到達目標】機械工学を通して、機械工学の現代社会における役割を理解し、総合的な判断能力を養うことを目標とする。

【授業の計画】

1. 機械を構成する部材に生じる変形と力の係わり
2. 材料の微視構造と新材料の開発動向
3. 機械の破壊の仕組みと防止方法
4. 流体エネルギーの利用について
5. 流れの中の物体に働く揚力と抗力
6. 熱エネルギーの利用について
7. 機械振動の制御
8. 自動制御の歴史
9. ロボット工学の将来
10. 加工と生産システムの歴史
11. 材料の微細組織と機械的性質
12. 計測とデータ処理
13. 超精密機械としての分光器の原理と性能および応用分野
14. エンジンにおける代替燃料の利用
15. レポート指導と総括

【教科書】

- ◇教科書:使わない
- ◇参考書:各週の講義では OHP 等で具体的な説明があり、テーマごとにプリント等が参考資料として配布される。参考書は、講義の中で随時紹介する。

【成績評価の方法】各テーマの講義について、毎回、レポートの提出が義務付けられる。このレポートの提出と講義への取組みを総合して評価する。

【再試験の有無】無

【講師へのメッセージ】機械工学に関心をもつ者への導入教育科目の一つとして位置づけているので、機械工学科の学生は必ず受講するように希望する。レポートの様式・内容・提出のきまり(場所・期日)は、各回の講義時間に連絡される。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221362>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 機械工学科教員

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 情報理論 (Information Theory)

(夜間主 ((知)1~4年))

大濱 靖匡 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部, 渡辺 峻 助教 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

2単位 前期 金 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 高度情報化社会を支える重要な基盤技術である情報通信, 蓄積技術の基礎となる理論について理解する。

【授業の概要】 情報理論は, 高速かつ高信頼な情報通信や蓄積技術を実現する為の基礎理論である。本講義では, 情報通信, 蓄積の理論的な限界及び具体的な実現方法について紹介する。情報理論の実用例についての紹介も行う。

【キーワード】 情報源符号化定理, 情報源符号化法, 通信路符号化定理, 誤り訂正符号

【到達目標】

1. 情報源符号化法, 通信路符号化法の概念を理解する。
2. 基礎的で具体的な符号化の構成法を修得する。

【授業の計画】

1. 情報理論概説
2. 情報源のモデル化
3. 通信路のモデル化
4. 情報源符号化の基礎概念
5. ハフマン符号
6. 情報源符号化定理
7. 情報源符号化法
8. 情報源符号化法の実用例
9. 情報量, エントロピー, 相互情報量
10. 通信路符号化の基礎概念
11. 通信路符号化定理
12. 通信路符号化法
13. 誤り検出・訂正符号
14. 通信路複号法
15. 通信路符号化法の実用例
16. 期末試験

【教科書】 特に指定しない。適宜, 資料を配布する。

【参考書等】

- ◇ 嵩忠雄著, 情報と符号の理論入門, 昭晃堂

◇ 今井秀樹著, 情報・符号・暗号の理論, コロナ社

◇ 今井秀樹著, 情報理論, 昭晃堂

【成績評価の方法】 講義中に小テストを行う。期末試験 90%, 小テスト 10%として評価し, 評価値が 60%以上に達した場合に合格とする。

【受講者へのメッセージ】 講義資料は, Web を用いて配信する。プリントして講義へ持参する事。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221347>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 大濱 (C棟 3F 302室, 088-656-9446, oohama@is.tokushima-u.ac.jp) MAIL

第4章

後期(工学部夜間主コース)

1) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects)

歴史と文化

アジアの近代と日本 ... (夜間主 (全 1~4 年))/ 葭森 / 後期 月 13・14	725
写真画像保存技術概論 ... (夜間主 (全 1~4 年))/ 石井 / 後期 月 13・14	726
日本語力をみがこう ... (夜間主 (全 1~4 年))/ 仙波 / 後期 木 11・12	727

生活と社会

社会学のパーспекティブ ... (夜間主 (全 1~4 年))/ 矢部 / 後期 月 13・14	728
ゲーム理論入門 ... (夜間主 (全 1~4 年))/ 内藤 / 後期 月 13・14	729

自然と技術

地球の科学 ... (夜間主 (全 1~4 年))/ 石田 / 後期 木 11・12	730
--------------------------------------------------	-----

歴史と文化 (History and Culture)

アジアの近代と日本 (Modern Asian History)

(夜間主 (全1~4年))

葭森 健介・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 月 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前) の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】 19世紀後半以降の日本とそれを取り巻く世界の歴史を理解し、人類の平和と幸福のために次代を担う若者が何をなすべきかを考えてもらうことを目的とする。

【授業の概要】 未来は明るいのか?世界には争いや貧困が取り巻いている。また日本の国力も低下しつつあるといわれる。しかし、次の時代に望みが持てないのではあまりにも悲しすぎる。とはいえ当面する課題から逃げてはならない。現在起こっている問題は近代という時代、それを作った西洋価値観の行き詰まりから生まれている。近代の日本とアジア・アフリカの歴史を振り返りつつ、現代社会が当面する課題を見つめ、別の価値観から次のステップへと進むべきためのヒントを考えたい。

【キーワード】 アジア, 日本, 近代化, 国際関係, 戦争

【到達目標】 幅広い観点から近代そして現代とは何かを理解し、それを踏まえてこれからの日本あるいは各自の進む方向について考え、客観的かつ説得的に文章で表現できることを目標とする。

【授業の計画】

1. 君たちの未来は輝いている!?
2. 西洋と東洋の間で-日本の近代化と外交
3. 脱亜入欧から大東亜共栄へ-近代の国際情勢と戦争への道程
4. 寅さんが演じた皇軍兵士-映画『拝啓天皇陛下様』①
5. 善人が起こした戦争-映画『拝啓天皇陛下様』②
6. 戦争の加害者・被害者とは?-国家の戦争と庶民の戦争
7. 世界大戦は終わったのに-人類はなぜ戦いをやめないのか?
8. 民族紛争と先進国の責任-映画『ホテルルワンダ』①
9. 民族紛争の悲劇とは-映画『ホテルルワンダ』②
10. 民族紛争のの原因とは-近代国家と民族対立
11. 近代日本が抱えた民族問題-映画『族譜』①
12. 戦前の日本の国際感覚-映画『族譜』②
13. 日本人が国際感覚を身につけるために-創始改名をめぐる誤解に学ぶ
14. 国際化社会の光と影-経済活動が庶民生活にもたらすもの
15. 後期試験

16. 総括-平和で豊かな未来を目指して

【教科書】 特にないが高校の時に使った日本史, 世界史, 現代社会の教科書を持つ参のこと

【参考書等】 授業中に紹介する

【成績評価の方法】 随時行う小テスト・レポートと学期末テストの成績を総合して評価する。

【再試験の有無】 再試験はいたしません。

【受講者へのメッセージ】 歴史を自分で学ぼうとする良心, 自ら考えるという態度が必要である。学ぼうという姿勢のないもの, 他の受講生に迷惑となる行動をとる場合は受講を拒否する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221363>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日16:30~17:30)

歴史と文化 (History and Culture)

写真画像保存技術概論 (Introduction to Photographic Technique)

(夜間主 (全 1~ 4 年))

石井 健二・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『芸術』)

【授業の目的】 表現された写真画像の歴史的背景や表現方法の識別を目的とする。なお社会 (あるいは学問体系) における同授業を受ける意義とかその必要性、あるいは、同授業の社会における立ち位置等について、私自身が考えていることを書いておきたい。現代社会は外国文化との接触・交流の密度が増し、広い意味での異文化理解についての深い勉強を大学生活の中で積極的に行うことが、どのような分野を専攻しようとしている学生にとっても、極めて大切である。この授業は、そのような意味においても大変有益であり、又、多様なビジュアルコミュニケーションを最初に書いたような趣旨で学生時代に学ぶことは、どのような研究分野を目指している学生にとっても、直接的にも間接的にもプラスに働くことが多いのではないかと考えている。

【授業の概要】 19 世紀中期以降、現在までに表現された写真画像を教材とし、画像の識別方法についても講義する。

【キーワード】 画像保存

【先行科目】 『歴史と文化/ アーツ・アンド・テクノロジー』(1.0)

【関連科目】 『歴史と文化/ ビジュアルコミュニケーション』(0.5)

【到達目標】 表現された写真画像の識別と時代背景についての認識を深める。

【授業の計画】

1. 本講義では、ミュージアムに於ける写真画像について検討を行う。19 世紀中期以降現代に至るまでに表現された、写真画像を教材として、画像の識別方法について検討をおこなう。
2. 受講生による発表を中心に授業を進める
3. 21 世紀における画像保存の現状とその必要性について
4. 写真撮影と撮影画像の利用方法について
5. ハウジング実習とその必要性について
6. 写真画像の劣化と古文書の管理方法について
7. コンディションレポートの書き方について
8. コンディションレポート作成
9. 写真画像の識別方法について
10. 白黒フィルムを使った、オブジェの撮影実習
11. 白黒フィルム処理について

12. カラーフィルムを使った、オブジェの撮影実習

13. カラーフィルム処理について

14. 作品の展示方法について

15. レポート提出の締め切り

16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書等】 講義の中で配布する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、レポート及び出席状況などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 行わない。

【受講者のメッセージ】 講義は総合科学部マルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室にて行う。2011 年度は、後期の月曜日 13・14 講時に開講する。教養様科目の単位となります。30 人で締め切る。写真画像保存に興味関心のある意欲的な学生を望む。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221364>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜昼休み)

歴史と文化 (History and Culture)

日本語力をみがこう (Brush up your Japanese)

(夜間主 (全 1~ 4 年))

仙波 光明・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『日本語学』)

【授業の目的】現代の社会生活を送る上で、身につけておいた方が良くと思われる、「正しい」日本語についての知識を増やすと共に、適切な日本語とはどのようなものか、的確に判断できるようになるための勉強の仕方を身につける。

【授業の概要】規範的な日本語のあり方を重視する立場から書かれた教科書を利用し、それに従いつつ、一方、別の見方についても必要に応じて話題にする。教科書に用意された問題を解くことをしながら、より深く検討してみたい。

【到達目標】

1. 社会生活に必要な日本語についての学び方を知る。
2. 規範的な (正しいと言われる) 日本語についての知識を身につける。
3. 敬語のしくみの基本を知り、適切に運用できるようになる。
4. 言語運用を支える日本語の文法について、必要な知識を身につける。
5. 語彙力、漢字力を養う方法を身につける。

【授業の計画】

1. 日本語の勉強を始める前に (教科書の第 1 日 ~ 第 2 日)
2. 尊敬語と謙譲語 (教科書: 第 6 日 ~ 第 12 日)
3. 第三者が関わる場合の敬語など (教科書第 13 日 ~ 第 18 日)
4. 敬語についての整理 (教科書第 6 日 ~ 第 21 日)
5. 文法その 1 (正しくないと言われる表現は、なぜ生まれたのか。教科書第 22 日 ~ 第 26 日から)
6. 文法その 2 (悪文はなぜできてしまうのか。教科書第 27 日 ~ 第 31 日から)
7. 語彙力 (使える言葉の数を増やすには。教科書第 32 日 ~ 第 41 日)
8. 語彙力 (同義語・対義語・類義語を探すには。教科書第 42 日 ~ 第 48 日)
9. 日本語の表記 (仮名遣い・送り仮名。教科書第 49 日 ~ 第 54 日)
10. 日本語の運用 (意味を調べる。慣用句を覚えよう。教科書第 55 日 ~ 第 62 日)
11. 日本語の運用 (ことわざ・故事成語など。教科書第 63 日 ~ 第 68 日)
12. 漢字の大切さ (教育漢字は完璧ですか? 教科書第 69 日 ~ 第 75 日)
13. 漢字 (より高いレベルに達するには、どこまで求められるのか。教科書第 76 日 ~ 第 83 日)
14. まとめと補足 (教科書第 84 日 ~ 第 90 日)
15. 試験

16. 補足・補充的なことから (内容未定)

【教科書】川本信幹『みがこう、あなたの日本語力』東京書籍

【参考書等】必要な、あるいは参考になるものを随時紹介する。

【成績評価の方法】小テスト (毎回行います) 50%、試験 50% を基準とする。

【再試験の有無】再試験

【受講へのメッセージ】シラバスの内容および授業の進捗について、ある程度の修正が行われるかもしれない。詳しくは、1 回目の授業で説明する。このシラバスの内容は、あくまでも予定である。教科書を用いるが、教科書の内容すべてにわたって解説することは予定していない。あくまでも自習を前提とする。なお、この授業では、毎回、小テストを実施する。また授業に関する質問・感想・疑問等を書いて提出してもらおうが、このデータ (出席状況、質問、感想) は、次回の授業資料に記すかたちで受講生に公開される場合がある。ただし、受講者数などの状況によって不可能になるかもしれない。なお、6 回以上欠席した場合には、名前が上記資料から自動的に削除される。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221365>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

生活と社会 (Living and Society)

社会学のパースペクティブ (Sociological Perspectives)

(夜間主 (全 1~ 4 年))

矢部 拓也・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『社会学』)

【授業の目的】 私たちを取り巻く「社会」とは、どのように成立しているのか? <社会的なもの> と <個人的なもの> とはどのような関係にあるのか? 私たちの日常生活とマクロな社会の構造や変容とはどのような関連をもつのか? 本講義では、社会学の基礎的な概念や理論を用いて、各々が日常的に経験している「社会」を理解する視座である「社会学的想像力」を獲得することを目指す。

【授業の概要】 イギリスの社会学者アンソニー・ギデンズが、社会学の入門書として書いた「社会学:改訂第 3 版」をテキストとする。毎回一つのテーマを設定して、それに関する社会学の用語や考え方を用いて問題点を論じる。ギデンズは、アメリカ中心の社会学を英国流に書き換えながら論じている。我々は、これを日本での自分たちの生活をもとに書き換える作業をすることで、ギデンズが見逃している視点や、欧米と共通する視点を議論してゆく。また、日本の今日的な話題も加えながら授業を進めて行く。

【キーワード】 現代社会, 都市社会学, 格差

【到達目標】 自分たちの身近な生活世界と <社会> とのつながりを語れるような「社会学的想像力」を身につける

【授業の計画】

1. 授業計画
2. ワークショップ「ワニの川」社会の多様性
3. 社会学の理論その 1(1 章, 21 章)
4. 社会学の理論その 2(1 章, 21 章)
5. ジェンダー論 (5 章) 負け犬の遠吠え
6. 【フリーター論 1】「フリーター漂流」ビデオ
7. 【フリーター論 2】VTR へのコメント, 討論
8. 【フリーター論 3】「ワーキングプア」ビデオ
9. 【フリーター論 4】ゲストスピーカー その 1
10. 【フリーター論 5】「ワーキングプア III 解決への道」ビデオ
11. 【フリーター論 6】ゲストスピーカー その 2
12. 社会成層と階級構造 (10 章)
13. 『趣都の誕生:萌える都市アキハバラ (森川嘉一郎, 2003, 幻冬舎)』
14. 川を活かしたまちづくり, アドプト, 吉野川フェスティバル

15. 都市と現代アーバニズム論 (17 章)

16. 総括授業

【教科書】 アンソニー・ギデンズ『社会学 (改訂第 3 版)』 而立社 1998 年 3600 円

【成績評価の方法】 期末レポート 80%, 出席 20%. 授業の進め方も含めて、初回の授業で詳しく説明するので、必ず出席すること。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 単に座って講義を聴くのではなく、これまでの自分の身の回りの経験を元に自分なりの社会を語れるようになってもらいたいと考えている。社会に対するいろいろな疑問や不満を持っている人の参加を期待する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221367>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

生活と社会 (Living and Society)

ゲーム理論入門 (Introduction to game theory)

(夜間主 (全 1~ 4 年))

内藤 徹・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『生活と社会』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『経済学』)

【授業の目的】 我々は日常生活において、相手の行動を予想し決断することが求められます。ゲーム理論は経済学に限らず、結婚、外交、戦争、経営学などその理論はさまざまな分野で応用可能です。本講義ではゲーム理論の初歩を平易に解説する予定です。そして、ゲーム理論を応用した思考力をつけてもらうことを目的とします。

【授業の概要】 具体的な例を用いてさまざまなゲーム理論を紹介します。講義はパワーポイントと事前に配布するレジュメを用いて行います。ゲーム理論の分野は多岐にわたりますが、本講義では主に非協力ゲームを取り扱う予定です。また、実際にゲームを解いてもらうなどの課題をこなしてもらうことで理解を深めたいと考えています。

【キーワード】 ゲーム理論, 社会科学, 経済学, 戦略的思考

【到達目標】

1. 様々な事象にゲーム理論を適用できるようになること。
2. 身近な社会問題を経済学的に把握する方法を理解すること。

【授業の計画】

1. ゲーム理論とは何だろう? 講義の進め方
2. ゲームを解いてみよう (支配戦略)
3. 囚人のジレンマ
4. ナッシュ均衡
5. ナッシュ均衡 (2)
6. 混合戦略ゲーム (確率を戦略と考える?)
7. 繰り返しゲーム
8. 交互手番ゲーム (ゲームの木を使って考える)
9. コミットメント (自分を拘束して有利に導く?)
10. 脅しと約束
11. 交渉
12. 情報とゲーム (1): 逆選択とモラルハザード
13. 情報とゲーム (2): シグナリング
14. インセンティブ
15. 筆記試験

16. 質疑応答と授業全体のまとめ

【教科書】 ゲームと情報の経済分析 (基礎編) エリック・ラスムセン著, 細江守紀 (ほか) 訳

【成績評価の方法】 期末試験および講義中に指示した課題によって評価する

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 講義で使用するレジュメ, 使用したパワーポイントのスライドは指定の URL (講義で指示します) にアクセスしてください。レジュメが必要な学生は事前にアクセスしてプリントアウトして講義に持参してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221366>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 内藤 (naito@kyudai.jp) MAIL

自然と技術 (Science and Technology) 地球の科学 (The Earth and Environmental History)

(夜間主 (全 1~4 年))

石田 啓祐・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『地学』)

【授業の目的】 日本列島というきわめて活動的な地盤に生活する私たちにとって、グローバルな視点から固体地球の物理的な性質と、関連する自然環境の変化を理解することは、大切な課題です。現在の固体地球の姿を理解し、地層や化石の記録から、地球誕生以来の地球表層と生物圏のできごとを明らかにする事例を学びながら、プレート運動などによる地球環境の変遷の結果、私たちヒトが「現在この地球に存在する」こと、そして「命の大切さ」への理解を深めることを目的とします。

【授業の概要】 講義の前半は、固体地球の姿とプレート運動論の成り立ちを学び、後半は地球と生命の歴史を学びます。

【キーワード】 現在の地球、地球の歴史、環境変化、化石と生物進化

【到達目標】 現在に至る地球環境の変遷と生物進化の歴史を学ぶ方法の基本が理解できる。

【授業の計画】

1. 幾何測地と物理測地:光学的な測地と重力ポテンシャルを考慮した手法の紹介。地球球形説と楕円体説:地球はどれほど球に近いのか、なぜ楕円体と考えるのか。
2. ジオイド:平均海面と一致する等ポテンシャル面が地球楕円体と実地形との中間項。アイソスタシー:ヒマラヤの引力の影響から地殻とマントルのバランス概念は生まれた。
3. 重力からみた地球:地球の引力と遠心力の合力である重力、標準重力は地球楕円体上の理論値の概念。標準重力と重力異常の意味。
4. 地磁気の原因と古地磁気からわかること:地磁気の性質と変化、その原因。地磁気の逆転、大洋底の磁気縞、磁極の移動と大陸の移動。
5. 地球内部の温度の推定:断熱圧縮を熱源とした場合の地球内部の温度分布の見積り。
6. 地震波と地球の内部構造:地球内部を伝わる P 波、S 波の速度、P 波の陰の存在、地震の分布:地理的分布と深度分布、和達-ベニオフ帯とプレート境界。
7. 大陸移動説からプレートテクトニクスへ:ウェゲナーの大陸移動説とその後。
8. 地球の年齢を測る:地球の年齢の推定、最古の岩石や隕石からわかること。

9. 大衝突から始まる固体地球と大気。海洋の生い立ち:隕石衝突による地球生成からラン藻類による大気。水圏の環境変化。
10. 化石の定義:化石から何がわかるか。地質時代と生物界の変遷:動物の進化によって順序立てられた地質時代の区分。
11. 初期の大型動物群の誕生の謎と進化の試行錯誤:エディアカラ動物群とバージェス動物群。
12. セキツイ動物の出現と上陸:セキツイ動物の出現と進化、大海からの離脱。
13. 地質時代の環境変化と生物の絶滅繁栄:時代の節目の大量絶滅の環境要因は?
14. プレートテクトニクスと環境変化:気候や海水準の変化が海陸の分布や生物進化に与えた影響。
15. ヒトへの道のり:どのようにして私たちホモ・サピエンスが今ここに存在するのか?
16. 総括授業 (授業評価含む)

【教科書】 教科書は特に指定しない。資料を配布する。

【参考書等】 「地球大進化 46 億年。人類への旅」全 6 巻、NHK プロジェクト編、2004 年、S. スタンレー著「生物と大絶滅」、東京化学同人、1991 年、平野弘道「繰り返す大量絶滅」岩波書店、1994 年、参考書:丸山茂徳「46 億年地球は何をしてきたか?」岩波書店、1994 年

【成績評価の方法】 自主的・自発的な学びの姿勢 (30%) と、期末までに数回にわたって実施する授業内容の課題レポート提出 (70%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】 授業への積極的な取り組みが見られる受講生には、行うことがある。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221368>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日 12 時~13 時)

2) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects)

共創型学習

宇宙を探る ... (夜間主 (全 1~4 年)) / 伏見 / 後期 月 13・14 732

共創型学習 (Creativity Development)

宇宙を探る (Introduction to Astronomical Observation)

(夜間主 (全 1~4 年))

伏見賢一・准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 後期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 宇宙の観測を体験して、現代の科学技術との関連を実感する。宇宙を観測する方法は対象によってさまざまである。はじめにいろいろな天体とその観測方法について紹介する。その後いくつかの観測方法によって宇宙の探求を実践する。

【授業の概要】 1. 天体とは、宇宙の広がりについて 2. 宇宙観測の方法 3. 宇宙観測の実践 (下記のどれかを実践する) 3-1. 天体望遠鏡による観測 (写真・CCD 観測など) 3-2. 望遠鏡を使わない観測 (写真・ビデオ観測など) 3-3. 電波などによる観測

【キーワード】 宇宙論, 天体観測, 写真撮影・画像処理

【関連科目】 『自然と技術/宇宙物理学入門』(0.5)

【到達目標】 季節の代表的な星座を見つけられること。全ての惑星、主な恒星の名前を言えること。

【授業の計画】

1. ガイダンス
2. 天体の階層 (講義)
3. 参考文献購読
4. 参考文献購読・解説
5. いろいろな天体観測の方法 (歴史)
6. いろいろな天体観測の方法 (最新技術の紹介)
7. 天体観測 I
8. 天体観測 II
9. 解説
10. 天体観測 III
11. 天体観測 VI
12. 解説
13. 天体観測 V
14. 天体観測 VI
15. 解説
16. 総括授業

【参考書等】 天文ガイド (伏見教員室に常備しているものを適宜貸与することができる)

【成績評価の方法】 レポート (2~3 回) 50 点。星座解説ができる 20 点。全ての一等星の名前と位置がわかる 10 点。全ての惑星について解説することができる 10 点。メシエ天体について、いくつかの解説ができる 10 点。

【受講者のメッセージ】 天体観測は屋外で夜間に実施します。冬季なので非常に寒くなることが予想されますので、温かい服装を用意してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221370>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 平日の 11:50-12:50)

3) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects)

主題別英語

主題別英語 ... (夜間主 ((建機電)1年)) / 魚崎 / 後期 火 11・12	734
主題別英語 ... (夜間主 ((化生知)1年)) / ワイス / 後期 火 11・12	735
主題別英語 ... (夜間主 ((建機電)1年, (建機)2年, 全3・4年)) / 米原 / 後期 水 13・14	736
主題別英語 ... (夜間主 ((化生知)1年, (化生知)2年, 全3・4年)) / 貝沼 / 後期 水 13・14	737

発信型英語

発信型英語 ... (夜間主 (全2~4年)) / パトリック / 後期 火 13・14	738
----------------------------------------------------	-----

ドイツ語入門

ドイツ語入門 ... (夜間主 (全1~4年)) / 井戸 / 後期 水 13・14	739
--------------------------------------------------	-----

ドイツ語初級

ドイツ語初級 ... (夜間主 (全2~4年)) / ヘルベルト / 後期 火 13・14	740
-----------------------------------------------------	-----

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(夜間主 ((建機電)1年))

魚崎 典子・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 後期 火 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 社会がグローバル化する中、英語コミュニケーション能力は必要不可欠になっています。本クラスでは自然な音声英語の聞き取り能力を向上させると同時にことばの文化的背景への理解を深め、更に自らのコミュニケーション能力を向上させることを目的とします。

【授業の概要】 映画“HARRY POTTER”シリーズを観てシナリオを読み、リーディング能力及びリスニング能力の向上をはかります。適宜課題や小テストが課せられます。

【到達目標】

1. 自然なスピードで話された音声英語の聞き取りができる。
2. 会話文がスムーズに読める。

【授業の計画】

1. INTRODUCTION
2. Aunt Marge
3. LEAKY CAULDRON
4. Welcome to Another Year at Hogwarts
5. Boggart & Hogsmeads Days
6. You Could Teach Me
7. The Marauder's Map
8. Shrieking Shack
9. Time-Turner
10. Quidditch World Cup
11. The Triwizard Tournament
12. The Champion Selection
13. Horntail
14. Harry Vs. Horntail
15. 期末試験
16. 総括

【教科書】 使用しない。随時プリント等を配布する。参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 小テスト、レポート、学期末試験、授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 リスニング上達のコツはとにかくたくさん聞くことです。日頃からいろいろな英語をよく聞くように心掛けて下さい。学期末試験は、授業時間数の3分の2以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221372>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 魚崎 . (オフィスアワー: 初回の授業でお知らせします。)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(夜間主 ((化生知)1年))

ワイス ドナルド・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 後期 火 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 TESOL Goal 2, Standard 2 - Students will use English to obtain, process, construct, and provide subject matter information in spoken and written form; listening to, speaking, reading, and writing about subject matter information; gathering information orally and in writing; retelling information; formulating and asking questions.

【授業の概要】 Topics: Each week we will read, talk, and write about one or two of the biggest news stories in the world.

【到達目標】

1. Read and understand news stories in English.
2. Write about what you have read and talk about it in class.

【授業の計画】

1. Introduction to the course; examples of news stories and how to write and talk about them.
2. News story of the week.
3. News story of the week.
4. News story of the week.
5. News story of the week.
6. News story of the week.
7. News story of the week.
8. News story of the week.
9. News story of the week.
10. News story of the week.
11. News story of the week.
12. News story of the week.
13. News story of the week.
14. Preparation for the final exam.
15. Final exam
16. Course review.

【教科書】 None. All material for the class will be taken from the Internet, from English web sites.

【成績評価の方法】 Final exam 50% Homework assignments 25% Class participation 25%.

【受講者へのメッセージ】 There will be reading, writing, listening, and speaking practice each week. All homework will be sent in by email.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221371>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ワイス . (オフィスアワー: woosongdonald@yahoo.com)

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(夜間主 ((建機電)1年, (建機)2年, 全3・4年))

米原 晶子・非常勤講師

1単位 後期 水 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】今日の社会において英語による情報の授受の必要性は高まる一方である。本授業においては、ポップスを中心にしてリスニング能力を高める。また次回のTOEIC受験に備える。

【授業の概要】有名なポップスを題材にしたテキストに沿い、リスニングの練習、関連する文章の読解を行う。またTOEIC語彙増強のために、分野別語彙集を学習する。時間があれば、頻出文法事項のプリント学習も行う。

【キーワード】リスニング, 語彙

【到達目標】

1. 自然な速度の英語, 音の脱落やつながりになれる。
2. TOEICの語彙を増やす。

【授業の計画】

1. クラスガイダンス
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Unit 5
7. Unit 6
8. Unit 7
9. Unit 8
10. Unit 9
11. Unit 10
12. Unit 11
13. Unit 12
14. まとめ
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 角山照彦 『Power of Love-Pop Classics Best 12』 センゲージラーニング
- ◇ 佐藤誠司 『A Shorter Course in TOEIC Test Vocabulary Quizzes』 南雲堂

【成績評価の方法】予習状況, 授業参加, 期末試験を総合的に評価する。

【再試験の有無】有

【受講者へのメッセージ】テキストの予習(読解, 語彙)を必ずしておいて下さい。予習を前提としたペースで進めます。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221374>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 米原 .

英語 (English)

主題別英語 (Thematic English)

(夜間主 ((化生知)1年, (化生知)2年, 全3・4年))

貝沼 恵美・非常勤講師/全学共通教育センター

1単位 後期 水 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『主題別英語』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 目まぐるしく変化する世界情勢を理解する上で、英語による情報を正しく認識する必要性は高まる一方である。本授業においては英語表現の能力を向上させ、また世界遺産を通じて社会が抱える問題を認識し理解することを目的とする。

【授業の概要】 DVDを視聴しながら、テキストに沿って聞き取りを行い、単語を確認して語彙を増やし、世界遺産を通じて環境や民族問題などを理解していく。

【キーワード】 世界遺産, リスニング, リーディング

【到達目標】

1. 自然なスピードで流れる英語の聞き取りに慣れ、それを正確に理解する。
2. 語彙力および読解力を身につける。
3. 世界遺産を通じて、異文化理解を深める。

【授業の計画】

1. Class Guidance
2. Contents1
3. Contents2
4. Contents3
5. Contents4
6. Contents5
7. Contents6
8. Contents7
9. Contents8
10. Contents9
11. Contents10
12. Contents11
13. Contents12
14. Contents13
15. Final Examination
16. Test Review

【教科書】 Hisakazu Tsukano ほか『Exploring World Heritage on DVD』成美堂、2,300円(税別)

【成績評価の方法】 出席状況, 学期末試験, 予習状況, 毎回行う小テストなどにより総合的に評価します。

【再試験の有無】 出席率2/3以上, 小テストの平均点が60%以上の者についてのみ実施します。

【受講者へのメッセージ】 毎日英語に接するように努めてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221373>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 貝沼 .

英語 (English)

発信型英語 (Communicative English)

(夜間主 (全2~4年))

パトリックジェフ・非常勤講師

2単位 後期 火 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『発信型英語』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『英語(2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to better prepare the student to express ideas and interact in both spoken and written English environments.

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数-複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】

1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介
2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課
3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物
4. 講義:所有代名詞, 天気宿題:天気の作文
5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族
6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動
7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味
8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店
9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔
10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験
11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴
12. 講義:can, could, may 宿題:健康
13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物
14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境
15. 期末試験
16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221375>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ パトリック .

【備考】 旧カリキュラムでは授業科目:英語(2)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門 (Introductory German)

(夜間主 (全1~4年))

井戸慶治・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 水 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】 ドイツ語の基礎を習得し、またドイツ事情に触れる。英語以外の外国語を学び、英語圏以外の外国の事情や文化を知ることが、偏りのない健全な国際感覚を持つために必要であり、知的な刺激を得るためにも有益である。ドイツはヨーロッパにおける日本の重要な貿易や文化交流の相手であり、かつて板東収容所でドイツ人捕虜が「第九」を初演したことなどにより、徳島との関連も深い。

【授業の概要】 読章、文法説明、練習問題からなる総合的な教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確かなものにしてゆくため、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ事情、ドイツ文化を紹介する。

【キーワード】 外国語、ドイツ語、異文化理解

【到達目標】 初級ドイツ語を使って、簡単な文書を読み、旅行に行っても困らない程度のコミュニケーション能力を養うことと、ドイツ語圏の文化についての理解を深めること。

【授業の計画】

1. 授業ガイダンス、前期の復習
2. 8課、3基本形、過去形
3. 同上、ドリル問題
4. 9課、完了形
5. 同上、ドリル
6. 10課、再帰代名詞・再帰動詞、前置詞
7. 同上、ドリル
8. 11課、形容詞の格変化
9. 同上、ドリル
10. 中間テスト
11. 12課、比較
12. 13課、関係代名詞
13. 同上、ドリル
14. 復習
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 「行ってらっしゃい」(朝日出版社)

【成績評価の方法】 中間試験、期末試験、平常点(小テスト、授業への取り組み方など)で総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221376>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日16-17時, 3号館1階学習支援室)

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級 (Elementary German)

(夜間主 (全2~4年))

ヘルベルト ウォルフガング・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1単位 後期 火 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』)(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(2)』)

【授業の目的】 これまで学んだドイツ語のレベルアップ。外国語を習得するために必要な四つの能力、話す、聞く、読む、書くをどうとうに鍛錬し、よりの確なドイツ語の表現を身につける。ドイツ語圏の文化と人々についての理解を深める。

【授業の概要】 ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、習慣、考え方、ライフスタイルなども紹介します。日常的に使う文、章、言い回しを中心にペアや小グループで会話練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作、文を作ったりします。

【到達目標】 話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける。

【授業の計画】

1. オリエンテーション、前期の復習
2. 持ち物、指示代名詞、不定代名詞、否定代名詞の4格
3. 品物の感想、形容詞
4. 住居、部屋、所有冠詞
5. 部屋、家具の位置、前置詞
6. 時刻と日付、一日の生活、分離動詞1
7. 曜日、月、誕生日、大学の年間予定、分離動詞2
8. 大学、道案内1、副詞(場所)命令形、小テスト
9. 交通手段、ドイツの大学、前置詞(方向)
10. 地図の読み方、道案内2
11. 休暇の計画(活動、場著、期間、同伴者)
12. 手紙の書き方、話法の助動詞
13. 過去の表現、天気、季節
14. 日記、現在完了形、ドイツ語で履歴書を書く
15. 定期試験
16. 纏めと質疑応答

【教科書】 プリントを配布する。

【成績評価の方法】 学期末試験、小テスト、出席、宿題、授業への取り組み状況をもとにして総合的に評価する。抜き打ちテストあり

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 居眠り厳禁

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221377>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

【備考】

- ◇ 旧カリキュラムでは授業科目:ドイツ語(2)
- ◇ ドイツ語、本気の人歓迎。

4) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects)

基礎数学

線形代数学Ⅱ ... (夜間主 (全1年)) / 桑原 / 後期 火 13・14	742
微分積分学Ⅱ ... (夜間主 (全1年)) / 水野 / 後期 水 11・12	743

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II (Linear Algebra 2)

(夜間主 (全1年))

桑原 類史・教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2単位 後期 火 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】 今や線形代数学は、工学や社会科学の広い分野で大きな役割を演じている。また、微分積分学と並んで数学やその応用の研究を志す人にとって車の車輪の如く基本的な学問分野であり、工学の専門分野の修得には、線形代数学の理解は欠かすことができないことである。本講義では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理科学の基礎的手法の修得を目指す。

【授業の概要】 本講義では、前期「線形代数学 I」に引き続き、線形代数学の理論体系 (線形構造) に焦点をあてて講義する。線形写像、基底等、前期に比べて抽象度の高い線形構造を扱うので言葉を正しく理解して使えるようになることが大切である。

【キーワード】 線形空間、線形写像、内積、固有値

【先行科目】 『基礎数学/線形代数学 I』(1.0)

【到達目標】 線形空間、線形写像の概念に基づき、ベクトル、行列の理解を深める。また、固有値や固有ベクトルを求め、行列の対角化 (標準化) が実行できる。

【授業の計画】

1. 導入、ベクトル
2. 部分空間、部分空間
3. ベクトルの 1 次独立性
4. 基底と次元
5. 線形写像 (1)
6. 線形写像 (2)
7. 線形写像と行列
8. 内積空間 (1)
9. 内積空間 (2)
10. 固有値と固有ベクトル (1)
11. 固有値と固有ベクトル (2)
12. 行列の対角化 (1)
13. 行列の対角化 (2)
14. 行列の対角化 (3) 応用
15. 期末試験

16. 総括授業

【教科書】 裕野敏博・原祐子・山辺元雄 共著 「理工系の入門線形代数」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 期末試験 (70~90%) およびレポート、授業への取り組み状況 (10~30%) をもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有り。ただし、期末試験の成績が 30 点未満の者は再試験の受験資格なし。

【受講者のメッセージ】 前期開講の「線形代数学 I」を履修していることを前提に授業が行われます。講義中は集中して講義内容の理解に努め、自宅で十分な復習を行ってください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221378>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学Ⅱ (Calculus 2)

(夜間主 (全1年))

水野 義紀 准教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

2単位 後期 水 11・12

(平成19年度以前の授業科目:『基礎数学』) (平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『基礎数学』)

【授業の目的】近年の工学諸分野の発展は、微分積分学の単なる形式的応用能力にとどまらず、基礎概念をしっかりと把握することを要求するようになっていく。本講義では、高校で履修した数学と密接な関係を保ちつつ、1変数関数の積分学の基礎事項の理解を深め、さらに、2変数関数の積分の取り扱いに習熟することを目的としている。

【授業の概要】基本的な初等関数の不定積分や定積分について講義する。さらに2変数関数については、2重積分とそれの累次積分による計算法を講義する。

【到達目標】

1. 基本的な関数に対してその不定積分が求められる。
2. 簡単な2変数関数に対してその2重積分が求められる。
3. 2重積分を利用して図形の体積や表面積が求められる。

【授業の計画】

1. 定積分
2. 定積分と不定積分
3. 不定積分の計算
4. 有理関数の不定積分
5. 無理関数の不定積分
6. 有限区間における広義積分
7. 無限区間における広義積分
8. 2重積分
9. 累次積分
10. 積分順序の変更
11. ヤコビアン
12. 2重積分の変数変換
13. 体積と表面積
14. 広義の2重積分
15. 後期テスト
16. 総括授業

【教科書】

◇教科書:大原一孝著『実例で学ぶ微分積分』学術図書出版

◇参考書:伊東由文著『解析学(上)』サイエンスハウス

【成績評価の方法】テストを実施する

【再試験の有無】無

【受講者へのメッセージ】特になし

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221379>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 水野 (建設棟 204, 088-656-7542, mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜 17:00 から 18:00)

5) 【学部が開放する授業科目】 (Subjects offered by Faculties)

自然と技術

(工) 地域の環境と防災 ... (夜間主 ((建)1~4年))/河口/後期 木 11・12	745
(工) 生物工学概論 ... (夜間主 ((生)1~4年))/中村/後期 木 11・12	746

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 地域の環境と防災 (Environment and Disaster Prevention in Tokushima)

(夜間主 ((建)1~4年))

河口 洋一・准教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

2単位 後期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 私たちが暮らしていく地域の「自然環境」と「防災」関心や興味をもって暮らしていけるよう、それらについての視点・考えかたについて解説する

【授業の概要】 私たちが安心して暮らしていくために必要な「自然環境」と「防災」について、徳島に関連深い事項を例にとりあげながら、1) 身近な自然環境の様子、2) どのようにして身近な自然環境を守ったり、修復したりしようとしているのか、3) 地震や津波への備え、4) 自然環境を保全しつつ災害にも強いまちづくりのあり方、の4つの観点から解説する。

【キーワード】 徳島、自然環境、防災、地域力

【到達目標】 自らが暮らす地域の自然環境の保全や防災がどのように進められようとしているのかを知り、その地域の中で暮らしていく者として、地域の自然環境の保全と防災に興味と自覚を持って暮らし続けられる。

【授業の計画】

1. ガイダンス-足元からの安全と安心
2. 水環境の再生・修復
3. 自然再生と地域再生 / レポート
4. 「なぜ、環境を守らないといけないの?」
5. 「放っておいてくれ!」という人にも防災は必要?
6. ”50 歳のあなた”を考えた環境と防災
7. 「地域力」-ソーシャルキャピタルの視点から 1
8. 「地域力」-ソーシャルキャピタルの視点から 2
9. 「地域力」-ソーシャルキャピタルの視点から 3 / レポート
10. 地震と地震動
11. 地震による被害
12. 地震被害の予測と対策 / レポート
13. 森林の洪水低減機能の仕組みと限界
14. 森林の水質保全機能、森-川-海の繋がり
15. 自然の力を活用した徳島県の省エネの取り組み/レポート

【成績評価の方法】 到達目標の達成度は期間中に課せられる 5 回のレポートの総点 (各レポートは 20% ずつの重み) により評価し、評点が 60% 以上を当目標のクリア

条件とする。

【受講者へのメッセージ】 本科目は本学科の教育目標の 1(1) に 40%、1(2) に 40%、1(3) に 20% 対応する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221380>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 河口 (308, 088-656-9025, kawaguchi@ce.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 金曜午後)

自然と技術 (Science and Technology)

(I) 生物工学概論 (Outline of Biotechnology)

(夜間主 ((生)1~4年))

中村 嘉利 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

2単位 後期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】 生物工学 (バイオテクノロジー) は、ナノテクノロジーや情報技術 (IT) と共に 21 世紀を拓く革新技術として期待されている。特にバイオテクノロジーは、医療、環境、食糧、資源、エネルギーなどの分野に広く活用されようとしており、人類の直面する諸問題の解決に大きく寄与し、人類の福祉に貢献するものと考えられている。バイオテクノロジーを支える生命科学から応用技術にいたるまで広く浅く学び、全体として生物工学に関する知識が修得できることを目的とする。

【授業の概要】 生物工学科の各教員がそれぞれの専門分野を踏まえて、バイオテクノロジーの入門から最先端バイオテクノロジーまでのトピックスについてわかりやすく解説する。トピックスの内容は担当教員ごとに異なり、毎回の課題についてレポートを作成する。

【キーワード】 バイオテクノロジー、遺伝子、タンパク質、微生物

【到達目標】 生物工学の基本的な考え方や生物工学の現状が理解できる。

【授業の計画】

1. 授業概要ならびに生物工学大系について講述する。
2. 生体関連物質の両親媒的性質と界面現象が関与した生体コロイドについて講述する。
3. 生物活性物質分子設計の技法を学ぶメディシナルケミストリー入門: 生命の誕生と進化における合成の意味論について講述する。
4. 地球環境における物質循環の根幹を支える微生物の役割と機能について講述し、バイオテクノロジーへの応用について講述する。
5. 環境中の有害および有益微生物の制御方法に関する最近のトピックスを講述する。
6. 各種疾病治療における抗体工学やワクチン工学の応用について講述する。
7. 先端医療における生物工学の役割について講述する。
8. DNA の戦略”発生と進化のメカニズム”について講述する。
9. 生物資源の有効利用について講述する。
10. 発育鶏卵を用いた種々の薬剤評価法について講述する。
11. 抗生物質と細菌の多剤耐性機構について講述する。
12. 細菌 (バクテリア) 研究の歴史について講述する。

13. タンパク質生合成と細胞および個体機能との関連について講述する。

14. 遺伝子の発現機構について講述する。

15. 微生物酵素の産業利用と機能開発について講述する。

16. 生物工学概論のまとめ

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配付する。参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 受講態度とレポートによって評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221381>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中村 (機械棟 7 階, 088-656-7518, ynakamu@bio.tokushima-u.ac.jp) Mail (オフィスアワー: 水曜日 17:00-18:00)